

Oracle CRM On Demand の管理

リリース 32

2016 年 6 月版

ORACLE®

Copyright © 2005, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることが使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、[Oracle Accessibility Program の Web サイト](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc) (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は [Oracle Global Customer Support Contacts Directory](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info) (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は [Global Customer Support Accessibility](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs) (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

目次

Oracle CRM On Demand の管理	7
Oracle CRM On Demand の管理プロセス	14
設定時における管理者テンプレートの使用	16
Oracle CRM On Demand の使用状況追跡について	16
企業管理	18
企業プロフィール	18
会計カレンダーの管理	52
通貨定義	57
部署の設定	61
企業監査	68
警告管理	73
サービス割当管理	75
住所管理	81
アプリケーションカスタマイズ	88
レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ	90
URL の標準化について	190
外部 Web ページのタブでの表示	191
ピックリスト値グループについて	195
ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項	196
ピックリスト値グループの設定プロセス	197

ピックリスト値グループの作成	198
ピックリスト値グループおよび部署をサポートするレコードタイプ	198
グローバル Web アプレットの作成	200
Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項	202
クライアント側拡張のアップロード	202
カスタム HTML ヘッド追加の管理	205
アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理	206
企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ	209
[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化	210
レコードタイプの名前変更	212
詳細ページでのイメージの有効化	213
カスタムアイコンセットのアップロードおよび管理	214
カスタムグローバルヘッダーアイコンのアップロードと管理	215
レコードタイプの追加	216
レコードタイプのアイコンの変更	218
REST 統合タグのカスタマイズ	219
新規テーマの作成	219
共有レコードの前の所有権のカスタマイズ	227
フィールド、ピックリスト、基準について	228
添付資料設定について	228
カスタムオブジェクトの多対多の関係について	231
ユーザー管理とアクセス制御	233
ユーザー管理	235
パートナー自己管理	260
役割管理	265
アクセスプロファイル管理	279
パーソナライゼーション管理	297

ブックの管理	299
グループの管理	343
テリトリー管理	348
アクセス権の指定方法	349
ビジネスプロセス管理	366
プロセス管理	367
ワークフロー設定	379
ワークフローモニター	435
データルールおよび割当	444
変更トラッキング	475
データ管理ツール	495
インポートツールとエクスポートツール	495
一括削除キューページ	722
バッチ割当ブックキューページ	723
[関連フィールド初期化キュー] ページ	723
統合イベントについて	724
統合イベントキューの作成	725
統合イベント設定の管理	726
コンテンツ管理	728
製品カテゴリーの設定	729
自社製品の設定	730
PRM の価格リストの設定	732
ライフサイエンスの価格リストの設定	735
企業の添付資料の管理	738
詳細ページのイメージの管理	739
アセスメントスクリプトの設定	740
アプリケーションプラグイン	747
Oracle Social Engagement and Monitoring の設定	747

Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand との統合プロセス	748
Oracle Social Network 統合設定の設定	749
Oracle Eloqua Engage を使用した電子メール配信の設定	750
ライフサイエンス管理	751
スマートコールの管理	752
ライフサイエンス関連設定の設定	755
担当者へのサンプル受領権限の付与	759
サンプルトランザクションの自動実行の設定	760
Oracle CRM On Demand Desktop	762
カスタマイズパッケージの管理	763
Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所の設定	764
Oracle CRM On Demand Desktop のインストール	765
Expression Builder	766
Expression Builder について	766
Expression Builder の使用	767
式について	769
Expression Builder のデータタイプ	773
Expression Builder 演算子	776
Expression Builder の関数	781
Expression Builder の例	819

Oracle CRM On Demand の管理

Oracle CRM On Demand の設定およびカスタマイズは管理者のページから行います。Oracle CRM On Demand の管理の詳細については、次のセクションを参照してください。

セクション	内容
企業管理 (ページ 18)	企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定 (ページ 19) ライセンスの状況と有効なユーザーの確認 (ページ 42) 企業のパスワード管理の定義 (ページ 43) すべてのパスワードのリセット (ページ 50) 言語の有効化 (ページ 51) カスタム会計カレンダーの定義 (ページ 53) 通貨の管理 (ページ 57) 部署の作成 (ページ 63) ピックリスト値グループと部署の関連付け (ページ 64) ユーザーと部署の関連付け (ページ 64) すべてのユーザーのサインイン活動の確認 (ページ 69) IP アドレスの使用制限 (ページ 51) 企業のリソース使用状況の確認 (ページ 69) マスター監査証跡による監査証跡変更の確認 (ページ 70) 全社レベルの警告の公開 (ページ 74) 企業のサービス割当使用量の表示 (ページ 77) 履歴サービス割当使用量の表示 (ページ 78) サービス割当の警告の設定 (ページ 78) ファイルおよびレコード利用情報の表示 (ページ 79) 非共有住所から共有住所への変換 (ページ 81) 共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項 (ページ 84) 共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび [アドレスの管理] 権限の更新 (ページ 85) [関係の編集] を使用した非共有住所の住所タイプの設定 (ページ 86) 住所に対するアクセスプロフィールおよび役割の設定 (ページ 86)

セクション	内容
アプリケーションカスタマイズ (ページ 88)	レコードタイプセットアップタスク
	フィールドの作成と編集 (ページ 110)
	コピー有効設定の管理 (ページ 120)
	カスタムフィールドの統合タグの設定 (ページ 121)
	Web リンクの設定 (ページ 122)
	連結フィールドの設定 (ページ 129)
	フィールドラベルの管理 (ページ 132)
	インデックス付きカスタムフィールドの使用 (ページ 133)
	設定をデフォルトに戻す (ページ 137)
	ピックリスト値の変更 (ページ 137)
	ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング (ページ 139)
	関連項目レイアウトのカスタマイズ (ページ 140)
	静的ページレイアウトのカスタマイズ (ページ 142)
	新しいレコードを作成するためのページレイアウトのカスタマイズ (ページ 149)
	フィールドセクションタイトルの名前変更 (ページ 150)
	レコードタイプの Web アプレットの作成 (ページ 153)
	Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 (参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163)
	カスケード式ピックリストの定義 (ページ 164)
	検索レイアウトの管理 (ページ 167)
	リストアクセスおよびリスト順序の管理 (ページ 171)
	ホームページカスタムレポートの作成 (ページ 172)
	レコードホームページレイアウトの作成 (ページ 175)
	監査証跡のカスタマイズ (ページ 176)
	動的ページレイアウトの指定 (ページ 181)
	アプリケーションの設定に関するタスク
	外部 Web ページのタブでの表示 (ページ 191)
	ピックリスト値グループの作成 (ページ 198)
	グローバル Web アプレットの作成 (ページ 200)
	クライアント側拡張のアップロード (ページ 202)

セクション	内容
	カスタム HTML ヘッド追加の管理 (ページ 205)
	アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理 (ページ 206)
	カスタムグローバルヘッダーアイコンのアップロードと管理 (ページ 215)
	企業の [ホームページ (個人)] のカスタマイズ (参照 " 企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ " ページ 209)
	[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化 (ページ 210)
	レコードタイプの名前変更 (ページ 212)
	詳細ページでのイメージの有効化 (ページ 213)
	レコードタイプのアイコンの変更 (ページ 218)
	レコードタイプの追加 (ページ 216)
	REST 統合タグのカスタマイズ (ページ 219)
	新規テーマの作成 (ページ 219)
	カスタムアイコンセットのアップロードおよび管理 (ページ 214)
	共有レコードの前の所有権のカスタマイズ (ページ 227)

セクション	内容
ユーザー管理とアクセス制御 (ページ 233)	ユーザーの設定 (ページ 236) ユーザーのセールス目標の設定 (ページ 250) ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定 (ページ 251) ユーザーのユーザーID の変更 (ページ 251) ユーザーのパスワードのリセット (ページ 252) ユーザーの DMS PIN のリセット (ページ 253) ユーザーのプライマリ部署の変更 (ページ 254) ユーザーのサインイン活動の確認 (ページ 254) ユーザーのセキュリティ関連活動の確認 (ページ 255) 委任ユーザーの管理 (管理者) (ページ 256) ユーザーの在庫期間の作成 (ページ 259) ユーザーの無効化 (ページ 259) ユーザーの設定 (パートナー) (ページ 262) ユーザーのユーザーID の変更 (パートナー) (ページ 263) ユーザーのパスワードのリセット (パートナー) (ページ 264) ユーザーの無効化 (パートナー) (ページ 265) 役割の追加 (ページ 272) アクセスプロファイルの設定プロセス (ページ 293) パーソナライズページレイアウトのリセット (ページ 297) パーソナライズアクションバーレイアウトのリセット (ページ 298) パーソナライズホームページレイアウトのリセット (ページ 298) グループの設定 (ページ 345) テリトリーの設定 (ページ 348) ブックの設定のプロセス (ページ 322) 管理者の役割に設定されたブックの確認 (ページ 323) ブックタイプとブックユーザー役割の作成 (ページ 327) レコード所有権モードの設定 (ページ 328) ブックとブック階層の作成 (ページ 328) ユーザーとブックの関連付け (ページ 330) ブックのアクセスプロファイルの作成 (ページ 333) 企業のブックの有効化 (ページ 334)

セクション	内容
	ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化 (ページ 335) [レコード詳細] ページのレイアウトへのブックの追加 (ページ 337) ブックへのレコードの割り当て (ページ 338)

セクション	内容
ビジネスプロセス管理 (ページ 366)	プロセスの作成 (ページ 373) プロセスへの推移ステートの追加 (ページ 374) プロセスの制限 (ページ 376) 推移ステートの項目の設定 (ページ 376) 関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化 (ページ 377) ワークフロールール作成 (ページ 395) ワークフローアクションの作成: ブックの割り当て (ページ 403) ワークフローアクションの作成: タスクの作成 (ページ 408) ワークフローアクションの作成: 統合イベントの作成 (ページ 405) ワークフローアクションの作成: 電子メールの送信 (ページ 414) ワークフローアクションの作成: 値の更新 (ページ 426) ワークフローアクションの作成: 待機 (ページ 428) ワークフロールールアクションの順序の変更 (ページ 430) ワークフロールールの順序の変更 (ページ 431) ワークフロールールとアクションの無効化 (ページ 433) ワークフロールールとアクションの削除 (ページ 434) [ワークフローエラーモニター] でのエラーインスタンスの表示 (ページ 437) [ワークフローエラーモニター] からのエラーインスタンスの削除 (ページ 438) [ワークフロー待機モニター] での保留インスタンスの表示 (ページ 441) [ワークフロー待機モニター] からの保留インスタンスの削除 (ページ 442) 割当ルール設定 (ページ 449) 見込み客変換中の追加フィールドのマッピング (ページ 456) 見込み客変換レイアウトの作成 (ページ 457) 売上予想定義の設定 (ページ 459) 売上予想定義の更新 (ページ 465) セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定 (ページ 466) 企業の業種リストのカスタマイズ (ページ 474) 変更トラッキング機能の有効化 (ページ 476) [変更トラッキングリスト] ページの表示 (ページ 488) 手動による変更レコードの作成 (ページ 493)

セクション	内容
データ管理ツール (ページ 495)	データのインポートの準備 (ページ 542) インポート時のレコードのリンク (ページ 535) データのインポート (ページ 703) インポート結果の確認 (ページ 708) データのエクスポート (ページ 710) エクスポート結果の確認 (ページ 713) Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティ (ページ 720) Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティ (ページ 714) 統合イベントキューの作成 (ページ 725) 統合イベント設定の管理 (ページ 726)
コンテンツ管理 (ページ 728)	製品カテゴリーの設定 (ページ 729) 自社製品の設定 (ページ 730) PRM の価格リストの設定 (ページ 732) ライフサイエンスの価格リストの設定 (ページ 735) 企業の添付資料の管理 (ページ 738) アセスメントスクリプトの設定 (ページ 740) レポートフォルダの設定
アプリケーションプラグイン (ページ 747)	Oracle Social Engagement and Monitoring の設定 (ページ 747) Oracle Social Network 統合設定の設定 (ページ 749) Oracle Eloqua Engage を使用した電子メール配信の設定 (ページ 750)
Web サービスの統合 (ページ 715)	WSDL およびスキーマファイルのダウンロード (ページ 716) Web サービスの利用の確認 (ページ 719)
ライフサイエンス管理 (ページ 751)	スマートコールの管理 (ページ 752) ライフサイエンス関連設定の設定 (ページ 755) 有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定 (ページ 757) 担当者へのサンプル受領権限の付与 (ページ 759)
デスクトップ統合管理 (参照 "Oracle CRM On Demand Desktop" ページ 762)	カスタマイズパッケージの管理 (ページ 763) Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所の設定 (ページ 764)

さらに、管理者は通常、次の操作を行うことができます。

- 自分自身で使用するための、または社内に配布するためのカスタムレポートの作成手順については、「レポート」を参照してください。
- 社内で配布するためのフィルター済みリストの作成手順については、「リストの使用」を参照してください。

Oracle On Demand Expression Builder の使用方法については、「[Expression Builder](#) (ページ 766)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand の管理プロセス

Oracle CRM On Demand の [管理者] ページでは、ユーザーに対する Oracle CRM On Demand の配置およびデータ要件の設定を管理できます。[管理者] ページを使用して、特定のビジネス要件に合わせて Oracle CRM On Demand の外観をカスタマイズできます。Oracle CRM On Demand の配置を管理するには、次のガイドラインに従います。

1 使用可能なすべてのリソースを確認します。

新しい Oracle CRM On Demand の配置を設定する前に、次のリソースを確認します。

- 『Oracle CRM On Demand Administrator Preview Guide』を一読します。このガイドは、すべての企業管理者が利用でき、Oracle CRM On Demand の機能を有効化する方法に関する情報を提供します。『Oracle CRM On Demand Administrator Preview Guide』の入手方法の詳細は、Oracle CRM On Demand の [トレーニングおよびサポート] リンクをクリックしてください。
- Oracle CRM On Demand の [トレーニングおよびサポート] リンクをクリックして、その他のツール、テンプレート、チェックリスト、Web セミナーおよびガイドを確認します。
- Oracle University が実施する Administration Essentials コースに登録します。

2 組織内のビジネスプロセスとユーザーが果たす役割を評価します。

My Oracle Support から入手可能な『Oracle CRM On Demand Administrator Rollout Guide』を一読します。カスタムフィールドの設定テンプレートをダウンロードして使用し、配置を最初から適切に計画します。カスタムフィールドの設定テンプレートは My Oracle Support のトレーニングおよびサポートセンターのツールとテンプレートページから入手できます。

- 次の要因および機能を検討して、データの表示とデータのセキュリティ保護方法を定義します。
 - **アクセスプロファイル**。詳細は、「[アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)」を参照してください。
 - **チーム**。詳細については、「[レコードの共有 \(チーム\)](#)」を参照してください。
 - **ブック**。詳細については、「[ブックの管理](#) (ページ 299)」を参照してください。
 - **マネージャ表示**。詳細については、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。
- データモデルと関連フィールドを定義します。トレンド分析、リアルタイムトレンド分析および分析をサポートするレコードタイプがどのレポートに必要なかを評価します。
- 検証およびデータ操作に関連する次のプロセスを定義します。
 - **セールスプロセスの設定**。詳細については、「[セールスプロセス、カテゴリ、およびコーチの設定](#) (ページ 466)」を参照してください。

- 見込み客変更レイアウトと項目マッピングを定義します。詳細については、「[見込み客変換の管理](#) (ページ 454)」を参照してください。
- フィールド検証を定義します。詳細については、「[フィールド管理について](#) (ページ 92)」を参照してください。
- ワークフロープロセスを定義します。詳細については、「[ビジネスプロセス管理](#) (ページ 366)」を参照してください。
- Oracle CRM On Demand と Web サービスを統合します。詳細については、「[Web サービスの統合](#) (参照 "[Web サービスの統合](#)" ページ 715)」を参照してください。
- 顧客テスト環境 (CTE) とトレーニングおよびテストのためのその他の環境を定義します。

3 企業を設定します。

各企業は一意です。Oracle CRM On Demand では、ビジネスの設定に合わせて多くの企業設定をカスタマイズできます。

- 企業の会計年度、言語、通貨、為替レートなどを設定します。
- 適切なアクセス権と CTE を要求します。企業設定の詳細は、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。

4 ユーザープロファイルを設定します。

企業内のユーザーには特定の役割と権限があります。一定のデータへのアクセス権を持つユーザーと持たないユーザーがいます。ユーザーを追加する前に、各ユーザータイプの表示と役割を設定する必要があります。

- Oracle CRM On Demand ユーザーの役割を設定します。詳細については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。
- 企業のアクセスプロファイルを設定します。詳細は、「[アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)」を参照してください。
- ブック、チームなどの表示モデルを設定します。詳細については、「[ブックの管理](#) (ページ 299)」および「[レコードの共有 \(チーム\)](#)」を参照してください。

5 データモデルを設定します (例: フィールドやレコードタイプの追加または名前変更など)。

企業のデータ要件も一意です。Oracle CRM On Demand で、既存のレコードタイプへの新しいフィールドの追加、ビジネス条件に応じたフィールド名の変更、新規カスタムレコードタイプの追加を行うことができます。データを追加する前に、次の操作を行ってください。

- データモデルの定義に必要な新しいフィールドおよびレコードタイプを追加します。詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」および「[レコードタイプの追加](#) (ページ 216)」を参照してください。
- 特定のビジネス条件に合わせてフィールドおよびレコードタイプの名前を変更します。詳細は、「[フィールドラベルの管理](#) (ページ 132)」および「[レコードタイプの名前変更](#) (ページ 212)」を参照してください。
- ピックリストを作成します。インポート機能を使用して、大量のピックリスト値をピックリストフィールドに手軽にインポートできます。詳細については、「[ピックリスト値の変更](#) (ページ 137)」を参照してください。
- レイアウトを設定します。各役割に必要なフィールドのみを表示し、動的レイアウトを使用します。詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」および「[動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)」を参照してください。
- ワークフローやセールスプロセスなどのプロセスを設定します。詳細については、「[ビジネスプロセス管理](#) (ページ 366)」および「[セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定](#) (ページ 466)」を参照してください。

- 役割のリストを設定します。最初の 10 件のリストはユーザーのホームページに表示されます。リストに大量のデータを取得しないことをお勧めします。毎日の作業で管理可能な推奨レコード件数は 25 から 100 件です。また、次のことをお勧めします。

- 可能な場合は、インデックス付きフィールドを使用します。
- リストには、ユーザーが頻繁に更新するフィールドを含めます。

リストの設定の詳細は、「リストの作成と編集」を参照してください。

6 レポートを生成してビジネス基準に関する情報を提供します。

Oracle CRM On Demand のレポート機能を使用してビジネス要件に関連するカスタムレポートを生成し、ユーザーに提供します。詳細については、「レポートについて」を参照してください。

7 データとユーザーをインポートします。

インポート機能を使用してレガシーデータを Oracle CRM On Demand にインポートします。すべてのユーザーをインポートすることも、[ユーザー管理] ページからすべてのユーザーを手動で追加することもできます。追加されたユーザーには Oracle CRM On Demand にアクセスするための暫定パスワードを通知する電子メールが送信されるため、ユーザーはすぐに作業を開始できます。データのインポートの詳細は、「[インポートツールとエクスポートツール](#) (ページ 495)」を参照してください。

設定時における管理者テンプレートの使用

企業の情報を整理したり、Oracle CRM On Demand を効率的に実装するのに役立つ管理者設定テンプレートを使用できます。

テンプレートに情報を入力した後は、アプリケーションの設定およびカスタマイズ時にそのテンプレートを参照として使用できます。

管理者設定テンプレートにアクセスするには

8 使用するテンプレートのリンクをクリックします。

使用可能なテンプレートのリンクについては、次のセクションを参照してください。

9 テンプレートをコンピュータに保存します。

10 保存されたファイルを開きます。

Oracle CRM On Demand の使用状況追跡について

使用状況追跡機能を使用すると、企業は、ユーザー使用状況、アプリケーション使用状況、セットアップと設定の詳細など、Oracle CRM On Demand アプリケーションの使用状況を監視および分析できます。Oracle CRM On Demand 使用状況のレポート作成用に、使用状況追跡に関する多数の組み込みレポートが用意されています。組み込みレポートに加えて、Oracle CRM On Demand 使用状況をさらに詳細に分析する必要がある企業のために、使用状況追跡分析サブジェクトエリアは Oracle CRM On Demand Answers の分析エリアで使用できます。

16 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

たとえば、次にに関する情報を提供するレポートを作成できます。

- 過去 30 日間サインインしていないユーザー
- 過去 30 日間レコードが作成、更新、削除されていないレコードタイプ
- Oracle CRM On Demand で作成されたワークフロールール、カスタムフィールドおよびカスタムタブの数

ヒント： Web サービス使用状況の確認については、「[Web サービスの利用の確認](#) (ページ 719)」を参照してください。

使用状況追跡分析サブジェクトエリアで、組み込みの使用状況追跡レポートにアクセスし、新規レポートを作成するには、ユーザー役割に「使用状況追跡」権限が含まれている必要があります。「使用状況追跡」権限は、企業管理者の役割ではデフォルトで有効です。

「使用状況追跡」権限について

企業管理者は、必要に応じて他のユーザー役割の「使用状況追跡」権限を有効にできます。ただし、ユーザー役割の「使用状況追跡」権限を有効にするには、その前に、権限の有効化による次の影響を考慮してください。

- ユーザー役割に「使用状況追跡」権限が含まれているユーザーは、Oracle CRM On Demand Answers の使用状況追跡分析サブジェクトエリア、および使用状況追跡に関する組み込みレポートにアクセスできます。
- 使用状況追跡データへのアクセスは、アクセスプロファイルやユーザー役割のレコードタイプに対するアクセス設定など、他のアクセス設定では保護されません。したがって、役割に「使用状況追跡」権限が含まれているユーザーは、使用状況追跡分析サブジェクトエリア内のすべての使用状況追跡データにアクセスできます。

企業の使用状況データの一部は機密と考えられる場合があるため、適切なユーザーにのみ「使用状況追跡」権限が付与されていることを確認する必要があります。

- 使用状況追跡のレポート作成では、システムリソースが集中的に使用される場合があります。

一部の使用状況追跡レポートは特定のユーザーが使用できるようにするが、そのユーザーに使用状況追跡分析サブジェクトエリアと組み込みレポートに対する完全アクセス権を付与しない場合は、関連データが含まれるカスタムレポートの作成を考慮します。このカスタムレポートを共有レポートフォルダに格納し、ユーザーには、共有フォルダのみに対するアクセス権を付与できます。

Oracle CRM On Demand では、サービス割当使用量に関するデータを表示できます。「[企業のサービス割当使用量の表示](#) (ページ 77)」および「[履歴サービス割当使用量の表示](#) (ページ 78)」を参照してください。ファイルおよびレコードの使用量に関するデータについては、「[ファイルおよびレコード利用情報の表示](#) (ページ 79)」を参照してください。

関連トピック

使用状況追跡分析サブジェクトエリアおよびレポートの詳細は、次のトピックを参照してください。

- 組み込みレポートについて
- 使用状況追跡分析サブジェクトエリア
- Answers の概要 (カスタムレポート)

企業管理

作業前の準備。特に指示のない限り、「企業管理」で説明する手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業管理に関連する作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)
- [ライセンスの状況と有効なユーザーの確認](#) (ページ 42)
- [企業のパスワード管理の定義](#) (ページ 43)
- [すべてのパスワードのリセット](#) (ページ 50)
- [言語の有効化](#) (ページ 51)
- [カスタム会計カレンダーの定義](#) (ページ 53)
- [通貨の管理](#) (ページ 57)
- [部署の作成](#) (ページ 63)
- [ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [すべてのユーザーのサインイン活動の確認](#) (ページ 69)
- [IP アドレスの使用制限](#) (ページ 51)
- [企業のリソース使用状況の確認](#) (ページ 69)
- [マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#) (ページ 70)
- [全社レベルの警告の公開](#) (ページ 74)
- [企業のサービス割当使用量の表示](#) (ページ 77)
- [履歴サービス割当使用量の表示](#) (ページ 78)
- [サービス割当の警告の設定](#) (ページ 78)
- [ファイルおよびレコード利用情報の表示](#) (ページ 79)
- [非共有住所から共有住所への変換](#) (ページ 81)
- [共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項](#) (ページ 84)
 - [共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび \[アドレスの管理\] 権限の更新](#) (ページ 85)
- [\[関係の編集\] を使用した非共有住所の住所タイプの設定](#) (ページ 86)
- [住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定](#) (ページ 86)

企業プロファイル

企業プロファイルを設定するには、次の作業を実行します。

- [企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)

- [ライセンスの状況と有効なユーザーの確認](#) (ページ 42)
- [企業のパスワード管理の定義](#) (ページ 43)
- [すべてのパスワードのリセット](#) (ページ 50)
- [言語の有効化](#) (ページ 51)
- [IP アドレスの使用制限](#) (ページ 51)

企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定

企業情報およびグローバルデフォルトは、[企業プロフィール] ページを使用して設定します。

企業情報。 企業名、出荷先住所および請求先住所、電話番号、プライマリ担当者を入力または編集できます。トライアル期間にサインアップした場合は、企業に関する一部の情報がサインアップデータから継承されます。

グローバルデフォルト。 全社レベルのデフォルトを定義できますが、ユーザーはこれらのデフォルトを上書できます。

注意： 企業の管理者は[国]の設定を変更できます。これにより、カスタマーサポートは、レポートやダッシュボードの更新だけでなく、[タイムゾーン]の設定の更新についても必要な措置を取ることができます。[言語]、[通貨]、および[タイムゾーン]の変更は、カスタマーサポートに連絡した場合にのみ可能です。新しい設定が分析に反映されるのは、完全な ETL (抽出、変換、ロード) が実行された後です。

作業前の準備。 これらの設定の影響については、「ユーザーのプロファイル設定について」を参照してください。

この手順を実行するには、企業プロフィールの管理権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業プロフィールを編集するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理]セクションで、[企業管理]リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール]セクションで、[企業プロフィール]リンクをクリックします。
- 4 [企業プロフィール]ページで、[編集]ボタンをクリックして(またはインライン編集を使用して)変更します。
- 5 レコードを保存します。

企業プロフィールの設定の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [企業主要情報の設定](#) (ページ 20)
- [企業設定の設定](#) (ページ 21)
- [企業勤務週とカレンダー設定の設定](#) (ページ 30)
- [見込み客設定の設定](#) (ページ 32)
- [企業テーマ設定の設定](#) (ページ 32)
- [会社データ表示設定の設定](#) (ページ 33)

- [統合設定の設定](#) (ページ 34)
- [デスクトップ統合設定の設定](#) (ページ 35)
- [企業セキュリティ設定の設定](#) (ページ 35)
- [分析表示設定の設定](#) (ページ 39)
- [通信設定の設定](#) (ページ 40)
- [追加会社プロファイル設定の設定](#) (ページ 41)
- [ジオコーダー設定の設定](#) (ページ 41)

注: 特定の状況では、[企業プロファイル] レコードの[変更者] フィールドに、企業プロファイルを直接更新するのに必要なアクセス権や権限がないユーザーの名前が表示される可能性があります。たとえば、ユーザーの状態が[有効]から[無効]に、または[無効]から[有効]に変更されると、[企業プロファイル] ページの[有効なユーザー] および[無効なユーザー] フィールドの値が更新されます。これらのフィールドが変更された結果、その変更を行ったユーザーに企業プロファイルの更新に必要な権限がない場合でも、[企業プロファイル] ページの[変更者] フィールドが更新され、ユーザーレコードを更新したユーザーの名前が表示されます。

企業主要情報の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロファイル]ページ内の[企業主要情報]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
会社のサインイン ID	各企業に固有の識別子。新規ユーザーを作成する際は、これがそのユーザーのユーザーサインイン ID (企業サインイン ID/ユーザーID) の最初の部分となります。企業の管理者は、この値を変更できません。

フィールド	説明
プライマリ担当者	デフォルトでは、ADMIN か、社内で最初にサインインしたユーザーのエイリアスになりますが、任意のユーザーに変更できます。製品の更新や、その他の重要な情報はプライマリ担当者に送信されます。 プライマリ担当者が担当できない状況を補うには、プライマリ担当者の電子メールアドレスに配布リストを入力して、システム障害や他の重要な情報を複数のユーザーに通知します。これは、次の 2 つの方法で実行できます。 ■ プライマリ担当者のユーザーレコードの電子メールアドレスに既存の配布リストを入力します。ただし、システムでプライマリ担当者が何かを実行し、自動化された電子メールを自分の電子メールアドレスに送信した場合は、配布リストのすべてのユーザーがその通知を受信することに注意してください。 ■ 新規のダミーユーザーを作成します。このユーザーに配布リストなどの名前を付け、ダミーユーザーのユーザーレコードの電子メールアドレスに配布リストを入力します。この場合は、自分のライセンスの 1 つをこのタスクに対してのみコミットします。 注：プライマリ担当者に指定したユーザーは無効にできません。元のプライマリ担当者の状態を「無効」に変更するには、その前に、プライマリ担当者に対して別のユーザーを選択する必要があります。

企業設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロファイル]ページ内の[企業設定]セクションの設定方法について説明します。

注：企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
デフォルト言語	ユーザーのデフォルトとして使用する言語。ユーザーが自分自身で使用する設定を変更できるように、その他の言語も有効にできます。言語の追加方法については、「言語の有効化 (ページ 51)」を参照してください。 このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。
デフォルト地域	ユーザーのデフォルトとして使用する地域設定。ユーザーは、自分自身で使用する設定を、[ユーザープロファイル] ページからいつでも変更できます。これらの設定によって、日付、時刻、通貨、数字、および電話番号の形式が決まります。
デフォルト通貨	ユーザーのデフォルトとして使用する通貨。他の通貨を有効にすれば、ユーザーが自分の設定を変更できるようになります（「通貨の管理 (ページ 57)」を参照）。ただし、ここで設定した通貨は、売上予想に使用する全社レベルの通貨を指定します。 このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。
デフォルトタイムゾーン	企業のデフォルトのタイムゾーン。

フィールド	説明
	売上予想の生成などの一部の機能では、このデフォルトのタイムゾーンではなく、ホスト施設のタイムゾーンを使用します。このタイムゾーンについては、カスタマーサポートにお問い合わせください。他の地域のユーザーは自分の地域のタイムゾーンの使用を選択できます。このタイムゾーンは「ユーザープロファイル」ページで設定されます。 このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。
レコードプレビューモード	企業のデフォルトレコードプレビューモード。レコードプレビュー機能を有効にし、プレビューウィンドウを開く方法を指定できます。このフィールドの設定内容によって、ユーザーがレコードへのリンクにポインタを置くか、またはレコードへのリンクにポインタを置いたときに表示されるプレビューアイコンをクリックするとプレビューウィンドウが開きます。 プレビューウィンドウには、レコードの「詳細」ページの最初のセクションが表示されます。このフィールドで「オフ」を選択すると、レコードプレビュー機能を無効にすることもできます。このフィールドは Oracle CRM On Demand が新しい企業に対して初めてセットアップされたときに、デフォルトで「Click on Preview Icon (プレビューアイコンをクリック)」に設定されます。 ユーザーは、「個人詳細」ページで別のレコードプレビューモードを設定することにより、企業のデフォルト設定を上書きできます。
インライン編集有効	インライン編集機能を有効または無効にします。 インライン編集を有効にすると、レコードに対して「編集」ページを開かずに、リストページと詳細ページで直接フィールドを編集できます。 インライン編集は、レコードのリストページ、レコードの詳細ページ、およびメインレコードの詳細ページでリンクされた多くのレコードでサポートされます。 リンクされたレコードの次のフィールドタイプは、メインレコードの「詳細」ページから編集できないことに注意してください。 ■ リンクされたレコード自体の「詳細」ページに表示されないフィールド ■ 「氏名」などの計算フィールド ■ リンクされたレコードの「編集」ページで読み取り専用のフィールド また、複数のメインレコードの下に同じリンクされたレコードを表示できる場合は、リレーションシップの一部であるフィールドを編集できます。リンクされたレコード自体に属しているフィールドは編集できません。たとえば、取引先レコードの「取引先チーム」関連リストでは、「チームの役割」フィールドは取引先とチームメンバー間のリレーションシップの一部になっているので編集できます。ただし、「名前（姓）」フィールドと「名前（名）」フィールドは、ユーザーレコード（チームメンバー）に属しているため編集できません。
メッセージセンター対応	次の内容を制御します。 ■ アクションバーに「メッセージセンター」が表示されます。 ■ 「メモ」アイコンとメモのリストが「レコード詳細」ページで使用可能です。 ■ ユーザーはメッセージセンターウィジェットを使用できます。

フィールド	説明
レコードタイプの監査可能な項目	各オブジェクトの監査可能なフィールドの最大数で、読み取り専用フィールドとして表示されます。デフォルトの数値は 35 ですが、企業の管理者はこの値を変更できます。 注： 追加の各フィールドの監査で、該当するフィールドに変更があった場合は、データベースに別のレコードを作成する必要があります。一度に監査するフィールドが多すぎると、監査したレコードを保存するときのパフォーマンスに影響を与える場合があります。
監査失効（日数）	フィールド監査レコードが削除されるまでの経過時間（日数）。企業の管理者はこの値を 1 から 90 日までの値に設定できます。企業に対して設定された値を表示するには、[企業プロファイル] ページの [企業セキュリティ設定] セクションに移動します。ゼロ（0）の値は、フィールド監査レコードが削除されないことを示すことに注意してください。Oracle CRM On Demand のカスタマーサポートのみが 0 の値を設定できます。企業の管理者がこの設定を変更するには、[フィールド監査の管理] 権限が必要です。
関連情報形式	レコードの [詳細] ページの関連情報セクションのデフォルト形式を選択します。 関連情報セクションは、ユーザーがリストを表示する場合にクリックできるリストまたはタブとして表示できます。[関連情報形式] オプションのデフォルト設定は役割ごとに設定することもできます。役割に [関連情報表示形式のパーソナライズ] 権限があるユーザーは、個人プロファイルの [関連情報形式] オプションを設定することもできます。ユーザーの個人プロファイルの [関連情報形式] オプションが空白の場合は、そのユーザーの役割に対するデフォルト設定が使用されます。そのユーザーの役割の [関連情報形式] オプションが空白の場合は、企業に対するデフォルト設定が使用されます。
グローバル検索方法	アクションバーおよびルックアップウィンドウの [検索] セクションでユーザーが使用できる検索方法を選択します。 ターゲット検索。 ターゲット検索では、指定したフィールドで一致が検索されます。ターゲット検索では、ユーザーは複数のフィールドに値を入力できます。ユーザーが入力した各値との一致が検出されたレコードのみが返されます。レコードタイプに対してユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトに基づいて、ユーザーが検索できるフィールドが決まります。Oracle CRM On Demand では、ターゲット検索がデフォルトで有効です。ターゲット検索の詳細は、「ターゲット検索について」を参照してください。 キーワード検索。 キーワード検索では、各レコードタイプに固有のデフォルトのフィールドが検索されます。キーワード検索では、単一のテキストボックスに文字列を入力します。ユーザーが入力した文字列との一致が検出されたすべての検索対象フィールドにあるレコードすべてが返されます。キーワード検索の詳細は、「キーワード検索について」を参照してください。
会計年度開始月	このフィールドには、会計カレンダーの開始月が表示されます。 このフィールドは企業の作成時に最初に設定されるものであり、企業の管理者はこれを変更できません。 この設定は、会計年度の売上を測定するレポートに影響を与えます。 このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。

フィールド	説明
会計年度開始日	このフィールドには、指定した会計カレンダーの開始月の日付が表示されます。 このフィールドは企業の作成時に最初に設定されるものであり、企業の管理者はこれを変更できません。 この設定は、会計年度の売上を測定するレポートに影響を与えます。 このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。
会計カレンダーのタイプ	このフィールドには、使用する会計カレンダーのタイプが表示されます。選択できる値は、[カレンダー四半期]、4-4-5、5-4-4、[カスタム会計カレンダー] です。この設定は、時間ベースの分析、ビジネス計画、売上予想に影響を与えます。企業の管理者は、このフィールドを変更できません。 このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。
製品確度平均化の有効化	ユーザーが[商談合計を更新] ボタンをクリックすると、商談の確度の更新方法を決めます。 ■ 選択されている場合、商談の確度は、リンクされている各製品の確度の加重平均に基づいて計算されます。 商談の確度 = $\text{SUM (製品予想売上)} / \text{SUM (製品売上)}$ ■ 選択されていない場合、確度はアクションの一部としては更新されません。 注： [商談合計を更新] ボタンは、製品関連情報セクションのタイトルバーで、[商談詳細] ページにあります。
製品の保存と追加の有効化	この設定が選択されているときに、ユーザーが新規の商談レコードを作成した場合、[商談] ページヘッダーには、[保存] ボタンのかわりに [製品を保存 & 追加] ボタンが表示されます。この設定が未選択のときに、ユーザーが新規の商談レコードを作成した場合、[商談] ページヘッダーには、[製品を保存 & 追加] ボタンが表示されず、[保存] ボタンのみが表示されます。
商談売上分割の有効化	チームメンバー間での商談売上の分割を有効化するには、このオプションを選択します。 このチェックボックスをオンにすると、[商談チーム - ユーザーを編集] ページに [合計を更新] ボタンと [展開分割] ボタンが表示され、売上をチームメンバーで分割できます。[商談売上予想] ページと [商談 (個人)] ページには、ユーザーが分割売上対象のチームメンバーである商談が表示されます。 このチェックボックスをオフにすると、[商談チーム - ユーザーを編集] ページに [合計を更新] ボタンと [展開分割] ボタンが表示されません。[商談売上予想] ページと [商談 (個人)] ページには、ユーザーが商談所有者である商談が表示されます。

フィールド	説明
ヘッドアップディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ機能が有効な場合は、ブラウザウィンドウの下部にあるヘッドアップディスプレイで、ページの関連情報セクション（リンクされているレコードのセクションなど）へのリンクを使用できます。ヘッドアップディスプレイは、個人のプロファイルにある機能をオフにすることで、詳細ページから完全に削除することもできます。ヘッドアップディスプレイの詳細は、「Oracle CRM On Demand の各ページについての概要」を参照してください。 注：ヘッドアップディスプレイ機能は、企業レベルで、または個々のユーザーがオンまたはオフにできます。ユーザーの個人設定は、企業の設定より優先されます。ヘッドアップディスプレイの色は、使用しているテーマによって決まります。テーマの選択方法の詳細は、「テーマの設定」を参照してください。
共有アドレスの有効化	取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーレコードのトップレベルの住所レコードの共有をオンにするには、このオプションを選択します。このオプションをオフにすると、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードで使用できるのは住所の非共有機能のみとなります。共有住所の詳細は、「住所」を参照してください。 注：共有住所がオンの場合は、オフにする前に、「共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項（ページ 84）」の情報を確認し、「共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび [アドレスの管理] 権限の更新（ページ 85）」の手順を完了してください。共有住所は、Oracle Process Integration Pack (PIP) などの事前パッケージ済みの Oracle 製品統合と互換性がありません。PIP (Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite PIP など) を使用している場合は、[共有アドレスの有効化] 設定を選択しないでください。
共有アドレスの検証	企業の共有住所を検証するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ユーザーは、共有住所を選択して取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードに追加できます。未検証の住所は、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードからフィルター処理され、これらのレコードの [新規] 住所ボタンは使用不可になります。 [共有アドレスの検証] がオフの場合は、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードで、すべての住所が使用可能になります（つまり、フィルター処理は実行されず、必要な権限があるユーザーに対しては、これらのレコードの [新規] 住所ボタンが有効になります）。 住所の検証の詳細は、「共有住所への検証済みのマーク付け」を参照してください。
タブの拡張ビューを有効化する	レコードの詳細ページ上で関連情報セクションがタブとして表示される場合の関連情報セクション内での並べ替えおよびフィルター処理など、拡張機能を有効化するには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスの選択時にユーザーが実行できるアクションの詳細は、「関連情報タブ用の拡張ビューについて」を参照してください。 タブの拡張ビューを有効化するチェックボックスは、デフォルトでは選択解除されています。

フィールド	説明
タブでのクラシックテーマのページングを有効化する	ユーザーがレコードの詳細ページ上の関連情報タブを、デフォルト動作である一度に 1 つのタブのスクロールではなく、一度に 1 つのタブセットずつスクロールできるようにするには、このチェックボックスを選択します。この設定は、クラシックテーマにのみ適用されます。 タブでのクラシックテーマのページングを有効化するチェックボックスは、デフォルトでは選択解除されています。
オーダー使用	Oracle CRM On Demand でのオーダーおよびオーダー項目の使用方法を選択します。 CRM On Demand Order Management の値を選択した場合は、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition のオーダー管理を使用できます。 [eBusiness PIP 統合] 値を選択すると、ユーザーは Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite 統合ソリューションを使用できます。 Ebiz PIP 統合は Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite 統合ソリューションであるため、このフィールドは Oracle CRM On Demand Order Management では使用できません。Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite の詳細は、カスタマーサポートにお問い合わせください。 いずれかの目的でオーダー機能を使用する場合は、ユーザーの役割に [オーダーアクセスの有効化] 権限が必要です。 オーダー管理タイプ選択の詳細は、「EBIZ PIP 統合および Oracle CRM On Demand オーダー管理について」を参照してください。

フィールド	説明
ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト	ルックアップウィンドウにおいてレコードをどのように検索できるかを、次の中から選択します。 ■ 有効化。 この設定では、次のことが起こります。 ■ ユーザーが検索対象の限定に使用できる定義済みリストのセットは、トップレベルのレコードタイプ用のルックアップウィンドウ内の レコードタイプリスト フィールドで使用できます（レコードタイプはユーザーが検索するレコードのタイプの名前です）。 ■ 検索レイアウトウィザードでは、[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスを使用できます。このチェックボックスにより、ルックアップウィンドウの レコードタイプリスト フィールド内で他のリストの前に使用可能なコンテキスト依存リストが表示されるよう指定できます。[ルックアップ] ウィンドウが開くと、[レコードタイプリスト] フィールドのリストセットにおける最初のリストが有効となります。 ■ 混合: この設定では、次のことが起こります。 ■ レコードタイプリスト フィールドは、レコードタイプリスト フィールドが表示されるルックアップウィンドウ内で使用可能であり、指定レコードタイプのレコードの初期検索は、ユーザーがアクセス可能なそのレコードタイプのすべてのレコードに対して実行されます。 ■ 無効化: この設定では、次のことが起こります。 ■ どのルックアップウィンドウでも レコードタイプリスト フィールドは使用できず、指定レコードタイプのレコードの初期検索は、ユーザーがアクセス可能なそのレコードタイプのすべてのレコードに対して実行されます。 注意: 検索レイアウトの設定後に企業プロファイルの[ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト]メニューで[無効化]を選択した場合、検索レイアウトウィザードでは[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスは使用できなくなります。また、[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] オプションが前に選択されていたかどうかにかかわらず、ルックアップウィンドウではコンテキスト依存リストが使用不可であり、ルックアップウィンドウにおける指定レコードタイプのレコードの初期検索は、ユーザーがアクセスできるレコードタイプのすべてのレコードについて実行されます。ただし、Oracle CRM On Demand では検索レイアウトごとに、[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスの設定が格納されます。後でもう一度企業プロファイルの[ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト]メニューで[有効化]または[混合]を選択した場合、各検索レイアウトの[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスの設定が元に戻り、再度有効になります。
カナダの住所の州ピックリストを有効化	カナダの住所テンプレートを使用するとき、[都道府県] フィールドに値リストを表示するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションの選択は解除されています。

フィールド	説明
各動的ページレイアウトのパーソナライズの有効化	このチェックボックスはデフォルトではオフになっており、次のように、動的レイアウトで使用される [詳細] ページの関連情報セクションのレイアウトをユーザーがパーソナライズする方法を決定します。 ■ チェックボックスがオフの場合、ユーザーは 1 つのレコードタイプに対して関連情報セクションの 1 つのパーソナライズレイアウトのみ作成できます。ユーザーがレコードタイプの [詳細] ページの関連情報セクションのレイアウトをパーソナライズすると、ページレイアウトの動的レンダリングを決定するピックリストフィールドでどの値が選択されているかに関係なく、同タイプのすべてのレコードの [詳細] ページに同一の関連情報セクションが表示されます。 ■ チェックボックスがオンの場合、ユーザーはピックリストフィールドの各値（この値がページレイアウトの動的レンダリング内容を決定します）に対して 1 つずつ関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを作成できます。 注: 関連情報レイアウトをパーソナライズするには、ユーザー役割に [詳細ページのパーソナライズ - 関連情報] 権限が含まれている必要があります。 このチェックボックスの設定を変更したときの結果に関する詳細は、「パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法 (ページ 184)」を参照してください。 注: [個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化] 設定は、関連情報レイアウトのパーソナライゼーションにのみ適用されます。レコードページの項目レイアウトのパーソナライゼーションには適用されません。[詳細ページのパーソナライズ - 項目] 権限を持つユーザーは、[個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化] チェックボックスがオンになっていない場合でも、個別の動的ページレイアウトの項目レイアウトをパーソナライズできます。項目レイアウトのパーソナライズの詳細は、「項目レイアウトのパーソナライズ」を参照してください。
Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化	カスタム Web アプレット、およびレコードタイプホームページと [ホームページ (個人)] にカスタムレポートを表示するアプレットの翻訳した名前を入力できる機能を有効にする場合、このチェックボックスをオンにします。詳細は、「Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 (参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163)」を参照してください。 [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスは、デフォルトではオフになっています。 注: [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスは、カスタム Web アプレット、およびレコードタイプホームページと [ホームページ (個人)] にカスタムレポートを表示するアプレットにのみ適用されます。フィールド名、役割名、アクセスプロファイル名など、Oracle CRM On Demand の他の要素を翻訳した名前を入力できる機能は有効化および無効化されません。

フィールド	説明
ワークフロー保存取消メッセージに対する言語翻訳サポートの有効化	ワークフロールールが満たされず、ルールの「保存取消」チェックボックスがオンになっている場合、ユーザーまたは Web サービスに返されるカスタムエラーメッセージの翻訳を入力できる機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。カスタムエラーメッセージの翻訳の入力の詳細は、「ワークフロー保存操作の取り消し」(参照「ワークフロー保存操作の取り消し」 ページ 399)」を参照してください。 ワークフロー保存取消メッセージに対する言語翻訳サポートの有効化チェックボックスは、デフォルトではオフになっています。 注: このチェックボックスをオンにしたときにカスタムエラーメッセージを含むワークフロールールが既に存在する場合、そのルールのカスタムメッセージは、ユーザーの言語に関係なく、既存のルールで翻訳されたメッセージを入力するまで、企業で使用するデフォルト言語およびすべてのユーザーのデフォルトフォントを使用して引き続き表示されます。
ポートフォリオ口座からの車両/資産レコードの除外	この設定を選択すると、車両および資産レコードはすべてのポートフォリオ口座リストから除外されます。リリース 29 以前では、車両および資産レコードはポートフォリオ口座リストに含まれていました。リリース 29 から、チェックボックスをオンにした場合、リストに含まれるのは「資産タイプ」フィールドの値が「ポートフォリオ」のレコードのみです。 チェックボックスをオフにすると、車両および資産レコードはすべてのポートフォリオ口座リストに含まれます。このチェックボックスは、デフォルトではオフになっています。
重複レコードのブックのマージの有効化	この設定は、企業が Oracle CRM On Demand でブック機能を使用する場合のみ適用されます。ブック機能の詳細は、「ブックの管理」(ページ 299)」を参照してください。 ユーザーがレコードをマージすると、プライマリレコードに関連付けられたブックは常に保持されますが、重複レコードに関連付けられたブックはプライマリレコードに自動的に関連付けられません。重複レコードのブックのマージの有効化チェックボックスは、次のように、レコードをマージするユーザーが重複レコードのブックをプライマリレコードと関連付けられるかどうかを決定します。 ■ チェックボックスをオンにすると、Oracle CRM On Demand では、重複レコードに関連付けられたブックをプライマリレコードに関連付けるかどうかを指定するようにユーザーに要求します。 ■ チェックボックスをオフにすると、ユーザーは、重複レコードに関連付けられたブックをプライマリレコードに関連付けるように指定できません。 デフォルトでは、このチェックボックスは選択解除されます。Oracle CRM On Demand での重複レコードのマージの詳細は、「レコードのマージ」を参照してください。

フィールド	説明
商談合計の自動更新の有効化	デフォルトで「商談合計の自動更新の有効化」チェックボックスは選択されています。この設定の動作は次のとおりです。 このチェックボックスを選択している場合、商談の売上および予想売上は、次のいずれかのイベントが発生した場合に自動的に更新されます。 ■ いずれかのチャネルを介した、商談への製品の追加。 ■ いずれかのチャネルを介した、商談からの製品の削除。 ■ いずれかのチャネルを介した、商談にリンクされている製品の詳細の更新。 このチェックボックスを選択していない場合、商談の売上および予想売上は、商談に対する製品の追加または削除、あるいは商談にリンクされている製品の詳細の更新時に、自動的に更新されません。このような変更の後で商談の売上を更新するには、ユーザーは「商談詳細」ページの「商談製品売上」セクションのタイトルバーにある「商談合計を更新」ボタンをクリックする必要があります。 注: 企業プロフィールで「商談合計の自動更新の有効化」チェックボックスが選択されている場合、「商談詳細」ページの「商談製品売上」セクションのタイトルバーに「商談合計を更新」ボタンは表示されません。

企業勤務週とカレンダー設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での「企業プロフィール」ページ内の企業勤務週とカレンダー設定の設定セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
「日曜日」、「月曜日」、「火曜日」、「水曜日」、「木曜日」、「金曜日」、「土曜日」	カレンダー勤務週において勤務日ごとにチェックボックスを選択します。少なくとも 1 つのチェックボックスを選択する必要があります。

フィールド	説明
カレンダーでのイベントの表示	この設定を選択すると、Oracle CRM On Demand では作成されるイベントレコードごとに関連アポイントが自動的に作成されます。[イベント] レコードタイプへのアクセス権を持つユーザーは、Oracle CRM On Demand カレンダーにイベントの関連アポイントを表示できます。イベントまたはアポイントの更新は、引き続き同期されます。イベントおよびアポイントの同期の詳細は、「イベントおよびアポイントの同期について」を参照してください。 この設定を選択しないと、イベントの作成時に自動的に作成されていないアポイントのみが[カレンダー] セクションに表示され、Oracle CRM On Demand では新しいイベントの関連アポイントは自動的に作成されません。 ただし、管理者がこの設定を一定期間選択した後、この設定の選択を解除した場合、既存の自動作成されたアポイントは残ります。イベントが更新されると、Oracle CRM On Demand はイベントの関連アポイントを引き続き同期します。イベントが削除されると、アポイントも削除されます。 注意: この設定が有効になっている場合は、作成されたイベントレコードごとにデータベース内にもう 1 つイベントアポイントレコードが作成されます。これにより、追加のレコードが作成されることで、イベントのインポート時にパフォーマンスへの影響があります。また、この設定が有効になっている場合は、イベントアポイントに追加されたユーザーごとに、データベース内にもう 1 つイベントチームレコードが作成されます。これにより、追加のレコードが作成されることで、アポイントユーザーのインポート時（インポートファイルにイベントアポイントが含まれる場合）にパフォーマンスへの影響があります。
カレンダー週開始日	このフィールドには、すべてのユーザーのカレンダービュー、およびユーザーが Oracle CRM On Demand で日付フィールドの値を選択する日付セクターに週の最初の日としてデフォルトで表示される曜日が表示されます。デフォルトでは、[日曜日] が選択されています。週の別の開始日を選択できます。 ユーザーは、カレンダー設定で別の日を選択することで、週の開始日の企業の設定を上書きすることもできます。
勤務時間開始時刻	勤務日を開始する時刻を入力します。時刻の形式は、国のロケールに応じて異なる可能性があります。
勤務時間終了時刻	勤務日が終了する時刻を入力します。時刻の形式は、国のロケールに応じて異なる可能性があります。
活動通知	この設定により、ユーザーが活動通知を受信できるかどうかが決まります。次の値を設定できます。 ■ なし。[デフォルトのカレンダー設定] ページのこの設定をユーザーが上書きしないと、ユーザーは通知を受信しません。これはデフォルト設定です。 ■ 電子メール。[デフォルトのカレンダー設定] ページのこの設定をユーザーが上書きしないと、ユーザーは電子メールで通知を受信します。 ユーザーは、[設定 (個人)]、[カレンダー設定]、[デフォルトカレンダービュー] の順にクリックして、[デフォルトのカレンダー設定] ページにナビゲートします。

見込み客設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内の[見込み客設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
編集可能な活動のみ変換	このチェックボックスをオンにすると、変換を実行するユーザーは、変換に必要なすべての活動に対する編集アクセス権がなくても、取引先、担当者、取引交渉登録、商談などの他のレコードタイプに見込み客を変換できます。ただし、ユーザーが表示できる活動のみが変換後の見込み客レコードにリンクされます。見込み客の変換に必要な設定の詳細は、「見込み客を変換するためのアクセスプロフィールおよび役割の設定」を参照してください。 このチェックボックスをオフにすると、見込み客の変換を実行するユーザーが、変換に必要なすべての活動に対する編集アクセス権を、所有権または委任のどちらかの方法で持っている必要があります。そうしないと、見込み客の変換は成功しません。これはデフォルト設定です。
見込み客に資格を与えるには、[所有者氏名]、[評価]、および[セールス要員]の有効化が必要です	このチェックボックスをオンにすると、[所有者氏名]、[評価]、[セールス要員]フィールドが見込み客の承認時に[見込み客]レコードで必須になります。これはデフォルト設定です。 このチェックボックスをオンにしないと、見込み客の承認に対してこれらのフィールド必須になりません。
見込み客レコードの取引先を関連付ける際に[セールス要員]フィールドを自動更新	このチェックボックスをオンにすると、Oracle CRM On Demand では、ユーザーインターフェイス、インポートツール、ワークフロー、Web サービスのいずれかを使用して、見込み客に関連付けられている取引先が更新されると、見込み客の[セールス要員]フィールドが自動的に更新されます。これはデフォルト設定です。 このチェックボックスをオンにしないと、Oracle CRM On Demand は[セールス要員]フィールドを更新しません。 注: ユーザーが[見込み客詳細]ページの[変換]ボタンをクリックして、既存の取引先に見込み客を関連付けると、Oracle CRM On Demand は[セールス要員]フィールドを更新しません。

企業テーマ設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内の[企業テーマ設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
デフォルトのテーマ	テーマは Oracle CRM On Demand の外観を決定します。デスクトップまたはラップトップコンピュータを使用して Oracle CRM On Demand にサインインするとデフォルトテーマが自動的に使用されます。新しい企業に対して Oracle CRM On Demand を最初のセットアップする際のデフォルトのテーマは Oracle です。このテーマを変更する場合は、[テーマ名] リストをクリックし、各自の企業にふさわしい

フィールド	説明
	テーマを選択します。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、この設定を上書きすることもできます。 テーマは、Oracle CRM On Demand の動作に影響を与えません。企業の管理者は、Oracle CRM On Demand にカスタムのテーマを作成できます。Oracle CRM On Demand で使用する独自のテーマを送信する場合は、企業の管理者に連絡してください。
タブレットのテーマ	この設定は、ユーザーがタブレットコンピュータまたは他のタッチスクリーンデバイスを使用して Oracle CRM On Demand にサインインするときに自動的に使用されるテーマを決定します（Oracle CRM On Demand でタブレットコンピュータまたはタッチスクリーンデバイスが検出された場合）。この設定はオプションです。

会社データ表示設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内のデータ表示設定セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
管理者の表示が有効	〔表示可能なレコード (全件)〕レコードセットを検索するように設定されたレコードのリスト（〔取引先 (全件)〕リストなど）をマネージャが表示するとき、Oracle CRM On Demand ではレコードのリストが次のように表示されます。 ■ 〔管理者の表示が有効〕オプションが選択されている場合は、マネージャの部下がアクセスできるレコードがリストに含まれます。 ■ 〔管理者の表示が有効〕オプションが選択されていない場合、関連するレコードタイプに対してマネージャの役割の〔すべてのレコードを読み取れますか?〕設定が選択されていないかぎり、マネージャの部下がアクセスできるレコードはリストに含まれません。 マネージャが高度な検索で〔表示可能なレコード (全件)〕オプションを選択すると、Oracle CRM On Demand では次のようにレコードのセットが検索されます。 ■ 〔管理者の表示が有効〕オプションが選択されている場合、Oracle CRM On Demand で検索されるレコードのセットには、マネージャの部下がアクセスできるレコードが含まれます。 ■ 〔管理者の表示が有効〕オプションが選択されていない場合、関連するレコードタイプに対してマネージャの役割の〔すべてのレコードを読み取れますか?〕設定が選択されていないかぎり、Oracle CRM On Demand で検索されるレコードのセットに、マネージャの部下がアクセスできるレコードは含まれません。 ユーザーのマネージャは、〔ユーザー詳細〕ページの〔上司〕フィールドまたは〔上司 (エイリアス)〕フィールド（どちらのフィールドがこのページに表示されるかによって決まる）で指定します。 注: 〔管理者の表示が有効〕オプションの選択を解除しても、マネージャは、部下が

フィールド	説明
	所有するレコードにアクセスできなくなることはありません。このオプションの設定に関係なく、マネージャは常に、自分の部下が所有するレコードにアクセスできます。
担当者の親チーム継承の有効化	担当者を取引先に関連付けるときに担当者チームが自動的に取引先チームのメンバーを継承するには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスは、新しい企業に対してはデフォルトで選択解除されています。 注意: このチェックボックスで設定を変更した後、チーム継承機能の新しい動作を確認するには、ユーザーは Oracle CRM On Demand からサインアウトして再度サインインする必要があります。 チーム継承の詳細は、「チームの継承によるアクセスの適用について (ページ 283)」を参照してください。
商談の親チーム継承の有効化	商談を取引先に関連付けるときに商談チームが自動的に取引先チームのメンバーを継承するには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスは、新しい企業に対してはデフォルトで選択解除されています。 注意: このチェックボックスで設定を変更した後、チーム継承機能の新しい動作を確認するには、ユーザーは Oracle CRM On Demand からサインアウトして再度サインインする必要があります。 チーム継承の詳細は、「チームの継承によるアクセスの適用について (ページ 283)」を参照してください。
デフォルトのグループ割当	グループメンバーが取引先、活動、担当者、世帯、商談、およびポートフォリオの所有権を共有できるようにするには、このオプションを選択します。詳細は、「グループの管理 (ページ 343)」を参照してください。
ブックの有効化	ブックセクタでカスタムブックを表示するかどうかを制御します。このチェックボックスが有効でない場合、ブックセクタに表示されるのは、ユーザーブックおよび被委任者（存在する場合）のブックのみです。 注意: [ブックの有効化] オプションは、ブック階層を作成するまではオンにしないでください。このオプションはオンにするとオフに戻せません。ただし、ブック階層はこのオプションをオンにした後でも変更できます。
ブックセクタの表示	ブックセクタを有効または無効にします。このセクタは、特定ユーザー、委任者、またはカスタムブックのレコードに検索を絞り込むために使用できます。

統合設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内の[統合設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
統合イベントが有効	新規の顧客の場合は、統合イベント機能が自動的に有効になります。ただし、既存の顧客の場合、Oracle CRM On Demand の統合イベント機能は、カスタマーサポート

フィールド	説明
	と企業の管理者による設定が必要です。カスタマーサポートに連絡して、統合イベント管理のサポートを依頼し、必要な統合イベントキューの最大の合計サイズを指定してください。
Web サービス R16 互換性モード	ユーザー名トークンとパスワードトークンが含まれている Web サービスリクエストを、Oracle CRM On Demand リリース 16 以下と同じステートレスリクエストまたはステートフルリクエストとして処理するかどうかを制御します。このチェックボックスは、新規のすべての企業に対してデフォルトでオフです。
ワークフローを有効化	企業がワークフローを許可するように設定されている場合は、この設定が表示されます。この設定は、導入したいワークフロー条件を作成しておけば有効にできます。

デスクトップ統合設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロファイル]ページ内の[デスクトップ統合設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
オフラインクライアント編集アクセス権	この設定によって、アップロードまたはダウンロードでのレコード編集アクセス権が確認されます（以前のリリースの Oracle CRM On Demand では、ダウンロード時にのみアクセス権が確認されていました）。アクセス権は、データをアップロード時に確認することをお勧めします。このオプションには、[アップロード時に確認]（新規顧客のデフォルト値）、[ダウンロード時に確認]、[なし]の3つがあります。顧客が使用する場合の推奨オプションは、[アップロード時に確認]です。空のピックリストのオプションが選択されると、Oracle CRM On Demand では、[ダウンロード時に確認] オプションと同じ方法でアクセス権が確認されます。

企業セキュリティ設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロファイル]ページ内の[企業セキュリティ設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
企業のアイドルタイムアウト（分）	これは、使用されていなかったためにユーザーのセッションが終了するまでに許可された時間（分）です。このフィールドの値を空にした場合、インタラクティブセッションのタイムアウト設定は、システムの [デフォルトアイドルタイムアウト] の値によって決まります。システムの [デフォルトアイドルタイムアウト] のデフォルト値は通常 60 分です。システムの現在の [デフォルトアイドルタイムアウト] 設定は、[企業プロファイル] ページに表示できます。この値は [企業プロファイ

フィールド	説明
	ル] ページを編集するときに表示されます。10 分から 90 分の値を入力することをお勧めします。 また、[企業のアイドルタイムアウト (分)] 設定により、Web サービスセッションなどの非インタラクティブセッションが使用されていなかったために終了するまでに許可された時間を次のように決定することもできます。 ■ [企業のアイドルタイムアウト (分)] フィールドが 10 分以下に設定されている場合、この設定は非インタラクティブセッションおよびインタラクティブセッションに適用されます。 ■ [企業のアイドルタイムアウト (分)] フィールドが 10 分を超える値に設定されている場合、この設定により非インタラクティブセッションのアイドルタイムアウト間隔は決定されません。この場合、非インタラクティブセッションのアイドルタイムアウト間隔はデフォルトで 10 分となります。 ■ [企業のアイドルタイムアウト (分)] フィールドが空白のままである場合、この設定により非インタラクティブセッションのアイドルタイムアウト間隔は決定されません。この場合、非インタラクティブセッションのアイドルタイムアウト間隔はデフォルトで 10 分となり、システムの[デフォルトアイドルタイムアウト] の値によりインタラクティブセッションのアイドルタイムアウト間隔が決定されます。
企業のアイドルタイムアウト警告(分)	ユーザーセッションの期限切れ前に警告メッセージがユーザーに表示されるまでの時間(分)です。この警告メッセージでユーザーが [OK] をクリックした場合、アイドルタイムアウト間隔タイマーがリセットされます。ただし、ユーザーが [OK] をクリックしない場合、ユーザーのセッションは指定されたアイドルタイムアウト間隔の後にタイムアウトとなります。 企業のアイドルタイムアウト警告(分)フィールドの値は、1 から[企業のアイドルタイムアウト (分)] フィールドで指定された値の範囲内である必要があります。値として 0 を入力した場合、警告メッセージは表示されません。 注意: 警告メッセージが表示されたときに示されるページマスクは、セキュリティメカニズムを提供しません。

フィールド	説明
認証タイプ	企業に許可されている認証タイプを表示します。この値を割り当てることができるのはカスタマーサポートだけです。企業の管理者は、この値を変更できません。割り当てることができる値は次のとおりです。 ■ ユーザーID/パスワードのみ - すべてのユーザーが各自の Oracle CRM On Demand のユーザーID およびパスワードを使用してサインインする必要があります。 ■ シングルサインオンのみ - すべてのユーザーがシングルサインオンメカニズムを使用してサインインする必要があります。Oracle CRM On Demand のユーザーID およびパスワードは受理されません。 ■ ユーザーID/パスワードまたはシングルサインオン - Oracle CRM On Demand のユーザーID およびパスワードとシングルサインオンのどちらを使用しても Oracle CRM On Demand にサインインできます。 注意: [ユーザー ID/PWD またはシングルサインオン] という値が選択されている場合は、Oracle CRM On Demand のパスワードに対する企業のポリシーが引き続き適用されます。そのため、Oracle CRM On Demand のユーザーのパスワードが期限切れになると、ユーザーがシングルサインオンを使用してサインインする場合でも、ユーザーのパスワード変更を求めるプロンプトが Oracle CRM On Demand に表示されます。パスワードの最小長、パスワードに必要な複雑さなど、Oracle CRM On Demand のパスワードに対する他のすべてのポリシーも適用されます。Oracle CRM On Demand では、シングルサインオンに使用されるパスワードは管理されません。 認証タイプは、企業の管理者が [ユーザープロフィール] ページで各ユーザーに対して設定できます。ユーザーの値が空白の場合は、そのユーザーに対して全社レベルの設定が使用されます。
シングルサインオンの外部 ID	企業にシングルサインオンが設定されたときにカスタマーサポートが割り当てる固有の企業識別子。企業の管理者はこの値を変更できませんが、外部 ID は [ユーザープロフィール] ページでユーザーごとに設定できます。
ユーザーID/パスワード認証用のサインインページ	企業固有のカスタムサインインページへの URL。デフォルトの Oracle CRM On Demand サインインページが置き換わります。通常、ページは企業の Web サーバーでホストされます。URL は完全修飾である必要があります (URL は http://または https://で開始する必要があります)。 このページは、ユーザーがサインアウトした後か、ユーザーのセッションが (使用されていなかったため) 終了した後で表示されます。企業は、最初のサインインには Oracle CRM On Demand のデフォルトページではなく、このページを使用するようユーザーに指示する必要があります。
SSO 認証用のサインインページ	企業固有のカスタムサインインページへの URL。このページは、ユーザーがシングルサインオンを使用して Oracle CRM On Demand にサインインした場合に、ユーザーがサインアウトした後か、ユーザーのセッションが (使用されていなかったため) 終了した後で表示されます。通常、このページは企業の Web サーバー (企業のシングルサインオンポータルなど) でホストされます。URL は完全修飾である必要があります (http://または https://で開始する必要があります)。

フィールド	説明
	企業は、最初のサインインには Oracle CRM On Demand のデフォルトページではなく、各自の SSO サインインページを使用するようユーザーに指示する必要があります。SSO を使用してサインインしたユーザーがサインアウトしたとき、この設定が空白になっていると、「サインアウトされました」というメッセージが一般ページに表示されます。
SSO 認証用の ITS URL	Oracle CRM On Demand へのサインインに使用される SAML Intersite Transfer Service の URL。企業の管理者は、この値を設定できます。ITS の URL の設定指示が含まれている SSO ワークフローを入手するには、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。
IP アドレス制限の有効化	「 IP アドレスの使用制限 (参照 " IP アドレスの使用制限 " ページ 51)」を参照してください。
サイト間リクエストの偽造保護機能の有効化	サイト間リクエストの偽造攻撃を防止する機能を有効にします。このチェックボックスをオンにすると、Oracle CRM On Demand と対話するカスタムコードを作成するユーザーは、コードの隠しパラメーターとしてセキュリティトークンを含めることを求められる場合があります。サイト間リクエストの偽造保護の詳細については、「サイト間リクエストの偽造保護について (ページ 49)」を参照してください。 企業が Oracle CRM On Demand を使用するように設定されている場合、このチェックボックスはデフォルトでオンになり、設定を変更することはできません。
IFRAME 埋め込みの有効化	セキュリティ上の理由から、このチェックボックスはデフォルトでオフにされており、必要な場合のみオンにする必要があります。このチェックボックスをオンにすると、ユーザーが Oracle CRM On Demand ページを別のサイトの Web ページの iFRAME に埋め込むことが許可されます。Oracle CRM On Demand を別サイトの Web ページの iFRAME に埋め込もうとしたときにこのチェックボックスがオフになっていると、Oracle CRM On Demand ページが展開されて親ページになります。Oracle CRM On Demand レポートウィジェットを使用する場合は、この設定を選択する必要があります。この設定は、デスクトップアプリケーションに埋め込む他の Oracle CRM On Demand ウィジェットには影響しません。
クロスサイトスクリプティング (XSS) が含まれている可能性のあるページの処理方法	折り返し型 XSS 攻撃を防止するために一部の Web ブラウザに搭載されているクロスサイトスクリプティング (XSS) 保護機能の動作を制御します。この設定を使用して、XSS が含まれているページを Web ブラウザでどのように処理するかを決定します。割り当てることができる値は次のとおりです。 ■ ブロック。 Web ブラウザによって XSS が検出された場合、その Web ページは表示されません。これがデフォルトであり、推奨値でもあります。 ■ 訂正。 Web ブラウザによって XSS が検出された場合、Oracle CRM On Demand は返される Web ページに極力軽微な修正を加えることで攻撃を阻止します。 ■ 干渉しない。 この設定では XSS 保護が提供されません。Web ブラウザは XSS の検出を試行しないか、Web ページで XSS を検出しても無視します。この設定は使用しないことをお勧めします。 ■ ブラウザのデフォルト。 この設定では、Web ブラウザのデフォルトの XSS 保護レベル (構成可能な場合があります) が使用されるため、ベンダーによって XSS 保護のレベルが異なります。

フィールド	説明
URL テキスト値からリンクへの変換	このチェックボックスを選択することで、フィールドタイプが[テキスト (短い)]または[テキスト (長い)]の「http://」または「https://」で始まる住所フィールドおよびテキストフィールド値が、自動的に Web リンクに変換されます。 また、添付ファイル詳細ページ上の「http://」または「https://」で始まる URL フィールド値も、自動的に Web リンクに変換されます。 セキュリティ上の理由から、このチェックボックスはデフォルトでオフにされており、必要な場合のみオンにする必要があります。

分析表示設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内の[分析表示設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
レポートサブジェクトエリア	このピックリストを使用して、ユーザーに対する Oracle CRM On Demand Answers のリアルタイムレポートレコードの表示を設定します。これらのレポートにより、データのリアルタイム分析が可能です。次のいずれかの値を選択できます。 マネージャ表示 - 自分が所有するデータのほかに、部下が直接所有するデータを表示できます（これはデフォルト設定です。） チーム表示 - 自分が所有するデータのほかに、取引先および商談チームと共有するデータを表示できます。 この企業全体の設定は、ユーザーが[個人詳細] ページの[レポートサブジェクトエリア] 設定に値を設定していないかぎり、適用されます。レポートの詳細は、「レポート」の、特に「レポートのレコードの表示について」セクションを参照してください。
履歴サブジェクトエリア	このピックリストを使用して、Oracle CRM On Demand Answers の分析レポートレコードを表示するユーザーに対する表示設定を設定します。これらのレポートは時系列分析またはトレンド分析で使用されるか、または、リアルタイムレポートよりも複雑な計算式が含まれています。次のいずれかの値を選択できます。 マネージャ表示 - 自分が所有するデータのほかに、部下が直接所有するデータを表示できます（これはデフォルト設定です。） チーム表示 - 自分が所有するデータのほかに、取引先および商談チームと共有するデータを表示できます。 フル表示 - この設定はマネージャ表示とチーム表示の表示を組み合わせたものです。 この企業全体の設定は、ユーザーが[個人詳細] の[履歴サブジェクトエリア] 設定に値を設定していないかぎり、適用されます。レポートの詳細は、「レポート」の、特に「レポートのレコードの表示について」セクションを参照してください。
役割ベースですべてのレコードを読	Oracle CRM On Demand Answers のレポートで、役割管理ウィザード内の[レコ

フィールド	説明
み取れます	ードタイプアクセス] ページの定義に従って、[すべてのレコードを読み取り可能] 設定がオブジェクトベースで 사용되는ようにする場合は、このピックリストを使用します。たとえば、管理者が、ユーザー役割に対して、特定のオブジェクトについて [すべてのレコードを読み取り可能] 表示設定を選択している場合（[管理]、[ユーザー管理とアクセス制御]、[役割管理] の順にクリックし、役割を編集して [レコードタイプアクセス] をクリック）、ユーザーは、[役割ベースですべてのレコードを読み取れます] 設定が企業プロファイルまたはユーザープロファイルのいずれかで有効になっている場合にかぎり、Oracle CRM On Demand Answers のそのオブジェクトの全レコードを表示できます。 [役割ベースですべてのレコードを読み取れます] を有効にする場合および有効にする方法については、「[役割ベースですべてのレコードを読み取れます] 設定について」を参照してください。 [役割ベースですべてのレコードを読み取れます] を選択しない場合、Oracle CRM On Demand Answers レポートでは、[レポートサブジェクトエリア] および [履歴サブジェクトエリア] フィールドで設定された表示が使用されます。

通信設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロファイル]ページ内の[通信設定]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
自動まとめ	この設定を選択すると、エージェントがコールまたは電子メール通信を終了したとき、またはエージェントがボイスメールを再割り当てしたときに、Oracle CRM On Demand によってコミュニケーション活動がまとめられます。エージェントには [まとめ] フォームが表示されません。活動状態は [完了] に自動的に設定され、解決策コードは [自動まとめ] に設定されます。 注: エージェントがコミュニケーション活動詳細ページにある [まとめ] ボタンを手動でクリックした場合、この設定は適用されません。たとえば、エージェントは、ボイスメールをリスニングした後、ボイスメール活動詳細ページの [まとめ] ボタンをクリックし、[まとめ] フォームを表示して、活動をまとめることができます。

フィールド	説明
ユーザープロフィール更新時に電子メールを送信	この設定は、[電子メール]、[ユーザー ID] または [シングルサインオンの外部 ID] フィールドの更新後に警告電子メールを受信する Oracle CRM On Demand ユーザーを決定します。次の値を使用できます。 ■ ユーザー (全件)。電子メールはすべての Oracle CRM On Demand ユーザーに送信されます。この設定がデフォルトであり、推奨設定です。 ■ 有効なユーザー (全件)。電子メールはすべての有効な Oracle CRM On Demand ユーザーにのみ送信されます。 ■ ユーザー指定なし。電子メールはいずれの Oracle CRM On Demand ユーザーにも送信されません。この設定は、本番以外の環境でのみお勧めします。

追加会社プロフィール設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内の[追加情報]セクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
登録ユーザー数、有効なユーザー、無効なユーザー	これらの数値は読み取り専用で、登録ユーザー数を、ユーザーの現在の状態とともに表示します。

ジオコーダー設定の設定

次の表では、Oracle CRM On Demand での[企業プロフィール]ページ内のジオコーダーセクションの設定方法について説明します。

注: 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

フィールド	説明
ジオコーダーの有効化	この設定により、Oracle CRM On Demand で住所レコード内の情報を使用し、Oracle Spatial を使用してその住所に対応する緯度および経度の値を検索できるようになります。Oracle CRM On Demand で緯度および経度の検索に成功すると、これらの値が住所レコード内の緯度フィールドと経度フィールドに入力されます。この設定は、デフォルトでは選択解除されています。 注: このフィールドは読み取り専用です。この設定を変更する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。 ジオコーディングの詳細は、「住所情報のジオコーディングについて」を参照してください。

ライセンスの状況と有効なユーザーの確認

ライセンスの状況を確認し、有効なユーザーの数と比較できます。有効なユーザーごとにライセンスが必要です（有効なユーザーとは、アプリケーションにアクセスできるユーザーのことです）。

ライセンスの数によって、アプリケーションが企業用に保存できるデータの量も決まります。

作業前の準備： 次の手順を実行するには、[企業の管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ライセンスの状況と有効なユーザーおよび無効なユーザーを確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール] セクションで、[企業プロフィール] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロフィール] ページの [追加情報] セクションで、登録ユーザー数、有効なユーザー数、および無効なユーザー数を確認します。
 - アプリケーションへのアクセスが不要になった有効なユーザーがいる場合は、そのユーザーを無効にすることによってライセンスを解放できます。ライセンスの無効化の詳細は、「[ユーザーの無効化](#) (ページ 259)」を参照してください。
 - ライセンスを追加購入する場合は、Oracle CRM On Demand セールス要員にお問い合わせください。

サインインおよびパスワードポリシーについて

Oracle CRM On Demand は、最高レベルのセキュリティを企業に提供します。授権者のみがデータにアクセスできるようにするセキュリティ制約が組み込まれています。

また、特定のサインイン、パスワードおよび認証ポリシーを強制して、企業内のセキュリティのレベルを高めることができます。たとえば、サインインのタイムアウトを 15 分に設定して、企業のセキュリティポリシーへの準拠を強化できます。また、パスワードを忘れたユーザーは、一連の確認の質問に答えるだけで新しいパスワードを受け取ることができます。追加のセキュリティ対策として、アクティブセッションの継続可能時間数を指定できます。たとえば、ユーザーのアクティブログインセッションの継続可能時間を 1 時間に設定できます。アクティブセッション制限に達したときに、ユーザーが Oracle CRM On Demand 内でアクションを実行しようとすると、セッションを続行する前にログイン認証情報の入力を求められます。

セキュリティに関する考慮事項

サインインおよびパスワードの管理を設定する前に、セキュリティ要件を慎重に検討する必要があります。以下に回答すべき質問をいくつか示します。

- どのタイプのユーザー ID を使用しますか。
- システムが生成するユーザーの一時パスワードの有効期間をどのぐらいにしますか。
- ユーザーがアプリケーションからロックアウトされるまでに行えるサインインの最大試行回数をどうしますか。
- サインインのロックアウト期間をどのぐらいにしますか。どのぐらいの間隔でユーザーにパスワードを変更させますか。
- 新しいパスワードを古いパスワードと異なるものにする必要がありますか。

- パスワードの最小長をどのぐらいにしますか。
- ユーザーがパスワードを忘れた場合に、パスワードのリセットを有効にするためにユーザーが正しく回答する必要のあるセキュリティに関する質問の数はいくつにしますか。
- アプリケーションがユーザーのパスワードを自動的にリセットする前に、正しく回答しなければならないセキュリティに関する質問をいくつにしますか。
- ユーザーが自分のユーザーID や電子メールアドレスを変更することを許可しますか。
- ユーザーのアクティブセッションの継続可能時間をどれくらいにしますか。

サインインおよびパスワードポリシーの定義を完了したら、そのポリシーをアプリケーションの「企業管理」ページで実装できます。

パスワード設定の変更

パスワード設定を変更した場合、現在のパスワードの有効期限が切れるまで変更は有効になりません。たとえば、パスワードの最小長を 7 文字から 10 文字に変更したとします。そのとき、すでに 7 文字のパスワードを持っているユーザーがいると、そのユーザーはその 7 文字のパスワードを有効期限が切れるまで使用できます。しかし、有効期限が切れたら、ユーザーは少なくとも 10 文字の新しいパスワードを作成しなければなりません。

最良の手順は、新しいユーザーをシステムに追加する前に、内部ポリシーを設定し、その設定を選択することです。ただし、セキュリティポリシーをただちに変更しなければならない場合は、すべてのユーザーパスワードをリセットできる機能があります。この操作を行うと、社内のすべてのユーザーに宛てた電子メールが生成され、各ユーザーに新しい一時パスワードが与えられます。これを行うには「パスワードをリセット」権限が必要です。

ユーザーがパスワードを忘れた場合の処理

自分の役割に「個人のパスワードをリセット」権限が含まれているユーザーは、パスワードを忘れた場合、パスワードをリセットするためのリクエストを提出できます。その場合、Oracle CRM On Demand サインインページの「アカウントにアクセスできませんか?」リンクを使用できます。パスワードをリセットするためにユーザーが指定する必要のある最小数のセキュリティに関する質問と回答を定義する必要があります。この機能が設定されると、ユーザーは自分の Oracle CRM On Demand パスワードをリセットできるため、管理者の介入がなくなります。

企業のパスワード管理の定義

Oracle CRM On Demand に対するパスワードポリシーを定義できます。たとえば、パスワードの長さや失効頻度などに関する企業のプロトコルに従うように、パスワードポリシーを設定できます。

企業パスワード管理を定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「企業管理」セクションで、「企業管理」リンクをクリックします。
- 3 「企業プロフィール」セクションで、「サインインおよびパスワード管理」リンクをクリックします。
- 4 「企業サインインおよびパスワード管理」ページで、必要な情報を入力します。入力が完了したら設定を保存します。

次の表では、設定について説明します。

注:パスワードをリセットするユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。Oracle CRM On Demand のサインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクからパスワードをリセットする場合は、システムにセキュリティに関する質問と回答も設定されている必要があります。

設定項目	有効な値	使用法
サインインポリシー情報		
会社のサインイン ID	テキストボックス	各企業に固有の識別子です。新規ユーザーを作成する際は、この識別子がそのユーザーのユーザーサインイン ID（企業サインイン ID）の最初の部分となります。新しいユーザーが作成され、デフォルトユーザー ID タイプが企業サインイン ID であると、ユーザー ID の企業ドメイン部分にこの値が事前入力されます。この設定は、[企業プロフィール] ページからアクセスすることもできます。
現在のパスワードの最大試行数	1 から 3 までの数値	ユーザーが現在のパスワードの入力を試行できる回数。試行回数に達した後、ログイン画面に現在のパスワードを入力すると、ユーザーは Oracle CRM On Demand からロックアウトされます。許可される試行間隔は、[サインインロックアウト期間] フィールドの値によって決まります。ただし、Oracle CRM On Demand 内から現在のパスワードを入力しているか、またはパスワードを更新して、現在のパスワードの最大試行回数に到達した場合は、ユーザーのセッションが終了します。ユーザーは Oracle CRM On Demand からロックアウトせず、引き続きログイン画面で現在のパスワードを最大試行回数まで使用でき、その後、[サインインロックアウト期間] フィールドに設定されている値が Oracle CRM On Demand によって適用されます。 既存および新規の顧客のデフォルト値は 3 です。
サインインロックアウト期間	15、30、60 分、または無期限	ユーザーのアカウントがロックされる時間の長さ。

最大セッション期間 (時間)	0 から 9999 時間	ユーザーがログイン認証情報を再入力することを求められるまでにユーザーの有効なセッションが持続できる時間の長さ。このフィールドは、ゼロ (0) から 9999 までの正の整数を受け入れます。 この設定のデフォルト値を表示するには、[企業管理] の [サインインおよびパスワードポリシー] ページに移動します。 Oracle CRM On Demand の使用中に、有効なセッションがその最大期間に到達すると、ログイン認証情報を再入力する必要があります。 Web サービスの使用中に有効なセッションがタイムアウトした場合、Web サービスの使用を続行するには Web サービスクライアントは再認証する必要があります。
パスワード管理情報		
ユーザーのパスワードの有効期限 (日数)	この値は空白することも、1 から 365 の数値にすることもできます	1 から 365 の値を入力すると、ユーザーパスワードが有効な日数を指定できます。この期間を過ぎると、ユーザーはパスワードを変更する必要があります。このフィールドを空白のままにすると、ユーザーのパスワードは失効しません。
パスワード有効期限警告までの日数	この値は、空白にすることも、0 から [ユーザーのパスワードの有効期限 (日数)] フィールドに指定した数値の間の数値にすることもできます。	この設定では、ユーザーパスワードの失効の何日前に Oracle CRM On Demand が通知電子メールをユーザーに送信するかを指定します。ゼロ (0) の値を入力すると、パスワードが失効する日に通知電子メールがユーザーに送信されます。ただし、2 以上の値を入力することをお勧めします。このようにすれば、ユーザーが通知電子メールを受信してからパスワードを更新するまでの適切な時間を確保できます。このフィールドに値を入力しないと、通知電子メールはユーザーに送信されません。 注: [ユーザーのパスワードの有効期限 (日数)] フィールドが空白の

		場合、[パスワード有効期限警告までの日数]フィールドは読み取り専用になります。
最短パスワード長	6 から 10 までの数値	パスワードに使用できる文字の最小数。
パスワード変更の最大回数	1 から 20 までの数値	[パスワード変更制限ウィンドウ] での指定に従ってユーザーのパスワードを変更できる最大回数。ユーザーがパスワードの変更を試みた回数が指定された回数を超えると、変更は許可されません。 注: ユーザーがシングルサインオン ID を使用して認証される場合、このパスワードポリシーは Oracle CRM On Demand に実装されません。
パスワード変更制限ウィンドウ	日数 (1 から 7 まで)	[パスワード変更の最大回数] の設定が適用される期間。
パスワードの複雑さレベル	3 または 4	次の 4 つのカテゴリからユーザーパスワードで満たす必要がある文字種類の数。 ■ 大文字 (A...Z) ■ 小文字 (a...z) ■ 数字 (0、1、2...9) ■ 英数字以外の文字 (!,\$,#,%)
ログイン時のパスワードポリシーの強制	チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインしたときに、パスワードポリシーチェックが有効になります。このポリシーチェックでは、ユーザーのパスワードが Oracle CRM On Demand の [最短パスワード長] および [パスワードの複雑さレベル] 設定に準拠していることが確認されます。

ユーザーの再使用を防止する最終パスワード数	0 から 10 までの数値	ユーザーが Oracle CRM On Demand で以前使用していて再使用できないパスワードの数。 新規企業のデフォルト値は 3 です。次の条件を満たしている場合、既存の企業のデフォルト値は 1 または 0（ゼロ）です。 ■ 新しいパスワードは古いパスワードと異なる必要がある設定をオンにしていること。 ■ [ユーザーの再使用を防止する最終パスワード数] 設定をオフにしていること。
認証情報		
セキュリティに関する質問の作成数	0 から 8 までの数値	この設定によって、ユーザーが設定する必要のあるセキュリティに関する質問と回答の数が決まります。ユーザーの質問と回答は将来使用するために保存されます。 注:セキュリティに関する質問は、ユーザーが Oracle CRM On Demand に初めてサインインするときに設定します。セキュリティに関する質問はいつでも変更できます。詳細については、「セキュリティに関する質問の設定」を参照してください。 Oracle CRM On Demand のサインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクからパスワードをリセットする場合は、ユーザーが設定した特定の数のセキュリティに関する質問に回答する必要があります。 注: この値がゼロ（0）に設定されているときにユーザーが自分のパスワードを忘れた場合、ユーザーは管理者にパスワードのリセットを依頼する必要があります。 パスワードのリセット時に回答が必要な質問よりも多い質問数をユーザーが設定するように指定できます。パスワードのリセット時にユーザーを認証するために、ユーザーが設定した質問の中からランダムに選択した質問が表示されま

		す。
セキュリティに関する質問の回答数	0 から 8 までの数値	この設定によって、Oracle CRM On Demand のサインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクからパスワードをリセットする際に、ユーザーが回答する必要があるセキュリティに関する質問の数が決まります。パスワードをリセットするリクエストを送信したユーザーは、臨時ページへのリンクを示す電子メールをすぐに受け取ります。 臨時ページで、ユーザーはパスワードをリセットする前にこの設定で指定した数のセキュリティに関する質問に回答する必要があります。 このフィールドの値は、[セキュリティに関する質問の作成数] フィールドの値以下である必要があります。これは、ユーザーには、そのユーザーが設定した質問よりも多くの回答を要求できないためです。
一時サインインの有効日数	日数 (1 から 14 まで)	この設定は、一時サインインパスワードが有効である日数を指定します。通常は、新規ユーザーが追加されるか、企業の管理者またはカスタマーサポートがユーザーのパスワードをリセットすると、一時サインイン情報を含む電子メールが送信されます。
一時パスワードサインインの試行回数	試行回数 (1 から 14 まで)	一時サインインパスワードを使用したときに許容される、サインインの総試行回数。この値を超えると、ユーザーの一時サインイン情報が無効になり、ユーザーは再度パスワードのリセットが必要になります。
追加情報		
ユーザーID の変更をユーザーに許可する	チェックボックス	このチェックボックスがオンにされると、自分のユーザープロファイルを編集するユーザーは自分のユーザーID を変更できます。この機能が有効になっていない場合、企業の管理者だけがユーザーID

		を変更できます。
電子メールアドレスの変更をユーザーに許可する	チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、自分のユーザープロファイルを編集するユーザーは、自分の電子メールアドレスを変更できます。この機能が有効になっていない場合は、企業の管理者のみが電子メールアドレスを変更できます。
コンカレントセッションオプション	[通知して許可]、[通知しないで許可] および [既存を阻止および終了]	この設定により、ログイン認証情報を使用中に Oracle CRM On Demand がコンカレントセッションを処理する方法を管理できます。 [通知ありで許可] オプションは、コンカレントセッションの使用を許可します。ただし、Oracle CRM On Demand は、同じ取引先詳細を使用して別のセッションが進行中であることをユーザーに通知します。Oracle CRM On Demand は、他のセッションのユーザーにも通知します。 [通知しないで許可] オプションは、コンカレントセッションの使用を許可します。ただし、Oracle CRM On Demand は他のセッションが進行中であることをいずれのユーザーにも通知しません。 [既存を阻止および終了] オプションは、既存の最初のセッションをクローズし、2 番目の新規セッションを進行中の状態にします。このアクションは両方のセッションのユーザーに通知されます。

サイト間リクエストの偽造保護について

サイト間リクエストの偽造攻撃を防止するために、Oracle CRM On Demand のデータを更新、作成、または削除しようとする HTTP POST リクエスト (AJAX (Asynchronous Java Script and XML) リクエストを含む) を含むカスタムコードを作成するユーザーは、コード内に隠しパラメータとしてセキュリティトークンを含める必要があります。カスタムコードにセキュリティトークンが含まれない場合、またはセキュリティトークンが不正に使用されると、リクエストは失敗します。リクエストが失敗すると、キーが無効または期間切れで、ユーザーがページを更新する必要があるためにリクエストの処理を完了できないことを知らせるエラーメッセージが表示されます。

次の表に、ユーザーがコードに含める必要があるセキュリティトークンを示します。

パラメータコンポーネント	トークンコード
名前	%%%ODReqName%%%
値	%%%ODReqValue%%%

注：トークンコードには大文字と小文字の区別があり、表に記載されているとおりに正確に記述する必要があります。トークンコードにエラーがあると、リクエストは失敗します。

サイト間リクエストの偽造保護機能は、企業プロファイルの [Cross-Site Request Forgery Protection Enabled (サイト間リクエストの偽造保護の有効化)] チェックボックスによって制御します。この機能は、企業が Oracle CRM On Demand を使用するよう設定されるときにデフォルトで有効になり、無効にすることはできません。

すべてのパスワードのリセット

管理者を含むすべてのユーザーのパスワードを一度にリセットできます。

使用例 1。アプリケーションをセットアップするときは、ユーザーを作成して状態をアクティブに設定します。ただし、ユーザーに電子メールでパスワードを送信しないでください。セットアップが完了し、アプリケーションが使用可能になったら、すべてのパスワードをリセットします。このアクションによって、すべてのアクティブユーザーに一括で電子メールが送信され、ユーザーは通知された一時パスワードを使用してアプリケーションにアクセスできるようになります。

使用例 2。パスワード制御ポリシーを変更し、すべてのユーザーが新しいポリシーに従うことを求める場合。ユーザーが次回サインインしたときにパスワードの変更を求めるために、すべてのパスワードをリセットします。

作業前の準備。次の手順を実行するには、[会社の管理 - すべてのパスワードのリセット] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、各ユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。

すべてのパスワードをリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロファイル] セクションで、[企業プロファイル] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロファイル] タイトルバーで、[すべてのパスワードをリセット] ボタンをクリックします。

電子メールはすべてのユーザーに送信され、新しい一時パスワードが通知されます。現在サインインしているユーザーは引き続き作業を続けることができますが、次回サインインするときは、新しい一時パスワードを入力する必要があります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーのパスワードのリセット](#) (ページ 252)
- [ユーザーの設定](#) (ページ 236)

■ 企業のパスワード管理の定義 (ページ 43)

言語の有効化

Oracle CRM On Demand では多くの言語を使用できます。フィールドやピックリスト値など、製品に用意されたデフォルトのテキストフィールドは、すべてオンラインヘルプや「使い方」とともに使用可能な言語で表示されます。

ただし、フィールドまたはピックリスト値をカスタマイズする場合に、その翻訳を表示するには、該当するフィールドやピックリスト値を他の言語で手動で入力する必要があります。手動で入力しないと、選択した言語にかかわらず、それらのフィールドや値は括弧で囲まれた青いテキストとして元の言語で表示されます。

最初は、企業が Oracle CRM On Demand にサインアップしたときに企業のデフォルト言語として選択された言語のみが有効です。

ユーザーが言語を選択できるようにするには、その言語を有効にする必要があります。

作業前の準備：この手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

言語を有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロファイル] セクションで、[言語] リンクをクリックします。
- 4 [有効] カラムで、従業員に使用させる言語を選択します。

注：日付、時刻、および通貨の表示形式は、[言語] の設定ではなく、別の設定で指定されます。

- 5 レコードを保存します。

IP アドレスの使用制限

この機能により、企業ではシステムへのアクセスを特定の IP アドレスの範囲に制限できます。この機能を使用すると、ネットワーク上の特定の場所（オフィスなど）にいるユーザーのみがシステムにアクセスできるように設定できます。この機能が有効な場合、ユーザーがサインインできるのは、指定した範囲内の IP アドレスが割り当てられたマシンのアプリケーションのみです。

注：役割レベルで制限を指定できるため、特定の役割のユーザーを特定範囲の IP アドレスに制限することもできます。詳細は、「[役割の IP アドレス制限について \(ページ 271\)](#)」を参照してください。

作業前の準備。カスタマーサポートに連絡し、企業の IP フィルタリングを有効化できるようにします。その後、次の手順を実行するには、企業プロファイルの管理権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

IP アドレスの使用を制限するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [セキュリティ設定] リンクをクリックします。
- 4 [セキュリティ設定] ページで、サインインに対して許容される IP アドレスを入力します。
ヒント: IP アドレスの正しい入力方法については、画面上に表示される情報を参照してください。
- 5 レコードを保存します。

会計カレンダーの管理

会計カレンダーの管理には、企業の会計年度の開始および対応する終了の定義が含まれます。

- [会計カレンダーについて](#) (ページ 52)
- [カスタム会計カレンダーの定義](#) (ページ 53)
- [企業の期間リストの管理](#) (ページ 55)

会計カレンダーについて

Oracle CRM On Demand には 2 種類の会計カレンダーがあります。

- **標準会計カレンダー。** 会計年度がカレンダー四半期、5-4-4、4-4-5 などの一般的なカレンダーに従っている場合は、企業プロファイルにこのカレンダータイプを使用できます。
- **カスタム会計カレンダー。** 企業が 4-5-4 のように異なるカレンダーに従う場合は、Oracle CRM On Demand でカスタム会計カレンダーを定義できます。

標準会計カレンダーまたはカスタム会計カレンダーのどちらを使用する場合も、会計年度を定義するのは企業ごとに 1 度です。どちらの会計カレンダータイプを選択しても、定義した会計期間を Oracle CRM On Demand で自動的に使用できます。

標準会計カレンダー

標準会計カレンダーの期間はグレゴリオ暦などの一般的なカレンダーの定義に従い、年度の開始月日を任意に指定できます。Oracle CRM On Demand で標準会計カレンダーを使用する場合、次のカレンダータイプのいずれかを選択します。

- カレンダー四半期
- 4-4-5 カレンダーモデル
- 5-4-4 カレンダーモデル

標準会計カレンダーを使用する場合、Oracle CRM On Demand では自動的に 2040 年までの会計期間が生成されます。標準会計カレンダーの設定を表示することはできますが、変更はできません。カレンダーの定義を変更する場合は、カスタマーサポートまでお問い合わせください。カスタマーサポートが企業の設定時に会計カレンダーにデータを設定し、カレンダータイプを指定します。

注: 会計年度定義の変更は Oracle CRM On Demand に反映されません。完全な ETL（抽出、変換、ロード）を実行する前にご報告ください。

標準会計カレンダーの定義を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業プロフィール] リンクをクリックします。
- 3 [企業設定] セクションで、次のフィールドを確認します。
 - 会計年度開始月
 - 会計年度開始日
 - 会計カレンダータイプ

注: 標準会計カレンダーの定義を変更すると、Oracle CRM On Demand はレポートのすべてのデータを更新します。ただし、Oracle CRM On Demand で更新されるのは売上予想の将来データのみです。

カスタム会計カレンダー

Oracle CRM On Demand のカスタム会計カレンダーは、標準会計カレンダーまたは一般的な会計カレンダーを採用しない企業に対応します。カスタム会計カレンダーは企業の管理者が定義します。管理者は、Oracle CRM On Demand でビジネス計画、目標、売上予想、時間ベースの分析を作成する各年のカスタム会計カレンダーレコードを作成する必要があります。カスタム会計カレンダーの定義の詳細は、「[カスタム会計カレンダーの定義](#) (ページ 53)」を参照してください。

カスタム会計カレンダーの定義

企業管理者は、企業の会計年度に従って Oracle CRM On Demand の会計カレンダーを定義します。カスタム会計カレンダーはすべてのレポート、ビジネス計画、目標、およびユーザー目標に反映されます。

注: カスタム会計カレンダーの定義を設定するには、[企業の管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業のカスタム会計カレンダーを設定するには、次のことを行う必要があります。

- 1 カスタマーサポートに連絡し、企業のカスタム会計カレンダーの使用を有効にします。
- 2 企業の会計カレンダーを定義します。
- 3 カスタム会計カレンダーが社内でも有効になっていることを確認します。

注意: 一度カスタム会計カレンダーオプションを有効にすると、無効にすることはできません。Oracle CRM On Demand の会計カレンダーの機能を十分に理解してからカスタム会計カレンダーを有効にすることをお勧めします。

カスタム会計カレンダーと売上予想

カスタム会計カレンダーを使用している場合は、売上予想の生成に企業のカスタム会計カレンダー定義が使用されます。企業の管理者は、売上予想を有効にする前に、カスタム会計カレンダーレコードを定義する必要があります。売上予想は期間内の複数の四半期にまたがる場合があるため、売上予想には複数の会計年度のデータが含まれる場合があります。したがって、売上予想マスターの生成に十分なデータを使用できるようにするには、企業で売上予想を生成する各年に対してカスタム会計カレンダーを作成する必要があります。また、新しいカスタム会計カレンダー定義を売上予想で使用するようにするには、企業の管理者が売上予想定義を更新する必要があります。次の売上予想日より前に売上予想定義が更新されていない場合、売上予想は生成されません。売上予想定義の更新の詳細は、「[売上予想定義の更新](#) (ページ 465)」を参照してください。

新規のカスタム会計カレンダーを定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [会計カレンダー管理] セクションで、[会計カレンダー定義] リンクをクリックします。
- 4 [会計カレンダーリスト] ページで、[新規会計カレンダー] をクリックします。
- 5 メニューから、使用する会計年度を選択します。
会計カレンダーの名前（例：「2009 会計年度」）が自動的に [名前] フィールドに設定されます。この値は読み取り専用です。
- 6 次の情報を入力します。
 - a **説明。** カスタム会計定義に関する追加情報を追加します。このフィールドには 250 文字まで入力できます。
 - b **会計四半期 1。** カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。
 - c **会計四半期 2。** カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。
 - d **会計四半期 3。** カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。
 - e **会計四半期 4。** カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。
 - f **追加情報。** カレンダーアイコンをクリックして、次の会計年度の開始を指定します。
注: 会計年度の長さは 99 週を超えることはできません。[次の会計年度開始] に前の会計年度の開始日から数えて 99 週を超える値を入力すると、正しい値の入力を要求するエラーメッセージが表示されます。
- 7 [保存] をクリックします。

注: 会計カレンダーは順番に作成する必要があります。たとえば、2010 会計年度は 2011 会計年度より前に作成する必要があります。

新しいカスタム会計カレンダーの定義が分析に反映されるのは、夜間 ETL（抽出、変換、ロード）が実行された後です。

会計カレンダーの詳細を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「企業管理」セクションで、「企業管理」リンクをクリックします。
- 3 「会計カレンダー管理」セクションで、「会計カレンダー定義」リンクをクリックします。
- 4 「会計カレンダーリスト」ページで、会計期間を表示する会計年度の名前をクリックします。
「会計カレンダー詳細」ページに、選択した年度の個々の会計月と次の会計年度の開始日が表示されます。

注:標準会計カレンダーからカスタム会計カレンダーに移行する場合、前の会計年度のレコードが「会計カレンダーリスト」ページに読み取り専用で表示され、Oracle CRM On Demand で生成される将来のすべての会計年度レコードは削除されます。標準会計カレンダーの詳細は、「[会計カレンダーについて \(ページ 52\)](#)」を参照してください。

会計カレンダーを編集するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「企業管理」セクションで、「企業管理」リンクをクリックします。
- 3 「会計カレンダー管理」セクションで、「会計カレンダー定義」リンクをクリックします。
- 4 「会計カレンダーリスト」ページで、更新する会計年度を探し、「編集」をクリックします。
- 5 会計カレンダーの新しい詳細を入力し、「保存」をクリックします。

カスタム会計カレンダー定義の変更が分析に反映されるのは、夜間 ETL（抽出、変換、ロード）が実行された後です。

注: カスタム会計カレンダーを定義した場合は、既存のカレンダー定義を編集することで、カレンダー定義を変更できます。現在の会計年度より前の会計カレンダーは読み取り専用です。カスタム会計カレンダーは削除できません。

企業の期間リストの管理

企業の会計カレンダー期間のリストを管理して、ビジネス計画や目標レコードなど、「期間」ルックアップウィンドウで選択できる期間数を制限できます。これは、たとえば、企業でセールス要員には四半期のビジネス計画の作成を要求する場合がある一方で、人事要員は年間のビジネス計画のみを作成する必要があるために役立ちます。

企業の期間リストを管理するために、次の操作を実行できます。

- 期間リストの作成と編集
- 期間リストごとに、「期間」ルックアップウィンドウで使用する検索フィールドを定義します。
- ユーザー役割ごとに、「期間」ルックアップウィンドウで使えるリストを定義します。

注意: ユーザーが「期間」ルックアップウィンドウで期間リストを選択できるのは、企業プロファイルの「ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト」メニューが「有効化」に設定されている場合のみです。このメニューおよびその制御対象の詳細は、「[ルックアップウィンドウでのレコードの検索](#)」および「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定 \(ページ 19\)](#)」を参照してください。

期間リストの管理

次の手順では、企業の期間リストを管理する方法について説明します。

期間リストを管理するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [会計カレンダー管理] セクションで、[会計期間管理] リンクをクリックします。
- 4 [期間リスト] ページで、次のように [メニュー] ボタンからオプションを選択します。
 - **レコード数**。期間リストの期間数をカウントします。「リスト内のレコードのカウント」を参照してください。
 - **リストを絞り込み**。特定の基準で期間リストを絞り込み、リストを新しい名前で保存します。「リストの作成と編集」を参照してください。
 - **リストを保存**。リストを保存します。[リストを保存] をクリックすると、[保存] オプションを含むページが表示されます。
 - **リストフィルターを表示**。ドロップダウンメニュー内のリストの主要情報を表示します。「[リストを表示] ページ」を参照してください。このページにアクセスするには、[リスト管理] ページの [表示] をクリックする方法もあります。
 - **リスト管理**。期間リストを管理します。「[リスト管理] ページ」を参照してください。
 - **リストを新規作成**。新しいフィルター済み期間リストを作成します。「リストの作成と編集」を参照してください。

期間検索レイアウトの定義

次の手順では、期間リストの検索レイアウトを定義する方法について説明します。

作業前の準備。 [アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

期間検索レイアウトを定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで [期間] をクリックします。
- 4 [期間アプリケーションカスタマイズ] ページで、[期間検索レイアウト] をクリックします。
- 5 検索レイアウトを定義します。

検索レイアウトの作成方法の詳細は、「[検索レイアウトの管理](#) (ページ 167)」を参照してください。

各役割に使用可能な期間リストの定義

次の手順では、各役割に使用可能な期間リストを定義する方法について説明します。

作業前の準備。 [アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

各役割に使用可能な期間リストを定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで [期間] をクリックします。
- 4 [期間アプリケーションカスタマイズ] ページで、[期間リストアクセスと順序] をクリックします。
- 5 各役割に対して、使用可能なリストおよびリストの順序を定義します。
リストアクセスおよび各役割に対する表示順序の管理方法の詳細は、「[リストアクセスおよびリスト順序の管理](#) (ページ 171)」を参照してください。

通貨定義

企業の通貨を定義するには、次の作業を実行します。

- 企業で取引に使用する通貨を有効にします。
- 企業の基本通貨の為替レートを定義します。

通貨定義の詳細は、「[通貨の管理](#) (ページ 57)」を参照してください。

通貨の管理

ユーザーが任意の通貨で取引を行ったり、取引を追跡したりできるように、これらの通貨を有効にする必要があります。これを行わないと、企業に設定されたデフォルト通貨以外は使用できなくなります。

従業員が他の通貨で取引を記録している場合は、これらの通貨と企業のデフォルト通貨との間の為替レートを設定する必要があります。アプリケーションは、レポートや売上予想のために売上をロールアップするときに、この為替レートを使用します。

注意： 必ず、有効にしたすべての通貨の取引をユーザーが入力する前に、為替レートを設定してください。

有効な通貨に複数の為替レートを入力できます。各エントリは為替日とその日の為替レートから構成されます。特定の取引に使用する為替レートを決定する場合、アプリケーションは次のルールに従います。

Oracle CRM On Demand による、企業のデフォルト通貨とユーザーのデフォルト通貨間での為替レートの変換方法

ここでは、企業に次の通貨があります。

- 企業のデフォルト通貨は米ドル（USD）です。
- この企業では、追加通貨のユーロ（EUR）とポンド（GBP）も有効です。
- この企業では、USD と EUR 間および USD と GBP 間の為替レートが定義されています。
- ユーザーは、商談売上を EUR で入力します。ただし、ユーザーのデフォルト通貨は GBP です。
- Oracle CRM On Demand では、EUR から GBP への変換を次のように実行します。
 - 最初に、商談売上を企業のデフォルト通貨に変換します。つまり、EUR から USD に変換します。
 - 次に、その商談売上をユーザーの通貨に変換します。つまり、USD から GBP に変換します。

予想ロールアップへの為替レートの適用方法

ここでは、次のルールが適用されます。

- 為替レートが取引日と同じ日に定義されている場合、為替レートの値を使用します。
- 為替レートが取引日と同じ日に定義されていないが、取引日以前の日に定義されている場合、その取引日に最も近い日の為替レートを使用します。
- 為替レートが取引日と同じ日にも、取引日以前の日にも定義されていない場合、取引日以後の日で次に利用可能な為替レートを使用します。

たとえば、為替レートが 5/15/2004 と 8/15/2004 に対してのみ入力されている場合は、次のようになります。

- 5/15/2004 より前の取引については、5/15/2004 のレートが使用されます。
- 5/15/2004 と 8/14/2004 との間の取引については、5/15/2004 のレートが使用されます。
- 8/15/2004 以降の取引については、8/15/2004 のレートが使用されます。

レポートへの為替レートの適用方法

レポートについては、売上予想の場合より一般的な方法で為替レートが適用されます。1 つの為替レートは月ごとに決定され、その月内のすべての取引がそのレートを使用します。たとえば、商談の場合、Oracle CRM On Demand では為替レート有効日に最も近い商談クローズ日が使用されます。資産の通貨換算の場合は、Oracle CRM On Demand では日付として [購入日] フィールドが使用されます。商談製品の場合は、Oracle CRM On Demand では製品売上の開始日に最も近い為替レートが使用されます。カスタムオブジェクト 01 から 03 など、他のオブジェクトの場合は、Oracle CRM On Demand では作成日を使用して為替レート日が決定されます。カスタムオブジェクト 04 から 15 の場合は、Oracle CRM On Demand では [為替日] フィールドが使用されます。

月に割り当てる交換レートは、次のように決定されます。

- ある月に複数の為替レートが存在する場合は、その月の最終日の為替レートが使用されます。
- ある月に為替レートが存在しない場合、その月の為替レートは、レートが設定されている将来の最も近い月のレートに設定されます。
- 将来の月に為替レートがない場合、過去の最も近い月の為替レートが使用されます。

たとえば、為替レートが 5/10/2004、5/20/2004、および 8/14/2004 に対して定義されている場合、次のようになります。

- 2004 年 5 月のレートは 5/20/2004 に設定された値になります（5 月に設定された最終レート）。
- 2004 年 8 月のレートは 8/14/2004 に設定された値になります（8 月に設定された唯一のレート）。
- 2004 年 4 月以前の月には 5/20/2004 のレートが割り当てられます。5 月には 2 日間あります。
- 2004 年 6 月および 7 月は 2004 年 8 月（将来に最も近い月）のレートが割り当てられます。
- 2004 年 9 月以降の月は 2004 年 8 月のレートに割り当てられます（将来の月にレートの設定がないため、過去の最も近い月のレートが使用されます）。

レポートでは、通貨の変換を必要とする値はすべて、取引が予定されている月に対して定義された為替レートを使用し、前述のように計算されます。

注： 売上予想の実行時は、予想ロールアップのため、すべての商談が企業のデフォルト通貨に変換されます。ただし、レポートでは、売上フィールドがエンドユーザーの通貨額に変換されます。

次のいずれかの状況が発生した場合、毎日の分析更新が実行されるまで待機する必要があります。

- 企業で新しい通貨が有効化され、為替レートが設定される
- （〔個人詳細〕 ページで）企業の他のユーザーが誰も選択したことのない新しい通貨がユーザーによって選択される

更新では、必要なクロス為替レートが自動的に生成されます。その後、時系列レポートまたはリアルタイムレポートを実行できます。

ユーザーがデフォルトのユーザー通貨を変更した場合は、新しく選択された通貨でレポートにデータが表示される前に、Oracle CRM On Demand アプリケーションをサインアウトしてから再度サインインする必要があります。

作業前の準備。 通貨の管理手順を実行するには、〔通貨を設定〕 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、通貨の設定の影響については、「ユーザーのプロファイル設定について」を参照してください。

通貨を有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕 グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔企業管理〕 セクションで、〔企業管理〕 リンクをクリックします。
- 3 〔通貨定義〕 セクションで、〔通貨定義〕 リンクをクリックします。
- 4 〔通貨設定〕 ページで、ドロップダウンリストから〔通貨（全件）〕 を選択します。
- 5 有効にする通貨の〔編集〕 リンクをクリックします。
- 6 〔通貨編集〕 ページで、〔有効〕 チェックボックスをオンにします。
- 7 （オプション）〔通貨編集〕 ページで、通貨に対応する記号を変更できます。

たとえば、通貨記号ではなく、通貨コードで通貨を区別するものとします。つまり、\$を USD に、¥を JPY に、€を EUR に変更します。

注意： ピリオド（.）、カンマ（,）または空白（ ）のように特定のロケールで桁区切り文字や小数点として使用されている記号以外であれば、任意の記号を使用して通貨を表すことができます。

- 8 レコードを保存します。

為替レートを定義するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。

3 [通貨定義] セクションで、[為替レート] リンクをクリックします。

有効にした通貨の最新の為替レートが含まれる [為替レート編集] ページが表示されます。為替レートを定義しないと、空白のページが表示されます。

注： 交換後の通貨は、企業に対して常に設定される通貨です。有効な通貨ごとにその通貨に変換する方法をアプリケーションに伝える為替レートを入力する必要があります。

4 有効な通貨に新しい為替レートを追加するには、

a レートを追加する [通貨] 行の [為替履歴] リンクをクリックします。

[為替レート] ページで [新規] をクリックします。

b [為替レート編集] ページで、必要な情報を入力します。

為替レートについて、1 単位の変換元通貨を購入するのに必要な交換後の通貨の単位数を入力します。

例：1 ユーロ = 1.3 US ドル

企業の通貨が US ドル (USD) に設定されていると仮定すると、次の値を入力します。

- 変換元通貨：EUR
- 交換後の通貨：USD
- 為替レート：1.3

5 [保存] をクリックします。

為替レートの履歴を表示するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。

3 [通貨定義] セクションで、[為替レート] リンクをクリックします。

[為替レート編集] ページには、さまざまな通貨の最新の為替レートが表示されます。

4 1 つの通貨の為替レートの履歴を表示するには、[為替レート履歴] リンクをクリックします。

為替レートの履歴が表示されます。

部署の設定

企業では、[部署] レコードタイプを使用して、ビジネスニーズに合わせてユーザーをグループに編成できます。たとえば、部署を使用すると、地理的な基準でユーザーを編成できます。ユーザーを1つ以上の部署に関連付けることができます。ユーザーレコードに関連付けられる最初の部署は、ユーザーのプライマリ部署として自動的に指定されますが、ユーザーのプライマリ部署は変更できます。部署をピックリスト値グループに関連付けることができ、その結果、特定の部署のユーザーに対して、レコードの特定フィールドのピックリストに表示される値が、フィールドに定義された値のサブセットに制限されます。各部署は、1つのピックリスト値グループにのみ関連付けることができます。ピックリスト値グループの詳細は、「[ピックリスト値グループについて](#) (ページ 195)」を参照してください。

注: ユーザーのレコードの部署情報は、ユーザーがレコードにアクセスする権限およびレコードを処理する権限には影響を与えません。

ユーザーが1つ以上の部署に関連付けられている場合は、部署をサポートするレコードタイプのレコードをユーザーが作成すると、ユーザーのプライマリ部署がレコードに自動的に割り当てられます。[部署] フィールドとピックリスト値グループフィールドの両方が[詳細] ページレイアウトに存在し、ピックリスト値グループがユーザーのプライマリ部署に関連付けられている場合は、レコードのピックリスト値グループフィールドにそのピックリスト値グループの名前が入力されます。この結果、ピックリスト値グループによって制御されるピックリストフィールドでは、ピックリスト値グループにリンクされている値のみがピックリストに表示されます。

ユーザーは、次のすべてに該当する場合は、いずれのレコードでも部署を変更できます。

- [部署] フィールドが、レコードタイプに対してユーザーの役割に割り当てられているページレイアウトに表示されること。
- [部署] フィールドは、読み取り専用フィールドとして指定されていないこと。
- ユーザーに、レコードを更新するために必要なアクセス権があること。

注: デフォルトでは、[ルックアップ] ウィンドウで[部署] フィールドに対してすべての部署リストを使用でき、ユーザーは任意の部署を選択できます。部署のリストを設定でき、ユーザー役割ごとに[ルックアップ] ウィンドウで[部署] フィールドに対して使用できるリストを指定できます。詳細は、「[リストアクセスおよびリスト順序の管理](#) (ページ 171)」を参照してください。

ユーザーがレコードの部署を変更すると、そのレコードのピックリスト値グループは、新しい部署に対するピックリスト値グループに自動的に変更されます。レコードの作成と更新時の[部署] およびピックリスト値グループフィールドの動作に関する詳細は、「[レコードの部署およびピックリスト値グループについて](#) (ページ 66)」および「[ピックリストフィールド、ピックリスト値グループおよび部署について](#)」を参照してください。

部署の設定の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [部署を設定する場合の考慮事項](#) (ページ 62)
- [部署の設定プロセス](#) (ページ 62)
- [部署の作成](#) (ページ 63)
- [ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ピックリスト値グループおよび部署をサポートするレコードタイプ](#) (ページ 198)
- [部署のマージおよび部署の削除について](#) (ページ 66)

- [レコードの部署およびピックリスト値グループについて](#) (ページ 66)
- [ユーザーのプライマリ部署の変更](#) (ページ 254)

部署を設定する場合の考慮事項

部署を設定する場合は、次のことを考慮してください。

- **カスタマイズ。** [部署] レコードタイプをカスタマイズできます。
- **リスト。** 部署のリストを作成できます。
- **ピックリスト値グループ。** 部署は 1 つのピックリスト値グループにのみ関連付けることができます。
- **ユーザー。** 複数のユーザーを各部署に関連付けることができ、各ユーザーを複数の部署に関連付けることができます。
- **検索。** アクションバーまたは高度な検索で部署レコードを検索することはできません。
- **[部署] フィールド。** 部署をサポートするレコードタイプに対して、次の操作を実行できます。
 - [部署] フィールドをページレイアウトに追加します。
 - ユーザーが [部署] フィールドの値を変更またはクリアできないようにする場合は、フィールドを読み取り専用指定します。
 - 式ビルダーで [部署] フィールドを使用します。
 - ワークフロールールで [部署] フィールドを使用します。
 - 検索レイアウトに [部署] フィールドを含めます。

注: フィールドの設定ページで [部署] フィールドのデフォルト値を指定することはできません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [部署の設定プロセス](#) (ページ 62)
- [部署の作成](#) (ページ 63)
- [ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [レコードの部署およびピックリスト値グループについて](#) (ページ 66)
- [ユーザーのプライマリ部署の変更](#) (ページ 254)

部署の設定プロセス

作業前の準備。 「[部署を設定する場合の考慮事項](#) (ページ 62)」の情報を確認してください。

企業の部署を設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 次のことを決定します。
 - 設定する部署。
 - 各部署に関連付けるピックリスト値グループ（ある場合）。各部署は 1 つのピックリスト値グループにのみ関連付けることができますが、ピックリスト値グループは複数の部署に関連付けることができます。
 - 各部署に関連付けるユーザー。
- 2 部署を作成します。
詳細は、「[部署の作成](#) (ページ 63)」を参照してください。
- 3 （オプション）ピックリスト値グループを部署に関連付けます。
詳細は、「[ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)」を参照してください。
- 4 ユーザーを部署に関連付けます。
詳細は、「[ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)」を参照してください。
- 5 （オプション）部署を使用するレコードタイプに対するページレイアウトに、[部署] フィールドを追加します。
詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」および「[動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)」を参照してください。

部署の作成

部署を作成するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[部署の設定プロセス](#) (ページ 62)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[役割およびアクセスの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

部署を作成するには

- 1 [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] をクリックします。
- 3 部署の設定セクションで、部署の設定をクリックします。
- 4 [部署リスト] ページで、[新規] をクリックします。
- 5 部署の名前および説明を入力し、変更を保存します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [部署の設定](#) (ページ 61)
- [部署を設定する場合の考慮事項](#) (ページ 62)

- [部署の設定プロセス](#) (ページ 62)
- [ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)

ピックリスト値グループと部署の関連付け

1 つのピックリスト値グループのみを各部署に関連付けることができます。ただし、各ピックリスト値グループによって、1 つ以上のレコードタイプの 1 つ以上のピックリストフィールドに対する値を制御でき、各ピックリスト値グループは複数の部署に関連付けることができます。ピックリスト値グループの詳細は、「[ピックリスト値グループについて](#) (ページ 195)」を参照してください。

ピックリスト値グループを部署に関連付けるには、次の手順を実行します。このタスクは、「[部署の設定プロセス](#) (ページ 62)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[役割およびアクセスの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。また、ピックリスト値グループフィールドが、ユーザー役割に対する [部署詳細] ページレイアウトに表示される必要があります。

ピックリスト値グループを部署に関連付けるには

- 1 [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] をクリックします。
- 3 部署の設定セクションで、部署の設定をクリックします。
- 4 [部署リスト] で、ピックリスト値グループを関連付ける部署の名前をクリックします。
- 5 [部署詳細] ページのピックリスト値グループフィールドで、[ルックアップ] アイコンをクリックして、部署に関連付けるピックリスト値グループを選択します。
- 6 変更を保存します。

注: レコードのピックリストフィールドに表示される値をピックリスト値グループで制御するには、ピックリスト値グループフィールドが、レコードタイプに対する [詳細] ページレイアウトに表示される必要があります。

ユーザーと部署の関連付け

ユーザーを 1 つ以上の部署に関連付けることができます。ユーザーに関連付けられる最初の部署は、ユーザーのプライマリ部署として自動的に指定されますが、ユーザーのレコードのプライマリ部署は変更できます。詳細は、「[ユーザーのプライマリ部署の変更](#) (ページ 254)」を参照してください。

ユーザーを部署に関連付ける方法は 2 通りあります。

- 部署レコードから、ユーザーを部署に関連付けることができます。
- ユーザーレコードから、部署をユーザーに関連付けることができます。

ユーザーを部署に関連付けるには、次の手順を実行します。このタスクは、「[部署の設定プロセス](#) (ページ 62)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、ユーザーの役割に[ユーザーの管理]権限および[役割およびアクセスの管理]権限の両方が含まれている必要があります。また、部署ユーザー関連情報セクションが、[部署] レコードタイプに対して役割に割り当てられている [詳細] ページレイアウトに表示される必要があります。

ユーザーを部署に関連付けるには

- 1 [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] をクリックします。
- 3 部署の設定セクションで、部署の設定をクリックします。
- 4 [部署リスト] で、ユーザーに関連付ける部署の名前をクリックします。
- 5 [部署詳細] ページで、部署ユーザー関連情報セクションにスクロールして、[追加] をクリックします。
- 6 部署に関連付けるユーザーを選択して、変更を保存します。

1 回に最大 10 人のユーザーを追加できます。部署に他のユーザーに関連付けるには、[保存] および [ユーザーを追加] をクリックします。

[ユーザー詳細] ページから部署をユーザーに関連付けるには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、ユーザーの役割に[ユーザーの管理]権限および[役割およびアクセスの管理]権限の両方が含まれている必要があります。また、少なくとも次のいずれかに該当する必要があります。

- プライマリ部署フィールドが、[ユーザー] レコードタイプに対して役割に割り当てられている [詳細] ページレイアウトに表示されること。
- ユーザー部署関連情報セクションが、役割に割り当てられている [ユーザー管理] ページレイアウトに表示されること。

注: [ユーザー] レコードタイプで、[部署] というテキストフィールドも使用できます。[部署] テキストフィールドは、[ユーザー] レコードタイプの一部です。

部署をユーザーに関連付けるには

- 1 [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザーおよびグループの管理] セクションで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] で、部署に関連付けるユーザーの姓をクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 1 つの部署のみをユーザーのプライマリ部署として関連付ける場合は、プライマリ部署フィールドで、[ルックアップ] アイコンをクリックして、ユーザーのプライマリ部署とする部署を選択します。

- 複数の部署をユーザーに関連付ける場合は、[部署] 関連情報セクションにスクロールして、[追加] をクリックします。1 回に最大 10 個の部署を追加できます。ユーザーに他の部署に関連付けるには、[保存] および部署の追加をクリックします。

部署のマージおよび部署の削除について

部署は、ユーザーおよびレコードに関連付けられている場合でも削除できます。また、2 つの部署を 1 つにマージすることもできます。2 つの部署をマージする場合は、1 つの部署が保持され、もう 1 つの部署は削除されます。

マージ操作の結果として部署が削除されると、次のようになります。

- その部署が関連付けられていたユーザーレコードから部署が削除されます。
- 削除される部署に関連付けられていたユーザーで、保持される部署にまだ関連付けられていなかったユーザーは、保持される部署に自動的に関連付けられます。削除された部署がユーザーのプライマリ部署だった場合は、保持される部署がユーザーのプライマリ部署になります。
- 削除される部署が、取引先や担当者などの他のレコードタイプのレコードに関連付けられていた場合、レコードは、マージ操作で保持される部署に自動的に関連付けられません。かわりに、レコードの [部署] フィールドが自動的にクリアされます。ただし、レコードのピックリスト値グループフィールドはクリアされません。

部署を直接削除すると、次のようになります。

- その部署が関連付けられていたユーザーレコードから部署が削除されます。削除した部署がユーザーのプライマリ部署だった場合は、ユーザーのレコードに関連付けられている残りの部署のリストで最初の部署がユーザーのプライマリ部署になります。
- 削除した部署が、取引先や担当者などの他のタイプのレコードに関連付けられていた場合、これらのレコードの [部署] フィールドは自動的にクリアされます。ただし、レコードのピックリスト値グループフィールドはクリアされません。

部署の削除の結果として [部署] フィールドがクリアされたレコードに、別の部署を関連付けることができます。[部署] フィールドがクリアされたレコードに部署を関連付ける場合、レコードのピックリスト値グループフィールドは次のように更新されます。

- 新しい部署がピックリスト値グループに関連付けられると、レコードのピックリスト値グループフィールドに、新しい部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。
- 新しい部署がピックリスト値グループに関連付けられない場合、レコードのピックリスト値グループフィールドはクリアされます。

削除した部署は復元できます。部署を復元した場合、復元した部署とユーザーレコードの間に以前存在した関連付けはいずれも復元されません。復元した部署と、取引先や担当者などの他のタイプのレコードの間に以前存在した関連付けは復元されません。

レコードのマージの手順については、「レコードのマージ」を参照してください。

レコードの部署およびピックリスト値グループについて

次の表に、ユーザーによるレコードの作成と編集時の部署およびピックリスト値グループのフィールドの動作を示します。この表のすべてのケースで、次のことを想定しています。

- 各部署が 1 つのピックリスト値グループに関連付けられていること。
- 各ユーザーが少なくとも 1 つの部署に関連付けられていること。

- 「部署」フィールドとピックリスト値グループフィールドの両方が、「詳細」ページレイアウトに表示されること。

「部署」フィールドが更新可能	ピックリスト値グループフィールドの更新が可能	ユーザーがレコードを作成した場合に適用される動作	ユーザーがレコードを更新した場合に適用される動作
はい	はい	■ 「部署」フィールドに、レコードを作成したユーザーに対するプライマリ部署が挿入されます。ユーザーは、レコードを保存する前に「部署」フィールドの値を変更できます。 ■ ピックリスト値グループフィールドに、部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。ユーザーは、レコードを保存する前にピックリスト値グループフィールドの値を変更できます。	■ ユーザーは、「部署」フィールドまたはピックリスト値グループフィールドの値を変更できます。 ■ ユーザーが「部署」フィールドをクリアした場合、ピックリスト値グループフィールドは自動的にクリアされます。 ■ ユーザーが別の部署を選択した場合は、ピックリスト値グループフィールドに、新しい部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。 ■ ユーザーが別のピックリスト値グループを選択するか、またはピックリスト値グループフィールドをクリアした場合、「部署」フィールドは自動的に変更されません。
いいえ	はい	■ 「部署」フィールドに、レコードを作成したユーザーに対するプライマリ部署が挿入されます。ユーザーは、「部署」フィールドの値を変更できません。 ■ ピックリスト値グループフィールドに、部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。ユーザーは、レコードを保存する前にピックリスト値グループフィールドの値を変更できます。	■ ユーザーは、「部署」フィールドの値を変更できません。 ■ ユーザーは、ピックリスト値グループフィールドの値を変更できます。 ■ ユーザーが別のピックリスト値グループを選択するか、またはピックリスト値グループフィールドをクリアした場合、「部署」フィールドは自動的に変更されません。
はい	いいえ	■ 「部署」フィールドに、レコードを作成したユーザーに対するプライマリ部署が挿入されます。ユーザーは、レコードを保存する前に「部署」フィールドの値を変更できます。 ■ ピックリスト値グループフィールドに、部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。ユーザーは、レコードのピックリスト値グループフィールドの値を変更できません。	■ ユーザーは、「部署」フィールドの値を変更できます。 ■ ユーザーは、ピックリスト値グループフィールドの値を直接変更できません。 ■ ユーザーが「部署」フィールドをクリアした場合、ピックリスト値グループフィールドは自動的にクリアされます。 ■ ユーザーが別の部署を選択した場合は、ピックリスト値グループフィールドに、新しい部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。

「部署」フィールドが更新可能	ピックリスト値グループフィールドの更新が可能	ユーザーがレコードを作成した場合に適用される動作	ユーザーがレコードを更新した場合に適用される動作
いいえ	いいえ	■ 「部署」フィールドに、レコードを作成したユーザーに対するプライマリ部署が挿入されます。ユーザーは、レコードの「部署」フィールドの値を変更できません。 ■ ピックリスト値グループフィールドに、部署に対するピックリスト値グループが挿入されます。ユーザーは、レコードのピックリスト値グループフィールドの値を変更できません。	ユーザーは、「部署」フィールドまたはピックリスト値グループフィールドの値を変更できません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [部署の設定](#) (ページ 61)
- [部署を設定する場合の考慮事項](#) (ページ 62)
- [部署の設定プロセス](#) (ページ 62)
- [部署の作成](#) (ページ 63)
- [ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)
- [ユーザーのプライマリ部署の変更](#) (ページ 254)
- [ピックリスト値グループについて](#) (ページ 195)
- [ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項](#) (ページ 196)
- [ピックリスト値グループの設定プロセス](#) (ページ 197)
- [ピックリスト値グループの作成](#) (ページ 198)
- [ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#) (ページ 139)

企業監査

監査証跡は、規制および企業方針への準拠に対応するための重要な機能です。Oracle CRM On Demand での監査証跡の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [すべてのユーザーのサインイン活動の確認](#) (ページ 69)
- [企業のリソース使用状況の確認](#) (ページ 69)

- [マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#) (ページ 70)
- [管理設定変更の監査証跡の確認](#) (ページ 71)
- [企業の保留中および送信済み電子メールの確認](#) (ページ 72)

すべてのユーザーのサインイン活動の確認

社内のすべてのユーザーのサインイン履歴を確認できます。サインイン履歴ページには、アプリケーションを使用しているユーザーと使用日時が表示されます。サインイン履歴ページには、Oracle CRM On Demand のカスタマーサポートが行ったサインイン活動も記録されます。

注: 90 日より前のユーザーサインインレコードは Oracle CRM On Demand から継続的に削除されます。ユーザー採用基準の履歴トレンド分析を Oracle CRM On Demand の分析でサポートするために、ユーザー採用履歴データがデータウェアハウスに保存されていますが、Oracle CRM On Demand を新しいリリースにアップグレードする際にデータの完全な抽出、変換、ロード (ETL) を実行した場合、または 1 つの Oracle CRM On Demand 環境から別の Oracle CRM On Demand 環境に企業データを移行した場合は、データが保持されません。[使用状況追跡分析] 分析サブジェクトエリアの詳細については、「使用状況追跡分析分析サブジェクトエリア」を参照してください。

作業前の準備。 この手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

すべてのユーザーのサインイン活動を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [リソース監査] セクションで、[サインイン監査] リンクをクリックします。
- 4 アプリケーションのサインイン履歴を確認します。

注: サインインレコードのタイプフィールドには、サインインが試みられたチャネルが表示されます。たとえば、ブラウザウィンドウを介してサインインが試みられた場合は、[タイプ] フィールドに [インタラクティブ] という値が表示されます。Web サービスを介してサインインが試みられた場合は、[タイプ] フィールドに [Web サービス] という値が表示されます。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーのサインイン活動の確認](#) (ページ 254)

企業のリソース使用状況の確認

企業全体のリソース使用状況を確認できます。たとえば、次の領域の変更が確認されます。

- パスワードのリセット
- パスワードの消失

- セキュリティの質問への回答
- SSO 識別子の変更
- ユーザーID の変更
- 電子メールアドレスの変更
- パスワードの設定
- 最初のパスワード
- オフライン

注: 90 日より前のリソース使用状況レコードは Oracle CRM On Demand から継続的に削除されます。ただし、ユーザーが作成されたとき、または [電子メール]、[シングルサインオンの外部 ID]、[役割]、[状態]、[ユーザーのサインイン ID] フィールドが変更されたときは、レコードは削除されません。

作業前の準備。 この手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

会社のリソース使用状況を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [リソース監査] セクションで、[監査] リンクをクリックします。
- 4 会社のリソース使用状況履歴を確認します。

マスター監査証跡による監査証跡変更の確認

すべての監査可能なレコードタイプについて、ユーザーが監査可能なフィールドに加えた監査証跡変更を確認できます。監査証跡では、監査可能なレコードタイプが作成、削除または復元されたかどうかを示されます。

レコードタイプの特定のフィールドを監査している場合、新規顧客および Oracle CRM On Demand をこのリリースにアップグレードしている顧客については、レコードの作成、削除および復元の監査はデフォルトで有効になっています。レコードタイプの特定のフィールドを監査していない場合、レコードの作成、削除および復元のすべての監査は無効です。その場合、顧客はレコードレベルの監査設定を変更できます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[マスター監査証跡へのアクセス] 権限と [管理設定の監査] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

マスター監査証跡によって監査証跡変更を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業監査] セクションで、[マスター監査証跡] リンクをクリックします。

[マスター監査証跡] に次の値が表示されます。

- **ID 番号。**表の行 ID。
 - **レコードタイプ。**監査対象のレコードタイプ。
 - **レコード名。**監査対象のレコードの名前。
 - **ソース IP アドレス。**設定変更が実行されたコンピュータの IP アドレス。
- 注:** この値は、この情報が使用可能な場合にのみ表示されます。
- **セッションタイプ。**この値は、セッションがインタラクティブまたは Web サービスセッションのいずれであったかを示します。
 - **名前 (姓)。**ユーザーの姓。
 - **名前 (名)。**ユーザーの名。
 - **ユーザーのサインイン ID。**ユーザーのログイン ID。
 - **オペレーション。**たとえば、作成、削除、変更など、実行された設定のタイプ。
 - **項目の修正。**オブジェクトの変更されたフィールド。
 - **古い値。**フィールドの以前の値。
 - **新しい値。**フィールドの新しい値。たとえば、サービスリクエストの優先度フィールドの値を [低] から [高] に変更すると、[古い値] フィールドは [低] のままで、[新しい値] フィールドは [高] になります。レコードを削除すると、[古い値] フィールドは空白のままで、[新しい値] フィールドは [削除済みレコード] に変更されます。
 - **日付。**オブジェクトが前回監査された日付。

監査証跡の詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#) (ページ 176)」を参照してください。

管理設定変更の監査証跡の確認

管理者がフィールド設定、役割、ブック、アクセスプロファイル、REST 統合タグ名および前の所有者のカスタマイズに加える監査証跡の変更を確認できます。

作業前の準備。次の手順を実行するには、[マスター監査証跡へのアクセス] 権限と [管理設定の監査] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

管理設定変更の監査証跡を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
 - 3 [企業監査] セクションで、[管理設定の監査] リンクをクリックします。
[管理設定の監査] 表に、次の値が表示されます。
- **ID 番号。**表の行 ID。

- **レコードタイプ。** 監査対象のレコードタイプ。
- **レコード名。** 監査対象のレコードの名前。
- **ソース IP アドレス。** 設定変更が実行されたコンピュータの IP アドレス。
注: この値は、この情報が使用可能な場合にのみ表示されます。
- **セッションタイプ。** この値は、セッションがインタラクティブまたは Web サービスセッションのいずれであったかを示します。
- **名前 (姓)。** ユーザーの姓。
- **名前 (名)。** ユーザーの名。
- **ユーザーのサインイン ID。** ユーザーのログイン ID。
- **オペレーション。** たとえば、作成、削除、変更など、実行された設定のタイプ。
- **項目の修正。** オブジェクトの変更されたフィールド。
- **古い値。** フィールドの以前の値。
- **新しい値。** フィールドの新しい値。たとえば、サービスリクエストの優先度フィールドの値を [低] から [高] に変更すると、[古い値] フィールドは [低] のままで、[新しい値] フィールドは [高] になります。レコードを削除すると、[古い値] フィールドは空白のままで、[新しい値] フィールドは [削除済みレコード] に変更されます。
- **日付。** オブジェクトが前回監査された日付。

監査証跡の詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#) (ページ 176)」を参照してください。

企業の保留中および送信済み電子メールの確認

[電子メールモニター] ページには次の情報が表示されます。

- **電子メールモニター概要。** Oracle CRM On Demand からの保留中電子メールの数が表示されます。
- **送信箱。** Oracle CRM On Demand からの送信待ちの電子メールに関する、固有の詳細情報が表示されます。
- **送信済み項目。** Oracle CRM On Demand からすでに送信された電子メールに関する、固有の情報が表示されます。30 日より前の送信済み電子メール項目は、Oracle CRM On Demand から継続的に削除されます。アルファベット文字検索機能を使用して送信済み電子メールを見つけることができます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[マスター監査証跡へのアクセス] 権限および [管理設定の監査] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

Oracle CRM On Demand からの保留中および送信済み電子メールを確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業監査] セクションで、[電子メールモニター] リンクをクリックします。

「送信箱」セクションおよび「送信済み項目」セクションには、次の情報が表示されます。

- **タイプ。**このカラムには、次の値のいずれかが表示されます。
 - **顧客。**ユーザーによって顧客に送信された電子メールです。
 - **オペレーション。**Oracle CRM On Demand によって Oracle CRM On Demand カスタマケアに送信された電子メールです。
 - **サービス。**Oracle CRM On Demand によって顧客に送信された電子メールです。
- **状態。**このカラムには、次の値のいずれかが表示されます。
 - **キュー待ち。**電子メールリクエストはまだ処理されていません。
 - **進行中。**電子メールは処理中です。Oracle CRM On Demand によって、電子メールの送信が 3 回試みられます。3 回目の試みで電子メールの送信に失敗すると、状態が「エラー」に変わります。
 - **送信済み。**電子メールは正常に送信されました。
 - **エラー。**エラーが発生したため、電子メールリクエストは完了しませんでした。
- **差出人。**電子メールを送信した人物または企業の名前です。
- **送信済み。**電子メールを送信した日付およびタイムスタンプです。
- **宛先。**電子メールの送信先となったすべての受信者の電子メールアドレスです。
- **開始者。**電子メールを開始したユーザーのログイン ID です。
- **件名。**電子メールの件名です。

監査証跡の詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#) (ページ 176)」を参照してください。

警告管理

Oracle CRM On Demand の警告機能を使用すると、時間ベースの重要な情報を社内のユーザーに一括送信できます。警告の詳細は、次のトピックを参照してください。

- **警告の確認**
- **[全社レベルの警告の公開](#) (ページ 74)**
- **リストの使用**
- **[警告フィールド](#) (ページ 75)**

全社レベルの警告の公開

全社レベルの警告は各従業員の [ホームページ (個人)] に表示されます。警告を使用して全社レベルの情報 (ミーティングの通知、ポリシーの変更など) を一括送信できます。ユーザーが Oracle CRM On Demand にログインするときは常に情報を表示するように警告を構成することもできます。

注: 売上予想が生成されたことを通知する警告は従業員の [ホームページ (個人)] に 2 日間保持されます。警告を表示する期間を延長するには、警告が最初に表示された後に [警告編集] ページで変更します。実行方法については、この項の手順に従ってください。

ファイルまたは URL を警告にリンクできます。たとえば、ミーティングの通知警告を作成するときに、ミーティング開催場所への道順が含まれる Web ページへのリンクを追加できます。

作業前の準備。 (オプション) 共有する情報が含まれる Web ページまたはファイルを作成するか、検索します。その Web ページまたはファイルへのパスに社内のユーザーがアクセスできることを確認します。この手順を実行するには、[企業プロフィールの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

全社レベルの警告を作成または更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [警告管理] セクションで、[企業警告] リンクをクリックします。
企業警告のリストが含まれる [警告] ページが表示されます。
- 4 [警告] ページで、次の該当する操作を行います。
 - [新規] ボタンをクリックします。
 - 編集する警告のタイトルをクリックし、[編集] ボタンをクリックします。
- 5 [新規警告] ページまたは [警告編集] ページで、必要な情報を入力します。
- 6 警告を保存します。
- 7 警告に添付資料を追加するには、[警告リスト] ページの警告タイトルをクリックして警告の詳細を表示します。
- 8 [添付資料を追加] ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。
- 9 [添付資料編集] ページで [保存] をクリックします。
- 10 警告に URL を追加するには、[警告リスト] ページの警告タイトルをクリックして警告の詳細を表示します。
- 11 [URL を追加] ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。
- 12 [添付資料編集] ページで [保存] をクリックします。

警告フィールド

次の表では、警告レコードに表示されるフィールドについて説明します。管理者は、全警告フィールドについて表示および更新することができます。管理者以外のユーザーは、制限された数の警告フィールドのみ表示できます。

フィールド	説明
タイトル	[ホームページ（個人）] に表示される警告のタイトル。
優先順位	[ホームページ（個人）] 上で、警告の隣のアイコンにより示される警告の優先順位。
ハイパーリンク	警告に関連付けられた URL、またはファイル名とディレクトリパス。
警告の説明	警告として表示されるテキスト。
発行日	[ホームページ（個人）] への警告の一括送信を開始する日付。
失効日	[ホームページ（個人）] への警告の一括送信を終了する日付。
表示するハイパーリンク名	警告内にハイパーリンクとして表示されるテキスト。これは、ハイパーリンクを入力した場合、必須です。 たとえば、リンク（URL）“http://company.site/doc_2389.html”に対して、「ミーティング連絡」と入力します。

ヒント： 1 回に表示される警告レコードのタイプを制限するフィルター済みリストを作成できます。作成手順については、「リストの使用」を参照してください。

関連トピック

全社レベルの警告の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [全社レベルの警告の公開](#) (ページ 74)

サービス割当管理

サービス割当管理では、次のことができます。

- [企業のサービス割当使用量の表示](#) (ページ 77)
- [履歴サービス割当使用量の表示](#) (ページ 78)
- [サービス割当の警告の設定](#) (ページ 78)
- [ファイルおよびレコード利用情報の表示](#) (ページ 79)

サービス割当について

企業のすべてのサービス割当を表示し、現在および履歴の使用量を確認して、割当が定義されたしきい値に達したときに警告を有効にできます。企業のサービス割当値はカスタマーサポートが設定します。サービス割当は次のとおりです。

- **Web サービス処理割当。** 企業で 24 時間以内に実行できる Web サービス操作の数を決定します。

- **Web サービスコンカレントリクエスト割当。**企業で処理できるコンカレント Web サービスリクエストの最大数を決定します。
- **CRM Desktop ライセンス。**企業からライセンスが与えられている CRM Desktop ユーザー数を示します。
- **ファイル割当。**これは、レコードに添付されたファイルに利用可能なディスクスペースの量です。

注: 企業が使用するディスクスペースの量の計算に、署名レコードへの添付資料およびレコード詳細ページに追加されたイメージは含まれません。

- **レコード割当。**これは、すべてのタイプのレコードの数です。

注: 企業について格納されるレコード数の計算では、署名レコードはカウントされません。

次のレポートサービス割当は、連続した 24 時間ウィンドウを使用して測定されます。これらは、リリース 27 から Oracle CRM On Demand のレポートサービス API を使用している場合のみ適用されます。

- **［レポートサービス処理量割当］。**企業がレポートサービスを使用して毎日処理できるデータの量を示します。
- **レポートサービスのコンカレント割当。**企業がいつでもレポートサービスを使用して提出できるリクエストの最大数を示します。
- **［レポートサービス処理割当］。**レポートサービスを使用している企業に対して許可されている毎日の処理数を示します。レポートサービスを提出するためのコールが実行された場合、これは処理と見なされます。

これらのサービス割当の詳細は、「Oracle CRM On Demand Report Services API Developer's Guide」を参照してください。

サービス割当の名前と説明は有効な言語で表示されます。

注: Oracle CRM On Demand Desktop からのリクエストは、**［Web サービス処理割当］** または **［Web サービスコンカレントリクエスト割当］** にはカウントされません。

「サービス割当リスト」ページでは、定義した割当値、現在の使用量、および残りの使用量の値を確認できます。サービス割当をドリルダウンして、そのサービス割当に警告を設定できます。警告を有効にする場合は、サービス割当のしきい値を定義し、これによって、しきい値に達すると電子メール警告が指定受取人に送信されることになります。

「割当使用量リスト」ページで、サービス割当に対する企業の使用量を時間の経過に基づいて追跡できます。毎日、毎週または毎月の使用量を表示できますが、このビューは割当タイプによって異なります。企業の割当データおよび割当使用量データは、エクスポートアシスタントを使用してエクスポートできます。エクスポートアシスタントの使用方法については、「[データのエクスポート](#)」(ページ 710)を参照してください。

割当がすべて使用された場合

使用量が企業の Web サービス割当の上限に到達すると、それ以降の Oracle CRM On Demand Web サービスに対するリクエストは処理されなくなります。割当容量は 1 時間ごとに解放され、解放される容量は過去の使用量によって異なります。直近 24 時間の使用量が企業の割当値より低くなったときに、新規リクエストが処理されます。

企業の合計割当に到達しないように、Web サービスクライアントを最適化して不要なリクエストを回避します。詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

使用量が企業のレコード割当の上限に到達した場合、次のものは Oracle CRM On Demand アプリケーションと相互作用できなくなります。

- レコードに対して Insert、Update または InsertOrUpdate 操作を試行する Web サービス
- インポートアシスタントまたは Oracle Data Loader On Demand を使用したインポート

- Oracle Outlook Email Integration On Demand、Oracle Notes Email Integration On Demand などのデスクトップクライアント

企業の合計割当に到達するのを回避するため、ユーザーは不要になったレコードをアプリケーションからすべて削除できます。使用量が企業のファイル割当の上限に到達した場合、ユーザーは次の方法で添付資料をアップロードできなくなります。

- Oracle CRM On Demand アプリケーション
- Web サービス
- デスクトップクライアント

企業の合計割当に到達するのを回避するため、ユーザーは不要になった添付資料をすべて削除できます。

注：すべてのサービス割当について、ユーザーは販売担当者に連絡し、追加容量または追加ライセンス、あるいはその両方を購入できます。必要な場合は、カスタマーサポートに問い合わせてください。

企業のサービス割当使用量の表示

企業の各サービス割当について次のデータを表示できます。

- 割当名
- 割当タイプ
- 割当単位
- カスタマーサポートによって設定された割当の値
- 現在使用されている割当量
- 残りの割当量
- 割当について警告が有効化されているかどうか。現在の使用量がしきい値を超えた場合、定義された受信者に電子メール警告が送信されます。

注意：Oracle CRM On Demand では、一括アップロード、Web サービスリクエストまたは Oracle Data Loader On Demand からトリガーが到着した場合にのみ電子メール警告が送信されます。Oracle CRM On Demand にレコードを手動入力しても電子メール警告はトリガーされません。

- 割当データを最後に変更したユーザー

[サービス割当リスト] ページから、サービス割当にドリルダウンし、割当の説明や現在の使用量データなどの割当に関する詳細を割当使用量アプレットで確認できます。

[割当使用量リスト] ページで、割当に関する履歴使用量データを確認できます。詳細は、「[履歴サービス割当使用量の表示](#) (ページ 78)」を参照してください。

[サービス割当リスト] ページで [編集] をクリックし、割当の警告を設定できます。詳細は、「[サービス割当の警告の設定](#) (ページ 78)」を参照してください。

企業のサービス割当使用量を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。

- 3 [サービス割当管理] セクションで、[サービス割当管理] リンクをクリックします。
- 4 [サービス割当リスト] ページで、企業のサービス割当データを確認します。

履歴サービス割当使用量の表示

[割当使用量リスト] ページから、企業の割当に関する履歴使用量データを確認できます。デフォルトで、割当使用量は期間の開始時刻順に一覧表示され、期間、割当タイプ、割当名、割当単位、使用された割当および作成日が表示されます。毎日、毎週または毎月の割当使用量を確認できますが、このビューは割当タイプによって異なります。

次の表では、[割当使用量リスト] ページで実行可能な操作について説明します。

操作	手順
割当使用量の新規リストの作成	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
リストのエクスポート	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストをエクスポート] を選択します。「リストのレコードのエクスポート」の手順を実行します。
割当使用量リストの管理	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] を選択します。「リスト管理ページ」で説明されている必要なタスクの手順を実行します。
リスト全体の参照	リストページの上部または下部にあるナビゲーションアイコンをクリックして、リスト内の次のページ、前のページ、先頭ページまたは最終ページに移動します。
リストの検索基準の絞り込み	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを絞り込み] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
リストの主要情報とフィルター情報の表示	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。「[リストを表示] ページ」で説明されている手順を実行します。
リストの割当使用量の並べ替え	リストの並べ替えの基準にするカラムの見出しをクリックします。たとえば、[開始時刻] をクリックすると、リストは開始時刻に従って並べ替えられます。
表示レコード数の切り替え	ページの下部にある [表示レコード数] ドロップダウンリストで、一度に表示するレコードの数を選択します。

サービス割当の警告の設定

割当使用量が特定のしきい値に到達したときに、指定されたユーザーに通知するために電子メールが送信されるよう、サービス割当に警告を設定できます。サービス割当について警告が有効化されている場合、次のデフォルトが適用されます。

- **警告受取人。** 企業のプライマリ担当者の電子メールアドレス
- **警告しきい値。** 割当値の 70 パーセント

既存の顧客の場合、警告はデフォルト無効になっています。新規顧客の場合、警告はデフォルトで有効になっています。

注： Web サービスコンカレントリクエスト割当には警告を設定できません。

現在の使用量が企業の割当値に到達した場合、しきい値警告に加えて、自動警告電子メールがプライマリ担当者または指定された電子メール受信者に送信されます。警告が有効になっている場合、割当に到達したことを示す電子メールが指定された受信者に送信されます。

サービス割当に警告を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [サービス割当管理] セクションで、[サービス割当管理] リンクをクリックします。
- 4 [サービス割当リスト] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [サービス割当編集] ページで、次のフィールドに入力します。
 - **警告受取人**。警告電子メールを受け取るユーザーの電子メールアドレスを入力します。
 - **警告しきい値**。警告電子メールが送信される、割当値に対する比率を入力します。
 - **警告が有効**。このチェックボックスをオンにすると、警告電子メールの送信が有効になります。

ファイルおよびレコード利用情報の表示

Oracle CRM On Demand では、企業で使用されているファイルおよびレコード保存用ディスクスペースの量のスナップショットが間隔をおいて生成されます。情報は 90 日間保存され、その後データベースから削除されます。企業で使用されているファイルおよびレコード保存用ディスクスペースの量を追跡しやすくするために、次に関する詳細を表示できます。

- スナップショットの生成時に保存されていた添付ファイルの数
- スナップショットの生成時に企業で使用されていたファイル保存用ディスクスペースの量
- スナップショットの生成時に企業に存在していたレコードの数

注:Oracle CRM On Demand から削除されたがパージされていないファイルおよびレコードは、ファイルおよびレコードの利用の計算には含まれません。

次の手順では、ファイル利用情報の表示方法について説明します。

ファイル利用情報を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [サービス割当管理] セクションで、[ファイル利用] をクリックして [ファイル利用リスト] ページを開きます。

デフォルトで、[ファイル利用リスト] ページには [現在のファイル使用状況] リストが表示されます。[現在のファイル使用状況] リストには、最新のスナップショットの情報が表示されます。最近の 90 日間に生成されたすべて

のスナップショットの情報を表示するには、リストページのタイトルバーで「すべてのファイルの使用状況」リストを選択します。

次の表では、「ファイル利用リスト」ページに表示される情報について説明します。

カラム名	説明
レコード名	ユーザーインターフェイスに表示されるレコードタイプの名前。企業がレコードタイプの名前をカスタマイズした場合、カスタマイズされたレコードタイプ名がこのカラムに表示されます。 注: スナップショットの生成時に企業の特定のレコードタイプのレコードにファイルが添付されていない場合、そのレコードタイプは表示されません。
ファイル数	スナップショットの生成時に Oracle CRM On Demand で企業の表示されたレコードタイプのレコードに添付されていたファイルの数。
ファイル割当使用量 (MB)	スナップショットの生成時に、表示されたレコードタイプのレコードの添付ファイルを保存するために Oracle CRM On Demand で企業によって使用されたファイル保存用ディスクスペースの量 (メガバイト単位)。
日付	スナップショットの日時。

次の手順では、レコード利用情報の表示方法について説明します。

レコード利用情報を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「企業管理」セクションで、「企業管理」リンクをクリックします。
- 3 「サービス割当管理」セクションで、「レコード利用」をクリックして「レコード利用リスト」ページを開きます。

デフォルトで、「レコード利用リスト」ページには「現在のレコード使用状況」リストが表示されます。「現在のレコード使用状況」リストには、最新のスナップショットの情報が表示されます。最近の 90 日間に生成されたすべてのスナップショットの情報を表示するには、リストページのタイトルバーで「すべてのレコードの使用状況」リストを選択します。

次の表では、「レコード利用リスト」ページに表示される情報について説明します。

カラム名	説明
レコード名	ユーザーインターフェイスに表示されるレコードタイプの名前。企業がレコードタイプの名前をカスタマイズした場合、カスタマイズされたレコードタイプ名がこのカラムに表示されます。 注: スナップショットの生成時に企業の特定のレコードタイプにレコードが存在しない場合、そのレコードタイプは表示されません。
レコード割当使用量	スナップショットの生成時に企業の Oracle CRM On Demand 内に存在した表示されたレコードタイプのレコードの数。
日付	スナップショットの日時。

ヒント:「ファイル利用リスト」ページおよび「レコード利用リスト」ページのメニューオプションの使用方法については、「リストの使用」を参照してください。

住所管理

住所管理には、住所共有機能のオンまたはオフへの切り替え（企業プロファイルの「共有アドレスの有効化」設定を使用）、住所検証の有効化（企業プロファイルの「共有アドレスの検証」設定を使用）、非共有住所から共有住所への変換、およびその他のタスクがあります。住所管理の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [非共有住所から共有住所への変換](#)（ページ 81）
- [共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項](#)（ページ 84）
- [共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび「アドレスの管理」権限の更新](#)（ページ 85）
- [「関係の編集」を使用した非共有住所の住所タイプの設定](#)（ページ 86）
- [住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定](#)（ページ 86）

関連トピック

- [住所](#)
- [企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#)（ページ 19）

非共有住所から共有住所への変換

リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand では、非共有住所が使用されていました。このリリースでも非共有住所を引き続き使用できます。ただし、以前のリリースの非共有住所をこのリリースでサポートされる共有住所に変換する場合は、次の手順を実行する必要があります。

注：データファイルが大きく、インポート操作に予想以上の時間がかかる場合は、同じ入力ファイルと、この手順で定義するマッピングファイルで Oracle Data Loader On Demand を使用できます。

作業前の準備：Oracle CRM On Demand Customer Care が現在のリリースにアップグレードされていることを前提としています。この手順を実行するには、インポートとエクスポートの操作および Oracle CRM On Demand のカスタマイズを実行できる企業の管理者である必要があります。共有住所機能を有効にするには、「アドレスの管理」権限が必要です。

注：非共有住所から共有住所に移行する場合、Web Services v1.0 API は共有住所へのアクセスをサポートしないため、Web サービスリクエストにはすべて Web Services v2.0 API を使用する必要があります。

非共有住所から共有住所に変換するには

- 1 必要な場合は、企業プロファイルの「共有アドレスの有効化」設定をオフに切り替えます。
- 2 共有住所に変換する住所関連オブジェクトからデータをエクスポートします。
次の項目がリストに含まれます。
 - すべての取引先データのセクションが含まれます。
 - 取引先
 - 取引先住所

- 担当者
- 取引先パートナー
- 住所
- すべての担当者データのセクションが含まれます。
 - 担当者
 - 担当者住所
 - 取引先
 - 住所
- すべての自動車ディーラーデータのセクションが含まれます。
 - 自動車ディーラー
 - 自動車ディーラー住所
- すべてのパートナーデータのセクションが含まれます。
 - パートナー
 - パートナー住所
- すべての住所データ

エクスポート操作では、関連する取引先、担当者、パートナー、自動車ディーラー、および住所のデータをすべて Oracle CRM On Demand から外部のファイルにエクスポートする必要があります。外部ファイルは、選択したデータ修正方法およびデータ標準化方法で使用する必要があります。

- 3** Oracle CRM On Demand へのこの住所のインポートに重複データが含まれないように、また、関連付けられている住所を使用して取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのデータが設定できるように、データを修正し、書式を再設定します。

エクスポート操作の後には、複数の重複や無効な住所が存在する可能性があります。たとえば、以前のリリースでは住所が共有されていなかったため、同じ場所にいる複数の担当者には同じ住所または類似した住所が設定されていました。ただし、入力やその他の誤りのために些細な違いが発生する可能性があります。発生する可能性のある住所の重複としては、レコード（たとえば、取引先）を再インポートして、そのレコードを新規に作成された共有住所レコードに関連付けた場合に、以前のリリースからの既存の住所の関連が削除されないことがあります。したがって、次のことを実行する必要があります。

- インポートする住所データを準備するときに、データを検証して重複レコードを削除します。
- 取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードを共有住所バージョンの住所データに関連付けることを決定した場合は、非共有の既存の住所データをそれらのレコードに関連付けるための所有権を取得します。つまり、削除と関連付けの解除、および非共有の既存の住所データを保持するかどうかの選択を明確にする必要があります。

インポート用のデータを準備する方法は、次のトピックを参照してください。

- [住所フィールド：インポートの準備](#) (ページ 559)
- [取引先フィールド：インポートの準備](#) (ページ 547)
- [担当者フィールド：インポートの準備](#) (ページ 584)
- [自動車ディーラーのフィールド：インポートの準備](#)

■ パートナーフィールド：インポートの準備 (ページ 659)

4 住所レコードデータのインポート：

a 住所データのインポートファイル名および適切なマッピングファイルを選択します。

b インポートを完了させます。

共有住所のトップレベルレコードデータのインポートは、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードデータをインポートするための前提条件です。データのインポート方法については、「[データのインポート](#) (ページ 703)」を参照してください。

5 取引先のレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートで取引先が作成され、共有住所と取引先が関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート](#) (ページ 703)」を参照してください。

6 担当者のレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートで担当者が作成され、共有住所と担当者が関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート](#) (ページ 703)」を参照してください。

7 自動車ディーラーのレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートで自動車ディーラーが作成され、共有住所と自動車ディーラーが関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート](#) (ページ 703)」を参照してください。

8 パートナーのレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートでパートナーが作成され、共有住所とパートナーが関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート](#) (ページ 703)」を参照してください。

9 データが正しくインポートされたことを確認します。

10 企業での適切な役割に対応するページレイアウトを設定し、ページレイアウトに対する適切なアクセス権をユーザーに割り当てます。

11 役割管理ウィザードのステップ 2 でユーザーの役割を更新し、[レコードタイプアクセス] 役割を割り当てます。

このステップを完了しないと、ユーザーは住所レコードを表示できません。たとえば、ユーザーが住所レコードと取引先を関連付けようとすると、エラーメッセージが表示されます。

12 企業プロフィールで [共有アドレスの有効化] 設定を選択し、共有住所を有効にします。

13 Oracle CRM On Demand 外部にあるアプリケーションを使用して住所を有効としてマークする場合や、住所のピックアップリスト、住所の検索、および住所の関連付けで、検証済みの住所のみを使用する場合は、企業プロフィールで [共有アドレスの検証] 設定を選択します。

注：住所レコードの検証日は、住所が [検証済み] にマークされるように設定する必要があります。詳細は、「共有住所への検証済みのマーク付け」を参照してください。

14 (オプション) インポートされたデータが正しいことを確認した後は、Web サービスを使用して既存の非共有住所データを削除できます。

Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項

共有住所をオンにした後でオフに切り替えると、その時点以降に作成される住所は非共有住所になります。つまり、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーに対して作成される新規の住所は、そのレコードにのみ作成され、他のレコードとは共有されません。ただし、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードで以前に共有されていた住所レコードは、そのレコードが編集されるまでは引き続き共有されます。たとえば、住所を共有する3つの取引先 (A、B、C) がある場合は、共有住所をオフにした後も、3つの取引先の住所は引き続き共有されます。たとえば、ユーザーが取引先 A の住所を編集すると、Oracle CRM On Demand により取引先 A に新しい非共有の住所レコードが作成されますが、取引先 B および C では、それぞれの住所が編集されるまで、共有住所が引き続き使用されます。

注：共有住所をオフに切り替える前に、必要に応じて、社内のエンドユーザーに対する住所レコードへのアクセス権を削除し、ユーザーの役割から [アドレスの管理] 権限を削除し、ページレイアウトをリセットする必要があります。このアクセスおよび権限の削除手順の詳細は、「共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび [アドレスの管理] 権限の更新 (ページ 85)」を参照してください。

共有住所機能をオンにした後、この機能をオフに切り替える場合は、次の事項を考慮します。

- **企業の管理者は、カスタマイズページにアクセスできます。** [アドレスの管理] 権限がある企業の管理者は、Oracle CRM On Demand のカスタマイズページに引き続きアクセス可能で、住所レイアウト、フィールド管理などの操作を続行できます。
- **ユーザーは、非共有の新しい請求先住所または出荷先住所を作成できます。** 取引先、自動車ディーラー、またはパートナーを新規に作成するユーザーは、非共有の新しい請求先または出荷先住所 (あるいはその両方) を作成できます。担当者を新規に作成するユーザーは、非共有の新しいプライマリ担当者の住所を作成できます。新しい住所は新規に作成されたレコードにのみ関連付けられ、トップレベルの [住所] タブでは使用できません。
- **ユーザーは、住所のみを編集できます。** 共有住所がオフに設定されているため、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーを編集するユーザーは、その取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードの住所のみを編集できます。編集している住所レコードが以前は共有住所であった場合は、Oracle CRM On Demand により新規の住所が作成されますが、新規の住所は編集対象レコードにのみ関連付けられ、トップレベルの [住所] タブでは使用できません。編集している住所レコードが以前から共有住所でなかった場合は、住所が編集され、Oracle CRM On Demand によって新規の住所が作成されることはありません。
- **孤立して削除された住所が作成される可能性があります。** 取引先、自動車ディーラー、またはパートナーから請求先または出荷先住所を削除すると、取引先、自動車ディーラー、またはパートナーの孤立して削除された住所となります。同様に、担当者からプライマリ住所を削除すると、担当者の孤立して削除された住所となります。

共有住所のオフへの切り替えの詳細は、「[企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」の「共有アドレスの有効化」設定の情報を参照してください。

共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび「アドレスの管理」権限の更新

企業の管理者は、共有住所をオフに切り替える前に、次のことを実行する必要があります。

- 住所レコードの読み取りができるようにユーザーのアクセス権を変更します。
- ユーザーの役割から「アドレスの管理」権限を削除します。

作業前の準備。自分自身が企業の管理者で、アクセスプロフィールウィザードおよび役割管理ウィザードを使用できる必要があります。

共有住所をオフに切り替える前にユーザーのアクセスプロフィールを更新するには

- 1 次の手順で、「住所」レコードタイプのアクセスレベルを設定します。
 - a 「管理」、「ユーザー管理」、「アクセス」、「アクセスプロフィール」の順にクリックします。
 - b ユーザーのアクセスプロフィールの「編集」メニュー項目をクリックします。
 - c アクセスプロフィールウィザードのステップ 2 で、「住所」レコードタイプのアクセスレベルを「読み込み」に設定し、「終了」をクリックします。
- 2 次の手順で、「アドレスの管理」権限をオフに切り替えます。
 - a 「管理」、「ユーザー管理」、「アクセス」、「役割管理」の順にクリックします。
 - b ユーザーの役割名の「編集」メニュー項目をクリックします。
 - c 役割管理ウィザードのステップ 4 で、「アドレスの管理」権限をオフにします。
- 3 Oracle CRM On Demand からサインアウトして再度 Oracle CRM On Demand にサインインし、変更内容が反映されていることを確認します。
- 4 次の手順で、企業プロフィールの「共有アドレスの有効化」設定をオフに切り替えます。
 - a 「管理」、「企業管理」、「企業プロフィール」の順にクリックします。
 - b 「共有アドレスの有効化」設定をオフに切り替えます。
 - c Oracle CRM On Demand からサインアウトして再度 Oracle CRM On Demand にサインインし、変更内容が反映されていることを確認します。

アクセスプロファイルウィザードを使用したアクセスレベルタイプの指定の詳細は、「[プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定](#) (ページ 295)」を参照してください。役割管理ウィザードを使用したユーザーの役割に対する権限の指定の詳細は、「[役割管理](#) (ページ 265)」を参照してください。

「関係の編集」を使用した非共有住所の住所タイプの設定

非共有住所の住所タイプは、非共有住所のレコードレベルのメニューで「関係の編集」メニュー項目を使用して設定できます。企業の管理者は、関係の編集機能を使用して、ユーザーに対して共有住所機能を使用可能にせずに、住所レコードの側面（たとえば、検索レイアウトやページレイアウト）をカスタマイズできます。

次に、「関係の編集」メニュー項目のいくつかの特徴を示します。

- デフォルトの「編集」ページでは、住所タイプを除くすべてのフィールドが読み取り専用フィールドになります。「編集」ページをカスタマイズした場合は、そのページの読み取り専用でない他のカスタムフィールドが使用可能になります。
- 「共有アドレスの有効化」設定をオンにすると、「住所」セクションのレコードレベルメニューの「関係の編集」メニュー項目は使用不可になります。この場合、ユーザーは「編集」ページを使用して、請求先、出荷先、またはプライマリの設定を編集し、別の住所を選択できます。
- 「共有アドレスの有効化」設定がオフで、トップレベルの住所レコードに対する「アドレスの管理」権限および「アクセス可能」権限がユーザーに付与されている場合は、「住所」セクションのレコードレベルのメニューで「新規」または「編集」をクリックすると、トップレベルの「住所」の新規または編集ビューに移動します。

作業前の準備。「共有アドレスの有効化」設定はオフ、「アドレスの管理」権限はオンにしておきます。

「関係の編集」メニュー項目を使用して非共有住所の住所タイプを設定するには

- 1 取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードの「詳細」ページで、「住所」関連情報セクションに移動します。
- 2 レコードレベルのメニューから、「関係の編集」を選択します。
- 3 タイプのピックリストから、住所タイプを選択します。
デフォルトで使用可能な住所タイプは、「居住施設」、「事務所」、「別荘」、「その他」、「バニティ」、「個人」、「郵便」、「病院」、および「クリニック」です。

住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定

トップレベルの住所レコードにアクセスし、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーで住所を共有するには、プロファイルおよびユーザーの役割に適切な設定が必要です。企業の管理者は、これらの各レコードの特定の役割に対するアクセスをユーザーのアクセスプロファイルに割り当てます。

共有住所の多対多関係には、次のアクセスレベルを割り当てることができます。

- トップレベルの住所レコードには、次のレベルを割り当てることができます。
 - 読み取り専用
 - 読み取り/編集

- 読み取り/編集/削除
- 取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーの住所関連情報セクションの住所レコードには、次のレベルを割り当てることができます。
 - アクセスなし
 - 読み取り専用
 - 読み取り/作成
 - 読み取り/作成/編集
 - 読み取り/編集
 - 読み取り/編集/削除
 - 全部

共有住所機能に対するアクセスを制御する権限および設定

次の権限および設定を使用して、共有住所機能に対するアクセスを制御します。

- **【アドレスの管理】権限。** [住所] フィールドの設定ページへのユーザーのアクセス、およびアクセスプロファイルウィザードおよび役割管理ウィザードの [住所] レコードの可用性を制御します。
- **【共有アドレスの検証】権限。** 検証日を設定することで、ユーザーが住所を検証できるかどうかを制御します。
- **【共有アドレスの有効化】設定。** トップレベルの住所レコードを共有できるかどうか、さらに取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードの住所で、共有または非共有機能を使用するかどうかを制御します。

【共有アドレスの有効化】設定がオフで、【アドレスの管理】権限が選択されている場合、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードで使用できるのは、住所の非共有機能のみとなります。このオプションには、【企業の管理】権限を持つユーザーが、企業プロフィールでアクセスできます。
- **【共有アドレスの検証】設定。** Oracle CRM On Demand が企業の共有住所を検証するかどうかを制御します。この設定がオンの場合、ユーザーは、検証済みの共有住所を選択して取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードに追加できます。未検証の住所は、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードからフィルター処理され、これらのレコードの [新規] 住所ボタンは使用不可になります。この設定には、【企業の管理】権限を持つユーザーが、企業プロフィールでアクセスできます。

【共有アドレスの検証】設定がオフの場合は、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードで、すべての住所が使用可能になります。つまり、フィルター処理は実行されず、必要な権限があるユーザーに対しては、これらのレコードの [新規] 住所ボタンが有効になります。

次の表に、様々な設定および権限が共有住所のタスクを実行するのに必要かどうか、および共有住所機能に対する関係を示します。

タスク	【共有アドレスの有効化】設定	【アドレスの管理】権限	最小限必要な共有住所の権限	【共有アドレスの検証】権限
共有住所の住所ページおよび住所フィールドのカスタマイズ	いいえ	はい	なし	いいえ
取引先または担当者の住所形式の非共有から共有への変更	はい	いいえ	なし	いいえ

タスク	【共有アドレスの有効化】設定	【アドレスの管理】権限	最小限必要な共有住所の権限	【共有アドレスの検証】権限
共有住所の検証	いいえ	いいえ	読み取り/編集	はい
共有住所のアクセスプロファイルの更新	いいえ	はい	なし	いいえ
取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーの間での住所の共有	はい	いいえ	読み込み	いいえ
役割管理ウィザードでの住所レコードの有効化	いいえ	はい	なし	いいえ
【住所】タブのアクセス	いいえ	いいえ	読み込み	いいえ
住所ホームページ]、[詳細]、および [編集] ページのアクセス	いいえ	いいえ	読み込み [編集] ページには [編集] アクセス権が必要です。	いいえ
対応するレコードの [取引先住所]、[担当者住所]、自動車ディーラー住所、またはパートナー住所セクションの更新	はい	いいえ	読み込み	いいえ

アプリケーションカスタマイズ

各企業は、従業員の生産性を向上させるために、データの収集、記録方法、使用する用語、および情報の提示方法について、それぞれ固有の要件を持っています。アプリケーションカスタマイズにより、企業のさまざまな要件（ページレイアウト、フィールド管理、リストアクセス要件など）に合わせて Oracle CRM On Demand をカスタマイズできます。

以下の例は、アプリケーションのカスタマイズ方法を示しています。

例 1：すべてのセールス要員が、すべての担当者レコードに電子メールアドレスを含めるようにしたい場合があります。この要件を満たす最適な方法は、[電子メール] フィールドを必須フィールドにすることです。こうすれば、誰が新しい担当者レコードを作成したとしても、その担当者レコードに電子メールアドレスが含まれていない限り、作成者はその担当者レコードを保存できません。

例 2：従業員は 2 つのグループに分けられ、それぞれが取引先ページで異なる情報を追跡する必要があるとします。この要件を満たすには、グループごとに異なる取引先ページレイアウトを作成し、役割の割り当てによって適切なアクセス権を提供します。

[アプリケーションカスタマイズ] ページには次の 2 つのセクションがあります。

- **レコードタイプセットアップ。** トップレベルのレコードタイプごとにリンクがあります。リンクをクリックすると、レコードタイプ固有のカスタマイズページに移動します。企業の設定によっては、業種固有のレコードタイプが Oracle CRM On Demand に表示されない場合があります。また、企業の特定のニーズに応じて、業種固有のレコードのカスタマイズ

ズが必要になる場合があります。個々の「アプリケーションカスタマイズ」ページから実行できるタスクの詳細は、「[レコードタイプ別の「アプリケーションカスタマイズ」ページ](#) (ページ 90)」を参照してください。

- **アプリケーションセットアップ。**レコードタイプに依存しない各種カスタマイズ機能へのリンクがあります。トピックをクリックすると、「アプリケーションセットアップ」セクションから実行できる以下の手順の説明を表示します。
 - [外部 Web ページのタブでの表示](#) (ページ 191)
 - [ピックリスト値グループの作成](#) (ページ 198)
 - [アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理](#) (ページ 206)
 - [グローバル Web アプレットの作成](#) (ページ 200)
 - [クライアント側拡張のアップロード](#) (ページ 202)
 - [カスタム HTML ヘッド追加の管理](#) (ページ 205)
 - [アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理](#) (ページ 206)
 - [企業の「ホームページ \(個人\)」のカスタマイズ](#) (参照 "企業の「個人ホームページ」のカスタマイズ" ページ 209)
 - [「ホームページ \(個人\)」でのカスタムレポートの有効化](#) (ページ 210)
 - [レコードタイプの名前変更](#) (ページ 212)および[レコードタイプの追加](#) (ページ 216)
 - [レコードタイプのアイコンの変更](#) (ページ 218)
 - [REST 統合タグのカスタマイズ](#) (ページ 219)
 - [新規テーマの作成](#) (ページ 219)
 - [カスタムアイコンセットのアップロードおよび管理](#) (ページ 214)
 - [カスタムグローバルヘッダーアイコンのアップロードと管理](#) (ページ 215)
 - [共有レコードの前の所有権のカスタマイズ](#) (ページ 227)

注：「ホームページ (個人) レイアウト」および「ホームページ (個人) カスタムレポート」機能の場合は、「ホームページカスタマイズアクセスを管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

作業前の準備：

- アプリケーションカスタマイズの手順を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズ」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 自分のビジネスニーズを理解しておく必要があります。
 - ビジネス所有者と話し合い、そのビジネスプロセスとアプリケーションに関するニーズを確認します。
 - そのニーズをサポートするために必要なフィールド、表示名、ピックリストの値、その他のカスタムフィールドを決定します。
 - インターフェイスでフィールドをレイアウトする方法と、必須のマークを付けるフィールドを決定します。
 - フィールド設定およびページレイアウトテンプレート（トレーニングおよびサポートセンターのツールおよびテンプレートエリアから入手可能）を使用して、アプリケーションカスタマイズ要件の文書化を容易にすることができます。

注意：Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「[Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項](#) (ページ 202)」を参照してください。

レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ

各レコードタイプには、そのレコードタイプに対して実行できるカスタマイズタスクのリンクを含む [アプリケーションカスタマイズ] ページがあります。

次の表では、[アプリケーションカスタマイズ] ページに表示される各セクションについて説明し、そのセクションに含まれるリンクをクリックしたときに実行できるタスクの一覧を示します。表示されるセクションはレコードタイプによって異なり、一部のセクションは特定の権限を含む役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。すべてのカスタマイズ手順で、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限が必須です。

[コール活動履歴] レコードタイプの場合、Oracle CRM On Demand では、ユーザーインターフェースのフィールド管理のカスタマイズのみがサポートされます。コール活動履歴に関するフィールドおよびレコードカスタマイズの詳細は、管理 Web サービスを使用して読み取ることができます。フィールド管理カスタマイズについては次の表で説明します。

注: 次の表に示すトピックでは、レコードタイプの名前のプレースホルダが、イタリック体の *レコードタイプ* という語で表されています。たとえば、取引先に関して作業している場合は、[*レコードタイプ* フィールド監査セットアップ] リンクの *レコードタイプ* を *取引先* に置き換えてください。

セクション	タスク	必要な追加権限
フィールド管理	フィールドの名前変更、カスタムフィールドの作成、ピックリスト値の管理、フィールドのデフォルト値の指定、フィールド検証の設定およびフィールドがコピー可能かどうかの選択。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 フィールド管理について (ページ 92) カスタムフィールドについて (ページ 99) フィールドの作成と編集 (ページ 110) コピー有効設定の管理 (ページ 120) フィールドラベルの管理 (ページ 132) インデックス付きカスタムフィールドの使用 (ページ 133) ピックリスト値の変更 (ページ 137) ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング (ページ 139) 設定をデフォルトに戻す (ページ 137)	なし
	デフォルトフィールドおよびフィールド検証の高度な定義	高度なフィールド管理
ページレイアウト管理	静的ページレイアウトの作成と管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 静的ページレイアウトのカスタマイズ (ページ 142) 関連項目レイアウトのカスタマイズ (ページ	なし

セクション	タスク	必要な追加権限
	140) フィールドセクションタイトルの名前変更 (ページ 150) 新しいレコードの作成に使用できるページレイアウトの作成およびカスタマイズについては、次を参照してください。 新しいレコードを作成するためのページレイアウトのカスタマイズ (ページ 149) 詳細ページレイアウトで使用可能な Web アプレットの作成と管理。次のトピックを参照してください。 レコードタイプの Web アプレットの作成 (ページ 153) 高度なページレイアウト管理については、「動的ページレイアウトの指定 (ページ 181)」を参照してください。	
カスケード式ピックリスト	カスケード式ピックリストの定義と管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 カスケード式ピックリストの定義 (ページ 164)	なし
検索およびリストレイアウト管理	ターゲット検索フィールドの指定と検索結果のレイアウトの管理。ルックアップウィンドウの動作の管理とスマート関連付けの有効化。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 検索レイアウトの管理 (ページ 167)	なし
リストアクセスと順序	各役割のデフォルトリストアクセスおよび表示順序の管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 リストアクセスおよびリスト順序の管理 (ページ 171)	なし
ホームページレイアウト管理	ホームページレイアウトの作成と管理、およびホームページに表示するカスタムレポートの指定。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 レコードホームページレイアウトの作成 (ページ 175) ホームページカスタムレポートの作成 (ページ 176)	アプリケーションのカスタマイズ - ホームページのカスタマイズ化の管理

セクション	タスク	必要な追加権限
	ジ 172)	
フィールド監査セットアップ	企業のフィールド監査証跡のカスタマイズ。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 監査証跡のカスタマイズ (ページ 176)	フィールド監査の管理 この機能は、特定のレコードタイプに対してのみ使用できます。
動的レイアウト管理	動的ページレイアウトの作成と管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 動的ページレイアウトの指定 (ページ 181)	アプリケーションのカスタマイズ - 動的レイアウトの管理

一部のレコードタイプについては、そのレコードタイプのリンクと関連レコードタイプのリンクが [フィールド管理] および [ページレイアウト] セクションに表示されます。たとえば、取引先の [アプリケーションカスタマイズ] ページには、以下のリンクが表示されます。

- [取引先フィールドセットアップ](#)
- [取引先担当者フィールドセットアップ](#)
- [取引先パートナーフィールドセットアップ](#)
- [取引先関係フィールドセットアップ](#)
- [取引先チームフィールドセットアップ](#)

フィールド管理について

Oracle CRM On Demand では、さまざまなレコードタイプについて、以下のフィールド管理タスクを実行することができます。

- [フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)
- [フィールドラベルの管理](#) (ページ 132)
- [ピックリスト値の変更](#) (ページ 137)

カスタムフィールドを作成したり、フィールド定義を編集したりするときには、フィールドのデフォルト値を指定できます。指定したデフォルト値は、新規レコードの作成時に有効となります。また、フィールドが特定の値を必要とするときは、それを確認するフィールド検証を実行するように指定できます。

フィールドのコピーについて

Oracle CRM On Demand のほとんどのレコードタイプには、コピー機能が用意されています。つまり、ユーザーは使用中の現在のレコードをコピーできます。ユーザーがレコードの詳細ページの [コピー] ボタンをクリックすると、新しいレコードページが開きます。この新しいレコードページには、コピー可能なすべてのフィールドが含まれています。ユーザーはこれらのフィールドを変更して保存できます。

注: [コピー] ボタンを使用する場合は、基本レコードのみコピーされ、関連項目と子レコードはコピーされません。

コピー機能の使用時には次の制限事項が適用されます。

- Web リンク、連結フィールド、システムフィールド、住所フィールド、計算結果フィールドおよび参照フィールドはコピーできません。これらの項目については、[コピー有効] チェックボックスを使用できません。
- 読み取り専用フィールドはコピーできません。読み取り専用フィールドとは、フィールドセットアップまたはフィールドレイアウトで読み取り専用として設定されるフィールドです。
- ユーザーのフォームレイアウトで使用できないフィールドはコピーできません。
- 次の添付資料フィールドはコピーできません。
 - 添付資料
 - 添付資料: ファイル名
 - 添付資料: サイズ (バイト)

フィールドをコピーするには、Oracle CRM On Demand のレコードの詳細ページで [コピー] ボタンを使用します。この設定を有効にするには、Oracle CRM On Demand の [アプリケーションカスタマイズ] セクションの [フィールド管理] ページにある [コピー有効] チェックボックスを使用します。Oracle CRM On Demand でコピー可能なフィールドの指定の詳細は、「[コピー有効設定の管理](#) (ページ 120)」を参照してください。

必須フィールド

さまざまな状況において、フィールドを必須フィールドとして定義することができます。たとえば、すべてのサービスリクエストについて、その原因に関する情報を追跡する必要がある場合などです。この場合は、サービスリクエストの [原因] フィールドが必須フィールドになるように指定します。これにより、レコードが作成または更新され、保存されるとき、アプリケーションは [原因] フィールドが NULL でないことを検証します。

フィールドを必須フィールドとして指定すると、ユーザーインターフェイス、Web サービス、データインポートなど、すべてのインターフェイスで検証が実施されます。

[フィールド編集] ページで必須フィールドとして指定したフィールドは、役割に関係なく、すべてのユーザーにとって必須フィールドとなります。特定の役割に対してだけ必須フィールドとしたい場合は、まだ必須フィールドではないフィールドに対して適切なページレイアウトを編集することができます。ページレイアウトの編集の詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

条件付き必須フィールド

フィールドを条件付き必須、つまり、デフォルトではフィールドが必須でなくても、定義された条件を満たすと必須になるように設定できます。詳細は、「[条件付き必須フィールドについて](#) (ページ 108)」を参照してください。

読み取り専用フィールド

次のような場合には、フィールドを読み取り専用フィールドとして定義します。

- **外部ソースからのフィールド。**たとえば、企業が取引先の信用度を外部システムで追跡する場合、夜間に行うインポートによって信用度を定期的に更新するが、UI ではフィールドを読み取り専用にするということが考えられます。
- **既存のフィールドをカスタムのインデックス付きフィールドに変更する:** インデックス付きカスタムフィールドの 1 つを既存のカスタムフィールドで使用する場合は、ユーザーには古いフィールドへの読み取り専用アクセスのみを許可してお

いて、データを新しいインデックス付きフィールドに移動することができます。このようにフィールドを定義すれば、データの同期がずれるのを避けることができます。

注意: 特定のシステムフィールドは常に読み取り専用であり、Oracle CRM On Demand によってのみ更新できます。常に読み取り専用のフィールドの例としては、[作成]フィールドおよび[作成 : 日付]フィールドがあり、それらは両方とも多くのレコードタイプで使用可能となっています。

カスタムフィールド検証ルール

Oracle On Demand Expression Builder (Expression Builder) を使用して、カスタムフィールド検証ルールの式を作成できます。[フィールド検証] フィールドの横にある [fx] アイコンをクリックすると、[Expression Builder] ウィンドウが表示され、そこに式を入力できます。式に使用できる構文については、「[Expression Builder](#) (ページ 766)」を参照してください。

次のような場合に、カスタムフィールド検証ルールを定義します。

- **企業方針の徹底。**たとえば、MDF の有効期間は 1 年以内でなければならないという企業方針が企業にあるとします。この場合は、[終了日] フィールドに関する検証ルールを適切に定義することで、フィールド値が開始日から 1 年を超える値にならないようにすることができます。

別の例として、予想売上が \$100,000 を超える商談が不成約になった場合はその理由を追跡する、という企業方針があるとします。この場合、[状態] フィールドに検証ルールを設定して、[状態] フィールドが[不成約]に設定された商談レコードをユーザーが保存しようとする、と予想売上が \$100,000 以上か、および[成約/不成約の原因]フィールドが空白かどうかを Oracle CRM On Demand で判断されるようにしています。検証に失敗したときに表示されるメッセージを設定することもできます。この場合、レコードを保存する前に[成約/不成約の原因]フィールドの値を選択する必要があることを警告するメッセージがユーザーに表示されます。

注: 特定の状況でのみ[成約/不成約の原因]フィールドを必須にする必要があるようなビジネスプロセスの場合は、[成約/不成約の原因]フィールドを条件付き必須フィールドとして設定することもできます。詳細は、「[条件付き必須フィールドについて](#) (ページ 108)」を参照してください。

- **データ形式の徹底。**たとえば、企業がヨーロッパの取引先に付加価値税 (VAT) 番号を使用している場合は、取引先の請求先住所に基づいて、正しい VAT 形式の検証を指定することができます。もう 1 つの例として、特定のカスタムフィールドの値が必ず 4 桁となるように指定することができます。

次の場合は、フィールド検証式が評価されないようにします。

- レコードの作成または変更時にフィールドは空のままになります。フィールド検証では値が必要とされません。
- フィールドには既存の無効な値があり、更新時に変更されません。

検証式が評価されない場合、または検証式が NULL と評価される場合は、エラーメッセージが生成されません。検証式が失敗する（すなわち、式が FALSE と評価される）場合のみエラーメッセージが生成されます。

フィールド検証式は、最初のパラメータがフィールド名自体であると想定します。たとえば、[金額] フィールドの単純なフィールド検証式を値が 1000 より大きくなるように指定する場合は、「>1000」と入力すれば十分です。「[<金額>]>1000」と入力する必要はありません。より複雑な式の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

フィールド検証ルールの指定に関する制限事項

以下のタイプのフィールドに対しては、フィールド検証ルールを指定できません。

- システムフィールド
- 内部計算結果フィールド

- 行 ID および ID フィールド

注: Row_ID は内部システムフィールドです。レコード作成中などの操作の遷移によって、Row_ID が常に静的であることは保証されません。ExternalSystemID または IntegrationID に変化する場合があります。

- 関連フィールド

- 複数選択ピックリストフィールド

- フィールドを除外するようにユーザープロパティが設定されているフィールド。このタイプのフィールドは、アプリケーションコードの既存のビジネスロジックに反しないようにするために、例外に基づいて設定されます。

- Web リンク

- 連結フィールド

- 次の添付資料フィールド:

- 添付資料
- 添付資料: ファイル名
- 添付資料: サイズ (バイト)

デフォルトフィールド値の定義について

フィールドのデフォルト値は、カスタムフィールドの作成時、またはフィールド定義の編集時に、[フィールド編集] ページの [デフォルト値] フィールドで指定することができます。

デフォルト値の指定は、フィールドに対して次のような要求がある場合に役立ちます。

- フィールドの値を一定にする。たとえば、新規レコードの作成時に、[取引先タイプ] フィールドの値がデフォルトの [顧客] となるようにできます。
- 式に基づいた値をデフォルトにする。たとえば、資金リクエストの [締切日] フィールドのデフォルト値として、[作成日] フィールドの値から 6 か月後という値を取るようにすることができます。
- フィールドに固有の値を生成する。たとえば、固有の数値を [経費レポート] フィールドの ID として生成する式を指定することができます (このフィールドは読み取り専用でもあります)。
- 役割に固有のデフォルト値を指定する。たとえば、サービスリクエスト (SR) の大部分が顧客サービス要員 (CSR) によって作成される企業では、デフォルトで再割当フラグフィールドを選択することができます。これは、セールス要員が SR を開いた場合は、事前に定義された割当ルールに基づいて SR が正しい CSR にルーティングされるようにするためです。

注: これらの多くは、[高度なフィールド管理] 権限を含む役割が割り当てられている場合にのみ可能です。

フィールドのデフォルト値には、次の 2 つのタイプがあります。

- **事前デフォルト。** ユーザーが新しいレコードを作成すると、指定された値がこのフィールドに事前入力されます。ユーザーは、デフォルト値を上書きするか、デフォルト値を受け入れることができます。
- **事後デフォルト。** ユーザーが新しいレコードを作成したときには、指定された値がフィールドに事前入力されることはありませんが、以下の場合にレコードが保存されると、フィールドは指定されたデフォルト値を取ります。
 - ユーザーがフィールドに何も入力しなかった。
 - フィールドがレイアウトに表示されていない。
 - 統合ツールによって値が入力されていない。

事前デフォルトは、フィールド値のデフォルトタイプです。事後デフォルトを指定するには、[フィールド編集] ページでその名前のチェックボックスをオンにします。

注:事後デフォルトフィールドの値は Offline client ではサポートされていないため、空のフィールドとして表示されます。

デフォルトフィールド値は、新しいレコードのみに適用され、レコードの更新には適用されません。

システムですでにデフォルト値が指定されているフィールドにデフォルト値を指定する場合は、個人の値が企業の値より優先されます。このルールの例外は、商談レコードの[売上] フィールドです。このフィールドは商談売上に基づいた売上予想の生成に使用されるので、このフィールドに指定されるすべてのデフォルト値およびその後指定される値は無視されます。

次のタイプのフィールドにデフォルト値を設定することはできません。

- システムフィールド

- 内部計算結果フィールド

- 行 ID および ID フィールド

注:Row_ID は内部システムフィールドです。レコード作成中などの操作の遷移によって、Row_ID が常に静的であることは保証されません。ExternalSystemID または IntegrationID に変化する場合があります。

- 関連フィールド

- 複数選択ピックリストフィールド

- フィールドを除外するようにユーザープロパティが設定されているフィールド。このタイプのフィールドは、アプリケーションコードの既存のビジネスロジックに反しないようにするために、例外に基づいて設定されます。

- Web リンク

- 連結フィールド

- チェックボックス (事後デフォルトの値)

- 次の添付資料フィールド:

- 添付資料

- 添付資料: ファイル名

- 添付資料: サイズ (バイト)

次の表では、Oracle CRM On Demand の様々なフィールドタイプに指定できるデフォルト値について説明します。

フィールドのタイプ	有効なデフォルト値
チェックボックス	チェックボックスをオンにし、ブール値が true の場合は Y。 チェックボックスをオフにし、ブール値が false の場合は N。 ブランクは、チェックボックスがオフのように考えられがちですが、未定義値を表します 注: チェックボックスフィールドに対して事後デフォルトを選択することはできません。
通貨	有効な数値は最大 15 桁です。
日付	Today + number。number は特定の日数を表します。デフォルトの日付は、今日の日付と入力された数値の和として計算されます。たとえば、今日

フィールドのタイプ	有効なデフォルト値
	が 2008 年 1 月 1 日の場合、「Today + 7」と入力すると、デフォルト値は 2008 年 1 月 8 日に設定されます。
日時	「日付」フィールドタイプの場合と同じですが、新規レコードが開かれた時刻も示されます。
整数	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
複数選択ピックリスト	複数選択ピックリストのデフォルト値は定義できません。
メモ	16350 文字以内のテキスト値。
数値	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
率	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
電話	有効な電話番号。
ピックリスト	選択したピックリスト値が、フィールドのデフォルト値になります。
テキスト (長い)	255 文字以内のテキスト値。
テキスト (短い)	カスタムフィールドおよび大半の事前設定済みフィールドに対する、40 文字以内のテキスト値。ただし、一部の事前設定済みフィールドでは 40 文字を超えて入力できます。たとえば、取引先レコードタイプには 40 文字より長い名称が付けられる場合があるため、[デフォルト] フィールドの値の長さは 40 文字に制限されていません。
テキスト (短い - マスク可能)	データの一部分が一部のユーザーに非表示になっている、最大 40 文字のテキスト値。たとえば、マスク可能フィールドに 4558785236 という値が含まれている場合は、ユーザーには XXXX5236 と表示されます。マスク可能フィールド内のデータを表示するには、ユーザー役割に、[マスクされたデータの表示]権限が含まれている必要があります。詳細は、「マスク可能フィールドについて」を参照してください。
Web リンク	有効な URL。式および検証は使用できません。デフォルト値は、[Web リンク] 編集ページから設定できます。 [テキストを表示] フィールドには、最大で 250 文字を含めることができます。[URL] フィールドには、最大で 8000 文字を含めることができます。ブラウザによって URL の最大長は異なります。指定した URL が長すぎると、想定どおりに動作しないことがあります。パラメータの置換を使用している場合、URL 長は変化します。

注：デフォルト値を設定するための式を作成する場合、式の結果はフィールドの許容最大文字数を超えてはなりません。また、Expression Builderで関数に渡される文字列または数値リテラルは75文字を超えてはなりません。式ビルダーの使用の詳細は、「[Expression Builder \(ページ 766\)](#)」を参照してください。

追加事項：

- ピックリストを含むすべてのフィールドタイプについて、定数値を入力できます。次に例を示します。

Status (Task) = '開始前'

- [日付] フィールドの場合は、今日の日付からの日数を指定できます。次に例を示します。

Due Date (Fund Request) = Today() + 180

- [所有者] フィールドの場合は、<record creator> (変数) または特定のユーザーを指定することができます。

ルックアップはサポートされていないため、フィールドに直接入力する必要があります。

デフォルトフィールド値に対して複雑な式を作成することもできます。[デフォルト値] フィールドに式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開いて式を入力できます。式に使用できる構文については、「[Expression Builder \(ページ 766\)](#)」を参照してください。

フィールド管理で Expression Builder を使用するには、ユーザー役割に [高度なフィールド管理] 権限が含まれている必要があります。管理者の役割を持つユーザーは、自分自身の役割および他の役割に対してこの権限を有効にすることができます。

レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて

Oracle CRM On Demand のリリース 20 からは、ブックをサポートするほとんどのレコードタイプで、3 つのレコード所有権モード（ユーザーモード、ブックモード、および混合モード）が提供されます。リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand で作成された既存の企業の場合、3 つのレコード所有権モードをサポートするレコードタイプに対するデフォルトのレコード所有権モードはユーザーモードですが、例外として、[サービスリクエスト] レコードタイプはデフォルトで混合モードに設定されます。新しい企業の場合は、混合モードが、3 つのレコード所有権モードをサポートするレコードタイプに対するデフォルトのレコード所有権モードです。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて \(ページ 307\)](#)」を参照してください。

レコードタイプのレコード所有権モードは、レコードタイプの [所有者] フィールドおよび [ブック] フィールドの設定によって決まり、レコードタイプのページレイアウトは、レコード所有権モードを反映する必要があります。次の表に、各レコード所有権モードの [所有者] フィールドおよび [ブック] フィールドの設定を示します。フィールドの設定の詳細は、「[フィールドの作成と編集 \(ページ 110\)](#)」を参照してください。

レコード所有権モード	[所有者] フィールドの [必須] 設定	[ブック] フィールドの [必須] 設定	その他の設定の詳細
ユーザーモード	はい	いいえ	なし。
ブックモード	いいえ	はい	(オプション) [所有者] フィールドを読み取り専用を設定します。
混合モード	いいえ	いいえ	なし。

次の表に、各レコード所有権モードのページレイアウト情報を示します。ページレイアウトのカスタマイズの詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ \(ページ 142\)](#)」および「[動的ページレイアウトの指定 \(ページ 181\)](#)」を参照してください。

レコード所有権モード	ページレイアウトの設定

レコード所有権モード	ページレイアウトの設定
ユーザーモード	レコードタイプに使用する〔詳細〕 ページの各レイアウトに〔所有者〕 フィールドを表示し、必須フィールドにする必要があります。 〔詳細〕 ページの各レイアウトに〔ブック〕 フィールドを表示する場合、〔ブック〕 フィールドは必須フィールドにしないでください。
ブックモード	レコードタイプに使用する〔詳細〕 ページの各レイアウトに〔ブック〕 フィールドを表示し、必須フィールドにする必要があります。 〔詳細〕 ページの各レイアウトに〔所有者〕 フィールドを表示する場合、〔所有者〕 フィールドは必須フィールドにしないでください。
混合モード	レコードタイプの〔詳細〕 ページのレイアウトには、必要に応じて〔所有者〕 フィールドまたは〔ブック〕 フィールド、あるいはその両方を表示できます。ページレイアウトでは、〔所有者〕 フィールドおよび〔ブック〕 フィールドを必須フィールドにしないでください。 注: レコードタイプが混合モードに設定されている場合でも、レコードタイプに対するページレイアウトで〔所有者〕 フィールドまたは〔ブック〕 フィールドのいずれかを必須フィールドとして指定できます。〔所有者〕 フィールドが必須の場合、デフォルトでは、ユーザーが新しいレコードページを開いたときに〔所有者〕 フィールドは空白ですが、レコードを保存する前にレコードの所有者を選択する必要があります。〔ブック〕 フィールドには、レコード所有者のユーザーブックの名前が表示されます。ページレイアウトで〔ブック〕 フィールドが必須の場合、ユーザーはレコードを保存する前にプライマリカスタムブックを選択する必要があります。ただし、レコードタイプを完全に混合モードにする場合は、レコードタイプに対するページレイアウトで〔所有者〕 フィールドまたは〔ブック〕 フィールドのいずれかを必須フィールドとして指定しないでください。

カスタムフィールドについて

Oracle CRM On Demand には、ほとんどの組織が必要とするデフォルトフィールドが用意されています。しかし、既存のコードのフィールドに対応するフィールドが Oracle CRM On Demand にない場合があります。そのような場合には、カスタムフィールドと呼ばれる新しいフィールドを作成して、企業に固有のニーズをサポートすることができます。この必要は、Oracle CRM On Demand にインポートする既存のレコードがある場合に生じる可能性があります。

カスタムフィールドには次の特徴があります。

- 割当ルール、レポート、フィルター済みリスト、およびターゲット検索で使用できます。

注:パフォーマンス上の理由から、一部のカスタムフィールドはリストの並べ替えに使用できません。Web リンクおよび連結フィールドは、割当ルール、レポートおよびターゲット検索では使用できません。Expression Builder では、マスク可能フィールドは割当ルール、レポートまたは式では使用できません。レポートでのカスタムフィールドの使用の詳細は、「レポートの制限について」を参照してください。

- 削除できません。
- カスタムページレイアウトに明示的に追加しない限り表示できません。
- レコードタイプ間で継承されません。

たとえば、見込み客用に追加したカスタムフィールドは、その見込み客が商談に変換された場合は、商談に自動的に継承されません。

見込み客が商談、取引先、または担当者に変換されるときに、見込み客レコードのカスタムフィールドを転送する場合は、転送するカスタムフィールドをマップする必要があります。

- 再度サインインしないと、他のユーザーには表示できません。
- Web リンク、連結フィールド、Web サービス、およびその他の統合テクノロジーによって参照できます。

次の表では、Oracle CRM On Demand に追加できる新しいフィールドの数について説明します。これらのフィールド以外に、特定のレコードタイプ用に最適化されたフィールドを使用することもできます。これらの最適化されたフィールドは、後述の別の表にリストされています。データはほとんどのレコードタイプに使用可能なフィールドに関するものです。つまり、取引先に 100 個、担当者に 100 個、商談に 100 個というように新しいピックリストフィールドを追加できます。ピックリストの値（有効な値および無効な値）の最大数は 1000 個です。

担当者、商談およびカスタムオブジェクト 01 から 40 のレコードタイプには、[メモ] フィールドを作成できます。これらの各レコードタイプに対して最大で 3 つまでのカスタムメモフィールドを作成できます。また、取引先、担当者、ポートフォリオ、金融口座および世帯のレコードタイプには、マスク可能フィールドを作成できます。これらの各レコードタイプに対して最大で 5 つまでのマスク可能フィールドを作成できます。詳細は、「マスク可能フィールドについて」を参照してください。

注: カスタムオブジェクトレコードタイプでは、カスタム関連情報フィールドがサポートされます。作成したカスタム関連情報フィールドは、レコードタイプに対する関連フィールドタイプの合計フィールド数に対してカウントされます。たとえば、[カスタムオブジェクト 01] レコードタイプで [整数] フィールドタイプのカスタム関連情報フィールドを作成した場合、そのフィールドは、[カスタムオブジェクト 01] レコードタイプに対して作成できる [整数] フィールドタイプの 35 フィールドの 1 つです。カスタム関連情報フィールドおよびそれらの作成方法の詳細は、「[カスタム関連情報フィールドについて](#) (ページ 116)」および「[カスタム関連情報フィールドの作成](#) (ページ 118)」を参照してください。

レコードタイプ	チェックボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピックリスト
取引先	35	80	25	35	35	10
取引先担当者	35	25	25	35	35	0
取引先チーム	0	0	0	0	0	0
ビジネス計画チーム	0	0	0	0	0	0
担当者	35	25	25	35	35	10
担当者チーム	0	0	0	0	0	0

レコードタイプ	チェック ボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピック リスト
見込み客	35	25	25	35	35	10
見込み客チーム	0	0	0	0	0	0
商談	35	25	25	35	35	10
商談チーム	0	0	0	0	0	0
活動	35	25	25	35	35	10
キャンペーン	35	25	25	35	35	0
解決策	35	25	25	35	35	0
イベント	35	25	25	35	35	0
世帯	35	25	25	35	35	0
資金	35	25	25	35	35	0
ポートフォリオ	35	25	25	35	35	0
車両	35	25	25	35	35	0
サービスリクエスト	35	25	25	35	35	10
サービスリクエスト チーム	0	0	0	0	0	0
プログラム	35	35	25	35	35	0
カスタムオブジェ クト 01	35	25	25	35	35	10
カスタムオブジェ クト 02	35	25	25	35	35	10
カスタムオブジェ クト 03	35	25	25	35	35	0
自動車ディーラー	35	25	25	35	35	10
製品	35	25	25	35	35	0
資産	35	25	25	35	35	0
資金リクエスト	35	25	25	35	35	0
MDF リクエスト	35	25	25	35	35	0
パートナー	70	50	60	50	70	10
売上	35	25	25	35	35	0

レコードタイプ	チェックボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピックリスト
SP リクエスト	35	25	25	35	35	0
ユーザー	35	25	25	35	35	0
取引交渉登録	35	25	25	35	35	0
取引交渉登録売上製品	35	25	25	35	35	0
コース	35	25	25	35	35	0
試験	35	25	25	35	35	0
認定レベル	35	25	25	35	35	0
認定	35	25	25	35	35	0
カスタムオブジェクト 04 以降	35	25	25	35	35	0
この表に示したタイプ以外の業界固有のレコードタイプ	35	25	25	35	35	0
担当者関係	35	25	25	35	35	0
招待者	35	25	25	35	35	0

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリスト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク + 連結フィールド
取引先	33	30	20	100	30	70	100
取引先担当者	63	0	20	100	30	60	100
取引先チーム	0	0	0	0	0	0	20
ビジネス計画チーム	0	0	0	0	0	0	20
担当者	33	30	20	100	30	70	100
担当者チーム	0	0	0	0	0	0	20
見込み客	33	30	20	100	30	70	100

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリスト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク + 連結フィールド
見込み客チーム	0	0	0	0	0	0	20
商談	33	30	20	100	30	70	100
活動	33	30	20	100	30	45	100
キャンペーン	35	30	20	100	30	45	100
解決策	33	30	20	100	30	46	100
イベント	33	30	20	100	30	70	100
世帯	35	30	20	100	30	70	100
資金	33	30	10	100	30	45	100
MDF リクエスト	35	30	20	100	30	60	100
ポートフォリオ	33	30	20	100	30	70	100
車両	35	30	20	100	30	60	100
サービスリクエスト	33	30	20	100	30	45	100
サービスリクエストチーム	0	0	0	0	0	0	20
SP リクエスト	35	30	20	100	30	60	100
プログラム	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 01	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 02	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 03	35	30	20	100	30	60	100
自動車ディーラー	35	30	20	100	30	60	100
製品	33	30	10	100	30	45	100
資産	33	30	20	100	30	70	100
資金リクエスト	33	30	20	100	30	70	100
パートナー	68	60	30	200	60	105	100
売上	33	30	20	100	30	45	100
ユーザー	35	30	20	100	30	60	100

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリスト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク + 連結フィールド
取引交渉登録	35	30	20	100	30	60	100
取引交渉登録売上製品	35	30	20	100	30	60	100
コース	35	30	20	100	30	60	100
試験	35	30	20	100	30	60	100
認定レベル	35	30	20	100	30	60	100
認定	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 04 以降	35	30	20	100	30	60	100
この表に示したタイプ以外の業界固有のレコードタイプ	35	30	20	100	30	60	100
担当者関係	35	30	20	100	30	60	100
招待者	35	30	20	100	30	60	98

前述のフィールド以外に、次の表に、Oracle CRM On Demand で次のレコードタイプに使用可能な追加の最適化されたフィールドを示します。最適化されたフィールドの詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

レコードタイプ	チェックボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピックリスト
取引先	5	25	25	0	25	0
取引先チーム	35	25	25	25	35	0
活動	5	25	25	0	25	0
アセスメント	5	5	5	0	5	0
ビジネス計画チーム	35	25	25	25	35	0
キャンペーン	5	5	5	0	5	0
担当者	5	25	25	0	25	0
担当者チーム	35	25	25	25	35	0
カスタムオブジェクト 1-40	5	5	5	0	5	0
部署	35	25	25	35	35	0

レコードタイプ	チェック ボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピック リスト
見込み客	5	5	5	0	5	0
見込み客チーム	35	25	25	25	35	0
商談	5	25	25	0	25	0
商談チーム	35	25	25	25	35	0
製品	5	5	5	0	5	0
製品領域	35	25	25	35	35	0
売上	5	5	5	0	5	0
サービスリクエ スト	5	25	25	0	25	0
サービスリクエ ストチーム	35	25	25	25	35	0

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリス ト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク / 連結フィールド
取引先	25	0	0	25	25	25	0
取引先チーム	35	25	25	50	25	50	0
活動	25	0	0	25	25	25	0
アセスメント	5	0	0	5	5	5	0
ビジネス計画チー ム	35	25	25	50	25	50	0
キャンペーン	5	0	0	5	5	5	0
担当者	25	0	0	25	25	25	0
担当者チーム	35	25	25	50	25	50	0
カスタムオブジェ クト 1-40	5	0	0	5	5	5	0
部署	35	30	20	100	30	60	0
見込み客	5	0	0	5	5	5	0
見込み客チーム	35	25	25	50	25	50	0
商談	25	0	0	25	25	25	0

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリスト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク / 連結フィールド
商談チーム	35	25	25	50	25	50	0
製品	5	0	0	5	5	5	0
製品領域	35	30	20	100	30	60	0
売上	5	0	0	5	5	5	0
サービスリクエスト	25	0	0	25	25	25	0
サービスリクエストチーム	35	25	25	50	25	50	0

旧式カスタムフィールドの管理

Oracle CRM On Demand では、使用していないカスタムフィールドを削除できませんが、次のことは行えます。

- カスタムフィールドの使用目的の変更
- 使用されている Oracle CRM On Demand のエリアからカスタムフィールドを削除してカスタムフィールドを非表示
- カスタムフィールドを未使用としてマーク

カスタムフィールドの使用目的の変更

[項目設定]のフィールドの名前を変更して、カスタムフィールドの使用目的を変更できます。

作業前の準備。この手順を実行するには、[すべてのレコードを読み取れますか?]設定をユーザーの役割で選択する必要があります。

カスタムフィールドの使用目的を変更するには

- 1 次の該当する操作を行います。
 - a [一括削除]を使用するか、Web サービスを使用して、旧式フィールドを含む古いデータをすべて削除します。
 - b インポートアシスタントを使用してカスタムフィールドを null 値に設定します。
- 2 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。

- 4 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 5 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 6 必要なカスタムフィールドを見つけて、[修正]をクリックします。
- 7 カスタムフィールドの名前を変更します。
フィールドの編集の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。
- 8 ページレイアウト、検索レイアウト、ワークフローなど、カスタムフィールドがある Oracle CRM On Demand のエリアをレビューおよび更新します。

カスタムフィールドの非表示

旧式カスタムフィールドの目的を変更する必要があるようなビジネス要件がない場合は、ページレイアウト、検索レイアウト、ワークフローなどの Oracle CRM On Demand のエリアでフィールドをエンドユーザーに非表示にできます。

カスタムフィールドを未使用としてマーク

カスタムフィールドを編集して「未使用」などの単語を含む名前にできます。たとえば、カスタムフィールド名が[担当者番号]である場合は、[担当者番号 - 未使用]に名前を変更できます。このようにすれば、カスタムフィールドが使用されていないことがわかります。

カスタムフィールドを未使用としてマークするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 必要なカスタムフィールドを見つけて、[修正]をクリックします。
- 6 カスタムフィールドを編集して、未使用であることを示します。
フィールドの編集の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。
- 7 ページレイアウト、検索レイアウト、ワークフローなど、カスタムフィールドがある Oracle CRM On Demand のエリアをレビューおよび更新します。

条件付き必須フィールドについて

デフォルトではフィールドが必須でなくても、定義された条件を満たすと必須になるようにフィールドを設定できます。このように設定されたフィールドは、**条件付き必須フィールド**と呼ばれます。たとえば、ユーザーが商談の状況を[不成約]に設定する際には、レコードを保存する前に[成約/不成約の原因]フィールドの値を選択する必要があると決定したとします。このプロセスを実装するには、フィールド管理で[成約/不成約の原因]フィールドに次の条件を入力できます。

```
[[Status]]=LookupValue("OPTY_STATUS", "不成約")
```

このフィールドをこのように設定した後は、ユーザーが商談の[不成約]状況を選択した場合、ユーザーが[成約/不成約の原因]フィールドで値を選択するまで商談を保存できなくなります。フィールドの横に赤いアスタリスク(*)が表示され、フィールドにラベルが表示されている場合は赤いテキストで表示されます。

条件付き必須フィールドを設定する際には、次の点に注意してください。

- 関連するページレイアウトに条件付き必須フィールドが表示されていることを確認する必要があります。そうしないと、フィールドが必須になったときに、ユーザーがフィールドの値を入力できません。同様に、ページレイアウトウィザードの条件付き必須フィールドの常にレイアウトに表示チェックボックスをオンにして、ユーザーがページレイアウトからフィールドを削除できないようにすることをお勧めします。一部のユーザーが自分のページレイアウトをすでにパーソナライズしている場合は、条件付き必須フィールドを設定した後に、パーソナライズされたページレイアウトをデフォルトレイアウトにリセットする必要がある場合があります。詳細は、「[パーソナライズページレイアウトのリセット](#) (ページ 297)」を参照してください。
- 特定の役割に対して条件付き必須フィールドを常に必須にする必要がある場合は、その役割に対して使用されるページレイアウトでフィールドを必須にできます。そうすれば、フィールドレベルで定義されている条件が満たされなくても、そのページレイアウトが使用されるすべての場合にそのフィールドが必須になります。他のページレイアウトが使用されている場合は、条件が満たされた場合のみにフィールドが必須になります。

次の表では、フィールド管理およびページレイアウトウィザードでフィールドを必須または条件付き必須にするための設定について説明します。

フィールド管理の[必須]チェックボックス	フィールド管理の条件付き必須フィールド	ページレイアウトウィザードの[必須]チェックボックス	ページレイアウトウィザードの[条件付き必須]チェックボックス	結果
オン	ブランク	オンで読み取り専用	オフで読み取り専用	このフィールドは常に必須になります。
オフ	式を含む	オフで編集可能	オンで読み取り専用 注: ページレイアウトウィザードで[必須]チェックボックスを選択すると、[条件付き必須]チェックボックスが自動的にオフになります。	ページレイアウトウィザードで[必須]チェックボックスをオンにしていな場合、このフィールドが必須になるのは、このフィールドに対して指定された条件が満たされた場合のみです。

フィールド管理の[必須]チェックボックス	フィールド管理の条件付き必須フィールド	ページレイアウトウィザードの[必須]チェックボックス	ページレイアウトウィザードの[条件付き必須]チェックボックス	結果
オフ	ブランク	オフで編集可能	オフで読み取り専用	ページレイアウトウィザードで[必須]チェックボックスをオンにしている場合は、そのページレイアウトが使用されるすべての場合で、このフィールドが必須になります。それ以外の場合、フィールドは必須になりません。

条件付き必須フィールド用の Expression Builder の機能

条件付き必須フィールドに対して作成する条件に使用できる Expression Builder の機能には、次の制限があります。

- **関数** Expression Builder の次の関数のみがサポートされています。
 - [FieldValue](#) (ページ 785)
 - [FindNoneOf](#) (ページ 786)
 - [FindOneOf](#) (ページ 787)
 - [IfNull](#) (ページ 788)
 - [IIf](#) (ページ 789)
 - [InStr](#) (ページ 791)
 - [Left](#) (ページ 798)
 - [Len](#) (ページ 799)
 - [LN](#) (ページ 800)
 - [LookupName](#) (ページ 801)
 - [LookupValue](#) (ページ 802)
 - [Mid](#) (ページ 804)
 - [Right](#) (ページ 807)
- **データタイプ**。条件付き必須フィールドの式に[日付]または[日時]フィールドタイプのフィールドは使用できません。Expression Builder で使用がサポートされている他のすべてのフィールドタイプを使用できます。
- **演算子**。制限はありません。

Expression Builder の使用方法については、「[Expression Builder](#) (ページ 766)」を参照してください。

フィールドの作成と編集

〔レコードタイプフィールド〕ページからアクセスする、レコードタイプの〔フィールド編集〕ページで、カスタムフィールドの作成および既存のフィールド定義の編集を行うことができます。〔レコードタイプフィールド〕ページには、各フィールドの表示名、フィールドタイプ、フィールドが必須かどうか、およびフィールドでコピー有効機能を使用できるかどうかが表示されます。

〔クライアント側拡張機能のアップロードおよびカスタム HTML ヘッドタグの管理〕権限を含む役割が割り当てられている場合は、〔レコードタイプフィールド〕ページに〔HTML フィールドタグ〕カラムも表示されます。このカラムには、フィールドの操作を実行するカスタム JavaScript コードで使用するフィールド名が表示されます。このようなカスタムコードの開発方法の詳細は、『Oracle CRM On Demand JavaScript API Developer's Guide』を参照してください。

〔レコードタイプフィールド〕ページの〔統合タグ Web Services v2.0〕カラムには、各フィールドの統合タグが表示されます。これらは、Web Services v2.0 の WSDL ファイルで使用するフィールド名です。WSDL ファイルの詳細については、「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード \(ページ 716\)](#)」を参照してください。

注: カスタムオブジェクトレコードタイプでは、カスタム関連情報フィールドを作成できます。これらのレコードタイプについては、〔フィールド編集〕ページで、〔関連情報〕、〔関連レコードタイプ〕および〔関連フィールド〕の各フィールドを使用できます。〔フィールド編集〕ページのこれらのフィールドは、カスタム関連情報フィールドを作成する場合にのみ使用します。〔フィールド編集〕ページの他の大部分のフィールドは、〔関連情報〕チェックボックスをオンにした後に読み取り専用フィールドになります。カスタム関連情報フィールドおよびそれらの作成方法の詳細は、「[カスタム関連情報フィールドについて \(ページ 116\)](#)」および「[カスタム関連情報フィールドの作成 \(ページ 118\)](#)」を参照してください。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、〔アプリケーションをカスタマイズ〕権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カスタムフィールドの作成およびフィールドの編集を行うには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔アプリケーションカスタマイズ〕セクションで、〔アプリケーションカスタマイズ〕リンクをクリックします。
- 3 〔レコードタイプセットアップ〕セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 〔フィールド管理〕セクションで、〔レコードタイプフィールドセットアップ〕をクリックします。
- 5 〔フィールド〕ページで、次の操作を行います。
 - カスタムフィールドを作成する場合は〔新規フィールド〕をクリックします。
 - フィールドの定義を編集するには、フィールドの〔編集〕リンクをクリックします。

注: 標準のフィールドを編集し、編集したすべての値をデフォルト設定にリセットする場合は、〔保存〕ボタンと〔取消〕ボタンの隣にある〔初期値〕ボタンをクリックします。

- 6 〔フィールド編集〕ページで表示名を入力します。

表示名はフィールドのラベルです。

- 7 フィールドを作成する場合は、〔フィールド編集〕ページでフィールドタイプを選択します。

注意: カスタムフィールドを保存した後は、フィールドタイプは変更できません。

カスタムフィールドには次のルールが適用されます。このルールは、同じフィールドタイプのデフォルトのフィールドに適用されるルールとは異なる場合があります。

フィールドのタイプ	最大長	メモ
チェックボックス	該当なし	注: ユーザーは、タイプがチェックボックスである、[必須]のマークが付いたフィールドを選択する必要があるわけではありません。チェックボックスフィールドの値を True にする（つまり、チェックボックスをオンにする）場合は、チェックボックスフィールドのフィールド検証ルールを使用する必要があります。詳細については、「 フィールド管理について (ページ 92)」を参照してください。
日付	25	
日時	25	
整数	10	整数の範囲は-2147483647 から 2147483647 までです。
複数選択ピックリスト		複数選択ピックリストのデフォルト値は定義できません。
数値	10	数値の範囲は-2147483648 から 2147483647 までです。
電話	35	
ピックリスト	30	ピックリストには最大 1000 の値を定義できます。ただし、ユーザーインターフェイスで使用できる値は、これらの中の 300 のみです。実行時に取得されるピックリスト値の合計セットは、ピックリスト値の数に企業レベルで有効な言語数を乗算して計算されます。この数は、10000 を超えないようにする必要があります。たとえば、900 の値リストと 12 の有効な言語がある場合、取得した値の結合リストは 10800 であり、10000 を超えているため、Oracle CRM On Demand ではこのピックリストにアクセスできません。 ピックリスト値の最大長は 30 ですが、入力された値が既存の値と重複しているかどうかの決定に使用されるのは最初の 28 文字のみです。 注意: ピックリスト値を定義する場合、各言語のピックリストの順序は独立しています。つまり、ある言語についてピックリスト値の順序を定義した際に、ピックリストを他の言語に翻訳した場合にこの順序は自動的に複製されません。すべての言語においてピックリスト値の順序の一貫性を維持する場合は、すべての翻訳において正しい順序を手動で設定する必要があります。
テキスト (長い)	255	テキストフィールドでは、1 行のテキストフィールドを使用します。
テキスト (短い)	40	テキストフィールドでは、1 行のテキストフィールドを使用します。ただし、フィールドによって長さは異なります。

フィールドのタイプ	最大長	メモ
テキスト（短い - マスク可能）	40	マスク可能フィールドでは、特定のレコードタイプでの一部のデータを一部のユーザーに非表示にすることができます。たとえば、マスク可能フィールドに 4558785236 という値が含まれている場合は、ユーザーには XXXX5236 と表示されます。詳細は、「マスク可能フィールドについて」を参照してください。
Web リンク	該当なし	〔Web リンク〕カスタムフィールドにより、レイアウト内に状況依存のハイパーリンクを作成できます。 〔テキストを表示〕フィールドには、最大で 250 文字を含めることができます。〔URL〕フィールドには、最大で 8000 文字を含めることができます。ブラウザによって URL の最大長は異なります。指定した URL が長すぎると、想定どおりに動作しないことがあります。パラメータの置換を使用している場合、URL 長は変化します。 作成できる Web リンクと連結フィールドの合計数はレコードタイプによって異なりますが、一部のレコードタイプでは Web リンクと連結フィールドを合わせて 100 個作成できます。Oracle CRM On Demand のフィールドの詳細は、「カスタムフィールドについて（ページ 99）」を参照してください。 詳細は、「Web リンクの設定（参照 "Web リンクの設定" ページ 122）」を参照してください。
連結フィールド	該当なし	連結フィールドは、複数のフィールドからの値の表示や追加テキストの表示が可能なフィールドです。 作成できる Web リンクと連結フィールドの合計数はレコードタイプによって異なりますが、一部のレコードタイプでは Web リンクと連結フィールドを合わせて 100 個作成できます。Oracle CRM On Demand のフィールドの詳細は、「カスタムフィールドについて（ページ 99）」を参照してください。 ほとんどのレコードタイプに連結フィールドを設定できます。詳細は、「連結フィールドの設定（ページ 129）」を参照してください。

- 8 （オプション）フィールド名を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、〔翻訳〕チェックボックスをオンにします。
- 9 〔保存〕をクリックします。
- 10 〔追加プロパティ〕セクションで、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

フィールド	コメント
必須	このチェックボックスをオンにすると、レコードの作成または更新時にそのフィールドが必須フィールドになります。たとえば、新しい担当者の追加時にす

フィールド	コメント
	すべてのユーザーが「取引先」フィールドに必ず入力するように設定できます。 注: ユーザーは、タイプがチェックボックスである、「必須」のマークが付いたフィールドを選択する必要があるわけではありません。チェックボックスフィールドの値を True にする（つまり、チェックボックスをオンにする）場合は、チェックボックスフィールドのフィールド検証ルールを使用する必要があります。詳細については、「フィールド管理について (ページ 92)」を参照してください。
条件付き必須	定義された条件が満たされた場合にのみフィールドを必須にする必要がある場合は、条件式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開きます。 注: フィールド管理では、フィールドを必須または条件付き必須のどちらかに設定できますが、両方に設定することできません。そのため、[必須] チェックボックスを選択すると、[条件付き必須] フィールドに式を入力できません。 条件付き必須フィールドの条件に使用できる Expression Builder の機能には、一部制限があります。条件付き必須フィールドおよび Expression Builder の機能に適用される制限の詳細は、「条件付き必須フィールドについて (ページ 108)」を参照してください。
デフォルト値	値または式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開きます。 複雑な式を追加できるのは、役割に「高度なフィールド管理」権限が含まれている場合のみです。このフィールドには、最大で 1024 文字の式を含めることができます。デフォルト値を設定するための式を作成する場合、式の結果はフィールドの許容最大文字数を超えてはなりません。また、Expression Builder で関数に渡される文字列または数値リテラルは 75 文字を超えてはなりません。 このフィールドにデフォルト値を直接入力する場合、デフォルト値の文字数はそのフィールドタイプの許容最大文字数を超えてはなりません。数値タイプのフィールドの場合、値はフィールドの値範囲内に収まっている必要があります。 デフォルト値の設定の詳細は、「フィールド管理について (ページ 92)」を参照してください。式で使用できる構文については、「Expression Builder (ページ 766)」を参照してください。 注: デフォルト値をマスク可能フィールドに割り当てた場合は、ユーザーの役割に「マスクされたデータの表示」権限が含まれていない場合でも、新規レコードの作成時にそのフィールドに完全なデフォルト値が表示されます。
読み取り専用	このチェックボックスをオンにすると、そのフィールドが読み取り専用になります。
コピー有効	このチェックボックスをオンにすると、レコードの詳細ページにある「レコードのコピー」ボタンを使用してレコードタイプをコピーするときに、このフィールドをコピーできます。
最適化	そのレコードタイプに対して、最適化されたフィールドを使用できるフィールドタイプを選択した場合に、このチェックボックスが自動的に有効になります

フィールド	コメント
	。[最適化] チェックボックスの右側に、使用可能な最適化されたフィールドの残りの数が表示されます。最適化されたフィールドが必要な場合は、[最適化] チェックボックスを選択する必要があります。 注: フィールドに対して [最適化] チェックボックスを選択し、保存している場合は、[編集] ページでその選択を解除することはできません。ただし、フィールドの使用目的を変更する場合、フィールドの名前を変更することはできません。
説明	フィールドに関する追加情報を入力します。
デフォルトをポスト	このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。 新規レコードの作成時に、フィールドにデフォルト値が自動的に入力されないようする場合は、このチェックボックスをオンにします。ユーザーまたは統合ツールから値が提供されない場合にのみ、指定したデフォルト値がレコードの保存時に設定されます。 注: チェックボックスフィールドに対して事後デフォルトを選択することはできません。
フィールド検証	このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。 式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開きます。 このフィールドには、1024 文字まで入力できます。 フィールド検証の詳細は、「フィールド管理について (ページ 92)」を参照してください。また、式に使用できる構文については、「Expression Builder (ページ 766)」を参照してください。
フィールド検証エラーメッセージ	このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。 フィールドの検証に失敗した場合に標準メッセージに追加して表示する、カスタムエラーメッセージを入力します。このメッセージで使用できるのは、文字、数字、スペース、およびカンマ、ピリオド、ダッシュの記号のみです。 エラーメッセージの表示は、カスタムエラーメッセージを指定した場合と指定しなかった場合とで異なり、次のようになります。 フィールド検証が設定され、カスタムメッセージが指定されていない場合: '[フィールド]' に入力された値は、企業の管理者によって設定された検証ルールを満たしません。検証条件は '[ルール]' (エラーコード) です。 フィールド検証が設定され、カスタムメッセージが指定されている場合: [カスタムエラーメッセージ] (エラーコード) です。

フィールド	コメント
ツールヒントの表示形式	このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。 ドロップダウンリストから [HTML] または [プレーンテキスト] を選択して、ツールヒントを表示する形式を選択します。このフィールドのデフォルト値は [プレーンテキスト] です。 HTML 形式のツールヒントを使用する場合、複雑な HTML を使用せず、ツールヒントに表示されるイメージの数を少なくすることで、パフォーマンスが向上します。ハイパーリンクなどのインタラクティブコントロールはサポートされていません。ツールヒントテキストを読みやすくするために HTML 形式のツールヒントを使用する場合は、余白を使用することをお勧めします。HTML タグ <DIV> を使用する場合は、<DIV> タグ内のコンテンツが必ずツールヒントボックス内に収まるようにするために境界線を使用することをお勧めします。次に例を示します。 <pre><div style="background-color:red;padding:3px 8px; border-radius:5px;"></pre> これは、余白を含み、背景が赤のツールヒントメッセージです。 <pre></div></pre> 注: Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項 (ページ 202)」を参照してください。
ツールヒントテキスト	このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。 フィールドの機能に関する情報を入力します。ユーザーがフィールドの上にポインタを移動すると、この情報がツールヒントとして表示されます。このテキストフィールドには最大 1500 文字まで入力できます。 注: ツールヒントは慎重に使用し、ツールヒントテキストは有益かつ簡潔にしておくことをお勧めします。

11 [保存] をクリックします。

追加した新しいフィールドは、括弧で囲まれた青いテキストの形式で自動的に表示され、[翻訳] チェックボックスの設定に関係なく他の有効な言語で表示されます。

12 新しい名称、フィールド検証エラーメッセージ、説明またはツールヒントテキストの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。

- a** [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
- b** 名称、フィールド検証エラーメッセージ、説明またはツールヒントテキストを翻訳するフィールドの [編集] リンクをクリックします。
- c** 翻訳を [表示名]、[フィールド検証エラーメッセージ]、[説明] またはツールヒントテキストフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールドの名前を翻訳した場合は、翻訳した名前が「表示名」カラムに黒いテキストで表示されます。

- d** 翻訳を入力する各言語に対して、ステップ a から c を繰り返します。
- e** 翻訳の入力終了後に「レコードタイプフィールド」ページでの作業を続行するには、「言語」ドロップダウンリストで、企業のデフォルト言語を選択します。

注: Oracle CRM On Demand Answers ユーザーの言語がカスタムフィールド作成時の言語と異なる場合に、カスタムフィールドを Oracle CRM On Demand に表示するには、カスタムフィールドを該当する言語に翻訳する必要があります。たとえば、英語で作成されたカスタムフィールドは、ドイツ語に翻訳されない限り、ドイツ語のユーザーの Oracle CRM On Demand Answers に表示されません。

「翻訳」をオンにすると、他のすべての言語の「表示名」と「フィールド検証エラーメッセージ」の両方が上書きされます。

13 ピックリストまたは複数選択ピックリストを作成した場合は、次の操作を行います。

- a** カスタムフィールドの「ピックリストを編集」リンクをクリックします。
- b** 「ピックリスト値」ボックスで、各値を個別の行に入力します。
- c** レコードを保存します。
- d** (オプション) 企業でピックリスト値グループを使用している場合は、ピックリスト値をピックリスト値グループにマップします。詳細は、「[ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#) (ページ 139)」を参照してください。

注: ここで、フォーム (編集、詳細、および作成の各フォーム) に表示されるように、新たに作成したカスタムフィールドを公開する必要があります。デフォルトでは表示されません。カスタムフィールドを表示するには、必要に応じて新しいページレイアウトを作成し、そのフィールドを表示する必要がある各役割に割り当てられるようにします。

カスタム関連情報フィールドについて

結合フィールドを使用することによって、Oracle CRM On Demand では、「詳細」ページ内の特定のレコードタイプの関連レコード、または 2 番目のレコードタイプのレコードの関連情報リストから、いくつかの情報を表示できます。結合フィールドは、外部キーを使用して別のレコードタイプのフィールドを参照するレコードタイプのフィールドです。たとえば、カスタムオブジェクト 04 を「担当者」レコードタイプにリンクでき、「カスタムオブジェクト 04」レコードタイプの多数の結合フィールドを使用して、担当者レコードの情報をカスタムオブジェクト 04 レコードに対する「詳細」ページに表示できます。担当者の名前 (名)、名前 (姓)、電子メール、および担当者レコードからのその他のフィールドを、リンクしたカスタムオブジェクト 04 レコードの「詳細」ページに表示できます。同様に、別のレコードタイプのレコードにリンクされているカスタムオブジェクト 04 レコードのリストに、担当者レコードのフィールドを表示できます。

ただし、結合フィールドが使用できない関連レコードタイプのフィールドの値を表示する必要がある場合があります。たとえば、カスタムオブジェクト 04 レコードの「詳細」ページに、関連担当者のアシスタントの電話番号を表示する場合がありますが、結合フィールドは、「担当者」レコードタイプの「アシスタント電話番号」フィールドには使用できません。または、「カスタムオブジェクト 05」レコードタイプなど、別のリンクされたレコードタイプに対する「詳細」ページに表示されるカスタムオブジェクト 04 レコードのリストに、「担当者」レコードタイプのカスタムフィールドの値を表示する場合があります。カスタムオブジェクト、取引先担当者、世帯担当者および担当者ポートフォリオレコードタイプでのみ、結合フィールドを使用できないフィールドの情報を表示できるカスタム関連情報フィールドを作成できます。カスタム関連情報フィールドの作成方法の詳細は、「[カスタム関連情報フィールドの作成](#) (ページ 118)」を参照してください。

注: Web リンクと複数選択ピクリストフィールドを除いて、すべてのタイプのフィールドにカスタム関連情報フィールドを作成できます。Oracle CRM On Demand レポートでカスタム関連情報フィールドを使用できません。これらのフィールドは Oracle CRM On Demand Answers にマップされていないためです。かわりに、Oracle CRM On Demand Answers で使用できる元のソースフィールドを使用する必要があります。

カスタム関連情報フィールドの値の更新について

カスタム関連情報フィールドの値の更新について、次の考慮事項が適用されます。

- 新規のカスタム関連情報フィールドを保存すると、Oracle CRM On Demand では新規フィールドを初期化するためのリクエストが自動的に提出されます。初期化プロセスでは、レコードのカスタム関連情報フィールドに、関連レコードタイプのレコードにある対応するフィールドの値が入力されます。
- レコードのカスタム関連情報フィールドの初期化後、フィールドの値は、関連レコードの対応するフィールドの値が更新されるたびに自動的に更新されます。
- カスタム関連情報フィールドの値は、いずれのチャンネルからも直接更新することはできません。

カスタム関連情報フィールドの使用例

企業が会議場を所有および管理しており、他の企業、政府クライアントなどに会議施設を提供しているとします。あるカスタムオブジェクトレコードタイプを使用してイベントに関する情報を追跡し、別のカスタムオブジェクトレコードタイプを使用してイベントに使用される部屋に関する情報を追跡します。各部屋は、多くのイベントに使用され、各イベントは多数の部屋を使用する可能性があるため、レコードタイプ間に多対多の関係が必要です。Oracle CRM On Demand で多対多の関係を作成するには、3 つ目のカスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用して、各部屋の予約、またはセッションに関する情報を追跡します。その後、部屋とセッションの間に 1 対多の関係を作成し、イベントとセッションの間に 1 対多の関係を作成します。この結果、部屋とイベントの間に多対多の関係ができます。カスタムオブジェクト間に多対多の関係を設定する方法は、「[カスタムオブジェクトの多対多の関係について](#) (ページ 231)」を参照してください。

〔部屋〕レコードタイプで、部屋タイプと部屋収容力の 2 つのカスタムフィールドを設定します。今度は、特定のユーザー役割に対する〔イベント詳細〕ページに、〔セッション〕関連情報セクションの〔部屋タイプ〕および〔部屋収容力〕フィールドの情報を表示します。この設定を使用すると、〔イベント詳細〕ページを表示するユーザーは、イベントに割り当てられている部屋のタイプと収容力を表示できます。

次の手順では、この例の〔イベント〕および〔セッション〕レコードタイプを設定する方法について説明します。

〔イベント〕および〔セッション〕レコードタイプを設定するには

- 1 〔セッション〕レコードタイプの〔アプリケーションカスタマイズ〕ページで、〔部屋〕レコードタイプにある、〔部屋タイプ〕および〔部屋収容〕カフィールドの値を表示するための 2 つのカスタム関連情報フィールドを作成します。
〔セッション〕レコードタイプの新しいフィールドに、〔部屋〕レコードタイプのフィールドと同じ名前を設定するか、または別の名前を設定できます。カスタムフィールドの作成方法の詳細は、「[カスタム関連情報フィールドの作成](#) (ページ 118)」を参照してください。
- 2 〔関連フィールド初期化キュー〕ページを表示して、フィールドに対する初期化リクエストが正常に完了していることを確認します。
詳細は、「[カスタム関連情報フィールドの作成](#) (ページ 118)」を参照してください。

- 3 [イベント] レコードタイプの [アプリケーションカスタマイズ] ページで、[セッション] レコードタイプの関連情報レイアウトを作成または編集し、[セッション] レコードタイプ用に作成したカスタムフィールドを、[関連情報レイアウト] ウィザードの [使用可能なフィールド] セクションから「選択済み項目」セクションに移動します。

関連情報レイアウトの設定方法の詳細は、「[関連項目レイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 140)」を参照してください。

- 4 [イベント] レコードタイプの [アプリケーションカスタマイズ] ページで、[イベント詳細] ページのレイアウトを作成または編集し、[セッション] レコードタイプに設定した関連情報レイアウトを割り当てます。

ページレイアウトの設定方法の詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」および「[動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)」を参照してください。

- 5 [イベント] レコードタイプに設定した [イベント詳細] ページレイアウトを、各関連ユーザー役割に割り当てます。

役割の設定方法の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

- 6 役割がユーザーにまだ割り当てられていない場合は、適切なユーザーに役割を割り当てます。

ユーザーレコードの設定方法の詳細は、「[ユーザーの設定](#) (ページ 236)」を参照してください。

カスタム関連情報フィールドの作成

カスタム関連情報フィールドは、関連レコードタイプのフィールドの値を表示するために使用できる、特定のレコードタイプのフィールドです。作成したカスタム関連情報フィールドを、ページレイアウトおよび関連情報レイアウトに追加できます。カスタム関連情報フィールドは、カスタムオブジェクト、取引先担当者、世帯担当者および担当者ポートフォリオレコードタイプでのみ作成できます。カスタム関連情報フィールドの使用法の例は、「[カスタム関連情報フィールドについて](#) (ページ 116)」を参照してください。

カスタム関連情報フィールドについては、[フィールド編集] ページで、[表示名]、[関連情報]、[項目タイプ]、[関連レコードタイプ]、ツールヒントテキストおよび [関連フィールド] の各フィールドのみを設定します。[フィールド編集] ページの他のすべてのフィールドは、[関連情報] チェックボックスをオンにした後に読み取り専用フィールドになります。

注: カスタム関連情報フィールドの保存後は、そのカスタム関連情報フィールドに対する [フィールド編集] ページのいずれのフィールドも更新できません。

次の手順では、カスタム関連情報フィールドの作成方法について説明します。

作業前の準備:

- 作成しているカスタム関連情報フィールドに値を表示する、関連レコードタイプのフィールドのフィールドタイプを決定します。
- 次の手順を実行するには、[アプリケーションカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カスタム関連情報フィールドを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、カスタム関連情報フィールドを設定するレコードタイプに対するリンクをクリックします。

たとえば、[カスタムオブジェクト 04] レコードタイプにカスタム関連情報フィールドを作成して、[担当者] レコードタイプのフィールドの値を表示する場合は、[カスタムオブジェクト 04] をクリックします。

4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。

5 [レコードタイプフィールド] ページで、[新規フィールド] をクリックします。

6 [レコードタイプフィールド編集] ページで、次の操作を行います。

a [表示名] フィールドに、新規フィールドの名前を入力します。

カスタム関連情報フィールドに、関連レコードタイプのフィールドと同じ名前を設定する場合があります。ただし、フィールドに別の名前を指定できます。

b [項目タイプ] フィールドで、作成するフィールドのタイプを選択します。

たとえば、新規フィールドに関連レコードタイプから数値フィールドの値を表示する場合は、[数字] を選択します。

注: Web リンクと複数選択ピックリストフィールドを除いて、すべてのタイプのフィールドにカスタム関連情報フィールドを作成できます。

c [関連情報] チェックボックスをオンにします。

d [関連レコードタイプ] フィールドで、関連レコードタイプを選択します。

たとえば、[カスタムオブジェクト 04] レコードタイプにカスタム関連情報フィールドを作成して、[担当者] レコードタイプのフィールドの値を表示する場合は、[担当者] を選択します。

注: フィールドタイプと関連レコードタイプの両方を選択した後は、選択した関連レコードタイプの選択したフィールドタイプのすべてのフィールドを、[関連フィールド] というフィールドで選択に使用できます。

e [関連フィールド] というフィールドで、新規カスタムフィールドに情報を表示するフィールドの名前を選択します。

f 新規フィールドを保存します。

7 (オプション) 次のように、新規フィールドの名前の翻訳を入力します。

a [レコードタイプフィールド] ページで、[翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。

b 名称、フィールド検証エラーメッセージ、説明またはツールヒントテキストを翻訳するフィールドの[編集] リンクをクリックします。

c [表示名] フィールドに翻訳を入力し、[保存] をクリックします。

翻訳した名前が[表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。

d 翻訳を入力する各言語に対して、ステップ a から c を繰り返します。

e 翻訳の入力終了後に [レコードタイプフィールド] ページでの作業を続行するには、[言語] ドロップダウンリストで、企業のデフォルト言語を選択します。

新規のカスタム関連情報フィールドを保存すると、Oracle CRM On Demand では新規フィールドを初期化するためのリクエストが自動的に提出されます。初期化プロセスでは、レコードのカスタム関連情報フィールドに、関連レコードタイプのレコードにある対応するフィールドの値が入力されます。次の手順で説明するように、[関連フィールド初期化キュー] ページから初期化リクエストの状態を表示できます。

注: Oracle CRM On Demand では、初期化プロセスが完了したことを確認する電子メールは送信されません。

初期化リクエストの状態を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションで、[関連フィールド初期化キュー] をクリックします。
[関連フィールド初期化キュー] ページに、初期化プロセスに関する情報が表示されます。

新規フィールドを、フィールドを作成したレコードタイプのページレイアウト、および他のレコードタイプに対するレコードタイプの関連情報レイアウトに追加できます。たとえば、[カスタムオブジェクト 04] レコードタイプに、[担当者] レコードタイプのフィールドの値を表示するカスタム関連情報フィールドを作成する場合は、[カスタムオブジェクト 04] レコードタイプのページレイアウト、および [取引先] レコードタイプやその他のカスタムオブジェクトレコードタイプなど、他のレコードタイプの [詳細] ページにカスタムオブジェクト 04 レコードを表示するために使用する関連情報レイアウトにも、カスタム関連情報フィールドを追加できます。関連情報レイアウトでのカスタム関連フィールドの使用例は、「[カスタム関連情報フィールドについて](#) (ページ 116)」を参照してください。

コピー有効設定の管理

Oracle CRM On Demand の多くのレコードタイプにはコピー機能があり、ユーザーは使用中のレコードをコピーできます。

注: [レコードのコピー] ボタンを使用した場合、基本レコードのみがコピーされ、関連する項目の子レコードはコピーされません。

コピー機能の使用時には次の制限事項が適用されます。

- Web リンク、連結フィールド、システムフィールド、住所フィールド、マスク可能フィールド、計算結果フィールドおよび参照フィールドはコピーできません。これらの項目については、[コピー有効] チェックボックスを使用できません。
- 読み取り専用フィールドはコピーできません。読み取り専用フィールドとは、項目の設定またはレイアウトで読み取り専用フィールドとして設定されたフィールドのことです。
- ユーザーのフォームレイアウトで使用できないフィールドはコピーできません。

このトピックでは、Oracle CRM On Demand のレコードの詳細ページにある [コピー] ボタンを使用してコピー可能なフィールドを指定する方法について説明します。

[コピー] ボタンでフィールドにコピー機能を指定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。

3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、コピー機能を有効にするレコードタイプをクリックします。

4 [フィールド管理] セクションで、レコードタイプフィールドの設定リンクをクリックします。

指定したレコードタイプフィールドのフィールドリストが表示されます。

5 編集するフィールドを探し、[編集] リンクをクリックします。

注:アソシエーションをコピーする場合、アソシエーション ID ではなく、アソシエーションピックリストを選択する必要があります。アソシエーションピックリストを [コピー有効] に設定すると、このアソシエーションに関連するすべてのフィールドが自動的にコピーされます。

6 [コピー有効] チェックボックスをオンにします。

7 [保存] をクリックします。

これらの変更は Oracle CRM On Demand に次回ログインしたときに有効になります。

カスタムフィールドの統合タグの設定

カスタムフィールドの統合タグは、記号的にタグを示すものであり、言語に依存しません。また、各カスタムフィールドに割り当てられます。これらのタグは、[Web サービス] (WSDL ファイルの生成時に使用) および [Web リンク] のカスタムフィールドパラメータによって使用されます。統合タグを使用して、管理者は各カスタムフィールドに意味のある統合名を設定できます。統合名は統合コンポーネントによって使用されるため、既存の統合に影響を与えることなく、ラベル名を変更できます。統合タグは、[レコードタイプフィールド] ページの [統合タグ Web Services v2.0] カラムに表示されます。

Expression Builder では統合タグが使用されます。このため、それらのタグはワークフロールールとフィールドの作成時にも使用されます。ワークフロールールの詳細については、「[ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)」を参照してください。フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

注意: 統合タグは設定後に変更しないでください。変更した場合、統合タグを参照するテクノロジーでそれらの参照が失われるおそれがあります。

カスタムフィールドの統合タグを設定するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。

3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。

4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。

5 [レコードタイプフィールド] ページで、フィールドラベルの管理をクリックします。

6 [フィールドラベルの管理] ページで、[詳細] ボタンをクリックします。

7 統合タグを更新します。

注: レコードタイプの 1 つ以上のカスタムフィールドがある場合、フィールドは詳細設定ページにのみ表示されます。

ヒント: 統合タグについては、このカスタムフィールドを簡単に識別できるような短くてわかりやすい名前を使用してください。統合タグは、Web サービス、Web リンク、およびその他の統合テクノロジー（Web サービスの WSDL ファイル、および Web リンクの URL パラメータ）によって参照されます。

Web リンクの設定

Web リンクは、Oracle CRM On Demand のレコード内に、外部 Web サイトまたは Web ベースのアプリケーションへのハイパーリンクを作成するためのカスタムフィールドです。Web リンクカスタムフィールドは、別の Web ページ、または Oracle CRM On Demand 内の別のページに移動するための便利な方法です。Web リンクカスタムフィールドはどんなレコードタイプからでも作成できます。たとえば、別のアプリケーションからの値で取引先詳細を更新する取引先レコードタイプの Web リンクフィールドを定義できます。他のカスタムフィールドと同様、Web リンクフィールドも、自分のユーザーに表示されるようにするには、自分のレコードページのレイアウトに追加する必要があります。

Web リンクは、別の Web サイトを簡単に開くように設定できます。また、Oracle CRM On Demand レコードの特定の情報を URL でパラメータとして渡すように Web リンクを設定することもできます。たとえば、取引先レコードの住所情報を、指定された住所の地図を提供する Web サイトに渡す Web リンクフィールドを作成することができます。この場合、ユーザーが取引先レコード上の Web リンクをクリックすると、取引先所在地の地図が表示されます。

特定の状況でのみ表示される Web リンクを設定できます。たとえば、Web リンクを表示する前に必要な条件を指定したり、編集ページにリンクが表示されないように、リンクを詳細ページにのみ表示されるように設定したりできます。

注:見込み客の変換時に、Web リンクフィールドの内容は新しいレコードに移行できません。

作業前の準備。 Web リンクフィールドを設定するには、ターゲット URL の構文に精通している必要があります。

Web リンクを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 Web リンクフィールドがまだ存在していない場合には、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」で説明されているように、カスタム Web リンクフィールドを作成します。
- 6 [フィールド] ページで、カスタムフィールドの [Web リンクを編集] リンクをクリックします。
- 7 [Web リンクを編集] ページで、必要に応じて次のプロパティを入力します。
 - a **項目表示名。** このフィールドは読み取り専用です。
 - b **ユーザーおよびシステムフィールド。** Web リンクを作成すると、このフィールドにはユーザーと企業に関する情報が自動的に表示されます。
詳細は、「[ユーザーおよびシステムフィールド](#) (ページ 125)」を参照してください。
 - c **<レコードタイプ>フィールド。** Web リンクを作成すると、このフィールドにはレコードタイプに関する情報が自動的に表示されます。

注: <レコードタイプ>は、Web リンクを設定するレコードタイプを指します。たとえば、担当者レコードの Web リンクを編集している場合、このフィールドは「担当者フィールド」リストとして表示されます。

- d ファンクション。** Oracle CRM On Demand の URL を正しく表示するために詳細なエンコーディングが必要な場合は、ピックリストからエンコード URL を選択します。

- e 翻訳。** この Web リンクを他の有効な言語で表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

8 「ウィンドウのプロパティ」セクションで、次のプロパティを入力します。

- a 表示名について、ハイパーリンクにラベル（表示名）を入力します。** このラベルはレイアウト内でユーザーに表示されます。

例：証券コードについてはここをクリックします。（このテキストは下線付きで表示されます）

また、「テキストを表示」フィールドにカーソルを置き、「ユーザーおよびシステムフィールド」リストまたは「（レコードタイプ）フィールド」リストを選択することにより、このフィールドにコンテキスト依存のパラメータを挿入できます。これにより、「テキストを表示」フィールドにフィールドパラメータ（%%%fieldname%%%で指定）が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。

注: 表示テキストが長すぎてレイアウトに収まらない場合は切り捨てられます。また、変数の情報はすべて実行時に挿入されます。

- b ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときの Oracle CRM On Demand の動作を選択します。**
 - **現在のウィンドウで開く。** 現在のウィンドウにハイパーリンク先のページを開きます。現在の Oracle CRM On Demand セッションと置き換わります。
 - **カスタム Web タブで開く。** カスタム Web タブでハイパーリンク先のページを開きます。「ターゲットカスタム Web タブ」リストから必要な Web タブを選択します。
 - **新しいウィンドウで開く。** ハイパーリンク先のページを新しいウィンドウで開き、現在の Oracle CRM On Demand ウィンドウはそのままにします。ユーザーが新しいウィンドウを閉じたときに親ウィンドウを更新する場合は、「Parent Window Refresh（親ウィンドウの更新）」チェックボックスをオンにします。
- c Web リンクを詳細ページにのみ表示するか、編集ページにのみ表示するか、またはその両方に表示するかに応じて、「表示オプション」を、「詳細ページ」、「編集ページ」、または「両方」から選択します。** Web リンクは「リスト」ページおよび関連情報セクションに追加できます。詳細は、「[リストアクセスおよびリスト順序の管理](#)（ページ 171）」および「[関連項目レイアウトのカスタマイズ](#)（ページ 140）」を参照してください。

9 リンクプロパティを指定します。

- a 「リンクアクティブ条件」に、詳細ページと編集ページ上で Web リンクをアクティブにするかどうかを制御する条件式を入力します。** 「リンクアクティブ条件」フィールドの隣の「fx」アイコンをクリックすると、式を入力できる式ビルダーが開きます。式の構文については、「[Expression Builder](#)（ページ 766）」を参照してください。

たとえば、「[Revenue] > 10000」という式を入力した場合、Web リンクは、Revenue 値が 10000 を超えた場合のみ、アクティブになります。

式を入力しない場合、Web リンクは常にアクティブになります。式を入力して、条件が満たされない場合、Web リンクは表示されますが、無効になります。

- b 「リンク表示条件」に、詳細ページと編集ページに Web リンクを表示するかどうかを制御する条件式を入力します。**

たとえば、「[Revenue] > 10000」という式を入力した場合、Web リンクは、Revenue 値が 10000 を超えた場合のみ、表示されます。

式を入力しない場合、Web リンクは常に表示されます。

以下の内容は、[リンク表示条件] フィールドと [リンクアクティブ条件] フィールドの式両方に当てはまります。

- **新しいページ。**表示条件式とアクティブ条件式は新しいページに対しては評価されません。これらはデフォルトで TRUE に設定されます。リンクを無効にする唯一の方法は、明示的に FALSE にすることです。
- **編集ページ。**表示条件式とアクティブ条件式はデフォルトで TRUE に設定されています。ただし、式ビルダーを使用して、新しい式を追加できます。

- c URL には、ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL (www.oracle.com など) を入力します。

注:また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーおよびシステムフィールド] リストまたは [(レコードタイプ) フィールド] リストを選択することにより、このフィールドにコンテキスト依存のパラメータを挿入できます。これにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ (%%fieldname%% で指定) が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。

URL を指定しない場合、ユーザーがリンクをクリックすると、その移動先は空の URL になります。

各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超える URL を指定した場合、Web リンクをクリックすると、ブラウザでユーザーが予期しない動作が見られることがあります。指定した URL が有効な Uniform Resource Identifier (URI) であることを確認してください。有効でない場合、リンクのかわりにエラーメッセージが表示されます。

注: Oracle CRM On Demand では、(Oracle CRM On Demand 内からの) 内部 URL または外部 URL による分析コンテンツの埋め込みはサポートされていません。URL を使用してカスタム Web アプレットに分析コンテンツを埋め込む場合、アップグレードを実行した後の URL の動作は保証されません。カスタムホームページレポートを使用して分析コンテンツを Oracle CRM On Demand 内に表示してください。Oracle CRM On Demand の URL の標準化の詳細は、「[URL の標準化について \(ページ 190\)](#)」を参照してください。

- d [リクエストメソッド] では、Web リンクリクエストを送信するメソッドを選択します。

- **GET。**GET リクエストでは、リクエスト URL でクエリー文字列パラメータ (名称と値のペア) を送信します。これは、既存の Web リンクのデフォルト値です。
- **POST。**POST リクエストでは、HTTP メッセージ本文でクエリー文字列パラメータ (名称と値のペア) を送信します。これは、新規 Web リンクのデフォルト値です。

- 10 ユーザーおよびシステムフィールドについて、[ユーザーおよびシステムフィールド] リストからオプションを選択します。これにより、現在のカーソル位置に応じて [URL] または [テキストを表示] フィールドに、パラメーターフィールドが追加されます。

たとえば、リストから [ユーザーID] を選択した場合、カーソルの位置に応じて [URL] または [テキストを表示] フィールドに %%%User id%% が挿入されます。実行時、このパラメーターは、ログインしているユーザーのユーザーID と置き換えられます。もう 1 つの例として、リストから [ホスト名] を選択した場合、カーソルの位置に %%%Hostname%% が挿入されます。実行時、このパラメータは、Oracle CRM On Demand が動作しているサーバーのホスト名と置き換えられます。環境の移行時に Oracle CRM On Demand ホスト名を手動で変更する必要がなくなるため、Oracle CRM On Demand への URL を含む設定では便利です。

- 11** *record type* フィールドについて、パラメータを挿入する [URL] または [テキストを表示] フィールドにカーソルを置き、そのフィールドに挿入するフィールドをリストから選択します。

たとえば、[行 ID] を選択した場合、カーソルの位置に応じて [URL] または [テキストを表示] フィールドに %%%Row id%%% が挿入されます。実行時、このパラメータは、現在のレコードの行 ID と置き換えられます。

注: 斜体の *record type* という語はレコードタイプ名のプレースホルダーです。たとえば、*record type* は、Web リンクカスタムフィールドを追加するレコードタイプになります。たとえば、担当者レコードの Web リンクを編集している場合、このフィールドは [担当者フィールド] リストとして表示されます。

- 12** [保存] をクリックします。

- 13** Web リンクフィールドを、レコードタイプページレイアウトに追加します。詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

ユーザーおよびシステムフィールド

次の表では、カスタム Web リンク、連結フィールド、カスタム Web アプレットおよびカスタム Web タブでパラメータとして使用できる各種ユーザーフィールドおよびシステムフィールドについて説明します。

フィールド	説明
アニメーションフラグ	メッセージセンターとレコードの詳細ページのメモをアニメーション表示するかどうかを決定します。
ビジネスユニット	企業のビジネスユニット。
カレンダー週の開始日	ログインユーザーのカレンダー週の開始日。
コミュニケーション終了日付フィルタ	ユーザーの最近完了した活動を [コミュニケーションホームページ] に表示する期間(先月、最終日など)。
コミュニケーション受信箱日付フィルタ	ログインユーザーの活動を [コミュニケーションホームページ] 受信箱に表示する期間 (先月、最終日など)。
会社言語コード	ユーザーの会社言語を表す 3 文字のコード。各言語のコードは Oracle Migration Tool On Demand Guide の付録にリストしています。
取引先部署	企業の部署。
企業名	企業名。
デフォルトカレンダービュー	[カレンダー] タブをクリックするたびに表示されるログインユーザーのカレンダービュー。
デフォルト検索オブジェクト	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするとアクションバーの検索ピックリストに表示されるレコードタイプ。
ホスト名	Oracle CRM On Demand が動作しているサーバーのホスト名。
HUD モード	詳細ページの関連情報セクションのリンクをブラウザウィンドウの下部に表示するかどうかを決定します。

フィールド	説明
セキュリティに関する質問の数	ログインユーザーの組織で必要とされるセキュリティに関する質問の数。
プレビューモード	ログインユーザーのレコードプレビューモード。
プライマリ部署 ID	ログインユーザーに関連付けられているプライマリ部署 ID。
プライマリ部署名	ログインユーザーに関連付けられているプライマリ部署名。
プライマリグループ名	ログインユーザーが追加されたグループの名前。
プライマリ組織 ID	ログインユーザーのプライマリ組織 ID。
プライマリ役割 ID	ログインユーザーのプライマリ役割 ID。
ダイアルのプロンプトフラグ	詳細またはリストページの電話番号リンクをクリックしたときに、[クリックでダイアル]ウィンドウでユーザーにプロンプトを表示するかどうかを決定します。
関連情報形式	リストやタブなど、レコード詳細ページの関連情報セクションの形式。
セールス方法 ID	ログインユーザーのセールス方法 ID。
SSO トークン	企業のシングルサインオン (SSO) ポータルへのアクセスに必要な認証情報。
テーマ ID	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインすると使用されるテーマ。
ユーザー エイリアス	ログインユーザーのエイリアス。
ユーザー認証タイプ	[ユーザー ID/パスワードのみ]や[シングルサインオンのみ]など、ユーザーが Oracle CRM On Demand にログインするときの認証のタイプ。
ユーザー住所 - 国	ログインユーザーの国名。
ユーザー通貨コード	ユーザーの通貨を表す 3 文字のコード。
ユーザー名 (名)	ログインユーザーの名前(名)。
ユーザー氏名	ログインユーザーの氏名。
ユーザーの電子メール	ログインしているユーザーの電子メールアドレス。
ユーザーID	ログインしているユーザーのユーザーサインイン ID。
ユーザー言語コード	ユーザーの言語を表す 3 文字のコード。各言語のコードは Oracle Migration Tool On Demand Guide の付録にリストしています。
ユーザー最終ログイン	ログインユーザーの最終ログイン時間。
ユーザー名 (姓)	ログインユーザーの名前(姓)。
ユーザーロケールコード	ユーザーのロケールを表す 3 文字のコード。[ユーザー詳細] ページの [ロケール] フィールドで、サポートされているロケールを確認できます。詳細は、このトピックの「Oracle CRM On Demand でサポートされているユーザーロケールコード」表を参照してください。

フィールド	説明
ユーザーパスワードフラグ	ログインユーザーのパスワードが一時的かどうかを決定します。
ユーザー行 ID	ログインユーザーの行 ID。
ユーザータイムゾーン ID	ログインユーザーのタイムゾーン ID。
ようこそフラグ	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするたびに Oracle CRM On Demand のようこそページを表示するかどうかを指定します。
XSS アクションコード	ブロック、訂正など、ログインユーザーの会社で使用可能なクロスサイトスクリプティング(XSS)保護機能の動作。

Oracle CRM On Demand でサポートされているユーザーロケールコード

次の表では、ロケールおよびユーザーロケールコードをリストしています。

ロケール	ユーザーロケールコード
中国語 - 香港特別行政区	ZHH
中国語 - PRC	CHS
中国語 - シンガポール	ZHI
中国語 - 台湾	CHT
チェコ語 - チェコ共和国	CSY
デンマーク語 - デンマーク	DAN
オランダ語 - ベルギー	NLB
オランダ語 - オランダ	NLD
英語 - オーストラリア	ENA
英語 - カナダ	ENC
英語 - インド	ENN
英語 - アイルランド	ENI
英語 - ニュージーランド	ENZ
英語 - フィリピン	ENP
英語 - 南アフリカ	ENS
英語 - 英国	ENG

ロケール	ユーザーロケールコード
英語 - 米国	ENU
フィンランド語 - フィンランド	FIN
フランス語 - ベルギー	FRB
フランス語 - カナダ	FRC
フランス語 - フランス	FRA
フランス語 - ルクセンブルク	FRL
フランス語 - スイス	FRS
ドイツ語 - オーストリア	DEA
ドイツ語 - ドイツ	DEU
ドイツ語 - ルクセンブルグ	DEL
ドイツ語 - スイス	DES
ギリシャ語 - ギリシャ	ELL
ハンガリー語 - ハンガリー	HUN
インドネシア語 - インドネシア	IND
イタリア語 - イタリア	ITA
日本語 - 日本	JPN
韓国語 - 韓国	KOR
マレー語 - マレーシア	MSL
ノルウェー語 - ブークモール	NOR
ポーランド語 - ポーランド	PLK
ポルトガル語 - ブラジル	PTB
ポルトガル語 - ポルトガル	PTG
ロシア語 - ロシア	RUS
スペイン語 - チリ	ESL

ロケール	ユーザーロケールコード
スペイン語 - メキシコ	ESM
スペイン語 - スペイン	ESN
スウェーデン語 - スウェーデン	SVE
タイ語 - タイ	THA
トルコ語 - トルコ	TRK

Web リンクを使用した新しい統合シナリオの作成について

Web リンクカスタムフィールドを Oracle CRM On Demand に追加することにより、多くの新しい統合を実現できます。ユーザーインターフェイスに基づいて、ユーザーが Oracle CRM On Demand のコンテンツに直接アクセスするための社内システムおよび外部システムとの統合を作成できます。

いくつかの例を次に示します。

- 取引先の証券コードのシンボルに基づいて金融 Web サイトへのリンクを作成し、リンクをクリックすると、取引先の株式チャートが表示されるようにします。
- Web サービスを使用する内部システムへのリンクを作成し、リンクをクリックすると、現在の取引先に関連する社内および連携先からの複数の解決策のデータが複合ビューで表示されるようにします。

注: Oracle CRM On Demand では、(Oracle CRM On Demand 内からの) 内部 URL または外部 URL による分析コンテンツの埋め込みはサポートされていません。URL を使用してカスタム Web アプレットに分析コンテンツを埋め込む場合、アップグレードを実行した後の URL の動作は保証されません。カスタムホームページレポートを使用して分析コンテンツを Oracle CRM On Demand 内に表示してください。

Web リンクの作成方法の詳細については、「[Web リンクの設定](#) (参照 "[Web リンクの設定](#)" ページ 122)」を参照してください。

連結フィールドの設定

連結フィールドは、複数のフィールドからの値の表示や追加テキストの表示が可能なフィールドです。複数の個々のフィールドの値を組み合わせ、その情報をレコードの [詳細] ページ、[編集] ページ、関連情報セクションおよびリストに表示するには、連結フィールドを設定します。連結フィールドの詳細は、「[連結フィールドについて](#)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand で連結フィールドを設定するには、次の手順を実行します。連結フィールド使用時の制限の詳細は、「[連結フィールド使用時の制限事項](#) (ページ 131)」を参照してください。

連結フィールドを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 連結フィールドがまだ存在しない場合は、連結フィールドを作成します。
詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。
- 6 [フィールド] ページで、連結フィールドの[編集フィールド] リンクをクリックします。
- 7 [編集フィールド] ページで、次のフィールドを完成させます (該当するフィールドのみ)。
 - a **項目表示名。**このフィールドは読み取り専用です。
 - b **ユーザーおよびシステムフィールド。**[ユーザーおよびシステムフィールド] リストからオプションを選択して、カーソルの現在の位置にある[テキストを表示] フィールドにパラメータフィールドを追加します。
たとえば、リストから[ユーザー ID]を選択すると、カーソルの位置に応じて[テキストを表示] フィールドに%% %User id%% %が挿入されます。実行時、このパラメーターは、ログインしているユーザーのユーザーID と置き換えられます。
詳細は、「[ユーザーおよびシステムフィールド](#) (ページ 125)」を参照してください。
 - c **レコードタイプ フィールド。**フィールドを追加する[テキストを表示] フィールドにカーソルを置き、挿入するフィールドをリストから選択します。
たとえば、[行 ID]を選択すると、カーソルの位置に応じて[テキストを表示] フィールドに%% %Row id%% %が挿入されます。実行時、このパラメータは、現在のレコードの行 ID と置き換えられます。
注: *レコードタイプは、連結フィールドを設定するレコードタイプを指します。たとえば、担当者レコードの連結フィールドを編集している場合、このフィールドは[担当者フィールド] リストとして表示されます。*
 - d **翻訳。**この連結フィールドを他の有効な言語で表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。
 - e **テキストを表示。**連結フィールドを構成するフィールドおよび追加テキストを表示します。[テキストを表示] フィールドで、レコードタイプのフィールド、ユーザーおよびシステムフィールド、および追加テキストを指定できます。
たとえば、[肩書] フィールドと[年齢] フィールドを基に連結フィールドを設定するには、*レコードタイプ* フィールドから[肩書]を選択し、“、年齢”と入力して、*レコードタイプ* フィールドから[年齢]を選択します。次のテキストが[テキストを表示] フィールドに表示されます。
%% %Job Title%% %、年齢%% %Age%% %
たとえばこの連結フィールドには、次のように表示されます。
マネージャ、年齢 41
[テキストを表示] フィールドで[Enter] キーを使用して、連結フィールド内でテキストとフィールドを別々の行に表示することもできます。
注: *表示テキストが長すぎてレイアウトに収まらない場合は切り捨てられます。[テキストを表示] フィールドには、最大で 250 文字を含めることができます。*

- 8 [保存] をクリックします。
- 9 連結フィールドを「詳細」ページに追加します。
詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 連結フィールドについて
- [連結フィールド使用時の制限事項](#) (ページ 131)
- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)

連結フィールド使用時の制限事項

連結フィールドを使用する際は、次の制限事項が適用されます。

- 連結フィールドでサポートされるのは次のフィールドタイプのみです。
 - テキスト (長い)
 - テキスト (短い)
 - 整数
 - 数値
 - 率
 - 日付/日時
 - 住所
 - ピックリスト
- **注:** [セールスステージ] フィールドは真のピックリストフィールドではありません。連結フィールドは、このタイプのピックリストではサポートされていません。
- 作成できる Web リンクと連結フィールドの合計数はレコードタイプによって異なりますが、一部のレコードタイプでは Web リンクと連結フィールドを合わせて 100 個作成できます。Oracle CRM On Demand のフィールドの詳細は、「[カスタムフィールドについて](#) (ページ 99)」を参照してください。
- 連結フィールドは、[値を更新] ワークフローアクションで更新できず、統合イベントに含めることもできません。そのかわり、連結フィールドを構成する個々のフィールドを使用する必要があります。
- Oracle CRM On Demand で連結フィールドをインポートしたりエクスポートしたりすることはできません。そのかわり、連結フィールドを構成する個々のフィールドをインポートおよびエクスポートできます。
- 住所フィールドを含む連結フィールドを設定する場合は、次の条件が適用されます。
 - 1 つの住所または複数の住所からの個々のフィールドを連結フィールドに追加できます。
 - 連結フィールドに追加した住所フィールドのみがその連結フィールド内に表示されます。ただし、その連結フィールドを更新する際には、フィールドが共有住所からのフィールドでない限り、その連結フィールド内に表示される住所フィールドのみでなく、関連する住所テンプレート内のすべてのフィールドを編集できます。連結フィールド内の住

所フィールドが取引先、担当者、自動車ディーラーまたはパートナーのレコード上の共有住所からのフィールドである場合、その住所内のフィールドは編集できません。代わりに、別の住所を選択できます。

- カスケード式ピックリストで連結フィールドを設定している場合、カスケード式ピックリストに関連付けられたすべてのピックリストを連結フィールドに追加する必要があります。すべてのピックリストを追加しない場合、ピックリストは読み取り専用のままとなり、編集できません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [連結フィールドについて](#)
- [連結フィールドの設定](#) (ページ 129)
- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)

フィールドラベルの管理

従業員になじみの用語を使用するために、フィールドの名前を変更したい場合があります。たとえば、[取引先] フィールドの名前を [企業名] に変更できます。フィールドラベルをアイコンに置き換えることもできます。

注：新しいフィールド表示名がレポートと分析に表示されるまで、30-60 分かかることがあります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。[表示タイプ] および [アイコン] メニューは、翻訳言語がユーザー言語と異なる場合は使用できません。フィールドの翻訳の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

フィールドの名前を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、必要なフィールドセットアップリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、フィールドラベルの管理をクリックします。
- 6 フィールド名を変更するには、次の操作を実行します。
 - a フィールドラベルの管理ページで、[表示タイプ] メニューからテキストのみを選択します。
 - b [表示名] フィールドに、新しいフィールド名を入力します。
- 7 フィールドラベルのかわりにアイコンを使用するには、次の操作を実行します。
 - a フィールドラベルの管理ページで、[表示タイプ] メニューからアイコンのみを選択します。

- b** (オプション) デフォルトのアイコン以外のアイコンを選択するには、[ルックアップ] アイコン (虫めがね) をクリックしてアイコンを選択します。

注: [表示タイプ] メニューから [なし] を選択した場合、フィールド名またはアイコンは [レコードタイプ詳細] ページに表示されません。

- 8** (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。

注: この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では (またはこのページの [翻訳] ドロップダウンリストから他の言語を選択した場合は)、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。

[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、前の表示名のままになり、ここで行った変更は反映されません。

また、[翻訳] チェックボックスをオンにすると、エラーメッセージが存在する場合は、フィールド検証エラーメッセージ ([フィールド編集] ページ) が翻訳対象としてマークされます。[フィールド検証エラーメッセージ] フィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含む役割が割り当てられているユーザーに対してのみ表示されます。

- 9** 新しい名前の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。

- a** [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
- b** 翻訳した名前を適切な [表示名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
- c** リンクをクリックして更新したフィールドページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。
翻訳した名前が [表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。

- 10** [保存] をクリックします。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [フィールド管理について](#) (ページ 92)
- [フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)

インデックス付きカスタムフィールドの使用

Oracle CRM On Demand のパフォーマンスを最適化するために、特定のレコードタイプについて最適化されたカスタムフィールドを使用できます。インデックス付きカスタムフィールドと呼ばれる最適化されたこれらのフィールドは、特定のリストに対する検索や並べ替えの応答時間を短縮する特殊フィールドです。インデックス付きカスタムフィールドは、Oracle CRM On Demand データベースで事前設定されます。インデックス付きカスタムフィールドのラベルは変更できますが、統合タグは変更できません。

注: カスタムフィールドからインデックス付きカスタムフィールドにデータを移行できます。これにより、ユーザーのリストのパフォーマンスが向上します。既存のデータを使用可能なレコードタイプに移行するには、Oracle CRM On Demand のエクスポート/インポート機能、または Web サービスを使用します。データのエクスポートとインポートの詳細については、「[インポートツールとエクスポートツール](#) (ページ 495)」を参照してください。Web サービスの詳細については、「[Web サービスの統合](#) (ページ 715)」を参照してください。

インデックス付きカスタムフィールドにはデフォルトで「インデックス付き」というプレフィックスが付きます。次のレコードタイプでは、インデックス付きカスタムフィールドがサポートされていません。

- アセスメント
- ブック
- ユーザー

次の表に、インデックス付きカスタムフィールドをサポートするレコードタイプを示します。

- 取引先
- 取引先チーム
- 活動
- 住所（取引先、担当者、自動車ディーラーおよびパートナー）。

注: 住所レコードのピックリストのカスタマイズには制限があります。「住所レコードのピックリストのカスタマイズについて」を参照してください。

- アポイント担当者
- アポイント、タスクおよび電話連絡
- アポイントユーザー
- 資産

注: [ポートフォリオ] および [資産] レコードタイプでは、同じインデックス付きピックリストフィールドが共有されます。あるレコードタイプで任意の値を追加、編集、または削除すると、他のレコードタイプで同じアクションが発生します。

- キャンペーン
- キャンペーン受取人
- コール製品詳細
- コール提供プロモーションアイテム
- 担当者
- 担当者最適時刻
- 担当者チーム
- カスタムオブジェクト 1-3
- 自動車ディーラー
- イベント
- 資金
- 資金リクエスト
- 世帯
- 見込み客
- メモ

- 商談
- 商談担当者役割
- 商談製品売上
- パートナープログラム
- ポートフォリオ

注: [ポートフォリオ] および [資産] レコードタイプでは、同じインデックス付きピックリストフィールドが共有されます。あるレコードタイプで任意の値を追加、編集、または削除すると、他のレコードタイプで同じアクションが発生します。

- 製品カテゴリー
- サービスリクエスト
- 解決策
- タスク担当者
- タスクユーザー
- ユーザー
- 車両
- 車両補償内容
- 車両セールス履歴
- 車両サービス履歴

この表の各レコードタイプには、次のインデックス付きカスタムフィールドがあります。

- インデックス付きチェックボックス
- インデックス付き通貨
- インデックス付き日付
- インデックス付き数値
- インデックス付きピックリスト 1
- インデックス付きピックリスト 2
- インデックス付きピックリスト 3
- インデックス付きピックリスト 4
- インデックス付きピックリスト 5
- インデックス付きピックリスト 6
- インデックス付き長いテキスト
- インデックス付き短いテキスト 1
- インデックス付き短いテキスト 2

Oracle CRM On Demand のその他のすべてのレコードタイプには、次のインデックス付きカスタムフィールドがあります。

- インデックス付き数値
- インデックス付き日付
- インデックス付きチェックボックス
- インデックス付き通貨
- インデックス付きピックリスト 1
- インデックス付きピックリスト 2
- インデックス付きピックリスト 3
- インデックス付きピックリスト 4
- インデックス付きピックリスト 5

例外:すべてのカスタムオブジェクトの場合、一部のフィールドでは、前述の表のレコードタイプに対して別のネーミング規則を使用します。

- インデックス付きピックリスト 6 = タイプ
- インデックス付き短いテキスト 1 = クイック検索 1
- インデックス付き短いテキスト 2 = クイック検索 2
- インデックス付き長いテキスト = 名前

住所レコードのピックリストのカスタマイズについて

取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーで共有される住所のすべてのピックリストのカスタマイズ（たとえば、インデックス付きピックリスト、カスタムピックリスト 1、カスタムピックリスト 2 など）。ただし、ピックリストに対して、カスタマイズされたラベルを使用することは可能です。たとえば、[インデックス付きピックリスト 1] のピックリスト定義が、[取引先住所] と [担当者住所] に対して同じであるとしても、1 つのレコードのフィールドの名前を *自分のピックリスト A* に変更して、別のレコードのフィールドの名前を *自分のピックリスト 1* に変更することができます。インデックス付きピックリストの場合は、どのピックリストをカスタマイズして使用するかを企業の管理者が選択できますが、カスタムピックリストに対して、企業の管理者がそのような管理をすることはできません。

インデックス付きカスタムフィールドを使用するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで [フィールドラベルの管理] をクリックし、インデックス付きカスタムフィールドの名前を企業に適した名前に変更します（「[フィールドラベルの管理](#) (ページ 132)」を参照）。

設定をデフォルトに戻す

変更されたすべてのフィールド名を元の名前に戻すことができます。（デフォルトに戻すオプションは、追加したカスタムフィールドやピックリスト値には影響を与えません。これらはデフォルト値には戻りません）。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

設定をデフォルトに戻すには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、必要なフィールドセットアップリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、[フィールドラベルの管理] ボタンをクリックします。
- 6 [初期値] ボタンをクリックします。

ピックリスト値の変更

フィールドによっては、ユーザーに事前定義値のドロップダウンリストが表示されるものがあります。このような値のリストをピックリストと呼びます。たとえば、サービスリクエストの場合は、[エリア] フィールドのピックリストとして [製品]、[インストール]、[保守]、[トレーニング] などの値が考えられます。

フィールドのピックリスト値の追加、編集、および順序変更ができます。ピックリストには、少なくとも 1 つの値が含まれている必要がありますが、ピックリストの値（有効な値と無効な値）の最大数は 1000 個です。

売上予想やレポート基準に使用されるピックリスト値は変更できません。ただし、アプリケーションの別のエリアに表示されるリストの基礎として使用される他のピックリスト値は変更ができます。これらの標準のリストでは、ピックリスト値の名前を変更しても、アプリケーションは基準を満たすレコードを含めます。詳細は、「[フィールド、ピックリスト、基準について](#) (ページ 228)」を参照してください。

新しいピックリストを作成すると、そのピックリストでは、<値なし>という初期値が自動的に使用可能になります。実際の値がリストに追加される前にページレイアウトにフィールドが追加された場合は、この値を使用してピックリストに値が存在しないことがユーザーに通知されます。デフォルトの<値なし>オプションは、カスタム値がピックリストに追加されるとピックリストに表示されなくなります。

注意： デフォルトの<値なし>値は、新しいピックリストまたはカスケード式ピックリストの一部として使用しないでください。この方法で値を使用すると、Oracle CRM On Demand 内でエラーが発生する可能性があります。ピックリストで<値なし>オプションを継続して使用する場合は、このオプションをカスタム値として追加する必要があります。

既存のピックリスト値の名前は、変更したり再利用しないことをお勧めします。かわりに、古いピックリスト値を無効にし、新しいピックリスト値を作成して、インポートまたは大量更新（または Web サービス）を実行することによって、すべてのレコード値を新しいピックリスト値に変更します。ピックリストの値を変更する場合は、各レコードの値が更新および変更されていることを確認する必要があります。これは、Oracle CRM On Demand には、この機能が自動的に実装されていないためです。

注： Oracle CRM On Demand（標準アプリケーション）では、タスクの優先順位はタスクリストの矢印によって表されます。上向き矢印は、[1 - 高] の優先順位を表します。矢印なしは、[2 - 中] の優先順位を表します。下向き矢印は、[3 - 低] の優先順位を表します。[活動] レコードタイプの [優先順位] フィールドの表示値をデフォルト値から変更すると（たとえば、デフォルト値の [1-高い] から「最高位」に変更すると）、1-ラベル、2-ラベルまたは 3-ラベルというパターン（ラベルはタスク優先順位につけた名前）を使用しない限り、Oracle CRM On Demand では、タスクリストの [優先順位] フィールドに矢印が表示されません。この場合、Oracle CRM On Demand では、1-ラベルには上向き矢印が表示され、2-ラベルには矢印が表示されず、3-ラベルには下向き矢印が表示され、他の表示値には矢印が表示されません。たとえば、Oracle CRM On Demand では、1-My Highest という値には上向き矢印が表示されますが、My Highest という値には矢印が表示されません。Oracle CRM On Demand では、[優先順位] フィールドのピックリストに追加したカスタム値には矢印が表示されません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、[活動] レコードタイプ用の [状態] ピックリストで値を追加または変更するには、役割に [アプリケーションをカスタマイズ - 活動における '状態' ピックリストの編集] 権限が含まれている必要があります。

ピックリストを変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、必要なフィールドセットアップリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、値をカスタマイズするフィールドの [ピックリストを編集] リンクをクリックします。

注： 専用コーディングであることから、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の [サンプルトランザクション] タイプのピックリスト、取引先訪問タイプのピックリスト、および [担当者コール] タイプのピックリストのカスタマイズはサポートされていません。

注意： [活動] レコードタイプの [状態] フィールドのためのピックリスト内で、デフォルトで使用可能な値を追加または編集すると、活動処理のために望ましくない結果が生じる可能性があります。Oracle CRM On Demand では、具体的には、活動の処理時に [完了] フィールド、[送信] フィールド、[提出済み] フィールドまたは [計画済み] フィールドの値が予期されています。企業でこれらの状態値を非アクティブ化し、それらをカスタム値と置き換えている場合は、Oracle CRM On Demand アプリケーションにおける活動処理は文書化されているとおりには機能しません。そのため、[活動] レコードタイプの [状態] フィールドのピックリストの値の変更はお勧めできません。

- 6 [ピックリストを編集] ウィンドウで、次の操作を行います。
 - 既存の値を変更するには、[ピックリスト値] フィールドに新しい値を入力するか、古い値を無効にして新しい値を作成します。

注： この更新した名前を他の有効な言語でピックリストに表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では、翻訳した名前を手動で入力するまでは、この更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。
[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、ここで行った変更が他のピックリスト値に反映されません。
 - 新しい値を追加するには、リストの一番下に表示される行に情報を入力します。

続けて新しい値を追加するには、[保存&新規作成] をクリックします。

追加した新しいピックリスト値は、括弧で囲まれた青いテキストとして他の有効な言語で自動的に表示されます（「[翻訳] チェックボックスの設定にかかわらず」）。

- 値を削除するには、「無効化」チェックボックスをオンにします。無効化された値の表示と非表示を切り替えるには、それぞれ「無効な項目を表示する」、または「無効な項目を非表示にする」をクリックします。

注意: 値を無効にする場合は、他の言語に翻訳した値も非表示にします。

- ピックリスト値の表示順序を変更するには、「順序」カラムの数字を変更します。

ヒント: 10、20、30 など、間隔のあいた数字を入力することをお勧めします。これにより、ピックリスト全体で値の順序を変更しなくても、ピックリスト内の途中に新しい値を簡単に追加できるようになります。

- ピックリスト値をアルファベット順に並べるには、「保存&アルファベット順に並べ替え」ボタンをクリックします。

7 「ピックリストを編集」ウィンドウで、「保存&閉じる」をクリックします。

8 新しいピックリスト値の翻訳を手動で入力するには

- a** 「項目」ページで、「翻訳言語」ドロップダウンリストから言語を選択します。
- b** 適切な「ピックリストを編集」リンクをクリックします。
- c** 翻訳した値を入力し、「保存」をクリックします。

注: 編集時にピックリスト値を識別しやすくするために、アプリケーションは内部 IDと言語固有のデフォルト値を表示します。間違ったピックリスト値を編集すると、言語間でピックリストが一致しなくなります。動的レイアウトを使用する場合、予測できない動作が発生する可能性があるため、内部ピックリスト IDと同じピックリスト値を使用できません。

ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング

多くのレコードタイプでは、ピックリストフィールドの値を1つ以上のピックリスト値グループにマップできます。ピックリスト値グループによって、ユーザーがピックリストフィールドで選択できる値が制限されます。各ピックリスト値グループによって、1つ以上のレコードタイプのピックリストフィールドを1つ以上制御できます。ピックリスト値グループの詳細は、「[ピックリスト値グループについて](#) (ページ 195)」を参照してください。

ピックリストフィールドの値をピックリスト値グループにマッピングする場合は、次の操作を実行できます。

- 特定のピックリスト値グループに対して値を一部マップ、マップなし、またはすべてマップ。
- 1つ以上のピックリスト値グループへの各値のマップ、またはピックリスト値グループへのマップなし。

ピックリスト値をピックリスト値グループにマップするには

- 1** 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2** 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3** 「レコードタイプセットアップ」セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。

- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、1 つ以上のピックリスト値グループにマップするピックリストに対する PVG の編集リンクをクリックします。
- 6 PVG マッピングの設定ページのステップ 1 で、次の操作を実行します。
 - a ページのピックリスト値グループセクションで、ピックリスト値グループを選択します。
 - b 矢印を使用して、選択したピックリスト値グループにマップする値を [ピックリスト使用可能値] リストから [選択した PVG に関連する値] リストに移動します。
 - c フィールドにマップする各ピックリスト値グループに対して、ステップ a と b を繰り返します。
- 7 ピックリスト値グループへの値のマッピングが終了した後、PVG マッピングの設定ページのステップ 2 に移動して、マッピングを確認します。
- 8 [終了] をクリックして変更を保存します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項](#) (ページ 196)
- [ピックリスト値グループの設定プロセス](#) (ページ 197)
- [ピックリスト値グループの作成](#) (ページ 198)

関連項目レイアウトのカスタマイズ

ページのレイアウトをカスタマイズして、Oracle CRM On Demand の外観を向上することもできます。関連項目のレイアウト機能によって、ほとんどのレコードタイプの関連リストのレイアウトをカスタマイズして指定したフィールドを表示できます。フィールドは、関連リストおよびいくつかの親フィールドから選択できます。表示するフィールドを選択し、ビジネスニーズを満たすようにフィールドの順序を指定できます。ただし、表示する行数および並べ替えフィールドを指定することはできません。

注: チームをサポートするほとんどのレコードタイプについて、[チーム] 関連情報セクションのレイアウトをカスタマイズできません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、アプリケーションをカスタマイズする権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

次の手順では、関連項目のレイアウトをカスタマイズする方法について説明します。

関連項目のレイアウトをカスタマイズするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。

- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト管理] セクションで、選択したレコードタイプの [Related Information Layout (関連情報レイアウト)] リンクをクリックします。
[Related Information Section (関連情報セクション)] ページが表示されます。
- 5 [Related Information Setup (関連情報セットアップ)] で、カスタマイズする関連情報の種類を選択します。
選択した関連情報タイプの [Related Information Layout (関連情報レイアウト)] ページが表示されます。
注: [関連情報セットアップ]セクションの項目は、選択したのレコードタイプによって異なります。
- 6 次の該当する操作を行います。
 - [編集] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - [新規レイアウト] をクリックして、新しいレイアウトを作成します。
 - [コピー] をクリックして、既存のレイアウトをコピーします。
 関連情報レイアウトウィザードが表示されたら、その指示に従って手順を完了します。
- 7 [ステップ 1: レイアウト名] で、レイアウトの名前と説明を入力し (オプション)、[次へ] をクリックします。
- 8 [Step 2 Field Setup (ステップ 2 - フィールドセットアップ)] で、使用可能フィールドリストからフィールドを選択し、選択済みフィールドリストの横の上向き矢印と下向き矢印をクリックして目的の順序でフィールドを編成します。
- 9 (オプション) 商談関連項目 レコードタイプの並べ替え基準を定義するには、次のようにします。
 - a [並べ替え基準] ドロップダウンリストで、並べ替えフィールドを選択します。
[商談]、[作成日]および[変更日]で並べ替えることができます。並べ替えフィールドを選択しないと、デフォルトの並べ替え順序(昇順)のままになります。
 - b [昇順]または[降順]をクリックして、並べ替え順序を選択します。
並べ替え順序は、関連情報セクションがタブとして表示されている場合とリストとして表示されている場合の両方に適用されます。[並べ替え基準]ドロップダウンメニューで選択した値は、その値が[選択した項目]リストで使用できない場合でも、並べ替えに使用されます。たとえば、[並べ替え基準]ドロップダウンメニューで[作成日]を選択すると、[作成日]フィールドが[選択した項目]リストで使用できない場合でも、すべての商談が作成日で並べ替えられます。

注意: パフォーマンス上の理由により、このオプションは取引先商談関連項目の並べ替えのみに使用することをお勧めします。
- 10 [終了] をクリックします。

カスタムレイアウト制限について

次のレイアウトタイプには特定の制限が適用されます。

- 静的ページレイアウト
- 動的ページレイアウト

- ホームページレイアウト
- 検索レイアウト

静的、動적およびホームページの各レイアウトタイプでは、カスタムレイアウト名に使用できる最大文字数（スペースを含む）は 50 です。検索レイアウトタイプでは、カスタムレイアウト名に使用できる最大文字数（スペースを含む）は 30 です。

デフォルトレイアウト（存在する場合）を含め、特定のレコードタイプにおける指定タイプのレイアウト名で、合計 30,000 文字を超える文字数を使用しないでください。これを超えると、役割管理ウィザードが正しく機能しません。この制限により、作成できるカスタムレイアウトの数が決定されます。レイアウト名が Oracle CRM On Demand に格納される場合、レイアウト名の格納に必要な合計文字数が次の値になるようカンマで区切られます。

1+（レイアウト名の長さ）

この場合、レイアウト名の長さはレイアウト名の文字数です。

レコードタイプについて作成できる指定タイプのレイアウト数を予想するには、一般的なレイアウト名で使用する文字数を決定してから、次の式を適用します。

$$30000/[1+(\text{レイアウト名の長さ})]$$

この式では、レイアウト名の長さは一般的なレイアウト名の文字数です。

たとえば、企業で通常、[取引先] レコードタイプの各静的カスタムページレイアウト名に 29 文字使用している場合、[取引先] レコードタイプについておよそ 1000 個の静的ページレイアウトを格納できます（30,000 を 30 で割った数）。ただし、レコードタイプのデフォルト静的ページレイアウトの名前に使用する文字は、制限全体の一部と見なされます。したがって、この例で [取引先] レコードタイプについて格納できる静的カスタムページレイアウトの数は、デフォルトページレイアウトの名前の長さに応じて、999 またはそれ以下となります。

同様に、企業で [取引先] レコードタイプの各ホームページレイアウト名に 29 文字使用している場合、[取引先] レコードタイプについて格納できるカスタムホームページレイアウトの数は、[取引先] レコードタイプのデフォルトホームページレイアウトの名前の長さに応じて、およそ 999 となります。

静的ページレイアウトのカスタマイズ

ユーザーに採用されるためには、アプリケーションが適切な外観や操作性を備えていることが重要です。そのためには、ページレイアウトをカスタマイズすることも 1 つの方法です。カスタマイズプロセスの一環として、次の操作を行います。

- 編集、詳細、および作成の各フォームにカスタムフィールドを追加する。
- 編集および作成フォームのフィールドを必須にする。
- 詳細フォームにセクションを追加したり、セクションを非表示にしたりする。

従業員に対してセクションを使用不可（非表示）にすることができます。または、使用可能にするが、最初は非表示にすることもできます。

ページレイアウトをカスタマイズする方法は 2 種類あります。個々のフィールドを役割別に定義する静的ページレイアウト、または作成するレコードのタイプに応じて変わる動的ページレイアウトを定義することができます。動的ページレイアウトを役割別に割り当てることもできます。ページレイアウト名に使用できる文字数は制限されています。詳細は、「[カスタムレイアウト制限について](#)（ページ 141）」を参照してください。

注: Oracle Contact On Demand では、電子メール、ボイスメール、およびコール用のページレイアウトを作成できます。動的レイアウトは Oracle Contact On Demand でサポートされていません。「[新規レコードを作成するためのページレイアウトのカスタマイズ](#)（参照「[新しいレコードを作成するためのページレイアウトのカスタマイズ](#)」ページ 149）」で説明するように、新規レコードを作成するために静的ページレイアウトを定義することもできます。

レコードタイプごとに新しいレイアウトを作成してから、各レコードタイプのページレイアウトをユーザー役割に割り当てることができます。その役割を割り当てられたユーザーがサインインすると、各レコードタイプに固有のカスタマイズされたレイアウトが表示されます。たとえば、商談に対して2つのページレイアウトを作成できます。1つはサービス要員向けの簡略化されたレイアウトで、これには最重要フィールドのみが表示されます。もう1つはフィールドセールス要員向けのレイアウトで、これにはより多くのフィールドが表示されます。作成したレイアウトは役割に応じて割り当てることができます。サービス要員またはフィールドセールス要員の役割が割り当てられていないユーザーには、引き続きデフォルトのレイアウトの「商談」ページが表示されます。もう1つの例として、担当者に対して2つのページレイアウトを作成し、サービス要員が新しい担当者を追加するときには「取引先」フィールドを必須フィールドとして、サービス管理者が新しい担当者を追加するときには必須フィールドとしないようにすることができます。

特定の役割についてレコードタイプにカスタムページレイアウトを割り当てないと、そのレコードタイプにはデフォルトのページが使用されます。

ページレイアウトのカスタマイズでは、次のことを指定できます。

■ ページに表示するフィールド

表示するカスタムフィールドをページレイアウトに追加する必要があります。追加したカスタムページレイアウトが割り当てられた役割を持つユーザーには、編集ページ、詳細ページ、および作成フォーム（アクションバー）にそのフィールドが表示されます。

■ ページ上でのフィールドの表示位置

■ 必須のフィールド

■ 読み取り専用にするフィールド

■ ユーザーが項目レイアウトをパーソナライズする場合でも、レイアウトに常に表示する必要があるフィールド

■ 詳細ページの「関連情報」セクションに表示するリンク先のレコードタイプ

たとえば、リンクされた担当者を「取引先詳細」ページに表示することができます。

■ 表示するページセクションの数と各セクションの見出し

標準レイアウトのコピーは可能ですが、編集したり削除したりすることはできません。カスタムレイアウトは、すでに役割や動的レイアウトに割り当てられていない限り、削除できます。

ページレイアウトのパーソナライズについて

ユーザー役割の「詳細ページのパーソナライズ - 関連情報」権限が有効になっている場合、ユーザーはレコードタイプの「詳細」ページで関連情報セクションのレイアウトをパーソナライズできます。

ユーザー役割が次のように設定されている場合、ユーザーはレコードタイプの「詳細」ページで項目レイアウトをパーソナライズできます。

■ 役割の「詳細ページのパーソナライズ - 項目」権限が有効になっています。

■ カスタムページレイアウトは、レコードタイプの役割に割り当てられています。

パーソナライズページレイアウトの詳細は、次のトピックを参照してください。

■ [パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#)（ページ 184）

■ [パーソナライズ項目レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#)（ページ 188）

ページレイアウトのフィールドに関する考慮事項

ページレイアウトを設計する際は、次の事項を考慮してください。

- レポートや売上予想の計算のために重要なレコードフィールドがいくつかあります。これらのフィールドの使用を徹底するため、フィールドに必須のフラグが付けられています。ページレイアウトをカスタマイズするとき、これらのフィールドの必須フラグを変更することはできません。また、ページレイアウトからこれらのフィールドを削除することもできません。
- ページレイアウトからフィールドを削除すると、レコードの使用法に重大な影響を及ぼす可能性があります。たとえば、解決策レコードから [状態] および [発行] フィールドを削除すると、そのページレイアウトを持つ従業員は、解決策を承認したり、他の従業員に解決策の使用を許可したりできなくなります。
- 住所はグループ化され、フィールドとフィールドのラベルが各国の命名規則を反映するようになっています。したがって、一部のレコードタイプについては、住所の各行を分割することはできません。そのかわり、住所の行のグループ（1つの住所オプション）を含んでいるフィールドを選択する必要があります。このオプションは、以前のリリースで選択できた個人のフィールド（市区町村、番地、郵便番号など）に置き換わるものです。たとえば、見込み客について、[請求] フィールドはページレイアウトウィザードの [項目の設定] および [項目レイアウト] のステップで表示されます。[請求] フィールドは [請求先住所] のすべてのフィールドを含んでいます。
- ページレイアウト内の [テキストフィールド (長)] リストの標準およびカスタムメモフィールドをページレイアウト内の他のエリアに移動できます。
- ページレイアウト内の [テキストフィールド (長)] リストと他の領域の間で次のフィールドを移動できます。

レコード	フィールド名
取引先住所	説明
住所	説明
住所	コメント
セールスアセスメントテンプレート	説明
活動	次のコール
申込書類	既存のパートナーシップ
申込書類	予想パートナーシップ給付金
申込書類	インデックス付き長いテキスト
資産	説明
ブック	説明
自動車ディーラー住所	説明
イベント	説明
イベント	セッション詳細
イベント	テスト目標
資金	説明

レコード	フィールド名
資金リクエスト	説明
世帯	説明
招待者	コメント
招待者	セッション詳細
メッセージプラン項目	シノプシス
メッセージプラン項目	講師のメモ
メッセージプラン項目	参加者
メッセージプラン	参加者
メッセージプラン	説明
メッセージプラン	説明
メッセージプラン項目関係	参加者
メッセージプラン項目関係	シノプシス
目標	説明
目標	対象参加者
取引先コール	次のコール
取引先コール	説明
アポイント	次のコール
アポイント	説明
出席者コール	次のコール
出席者コール	説明
担当者の住所	受理可能なスケジュール
担当者の住所	説明
担当者コール	説明
担当者コール	次のコール
スマートコール	説明
スマートコール	次のコール
タスク	説明
タスク	次のコール

レコード	フィールド名
パートナー	説明
パートナー住所	説明
パートナープログラム	説明
製品	説明
製品領域	説明
売上	説明
取引先売上	説明
担当者売上	説明
商談製品売上	説明
サンプル免責条項	免責条項テキスト
サンプルロット	説明
サンプルトランザクション	コメント
サービスリクエスト	主題
トランザクション項目	説明
車両	説明
車両サービス履歴	説明

ページレイアウトおよびリスト

ユーザーが検索できるフィールド、リストに表示できるフィールド、およびエクスポートできるフィールドは、ページレイアウトと役割権限を使用して制限できます。ユーザーがレコードリストの作成や絞り込みを行い、高度な検索を使用してレコードを検索する際は、そのユーザーの役割に割り当てられている権限とページレイアウトによって、検索および表示できるフィールドが決まります。

ユーザーの役割に対して [[検索]および[リスト]のすべてのフィールド] 権限が有効な場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで使用可能なすべてのフィールドを検索できます。また、リストを作成または絞り込む場合、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。

注：企業の管理者が、[検索]および[リスト]のすべてのフィールド権限をユーザー役割の多くで使用可能にしないことをお勧めします。その権限が使用可能でない場合、企業で使用しないフィールドは検索およびリストのページに表示されません。これにより、不要な情報が削減され、ユーザーが最も必要なフィールドを表示することが容易になります。

ユーザーの役割に対して [[検索]および[リスト]のすべてのフィールド] 権限が無効な場合は、次の基準を両方とも満たす場合のみ、フィールドを検索できます。

- レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで、フィールドが使用可能であること。
- 該当するレコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた[詳細] ページレイアウトにフィールドが表示されていること。役割に動的ページレイアウトが定義されている場合は、少なくともその動的ページレイアウトの1つにフィールドが表示されている必要があります。

また、リストを作成または絞り込む場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた（動的ページレイアウトを含む）少なくとも 1 つの「詳細」ページレイアウトにフィールドが表示されている場合にのみ、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。この制約は、リスト内のエクスポートできるフィールドにも影響します。ユーザーの役割で「リスト - 表示されたフィールドのエクスポート」権限が有効で、「リスト - すべてのフィールドのエクスポート」権限が無効の場合は、リストに表示されているフィールドのみエクスポートできます。ユーザーはリスト内のレコードのすべてのフィールドをエクスポートすることはできません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズ」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ページレイアウトを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「レコードタイプセットアップ」セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「ページレイアウト」セクションで、必要なページレイアウトリンクをクリックします。
- 5 「ページレイアウト」リストで、次の該当する操作を行います。

- 既存のレイアウトの「編集」リンクをクリックして、そのレイアウトを変更します。
- 「新規レイアウト」ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- 「コピー」リンクをクリックして、既存のレイアウトをコピーします。

ページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。

注: ページレイアウトウィザードのステップの数は、クリックした「ページレイアウト」リンクによって異なります。

- 6 「ステップ 1： レイアウト名」で、レイアウトの名前と説明を入力します（説明はオプションです）。
- 7 「ステップ 2： 項目設定」で、次のようにフィールドの特徴を選択します。

- 必須にするフィールドの「必須」チェックボックスをオンにします。

注: ユーザーは、タイプがチェックボックスである、「必須」のマークが付いたフィールドを選択する必要があるわけではありません。チェックボックスフィールドの値を True にする（つまり、チェックボックスをオンにする）場合は、チェックボックスフィールドのフィールド検証ルールを使用する必要があります。詳細については、「[フィールド管理について（ページ 92）](#)」を参照してください。

- 読み取り専用にするフィールドの「読み取り専用」チェックボックスをオンにします。
- ユーザーがレイアウトから削除できないようにするフィールドの常にレイアウトに表示チェックボックスをオンにします。

注: 新規ページレイアウトを作成する際には、常にレイアウトに表示チェックボックスがデフォルトでオンになり、フィールドにデフォルト値が設定されていない場合、必須フィールドとして設定されているフィールドに対しては読み取り専用になります。必須フィールドにデフォルト値が設定されている場合、常にレイアウトに表示チェックボックスはデフォルトでオフになりますが、フィールドを常にレイアウトに表示する必要がある場合は、チェックボックスをオンにできます。条件付き必須に設定されているフィールドでも常にレイアウトに表示チェックボックスをオンにすることをお勧めします。さらに、レコードタイプの動的ペ

ージレイアウトを使用する場合は、動的レイアウトを実行するピックリストフィールドの常にレイアウトに表示チェックボックスをオンにすることをお勧めします。

[条件付き必須]チェックボックスの詳細は、「[条件付き必須フィールドについて](#) (ページ 108)」を参照してください。

8 [ステップ 3: フィールドレイアウト] では、次の操作を行えます。

- [レコードタイプ使用可能項目] リストから [レコードタイプページレイアウトを配置] エリアの各種セクションにフィールドを移動します。

フォームに追加するカスタムフィールドおよび業種固有のフィールドを必ず移動してください。また、ステップ 2 で常にレイアウトに表示チェックボックスをオンにしたフィールドがまだレイアウトに表示されていない場合は、そのフィールドをレイアウトに追加します。

注意: 必須フィールドにデフォルト値が設定されていない場合は、ページレイアウトに必須フィールドを表示する必要があります。そうしないと、そのレイアウトを使用するユーザーが、そのタイプのレコードを作成したり編集したりできなくなります。必須フィールドにデフォルト値が設定されている場合は、ページレイアウトに必須フィールドをオプションで表示できます。同様に、関連するページレイアウトにすべての条件付き必須フィールドが表示されていることを確認する必要があります。そうしないと、これらのフィールドが必須になったときに、ユーザーが値を入力できません。

- [説明] フィールドをページレイアウトから削除するか、[説明] フィールドをページレイアウトの別のエリアに移動します。
- 情報を並べ替えます。

注: これらの変更は、該当する役割が割り当てられたユーザーがページを表示したときに、そのレコードタイプのすべてのフォームに影響を与えます。ただし、ユーザーがレコードタイプの項目レイアウトをパーソナライズした後、項目レイアウトを更新した場合、変更はパーソナライズレイアウトには適用されません。一部のフィールドはフィールドのグループまたは複数行のフィールドを含んでいます。これらのフィールドは、含まれる情報自体が最終的なレイアウトの他のフィールドと重複することがあるので、移動しないでください。この理由により、[説明] などの複数行のテキストフィールドも移動できません。

アプリケーションは、国ごとに固有のフィールドを提供する住所テンプレートを使用します。詳細は、「[国と住所のマッピングについて](#) (ページ 499)」を参照してください。

9 [ステップ 4: 関連情報] では、次の操作を行えます。

- 詳細ページに表示されるセクションを追加または削除します。これらのセクションは、ユーザーが現在のレコードにレコードをリンクできるエリアです。

たとえば、従業員が製品を商談にリンクできないようにするには、[製品] セクションが [表示する情報] ボックスまたは [使用可能情報] ボックスに表示されていないことを確認します。

注: ユーザーは、これらのデフォルト設定を、アプリケーションの [詳細] ページにある [レイアウトを編集] リンクを通じて変更できます。ユーザーが個人レイアウトを編集すると、それ以降に企業の管理者が関連情報に対して行った新たな変更は、ユーザーがレイアウトをもう一度編集するまで反映されません。

- 詳細ページのセクションの順序を変更します。

注: これらの変更は、該当する役割が割り当てられたユーザーがページを表示したときに、そのレコードタイプの詳細ページに影響を与えます。

10 [ステップ 5: 関連情報レイアウト] で、ページの関連情報セクションごとに該当する関連情報レイアウトを選択します。

注:各関連情報セクションのデフォルトレイアウトは、標準的なレイアウトです。カスタム関連情報レイアウトをすでに作成している場合、リストからそれらのレイアウトを選択できます。関連情報レイアウトの作成の詳細については、「[関連項目レイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 140)」を参照してください。

11 [終了] をクリックします。

12 必要に応じて、このレコードタイプのページレイアウトをユーザー役割に割り当てます（「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照）。

新しいレコードを作成するためのページレイアウトのカスタマイズ

新しいレコードの作成に使用するページレイアウトを作成およびカスタマイズできます。これらのレイアウトでは、Oracle CRM On Demand の外観が向上され、ユーザーはレコードタイプの最適かつ最も頻繁に使用されるフィールドのみを表示できます。

新規レコードレイアウトページでは、レイアウトに表示するフィールド、必須フィールド、読み取り専用フィールドを選択し、ビジネスニーズを満たすようにレイアウト内のフィールドの順序を並べ替えることができます。

既存のレイアウトをコピーまたは編集し、要件に合わせて変更を加えることができます。

注: レイアウト名に使用できる文字数は制限されています。詳細は、「[カスタムレイアウト制限について](#) (ページ 141)」を参照してください。

レイアウトを作成したら、役割管理ウィザードを使用して、そのレイアウトを使用する必要があるユーザー役割に新規レコードレイアウトを割り当てる必要があります。その際に、アプリケーションでレイアウトが使用される場所を指定することもできます。たとえば、ユーザーがアクションバーまたはグローバルヘッダーを使用してレコードを作成する場合のみレイアウトを使用するように指定できます。新規レコードレイアウトの役割への割当の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」および「[新規レコードページのレイアウトについて](#)」を参照してください。

新しいレコードを作成するためにレイアウトを作成または変更するには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3** [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4** [ページレイアウト管理] セクションで、[レコードタイプ新規レコードレイアウトリンク](#)をクリックします。
- 5** 新規レコードレイアウトページで、次のいずれかを実行します。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
 ページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。
- 6** ステップ 1 の [レイアウト名] にレイアウト名を入力し、必要な場合は説明も入力します。
- 7** [ステップ 2 : 項目設定] で、次のようにフィールドの特徴を選択します。
 - 必須にするフィールドの [必須] チェックボックスをオンにします。

注: ユーザーは、必須のマークが付いているチェックボックスフィールドタイプのフィールドの選択を強要されません。チェックボックスフィールドの値を True にする（つまり、チェックボックスをオンにする）場合は、チェックボックスフィールドのフィールド検証ルールを使用する必要があります。詳細については、「[フィールド管理について](#)（ページ 92）」を参照してください。

- 読み取り専用にするフィールドの [読み取り専用] チェックボックスをオンにします。

[条件付き必須] チェックボックスの詳細は、「[条件付き必須フィールドについて](#)（ページ 108）」を参照してください。

8 [ステップ 3: フィールドレイアウト] では、次の操作を行えます。

- [レコードタイプ使用可能項目] リストから [レコードタイプページレイアウトを配置] エリアの各種セクションにフィールドを移動します。

ページレイアウトに追加するカスタムフィールドおよび業種固有のフィールドを必ず移動してください。

注意: 必須フィールドにデフォルト値が設定されていない場合は、ページレイアウトに必須フィールドを表示する必要があります。そうしないと、そのレイアウトを使用するユーザーが、そのタイプのレコードを作成できなくなります。必須フィールドにデフォルト値が設定されている場合は、ページレイアウトに必須フィールドをオプションで表示できます。同様に、関連するページレイアウトにすべての条件付き必須フィールドが表示されていることを確認する必要があります。そうしないと、これらのフィールドが必須になったときに、ユーザーが値を入力できません。

- [説明] フィールドをページレイアウトから削除するか、[説明] フィールドがページレイアウトの [テキストフィールド (長)] セクションにあることを確認します。
- 必要に応じて、セクション間でフィールドを移動して情報を並べ替えます。

注: これらの変更は、該当する役割が割り当てられたユーザーがページを表示したときに、そのレコードタイプのすべてのフォームに影響を与えます。一部のフィールドはフィールドのグループまたは複数行のフィールドを含んでいます。これらのフィールドは、含まれる情報自体が最終的なレイアウトの他のフィールドと重複することがあるので、移動しないでください。

9 [終了] をクリックします。

注: アプリケーションにレイアウトを追加したら、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。ユーザーの役割の追加および変更の詳細については、「[役割の追加](#)（ページ 272）」を参照してください。

フィールドセクションタイトルの名前変更

レコードの編集および詳細ページでは、フィールドはセクションにグループ化されています。ユーザーが使い慣れた用語を使用するために、編集および詳細ページでフィールドのグループの上に表示されるタイトルの名前を変更できます。[取引先ホームページ] では、たとえば、[主要取引先情報] を [取引先プロフィール] に変更できます。

標準レイアウト内のセクションの名前を変更することはできません。カスタムレイアウトを作成し、そのレイアウト内でセクションの名前を変更する必要があります。

フィールドのないセクションは、詳細ページには表示されません。

作業前の準備: 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

セクションの名前を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト] セクションで、必要なページレイアウトリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプページレイアウト] ページで、[セクションを編集] をクリックします。
- 6 [翻訳言語] ドロップダウンリストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 7 [表示名] に、使用する名前を入力します。
- 8 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。

注： この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では（またはこのページの [翻訳] ドロップダウンリストから他の言語を選択した場合は）、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。

[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、前の表示名のままになり、ここで行った変更は反映されません。

- 9 新しい名前の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
 - b 翻訳した名前を適切な [表示名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
 - c リンクをクリックして更新したフィールドページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。
翻訳した名前が [表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。

カスタム Web アプレットについて

カスタム Web アプレットには、Oracle CRM On Demand の次の場所に外部 Web コンテンツを埋め込むことができます。

■ グローバル Web アプレットの場合：

■ アクションバー

注意： リリース 27 以降の場合、これはグローバルヘッダー内のグローバル Web アプレットを言及している場合もあり、アクションバーおよびグローバルヘッダーのレイアウトの一部として設定できます。

■ ホームページ (個人)

■ レコードタイプ Web アプレットの場合：

■ レコードタイプのホームページ

■ [詳細] ページ

注意: Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「[Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項 \(ページ 202\)](#)」を参照してください。

さまざまなタイプの Web コンテンツを埋め込むことができる、3 種類の Web アプレットを作成できます。

- **フィード。** RSS フィードを埋め込むのに使用されます。たとえば、[ホームページ (個人)] にニュースフィードを埋め込むことができます。

注: RSS 2.0 標準のみサポートされています。

- **HTML。** HTML コードを埋め込むのに使用されます。たとえば、この Web アプレットを使用して、Google マップなどの外部ソースからウィジェットを埋め込むことができます。
- **URL。** 指定された URL で使用可能なコンテンツを Oracle CRM On Demand 内のアプレットに埋め込むのに使用されます。たとえば、[見込み客詳細] ページのカスタム Web アプレットに、その見込み客の名前を調べるための Google 検索を表示できます。Oracle CRM On Demand の URL の標準化の詳細は、「[URL の標準化について \(ページ 190\)](#)」を参照してください。

注: Oracle CRM On Demand では、(Oracle CRM On Demand 内からの) 内部 URL または外部 URL による分析コンテンツの埋め込みはサポートされていません。URL を使用してカスタム Web アプレットに分析コンテンツを埋め込む場合、アップグレードを実行した後の URL の動作は保証されません。カスタムホームページレポートを使用して分析コンテンツを Oracle CRM On Demand 内に表示してください。カスタムホームページレポートを使用して分析コンテンツを Oracle CRM On Demand 内に表示することを検討してください。

Web アプレットは [ページレイアウト] リンクが表示される、すべてのレコードタイプに追加できます。

カスタム Web タブではなく、カスタム Web アプレットを作成することには、次の 2 つの利点があります。

- [見込み客詳細] などのページに表示されるカスタム Web アプレットにより、詳細ページのデータを関連性のある他のデータと一緒に表示できます。一方、Web タブを使用して外部データが表示される場合は、その Web タブをクリックすると、詳細ページから Web タブページに移動します。
- 企業には、ポートフォリオホールディングなど、表示する情報が大量に存在する場合があります。カスタム Web アプレットを使用すれば、Oracle CRM On Demand アプリケーションに情報をロードしなくても、別の Web サイトからの大量のデータを表示できます。大量のデータを Oracle CRM On Demand にロードするには、膨大な数のデータカラムを管理するため統合ツールが必要になります。

関連情報

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [レコードタイプの Web アプレットの作成 \(ページ 153\)](#)
- [グローバル Web アプレットの作成 \(ページ 200\)](#)
- [RSS フィード Web アプレットの作成 \(ページ 155\)](#)
- [HTML Web アプレットの作成 \(ページ 158\)](#)
- [URL Web アプレットの作成 \(ページ 159\)](#)
- [RSS フィード Web アプレットの設定例 \(ページ 161\)](#)
- [Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 \(参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163\)](#)

レコードタイプの Web アプレットの作成

ホームページまたはレコードタイプの [詳細] ページに表示されるカスタム Web アプレットを作成して、外部 Web コンテンツを埋め込むことができます。

Web アプレットを作成したら、ホームページまたは [詳細] ページのページレイアウトに追加する必要があります。そのページレイアウトをユーザーに表示するには、適切なユーザー役割に割り当てる必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] および [カスタム Web アプレットの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。企業プロファイルで [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスをオンにすると、[翻訳言語] フィールドで選択されている言語が企業のデフォルト言語の場合のみ、アプレットを作成できます。

新しい Web アプレットを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト管理] セクションで、必要な [レコードタイプ Web アプレット] リンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプアプレット] リストで、[新規] をクリックします。
- 6 [Web アプレット] ページで、次のフィールドを入力します。

フィールド	コメント
名前	名前を入力します。名前フィールドの値が、[関連情報] セクションのタイトルバーに表示されます。

フィールド	コメント
翻訳	このチェックボックスは、企業プロファイルの [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスがオンの場合のみ使用できます。アプレットを初めて作成する場合、[翻訳] チェックボックスがオンになり、読み取り専用になります。[翻訳] チェックボックスは、既存のアプレットを更新する場合のみ有効です。また、アプレットを編集する前に、アプレットの [翻訳言語] フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、[翻訳] チェックボックスは読み取り専用になります。カスタム Web アプレット名の翻訳の詳細は、「Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 (参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163)」を参照してください。 企業のデフォルト言語で既存のカスタム Web アプレットの名前を変更する場合は、次のように [翻訳] チェックボックスを使用します。 ■ 翻訳した名前を更新された名前に置換するには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。 ■ 翻訳した名前を変更しないままにするには、[翻訳] チェックボックスをオンにしません。
場所	外部コンテンツをホームページに表示するか、[詳細] ページに表示するかどうかに応じて、[ホームページ] または [詳細] ページを選択します。
カラム	注:このフィールドは、[場所] 値が「ホームページ」の場合のみ使用できます。 [カラム] メニューからシングルまたはダブルを選択して、アプレットの幅を指定します。

次のトピックで説明するように、必要なアプレットのタイプに応じてフィールドに情報を入力します。

- [RSS フィード Web アプレットの作成](#) (ページ 155)
- [HTML Web アプレットの作成](#) (ページ 158)
- [URL Web アプレットの作成](#) (ページ 159)

Web アプレットを表示可能にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト] セクションで、必要なページレイアウトリンクをクリックします。

5 [ページレイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。

- [編集] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
- [新規レイアウト] をクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- [コピー] をクリックして、既存のレイアウトをコピーします。

ページレイアウトウィザードが表示されたら、プロセスに従います。

注： ページレイアウトウィザードのステップの数は、クリックした [ページレイアウト] リンクによって異なります。
。 [ステップ 1： レイアウト名] で、レイアウトに名前と説明があることを確認します（説明はオプションです）。

6 [ステップ 4： 関連情報] で、次の操作を行います。

- a 新しいカスタム Web アプレットを、[使用可能情報] リストから [表示する情報] リストに移動します。
- b 必要に応じて、上矢印と下矢印をクリックして新しいカスタム Web アプレットを配置します。
- c [終了] をクリックして新しいレイアウトを作成します。

7 必要に応じて、ページレイアウトをユーザー役割に追加します（「[役割の追加](#)（ページ 272）」を参照）。

関連トピック

次のトピックでは、Twitter RSS フィードを表示する Web アプレットの作成例を説明します。

- [RSS フィード Web アプレットの設定例](#)（ページ 161）

RSS フィード Web アプレットの作成

アプリケーションに RSS フィードを埋め込むには、この種類のアプレットを作成します。ユーザー役割に関連するコンテンツが埋め込まれるように、RSS フィードアプレットを設定します。

RSS フィードアプレットのユーザー設定を許可できますが、設定可能にするアプレットの数を少なくすることをお勧めします。RSS フィードアプレットアクションバーに追加し、カスタム Web タブでレコードを使用可能にすると、ユーザーは別のページに移動する必要がないので、フィードの可読性を高めることができます。

注意： Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「[Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項](#)（ページ 202）」を参照してください。

RSS フィードアプレットを作成するには

注： これは、「[レコードタイプの Web アプレットの作成](#)（ページ 153）」と「[グローバル Web アプレットの作成](#)（ページ 200）」のトピックで説明されているように、Web アプレットの作成の最後の手順です。

[Web アプレット] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	コメント
タイプ	フィードを選択します。

フィールド	コメント
ユーザーおよびシステムフィールド	Oracle CRM On Demand で Web アプレットを作成する前に、文字エンティティの参照としてエスケープされる可能性がある文字がフィールドに含まれている場合は、%%%User Id%%%などのパラメータフィールド変数の使用方法を注意深く考慮してください。 パラメータフィールド変数を HTML に挿入する際には、&などのフィールド名の文字が対応する文字エンティティの参照（この場合は&#38;）にエスケープされ、ブラウザでエンティティの参照が展開されて参照されている文字が表示されます。たとえば、A&B Manufacturing という企業名でホームページの HTML Web アプレットを作成するとします。[ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストから[企業名]を選択して、%%%Company name%%%という変数を挿入できます。この変数の値は実行時に A&#38;B Manufacturing になり、ブラウザには A&B Manufacturing と表示されます。ただし、JavaScript コードでは文字エンティティの参照が展開されないため、参照可能なコンテキストに変数を置き、文書の DOM から取得して必要に応じてエンコードします。これらの相違を Web アプレット HTML コードの次の例に示します。 <pre> <script type="text/javascript"> var var1 = "%%%Company name%%%" ; var var2 = document.getElementById("companyname").getAttribute("data-value"); </script> var1 の値は“A&#38;B Manufacturing”に、var2 の値は“A&B Manufacturing”になります。var1 と var2 の値が異なるのは、HTML タグおよびデータのエンティティの参照がブラウザでは展開されますが、<script>エレメント内では展開されないためです。</pre> [ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストからオプションを選択して、カーソルの現在の位置にある [URL] フィールドにパラメータフィールドを追加します。 たとえば、ドロップダウンリストから [ユーザーID] を選択すると、%%%User id%%%が挿入されます。実行時に、このパラメータは、サインインしているユーザーのユーザーID で置き換えられます。 もう1つの例として、リストから[ホスト名]を選択した場合、カーソルの位置に%%%Hostname%%%が挿入されます。実行時、このパラメータは、Oracle CRM On Demand が動作しているサーバーのホスト名と置き換えられます。環境の移行時に Oracle CRM On Demand ホスト名を手動で変更する必要がなくなるため、Oracle CRM On Demand への URL を含む設定では便利です。 詳細は、「ユーザーおよびシステムフィールド (ページ 125)」を参照してください。

フィールド	コメント
レコードタイプフィールド	注:このフィールドは、[場所] 値が [詳細ページ] の場合のみ使用できません。 パラメータを追加する [URL] フィールドにカーソルを置き、挿入する項目をドロップダウンリストから選択します。 たとえば、[行 ID] フィールドを選択すると、%%%Row id%%%が挿入されます。実行時に、このパラメータは、現在のレコードの行 ID で置き換えられます。
ファンクション	Oracle CRM On Demand の URL を正しく表示するために詳細なエンコーディングが必要な場合は、ピックリストからエンコード URL を選択します。
URL	ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL（http://rss.news.yahoo.com/topstories など）を入力します。 URL には http:// も含める必要があります。URL が有効な Uniform Resource Identifier (URI) であることを確認してください。有効でない場合、ユーザーが [カスタム Web アプレット] にアクセスすると、埋め込みコンテンツのかわりにエラーメッセージが表示されます。 注意: Oracle CRM On Demand の URL の標準化の詳細は、「URL の標準化について (ページ 190)」を参照してください。 また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストを選択することにより、このフィールドにコンテキスト依存のパラメータを挿入できます。これにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ (%%%fieldname%%%で指定) が挿入され、アプレットがソース URL を呼び出したときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。 URL を指定しない場合、ユーザーがリンクをクリックすると、その移動先は空の URL になります。 注:各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超えて URL を指定した場合、ブラウザで予期しない動作が見られることがあります。
ユーザーによる URL の上書きを許可	ユーザー役割に関連するコンテンツの RSS フィードアプレットを設定します。ユーザーによる RSS フィードアプレットの設定を可能にすることができますが、設定可能にするアプレットの数を少なくすることをお勧めします。
レコードを開く	レコードを現在のブラウザウィンドウで開くか、または新しいブラウザウィンドウで開くかによって値を選択します。RSS フィードアプレットをアクションバーに追加する場合は、フィードを新しいブラウザウィンドウで開くと読みやすくなります。これにより、ユーザーは別のページにナビゲートする必要がなくなります。
高さ	ピクセル単位のアプレットの高さ。

フィールド	コメント
[モダン]アイコン	虫めがねアイコンをクリックして、Web アプレットのアイコンを選択します。

HTML Web アプレットの作成

追加を行う HTML コードの埋め込みコンテンツに対してこの種類のアプレットを作成します。

注意: Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「[Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項 \(ページ 202\)](#)」を参照してください。

HTML Web アプレットを作成するには

注: これは、「[レコードタイプの Web アプレットの作成 \(ページ 153\)](#)」と「[グローバル Web アプレットの作成 \(ページ 200\)](#)」のトピックで説明されているように、Web アプレットの作成の最後の手順です。

[Web アプレット] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	コメント
タイプ	[HTML] を選択します。
レコードタイプフィールド	注:このフィールドは、[場所] 値が[詳細ページ] の場合のみ使用できません。 パラメータを追加する [Web アプレット HTML] フィールドにカーソルを置き、挿入する項目をドロップダウンリストから選択します。 たとえば、[行 ID] フィールドを選択すると、%%%Row id%%%が挿入されます。実行時に、このパラメータは、現在のレコードの行 ID で置き換えられます。
HTML ヘッド追加	入力する HTML は、Web アプレットを追加するページの HTML コード内の <iframe>要素の src 属性で使用されます。[Web アプレット HTML] フィールドに追加したコードは、<iframe>エレメントに追加されます。このフィールド内で、HTML の<head>セクションに埋め込んだ JavaScript ファイルへの参照を含めることができます。 Oracle CRM On Demand ページでの JavaScript ファイルの参照はサポートされていません。このフィールドに入力したすべての内容が<head>タグに追加されます。
Web アプレット HTML	入力する HTML は、Web アプレットを追加するページの HTML コード内の <iframe>要素の src 属性で使用されます。 [Web アプレット HTML] フィールドに追加したコードは、<iframe>エレメントに追加されます。このフィールドに入力したすべての内容が<body>タグに追加されます。

フィールド	コメント
常に実行	このフラグによって、アプレットが最小化された場合にカスタム Web アプレットを実行するかどうかが決まります。このフラグは、[詳細] ページ上にあるカスタムアプレットにのみ使用可能です。
高さ	ピクセル単位のアプレットの高さ。
[モダン]アイコン	モダンテーマを使用する場合、虫めがねアイコンをクリックして、Web アプレットのアイコンを選択できます。

URL Web アプレットの作成

IFrame の URL からコンテンツを埋め込むには、この種類のアプレットを作成します。

注意: Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「[Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項 \(ページ 202\)](#)」を参照してください。

URL Web アプレットを作成するには

注: これは、「[レコードタイプの Web アプレットの作成 \(ページ 153\)](#)」と「[グローバル Web アプレットの作成 \(ページ 200\)](#)」のトピックで説明されているように、Web アプレットの作成の最後の手順です。

[Web アプレット] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	コメント
タイプ	[URL] を選択します。
ユーザーおよびシステムフィールド	[ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストからオプションを選択して、カーソルの現在の位置にある [URL] フィールドにユーザーパラメータフィールドを追加します。 たとえば、ドロップダウンリストから [ユーザーID] を選択すると、%%%User id%%%が挿入されます。実行時に、このパラメータは、サインインしているユーザーのユーザーID で置き換えられます。 もう 1 つの例として、リストから[ホスト名]を選択した場合、カーソルの位置に%%%Hostname%%%が挿入されます。実行時、このパラメータは、Oracle CRM On Demand が動作しているサーバーのホスト名と置き換えられます。環境の移行時に Oracle CRM On Demand ホスト名を手動で変更する必要がなくなるため、Oracle

フィールド	コメント
	CRM On Demand への URL を含む設定では便利です。
レコードタイプフィールド	注:このフィールドは、[場所] 値が [詳細ページ] の場合のみ使用できます。 パラメータを追加する [URL] フィールドにカーソルを置き、挿入する項目をドロップダウンリストから選択します。 たとえば、[行 ID] フィールドを選択すると、%%%Row id%%% が挿入されます。実行時に、このパラメータは、現在のレコードの行 ID で置き換えられます。
ファンクション	Oracle CRM On Demand の URL を正しく表示するために詳細なエンコーディングが必要な場合は、ピックリストからエンコード URL を選択します。
URL	ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL (http://maps.google.com など) を入力します。 URL には http:// も含める必要があります。URL が有効な Uniform Resource Identifier (URI) であることを確認してください。有効でない場合、ユーザーが [カスタム Web アプレット] にアクセスすると、埋め込みコンテンツのかわりにエラーメッセージが表示されます。 また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストを選択することにより、このフィールドにコンテキスト依存のパラメータを挿入できます。これにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ (%%%fieldname%%% で指定) が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。たとえば、 http://maps.google.com/?q=%%%Ship_To_ADDR_Address1%%%,+%%%Ship_To_CITY_City%%%,+%%%SHIP_LIST_USSTATE%%% という URL は、出荷先住所を Google マップに渡します。 URL を指定しない場合、ユーザーがリンクをクリックすると、その移動先は空の URL になります。 注:各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超えて URL を指定した場合、ブラウザで予期しない動作が見られることがあります。
常に実行	このフラグによって、アプレットが最小化された場合にカスタム Web アプレットを実行するかどうかが決まります。このフラグは、[詳細] ページ上にあるカスタムアプレットにのみ使用可能です。
高さ	ピクセル単位のアプレットの高さ。

フィールド	コメント
[モダン]アイコン	モダンテーマを使用する場合、虫めがねアイコンをクリックして、Web アプレットのアイコンを選択できます。

RSS フィード Web アプレットの設定例

このトピックでは、RSS フィード Web アプレットの設定例を示します。この機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。この例では、[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーの担当者レコードの詳細ページで、RSS フィード Web アプレットを設定します。Web アプレットには、担当者の Twitter フィードが表示されます。

企業の管理者は、[担当者] レコードタイプで Twitter ID フィールドを設定し、Twitter Web アプレットを作成します。次に、新規フィールドと Twitter Web アプレットを [フィールドセールス要員] 役割のページレイアウトに追加します。これにより、[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーは、[担当者詳細] ページに担当者の Twitter ID を入力できます。[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーが担当者の Twitter ID をフィールドに入力すると、担当者の Twitter RSS フィードが [担当者詳細] ページの Twitter Web アプレットに表示されます。

作業前の準備。 Twitter ID フィールドを設定し、Twitter Web アプレットを作成して、フィールドとアプレットをページレイアウトに追加するには、ユーザー役割に [アプリケーションをカスタマイズ] 権限が含まれている必要があります。

RSS フィード Web アプレットを作成するには (企業の管理者)

- 1 次のように、[担当者] レコードタイプで Twitter ID フィールドを設定します。
 - a 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - b [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
 - c [レコードタイプセットアップ] セクションで、[担当者] をクリックします。
 - d [フィールド管理] セクションで、[担当者項目の設定] をクリックします。
 - e [フィールド] ページで、[新規フィールド] をクリックします。
 - f [担当者フィールド編集] ページで、[表示名] フィールドに Twitter ID を入力し、[項目タイプ] フィールドで [テキスト (短い)] を選択します。
 - g 変更を保存します。
- 2 担当者アプリケーションカスタマイズに戻るをクリックします。
- 3 次のように、Twitter Web アプレットを作成します。
 - a [担当者アプリケーションカスタマイズ] ページの [ページレイアウト管理] セクションで、[担当者 Web アプレット] をクリックします。

- b** [担当者アプレットリスト] で、[新規] をクリックします。
- c** [担当者 Web アプレット] ページで、次のように Web アプレットの詳細を入力します。
 - Web アプレットの名前（例：担当者 Twitter フィード）を入力します。
 - [場所] フィールドで、[詳細ページ] を選択します。
 - [タイプ] フィールドで、[フィード] を選択します。
 - [URL] フィールドで、次の URL を入力します。
`http://twitter.com/statuses/user_timeline.rss?id=%%%stTwitter_ID%%&count=10`
 - [ユーザーによる URL の上書きを許可] フィールドで、[いいえ] を選択します。
 - [レコードを開く] フィールドで、[現在のウィンドウ] を選択します。
 - [説明] フィールドで、説明（例：担当者の Twitter フィード）を入力します。
 - [高さ] フィールドで、「200」と入力します。

注:前述の URL では、[担当者詳細] ページのアプレットにフィードの 10 行が表示されるように指定されています（count=10）。10 行を表示する場合、アプレットの高さは 200 ピクセルが適切です。フィードの 11 行以上を [担当者詳細] ページに表示する場合は、行数に応じて URL を変更し、アプレットの高さを増やしてください。

- d** 変更を保存します。

4 担当者アプリケーションカスタマイズに戻るをクリックします。

5 次のように、Twitter ID フィールドおよび Web アプレットをユーザー役割の担当者ページレイアウトに追加します。

- a** [担当者アプリケーションカスタマイズ] ページの [ページレイアウト管理] セクションで、[担当者ページレイアウト] をクリックします。
- b** [フィールドセールス要員] 役割に割り当てられたページレイアウトのレコードレベルメニューで、[編集] をクリックします。
- c** ステップ 3 の [項目レイアウト] で、矢印を使用して、Twitter ID フィールドを [使用可能担当者項目] セクションからページセクションフィールド（例：[担当者主要情報] セクション）に移動します。
- d** ステップ 4 の [関連情報] で、矢印を使用して、作成した Web アプレットを [使用可能情報] セクションから [表示する情報] セクションに移動します。
- e** [終了] をクリックして変更を保存します。

[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーは、次回に担当者レコードを編集したり新規担当者レコードを作成したりするとき、次の手順に従って担当者の Twitter RSS フィードを設定できます。

担当者の Twitter RSS フィードを設定するには（ユーザー）

- 1** 既存の担当者レコードを開くか、新規担当者を作成して保存します。

- 2 [担当者詳細] ページに担当者の Twitter フィードアプレットが表示されない場合は、次のようにアプレットを追加します。
 - a [レイアウトを編集] をクリックします。
 - b [個人レイアウト] ページが開いたら、[関連情報] をクリックします。
 - c [個人レイアウト - 関連情報] ページで、矢印を使用して、担当者の Twitter フィードアプレットを [利用可能] セクションから [表示する情報] セクションに移動します。
 - d 変更を保存します。
 - 3 [担当者詳細] ページで、[編集] をクリックします。
 - 4 [担当者編集] ページの Twitter ID フィールドで、担当者の Twitter ID を入力します。
 - 5 変更を保存します。
- 担当者の Twitter フィードが、[担当者詳細] ページの担当者の Twitter フィードアプレットに表示されます。

Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳

企業プロフィール上の [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスの設定によっては、翻訳された名前を次のタイプのアプレットに対して入力できる場合があります。

- グローバル Web アプレットおよびレコードタイプ用 Web アプレットを含むカスタム Web アプレット
- レコードタイプのホームページ上にカスタムレポートを表示するアプレット
- ホームページ (個人) 上にカスタムレポートを表示するアプレット

企業プロフィール上の [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスがオフの場合、翻訳された名前をこれらのタイプのアプレットに対して入力できません。

企業プロフィール上の [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスがオンの場合、これらのタイプのアプレットの動作は次のとおりです。

- [翻訳言語] フィールドはアプレットのリストを表示するときに使用できます。[翻訳言語] フィールドで選択された言語がその企業のデフォルト言語の場合にのみ、アプレットを作成できます。新しいアプレットを作成した後、アプレット名は企業のデフォルト言語以外のすべての言語で括弧で囲まれた青色のフォントで表示されます。この結果、アプレットを編集して翻訳されたバージョンのアプレット名を入力できます。
- [翻訳] チェックボックスはアプレットを編集するページで使用できます。企業のデフォルト言語で表されたアプレットの名前を変更する場合、[翻訳] チェックボックスを使用して、翻訳されたバージョンのアプレット名を更新された名前置き換えるか、変更しないままにするかを指定できます。[翻訳] チェックボックスをオンにすると、更新されたアプレット名はデフォルトのフォントでデフォルトの企業言語で表示され、他の言語で翻訳された名前を入力するまでは括弧で囲まれた青色のフォントで表示されます。アプレット名をデフォルトの企業言語で更新するときに [翻訳] チェックボックスをオンにしないと、アプレット名はデフォルトの企業言語で変更されますが翻訳されたアプレット名は変更されません。

注: アプレットを初めて作成する場合、[翻訳] チェックボックスがオンになり、読み取り専用になります。[翻訳] チェックボックスは、既存のアプレットを更新する場合のみ有効です。また、アプレットを編集する前に、アプレットの [翻訳言語] フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、[翻訳] チェックボックスは読み取り専用になります。

次の手順では、翻訳されたバージョンのアプレット名を入力する方法について説明します。

翻訳されたバージョンのアプレット名を入力するには

- 1 アプレットの [リスト] ページに移動します。
- 2 アプレットの [リスト] ページにある [翻訳言語] フィールドで、翻訳した名前を入力する言語を選択します。
- 3 アプレットの [編集] リンクをクリックします。
- 4 [名前] フィールドにアプレットの翻訳した名前を入力します。
- 5 変更を保存します。

必要に応じて各言語にこの手順を繰り返します。

関連トピック

- [レコードタイプの Web アプレットの作成](#) (ページ 153)
- [ホームページカスタムレポートの作成](#) (ページ 172)
- [グローバル Web アプレットの作成](#) (ページ 200)
- [\[ホームページ \(個人\)\] でのカスタムレポートの有効化](#) (ページ 210)

カスケード式ピックリストの定義

カスケード式ピックリストは、あるピックリスト（*関連ピックリスト*）の値を、別のピックリスト（*親ピックリスト*）で選択された値に基づいて制限します。たとえば、親ピックリストがサービスリクエストカテゴリーのリストを提供し、サブカテゴリーという名前の関連ピックリストの値が制限される場合があります。たとえば、ユーザーがインストールという値をカテゴリーとして選択すると、サブカテゴリーのピックリストの動作が制限されて、インストールカテゴリーに関連付けられているピックリスト値のみ表示されます。

複数のピックリスト（事前定義ピックリストフィールドとカスタムピックリストフィールドの両方を含む）を、カスケード式ピックリストとしてリンクすることができます。また、カスケード式ピックリストはネストできるため、あるカスケード式ピックリスト定義の関連ピックリストを別のカスケード式ピックリスト定義の親ピックリストにすることもできます。

ネストされた多数のカスケードピックリストがあり、トップレベルの親ピックリスト値を更新する場合、更新された値は、次の例に示すようにネストの最初のレベルにのみ反映されます。

- [取引先タイプ]というカスケード親ピックリスト、および[取引先優先順位]という関連ピックリストがあります。
- [取引先優先順位]という 2 番目のカスケード親ピックリスト、および[取引先カテゴリー]という関連ピックリストがあります。
- 次の値を持つ取引先レコードがあります。
 - **取引先タイプ**。このフィールドの値は [顧客] です。
 - **取引先優先順位**。このフィールドの値は [高] です。
 - **取引先カテゴリー**。このフィールドの値は [プラチナ] です。

- 「取引先タイプ」の値を「パートナー」に更新すると、「取引先優先順位」の値は自動的にリセットされます。ただし、「取引先カテゴリ」の値は変更されないままです。

カスケード式ピックリストでピックリスト値グループにマップされた値を含むピックリストフィールドを使用できます。ただし、カスケード式ピックリストを定義するときにピックリスト値グループリストでピックリスト値グループを選択しているかどうかに関係なく、カスケード式ピックリスト定義では、親ピックリストフィールドの値と関連ピックリストフィールドの値の関係を1セットのみ指定できます。カスケード式ピックリストでピックリスト値グループを使用する方法の詳細は、「[カスケード式ピックリストおよびピックリスト値グループについて](#) (ページ 166)」を参照してください。ピックリスト値グループの詳細は、「[ピックリスト値グループについて](#) (ページ 195)」を参照してください。

作業前の準備。カスケード式ピックリスト定義を作成するには、親ピックリストと関連ピックリストが存在し、ページレイアウトに表示されている必要があります。関連ピックリストの値をフィルターするには、親ピックリストが表示されている必要があります。ピックリストの作成の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。次の手順を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズ」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カスケード式ピックリスト定義を作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「レコードタイプセットアップ」セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「カスケード式ピックリスト」セクションで、必要な「カスケード式ピックリスト」リンクをクリックします。

表示されるレコードタイプには、カスタムピックリスト値を持つ親レコードタイプと、関連レコードタイプが含まれます。たとえば、商談の場合は、商談パートナーのリンクと商談競合会社のリンクがあります。

- 5 「カスケード式ピックリスト」ページで、次のいずれかの操作を行います。

- 「編集」または「コピー」をクリックして、既存のカスケード式ピックリスト定義を変更します。
- 「新規」ボタンをクリックして、新しいカスケード式ピックリスト定義を作成します。

カスケード式ピックリストウィザードの指示に従って手順を完了します。

- 6 「ステップ 1: ピックリストを選択」で、親ピックリストと関連ピックリストを選択します。
- 7 「ステップ 2: 値を選択」では、次の操作を行えます。

- 親ピックリストの値と関連ピックリストの値の間の既存の関連付けを表示します。「親ピックリスト使用可能値」リストから値を選択すると、関連ピックリストの使用可能値が「関連ピックリスト使用可能値」リストに示され、表示される値が「関連ピックリスト表示値」リストに示されます。「関連ピックリスト表示値」リストに値がない場合は、親ピックリスト中の対応する値が選択されると、関連ピックリスト中のすべての値が表示されます。

注: 企業でピックリスト値グループを定義している場合は、カスケード式ピックリストの設定がビジネスニーズを適切に満たしていることを検証しやすくするために、ピックリスト値グループリストでピックリスト値グループを選択（ハイライト表示）できます。ピックリスト値グループを選択した場合、「親ピックリスト使用可能値」リストおよび「関連ピックリスト使用可能値」リストには、選択したピックリスト値グループにマップされている値のみが表示されます。

- 新しい関連付けを作成します。目的の値を、「関連ピックリスト使用可能値」から「関連ピックリスト表示値」に移動します。

- 既存の関連付けを削除します。[関連ピックリスト表示値] から [関連ピックリスト使用可能値] に値を移動します。

8 [ステップ 3: 確認] で、親ピックリスト値ごとの関連ピックリスト値の選択を確認して [終了] をクリックすると、親ピックリストと関連ピックリストの間のカスケード関係の定義を完了できます。

ウィザードで [終了] をクリックすると、現在のレコードタイプの [カスケード式ピックリスト] リストに戻ります。

[終了] をクリックし、カスケード式ピックリスト定義をページレイアウトに追加すると、そのレイアウトを含むすべての役割に対して、追加された定義が有効化されます。

カスケード式ピックリストおよびピックリスト値グループについて

カスケード式ピックリストでピックリスト値グループにマップされた値を含むピックリストフィールドを使用できます。ただし、カスケード式ピックリストを定義するときにピックリスト値グループリストでピックリスト値グループを選択しているかどうかに関係なく、カスケード式ピックリスト定義では、親ピックリストフィールドの値と関連ピックリストフィールドの値の関係を 1 セットのみ指定できます。フィールドがカスケード式ピックリスト定義で関連フィールドであり、ピックリスト値グループにもマップされている場合、レコードの作成または更新時にフィールドで選択できる値は、最初にレコードのピックリスト値グループでフィルタリングされ、次にカスケード式ピックリスト定義でフィルタリングされます。

例として、[取引先] レコードタイプに対して次の構成を設定するとします。

- [取引先タイプ] フィールドと [優先順位] フィールドが、[取引先タイプ] フィールドを親ピックリストフィールドとしてカスケード式ピックリスト定義でリンクされます。
- ピックリスト値グループフィールド、[取引先タイプ] フィールド、[優先順位] フィールドがすべて、[詳細] ページレイアウトに表示されます。

取引先にピックリスト値グループフィールドの値が挿入された場合、ピックリストフィールドで選択できる値は、次のとおりです。

- [取引先タイプ] フィールドでは、ピックリスト値グループにマップされている値を選択できます。
- [優先順位] フィールドでは、[取引先タイプ] フィールドで値が選択されるまで、ピックリスト値グループにマップされている値をすべて使用できます。[取引先タイプ] フィールドの値が選択された後は、[優先順位] フィールドの値は、次の両方の条件を満たす値に制限されます。
 - 値がピックリスト値グループにマップされていること。
 - 値が、カスケード式ピックリスト定義で [取引先タイプ] フィールドの値にリンクされていること。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [カスケード式ピックリストの定義](#) (ページ 164)
- [ピックリスト値グループについて](#) (ページ 195)
- [ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項](#) (ページ 196)
- [ピックリスト値グループの設定プロセス](#) (ページ 197)
- [ピックリスト値グループの作成](#) (ページ 198)

- [ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#) (ページ 139)

検索レイアウトの管理

ほとんどのレコードタイプでは、レコードの検索時にユーザーが使用できるフィールド（標準フィールドとカスタムフィールドの両方）を指定できます。さらに、検索結果ページに表示されるフィールドを指定することもできます。検索レイアウトに検索フィールドを指定し、必要に応じて各レコードタイプの検索レイアウトをユーザー役割に割り当てます（「[役割の追加](#)（ページ 272）」を参照）。

既存の検索レイアウトをコピーしてから、それを要件に合わせて変更することも、既存の検索レイアウトを編集することもできます。デフォルトの検索レイアウトは読み取り専用です。デフォルト検索レイアウトはコピー可能ですが、削除したり編集したりすることはできません。検索に使用するフィールドおよび検索結果に表示するフィールドを指定するには、検索レイアウトウィザードを使用します。

注: 検索レイアウト名に使用できる文字数は制限されています。詳細は、「[カスタムレイアウト制限について](#)（ページ 141）」を参照してください。

注意: ユーザーのレコードタイプの検索レイアウトを作成または編集するときは、[上司] フィールドおよび [上司 (エイリアス)] フィールドの両方を同じ検索レイアウトに追加しないでください。検索レイアウトでこの両方のフィールドを使用可能にすると、その検索レイアウトを使用する検索は失敗します。[上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドの詳細は、「[ユーザーレコードの \[上司\] および \[上司 \(エイリアス\)\] フィールドについて](#)（ページ 250）」を参照してください。

[ルックアップ] ウィンドウの動作の管理

検索レイアウトウィザードを使用して、ルックアップウィンドウの動作を管理し、スマート関連付けを有効化することもできます。各レコードタイプの [ルックアップ] ウィンドウの動作の設定には、次のオプションを使用できます。デフォルトの検索レイアウトでは、これらのオプションはすべてオンになります。

- **ルックアップウィンドウをデフォルトフィールドで設定します。** このチェックボックスをオンにした場合は、デフォルトの検索レイアウトのフィールドが使用されます。
- **ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示。** このチェックボックスをオンにした場合は、[ルックアップ] ウィンドウを開くと使用可能なレコードが一覧表示されます。このチェックボックスをオフにした場合は、[ルックアップ] ウィンドウを開いてもレコードは表示されません。

注: 企業に対してマネージャ表示が有効になっている場合、一部の [ルックアップ] ウィンドウでレコードリストへの挿入速度が遅くなり、[ルックアップ] ウィンドウがタイムアウトすることもあります。タイムアウトを防止するには、[ルックアップ] ウィンドウに関連付けられているレコードタイプの [ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示] チェックボックスをオフにします。その後、[ルックアップ] ウィンドウにはレコードが表示されなくなり、ユーザーが検索条件を指定して目的のレコードを検索できます。

- **自動解決有効。** このチェックボックスをオンにした場合、スマート関連付けが有効になります。Oracle CRM On Demand におけるスマート関連付けは、ユーザーによる取引先、担当者、商談、活動などの様々なレコードタイプのレコードの相互関連付けを容易にする自動検索機能です。スマート関連付けが有効である場合、ユーザーはメインレコードと関連付けるレコードの名前のすべてまたは一部を該当するフィールドに入力してから、Oracle CRM On Demand による関連付けの自動解決を許可できます。ユーザーが変更を保存しようとする、Oracle CRM On Demand によってユーザーが入力した名前との一致が検索されます。Oracle CRM On Demand によって一意の一致が見つかった場合は、一致するレコードが使用され、ユーザーの変更が保存されます。Oracle CRM On Demand により一致が見つからないか、または複数の一致が候補として見つかった場合は、[ルックアップ] ウィンドウが表示されます。[ルックアップ] ウィンドウで、ユーザーはさらに検索を実行し、適切なレコードを選択できます。スマート関連付けが無効な場合、ユーザーはフィールドの横にある [ルックアップ] アイコンをクリックして、[ルックアップ] ウィンドウを開く必要があります（ここでレコードの検索が可能）。

- **ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示。**このチェックボックスは、企業プロファイルの[ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト]メニューが[有効化]に設定されている場合のみ使用できます。[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスをオンにすると、レコードタイプに 1 つ以上のコンテキスト依存リストがある場合は、[ルックアップ] ウィンドウの左上隅の[レコードタイプリスト] フィールドに、すべてのコンテキスト依存リストが他のリストより前に表示されます。コンテキスト依存リストには、ユーザーが必要とする可能性が高いレコードが含まれます。[レコードタイプリスト] フィールドおよびコンテキスト依存リストの詳細は、「ルックアップウィンドウでのレコードの検索」を参照してください。[ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト]メニューの詳細は、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。

注意: 検索レイアウトの設定後に企業プロファイルの[ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト]メニューで[無効化]を選択した場合、検索レイアウトウィザードでは[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスは使用できなくなります。また、[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] オプションが前に選択されていたかどうかにかかわらず、ルックアップウィンドウではコンテキスト依存リストが使用不可であり、ルックアップウィンドウにおける指定レコードタイプのレコードの初期検索は、ユーザーがアクセスできるレコードタイプのすべてのレコードについて実行されます。ただし、Oracle CRM On Demand では検索レイアウトごとに、[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示]チェックボックスの設定が格納されます。後でもう一度企業プロファイルの[ルックアップウィンドウ内のレコードタイプリスト]メニューで[有効化]または[混合]を選択した場合、各検索レイアウトの[ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示] チェックボックスの設定が元に戻り、再度有効になります。

[製品] レコードタイプの検索レイアウトを作成するときに、その検索レイアウトウィンドウで製品を部署別に表示する必要がある場合は、次のオプションが使用可能です。

- **部署をデフォルト検索フィールドとしてルックアップウィンドウを設定します。** Oracle CRM On Demand の検索レイアウトウィザードで [製品] レコードタイプの検索レイアウトを作成するときは、[部署をデフォルト検索フィールドとしてルックアップウィンドウを設定します]チェックボックスを選択することで、製品検索レイアウトを、製品を部署別にリストするよう構成できます。製品ルックアップウィンドウで部署別に製品を表示することで、ユーザーが一連の関連製品の範囲内で検索できるようになるため、製品リストから検索および選択する際のユーザーエラーが減少します。詳細は、「[製品検索レイアウトを作成する際の考慮事項](#) (ページ 171)」を参照してください。

検索レイアウトを作成する際に、[取引先]、[商談]、[担当者]、[アポイント]、[タスク]レコードタイプの特定の結果フィールドが表示されるように、拡張キーワード検索の検索結果ページを設定する必要がある場合は、次のオプションを使用できます。

- **選択した検索結果フィールドを使用して拡張キーワード検索を設定。**Oracle CRM On Demand の検索レイアウトウィザードで検索レイアウトを作成するときに、[選択した検索結果フィールドを使用して拡張キーワード検索を設定]チェックボックスをオンにすれば、特定の結果フィールドを表示する拡張キーワード検索の検索結果ページを設定できます。拡張キーワード検索に特定のフィールドを表示することにより、検索結果ページに返されるフィールド数をユーザーが絞り込めます。

作業前の準備。検索レイアウトを管理するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

次の手順では、検索レイアウトを作成または変更する方法について説明します。

検索レイアウトを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。

- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、検索レイアウトを作成または変更するレコードタイプをクリックします。
- 4 [レコードタイプアプリケーションカスタマイズ] ページで、[レコードタイプ検索レイアウト] リンクをクリックします。

- 5 [検索レイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。

- [編集] または [コピー] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
- [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- [削除] をクリックして、現在どの役割にも割り当てられていない既存のレイアウトを削除します。

検索レイアウトウィザードの指示に従って手順を完了します。

- 6 ステップ 1 の [レイアウト名を定義] で、名前（および必要に応じてレイアウトの説明）を入力または変更します。

- 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 2 の [検索フィールドの指定] には、次の 3 つのリストがあります。

- **使用不可検索フィールド。** このリストには、検索に使用できないフィールドがすべて表示されます。
- **ターゲット検索フィールド。** このリストには、ターゲット検索に使用可能なフィールド、およびアクションバーのレコードタイプの [ターゲット検索] アプレットに表示されるフィールドがすべて表示されます。[ターゲット検索] アプレットには、最大 10 個のフィールドを表示できます。10 個を超えるフィールドをリストに追加して、レイアウトを保存しようとする、エラーメッセージが表示されます。[ターゲット検索] フィールドを使用すると、次のようになります。
 - フィールドは、[高度な検索] 基準フォームの事前入力デフォルトフィールドとして使用できます。
 - 選択したフィールドは、リストを作成または絞り込む際のフィルタ基準の事前入力デフォルトフィールドとして表示されます。
 - 選択したフィールドは、検索可能なフィールドのセットとして [ルックアップ] ウィンドウに表示されます。

このリストにフィールドが指定されていない場合、レコードタイプは [ターゲット検索] アプレットに表示されますが、検索フィールドはアプレットに表示されません。
- **追加検索フィールド。** このリストには、[ターゲット検索] アプレットに表示されないが、高度な検索などの他の検索で利用できるフィールドが表示されます。インデックス付きフィールドは緑で表示されます。大文字小文字が区別されないインデックス付きフィールドは青で表示されます。

注：最適なパフォーマンスが得られるように、検索フィールドを定義するときはインデックス付きフィールドを使用してください。[ターゲット検索フィールド] または [追加検索フィールド] のいずれかのリストに最適化されていないフィールドが含まれている場合は、警告メッセージが表示されます。

上向き矢印と下向き矢印をクリックしてリスト内のフィールドを配置し、右向き矢印と左向き矢印、または上向き矢印と下向き矢印をクリックして、リスト間でフィールドを移動します。リスト内のフィールドの順序は、アクションバーの [ターゲット検索] アプレット、および検索基準の各フォームで使用されます。

- 8 ステップ 2 で、フィールドを [使用不可検索フィールド] リストに移動し、必要な場合は、フィールドを [ターゲット検索フィールド] リストおよび [追加検索フィールド] リストに配置します。

注意：リスト内のカラムの数はパフォーマンスに影響を与える可能性があるため、リストへのフィールドの追加は慎重に実行してください。パフォーマンスはレコードタイプとフィールドタイプによって大幅に変わります。フィールドを追加するたびに、リストのロード時間が長くなる可能性があります。

- 9 (オプション) 検索レイアウトウィンドウで製品を部署別に表示する必要がある場合は、[部署をデフォルト検索フィールドとしてルックアップウィンドウを設定します]チェックボックスを選択します。

注: このオプションは、[製品] レコードタイプの検索レイアウトを指定している場合のみ使用可能です。詳細は、「製品検索レイアウトを作成する際の考慮事項 (ページ 171)」を参照してください。

- 10 [次へ] をクリックします。

ステップ 3 の [検索結果レイアウトを定義] には、次の 3 つのリストがあります。

- **使用不可検索結果フィールド。** このリストには、検索結果に表示されないフィールドがすべて表示されます。
- **ルックアップウィンドウ検索結果フィールド。** このリストには、[ルックアップ] ウィンドウの検索結果に表示されるフィールドが表示されます。このリストは最大 9 つのフィールドに制限されます。
- **その他の検索結果フィールド。** このリストには、[ルックアップウィンドウ検索結果フィールド] リストのフィールドに加え、[ルックアップ] ウィンドウの検索以外の検索結果に表示される特別なフィールドが表示されます。
[ルックアップウィンドウ検索結果フィールド] リストおよび [その他の検索結果フィールド] リストに表示できるフィールドの合計数は 20 個です (つまり、検索結果には 20 を超えるカラムは表示できません)。レコードの検索の詳細については、「レコードの検索」を参照してください。

- 11 ステップ 3 の [検索結果レイアウトを定義] で、フィールドを [ルックアップウィンドウ検索結果フィールド] リストおよび [その他の検索結果フィールド] リストに移動し、必要に応じて並べ替えます。

注: [ルックアップウィンドウ検索結果フィールド] リストでは、単一の関連付けルックアップウィンドウのみに対する検索結果フィールドのレイアウトが決まります。複数関連付けルックアップウィンドウ用の検索結果フィールドのレイアウトは指定できません。

- 12 ルックアップウィンドウの動作の設定に必要な次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

- ルックアップウィンドウをデフォルトフィールドで設定します
- ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示
- 自動解決有効
- ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示
- 選択した検索結果フィールドを使用して拡張キーワード検索を設定

- 13 [終了] をクリックします。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [関連項目レイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 140)
- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)
- [レコードホームページレイアウトの作成](#) (ページ 175)

製品検索レイアウトを作成する際の考慮事項

Oracle CRM On Demand の検索レイアウトウィザードで [製品] レコードタイプの検索レイアウトを作成するときは、[部署] をデフォルト検索フィールドとしてルックアップウィンドウを設定します] チェックボックスを選択することで、製品検索レイアウトを、製品を部署別にリストするよう構成できます。製品ルックアップウィンドウで部署別に製品を表示することで、ユーザーが一連の関連製品の範囲内で検索できるようになるため、製品リストから検索および選択する際のユーザーエラーが減少します。

製品検索レイアウトで部署別に製品を表示することを選択した場合は、次のようになります。

- 製品ルックアップウィンドウで、デフォルト検索フィールドとして [部署] フィールドが使用され、ユーザーにプライマリ部署がある場合はそれが事前入力されます。
- [ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示] チェックボックスが選択されている場合は、製品のリストが表示され、自動的にユーザーのプライマリ部署でフィルター処理されます。ユーザーにプライマリ部署がない場合は、すべての製品が表示され、フィルター処理は行われません。
- [ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示] チェックボックスが選択されていない場合は、製品ルックアップウィンドウに製品は表示されません。

製品検索レイアウトで部署別に製品を表示しないことを選択した場合は、次のようになります。

- 製品ルックアップウィンドウで、デフォルト検索フィールドとして [製品名] フィールドが使用されます。
- [ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示] チェックボックスが選択されている場合は、製品ルックアップウィンドウで、デフォルト検索フィールドとして [製品名] フィールドが使用され、すべての製品がリストされます。
- [ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示] チェックボックスが選択されていない場合は、製品ルックアップウィンドウで、デフォルト検索フィールドとして [製品名] フィールドが使用され、製品はリストされません。

[部署] フィールドは、自動的に [ターゲット検索] アプレットに追加されませんが、[アクションバー] で [ターゲット検索] アプレットに表示されるよう、ターゲット検索に追加できます。

[部署] が [使用不可検索フィールド] リスト内に表示されている場合、ユーザーは部署を検索できません。ただし、[部署] をデフォルト検索フィールドとしてルックアップウィンドウを設定します] チェックボックスを選択することで、[ルックアップ] ウィンドウのみを使用してそれを検索できます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [検索レイアウトの管理](#) (ページ 167)
- [部署の設定](#) (ページ 61)

リストアクセスおよびリスト順序の管理

各レコードタイプについて、役割ごとに使用できるリストと、そのレコードタイプのホームページにリストが表示される順序を指定できます。

新しいレイアウトは、まだカスタマイズしていない役割に対してのみ作成できます。既存のレイアウトの編集と削除も可能です。ユーザーのプライベートリストについては、リストアクセスとリスト順序を管理できません。

作業前の準備：

ここでのカスタマイズ内容が適用される役割を選択する必要があるため、この手順を開始する前に、すべての役割を設定しておきます。この手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と、[公開リストを管理する] および [役割管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

リストアクセスを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [リストアクセスと順序] セクションで、レコードタイプ [リストアクセスと順序] リンクをクリックします。
- 5 [リスト順レイアウト] ページで、次のいずれかの操作を行います。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- 6 新しいレイアウトを作成する場合は、[役割名] ドロップダウンリストから役割を選択します。
ドロップダウンリストから選択できるのは、まだレイアウトに関連付けられていない役割だけです。
- 7 必要に応じて、[リスト（全件）] リスト、[この役割に使用可能なリスト] リスト、[短いリストで表示] リスト間でリストを移動します。
 - [リスト（全件）] には、現在のレコードタイプのリスト全件（個人用リストを除く）が含まれます。
 - [この役割に使用可能なリスト] には、選択した役割で使用可能なリストの全件が含まれます。これらのリストは、レコードタイプの [ルックアップ] ウィンドウにある [レコードタイプリスト] フィールドにも表示されます。
 - [短いリストで表示] には、ホームページの [リスト] セクション、レコードタイプの [リスト] ページにあるリストのピックリスト、およびレコードタイプの [ルックアップ] ウィンドウにある [レコードタイプリスト] フィールドのそれぞれに表示されるリストが含まれます。[レコードタイプリスト] フィールドの詳細は、「ルックアップウィンドウでのレコードの検索」を参照してください。
- 8 必要に応じて、上下の矢印ボタンでリストの順序を並べ替えます。
- 9 [保存] をクリックします。

ホームページカスタムレポートの作成

組み込みレポートでもカスタムレポートでも、複数のレポートをレコードタイプのホームページに追加できます。この機能では、最適な情報をさまざまなユーザーに提供することができます。たとえば、顧客サービス要員のサービスリクエストホームページを設定して、カスタムサービスリクエストレポートを表示できます。

レコードタイプによっては、標準レポートがレコードタイプのホームページにデフォルトで表示されます。標準レポートを別のレポートに置き換えたり、レポートを追加することができます。さらに、デフォルトではレコードタイプのホームページにレポートが表示されないレコードタイプのホームページレポートを指定することもできます。

組み込みレポートまたはカスタムレポートをレコードタイプのホームページで使用できるようにするには、まずレポートのホームページカスタムレポートレコードを作成します。レコードタイプのホームページレイアウトを作成または編集するとき、そのレコードタイプに作成したホームページカスタムレポートレコードが、ホームページレポートレイアウトウィザードの「使用可能なセクション」リストに示されます。その後、次のようにレポートをホームページレイアウトで使用可能にできます。

- レポートをホームページレイアウトに追加して、役割に「ホームページレイアウト」が含まれるどのユーザーでも、自分のレコードタイプのホームページにそのレポートが表示されるようにできます。
- レポートをレコードタイプのホームページレイアウトの使用可能なセクションのままにして、役割に「ホームページレイアウト」および「ホームページのパーソナライズ」権限が含まれるどのユーザーでも、レポートを自分のレコードタイプのホームページに追加できるようにできます。
- 特定の役割を持つユーザーがレポートを自分のレコードタイプのホームページに追加できないようにする場合は、レポートをホームページレイアウトウィザードの「使用可能なセクション」リストから移動できます。

ホームページのカスタマイズの詳細については、「[レコードホームページレイアウトの作成](#) (ページ 175)」を参照してください。

役割に適切な権限が含まれてる場合、カスタムレポートを作成し、それらをすべてのレコードタイプのカスタムホームページレイアウトに追加できます。次の表では、ホームページでのカスタムレポートの作成に関係するさまざまなタスクに必要な権限について説明します。

タスク	必要な権限	メモ
(オプション) カスタムレポートを作成し、全社レベルのフォルダに公開する	カスタムレポートの管理	詳細については、「Answers の概要 (カスタムレポート)」を参照してください。
ホームページカスタムレポートを作成する	アプリケーションのカスタマイズ アプリケーションのカスタマイズ - ホームページのカスタマイズ化の管理	このタスクの手順については、このトピックで説明します。
カスタムレポートセクションをホームページレイアウトに追加する	アプリケーションのカスタマイズ アプリケーションのカスタマイズ - ホームページのカスタマイズ化の管理	詳細については、「 レコードホームページレイアウトの作成 (ページ 175)」を参照してください。
ホームページレイアウトをユーザーの役割に追加する	役割およびアクセスの管理	詳細については、「 役割の追加 (ページ 272)」を参照してください。
(オプション) ホームページのカスタムレポートセクションを追加または削除する (エンドユーザー)	ホームページのパーソナライズ	詳細については、「 ホームページレイアウトの変更 」を参照してください。

作業前の準備。 この手順を実行する前に、ホームページで有効にするカスタムレポートが作成および保存されている必要があります。企業プロフィールで「Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化」チェックボックスをオンにすると、「翻訳言語」フィールドで選択されている言語が企業のデフォルト言語の場合のみ、カスタムレポートを作成できます。

ホームページカスタムレポートを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「レコードタイプセットアップ」セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「ホームページレイアウトの管理」セクションで、「レコードタイプホームページカスタムレポート」をクリックします。
- 5 「ホームページカスタムレポート」ページで、次のフィールドを入力します。

フィールド	コメント
名前	カスタムレポートの名前を入力します。
翻訳	このチェックボックスは、企業プロファイルの「Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化」チェックボックスがオンの場合のみ使用できます。カスタムレポートを作成する場合、「翻訳」チェックボックスがオンになり、読み取り専用になります。また、既存のカスタムレポートを更新する前に、カスタムレポートのリストの翻訳フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、「翻訳」チェックボックスは読み取り専用になります。 企業のデフォルト言語で既存のレポートの名前を変更する場合は、次のように「翻訳」チェックボックスを使用します。 ■ 翻訳した名前を更新された名前に置換するには、「翻訳」チェックボックスをオンにします。 ■ 翻訳した名前を変更しないままにするには、「翻訳」チェックボックスをオンにしません。 カスタムレポートの翻訳の詳細は、「Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 (参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163)」を参照してください。
高さ	「シングル」または「ダブル」を選択します。高さを「ダブル」に設定すると、ホームページに表示されるレポートの高さが他のセクションの 2 倍になります。
幅	「シングル」または「ダブル」を選択します。ホームページの左端から右端の全体にレポートを表示するには、幅を「ダブル」に設定します。 注: レポートの HTML RowSpan 属性の値が 2 より大きい場合、レポートは指定されたサイズもより大きくなる場合があります。

フィールド	コメント
今すぐレポートを実行	このチェックボックスをオンにすると、レポートは自動的に実行され、ユーザーはレポートを更新するためにリンクをクリックする必要はありません。

- 1 [レポートパス] フィールドに、レポートのパスを入力します。

[オープン分析] ウィンドウからレポートのパスを貼り付けることができます。レポートパスをコピーするには、次の操作を行います。

a [Answers の概要] ページの [オープン分析] ボタンをクリックします。

b レポートを選択します。

c [項目] フィールドの値をコピーします。

次に例を示します。

全社共有フォルダ：プリビルド分析/セールスステージ履歴分析：前月のセールスレポート

- 2 [保存] をクリックします。

レコードホームページレイアウトの作成

カスタムホームページレイアウトは、すべてのレコードタイプで作成できます。この機能では、レコードタイプのホームページにカスタムレポートを表示する機能など、最適な情報をさまざまなユーザーに提供することができます。たとえば、顧客サービス要員のサービスリクエストホームページを設定して、ユーザーの現在のサービスリクエスト関連タスクとカスタムサービスリクエストレポートを表示できます。

注: カスタムホームページレイアウトで組み込みレポートまたはカスタムレポートを使用する場合は、「[ホームページカスタムレポートの作成](#) (ページ 172)」で説明した手順を使用して、まずレポートのホームページカスタムレポートレコードを作成する必要があります。

既存のホームページレイアウトをコピーし、要件に合わせて変更を加えることができます。既存のホームページレイアウトも編集できます。ただし、デフォルトのホームページレイアウトは読み取り専用です。デフォルトのホームページレイアウトのコピーは可能ですが、削除や編集はできません。

注: ホームページレイアウト名に使用できる文字数は制限されています。詳細は、「[カスタムレイアウト制限について](#) (ページ 141)」を参照してください。

カスタムホームページレイアウトを作成したら、役割管理ウィザードを使用して、そのレイアウトを使用する必要があるユーザーの役割にレイアウトを割り当てる必要があります。役割に [ホームページのパーソナライズ] 権限が含まれるユーザーは、自分のレコードタイプのホームページレイアウトをカスタマイズできます。カスタマイズされたレイアウトには、そのレコードタイプのユーザーの役割に割り当てられたホームページレイアウトで使用可能にできるどのセクションでも表示できます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [カスタムアプリケーション - ホームページのカスタマイズ化の管理] 権限を含む役割が割り当てられていなければなりません。

ホームページレイアウトを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「レコードタイプセットアップ」セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「ホームページレイアウト管理」セクションで、「レコードタイプホームページレイアウト」リンクをクリックします。
- 5 「ホームページレイアウト」リストで、次の該当する操作を行います。
 - 「編集」または「コピー」をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - 「新規レイアウト」ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。ホームページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。
- 6 ステップ 1 の「レイアウト名」にレイアウト名を入力し、必要な場合は説明も入力します。
- 7 ステップ 2 の「ホームページレイアウト」で、次のようにして使用可能なセクションと表示されるセクションを指定します。
 - 「すべてのセクション」リストから「使用可能なセクション」リストにセクションを移動します。
「使用可能なセクション」リスト内のセクションは、ホームページに追加できるセクションです。ユーザーがホームページにセクションを追加できないようにする場合は、「すべてのセクション」リストにセクションを残したままにします。
 - 必要に応じて、「左側」リストから「右側」リストにセクションを移動し、両方のリストの情報を並べ替えます。
ダブル幅のセクションは、「左側」リストに残します。これらのセクションは、自動的にホームページのサイズに合わせて表示されます。
- 8 「終了」をクリックします。

注:アプリケーションにカスタムホームページレイアウトを追加したら、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。ユーザーの役割の追加および変更の詳細については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。「ホームページのパーソナライズ」権限を持っているユーザーは、そのレコードタイプに関するそのユーザーの役割に割り当てられたホームページレイアウトで使用できるようにした任意のリストまたはレポートを使用して、ホームページのレイアウトを編集できます。

監査証跡のカスタマイズ

Oracle CRM On Demand の監査対象フィールドの作成、削除および復元を追跡したり、特定のレコードタイプを企業で設定している場合は、これらのレコードタイプについて監査証跡で追跡するフィールドを指定することができます。次の表にデフォルトの監査対象フィールドを示します。これらのレコードタイプで管理者が監査可能なマークを付けたフィールドをユーザーが更新すると、監査証跡レコードが生成され、古い値と新しい値、およびタイムスタンプと変更を加えたユーザーなどの情報が追跡されます。

新規顧客の場合および Oracle CRM On Demand をこのリリースにアップグレードした顧客に対しては、レコードタイプの特定のフィールドを監査している場合、レコードタイプの特定のフィールドの作成、削除および復元の監査がデフォルトで有効になります。レコードタイプの特定のフィールドを監査していない場合、レコードタイプの特定のフィールドのレコード作成、削除および復元の監査はすべて無効になります。その後、顧客がこれらのレコードレベル監査設定を変更できます。

マスター監査証跡を使用して作成、削除または復元されたレコードなど、全社レベルで監査可能なレコードタイプに対するすべての変更を表示できます。詳細は、「[マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#) (ページ 70)」を参照してください。

商談、サービスリクエストおよびユーザーの監査は、デフォルトで有効です。しかし、他のレコードタイプは、企業で使用するためにレコードタイプを有効にするか、監査するフィールドを選択することによって設定する必要があります。また、監査対象のレコードタイプの監査証跡関連情報が読み取り専用で設定されていることを確認する必要があります。アクセスプロファイルの詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。

レコードタイプごとに監査フィールド（標準のフィールドおよびカスタムフィールド）を指定できます。監査フィールド数の上限を引き上げる必要がある場合は、企業プロファイルの「レコードタイプの監査可能な項目」フィールドを編集します。使用可能な監査フィールドの合計数は、監査フィールド管理者設定ページにも表示されます。

監査に必要な時間とリソース

監査には、適切なビジネスルールを評価し、ディスクスペースにデータを追加するための追加処理が必要です。そのため、監査を有効にすると、処理時間が長くなります。影響を最小限に抑えるために、監査可能なフィールドの初期数はレコードタイプごとに 35 に制限されます。企業プロファイルの「レコードタイプの監査可能な項目」を編集して上限を増やすと、処理時間が長くなります。レコードタイプで監査可能としてマークするフィールドを増やすほど、レコードの保存にかかる時間も長くなります。

レコードタイプによっては、デフォルトで特定のフィールドが監査されるものがあります。しかし、その他のフィールドは監査されません。

レコードタイプ	デフォルトの監査対象フィールド
取引先	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
活動	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
住所	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
割当	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
申込書類	年間売上、申込書類 ID、承認状況、承認日、キャンペーン、通貨、現在の承認者、電子メールアドレス、既存のパートナーシップ、予想パートナーシップ給付金、名前 (名)、名前 (姓)、所在地、代表 FAX 番号、代表電話番号、名前、従業員数、パートナー、パートナープログラム、パートナータイプ、プログラムレベル、拒否理由、ソース、送信状況、勤務先 FAX 番号、勤務先電話番号。
ビジネス計画	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
担当者フィールド	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
カスタムオブジェクト 01 以降	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
取引交渉登録	承認状況、関連担当者、関連顧客、関連見込み客、関連商談、携帯電話、市、クローズ日、会社名、国、通貨、現在の承認者、取引サイズ、電子メール、失効日、FAX、名前 (名)、名前 (姓)、名前、開始パートナー取引先、パートナープログラム、郵便番号、主要パートナー、製品への関心、拒否理由、都道府県、住所-区、町、番地、送信状況、電話番号、タイプ。

レコードタイプ	デフォルトの監査対象フィールド
イベント	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
資金	所有者、パートナー、状態、目標額。
資金リクエスト	承認、請求決定日、請求額、締切日、資金、認可、所有者、事前承認日付、事前承認リクエスト、状態。
HCP 担当者割当	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
世帯	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
招待者	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
見込み客	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
MDF リクエスト	事前承認金額、要求済み金額、承認状況、請求決定日、クレーム状況、資金、事前承認日付、送信状況、送信日、承認済み請求額合計、要求済み請求額合計。
目標	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
商談	クローズ日、売上予想、所有者、確度 (%)、売上、セールスステージ。
パートナー	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
パートナープログラム	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
保険	額面。詳細は、「保険証券のフィールド」を参照してください。
ポートフォリオ	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
サンプルリクエスト	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
サンプルリクエスト項目	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
サービスリクエスト	エリア、原因、説明、所有者、優先順位、ソース、状態、主題、タイプ。
署名	担当者
解決策	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
特別価格リクエスト	承認状況、認可日、請求決定日、クレーム状況、送信状況、送信日、認可金額合計、要求済み金額合計、承認済み請求額合計、要求済み請求額合計。
ユーザー	重要警告を常 に送信する、認証タイプ、電子メール、シングルサインオンの外部 ID、役割、状態、ユーザーのサインイン ID。

レコードタイプ	デフォルトの監査対象フィールド
ユーザーパートナー管理	デフォルトで監査されるフィールドはありません。ベストプラクティスとして次のフィールドを監査します。 重要警告を常を送信する、認証タイプ、電子メール、シングルサインオンの外部 ID、役割、状態、ユーザーのサインイン ID。 注: [マスター監査証跡] では、パートナーの自己管理ページを使用してユーザーレコードに対して行われる変更は、[ユーザーパートナー管理] レコードタイプとともに表示されます。
車両	デフォルトで監査されるフィールドはありません。

監査関連のフィールドに関する考慮事項は次のとおりです。

- 取引先、担当者、カスタムオブジェクト 01 以降については、監査証跡の子アプレットにアクセスできるように、アクセスプロファイルが正しく設定されていることを確認してください。管理者は、監査証跡の子アプレットにアクセスする必要がある特定の役割に対して、アクセス権を付与する必要があります。
- 必須フィールドは赤で表示されます。選択されている必須フィールドのいずれかを削除した場合は、ユーザー監査証跡を保存できません。
- 外部キーフィールドの場合、名前 (ID ではない) が保存され、監査証跡に表示されます。たとえば、商談に対する取引先関係を監査する場合、監査証跡には行 ID ではなく取引先名が表示されます。
- 監査可能なレコードタイプでは、住所フィールドは使用できません。
- ピックリストフィールドには、ユーザーの言語に依存する値 (LDV) が表示されます。
- レイアウトに表示されない ID 列は、監査には使用できません。

注: セキュリティ上の理由で、ユーザーレコードタイプのデフォルトの監査対象フィールドは無効にできません。

作業前の準備。 この手順を実行するには、次のすべての権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

- アプリケーションのカスタマイズ
- フィールド監査の管理
- 役割およびアクセスの管理

レコードタイプの監査証跡をカスタマイズするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド監査セットアップ] セクションで、レコードタイプ [フィールド監査セットアップ] リンクをクリックします。
- 5 (オプション) 監査証跡でレコードの作成を追跡する場合は、[レコードタイプレコード作成の監査] を選択します。

6 (オプション) 監査証跡でレコードの削除または復元を追跡する場合は、[レコードタイプレコード削除 / 復元の監査] を選択します。

7 [監査フィールドセットアップ] ページで、必要に応じて [使用可能項目] リストから [監査フィールド] リストにフィールドを移動します。

企業の設定の上限を超えた場合は、エラーメッセージが表示されます。

[使用可能項目] リストには、そのレコードタイプでまだ監査が指定されていない標準のフィールドとカスタムフィールドがすべて表示されます。

8 [保存] をクリックします。

フィールドを有効にするとすぐに、監査が有効になります。

注意: [招待者]レコードタイプは、[イベント]レコードタイプの子レコードタイプです。[イベント]レコードタイプのための[アプリケーションカスタマイズ]ページを使用して、[招待者]レコードタイプ用の監査証跡フィールドをカスタマイズし、[招待者]レコードタイプ用の[監査証跡]関連情報セクションを設定できます。[招待者]レコードタイプ用の[監査証跡]関連情報セクションは、[招待者詳細]ページのレイアウトのみに追加できます。[招待者]レコードタイプ用の[監査証跡]関連情報セクションをイベント詳細ページのレイアウトに追加することはできません。また、招待者レコードの監査証跡をユーザーが表示できるようにするには、関連するアクセスプロファイルを更新して、ユーザーに[イベント]親レコードタイプ用の招待者の監査証跡関連項目への読み取り専用アクセス権を付与する必要があります。

レコードの変更されたフィールド内の情報について

Oracle CRM On Demand では、次のシステムフィールドを使用してレコードに対する最新の変更に関する情報が保存されます。

- 変更 (外部)
- 変更 : 日付
- 変更者
- 変更 : 日付 (外部)

特定の場合、Oracle CRM On Demand は 1 つ以上のこれらのフィールドに情報を書き込み、明示的なユーザーアクションに起因しないレコードに対する変更を反映します。このため、ユーザーがレコードに加えた変更を追跡する場合、これらのフィールド内の情報を信頼しないことをお勧めします。かわりに、監査証跡機能を使用してユーザーがレコードの特定のフィールドに加えた変更を追跡します。レコードタイプの監査証跡のカスタマイズの詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#) (ページ 176)」を参照してください。フィールド設定、役割およびアクセスプロファイルに対する変更の表示方法の詳細は、「[管理設定変更の監査証跡の確認](#) (ページ 71)」を参照してください。

次は、レコードの [変更者] フィールドに対するシステム変更の例です。ユーザーは、担当者のプライマリ取引先として担当レコードにリンクされている取引先を削除します。削除した取引先レコードがデータベースから削除されると、削除した取引先と担当者との間のリンクがデータベースから削除されます。リンクがデータベースから削除された後、次にユーザーが担当者レコードを開いたとき、Oracle CRM On Demand では、担当者のプライマリ取引先として別のリンクされた取引先が選択され、その取引先の ID がプライマリ取引先フィールドに書き込まれます。または、担当者にリンクされた取引先がない場合、Oracle CRM On Demand では、それを反映するようにレコードが更新されます。次に、Oracle CRM On Demand によって、担当者レコードを開いたユーザーの名前で [変更者] フィールドが更新されます。

レコードの [変更者] フィールドには、レコードを直接更新するのに必要なアクセス権や権限がないユーザーの名前も表示される可能性があります。たとえば、ユーザーの状態が [有効] から [無効] に、または [無効] から [有効] に変更されると、[企業プロファイル] ページの [有効なユーザー] および [無効なユーザー] フィールドの値が更新されます。これらのフ

フィールドが変更された結果、その変更を行ったユーザーに企業プロファイルの更新に必要な権限がない場合でも、[企業プロファイル] ページの[変更者] フィールドが更新され、ユーザーレコードを更新したユーザーの名前が表示されます。

動的ページレイアウトの指定

動的レイアウトでは、指定された状況に関連する情報のサブセットのみをエンドユーザーに管理させることにより、アプリケーションを簡素化できます。たとえば、企業では、顧客タイプの取引先、見込み顧客タイプの取引先、パートナータイプの取引先など、異なるタイプの取引先を追跡することがあります。動的ページレイアウト機能を使用すると、取引先タイプに基づいて、異なった取引先フィールドと関連項目を表示する複数のレイアウトを設定できます。また、これらのレイアウトを1つ以上のユーザー役割に関連付けることができます。ユーザーが特定の取引先レコードをドリルダウンすると、そのユーザーの役割と取引先タイプに基づいて、適切なページレイアウトが表示されます。

レコードタイプに動的ページレイアウトを定義すると、定義済みピックリスト値を使用してページレイアウトの動的レンダリングが行われます。ピックリストの値ごとに表示するページレイアウトを指定します。レコードで選択されたピックリスト値に基づいて、同じレコードタイプでも別のレコードには別のページレイアウトが表示されるようになります。

注: 動的レイアウトを使用する場合、予測できない動作が発生する可能性があるため、内部ピックリスト ID と同じピックリスト値を使用できません。

場合によっては、動的ページレイアウトとユーザー役割に関連付ける必要があります。動的ページレイアウトとユーザー役割は、多対多の関係を設定できます。

各ピックリスト値にはレイアウトを1つのみ関連付けますが、1つのページレイアウトを複数のピックリスト値に関連付けることができます。ピックリスト値とページレイアウト間の関連付けの制限は200です。すでにユーザー役割に関連付けられているレイアウトは削除できません。

注意: ドライビングピックリストに関連付けられているすべての動的レイアウトに、ドライビングピックリストを含めることをお勧めします。割り当てられたレイアウトのいずれかにドライビングピックリストがなく、そのレイアウトに関連付けられたピックリスト値を選択してレコード用に保存した場合、レイアウトにドライビングピックリストが表示されないため、フィールドを編集できません。

次の表に、各レコードタイプの定義済みドライビングピックリスト値を示します。

レコードタイプ	ドライビングピックリスト
取引先	取引先タイプ
活動: アポイント	タイプ
活動: タスク	タイプ
アポイント	タイプ
資産	資産タイプ
ビジネス計画	タイプ
コール活動	タイプ
キャンペーン	キャンペーンタイプ
担当者	担当者タイプ
カスタムオブジェクト 01-03	タイプ

レコードタイプ	ドライビングピックリスト
カスタムオブジェクト 04 以降	タイプ
取引交渉登録	タイプ
自動車ディーラー	状態
イベント	タイプ
資金	状態
資金リクエスト	状態
世帯	セグメント
在庫監査レポート	タイプ
見込み客	見込み客情報源
医学教育	タイプ
メッセージプラン応答	タイプ
メッセージプラン	タイプ
メッセージプラン項目	タイプ
メッセージプラン項目関係	タイプ
目標	タイプ
商談	商談タイプ
商談製品売上	タイプ
パートナー	パートナー組織状況
パートナープログラム	パートナータイプ
保険	業種
ポートフォリオ	取引先タイプ
売上	タイプ
売上: 取引先売上	タイプ
売上: 担当者売上	タイプ
サンプルトランザクション	タイプ
サービスリクエスト	タイプ
解決策	状態
タスク	タイプ

レコードタイプ	ドライビングピックリスト
車両	プロダクトタイプ
車両財務情報	融資タイプ

ページレイアウト名に使用できる文字数は制限されています。詳細は、「[カスタムレイアウト制限について](#) (ページ 141)」を参照してください。

ページレイアウトおよびリスト

ユーザーが検索できるフィールド、リストに表示できるフィールド、およびエクスポートできるフィールドは、ページレイアウトと役割権限を使用して制限できます。ユーザーがレコードリストの作成や絞り込みを行い、高度な検索を使用してレコードを検索する際は、そのユーザーの役割に割り当てられている権限とページレイアウトによって、検索および表示できるフィールドが決まります。

ユーザーの役割に対して [[検索]および[リスト]のすべてのフィールド] 権限が有効な場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで使用可能なすべてのフィールドを検索できます。また、リストを作成または絞り込む場合、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。

注：企業の管理者が、[検索] および [リスト] のすべてのフィールド権限をユーザー役割の多くで使用可能にしないことをお勧めします。その権限が使用可能でない場合、企業で使用しないフィールドは検索およびリストのページに表示されません。これにより、不要な情報が削減され、ユーザーが最も必要なフィールドを表示することが容易になります。

ユーザーの役割に対して [[検索]および[リスト]のすべてのフィールド] 権限が無効な場合は、次の基準を両方とも満たす場合のみ、フィールドを検索できます。

- レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで、フィールドが使用可能であること。
- 該当するレコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた [詳細] ページレイアウトにフィールドが表示されていること。役割に動的ページレイアウトが定義されている場合は、少なくともその動的ページレイアウトの1つにフィールドが表示されている必要があります。

また、リストを作成または絞り込む場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた（動的ページレイアウトを含む）少なくとも1つの [詳細] ページレイアウトにフィールドが表示されている場合にのみ、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。この制約は、リスト内のエクスポートできるフィールドにも影響します。ユーザーの役割で [リスト - 表示されたフィールドのエクスポート] 権限が有効で、[リスト - すべてのフィールドのエクスポート] 権限が無効の場合は、リストに表示されているフィールドのみエクスポートできます。ユーザーはリスト内のレコードのすべてのフィールドをエクスポートすることはできません。

作業前の準備。次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [カスタムアプリケーション - 動的レイアウトの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

動的ページレイアウトを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [動的レイアウト管理] セクションで、[レコードタイプ動的レイアウト] リンクをクリックします。

- 5 「動的ページレイアウト」リストで、次の該当する操作を行います。
 - 「編集」または「コピー」をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - 「新規レイアウト」ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。動的レイアウトウィザードの指示に従って手順を完了します。
- 6 ステップ 1 の「レイアウト名」で、次の操作を行います。
 - a 動的レイアウトの名前を入力します。
 - b デフォルトのレイアウトを選択します。このレイアウトは、次のステップでデフォルトのレイアウトとして提示されます。

「ドライビングピックリスト」フィールドには、ピックリストが表示されます。ピックリストの値により、ユーザーの画面に表示されるレイアウトが決定されます。
- 7 ステップ 2 のフィールドの割当では、各ピックリスト値をレイアウト名と関連付けます。

注:各動的ページレイアウトについて、ドライビングピックリスト値とページレイアウト間の関連付けの制限は 200 です。

レコードに対応するピックリスト値がある場合、選択したレイアウトが表示されます。
- 8 「終了」をクリックします。

関連トピック

パーソナライズページレイアウトが動的ページレイアウトとやり取りする方法:

- [パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 184)
- [パーソナライズ項目レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 188)

パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法

各ユーザーの役割には、レコードタイプごとにページレイアウトが割り当てられています。ページレイアウトによって、様々なレコードタイプのレコードを作成、表示および編集するページに表示されるフィールド、ページセクション、および関連情報セクションが決定されます。ユーザー役割の「詳細ページのパーソナライズ - 関連情報」権限が有効になっている場合、ユーザーはレコードタイプの「詳細」ページで関連情報セクションのレイアウトをパーソナライズできます。ユーザーは、関連情報セクションを表示または非表示にしたり、「詳細」ページに表示される関連情報セクションの順序を変更できます。

注: ユーザー役割の設定によっては、ユーザーがレコードページの項目レイアウトをパーソナライズできる場合があります。詳細は、「[パーソナライズ項目レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 188)」を参照してください。

必要に応じて、パーソナライズしたバージョンのページレイアウトを役割のデフォルト設定にリセットできます。詳細は、「[パーソナライズページレイアウトのリセット](#) (ページ 297)」を参照してください。

パーソナライズ関連情報レイアウトが静的ページレイアウトとやり取りする方法

静的ページレイアウトを使用している場合、特定のレコードタイプのすべてのレコードで同じレイアウトが使用されます。ユーザーが静的「詳細」ページレイアウトの関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを作成すると、次のような動作になります。

- ユーザーがレコードタイプの「詳細」ページの関連情報セクションのレイアウトを変更した後は、そのタイプのレコードの「詳細」ページをユーザーがオープンするたびに、ユーザーのパーソナライズレイアウトが使用されます。
- ユーザーがパーソナライズした関連情報セクションのレイアウトは、次のいずれかのアクションが発生するまで、そのレコードタイプのすべてのレコードに対して引き続き使用されます。
 - ユーザーが関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを再度編集した場合。
 - ユーザーが、レイアウトをユーザーの役割のデフォルトページレイアウトにリセットした場合。

注: 項目レイアウトをデフォルトレイアウトに戻しても、関連情報セクションのパーソナライズレイアウトには影響しません。同様に、関連情報セクションのパーソナライズレイアウトをデフォルトレイアウトに戻しても、レコードタイプのパーソナライズ項目レイアウトには影響しません。

- ユーザーの役割のページレイアウトを、企業の管理者がデフォルトページレイアウトにリセットした場合。

注: 管理者がレコードタイプのページレイアウトを役割のデフォルトレイアウトにリセットした場合、パーソナライズ項目レイアウト、およびそのレコードタイプの関連情報セクションのパーソナライズレイアウトはすべて、その役割を持つユーザーのデフォルトに戻されます。ただし、管理者がレコードの新しいページレイアウトを役割に割り当てる場合、その役割を持つすべてのユーザーにはレコードタイプの新しい項目レイアウトが表示されますが、ユーザーが関連情報レイアウトをデフォルトレイアウトに戻すまで、レコードタイプの関連情報セクションのパーソナライズレイアウトが引き続き表示されます。
- ユーザー役割のデフォルトページレイアウトにある使用可能なリストおよび表示対象の関連情報セクションを企業の管理者が変更すると、次のような動作になります。
 - 以前に使用不可だった関連情報セクションを、デフォルトページレイアウトにある表示対象セクションのリストまたは使用可能セクションのリストに企業の管理者が移動しても、そのセクションは、対応するユーザーパーソナライズレイアウトに自動的に表示されません。新しく使用可能になったセクションを表示する必要がある場合、ユーザーがパーソナライズレイアウトを編集して、表示対象セクションのリストにそのセクションを追加する必要があります。
 - 企業の管理者がデフォルトページレイアウトで、表示対象セクションのリストから使用可能セクションのリストに関連情報セクションを移動した場合、そのセクションがユーザーのパーソナライズレイアウトに既に表示されている場合は、ユーザーがそのセクションをパーソナライズレイアウトの表示対象セクションのリストから削除するか、レイアウトをデフォルトレイアウトにリセットするまで、そのセクションは引き続き表示されます。
 - 企業の管理者がデフォルトページレイアウトの表示不可セクションのリストに関連情報セクションを移動した場合、そのセクションがユーザーのパーソナライズレイアウトに既に表示されている場合は、そのユーザーのレコードの「詳細」ページにそのセクションが引き続き表示されます。ただし、「詳細」ページのパーソナライズレイアウトをユーザーが次回編集すると、レイアウトの表示対象セクションのリストにそのセクションはもう表示されず、「個人レイアウト」ページで「保存」をクリックすると、使用不可のセクションがレイアウトから削除され、レコードの「詳細」ページに表示されなくなります。

パーソナライズ関連情報レイアウトが動的ページレイアウトとやり取りする方法

一部のレコードタイプでは、企業の管理者が動的ページレイアウトを作成できます。動的ページレイアウトでは、レコードのフィールドのピックリスト値を使用して、レコードのページレイアウトの動的レンダリングが決定されます。たとえば、取引先タイプが「顧客」の取引先の「詳細」ページに対しては、特定のレイアウトをユーザーに表示する必要があり、取引先タイプが「競合会社」の取引先には、別のページレイアウトを表示する必要がある場合があります。その場合、企業の管理者は、

「取引先詳細」ページに対して動的ページレイアウトを設定して、必要に応じてユーザーの役割に割り当てることができます。

動的レイアウトを使用する場合、企業プロフィールの「個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化」チェックボックスで、1つのレコードタイプに対して関連情報セクションのパーソナライズレイアウトの作成を1つのみユーザーに許可するのか、複数のパーソナライズレイアウトの作成を許可するのかを制御できます。各動的ページレイアウトのパーソナライズの有効化チェックボックスは、次のように動作します。

- 企業プロフィールで「個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化」チェックボックスがオフになっている場合、ユーザーは1つのレコードタイプに対して関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを1つしか作成できません。関連情報セクションのユーザーのパーソナライズレイアウトは、ページレイアウトの動的レンダリングを決定するピックリストフィールドの値に関係なく、そのレコードタイプのすべてのレコードの「詳細」ページに使用されます。

たとえば、前述のように「取引先」レコードタイプに動的レイアウトが使用されているとします。「競合会社」取引先タイプの取引先の「詳細」ページで作業中に、関連情報セクションのレイアウトをユーザーが変更すると、取引先タイプに関係なく、すべての取引先レコードの「詳細」ページで、関連情報セクションのパーソナライズレイアウトが使用されます。

レイアウトをパーソナライズした後、ユーザーがそのパーソナライズレイアウトに加えた変更はすべて、そのタイプのすべてのレコードの「詳細」ページに反映されます。ユーザーがレコードタイプの関連情報セクションのレイアウトをユーザーの役割のデフォルトレイアウトにリセットすると、そのレコードタイプの動的ページレイアウトが「詳細」レコードページに使用されます。

たとえば、前述のように「取引先」レコードタイプに動的レイアウトが使用されているとします。ユーザーが「取引先」レコードタイプの関連情報セクションのレイアウトをユーザーの役割のデフォルトレイアウトにリセットすると、取引先タイプ「競合会社」または「顧客」の適切な動的ページレイアウトが使用されます。

- 企業プロフィールで「個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化」チェックボックスがオンになっている場合、ユーザーはピックリストフィールドの各値（この値がページレイアウトの動的レンダリング内容を決定します）に対して関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを1つずつ作成できます。ピックリスト値用に作成したユーザーのパーソナライズレイアウトは、そのピックリスト値が選択されている同タイプのレコードをユーザーが開くたびに使用されます。

ピックリスト値用の関連情報セクションの個人レイアウトを作成した後、ユーザーはそのパーソナライズレイアウトをさらに変更したり、その他のピックリスト値用のパーソナライズレイアウトを作成したりできます。ユーザーは、すべてのピックリスト値の関連情報セクションをデフォルトページレイアウトにリセットすることもできます。

企業プロフィールの「個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化」チェックボックスの設定に関係なく、ユーザーの関連情報セクションのパーソナライズレイアウトとユーザーの役割のページレイアウトとの間で次のやりとりが行われます。

- ユーザー役割のデフォルトページレイアウトにある使用可能なリストおよび表示対象の関連情報セクションを企業の管理者が変更すると、次のような動作になります。
 - 以前に使用不可だった関連情報セクションを、デフォルトページレイアウトにある表示対象セクションのリストまたは使用可能セクションのリストに企業の管理者が移動しても、そのセクションは、対応するユーザーパーソナライズレイアウトに自動的に表示されません。新しく使用可能になったセクションを表示する必要がある場合、ユーザーがパーソナライズレイアウトを編集して、表示対象セクションのリストにそのセクションを追加する必要があります。
 - 企業の管理者がデフォルトページレイアウトで、表示対象セクションのリストから使用可能セクションのリストに関連情報セクションを移動した場合、そのセクションがユーザーのパーソナライズレイアウトに既に表示されている場合は、ユーザーがそのセクションをパーソナライズレイアウトの表示対象セクションのリストから削除するか、レイアウトをデフォルトレイアウトにリセットするまで、そのセクションは引き続き表示されます。

- 企業の管理者がデフォルトページレイアウトの表示不可セクションのリストに関連情報セクションを移動した場合、そのセクションがユーザーのパーソナライズレイアウトに既に表示されている場合は、そのユーザーのレコードの「詳細」ページにそのセクションが引き続き表示されます。ただし、「詳細」ページのパーソナライズレイアウトをユーザーが次回編集すると、レイアウトの表示対象セクションのリストにそのセクションはもう表示されず、「個人レイアウト」ページで「保存」をクリックすると、使用不可のセクションがレイアウトから削除され、レコードの「詳細」ページに表示されなくなります。

各動的ページレイアウトのパーソナライズの有効化オプションの変更について

企業の管理者は、企業プロファイルで各動的ページレイアウトのパーソナライズの有効化チェックボックスの設定を変更できます。チェックボックスの設定を変更すると、ユーザーに表示される関連情報セクションのレイアウトに影響する場合があります。この設定を変更したときのユーザー表示に関する影響は、次の条件によって決まります。

- チェックボックスの以前の状態がオンであったかどうか（レコードタイプの各ピックリスト値に対してユーザーが関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを 1 つずつ作成できたかどうか）。
- 動的レイアウトが使用されるページに対し、ユーザーが関連情報セクションのパーソナライズレイアウトを 1 つ作成していたのか、それとも複数作成していたのか。

次の表は、選択解除されている状態で各動的ページレイアウトのパーソナライズの有効化チェックボックスを選択したときの、ユーザー表示への影響を示しています。

ユーザーがレコードタイプに対して 1 つのパーソナライズレイアウトを作成していましたか。	ユーザーがレコードタイプの各ピックリスト値ごとにパーソナライズレイアウトを作成していましたか。	チェックボックスを選択した後の動作
はい	いいえ	レコードタイプに対し、ロールに関連付けられたデフォルトの動的ページレイアウトのセットが使用されます。
はい	はい	各ピックリスト値用にユーザーが作成していたパーソナライズレイアウトが使用されます。
いいえ	いいえ	レコードタイプに対し、ロールに関連付けられたデフォルトの動的ページレイアウトのセットが使用されます。
いいえ	はい	各ピックリスト値用にユーザーが作成していたパーソナライズレイアウトが使用されます。

次の表は、選択されている状態の各動的ページレイアウトのパーソナライズの有効化チェックボックスを選択解除したときの、ユーザー表示への影響を示しています。

ユーザーがレコードタイプに対して 1 つのパーソナライズレイアウトを作成していましたか。	ユーザーがレコードタイプの各ピックリスト値ごとにパーソナライズレイアウトを作成していましたか。	チェックボックスを選択解除した後の動作
はい	いいえ	ユーザーが以前に作成していた 1 つのパーソナライズレイアウトが使用されます。
はい	はい	ユーザーが以前に作成していた 1 つのパーソナライズレイアウトが使用されます。
いいえ	いいえ	レコードタイプに対し、ロールに関連付けられたデフォルトの動的ページレイアウトのセットが使用されます。
いいえ	はい	レコードタイプに対し、ロールに関連付けられたデフォルトの動的ページレイアウトのセットが使用されます。

注: ユーザーが以前に作成したパーソナライズレイアウトと現在のデフォルトレイアウトが異なる場合は、[個別の動的ページレイアウトのパーソナライゼーションを有効化] チェックボックスの設定を変更した後に、役割のページレイアウトをデフォルトレイアウトにリセットできます。ただし、役割のレイアウトをリセットすると、パーソナライズ項目レイアウトがデフォルトレイアウトにリセットされ、関連情報セクションのレイアウトもリセットされます。または、ユーザーが関連情報セクションのレイアウトをデフォルトにリセットするよう勧めることもできます。

関連トピック

ページレイアウトの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)
- [動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)
- [パーソナライズページレイアウトのリセット](#) (ページ 297)
- [パーソナライズ項目レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 188)

パーソナライズ項目レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法

ユーザー役割が次のように設定されている場合、ユーザーはレコードタイプの [詳細] ページで項目レイアウトをパーソナライズできます。

- 役割の [詳細ページのパーソナライズ - 項目] 権限が有効になっています。

- カスタムページレイアウトは、レコードタイプの役割に割り当てられています。

注: 標準レイアウトがレコードタイプの役割に割り当てられた場合、ユーザーはそのレコードタイプの項目レイアウトをパーソナライズできません。また、ユーザーがその役割に割り当てられたカスタムページレイアウトのすべてではなく一部をパーソナライズできるようにユーザー役割を構成できません。ユーザー役割に「詳細ページのパーソナライズ - 項目」権限が含まれている場合、その役割を持つユーザーはその役割に割り当てられたカスタムページレイアウトのすべてをパーソナライズできます。

カスタムページレイアウトを設定すると、特定の項目が常にレイアウト上に表示される必要があることを指定できます。必須項目およびレイアウト上に常時表示されるように指定した項目を除いて、ユーザーはパーソナライズレイアウト上の項目を表示または非表示にできます。[詳細] ページに表示される項目の順序を変更することもできます。ユーザーはデフォルトレイアウトに表示されない項目をパーソナライズレイアウトに追加できません。ユーザーは静的レイアウトと動的レイアウトの両方の項目レイアウトをパーソナライズできます。

注: ユーザー役割の設定によっては、ユーザーがレコードの「詳細」ページの関連情報セクションのレイアウトをパーソナライズできる場合もあります。詳細は、「[パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 184)」を参照してください。

ユーザーがパーソナライズ項目レイアウトを作成した後は、次のいずれかのアクションが発生するまで、そのユーザーがそのレコードタイプのレコードを開くまたは編集するたびに、そのレイアウトが使用されます。

- ユーザーは項目レイアウトを再び変更します。
- ユーザーはページをデフォルト項目レイアウトに戻します。

注: 項目レイアウトをデフォルトレイアウトに戻しても、関連情報セクションのパーソナライズレイアウトには影響しません。同様に、関連情報セクションのパーソナライズレイアウトをデフォルトレイアウトに戻しても、レコードタイプのパーソナライズ項目レイアウトには影響しません。

- 管理者は、ユーザーの役割のページレイアウトをデフォルトレイアウトにリセットするか、またはそのレコードタイプの役割に別のレイアウトを割り当てます。

注: 管理者がレコードタイプのページレイアウトを役割のデフォルトレイアウトにリセットした場合、パーソナライズ項目レイアウト、およびそのレコードタイプの関連情報セクションのパーソナライズレイアウトはすべて、その役割を持つユーザーのデフォルトに戻されます。ただし、管理者がレコードの新しいページレイアウトを役割に割り当てた場合、その役割を持つすべてのユーザーにはレコードタイプの新しい項目レイアウトが表示されますが、ユーザーが関連情報レイアウトをデフォルトレイアウトに戻すまで、レコードタイプの関連情報セクションのパーソナライズレイアウトが引き続き表示されます。

新規レコードページの項目レイアウトについて

ユーザーのパーソナライズレイアウトは、新規レコードページ用のカスタムレイアウトがレコードタイプ用のユーザーの役割に割り当てられていない限り、ユーザーがそのレコードタイプの新規レコードの情報を入力するページでも使用されます。新規レコードページのカスタムレイアウトが、すべてのケースで使用するユーザーの役割に割り当てられている場合、ユーザーのパーソナライズレイアウトが新規レコードページに使用されることはありません。ただし、新規レコードページ用のカスタムレイアウトがユーザーがアクションバーまたはグローバルヘッダーからレコードを作成する場合にのみ使用されるとユーザーの役割で指定されている場合、ユーザーのパーソナライズ項目レイアウトはユーザーが Oracle CRM On Demand のその他の領域からレコードを作成する場合に使用されます。

ユーザーが項目レイアウトをパーソナライズした後にページレイアウトが変更された場合の動作

特定の役割を持つユーザーがレコードタイプの項目レイアウトをパーソナライズした後、管理者がその役割のデフォルトレイアウトを変更する場合があります。管理者が行う変更に応じて、レイアウトに対する変更とパーソナライズレイアウトは次のようにやり取りします。

- 管理者が異なる詳細ページレイアウトをレコードタイプの役割に割り当てた場合、その役割を持つすべてのユーザーに次の Oracle CRM On Demand へのサインイン時にレコードタイプの新しい項目レイアウトが表示されます。ただし、管理者が後で当初のページレイアウトを役割に再割当てると、ユーザーにはパーソナライズされたレイアウトが再度表示されます。
- 管理者が、役割に割り当てられた [詳細] ページ用の項目レイアウト上の項目の、存在、レイアウト、または特性に対して変更を加えた場合、その変更はパーソナライズレイアウトに自動的に適用されません。次に例を示します。
 - 管理者が [詳細] ページレイアウトから項目を削除しても、その項目はパーソナライズレイアウトから削除されません。また、ユーザーがそのページレイアウト用の [個人レイアウト - 項目] ページを開いた場合、管理者が削除した項目は、ユーザーが指定したとおりレイアウト内のいずれかのセクションまたは [使用可能項目] リストで引き続き使用可能です。
 - 管理者が [詳細] ページレイアウトに項目を追加しても、新しい項目はパーソナライズレイアウトに表示されません。また、ユーザーがそのページレイアウト用の [個人レイアウト - 項目] ページを開いた場合、管理者が追加した項目は、レイアウト内のどのセクションまたは [使用可能項目] リストにも表示されません。
 - 管理者が [詳細] ページレイアウトから項目を削除しても、変更はパーソナライズレイアウトに自動的に反映されません。たとえば、管理者が以前はページレイアウトで必須ではなかった項目を必須にしても、その項目はレイアウトをパーソナライズしたユーザーの必須項目になりません。同様に、管理者が項目の常にレイアウトに表示チェックボックスをオンにした場合、管理者が変更を加えた後にユーザーがパーソナライズレイアウトにさらに更新を加えても、ユーザーはパーソナライズレイアウトに項目を表示するように要求されません。

管理者が役割を持つすべてのユーザーに項目レイアウトへの変更を適用する場合、管理者はページレイアウトを役割のデフォルトレイアウトにリセットする必要があります。または、ユーザーはページレイアウトをデフォルトにリセットしてからオプションとしてレイアウトを再度パーソナライズすることができます。

関連トピック

ページレイアウトの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)
- [動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)
- [パーソナライズページレイアウトのリセット](#) (ページ 297)
- [パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 184)

URL の標準化について

Oracle CRM On Demand では、Web リンク、Web タブおよび Web アプレットで次の URL を使用すると、Oracle CRM On Demand の将来のリリースでも動作するようにするために、すべてのレコードタイプの様々な URL が標準化されています。

- [レコードタイプのホームページのオープン](#)

- レコード ID を使用したレコードの詳細ページのオープン
- レコード ID を使用したレコードの編集ページのオープン
- ページレイアウトを決定するためのドライビングピックリストフィールド値が事前入力されたレコードの作成または編集
- カスケード式ピックリストフィールドの親ピックリストおよび関連ピックリストの値が事前入力されたレコードの作成または編集
- [セールス ステージ] フィールドを更新してセールスプロセスを開始するための商談レコードの更新

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [外部 Web ページのタブでの表示](#) (ページ 191)
- [カスタム Web アプレットについて](#) (ページ 151)
- [レコードタイプの Web アプレットの作成](#) (ページ 153)
- [グローバル Web アプレットの作成](#) (ページ 200)
- [Web リンクの設定](#) (ページ 122)
- RSS フィードアプレットの使用

外部 Web ページのタブでの表示

Oracle CRM On Demand 内では、Web コンテンツをタブに表示することができます。Web コンテンツは、外部 Web ページや Web から入手可能な企業データなどです。たとえば、Oracle CRM On Demand で作業しているサービス要員に、在庫情報を別の Web アプリケーションで追跡させることができます。この要件を満たすには、Oracle CRM On Demand のメインコンテンツエリアに、外部 Web アプリケーションを表示するカスタム Web タブを作成します。

Web コンテンツを含むカスタム Web アプレットを作成することもできます。カスタム Web アプレットの概要とカスタム Web タブとの違いについては、「[カスタム Web アプレットについて](#) (ページ 151)」を参照してください。

注意: Oracle CRM On Demand でのカスタマイズコードの使用に適用される考慮事項の詳細は、「[Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項](#) (ページ 202)」を参照してください。

カスタム Web ページを表示するには、役割管理ウィザードを使用して、必要なユーザー役割にタブを追加する必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

Oracle CRM On Demand ページに外部情報を表示する場合は、あらかじめ次の点を確認しておく必要があります。

- 外部アプリケーションに Web インターフェイスがある
- 外部アプリケーションまたは Web ページがブラウザウィンドウの完全な制御を要求しない

注: シングルサインオンなどの機能を使用する予定がある場合や、Web サイトと Oracle CRM On Demand を統合する場合は、企業で Web サービスを確実に有効にする必要があります。

外部 Web ページをタブに表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[カスタム Web タブ] リンクをクリックします。
- 4 カスタムタブリストページで、[新規] をクリックします。
- 5 [カスタム Web タブ] ページで、下の表を使用して必要な情報を入力し、レコードを保存します。
- 6 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、Web タブの [翻訳] チェックボックス ([カスタム Web タブリスト] ページ上) をオンにします。

フィールド	コメント
名前	カスタム Web タブの名前。
タイプ	URL または HTML を選択します。

フィールド	コメント
ユーザーおよびシステムフィールド	Oracle CRM On Demand で Web アプレットを作成する前に、文字エンティティの参照としてエスケープされる可能性がある文字がフィールドに含まれている場合は、%%%User id%%%などのパラメータフィールド変数の使用方法を注意深く考慮してください。 パラメータフィールド変数を HTML に挿入する際には、&などのフィールド名の文字が対応する文字エンティティの参照（この場合は&#38;）にエスケープされ、ブラウザでエンティティの参照が展開されて参照されている文字が表示されます。たとえば、A&B Manufacturing という企業名でホームページの HTML Web アプレットを作成するとします。[ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストから[企業名]を選択して、%%%Company name%%%という変数を挿入できます。この変数の値は実行時に A&#38;B Manufacturing になり、ブラウザには A&B Manufacturing と表示されます。ただし、JavaScript コードでは文字エンティティの参照が展開されないため、参照可能なコンテキストに変数を置き、文書の DOM から取得して必要に応じてエンコードします。これらの相違を Web アプレット HTML コードの次の例に示します。 <pre> <script type="text/javascript"> var var1 = "%%%Company name%%%"; var var2 = document.getElementById("companyname").getAttribute("data-value"); </script></pre> var1 の値は“A&#38;B Manufacturing”に、var2 の値は“A&B Manufacturing”になります。var1 と var2 の値が異なるのは、HTML タグおよびデータのエンティティの参照がブラウザでは展開されますが、<script>エレメント内では展開されないためです。 [ユーザーおよびシステムフィールド] ドロップダウンリストからオプションを選択して、カーソルの現在の位置にある [URL] または [HTML] フィールドにパラメータフィールドを追加します。たとえば、ドロップダウンリストから [ユーザー ID] を選択すると、カーソルの位置に応じて [URL] または [HTML] フィールドに%%%User id%%%が挿入されます。実行時、このパラメータは、サインインしているユーザーのユーザーID と置き換えられます。 もう 1 つの例として、リストから[ホスト名]を選択した場合、カーソルの位置に%%%Hostname%%%が挿入されます。実行時、このパラメータは、Oracle CRM On Demand が動作しているサーバーのホスト名と置き換えられます。環境の移行時に Oracle CRM On Demand ホスト名を手動で変更する必要がなくなるため、Oracle CRM On Demand への URL を含む設定では便利です。 詳細は、「ユーザーおよびシステムフィールド (ページ 125)」を参照してください。

フィールド	コメント
URL	注:この設定は、[タイプ] メニューから [URL] を選択した場合のみ利用できます。 ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL（www.oracle.com など）を入力します。URL の <code>http://</code> 部分は、入力する必要がありません。URL が有効な Uniform Resource Identifier (URI) であることを確認してください。有効でない場合、ユーザーが [カスタム Web タブ] にアクセスすると、埋め込みコンテンツのかわりにエラーメッセージが表示されます。 注意: Oracle CRM On Demand の URL の標準化の詳細は、「URL の標準化について (ページ 190)」を参照してください。 また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーおよびシステム フィールド] ドロップダウンリストを選択することにより、コンテキスト依存のパラメータを挿入できます。このアクションにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ（<code>%%%fieldname%%%</code>で指定）が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。URL を指定しない場合、タブをクリックするとその移動先は空の URL になります。 各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超えて URL を指定した場合、ユーザーが Web タブをクリックすると、ブラウザで予期しない動作が見られることがあります。 注: Oracle CRM On Demand では、(Oracle CRM On Demand 内からの) 内部 URL または外部 URL による分析コンテンツの埋め込みはサポートされていません。Oracle CRM On Demand をアップグレードした後に URL が動作しない可能性があるため、URL を使用してカスタム Web アプレットに分析コンテンツを埋め込まないことをお勧めします。カスタムホームページレポートを使用して分析コンテンツを Oracle CRM On Demand 内に表示してください。
HTML ヘッド追加	注:この設定は、[タイプ] メニューから [HTML] を選択した場合のみ利用できます。 入力した HTML は、Web タブを追加するページの HTML コード内部の <code><iframe></code> エレメントの <code>src</code> 属性で使用されます。[Web タブ HTML] フィールドに追加したコードはすべて、<code><iframe></code> エレメントに追加されます。このフィールド内で、HTML の <code><head></code> セクションに埋め込んだ JavaScript ファイルへの参照を含めることができます。 Oracle CRM On Demand ページ内での JavaScript ファイルの参照はサポートされません。このフィールドに入力したすべての内容が <code><head></code> タグに追加されます。

フィールド	コメント
Web タブ HTML	注:この設定は、[タイプ] メニューから [HTML] を選択した場合のみ利用できます。 入力した HTML は、Web タブを追加するページの HTML コード内部の <iframe>エレメントの src 属性で使用されます。[Web タブ HTML] フィールドに追加したコードはすべて、<iframe>エレメントに追加されます。このフィールドに入力したすべての内容が<body>タグに追加されます。
説明	Web タブの説明を入力します。
高さ	Web タブのピクセル値を入力します。
幅	Web タブのピクセル値を入力します。
アイコン	[アイコン] ラベルの横の [ルックアップ] アイコンをクリックし、ウィンドウからアイコンを選択します。

注： この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では（または、このページの [翻訳言語] リストから別の言語を選択した場合は）、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。この青いテキストの更新された名前は、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。

Oracle CRM On Demand にカスタム Web ページを追加した後は、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。実行方法については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

ピックリスト値グループについて

企業では、ピックリストフィールドで利用できる値を、フィールドに定義された値のサブセットに制限できるため、レコードタイプの特定のピックリストフィールドを Oracle CRM On Demand のすべてのユーザーが使用できるようにする一方で、フィールドのピックリストに表示される値を制限できます。ピックリストフィールドの値を制限するには、ピックリスト値グループを設定し、ピックリストフィールドの値をピックリスト値グループにマップします。このように、ユーザーがピックリストから選択できる値のセットをピックリスト値グループによって制御できます。

ピックリスト値グループフィールドは、一部のレコードタイプに対するページレイアウトに追加できます。このフィールドを使用すると、ユーザーは、作成されたピックリスト値グループを選択できます。この結果、レコードで選択されたピックリスト値グループによって制御されるピックリストフィールドでは、ピックリスト値グループにマップされている値のみがピックリストに表示されます。ピックリスト値グループによって制御されるピックリストフィールドは、ピックリストフィールドがカスケード式ピックリストで使用される場合と同じ方法で制御されます。ピックリスト値グループを使用できるレコードタイプのリストについては、「[ピックリスト値グループおよび部署をサポートするレコードタイプ](#) (ページ 198)」を参照してください。

たとえば、企業に Oracle CRM On Demand を使用するコールセンターが 3 つあるとします。コールセンターの所在地およびコールセンターで扱う製品に応じて、個々のコールセンターでユーザーが選択可能な値として、Oracle CRM On Demand のいくつかのピックリストフィールドの値が有効にならない場合があります。このような場合、3 つのピックリス

ト値グループ（つまり、各コールセンターに 1 つのピックリスト値グループ）を設定できます。次に、関連する各ピックリストフィールドの値のサブセットを各ピックリスト値グループにマップできます。ピックリスト値グループフィールドをレコードタイプのページレイアウトに追加すると、ユーザーは、レコードのピックリスト値グループフィールドで、コールセンターに適切なピックリスト値グループを選択できます。これによって、レコードのピックリストフィールドで選択できるのは、コールセンター用に選択したピックリスト値グループにマップした値に制限されます。このようにピックリストフィールドで利用できる値を制御すると、無効なデータがレコードに記録されるリスクを低減できます。

ピックリスト値グループおよび部署について

企業で「部署」レコードタイプを使用している場合は、部署をピックリスト値グループに関連付けることもできます。部署およびその設定方法は、「[部署の設定](#)（ページ 61）」を参照してください。各部署は、1 つのピックリスト値グループにのみ関連付けることができます。ユーザーが 1 つ以上の部署に関連付けられている場合は、部署をサポートするレコードタイプのレコードをユーザーが作成すると、ユーザーのプライマリ部署がレコードに自動的に割り当てられます。「部署」フィールドとピックリスト値グループフィールドの両方が「詳細」ページレイアウトに存在し、ピックリスト値グループがユーザーのプライマリ部署に関連付けられている場合は、レコードのピックリスト値グループフィールドにそのピックリスト値グループの名前が入力されます。この結果、ピックリスト値グループによって制御されるピックリストフィールドでは、ピックリスト値グループにリンクされている値のみがピックリストに表示されます。レコードの作成と更新時の「部署」およびピックリスト値グループフィールドの動作に関する詳細は、「[レコードの部署およびピックリスト値グループについて](#)（ページ 66）」および「[ピックリストフィールド、ピックリスト値グループおよび部署について](#)」を参照してください。

ピックリスト値グループの設定の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項](#)（ページ 196）
- [ピックリスト値グループの設定プロセス](#)（ページ 197）
- [ピックリスト値グループの作成](#)（ページ 198）
- [ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#)（ページ 139）

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [部署の設定](#)（ページ 61）
- [レコードの部署およびピックリスト値グループについて](#)（ページ 66）

ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項

ピックリスト値グループを設定する場合は、次のことを考慮してください。

- **ピックリストフィールド。**ピックリスト値グループによって、1 つ以上のレコードタイプのピックリストフィールドを 1 つ以上制御できます。ピックリスト値グループをサポートするレコードタイプでは、編集可能なピックリストフィールドを複数のピックリスト値グループにマップできます。
- **カスケード式ピックリスト。**カスケード式ピックリストでピックリスト値グループにマップされた値を含むピックリストフィールドを使用できます。ただし、カスケード式ピックリストを定義するときにピックリスト値グループリストでピックリスト値グループを選択しているかどうかに関係なく、カスケード式ピックリスト定義では、親ピックリストフィールドの値と関連ピックリストフィールドの値の関係を 1 セットのみ指定できます。カスケード式ピックリストでピックリスト値グループを使用する方法の詳細は、「[カスケード式ピックリストおよびピックリスト値グループについて](#)（ページ 166）」を参照してください。

- **ページレイアウト。**ピックリスト値グループによってピックリストフィールドを制御するレコードタイプのページレイアウトに、ピックリスト値グループフィールドを追加する必要があります。
- **部署。**ピックリスト値グループは1つ以上の部署に関連付けることができますが、各部署に関連付けることができるのは1つのピックリスト値グループのみです。[ピックリスト値グループ詳細] ページの読み取り専用 [部署] セクションで、ピックリスト値グループに関連付けられている部署のリストを参照できます。
- **検索。**アクションバーまたは高度な検索でピックリスト値グループレコードを検索することはできません。
- **ピックリスト値グループフィールド。**ピックリスト値グループをサポートするレコードタイプに対して、次の操作を実行できます。
 - ユーザーがピックリスト値グループフィールドの値を変更またはクリアできないようにする場合は、フィールドを読み取り専用指定します。
 - 式ビルダーでピックリスト値グループフィールドを使用します。
 - ワークフロールールでピックリスト値グループフィールドを使用します。
 - 検索レイアウトにピックリスト値グループフィールドを含めます。

注: フィールドの設定ページでピックリスト値グループフィールドのデフォルト値を指定することはできません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ピックリスト値グループの設定プロセス](#) (ページ 197)
- [ピックリスト値グループの作成](#) (ページ 198)
- [ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#) (ページ 139)

ピックリスト値グループの設定プロセス

作業前の準備。「[ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項](#) (ページ 196)」の情報を確認してください。

企業のピックリスト値グループを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 次のことを決定します。
 - 設定するピックリスト値グループ。
 - ピックリスト値グループで制御するピックリストフィールド。
 - ピックリスト値グループで制御する各ピックリストフィールドについて、各ピックリスト値グループにマップする値。
- 2 ピックリスト値グループを作成します。

詳細は、「[ピックリスト値グループの作成](#) (ページ 198)」を参照してください。
- 3 ピックリストフィールドの値をピックリスト値グループにマップします。

詳細は、「[ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#) (ページ 139)」を参照してください。

- 4 ピックリスト値グループによってピックリストフィールドが制御されるレコードタイプの各ページレイアウトに、ピックリスト値グループフィールドを追加します。

詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」および「[動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)」を参照してください。

注: レコードのピックリストフィールドで使用する値をピックリスト値グループで制御するには、ピックリスト値グループフィールドが、レコードタイプに対する「[詳細](#)」ページレイアウトに表示される必要があります。

ピックリスト値グループの作成

ピックリスト値グループを作成するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[ピックリスト値グループの設定プロセス](#) (ページ 197)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 このトピックで説明する手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

[ピックリスト値グループを作成するには](#)

- 1 [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、ピックリスト値グループの管理をクリックします。
- 4 [ピックリスト値グループリスト] ページで、[新規] をクリックします。
- 5 ピックリスト値グループの名前および説明を入力し、変更を保存します。

注: ピックリスト値グループの作成後は、ピックリストフィールドの値をピックリスト値グループにマップできます。詳細は、「[ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング](#) (ページ 139)」を参照してください。次に、「[ピックリスト値グループ詳細](#)」ページの「オブジェクトリスト」セクションで、ピックリスト値グループにマップされているピックリストフィールドのリストを参照できます。ピックリスト値グループにマップされた各ピックリストフィールドについて、ピックリストフィールドが表示されるレコードタイプの名前およびピックリストフィールドの名前が表示されます。

企業で「[部署](#)」レコードタイプを使用している場合は、「[ピックリスト値グループ詳細](#)」ページの「[部署](#)」セクションに、ピックリスト値グループが関連付けられている部署の名前が表示されます。ピックリスト値グループと部署の関連付けの詳細は、「[ピックリスト値グループと部署の関連付け](#) (ページ 64)」を参照してください。

ピックリスト値グループおよび部署をサポートするレコードタイプ

「[部署](#)」フィールドおよびピックリスト値グループフィールドは、次のレコードタイプのページレイアウトに追加できるため、部署およびピックリスト値グループを、これらのレコードタイプのレコードに関連付けることができます。

- 取引先
- 活動
- ブロック製品

- ブローカープロフィール
- ビジネス計画
- キャンペーン
- 請求
- 担当者
- カスタムオブジェクト
- 損傷
- 取引交渉登録
- 取引交渉登録製品売上
- イベント
- 金融口座
- 金融口座名義人
- 金融口座保有状況
- 財務計画
- 金融製品
- 金融トランザクション
- 資金
- HCP 担当者割当
- 世帯
- 保険不動産
- 見込み客
- MDF リクエスト
- メッセージ応答
- メッセージプラン
- メッセージプラン項目
- メッセージプラン項目関係
- 目標
- 商談
- オーダー
- パートナー
- 計画取引先
- 計画担当者
- 計画商談

- 保険
- 保険保有者
- ポートフォリオ
- 製品
- 製品領域
- サンプル免責条項
- サンプル在庫
- サンプルロット
- サンプルリクエスト
- サンプルリクエスト項目
- サンプルトランザクション
- サービスリクエスト
- 解決策
- 車両

グローバル Web アプレットの作成

グローバル Web アプレットとは、ホームページまたはアクションバーに表示できるカスタム Web アプレットのことです。

グローバル Web アプレットを作成したら、ホームページまたはアクションバーのレイアウトに追加する必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] および [カスタム Web アプレットの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。企業プロフィールで [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスをオンにすると、[翻訳言語] フィールドで選択されている言語が企業のデフォルト言語の場合のみ、アプレットを作成できます。

新しいグローバル Web アプレットを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[グローバル Web アプレット] を選択します。
- 4 [アプレット (個人)] リストで、[新規] をクリックします。
- 5 [Web アプレット (個人)] ページで、次のフィールドに情報を入力します。

フィールド	コメント

フィールド	コメント
名前	名前を入力します。
翻訳	このチェックボックスは、[Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスが企業プロファイルでオンになっている場合にのみ使用可能です。 アプレットを初めて作成する場合、[翻訳] チェックボックスがオンになり、読み取り専用になります。[翻訳] チェックボックスは、既存のアプレットを更新する場合のみ有効です。また、アプレットを編集する前に、アプレットの[翻訳言語] フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、[翻訳] チェックボックスは読み取り専用になります。 企業のデフォルト言語で既存のカスタム Web アプレットの名前を変更する場合は、次のように[翻訳] チェックボックスを使用します。 ■ 翻訳した名前を更新された名前に置換するには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。 ■ 翻訳した名前を変更しないままにするには、[翻訳] チェックボックスをオンにしません。 カスタム Web アプレット名の翻訳の詳細は、「Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 (参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163)」を参照してください。
場所	ホームページまたはアクションバーに外部コンテンツを表示するかどうかに応じて、[ホームページ] または [アクションバー] を選択します。
カラム	注： このフィールドは、[場所] 値が [ホームページ] の場合のみ使用できます。 [カラム] メニューからシングルまたはダブルを選択して、アプレットの幅を指定します。
常に実行	このチェックボックスでは、グローバル Web アプレットが最小化されている場合にそのアプレットを実行するかどうかを決定します。このチェックボックスは、場所としてアクションバーを選択しているグローバル Web アプレットについてのみ使用できます。 注意： グローバルヘッダーに追加するグローバル Web アプレットは、[常に実行] チェックボックスが選択されているかどうかにかかわらず、常に実行されます。グローバルヘッダーはモダンテーマでのみ表示されます。

次のトピックで説明するように、必要なアプレットのタイプに応じてフィールドに情報を入力します。

- [RSS フィード Web アプレットの作成](#) (ページ 155)

■ [HTML Web アプレットの作成](#) (ページ 158)

■ [URL Web アプレットの作成](#) (ページ 159)

関連トピック

■ [RSS フィード Web アプレットの設定例](#) (ページ 161)

■ [Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳](#) (参照 "[Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳](#)" ページ 163)

Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用するお客様についての重要な考慮事項

Oracle CRM On Demand でのカスタマイズされたコードの使用について、次の重要な考慮事項が適用されます。

- お客様が Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコード (JavaScript コードなど) を使用する場合、自己責任において行うものとします。オラクル社では、Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコードを使用した結果として発生したいかなる問題についても (カスタマイズされたコードにより Oracle CRM On Demand に変更を加えた場合を含む)、サポートの提供およびトラブルシューティングを行いません。
- Oracle CRM On Demand でカスタマイズされたコード (JavaScript コードなど) を使用するお客様は、Oracle CRM On Demand の新規リリースへのアップグレード後にコードをテストすることを強くお勧めします。新規リリースへのアップグレード後にカスタマイズされたコードを更新することは、お客様の責任となります。さらに、Oracle CRM On Demand の新規リリースには更新済みインフラコンポーネントが含まれる場合があり、インフラコンポーネントの変更に適応するために、カスタマイズされたコードを必要に応じて変更することは、お客様の責任となります。
- お客様はカスタマイズされたコードにより Oracle CRM On Demand Web サービス API メソッドを呼び出すことができます。ただし、オラクル社がガイダンスを提供するのは、Oracle CRM On Demand Web サービス API の使用、Oracle CRM On Demand Web サービスセッション管理および Oracle CRM On Demand Web サービスの使用に関するベストプラクティスについてのみです。Oracle CRM On Demand Web サービスに関する詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。
- お客様はカスタム HTML ヘッド追加のコードにより Oracle CRM On Demand パブリック JavaScript API メソッドを呼び出すことができます。詳細は、「[カスタム HTML ヘッド追加の管理](#) (ページ 205)」および『Oracle CRM On Demand JavaScript API Developer's Guide』を参照してください。

クライアント側拡張のアップロード

クライアント側拡張機能は、他のサーバーでホスティングするのではなく、Oracle CRM On Demand にアップロードしてホスティングできるファイルです。クライアント側拡張機能をアップロードすると、その拡張機能を参照する際に使用する一意の URL が Oracle CRM On Demand によって生成されます。1 つのクライアント側拡張で、2 番目のクライアント側拡張の一意 URL を使用して、2 番目のクライアント側拡張を呼び出すことができます。URL を使用して、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web アプレット、およびカスタム HTML ヘッド追加にクライアント側拡張を配置できます。

Oracle CRM On Demand の [クライアント側拡張機能リスト] ページから HTML、JPG、GIF、SWF、JavaScript および CSS ファイルをアップロードして、クライアント側拡張を作成できます。最大ファイルサイズは 20 メガバイト (MB) です。

。ただし、ファイルサイズを小さくするほど、ブラウザで Oracle CRM On Demand からこれらのファイルをダウンロードするときのパフォーマンスが高まります。

注： Oracle CRM On Demand のカスタマーサポートは、クライアント側拡張のどのコンポーネントにもアクセスできません。これらのコンポーネントには、アップロードしたファイルやその中のコンテンツ、イメージ、クライアント側拡張の参照元（カスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web アプレットおよびカスタム HTML ヘッド追加を含む）などがあります。したがって、これらの拡張の保守とサポートは、自分が担当する必要があります。

作業前の準備。 この手順を実行するには、[クライアント側拡張機能のアップロードおよびカスタム HTML ヘッドタグの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。権限の追加の詳細は、「[役割の権限について](#) (ページ 270)」を参照してください。

クライアント側拡張をアップロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[クライアント側拡張] をクリックします。

[クライアント側拡張リスト] ページには、以前にアップロードしたクライアント側拡張が表示されます。このページでは、以前にアップロードしたクライアント側拡張を削除することもできます。

注： カスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web アプレットまたはカスタム HTML ヘッド追加に設定されているクライアント側拡張を削除すると、それが原因でこれらのアプレットが正しく機能しなくなります。Oracle CRM On Demand では、特定のクライアント側拡張が使用中かどうかは示されません。

- 4 [新規] をクリックします。
- 5 ペーパークリップアイコンをクリックして、クライアント側拡張としてアップロードするコンテンツを検索します。
このフィールドは必須です。
- 6 次の詳細を入力します。
 - **MIME タイプ。** これは、インターネットメディアタイプを示します。このタイプを使用すると、メディアタイプをブラウザに適切に表示できます。MIME タイプの詳細をすべて入力してください。たとえば、ファイルタイプに従って次のいずれかを入力します。
 - テキスト/html
 - イメージ/jpeg
 - イメージ/gif
 - アプリケーション/x-shockwave-flash
 - テキスト/css
 - **ファイル：サイズ (バイト)：** アップロード対象のファイルのサイズです。このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。
 - **ファイル：拡張子。** このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。
 - **名前。** クライアント側拡張機能の名前。このフィールドは必須です。

- **URL 名。**この値は、クライアント側拡張を指す URL に意味のある名前を付けるために使用します。URL 名には、A-Z、a-z、0-9、アンダースコア (_) およびピリオド (.) を使用できます。二重ピリオド (. .) は使用できません。また、ピリオド (.) を文字列の末尾の文字として使用することもできません。URL 名の例としては、「Logo_Image」や「Map376」があります。このフィールドはできる限り短くすることをお勧めします。このフィールドは、ユーザーが編集したときにのみ変更されます。したがって、アップロードしたファイルを置き換えたり、クライアント側拡張の名前を変更しても、[URL 名] フィールドの値は変わりません。そのため、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web タブまたはカスタム HTML ヘッド追加を再設定しなくても、複数のバージョンのクライアント側拡張を更新、保守および配置できます。このフィールドを編集すると、[相対 URL] と [完全 URL] の各フィールドが変更されます。このフィールドは必須です。
- **相対 URL。**このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。この値は、Oracle CRM On Demand 内からクライアント側拡張に移動する相対 URL です。このフィールド値が変更され、クライアント側拡張が配置されている場合、このクライアント側拡張を参照するカスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web タブまたはカスタム HTML ヘッド追加を更新して、新しく生成された URL が使用されるようにする必要があります。このフィールド値は、[URL 名] フィールドが更新された場合にのみ変更されます。
- **完全 URL。**このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。この値は、Oracle CRM On Demand アプリケーション内の URL を指す完全 URL です。このフィールド値が変更され、クライアント側拡張が配置されている場合、このクライアント側拡張を参照するカスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web タブまたはカスタム HTML ヘッド追加を更新して、新しく生成された URL が使用されるようにする必要があります。このフィールド値は、[URL 名] フィールドが更新された場合にのみ変更されます。

7 [保存] をクリックします。

注: クライアント側拡張をアップロードしても、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web タブまたはカスタム HTML ヘッド追加で設定するまではアクティブになりません。

クライアント側拡張をアップロードすると、Oracle CRM On Demand により [相対 URL] フィールドと [完全 URL] フィールドの値が生成されます。これらの値を使用して、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレット、グローバル Web タブまたはカスタム HTML ヘッド追加をクライアント側拡張に関連付けます。これらの場所の設定方法は、サーバーでホストされる拡張を設定する場合と同じです。

カスタム HTML ヘッド追加の追加方法の詳細は、「[カスタム HTML ヘッド追加の管理](#) (ページ 205)」を参照してください。

既存のクライアント側拡張を編集するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[クライアント側拡張] をクリックします。
- 4 [クライアント側拡張リスト] ページで、編集するクライアント側拡張を探します。
- 5 次の該当する操作を行います。
 - [名前] フィールドをクリックします。これにより、[クライアント側詳細] ページが開き、クライアント側拡張を編集できるようになります。
 - [編集] をクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。

- 7 クライアント側拡張のファイルを置き換えた場合は、次の操作を行います。
- a Oracle CRM On Demand からログアウトします。
 - b ブラウザのキャッシュをクリアします。
 - c クライアント側拡張がその配置ページにダウンロードされるように、再びログインして新しいクライアント側拡張をダウンロードします。Oracle CRM On Demand からのログアウトと再ログインを行わない場合、初回のダウンロード実行時から 30 日後に、新しいクライアント側拡張がダウンロードされます。

クライアント側拡張の編集に関するガイドライン

次のガイドラインを考慮してください。

- ページ上のクライアント側拡張の参照数を最小限に抑えて、パフォーマンスに対する悪影響を軽減します。
- クライアント側拡張のサイズをできる限り小さくします。たとえば、大きなイメージや SWF ファイルの使用を避けます。クライアント側拡張の一部としてダウンロードするファイルを小さくするほど、大きなファイルに比べてページのロードが速くなります。
- すべてのクライアント側拡張をできる限り少ないファイルにまとめて、パフォーマンスに対する悪影響を軽減します。
- クライアント側拡張がブラウザのキャッシュに入れられるようにします。クライアント側拡張がブラウザのキャッシュに入れられるようにすると、ユーザーがページをロードするたびに Oracle CRM On Demand サーバーからコンテンツをダウンロードする必要がなくなります。クライアント側拡張が変更された場合は、キャッシュをクリアして、Oracle CRM On Demand でその拡張を含むページがロードされるようにします。デフォルトでは、クライアント側拡張はキャッシュに 30 日間格納されます。
- クライアント側拡張と資産を最小限に保って、アクションバーのパフォーマンスを向上させます。アプレットに含まれるクライアント側拡張をアクションバーに設定すると、ページが更新されるたびにアクションバーがロードされます。
- クライアント側拡張を使用して Web サービスを呼び出すときには、Web サービスに関するすべてのガイドラインに従います。詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

カスタム HTML ヘッド追加の管理

カスタムの<script>要素をページの HTML <head>要素に追加できます。たとえば、<script>要素内に、ページにカスタムボタンを作成する関数を含む JavaScript コードを追加できます。カスタムコードは、クライアント側拡張を通してアップロードされた JavaScript ファイルまたは外部 JavaScript ファイルも参照できるため、これらのファイルの関数をカスタムコードで使用できます。HTML ヘッド追加は Oracle CRM On Demand のすべてのページに適用されます。

[カスタム HTML ヘッドタグを編集] ページで、[プレビュー] ボタンを使用すると、行った変更を検証できます。

ページの URL に disableCustomJS=Y パラメータを設定すると、カスタム HTML ヘッド追加を無効にできます。別のリンクをクリックしてそのページから移動した場合、URL パラメータは保持されません。URL パラメータは必要になるたびに指定する必要があります。カスタム JavaScript コードの作成方法、および使用可能なパブリックアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) の詳細は、『Oracle CRM On Demand JavaScript API Developer's Guide』を参照してください。

作業前の準備。この手順を実行するには、[クライアント側拡張機能のアップロードおよびカスタム HTML ヘッドタグの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。権限の追加の詳細は、「[役割の権限について](#) (ページ 270)」を参照してください。

カスタム HTML ヘッド追加を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[カスタム HTML ヘッドタグ] をクリックします。
- 4 [カスタム HTML ヘッドタグ詳細] ページで、「編集」をクリックします。
- 5 [HTML ヘッド追加] テキストボックスに、必要な<script>要素を入力します。
このフィールドには 50,000 文字まで入力できます。
- 6 [プレビュー] をクリックして、行った変更を検証します。
- 7 [保存] をクリックします。

クライアント側拡張の参照に関するガイドライン

次のガイドラインを考慮してください。

- ページ上のクライアント側拡張の参照数を最小限に抑えて、パフォーマンスに対する悪影響を軽減します。
- クライアント側拡張のサイズをできる限り小さくします。クライアント側拡張の一部としてダウンロードするファイルを小さくするほど、大きなファイルに比べてページのロードが速くなります。
- すべてのクライアント側拡張をできる限り少ないファイルにまとめて、パフォーマンスに対する悪影響を軽減します。
- クライアント側拡張がブラウザのキャッシュに入れられるようにします。クライアント側拡張がブラウザのキャッシュに入れられるようにすると、ユーザーがページをロードするたびに Oracle CRM On Demand サーバーからコンテンツをダウンロードする必要がなくなります。クライアント側拡張が変更された場合は、キャッシュをクリアして、Oracle CRM On Demand でその拡張を含むページがロードされるようにします。デフォルトでは、クライアント側拡張はキャッシュに 30 日間格納されます。

アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理

このバーには、[メッセージセンター]、[検索]、[コミュニケーションツール]、[拡張キーワード検索]、[最近の表示] などの多数のセクションを含めることができます。アクションバーとグローバルヘッダーのカスタムレイアウトを作成し、グローバルセクションをカスタマイズして、これらのレイアウトを Oracle CRM On Demand で特定の役割に割り当てることができます。アクションバーに対する構成変更とグローバルヘッダーに対する構成変更の両方が表示されるのは、モダンテーマを使用する役割のみです。ただし、クラシックテーマを使用する役割の場合は、アクションバーのレイアウトに対する構成変更のみが表示されます。

アクションバーをユーザーに使用不可にする

デフォルトでは、アクションバーはすべての Oracle CRM On Demand ページの左側に表示されます。ユーザーは、必要に応じてアクションバーの表示/非表示を切り替えることができます。詳細は、「アクションバーの表示または非表示について」を参照してください。

特定のユーザー役割に対してアクションバーを使用不可にする場合は、空のアクションバーレイアウトを設定し（つまり、レイアウトにセクションが表示されないか、使用できない）、そのレイアウトをユーザー役割に割り当てます。これにより、そのユーザー役割を持つユーザーに対してアクションバーが恒久的に非表示になります。

次の手順では、アクションバーレイアウトの追加方法について説明します。

新規アクションバーレイアウトを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトをクリックします。
- 4 アクションバーレイアウトとグローバルヘッダーレイアウトページで、[新規レイアウト] をクリックします。
- 5 [レイアウト名] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力します。
- 6 [説明] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 左矢印と右矢印を使用してアクションバー使用可能セクションからアクションバー表示セクションにフィールドを移動し、アクションバーレイアウトに表示するセクションを選択します。選択したフィールドの順序を変更するには、上下の矢印を使用します。
- 8 左矢印と右矢印を使用してアクションバー表示セクションからグローバルヘッダー使用可能セクションにセクションを移動し、グローバルヘッダーに表示するセクションを選択します。
- 9 [終了] をクリックします。
- 10 (オプション) [編集] ボタンをクリックして、手順 5 から 9 で入力した値を編集します。

または、Oracle CRM On Demand に用意されている既存のデフォルトのアクションバーレイアウトをコピーし、要件に合わせて説明と設定を変更することもできます。

アクションバーレイアウトをコピーするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトをクリックします。
- 4 アクションバーとグローバルヘッダーの標準レイアウトの左側にある [コピー] リンクをクリックします。

- 5 [レイアウト名] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力します。
- 6 [説明] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 左矢印と右矢印を使用してアクションバー使用可能セクションからアクションバー表示セクションにフィールドを移動し、アクションバーレイアウトに表示するセクションを選択します。選択したフィールドの順序を変更するには、上下の矢印を使用します。
- 8 左矢印と右矢印を使用してアクションバー表示セクションからグローバルヘッダー使用可能セクションにセクションを移動し、グローバルヘッダーに表示するセクションを選択します。
- 9 [終了] をクリックします。

注:他のアクションバーレイアウトをコピーするには、アクションバーレイアウト名の左の下矢印をクリックしてコピー機能を表示します。

グローバルヘッダーを編集するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトをクリックします。
- 4 アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトページで、目的のレイアウトの横にある下矢印をクリックします。
- 5 メニューから、グローバルヘッダーの編集を選択します。
グローバルヘッダーアイコン編集ページに、使用可能なグローバルヘッダーセクションが昇順でリストされます。複数のグローバルヘッダーセクションに同じ順番を入力した場合、グローバルヘッダーセクションの作成順で表示されます。
- 6 次の該当する操作を行います。
 - グローバルヘッダーセクションを構成するには、[新規] をクリックします。
 - 編集するグローバルヘッダーセクションの横にある [編集] をクリックします。
- 7 虫めがねアイコンをクリックして、セクションのアイコンを変更します。
- 8 [アプレット] メニューから、使用可能なセクションを選択します。
- 9 (オプション) [説明] フィールドに説明を入力します。
- 10 アプレット幅フィールドに、セクションの幅を入力します。
グローバルヘッダーセクションの最大幅は 700 ピクセルです。
- 11 [順序] フィールドに、グローバルヘッダー内でセクションを表示する順序値を入力します。
グローバルヘッダーセクションは、左から右に昇順の順序値に従って表示されます。

12 [保存] をクリックします。

注意: グローバルヘッダーに表示されているグローバル Web アプレットは、Web アプレット(個人)ページの [常に実行] チェックボックスが選択されているかどうかにかかわらず、常に実行されます。Web アプレットが外部 Web サイトを参照する場合など、特定の Web アプレットコンテンツがパフォーマンスに影響する可能性があるため注意してください。[常に実行] チェックボックスの詳細は、「[グローバル Web アプレットの作成 \(ページ 200\)](#)」を参照してください。

企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ

社内の従業員は各自の必要に応じて [ホームページ (個人)] ページ上で異なる情報を表示したい場合があります。[ホームページ (個人)] のデフォルトのコンテンツを、従業員の役割により関連のあるコンテンツに置き替えることにより、このページのレイアウトをカスタマイズできます。たとえば、顧客サービス要員のホームページに、標準の [最近作成した見込み客] セクションの代わりに新しいサービスリクエストを表示したり、標準のセールスパイプライン品質レポートの代わりにカスタムサービスリクエストレポートを表示するように設定できます。

[ホームページ (個人)] のカスタマイズが完了したら、ユーザー役割にホームページレイアウトを割り当てる必要があります。その役割が割り当てられたすべてのユーザーに、設定した [ホームページ (個人)] が表示されます。

作業前の準備: ここでのカスタマイズ内容が適用される役割を選択する必要があるため、この手順を開始する前に、すべての役割を設定しておきます。次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [ホームページ管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業の [ホームページ (個人)] をカスタマイズするには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3** [アプリケーションセットアップ] セクションで、[ホームページレイアウト (個人)] リンクをクリックします。
- 4** [ホームページレイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。
 - [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のカスタムレイアウトを変更します。
 ホームページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。
- 5** ステップ 1 の [レイアウト名] にレイアウト名を入力し、必要な場合は説明も入力します。
- 6** ステップ 2 の [ホームページレイアウト] で、次の操作を行います。
 - [すべてのセクション] リストから [使用可能なセクション] リストにセクションを移動します。
 [使用可能なセクション] リスト内のセクションは、ホームページに追加できるセクションです。ホームページへの追加を有効にしたカスタムレポートもここに含まれます。ホームページへのセクションの追加をユーザーに許可しない場合は、[すべてのセクション] リストにセクションを残したままにします。
 - 必要に応じて、[左側] リストから [右側] リストにセクションを移動し、両方のリストの情報を並べ替えます。

ダブル幅のセクションは、[左側] リストに残します。これらのセクションは、自動的にホームページのサイズに合わせて表示されます。

7 [終了] をクリックします。

注：アプリケーションにカスタムホームページを追加したら、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。実行方法については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化

[ホームページ (個人)] のカスタムレイアウトに追加できるカスタムレポートを指定できます。これらのカスタムレポートは、ホームページレイアウトウィザードのステップ 2 の [使用可能なセクション] リストに表示されます。ホームページ (個人) のカスタマイズの詳細については、「[企業の \[ホームページ \(個人\)\] のカスタマイズ](#) (参照 "[企業の \[個人ホームページ\] のカスタマイズ](#)" ページ 209)」を参照してください。

作業前の準備。この手順を実行するには、[ホームページ (個人)] で有効にするカスタムレポートを保存しておく必要があります。また、手順を実行するユーザーに、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [ホームページ管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。企業プロフィールで [Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化] チェックボックスをオンにすると、[翻訳言語] フィールドで選択されている言語が企業のデフォルト言語の場合のみ、カスタムレポートを作成できます。

カスタムホームページレポートを指定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[ホームページ (個人) カスタムレポート] リンクをクリックします。
- 4 [ホームページ (個人) カスタムレポート] リストで、[新規ホームページレポート] をクリックします。
- 5 [ホームページカスタムレポート] ページで、次のフィールドを入力します。

フィールド	コメント
名前	カスタムレポートの名前を入力します。

フィールド	コメント
翻訳	このチェックボックスは、企業プロファイルの「Web アプレットに対する言語翻訳サポートの有効化」チェックボックスがオンの場合のみ使用できます。カスタムレポートを作成する場合、「翻訳」チェックボックスがオンになり、読み取り専用になります。また、既存のカスタムレポートを更新する前に、カスタムレポートのリストの翻訳フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、「翻訳」チェックボックスは読み取り専用になります。 企業のデフォルト言語で既存のレポートの名前を変更する場合は、次のように「翻訳」チェックボックスを使用します。 ■ 翻訳した名前を更新された名前に置換するには、「翻訳」チェックボックスをオンにします。 ■ 翻訳した名前を変更しないままにするには、「翻訳」チェックボックスをオンにしません。 カスタム Web アプレット名の翻訳の詳細は、「Web アプレット名およびカスタムレポート名の翻訳 (参照 "Web アプレットおよびカスタムレポート名の翻訳" ページ 163)」を参照してください。
高さ	「シングル」または「ダブル」を選択します。高さを「ダブル」に設定すると、ホームページに表示されるレポートの高さが他のセクションの 2 倍になります。
幅	「シングル」または「ダブル」を選択します。ホームページの左端から右端の全体にレポートを表示するには、幅を「ダブル」に設定します。 注: レポートの HTML RowSpan 属性の値が 2 より大きい場合、レポートは指定されたサイズもより大きくなる場合があります。
今すぐレポートを実行	このチェックボックスをオンにすると、レポートは自動的に実行され、ユーザーはレポートを更新するためにリンクをクリックする必要はありません。

1 「レポートパス」フィールドに、レポートのパスを入力します。

「オープン分析」ウィンドウからレポートのパスを貼り付けることができます。レポートパスをコピーするには、次の操作を行います。

- a** 「Answers の概要」ページの「オープン分析」ボタンをクリックします。
- b** レポートを選択します。
- c** 「項目」フィールドの値をコピーします。
次に例を示します。

共有フォルダ：プリビルド分析/セールスステージ履歴分析：前月のセールスレポート

2 「保存」をクリックします。

レコードタイプの名前変更

ユーザーが使い慣れた用語を使用するために、レコードタイプの名前を変更したい場合があります。企業では、一部のレコードタイプについて、アプリケーションのデフォルトのレコードタイプ名とは別のレコード名を使用していることがあります。このような場合には、特定の要件に合わせて名前を変更できます。

レコードタイプ名を変更すると、次に示すアプリケーションのほとんどの部分で新しい名前が表示されます。

- タブとボタン
- ドロップダウンリスト
- 定義済みのフィルターリスト（「取引先ホームページ」の「取引先（全件）」リストなど）
- ページ（レコード詳細ページやリストページなど）のタイトルバー
- アクションバーの「作成」セクション
- ページのセクション名
- レコード割当の電子メール通知
- カスタムページセクション名

たとえば、「取引先」という表示名を「企業」に変更できます。「取引先」タブは「企業」タブになり、それに応じて他のセクションのタイトルも変更されます。

ただし、新しい名前が表示されない箇所もあります。名前を変更した場合は、次の部分で新しい名前が表示されないことをユーザーに通知します。

- カスタムフィルター済みリスト名
- カスタムフィールド名
- レポートと分析
- Oracle Outlook Email Integration On Demand
- ヘルプページ

注:すべての表示名は 50 文字以内である必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズ」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

レコードタイプの名前を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。

- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[レコードタイプ名の変更] リンクをクリックします。
- 4 [Customize Record Types (レコードタイプのカスタマイズ)] ページで、該当する行に新しい名前を入力します。アプリケーションのインターフェイスの表示場所に応じて、表示名/単数、表示名/複数、表示名/短という 3 種類の名前を入力する必要があります。
注： [表示名/短] はタブに表示されるため、15 文字以下にしてください。[レコードタイプ名の変更] ページで使えるオブジェクトの名前にオブジェクト名を変更することはできません。たとえば、タスクやアポイントなどは [レコードタイプ名の変更] ページにリストされていないのでオブジェクトの名前を変更できます。
- 5 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。
注： この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では (またはこのページの [翻訳言語] ドロップダウンリストから他の言語を選択した場合は)、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、翻訳された以前の表示名のままになり、ここで行った変更は反映されません。
- 6 新しい名前の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
 - b 翻訳した名前を適切な [表示名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
 - c リンクをクリックして更新したページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。
 翻訳した名前が [表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。

詳細ページでのイメージの有効化

レコードタイプの詳細ページにイメージを追加できます。たとえば、[担当者詳細] ページに写真、[取引先詳細] ページに企業ロゴ、[製品詳細] ページに製品の画像を追加する場合があります。イメージを有効化できるのは、次のレコードタイプの詳細ページのみです。

- 取引先
- 担当者
- 製品

詳細ページでイメージを有効化するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[レコードタイプ名の変更] リンクをクリックします。

- 4 [取引先]、[担当者] または [製品] レコードタイプのイメージの表示チェックボックスを選択します。
- 5 [保存] をクリックします。

カスタムアイコンセットのアップロードおよび管理

レコードタイプと関連付ける一連のカスタムアイコンをアップロードして管理できます。各カスタムアイコンセットに、レコードタイプタブ用、[アクション] バー用、Oracle CRM On Demand の関連情報領域用の 3 つのアイコンが含まれています。

カスタムアイコンセットにより Oracle CRM On Demand のルックアンドフィールが向上し、よりレコードタイプとの関連性が高いアイコンをユーザーが表示できるようになります。既存のカスタムアイコンセットを編集し、要件に合わせて変更を加えることができます。

注: 作成できるカスタムアイコンセットの最大数は 100 です。

作業前の準備。 この手順を実行するには、カスタムアイコンの管理権限を含む役割が割り当てられている必要があります。カスタムアイコンセットはモダンテーマの使用時にのみレコードタイプと関連付けることができます。

新しいアイコンセットを作成および公開するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、アイコン管理リンクをクリックします。
- 4 アイコン管理ページでオブジェクトアイコンリンクをクリックします。
- 5 アイコンセットページで、[追加] をクリックして新しいアイコンセットを作成します。
- 6 アイコンセット編集ページで、新しいアイコンセットの名前をアイコンセット名フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
アイコンセット名フィールドで利用できる最大文字数は 50 文字です。
- 7 [アイコン] タブで [新規] をクリックします。
- 8 アイコン編集ページで、アイコンタイプピックリストから次のいずれかを選択してアイコンセットで使用するイメージを探します。
 - **メインアイコン。** [レコードタイプ] タブで使用するカスタムアイコン。このアイコン用に選択したイメージは幅 50 ピクセル、高さ 50 ピクセルのサイズをお勧めします。
 - **ミニアイコン。** [アクション] バーで使用するカスタムアイコン。このアイコン用に選択したイメージは幅 25 ピクセル、高さ 25 ピクセルのサイズをお勧めします。

- **関連情報アイコン。** 関連情報領域で使用されるカスタムアイコン。このアイコン用に選択したイメージは幅 45 ピクセル、高さ 45 ピクセルのサイズをお勧めします。このイメージが Oracle CRM On Demand で使用されるカラースキームに収まる必要がある場合、このイメージは透明の背景である必要があります。

注: 次の拡張子のイメージをアップロードできます: JPEG、JPG、PNG、または GIF。ファイルサイズ制限は 100KB です。

9 「参照」をクリックして必要なイメージを探した後、アイコンの保存&新規作成をクリックします。

10 カスタムアイコンセットの各アイコンタイプに対して手順 8-9 を繰り返します。

11 「公開」をクリックします。

カスタムアイコンセットをレコードタイプに関連付ける方法は、「[レコードタイプのアイコンの変更](#) (ページ 218)」を参照してください。

カスタムグローバルヘッダーアイコンのアップロードと管理

カスタムアイコンをアップロードしてグローバルヘッダーレイアウトに関連付けることができます。これにより、グローバルヘッダーレイアウト内の項目のために有意なアイコンを使用できます。

作業前の準備。 この手順を実行するには、カスタムアイコンの管理権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

新しいカスタムアイコンセットを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「アプリケーションセットアップ」セクションで、アイコン管理リンクをクリックします。
- 4 「アイコン管理」ページで、「グローバルヘッダーアイコン」リンクをクリックします。
- 5 「グローバルヘッダーアイコン」ページで、「追加」をクリックして新しいカスタムアイコンを作成します。
- 6 グローバルヘッダーアイコンの編集ページで、「参照」をクリックして、使用するイメージを見つけます。

注: 次の拡張子のイメージをアップロードできます: JPEG、JPG、PNG、または GIF。ファイルサイズ制限は 100KB です。アップロードできるイメージの数は最大で 50 個です。このイメージを Oracle CRM On Demand で使用されているカラースキームに合わせる場合は、このイメージは白である必要があります、高さ約 45 ピクセル、幅約 45 ピクセルで、背景が透明である必要があります。

- 7 グローバルヘッダーアイコンの保存と新規作成をクリックします。
- 8 グローバルヘッダーアイコンのセットにアップロードするカスタムアイコンごとに、ステップ 6 から 7 を繰り返します。
- 9 (オプション) カスタムアイコンを削除するには、次のことを行います。

a 対象となるカスタムアイコンの横にある下矢印をクリックします。

b メニューから[削除]を選択します。

グローバルヘッダーのレイアウトの詳細は、「[アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理](#) (ページ 206)」を参照してください。 (参照 "[レコードタイプのアイコンの変更](#)" ページ 218)

レコードタイプの追加

企業にカスタムレコードタイプを追加できます。たとえば、従業員が使用できるように [注文] タブを表示するとします。新しいレコードタイプを追加するには、Oracle CRM On Demand でカスタムオブジェクトレコードタイプの 1 つを名前変更して設定します。

企業が [カスタムオブジェクト 01] から [カスタムオブジェクト 10] レコードタイプを使用でき、ユーザーにそのレコードタイプへのアクセス権を付与できる権限は、Oracle CRM On Demand の管理者の役割のデフォルトで有効です。ただし、企業が 10 を超えるカスタムオブジェクトレコードタイプを使用する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡して、追加のカスタムオブジェクトレコードタイプを企業が使用できるようにする必要があります。

通常、新しいレコードタイプは、デフォルトで用意されているレコードタイプと同様に機能します。レコードタイプごとに、リストのフィルター処理および並べ替えに使用される [名前] フィールドを含む一連のフィールドを使用できます。

注: [カスタムオブジェクト 01]、[カスタムオブジェクト 02]、[カスタムオブジェクト 03] レコードタイプごとに、これらのレコードタイプのレコードのリストをフィルター処理および並べ替えるために 8 個のフィールドを使用できます。その他のすべてのカスタムオブジェクトレコードタイプの場合、そのレコードタイプのレコードのリストのフィルター処理および並べ替えに使用できるのは、[名前] フィールドのみです。

新しいレコードタイプのカスタムフィールド、ページレイアウト、検索レイアウトなどを設定できます。ただし、新しいレコードタイプは次のエリアでは使用できません。

- アサイメントマネージャ
- 売上予想
- デフォルトのグループ割当 (グループで共有できません)

加えて、新しいレコードタイプには次の 3 つの制限があります。

- 新しいレコードタイプは、各国に固有の住所グループを含めることができません。
- デフォルトでは、[名前] フィールドだけが新しいレコードタイプに必要になります。
- 新しいレコードタイプには、重複チェックは実行されません。

Web サービスで新しいレコードタイプを使用する方法の詳細については、「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード](#) (ページ 716)」を参照してください。

作業前の準備。この手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と、新しいレコードタイプに使用するカスタムオブジェクトの適切な [アプリケーションをカスタマイズ] 権限の両方を含む役割が割り当てられている必要があります。カスタムオブジェクト 01、02、および 03 レコードタイプには別個の権限があります ([アプリケーションのカスタマイズ - カスタムオブジェクト 01 の管理] 権限など)。他のカスタムオブジェクトレコードタイプについては、各権限がカスタムオブジェクトのグループに適用されます (アプリケーションのカスタマイズ - カスタムオブジェクト 04~10 の管理] 権限など)

レコードタイプを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「アプリケーションセットアップ」セクションで、「レコードタイプ名の変更」リンクをクリックします。
- 4 使用するカスタムオブジェクトレコードタイプの行に、情報を入力します（例：発注）。
詳細については、「[レコードタイプの名前変更](#)（ページ 212）」を参照してください。レコードタイプを名前変更したら、カスタムオブジェクトレコードタイプのリンクが置き換えられ、レコードタイプは「アプリケーションカスタマイズ」ページの「レコードタイプセットアップ」セクションに、この名前で表示されます。
- 5 「保存」をクリックします。
- 6 「アプリケーションカスタマイズ」ページの「レコードタイプセットアップ」セクションで、新しいレコードタイプのリンクをクリックします。
- 7 「フィールド管理」セクションで、「フィールドセットアップ」リンクをクリックします。
- 8 「フィールドセットアップ」ページでは、次の操作を行います。

- （推奨）「フィールドラベルの管理」をクリックし、要件を満たすフィールドの名前を変更します。

「名前」フィールドの名前を変更することをお勧めします。アプリケーション全体を通じて、各レコードタイプは、レコードタイプで始まる「名前」と呼ばれるフィールドを持っています（取引先名、商談名など）。したがって、「注文」という名前のレコードタイプを追加する場合は、「名前」フィールドを「注文名」に名前変更できます。企業でターゲット検索を使用する場合、「名前」フィールドはアクションバーの「検索」セクションに検索フィールドとしてデフォルトで表示されます。

注：「カスタムオブジェクト 01」から「カスタムオブジェクト 03」レコードタイプのみ、「クイック検索 1」および「クイック検索 2」フィールドも、アクションバーの「検索」セクションにデフォルトで検索フィールドとして表示されるため、「クイック検索 1」および「クイック検索 2」の名前を変更することもできます。たとえば、「注文」という名前のレコードタイプを追加する場合は、「クイック検索 1」フィールドを「オーダー番号」に名前変更できます。その後、従業員が「検索」セクションのレコードタイプのリストから「発注」を選択すると、検索フィールドの 1 つとして「発注番号」が表示されます。

- 「新規フィールド」をクリックし、カスタムフィールドを追加します。

これらのレコードタイプには、デフォルトのレコードタイプのカスタムフィールドの場合と同じ制限があります。

カスタムフィールドの編集と作成の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#)（ページ 110）」を参照してください。

- 9 新しいレコードタイプの編集および詳細ページのページレイアウトを設定します。

レコードの編集ページにフィールドを追加し、フィールドを別個のセクションにグループ分けし、これらのセクションを名前変更することができます。

他のレコードタイプとの関係を作成するには、フィールド（取引先、担当者、商談など）をページレイアウトに追加します。これにより、フィールドの横に「ルックアップ」アイコンが作成され、ユーザーは既存のレコードをこの新しいレコードタイプにリンクできます。

関連情報セクションを詳細ページに追加できます。

関連情報セクションとしてチームを追加する場合、ユーザーはこのレコードをチームメンバーとレコード単位で共有できます。

注: チームの関連情報セクションは、カスタムオブジェクトレコードタイプでサポートされます。

手順については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

10 (オプション) 新しいレコードタイプの検索レイアウトを設定します。詳細は、「[検索レイアウトの管理](#) (ページ 167)」を参照してください。

11 (オプション) 新しいレコードタイプのカスタムホームページレイアウトを設定します。詳細については、「[レコードホームページレイアウトの作成](#) (ページ 175)」を参照してください。

12 (オプション) 新しいレコードタイプをフィールドとして、または他のレコードタイプのページレイアウトの関連情報セクションとして追加します。

注: 新しいレコードタイプの設定を完了した後、ユーザーに新しいレコードタイプの適切なアクセスレベルを与えるために関連するアクセスプロファイルを更新する必要があります。レコードタイプのタブを役割が使用できるようにして、レコードタイプのカスタマイズされたページレイアウト、ホームページレイアウト、および検索レイアウトを役割に割り当てるために、関連するユーザー役割を更新する必要があります。アクセスプロファイルの更新の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。役割の更新方法の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

■ [カスタムオブジェクトの多対多の関係について](#) (ページ 231)

レコードタイプのアイコンの変更

レコードタイプに関連付けられたアイコン (タブやアクションバーの [作成] セクションにも表示される) を変更することができます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

レコードタイプのアイコンを変更するには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3** [アプリケーションセットアップ] セクションで、[レコードタイプ名の変更] リンクをクリックします。
- 4** [レコードタイプ名の変更] ページで、次のいずれかまたは両方を行います。
 - a** レコードタイプに対応する [[クラシック]アイコン] フィールドの [ルックアップ] アイコンをクリックし、ウィンドウからアイコンを選択します。

- b** レコードタイプに対応する **[モダン]アイコン** フィールドの **[ルックアップ]** アイコンをクリックし、ウィンドウからアイコンを選択します。

カスタムアイコンセットを作成すると、カスタムアイコン見出しの下に表示されます。カスタムアイコンセットの詳細は、「[カスタムアイコンセットのアップロードおよび管理](#) (ページ 214)」を参照してください。

- 5** **[保存]** をクリックします。

REST 統合タグのカスタマイズ

各レコードタイプには、Oracle CRM On Demand REST API によりレコードタイプ(リソース)にアクセスするために使用できる 2 つの REST 統合タグがあります。REST 統合タグの 1 つはレコードタイプのデフォルトタグです。デフォルトタグは言語に依存せずに変更できません。その他の REST 統合タグはカスタマイズできます。たとえば、会社でレコードタイプが名前変更されたりカスタムレコードタイプが使用されている場合、そのレコードタイプの REST 統合タグをカスタマイズして REST 統合タグがレコードタイプの名前を反映するようにできる場合があります。

Oracle CRM On Demand REST API URL は、次の例の URL で示されているように REST 統合タグのいずれかを使用してリソースにアクセスできます。

```
http://server/OnDemand/user/Rest/latest/default_integration_tag
```

```
http://server/OnDemand/user/Rest/latest/custom_integration_tag
```

これらの例で default_integration_tag がデフォルトの統合タグのプレースホルダーで、custom_integration_tag がカスタマイズ REST 統合タグのプレースホルダーです。

次の手順では、REST API URL で使用する REST API 統合タグをカスタマイズする方法について説明します。

REST 統合タグをカスタマイズするには

- 1** 任意のページの右上隅にある **[管理]** グローバルリンクをクリックします。
- 2** **[アプリケーションカスタマイズ]** セクションで、**[アプリケーションカスタマイズ]** をクリックします。
- 3** **[REST 統合タグのカスタマイズ]** リンクをクリックします。
- 4** **[REST 統合タグ]** リストで、レコードタイプの **[編集]** リンクをクリックします。
- 5** **[REST 統合タグ]** フィールドに新しい名称を入力し、**[保存]** をクリックします。

新規テーマの作成

テーマは Oracle CRM On Demand の外観を決定します。新しい企業に対して Oracle CRM On Demand を最初にセットアップする際には、複数の定義済みテーマを使用できます。デフォルトのテーマは Oracle です。役割管理ウィザードを使用して、テーマを作成および管理する役割を指定できます。役割の追加の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。企業のテーマの指定に関する詳細については、「[企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。

テーマは企業、役割、またはユーザーレベルで選択できます。ユーザーレベルで指定したテーマが最優先され、次に役割レベルで指定したテーマが優先されます。ユーザーレベルでも役割レベルでもテーマが指定されていない場合は、企業のデフォルトのテーマが適用されます。

Oracle CRM On Demand リリース 16 からそれ以降のリリースにテーマをアップグレードする場合は、次の点に注意してください。

- **新規企業の場合。**企業レベルのデフォルトのテーマは Oracle です。役割またはユーザーレベルのテーマは選択されていません。企業の管理者は新規テーマを作成し、そのテーマをデフォルトとして設定できます。既存のテーマを無効にしてユーザーが選択できないようにすることも可能です。
- **既存の企業の場合。**古いテーマの名前は Oracle - Deprecated、Contemporary - Deprecated または Classic - Deprecated のいずれかの文字列に置き換えられます。これらの古いテーマを変更し、新しいテーマを選択して、古いテーマをユーザープロファイルから削除することをお勧めします。
- **ロゴやリンクを使用している既存の企業の場合。**アップグレードしても非推奨のテーマには影響せず、選択されたままになります。古い（非推奨の）テーマを使用せず、新規テーマを作成して、その新規テーマを企業レベルまたは役割レベルのデフォルトに設定することをお勧めします。

作業前の準備。テーマを作成および編集するには、[テーマの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

次に、Oracle CRM On Demand で固有のテーマを作成する手順について説明します。

Oracle CRM On Demand で新しいテーマを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[テーマ] リンクをクリックします。
- 4 [テーマ] ページで、[新規] をクリックします。
- 5 次のフィールドに情報を入力します。
 - **テーマ名。**新規テーマの名前を入力します。
 - **デフォルトヘルプリンクの表示。**新規テーマにデフォルトの [ヘルプ] リンクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
 - **デフォルトトレーニングおよびサポートリンクの表示。**新規テーマにデフォルトの [トレーニングおよびサポート] リンクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
 - **説明。**新規テーマの説明を入力します。
 - **テーマスタイル。**このフィールドは必須です。このメニューのデフォルト値は [クラシック] です。
 - **タブスタイル。**[クラシック] または [モダン] を選択します。このメニューは、[テーマスタイル] メニューから [クラシック] を選択した場合のみ使用できます。このメニューのデフォルト値は [スタック] です。
 - **フォントサイズ。**[正規] または [L サイズ] を選択します。[テーマスタイル] メニューから [クラシック] を選択した場合、このメニューのデフォルト値は [正規] となります。[テーマスタイル] メニューから [モダン] を選択した場合、このメニューのデフォルト値は [L サイズ] となります。
- 6 [保存] をクリックします。

Oracle CRM On Demand の [テーマ詳細] ページを開くと、新規テーマの動的プレビューが画面の右側に表示されます。このプレビューには新規テーマを適用した [ホーム]、[詳細]、[リスト] の各ページが表示されます。モダンテーマでは、[カレンダー] ページもプレビューできます。

7 次の表に示す各フィールドに情報を入力します。

手順

注:新しいカラーコードを入力するには、各色の 16 進数値を入力するか、デフォルトの色の値にマウスポインタを置いてカラーパレットアイコンを表示します。カラーパレットアイコンをクリックして、このフィールドの色を選択します。

一般情報	説明
デフォルトヘルプリンクの表示。	新規テーマにデフォルトの [ヘルプ] リンクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
デフォルトトレーニングおよびサポートリンクの表示。	新規テーマにデフォルトの [トレーニングおよびサポート] リンクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
フッターセクションのレコードタイプリンクの表示	新規テーマにページ下部のレコードタイプのリンクを表示する場合は、このチェックボックスをオンします。
アプリケーションバックグラウンド	このフィールドは、Oracle CRM On Demand の背景を参照します。モダンテーマでは、このフィールドは、ボタンが表示される [トップ] セクションの背景も参照します。
アプリケーションテキスト	このフィールドは、クラシックテーマにのみ使用できます。アプリケーションページの下部およびグローバルリンクとタブリンクとの間の垂直バーに表示される法律情報を参照します。
アプリケーションリンク	このフィールドは、クラシックテーマにのみ使用できます。Oracle CRM On Demand の上部と下部にあるグローバルリンク ([管理]、[設定 (個人)]、[プライバシーに関する声明]、[使用条件] など) を参照します。
警告テキスト	このフィールドは、必須フィールドおよび延滞タスクに使用するテキストを参照します。
タブ (クラシックテーマのみ)	
タブスタイル	メニューから [丸め済み]、[スタック] または [ストレート] を選択します。
有効なタブテキスト	このフィールドは、有効なタブに使用するテキストを参照します。
有効なタブバックグラウンド	このフィールドは、有効なタブの背景色を参照します。

一般情報	説明
無効なタブテキスト	このフィールドは、無効なタブに使用するテキストを参照します。
無効なタブバックグラウンド - トップ	このフィールドは、無効なタブの上部の背景色を参照します。
無効なタブバックグラウンド - 下	このフィールドは、無効なタブの下部の背景色を参照します。
無効なタブバックグラウンドホバー	このフィールドは、無効なタブにマウスポインタを置いたときに表示される色を参照します。メニュータブに使用する色も参照します。
グローバルヘッダーセクション (モダンテーマのみ)	
バックグラウンド	このフィールドは、グローバルヘッダーの背景色を参照します。
トップセクション (モダンテーマのみ)	
テキスト	このフィールドは、ボタンの下のテキストを参照します。
アクションバー (モダンテーマのみ)	
アクションバーアイコン	このフィールドは、アクションバーの三角形アイコンの色を参照します。
アクションバーテキスト	このフィールドは、アクションバーに使用するテキストを参照します。
アクションバーリンク	このフィールドは、アクションバーで使えるリンク、たとえば、[お気に入りのレコード] または [最近の表示] セクションの下のナビゲーションリンクを参照します。
アクションバーバックグラウンド	このフィールドは、アクションバーに表示される背景色を参照します。
ボタン (モダンテーマのみ)	
ボタンバックグラウンド - トップ	このフィールドは、ボタンの上部の背景色を参照します。
ボタンバックグラウンド - 下	このフィールドは、ボタンの下部の背景色を参照します。

一般情報	説明
ボタン境界線	このフィールドは、ボタン境界線の境界線に使用する色を参照します。
ボタンテキスト	このフィールドは、ボタンに使用するテキストを参照します。
ページ（クラシックおよびモダンテーマ）	
ページテキスト	このフィールドは、インラインヘルプ、フィールドドラベル、フィールド値、ページタイトル、無効なリンク、フォームセクションヘッダー、垂直バー、ビュレットなど、ページまたはポップアップウィンドウのすべてのテキストを参照します。
ページリンク	このフィールドでは、ページバックグラウンドのすべてのリンク（[リストを全表示] リンク、[リスト管理] リンクなど）を示します。
ページバックグラウンド - トップ	このフィールドは、[商談詳細] など、各ページおよびポップアップウィンドウの上部にあるタイトルバーの色を参照します。ボタンはこのタイトルバーにあります。このフィールドはアクションバー、関連リストおよびカレンダーアポイントペインも制御します。クラシックテーマでは、このフィールドは有効なカレンダータブを制御します。 注: モダンテーマでは、有効なカレンダータブはメニューに置換されます。
ページバックグラウンド - 下	このフィールドは、[商談詳細] など、各ページおよびポップアップウィンドウの下部にあるタイトルバーの色を参照します。ボタンはこのタイトルバーにあります。このフィールドはアクションバー、関連リスト、[カレンダー] ビュー、有効な[カレンダー] タブも制御します。
ハイライト表示されたページバックグラウンド	このフィールドは、インライン編集フィールド、カレンダー上の現在日、ウィザードのアクティブなステップ、ヘッドアップディスプレイバックグラウンドなど、ページ上のハイライト表示された項目の色を参照します。
ページヘッダーテキスト	このフィールドは、[商談ホームページ] など、ページ名に使用するテキスト色を参照します。

一般情報	説明
ページヘッダーバックグラウンド - トップ	このフィールドは、ページ名の背後の上部領域に使用する色を参照します。
ページヘッダーバックグラウンド - 下	このフィールドは、ページ名の背後の下部領域に使用する色を参照します。
セクションヘッダー行	このフィールドは、[詳細] ページのセクションヘッダー行を参照します。
ページ行	このフィールドは、リストレコード、詳細ページのフォームセクション、ウィザードのステップなどに使用する行の色を参照します。
ページアイコン	このフィールドは、モダンテーマにのみ使用できます。ページセクションの折りたたみと展開に使用される三角形アイコンで使用する色を参照します。
関連情報ボタンバックグラウンド	このフィールドは、モダンテーマにのみ使用できます。[関連情報] ボタンの背景に使用する色を参照します。
リスト（クラシックおよびモダンテーマ）	
リストヘッダーテキスト	このフィールドは、フィルターバー、リストフッターバーおよび日別と週別のカレンダービューのタイムラインで使用するテキストの色を参照します。
リストヘッダーバックグラウンド	このフィールドは、日別および週別カレンダービューの時間セクション、フィルターバー、およびリストナビゲーションアイコンを含むリストフッターの背景色を参照します。
カラムヘッダーテキスト	このフィールドは、カラムヘッダーおよびモダンテーマのカレンダービューの日セクションで 사용되는テキストの色を参照します。
カラムヘッダーバックグラウンド	このフィールドは、関連リスト、全リストおよびモダンテーマのカレンダービューの日セクションで 使用される背景色を参照します。
線	このフィールドは、リストセクション内の水平線の色を参照します。
カレンダー（クラシックおよびモダンテーマ）	
勤務時間外の背景	このフィールドでは、カレンダーにおいてユーザーが勤務していない時間を表すために使用される背景色を示します。

一般情報	説明
カレンダー行	このフィールドは、Oracle CRM On Demand の [日別カレンダー] および [カレンダービュー] セクションで使用される行の色を参照します。
アポイント背景 - デフォルト	このフィールドでは、カレンダーの日別、週別および月別ビューに表示されるアポイントの背景色を示します。このフィールドは、モダンテーマの場合のみ使用可能となります。
アポイントテキスト - リンク	このフィールドでは、アポイント、担当者および取引先のためのナビゲーションリンクなど、カレンダーアポイント内で使用可能なリンクを示します。このフィールドは、モダンテーマの場合のみ使用可能となります。 注意: クラシックテーマを使用している場合、カレンダーアポイント内のリンクはページリンクと同じ色で表示されます。
アポイントテキスト - リンク以外	このフィールドでは、アポイント内で使用されるテキストの色を示します。このフィールドは、モダンテーマの場合のみ使用可能となります。 注意: クラシックテーマを使用している場合、カレンダーアポイント内のテキストはページテキストと同じ色で表示されます。

- 8** (オプション) カスタマイズされたグローバルリンクをテーマに追加する場合、[グローバルリンク] セクションの [新規] をクリックします。

リンク編集ページが開きます。

- 9** 次の情報を入力します。

- **リンク名。**テーマに追加するグローバルリンクの名前を選択します。
- **タイプ。**グローバルリンクをページの上部に配置するか、下部に配置するかに応じて、メニューから [ヘッダー] または [テストフッターのテキスト] を選択します。
- **リンク URL。**グローバルリンクの URL を入力します。
- **リンク順序。**リンクの表示順序を示す値を入力します。たとえば、「1」を入力すると、そのリンクはグローバルリンクの最初のリンクになります。

- 10** [保存] をクリックします。または、カスタマイズされた他のグローバルリンクをテーマに追加する場合はリンクの保存 & 新規作成をクリックします。

- 11** (オプション) 特定のロゴをテーマに追加する場合、[ロゴ] セクションの [ロゴの追加] をクリックします。

[ロゴ編集] ページが開きます。

- 12** [参照] をクリックし、テーマのヘッダーロゴとして使用するイメージを探します。

注:イメージをアップロードし、拡張子を JPEG、JPG、PNG、または GIF にすることで、ヘッダーロゴとして使用できます。クラシックテーマの場合、Oracle CRM On Demand では、最大 45 ピクセルの高さのヘッダーロゴを表示できます。モダンテーマの場合、Oracle CRM On Demand では、最大 50 ピクセルの高さのヘッダーロゴを表示できます。水平方向の最大範囲を確保するには、ヘッダーロゴの幅を 1680 ピクセルにすることをお勧めします。テーマにアップロードするイメージを使用およびアップロードする権限が必要です。

13 次の情報を入力します。

- **名前。**テーマに追加するロゴの名前を入力します。
- **ロゴタイプ。**ロゴをページの上部に配置するか、下部に配置するかに応じて、メニューから [ヘッダー] または [テストフッターのテキスト] を選択します。[ヘッダー] を選択すると、ロゴはそのままリンクおよびタブの背景に表示されます。[テストフッターのテキスト] を選択すると、フッターロゴがアプリケーション下部のリンクに配置されます。

14 [保存] をクリックします。

注: テーマに追加する新規ロゴのプレビューを表示するには、再度 Oracle CRM On Demand にサインアウトおよびサインインする必要があります。

Oracle CRM On Demand でカスタム作成モダンテーマを使用している場合、カレンダー内の異なる活動アクティビティをどの色で表示するかを定義できます。

15 カレンダー活動セクションで [新規] をクリックします。

カレンダー活動詳細ページが開きます。

16 次の情報を入力します。

- **活動タイプ。**必要なカレンダー活動を選択します。
- **順序。**カレンダー活動がカレンダーの凡例に表示される順序を示す値を入力します。カレンダーの凡例には、日別および週別カレンダーを表示したときに最初の 4 つの活動タイプが表示されます。カレンダーの凡例には、月別カレンダーを表示したときに最初の 6 つの活動タイプが表示されます。

17 [保存] をクリックします。または、カレンダーに追加のカレンダー活動を定義する場合はカレンダー活動の保存&新規作成をクリックします。

カレンダー活動セクションには、特定の色でカレンダーに表示する活動がリストされます。

18 次の項目をクリックして各カレンダー活動をカレンダーに表示する方法を定義します。

- **活動タイプ。**必要なカレンダー活動を選択します。
- **順序。** カレンダー活動がカレンダーの凡例に表示される順序を示す値を入力します。カレンダーの凡例には、日別および週別カレンダーを表示したときに最初の 4 つの活動タイプが表示されます。カレンダーの凡例には、月別カレンダーを表示したときに最初の 6 つの活動タイプが表示されます。
- **背景色。**カレンダー活動の背景色を定義するには、16 進数値を入力するか、カラーパレットから色を選択します。
- **リンク色。**カレンダー活動のリンクの表示色を定義するには、16 進数値を入力するか、カラーパレットから色を選択します。
- **非リンク色。**カレンダー活動のテキストの表示色を定義するには、16 進数値を入力するか、カラーパレットから色を選択します。

注: カレンダー活動に対する変更内容を表示するには、再度 Oracle CRM On Demand にサインアウトおよびサインインする必要があります。Oracle CRM On Demand でのカレンダーの使用の詳細は、「[カレンダーページの使用](#)」を参照してください。

共有レコードの前の所有権のカスタマイズ

チーム単位でのレコードの共有がサポートされているレコードタイプの場合、Oracle CRM On Demand で [所有者] フィールドが変更されたときに前の所有権をチームの一部として保持するようにそのレコードタイプをカスタマイズできます。前の所有者のカスタマイズページに、チーム単位のレコード共有をサポートするレコードタイプのリストが表示されます。各レコードタイプごとに、レコードの前の所有者をチームに保持するチャンネルを選択し、新しいアクセス役割を前の所有者に割り当てることができます。たとえば、[取引先] レコードタイプを構成して、共有取引先レコードの所有者がインタラクティブ操作で変更されたときに前の所有者がチームに保持され、前の所有者にそのレコードタイプに対する読み取り専用アクセス役割が割り当てられるようにすることができます。

レコードの所有権の詳細は、「[レコードの所有権の移動](#)」および「[レコードの共有（チーム）](#)」を参照してください。

レコードの前の所有権をカスタマイズするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、前の所有者のカスタマイズをクリックします。
前の所有者のカスタマイズページに、チーム単位のレコードの共有をサポートするレコードタイプと、それらのレコードタイプの対応するチャンネルおよびアクセスプロファイルがリストされます。
- 4 前の所有者のカスタマイズページで、[編集] をクリックして、レコードタイプの前の所有者のチャンネルまたはアクセスプロファイルを変更します。
- 5 チャンネルの選択から次のいずれかを選択します。
 - **所有者を保持しない。** これがデフォルト値です。レコードの前の所有者はチームに保持されません。
 - **常に所有者を保持する。** レコードの前の所有者は、所有者が割当マネージャを使用して変更された場合を除きチームに保持されます。
 - **すべてのインタラクティブ操作。** レコードの前の所有者は、所有者がインポートアシスタント、割当マネージャ、大量更新機能、または Web サービスを使用して変更された場合を除きチームに保持されます。
- 6 [アクセスプロファイル] から前の所有者の新しいアクセスプロファイルを選択します。
他のアクセスプロファイルをチームで使用可能にする詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。
- 7 [保存] をクリックします。

フィールド、ピックリスト、基準について

このアプリケーションでは、売上予想とレポートに使用するフィールド名やピックリスト値は変更できません。ただし、ホームページ上のリストなどの組み込みのリストでは、ピックリスト値に基づいて含めるレコードが選択されます。アプリケーションは基になる言語に依存しないコードを使用して、標準のリストに含めるレコードを決めます。そのため、これらのリストに影響を与えることなく、ピックリスト値やフィールドの名前を変更できます。

注： Oracle CRM On Demand（標準アプリケーション）では、タスクの優先順位はタスクリストの矢印によって表されます。上向き矢印は、[1 - 高] の優先順位を表します。矢印なしは、[2 - 中] の優先順位を表します。下向き矢印は、[3 - 低] の優先順位を表します。[活動] レコードタイプの [優先順位] フィールドの表示値をデフォルト値から変更すると（たとえば、デフォルト値の [1-高い] から「最高位」に変更すると）、1-ラベル、2-ラベルまたは 3-ラベルというパターン（ラベルはタスク優先順位につけた名前）を使用しない限り、Oracle CRM On Demand では、タスクリストの [優先順位] フィールドに矢印が表示されません。この場合、Oracle CRM On Demand では、1-ラベルには上向き矢印が表示され、2-ラベルには矢印が表示されず、3-ラベルには下向き矢印が表示され、他の表示値には矢印が表示されません。たとえば、Oracle CRM On Demand では、1-My Highest という値には上向き矢印が表示されますが、My Highest という値には矢印が表示されません。Oracle CRM On Demand では、[優先順位] フィールドのピックリストに追加したカスタム値には矢印が表示されません。

添付資料設定について

レコードタイプに応じて、次の方法でファイルをレコードに添付できます。

- 親レコードで添付資料関連項目を使用
- 添付フィールドを使用

添付資料関連項目の設定について

設定済みの添付資料関連項目をサポートするレコードタイプでは、ユーザーが複数の添付資料を親レコードにリンクできるように、ページレイアウトおよびユーザー役割を設定できます。各添付資料項目には、ファイルまたは URL のいずれかを含めることができます。ユーザーがこの方法でファイルや URL を添付できるようにするには、次のようにページレイアウトおよびユーザー役割を設定する必要があります。

- 親レコードタイプのページレイアウトで、[添付資料] セクションが関連情報セクションとして使用可能である必要があります。
- ユーザー役割には、[添付資料] レコードタイプに対して必要な権限が含まれている必要があります。
- ユーザー役割のアクセスプロファイルには、親レコードタイプのアクセス設定で設定された添付資料関連レコードタイプへの適切なアクセス権が含まれている必要があります。

ページレイアウトのカスタマイズについては「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」および「[動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)」を参照してください。ユーザー役割およびアクセスプロファイルの設定については、「[ユーザー管理とアクセス制御](#) (ページ 233)」を参照してください。

次のレコードタイプでは、事前構成添付資料関連項目がサポートされます。

- 取引先
- 活動
- キャンペーン

- 担当者
- カスタムオブジェクト 01、02 および 03
- 自動車ディーラー
- イベント
- 資金
- 資金リクエスト
- 世帯
- 見込み客
- 商談
- パートナー
- プログラムメンバーシップ
- サービスリクエスト
- 解決策

添付資料は、警告レコードおよびセールスステージレコードにリンクすることもできます。

企業の管理者は、設定済みの添付資料関連項目を使用して追加した添付資料の詳細を表示できます。詳細については、「[企業の添付資料の管理](#) (ページ 738)」を参照してください。

添付フィールドの設定について

ユーザーは添付フィールドを使用して、単一ファイルをレコードに添付できます。添付フィールドがサポートされているのは次のレコードタイプです。

- カスタムオブジェクト 01、02、03、04 以降
- 在庫監査レポート
- サンプルトランザクション
- 署名

次のレコードタイプでは、添付資料のフィールドもサポートされます。ただし、これらのレコードタイプは、次のように関連項目としてのみ使用できます。

- 認定添付資料

認定添付資料レコードタイプは、認定レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- 申込書類添付資料

申込書類添付資料レコードタイプは、申込書類レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- ビジネス計画添付資料

「ビジネス計画添付資料」レコードタイプは、「ビジネス計画」レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- 認定レベル添付資料

認定レベル添付資料レコードタイプは、認定レベルレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ コース添付資料

コース添付資料レコードタイプは、コースレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 試験添付資料

試験添付資料レコードタイプは、試験レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ MDF リクエスト添付資料

MDF リクエスト添付資料レコードタイプは、MDF リクエストレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 目標添付資料

〔目標添付資料〕レコードタイプは、〔目標〕レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ パートナープログラム添付資料

パートナープログラム添付資料レコードタイプは、パートナープログラムレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 保険証券添付資料

保険証券添付資料レコードタイプは、保険証券レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 特別価格リクエスト添付資料

特別価格リクエスト添付資料レコードタイプは、特別価格リクエストレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

これらのレコードタイプのいくつかは、業界に固有であるか、Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition の場合のみ存在し、Oracle CRM On Demand のエディションでは使用できないことがあります。

一部のレコードタイプでは、添付フィールドが Oracle CRM On Demand の標準ページレイアウトに表示されます。必要に応じて、リストされている全レコードタイプの詳細ページレイアウトに添付フィールドを表示できます。次の 3 つの添付フィールドがあります。

■ **添付資料。**レコードの編集ページ上では、このフィールドに最初にクリップアイコンが表示されます。ファイルがアップロードされた後は、レコードの詳細ページ上のこのフィールドに添付ファイルの名前とサイズが表示されます。〔レコード編集〕ページのこのフィールドにも、ペーパークリップアイコンおよびファイルの削除に使用できる [X] アイコンが表示されます。ユーザーがファイルをレコードに添付できるようにするには、このフィールドをページレイアウトに表示する必要があります。〔添付資料〕フィールドに表示されるファイル名とファイルサイズは計算された値であるため、このフィールドを検索フィールドとして使用することはできません。

■ **添付資料: ファイル名。**これは読み取り専用フィールドで、ユーザーがアップロードしたファイルの名前が自動的に表示されます。〔添付資料: ファイル名〕フィールドは検索フィールドとして使用できます。このフィールドの表示はオプションです。

■ **添付資料: サイズ (バイト) :** このフィールドには、添付資料のサイズが表示されます。このフィールドの表示はオプションです。

ページレイアウトのカスタマイズについては「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」および「[動的ページレイアウトの指定](#) (ページ 181)」を参照してください。

カスタムオブジェクトおよび添付フィールドの設定について

カスタムオブジェクトレコードタイプは、企業のビジネス要件を満たすように、次の方法で設定できます。

- カスタムオブジェクトレコードタイプを、別のレコードタイプの関連レコードタイプとして設定できます（カスタムオブジェクトレコードタイプは、Oracle CRM On Demand のほとんどの主要レコードタイプで関連レコードタイプとしてサポートされています）。

このように設定すると、親レコードとリンク先レコードタイプは 1 対多関係になります。この設定により、リンク先レコードタイプで添付フィールドを表示すると、ユーザーは複数の添付資料（1 つの子レコードに 1 つずつ）を親レコードにリンクできます。

たとえば、カスタムオブジェクト 04 の「詳細」ページに添付フィールドを表示し、カスタムオブジェクト 04 の名前を「*目標の添付資料*」に変更できます。次に、この「目標の添付資料」レコードタイプを「目標」レコードタイプの関連情報セクションとして使用可能にできます。

- カスタムオブジェクトレコードタイプを、他のレコードタイプと多対多の関係に設定できます。詳細については、「[カスタムオブジェクトの多対多の関係について](#)（ページ 231）」を参照してください。
- カスタムオブジェクトレコードタイプを、添付資料レコードタイプとして使用できるように設定し、独自のタブ、ホームページ、リストなどを持つトップレベルレコードタイプとして使用可能にできます。

この設定は、多数のユーザーが興味を示す資料へのアクセス権をユーザーに付与する場合に使用できます。この設定により、ユーザーは、カスタム添付資料レコードタイプのレコードにアップロードされた添付資料を検索することもできます。

他のレコードタイプと同様に、添付フィールドがサポートされているレコードタイプをユーザーが使用できるように、ユーザーのユーザー役割およびアクセスプロファイルのアクセスレベルが適切であることを確認する必要があります。ユーザー役割およびアクセスプロファイルの設定については、「[ユーザー管理とアクセス制御](#)（ページ 233）」を参照してください。

カスタムオブジェクトの多対多の関係について

デフォルトでは、カスタムオブジェクト 01、02、03 と他のレコードタイプの間の関係はすべて多対多です。ただし、他のすべてのカスタムオブジェクトレコードタイプ（たとえば、カスタムオブジェクト 04 など）の場合、カスタムオブジェクトレコードタイプと他のレコードタイプ（他のカスタムオブジェクトレコードタイプを含む）の間の関係は、デフォルトではすべて 1 対多になります。

他のカスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用することで、カスタムオブジェクトレコードタイプの多対多の関係を作成できます。

カスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用する利点

カスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用すると、カスタムオブジェクト 01 から 03 で提供される他のレコードタイプとの多対多の関係を使用する場合と比較して、次の利点があります。

- **柔軟性。**オブジェクト間の関係をより柔軟に制御できます。カスタムレコードタイプを共通テーブルとして使用すると、カスタムオブジェクトレコードタイプの共通レコードに直接アクセスできます。カスタムオブジェクト 01、02 および 03 では、共通テーブルおよび他のレコードタイプとの多対多の関係は表示されません。このため、ユーザーは共通レコードを表示または変更できません。カスタムオブジェクト 04 以降のレコードタイプでは、多対多の関係が必要なレコードタイプを決定できるため、さらに柔軟なものとなっています。カスタムオブジェクト 01、02、03 と他のレコードタイプとの多対多の関係は事前設定されており、変更できません。たとえば、カスタムオブジェクト 01 を使用しており、カスタムオブジェクト 01 と取引先との間に 1 対多の関係のみが必要である場合、これは多対多の関係として格納されません。カスタムオブジェクト 01 では、非表示の共通テーブルに関係を格納するために追加レコードを使用しており（不要

な場合でも）、この追加レコードは企業のレコード割当についてカウントされます。ただし、カスタムオブジェクト 04 を使用しており、カスタムオブジェクト 04 と取引先との間に 1 対多の関係のみが必要である場合、提供されているデフォルトの 1 対多の関係を使用できます。それ以外の場合で、カスタムオブジェクト 04 を使用していない場合、別のカスタムオブジェクトレコードタイプを使用するよう選択し、カスタムオブジェクト 04 と取引先との間に多対多の関係を作成できます。

- **より効率的な統合。** カスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用すると、統合イベントはより効率的になります。Oracle CRM On Demand または Web サービスでインポートツールを使用することで、カスタムオブジェクトレコードタイプに直接多対多の関係をロードできます。ところが、インポートツールでは、カスタムオブジェクト 01、02 および 03 とその他のレコードタイプとの関係のインポートはサポートされていません。また、統合イベントで追跡できるのは、カスタムオブジェクト 01、02 および 03 の親フィールドのみです。統合イベントでは、カスタムオブジェクト 01、02 および 03 とそれらの関連レコードタイプについて発生したイベント（その他のレコードタイプとの関連付けまたは関連付け解除など）は追跡できません。ところが、カスタムオブジェクト 04 以降のレコードタイプを共通テーブルとして使用している場合、共通テーブルは統合イベントがサポートされているカスタムオブジェクトレコードタイプであるため、共通テーブルで発生するイベントを追跡および検出できます。
- **追加情報の格納。** テキストフィールドまたはより複雑なビジネスモデルで他のレコードタイプとの関係が必要な場合など、2 つのレコードタイプ間の多対多の関係に関する追加情報を格納できます。カスタムオブジェクト 04 以降のレコードタイプでは、Oracle CRM On Demand で使用可能なすべてのカスタムフィールドがサポートされており、共通テーブルでカスタムフィールドを作成できます。また、カスタムオブジェクト 04 以降のレコードタイプでは、他のレコードタイプとの関係がサポートされており、共通テーブルとの関係を作成できます。カスタムオブジェクト 01、02 および 03 の共通テーブルおよびその他のレコードタイプでは、カスタムフィールドまたはその他のレコードタイプとの関係はサポートされていません。

多対多の関係の作成の例

企業が会議場を所有および管理しており、他の企業、政府クライアントなどに会議施設を提供しているとします。あるカスタムオブジェクトレコードタイプを使用してイベントに関する情報を追跡し、別のカスタムオブジェクトレコードタイプを使用して各イベントに使用される部屋に関する情報を追跡します。各部屋は、多くのイベントに使用され、各イベントは多数の部屋を使用する可能性があるため、レコードタイプ間に多対多の関係が必要です。

この多対多の関係を作成するには、3 つ目のカスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用して、各部屋の予約、またはセッションに関する情報を追跡します。その後、部屋とセッションの間に 1 対多の関係を作成し、イベントとセッションの間の 1 対多の関係を作成できます。この結果、部屋とイベントの間に多対多の関係ができます。

次の手順では、この例のレコードタイプと関係を設定する方法について説明します。新しいレコードタイプにカスタムオブジェクト 04、05、および 06 が使用されます。

多対多の関係を設定するには

- 1 企業で使用するカスタムオブジェクトレコードタイプが設定されていない場合、カスタマーサポートに設定してもらいます。
- 2 カスタマーサポートがカスタムオブジェクトを設定したら、カスタムオブジェクト 04、05、および 06 レコードタイプの名前を、それぞれ「部屋」、「イベント」、および「セッション」に変更します。
レコードタイプの名前変更については、「[レコードタイプの名前変更](#) (ページ 212)」を参照してください。
- 3 新しいレコードタイプへのアクセスが必要なユーザーごとに、役割管理ウィザードのステップ 2「レコードタイプアクセス」で必要なアクセスレベルを設定します（必要なアクセスレベルは、ユーザーが自身の責任に基づいて決定します）。
ユーザーの役割の設定については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

- 4 新しいレコードタイプへのアクセスが必要なユーザーの役割ごとに、新しいレコードタイプのアクセスプロファイルを設定します。

少なくとも、次の内容を設定する必要があります。

- 新しい部屋レコードタイプで、新しいセッション関連情報セクションに「表示」アクセス権を付与します。
- 新しいイベントレコードタイプで、新しいセッション関連情報セクションに「表示」アクセス権を付与します。

アクセスプロファイルの設定の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。

- 5 新しいレコードタイプに新しいページレイアウトを作成します。

- 新しい部屋レコードタイプ詳細ページレイアウトで、新しいセッションレコードタイプを関連情報セクションとして含めます。
- 新しいイベントレコードタイプ詳細ページレイアウトで、新しいセッションレコードタイプを関連情報セクションとして含めます。

ページレイアウトの設定の詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

- 6 新しいレコードタイプへのアクセスが必要なユーザーの役割ごとに、役割管理ウィザードのステップ 6 で作成したページレイアウトを割り当てます。

ユーザーの役割の設定については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

注: 前の手順で説明した設定の変更に加えて、他のレコードタイプをカスタマイズしたのと同じ方法で新しいレコードタイプをカスタマイズできます。レコードタイプのカスタマイズについては、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ](#) (ページ 90)」を参照してください。

ユーザー管理とアクセス制御

ここでは、ユーザーの管理とアクセスの制御について説明します。

作業前の準備。 次の操作を実行します。

- 自分のユーザー役割に適切な権限が含まれていることを確認します。
 - 「管理ホームページ」上の「ユーザー管理とアクセス制御」リンクにアクセスするには、[ユーザーの管理]権限または[役割およびアクセスの管理]権限、あるいはそれら両方の権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。
 - ユーザーを設定するには、[ユーザーの管理]権限または「パートナー組織内のユーザーの管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 注:** 「パートナー組織内のユーザーの管理」権限を持つユーザーが設定できるのは、独自のパートナー組織内のユーザーのみです。
- 社内のアクセスプロファイルおよび役割を設定するには、[役割およびアクセスの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
 - グループを作成、編集または削除するには、[役割およびアクセスの管理]権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。ユーザーをグループに追加するかグループから削除するには、[役割およびアクセスの管理]権限および[ユーザーの管理]権限の両方を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

- ブックを設定するには、[ブックの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 社内のテリトリーを設定するには、[テリトリーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- ライセンス数を、有効にする必要があるユーザー数と比較します。有効なユーザーのみが Oracle CRM On Demand にアクセスできます。有効なユーザーの総数が企業のライセンス数を超えることはできません。ライセンスの状況の確認方法の詳細は、「[ライセンスの状況と有効なユーザーの確認](#) (ページ 42)」を参照してください。
- 役割とアクセスプロファイルの背景情報を確認しておきます。詳細は、次のトピックを参照してください。
 - [役割管理](#) (ページ 265)
 - [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
 - [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
 - [プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 286)
 - [関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 287)
 - [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)
- ブック、役割、およびチームのデータアクセス管理に使用するプロファイルを決定します。
- 各ユーザーに割り当てる役割と、各ユーザーの上司を指定します。複数の事業分野に対応するために、組織に役割を追加する必要がある場合は、必要な新しい役割を作成します。

社内のすべてのユーザーの累積設定から企業のレポート階層とセールス目標が定義されます。

社内のユーザーについて、個別にユーザーの役割を指定する必要があります。ユーザーの役割と関連付けられたアクセスプロファイルによって、タブ、機能、およびレコードに対する従業員のアクセス権が決まります。また、アプリケーションを使用するときに従業員に表示されるページレイアウトも決まります。

ユーザー、アクセスプロファイル、役割、カスタムブック、およびグループを管理する手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [ユーザーの設定](#) (ページ 236)
- [ユーザーのセールス目標の設定](#) (ページ 250)
- [ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定](#) (ページ 251)
- [ユーザーのユーザーID の変更](#) (ページ 251)
- [ユーザーのパスワードのリセット](#) (ページ 252)
- [ユーザーの DMS PIN のリセット](#) (ページ 253)
- [ユーザーのプライマリ部署の変更](#) (ページ 254)
- [ユーザーのサインイン活動の確認](#) (ページ 254)
- [ユーザーのセキュリティ関連活動の確認](#) (ページ 255)
- [委任ユーザーの管理 \(管理者\)](#) (ページ 256)
- [ユーザーの在庫期間の作成](#) (ページ 259)
- [ユーザーの無効化](#) (ページ 259)
- [パートナー管理者の設定プロセス \(管理者\)](#) (ページ 260)
- [ユーザーの設定 \(パートナー\)](#) (ページ 262)

- [ユーザーのユーザーIDの変更（パートナー）](#)（ページ 263）
- [ユーザーのパスワードのリセット（パートナー）](#)（ページ 264）
- [ユーザーの無効化（パートナー）](#)（ページ 265）
- [役割の追加](#)（ページ 272）
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#)（ページ 293）
- [ブックの設定のプロセス](#)（ページ 322）
- [管理者の役割に設定されたブックの確認](#)（ページ 323）
- [ブックタイプとブックユーザー役割の作成](#)（ページ 327）
- [レコード所有権モードの設定](#)（ページ 328）
- [ブックとブック階層の作成](#)（ページ 328）
- [ユーザーとブックの関連付け](#)（ページ 330）
- [ブックのアクセスプロファイルの作成](#)（ページ 333）
- [企業のブックの有効化](#)（ページ 334）
- [ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#)（ページ 335）
- [\[レコード詳細\] ページのレイアウトへのブックの追加](#)（ページ 337）
- [ブックへのレコードの割り当て](#)（ページ 338）
- [パーソナライズページレイアウトのリセット](#)（ページ 297）
- [パーソナライズアクションバーレイアウトのリセット](#)（ページ 298）
- [パーソナライズホームページレイアウトのリセット](#)（ページ 298）
- [グループの設定](#)（ページ 345）
- [テリトリーの設定](#)（ページ 348）

ヒント： 各役割についてテストユーザーを設定することをお勧めします。他のユーザーを有効にする前に、このテストユーザーを有効にして設定が正しく設定されていることを確認します。アクセス権、役割のレイアウト、レポートおよびデータ共有の階層、ワークフロー、およびその他のビジネスプロセスのカスタマイズを含むすべてのユーザー設定が完了するまで、他のユーザーを有効にしないでください。テストが終了したら、必ずテストユーザーを無効にしてください。

ユーザー管理

ユーザーは Oracle CRM On Demand のエンティティであり、Oracle CRM On Demand とやり取りできる場合とできない場合があります。たとえば、会社の従業員、パートナーまたは外部アプリケーションがユーザーになります。ユーザーの状態には有効と無効があります。有効なユーザーは Oracle CRM On Demand とやり取りでき、無効なユーザーはやり取りできません。有効なユーザーが Oracle CRM On Demand とやり取りするには、その企業で設定されたサインインおよびパスワードポリシーに基づいて、認証される必要があります。サインインおよびパスワードポリシーの詳細は、「[サインインおよびパスワードポリシーについて](#)（ページ 42）」を参照してください。

各ユーザーには 1 つの役割が割り当てられます。また、同一の役割を複数のユーザーに割り当てることができます。Oracle CRM On Demand での役割は、セールスエグゼクティブやサービス管理者の職務など、ユーザーが組織で実行する職務に似

ています。組織では、職務ごとに固有の権限や許可が与えられます。同様に Oracle CRM On Demand においても、役割によって次の項目が定義されます。

- ユーザーに使用できる権限がある Oracle CRM On Demand の機能
- 保護された情報を扱うためにユーザーに与えられる一連の権限
- 情報を表示するユーザーインターフェイス設定

役割の詳細は、「[役割管理](#) (ページ 265)」を参照してください。ユーザーを管理するには、次のタスクを実行します。

- [ユーザーの設定](#) (ページ 236)
- [ユーザーのセールス目標の設定](#) (ページ 250)
- [ユーザーのユーザーIDの変更](#) (ページ 251)
- [ユーザーのパスワードのリセット](#) (ページ 252)
- [ユーザーのDMS PINのリセット](#) (ページ 253)
- [ユーザーのプライマリ部署の変更](#) (ページ 254)
- [ユーザーのサインイン活動の確認](#) (ページ 254)
- [ユーザーのセキュリティ関連活動の確認](#) (ページ 255)
- [委任ユーザーの管理 \(管理者\)](#) (ページ 256)
- [ユーザーの在庫期間の作成](#) (ページ 259)
- [ユーザーの無効化](#) (ページ 259)

関連トピック

ユーザー管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーページレイアウトについて](#) (ページ 249)
- [ユーザーの委任について](#) (ページ 255)
- [ユーザーフィールド](#) (ページ 238)
- レコードの監査証跡の表示
- [監査証跡のカスタマイズ](#) (ページ 176)

ユーザーの設定

ユーザーを設定する場合は、次のフィールドについて特別な注意が必要です。これらのフィールドによって、ユーザーがアクセス、表示、および実行できる内容が決まります。

- **【状態】フィールド。**初めてユーザーを設定するときに、ユーザーがすぐに Oracle CRM On Demand にアクセスできるように設定できます。そのためには、ユーザーレコードの適切なオプションを選択して、ユーザーの状態を「有効」に設定し、ユーザーレコードの保存時に、Oracle CRM On Demand に対して必要なサインイン情報をユーザーに送信するように要求します。

ユーザーが Oracle CRM On Demand にすぐにアクセスできないようにする場合は、ユーザーレコードを設定し、そのユーザーの状態を「無効」に設定します。ユーザーが Oracle CRM On Demand にアクセスできるようにする

には、そのユーザーの状態を「有効」に変更し、パスワードのリセット機能を使用して、必要なサインイン情報をユーザーに電子メールで送信します。

- **「上司」または「上司（エイリアス）」フィールド。** レポート構造によって、マネージャがアクセスできるレコードが決まります。また、売上予想の計算にデータを含めるユーザーと、マネージャおよびエグゼクティブのレポートも決まります。ユーザーを設定するページには、「上司」フィールドまたは「上司（エイリアス）」フィールドのいずれかを挿入できますが、このフィールドの両方は指定しないでください。「上司」および「上司（エイリアス）」フィールドの詳細は、「[ユーザーレコードの「上司」および「上司（エイリアス）」フィールドについて](#)（ページ 250）」を参照してください。

ヒント： レポート階層のトップレベルのユーザーを最初に入力してください。

- **「役割」フィールド。** ユーザーの役割によって、ユーザーがアクセスできるタブ、機能、レコードおよびページレイアウトが決まります。

注：ユーザーレコードは、インポートアシスタントを使用してインポートできます。このオプションの詳細については、「[インポートツールとエクスポートツール](#)（ページ 495）」を参照してください。

新規ユーザー用のサインイン情報について

Oracle CRM On Demand にサインインする新規ユーザーには、Oracle CRM On Demand の一時 URL と仮パスワードが必要です。ユーザーアカウントの作成時に、次のように Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報をユーザーに送信するように要求できます。この要求は、ユーザーアカウントの作成後に実行することもできます。

- ユーザーアカウントの設定時にサインイン情報を送信する場合は、初めてユーザーレコードを保存する前に、そのユーザーレコードの電子メールチェックボックスをオンにします。

ユーザーレコードの作成に「簡易追加」ボタンを使用したか「ユーザーを追加」ボタンを使用したかによって、電子メールチェックボックスの名前が次のように変わります。

- 「簡易追加」ページの「電子メール」チェックボックス
- 「ユーザー編集」ページの「[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信」チェックボックス

サインイン情報をユーザーにすぐに送信する場合は、初めてレコードを保存する前に、チェックボックスをオンにする必要があることに注意してください。サインイン情報が 2 回に分けて電子メールでユーザーに送信されます。

- 1 通目の電子メールには、一時 URL が記載されています。
- 2 通目の電子メールには、仮パスワード、およびユーザーのサインイン ID の詳細が記載されています。
- 後でサインイン情報をユーザーに送信する場合は、ユーザーレコードの作成時に電子メールチェックボックスをオフにします。

後でサインイン情報をユーザーに送信するときは、ユーザーレコードの「パスワードをリセット」ボタンをクリックして、Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報を送信するように要求できます。「パスワードをリセット」ボタンをクリックすると、サインイン情報は 2 通の電子メールでユーザーに送信されます。

- 1 通目の電子メールには、一時 URL が記載されています。
 - 2 通目の電子メールには、仮パスワードが記載されています。
- 2 通目の電子メールには、ユーザーのサインイン ID の詳細は記載されていません。

ユーザーの削除について

ユーザーは削除できません。従業員が退職した場合は、そのユーザーの状態を「無効化」に変更します。

作業前の準備。 社内のユーザーを設定するには、[ユーザーの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 新規ユーザーを追加するには、[新規ユーザー] をクリックします。
 - 複数のユーザーをすばやく追加するには、[簡易追加] をクリックします。これにより、各ユーザーについて必要な限定情報を入力するための [簡易追加] ページが表示されます。たとえば、レポート階層は指定できません。

注: [簡易追加] ページのフィールドに加え、他の必須ユーザーフィールドを定義済みの場合、[簡易追加] は使用できません。

[簡易追加] ウィンドウに情報を入力したら、[保存] をクリックします。これによって [ユーザーリスト] ページが表示されます。

 - ユーザーの情報を編集するには、ユーザーの名前（姓）をクリックし、[ユーザー詳細] ページで [編集] ボタンをクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページで、必要な情報を入力します。詳細については、「[ユーザーフィールド](#) (ページ 238)」を参照してください。
- 6 レコードを保存します。

ヒント: フィルター済みリストを作成することにより、表示するユーザーレコードを制限できます。作成手順については、「[リストの使用](#)」を参照してください。

ユーザーのフィルター済みリストを開くには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、ドロップダウンリストからオプションを選択します。

ユーザーフィールド

ユーザーを設定するときは、次のフィールドに特に注意してください。

- 状態

- [上司] または [上司 (エイリアス)] (どちらのフィールドがユーザーのページレイアウトに表示されるかによって決まる)
- 役割

これらのフィールドのエントリにより、ユーザーがアクセス、表示、および実行可能なものが決まります。

この表では、ユーザーのフィールド情報のいくつかについて説明します。この表に示されているフィールドをすべて表示するには、[ユーザーの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。いくつかのフィールドは読み取り専用です。さらに、表示されるフィールドは、[ユーザーリスト] ページから [ユーザー詳細] ページに移動したか、レコード内のユーザー名をドリルダウンして [ユーザー詳細] ページを表示したかによって異なります。これは、これらの詳細ページでは異なるページレイアウトが使用されているためです。ユーザーページレイアウトについては、「[ユーザーページレイアウトについて](#) (ページ 249)」を参照してください。

フィールド	説明
[主要ユーザー情報] セクション	
状態	状態は、ユーザーが有効か無効かを示します。ユーザーのパスワードを設定し、ユーザーを有効にする手順については、「ユーザーの設定 (ページ 236)」および「すべてのパスワードのリセット (ページ 50)」を参照してください。 注:Oracle CRM On Demand では、ユーザーを削除できません。従業員が退職した場合は、そのユーザーの[状態]を[無効化]に変更します。
上司	ユーザーのマネージャ。各ユーザーはレポート作成と売上予想の目的でマネージャに報告する必要があります。 注:企業で設定されているユーザーのページレイアウトによっては、[上司] フィールドのかわりに [上司 (エイリアス)] フィールドが表示されることがあります。[上司 (エイリアス)] フィールドには、ユーザーのマネージャの簡単な識別子が表示されます。
パートナー組織	ユーザーが所属するパートナー組織の名前。このフィールドに入力するのは、ユーザーがパートナー組織のメンバーの場合のみです。 注:パートナー組織のメンバーであり、役割に [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれているユーザーは、パートナー組織の他のメンバーを Oracle CRM On Demand のユーザーとして追加できます。ユーザー役割を使用して、パートナー組織に所属するユーザーを設定できる場合、このフィールドは読み取り専用です。
役割	ユーザーに割り当てられる役割。役割の詳細は、「 役割管理 (ページ 265)」を参照してください。
プライマリグループ	このユーザーが追加されたグループ。読み取り専用です。
デフォルトブック	(オプション) [レポートホームページ] またはダッシュボードホームページ以外の任意のエリアで作業している

フィールド	説明
	ときに、ブックセクタにデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブック。ユーザーレコードのこの設定により、レコードへのユーザーのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、ブックセクタで別のブックを選択できます。 注意: レコードタイプごとにユーザーのデフォルトブックを指定できます。詳細は、「ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定 (ページ 251)」を参照してください。レコードタイプに対してユーザーのデフォルトブックが指定されている場合、ブックセクタでは、レコードタイプのデフォルトブックがユーザープロファイルの「デフォルトブック」フィールドに指定されたデフォルトブックより優先されます。
分析のデフォルトブック	(オプション) 「レポートホームページ」および「ダッシュボードホームページ」のブックセクタにデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブック。ユーザーレコードのこの設定により、データへのユーザーのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、ブックセクタで別のブックを選択できます。
デフォルトブックの保持	このチェックボックスは、「レポートホームページ」および「ダッシュボードホームページ」を除く Oracle CRM On Demand のすべてのエリアのブックセクタに適用されます。デフォルトブックの保持チェックボックスは次のように機能します。 - このチェックボックスが選択されている場合、ブックセクタが使用可能なページまたはウィンドウをユーザーがオープンするたびに、ユーザープロファイルの「デフォルトブック」フィールドで選択されているブックがブックセクタに表示されます。ユーザーは、任意のページまたはウィンドウのブックセクタで別のブックを選択できます。ただし、次回ユーザーがそのページまたはウィンドウを再訪問したり、ブックセクタが使用可能な他のページまたはウィンドウをオープンしたとき、ブックセクタにデフォルトブックが表示されます。ブックセクタにおけるユーザーの以前の選択内容は失われます。 - このチェックボックスが選択されていない場合、ユーザーがブックセクタで別のブックを選択するまで、ユーザープロファイルの「デフォルトブック」フィールドで選択されているブックがブックセクタに表示されます。ユーザーがブックセクタで別のブックを選択した後も、ユーザーがサインアウトして再度サインインするまでは、引き続きブックセクタにそのレコードタイプに対する新規ブックが表示されます。

フィールド	説明
[ユーザー詳細情報] セクション	
エイリアス	ユーザーの簡単な識別子。たとえば、ユーザーの希望の名前またはニックネームなどです。 [簡易追加] ページを使用してユーザーを追加すると、電子メールアドレスのアットマーク (@) の前のすべての文字がエイリアスになります。
ユーザーID	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするための一意のシステム識別子。 ユーザーID の最大文字数は 50 文字です。ユーザーID には、空白文字または次の特殊文字を含めることができません。 ■ アスタリスク (*) ■ バックスラッシュ (\) ■ 番号記号 (#) ■ 疑問符 (?) ■ スラッシュ (/) ■ チルダ (~) 企業の管理者が企業プロファイルの [ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定で選択するオプションに応じて、ユーザーのプロファイルの [ユーザー ID] フィールドの値が変更されたときに、電子メールがユーザーに送信される場合があります。ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信設定の詳細は、「企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定 (ページ 19)」を参照してください。
電子メール	完全な形式のユーザーの電子メールアドレス (たとえば isample@companysample.com)。ユーザーには、Oracle CRM On Demand へのアクセスを許可するための有効な電子メールアドレスを割り当てる必要があります。 電子メールアドレスの最大文字数は 100 文字です。 企業の管理者が企業プロファイルの [ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定で選択するオプションに応じて、ユーザーのプロファイルの [電子メール] フィールドの値が変更されたときに、電子メールがユーザーに送信される場合があります。[ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定の詳細は、「企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定 (ページ 19)」を参照してください。

フィールド	説明
セカンダリ電子メール	このフィールドを使用して、ユーザーの追加の電子メールアドレスを保存します。Oracle CRM On Demand では、このアドレスには、通知または警告の電子メールは送信されません。
ユーザーのサインイン ID	読み取り専用フィールドです。この値は、会社のサインイン ID とユーザーID の組合せであり、ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするための一意のシステム識別子です。
顧客の希望	
電話連絡禁止	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand マーケティングから電話連絡を受けません。
郵送禁止	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーには Oracle CRM On Demand マーケティングからレターやパンフレットが郵送されません。
電子メール送信禁止	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand マーケティングから電子メールを受信しません。
重要警告を常に送信する	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand からの重要な情報が含まれる電子メールを受信します。これらのメッセージには、次の内容が含まれています。 ■ Oracle CRM On Demand と関連製品の製品アップデートおよびサービスの変更に関する重要な情報 ■ 新しいメジャーリリースへのアップグレードに関する指示およびスケジュール ■ 通常のサポートプロセスを補足する優先度の高い通信や緊急の通信（ハードウェア障害の場合など） ユーザーのこのチェックボックスを更新できるのは企業の管理者のみです。プライマリ担当者の場合は、このチェックボックスが自動的にオンになります。 注:このチェックボックスは、今後のスケジュール済みメンテナンスのリマインダなど、Oracle CRM On Demand Customer Care で発行されるシステム警告を受信するユーザーの決定には使用されません。
【ユーザー地域情報】 セクション	

フィールド	説明
言語、ロケール、通貨、タイムゾーン	これらのフィールドで値を何も選択しない場合、設定済みの企業のデフォルト値が使用されます。ユーザーの値は変更できます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、これらの設定を上書きすることもできます。
ユーザーセキュリティ情報	
レポートサブジェクトエリア	この設定では、Oracle CRM On Demand Answersのリアルタイムサブジェクトエリアのレコードの表示を定義します。設定可能な値は、[マネージャ表示]と[チーム表示]です。このフィールドに値を設定しない場合は、設定済みの企業のデフォルト値が使用されます。ユーザーの値は変更できます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、この設定を上書きすることもできます。
履歴サブジェクトエリア	この設定では、Oracle CRM On Demand Answersの履歴サブジェクトエリアのレコードの表示を定義します。設定可能な値は、[マネージャ表示]、[チーム表示]および[フル表示]です。このフィールドに値を設定しない場合は、企業のデフォルト設定が使用されます。ユーザーの値は変更できます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、この設定を上書きすることもできます。設定可能な値の説明を次に示します。 ■ マネージャ表示。ユーザーは、自分が所有するデータと部下が所有するデータを表示できます。 ■ チーム表示。ユーザーは、自分が所有するデータとチーム内で自分が共有しているデータを表示できます。 ■ フル表示。ユーザーは、自分が所有するデータと自分が共有しているデータおよび部下が所有するデータと部下が共有しているデータを表示できます。
役割ベースですべてのレコードを読み取れます	この設定では、Oracle CRM On Demand レポートで [すべてのレコードを読み取り可能] 設定を使用するかどうかを指定します。[すべてのレコードを読み取り可能] 設定では、特定のユーザー役割が Oracle CRM On Demand で特定のオブジェクトのすべてのレコード（取引先、商談、担当者など）を表示できるかどうかを指定します。この設定は、役割管理ウィザードのレコードタイプアクセスページで定義されます。[役割ベースですべてのレコードを読み取れます] 設定がユーザー役割のすべてのオブジェクトで有効な場合、そのユーザーは Oracle CRM On Demand レポートの特定のオブジェクトのすべてのレコードを表示することもできます。
外部固有 ID	このフィールドを使用して、外部システムのユーザーの識別子を格納できます。

フィールド	説明
統合 ID	このフィールドに値を入力することも、フィールドのデフォルト値を受け入れることもできます。ユーザーレコードの作成方法に従って、[統合 ID] フィールドには、次のようにデフォルト値が設定されます。 ■ ユーザーインターフェイスを介して作成されたユーザーレコードでは、次のように設定されます。 ■ ページレイアウトに [統合 ID] フィールドが表示されていて、そのフィールドに値が入力されていない場合、フィールドには、レコードが最初に保存される前にユーザーレコードに割り当てられた一時的な行 ID が設定されます。 ■ ユーザーのページレイアウトに [統合 ID] フィールドが表示されていない場合、フィールドには、ユーザーレコードの [行 ID] フィールドの値が設定されます。 ■ ユーザーインターフェイス以外のチャネルを介して作成されたユーザーレコードでは、[統合 ID] フィールドに値が入力されていない場合、フィールドには、ユーザーレコードの [行 ID] フィールドの値が設定されます。 [統合 ID] フィールドの値は変更できます。
シングルサインオンの外部 ID	企業でシングルサインオンを使用するように設定されている場合、その企業の管理者は、Oracle CRM On Demand のユーザーを外部システムにマッピングする際に、[ユーザーのサインイン ID] フィールドを使用するかわりに、このフィールドを使用できます。 ユーザーが個人のプロフィールを表示する場合、このフィールドは読み取り専用です。 企業の管理者が企業プロフィールの [ユーザープロフィール更新時に電子メールを送信] 設定で選択するオプションに応じて、ユーザーのプロファイルの [シングルサインオンの外部 ID] フィールドの値が変更されたときに、電子メールがユーザーに送信される場合があります。[ユーザープロフィール更新時に電子メールを送信] 設定の詳細は、「企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定 (ページ 19)」を参照してください。
認証タイプ	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインする方法を決定します。 企業レベルでの認証タイプがユーザーID/パスワードまたはシングルサインオン以外のタイプである場合、ユーザーレコードのこのフィールドは読み取り専用です。企業レベルでの認証タイプがユーザーID/パスワードまたはシングルサインオンである場合、その企業の管理者は、次のように、値を選択することも、ユーザーレコードのこ

フィールド	説明
	のフィールドを空にまますることもできます。 ■ ユーザー ID /パスワードのみ。この値を選択した場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand ユーザーサインイン ID およびパスワードを使用してサインインする必要があります。 ■ シングルサインオンのみ。この値を選択した場合、ユーザーは企業のシングルサインオンメカニズムを使用してサインインする必要があります。この値を選択すると、ユーザーは Oracle CRM On Demand ユーザーサインイン ID およびパスワードを使用してサインインできません。 ■ ユーザー ID /PWD またはシングルサインオン。この値を選択した場合、ユーザーは、Oracle CRM On Demand のユーザーサインイン ID およびパスワード、または企業のシングルサインオン方式のいずれかを使用してサインインできます。 ■ ブランク。ユーザープロファイルのこのフィールドがブランクの場合、ユーザーには、企業レベルの認証タイプ設定が使用されます。 ユーザーが個人のプロファイルを表示する場合、このフィールドは読み取り専用です。 注意: [ユーザー ID/PWD またはシングルサインオン] という値が選択されている場合は、Oracle CRM On Demand のパスワードに対する企業のポリシーが引き続き適用されます。そのため、Oracle CRM On Demand のユーザーのパスワードが期限切れになると、ユーザーがシングルサインオンを使用してサインインする場合でも、ユーザーのパスワード変更を求めるプロンプトが Oracle CRM On Demand に表示されます。パスワードの最小長、パスワードに必要な複雑さなど、Oracle CRM On Demand のパスワードに対する他のすべてのポリシーも適用されます。Oracle CRM On Demand では、シングルサインオンに使用されるパスワードは管理されません。 企業レベルでの認証タイプの設定の詳細は、「企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定 (ページ 19)」を参照してください。
【通信設定】 セクション	
[クリックでダイヤル] ポップアップを表示	このチェックボックスは、Oracle Contact On Demand で設定されるユーザー用です。Oracle Contact On Demand では、[リスト] ページと [詳細] ページでクリックできるリンクとして電話番号が表示されます。ユーザーの [[クリックでダイヤル] ポップアップを表示] チェックボックスをオンにして、ユーザーが電話番号リ

フィールド	説明
	リンクをクリックすると、Oracle Contact On Demand テレフォニーシステムが通話を発信する前に [クリックでダイヤル] ウィンドウにメッセージが表示されます。
次のコミュニケーションホームページ受信箱を表示します	メニューから値（先月、最終日など）を選択して、ユーザーの活動を [コミュニケーションホームページ] 受信箱に表示する期間を決定します。期間が短いほど、表示されるコミュニケーション活動の数は少なくなります。メニューから [すべて] を選択するか、メニューを空白のままにすると、コミュニケーションページにはすべてのコミュニケーションが表示されます。この設定に対する変更を有効にするために、ユーザーはいったんサインアウトして、再度サインインする必要があります。
最近活動を完了したコミュニケーションホームページを表示します	メニューから値（先月、最終日など）を選択して、ユーザーの最近完了した活動を [コミュニケーションホームページ] に表示する期間を決定します。期間が短いほど、表示されるコミュニケーション活動の数は少なくなります。メニューから [すべて] を選択するか、メニューを空白のままにすると、コミュニケーションページにはすべての活動が表示されます。この設定に対する変更を有効にするために、ユーザーはいったんサインアウトして、再度サインインする必要があります。
【追加情報】 セクション	
デフォルトのテーマ	ユーザーがデスクトップまたはラップトップコンピュータを使用して Oracle CRM On Demand にサインインするときに使用されるテーマ。ユーザーは、各自の個人設定を編集して、この設定を上書きできます。ユーザーのレコードでデフォルトテーマが選択されていない場合は、ユーザーの役割に対して選択されているデフォルトテーマが使用されます。ユーザーのレコードおよびユーザーの役割の両方でデフォルトテーマが選択されていない場合は、企業に対して指定されているデフォルトテーマが使用されます。 注: テーマは Oracle CRM On Demand の動作には影響を与えません。ユーザー役割に適切な権限が含まれている場合は、企業の要件に合った新しいテーマを作成できません。テーマの詳細は、「新しいテーマの作成（参照「新規テーマの作成」 ページ 219）」を参照してください。
タブレットのテーマ	（オプション）ユーザーがタブレットコンピュータまたは他のタッチスクリーンデバイスを使用して Oracle CRM On Demand にサインインするときに使用されるテーマ（Oracle CRM On Demand でタブレットコンピュータまたはタッチスクリーンデバイスが検出された場合）。ユーザーは、各自の個人設定を編集して、この設定を上書きできます。ユーザーのレコードでタブレットテーマが選択されていない場合は、ユーザーの役割に対して選

フィールド	説明
	択されているタブレットテーマが使用されます。ユーザーのレコードおよびユーザーの役割の両方でタブレットテーマが選択されていない場合は、企業に対して指定されているタブレットテーマが使用されます。どのレベルでもタブレットテーマが指定されていない場合は、デフォルトテーマが使用されます。
デフォルトの検索レコードタイプ	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするとアクションバーの検索ピックリストに表示されるレコードタイプ。
サインイン時によこそページを表示	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするときによこそページが表示されないようにするには、このチェックボックスをオフにします。 注：サインイン時に、よこそページで [サインイン時によこそページを表示] チェックボックスをオフにすることもできます。
資金承認限度	これは、Oracle CRM On Demand High Tech Edition および Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition のユーザー用のフィールドです。 [状態] が [承認済みクレーム] に設定されている場合、資金リクエストごとに、このユーザーが承認できる資金の限度額。ユーザーがこの限度額を超えようとすると、Oracle CRM On Demand によりエラーメッセージが表示され、その資金リクエストは承認されません。
メッセージセンターアニメーションの有効化	メッセージセンターとレコードの詳細ページのメモをアニメーション表示するかどうかを決定します。
レコードプレビューモード	ユーザーのレコードプレビューモード。ここの設定に応じて、ユーザーがレコードのリンクの上にポインタを置いたとき、またはユーザーがレコードのリンクの上にポインタを置くと表示されるプレビューアイコンをクリックしたときに、プレビューウィンドウが開きます。プレビューウィンドウには、レコードの [詳細] ページの最初のセクションが表示されます。このフィールドで [オフ] を選択すると、ユーザーのレコードプレビュー機能が無効になります。 レコードプレビュー設定は、企業レベルとユーザーレベルで指定できます。ユーザーレベルの設定は、企業のデフォルト設定より優先されます。このフィールドが空白の場合、企業のデフォルトレコードプレビュー設定が使用されます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときにこの設定を変更できます。
ヘッドアップディスプレイ	このチェックボックスがオンの場合は、詳細ページの関連情報セクションのリンクをブラウザウィンドウの最も下に表示できます。このリンクを使用すると、ページをスクロールダウンせずに関連情報セクションに移動でき

フィールド	説明
	ます。 ヘッドアップディスプレイ設定は、企業レベルとユーザーレベルで指定できます。ユーザーレベルの設定は、企業のデフォルト設定より優先されます。このフィールドが空白の場合、企業のデフォルトヘッドアップディスプレイ設定が使用されます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときにこの設定を変更できます。
関連情報形式	レコードの「詳細」ページの関連情報セクションがリストで表示されるか、表として表示されるかが決まります。ユーザーのレコードの「関連情報形式」オプションが空白の場合は、ユーザーの役割のデフォルト設定が使用されます。ユーザーの役割の「関連情報形式」オプションが空白の場合は、企業のデフォルト設定が使用されます。
サブジェクトエリアのレポート作成に対するユーザータイムゾーンサポート	このチェックボックスがユーザーのプロファイルにあり、オンの場合、リアルタイムのレポートに表示される日時はユーザーのタイムゾーンに従って表示されます。ユーザーのプロファイルにあるこのチェックボックスをオフにすると、リアルタイムのレポートに表示される日時は企業のタイムゾーンに従って表示されます。 この設定をユーザーが使用できるようにするには、企業の管理者が、管理者の役割のユーザー管理ページレイアウトに、このフィールドを追加する必要があります。各自の個人プロファイルで、この設定をユーザーが有効または無効に変更できるようにするには、企業の管理者が、関連するユーザーの役割のユーザー所有者ページレイアウトに、このフィールドを追加する必要があります。
プライマリ部署	プライマリ部署フィールドは、デフォルトでは「ユーザー詳細」ページに表示されませんが、企業の管理者が「ユーザー管理」ページレイアウトに追加できます。企業が「部署」レコードタイプを使用して、ビジネスニーズに合わせてユーザーをグループに編成する場合は、各ユーザーを1つ以上の部署に関連付けることができます。ユーザーに関連付けられる最初の部署は、ユーザーのプライマリ部署として自動的に指定され、その部署の名前がユーザーのレコードのプライマリ部署フィールドに表示されます。企業の管理者は、ユーザーのレコードのプライマリ部署を変更できます。部署の詳細は、「部署の設定 (ページ 61)」を参照してください。 注: 「部署」というテキストフィールドも「ユーザー」レコードタイプで使用できます。「ユーザー」レコードタイプの「部署」テキストフィールドは、「部署」レコードタイプと関係ありません。

注: 適切な権限（通常は企業の管理者）を持つユーザーは、他のユーザーの委任者を指名できます。また、自分の委任者を指名することもできます。委任者の指名の詳細は、「[ユーザーの委任について](#) (ページ 255)」、「[委任ユーザーの追加](#)」、および「[委任ユーザーの管理 \(管理者\)](#) (ページ 256)」を参照してください。

ユーザーページレイアウトについて

ユーザーレコードには様々なタイプのページレイアウトを定義できます。ページレイアウトの各タイプは、Oracle CRM On Demand のユーザー詳細の異なるビューに対応します。次のタイプのユーザーページレイアウトは、ユーザーの[アプリケーションカスタマイズ] ページから使用できます。

- **ユーザーページレイアウト。**このタイプのページレイアウトは、レコードまたは[最近の表示] や [お気に入りリスト] からユーザー名をドリルダウンすると表示されるユーザー詳細ページに使用されます。これらのユーザー詳細ページは、企業内のすべてのユーザーが参照できます。このタイプのページレイアウトには関連情報セクションを使用できませんが、ユーザー役割で許可されている場合はユーザーがページの項目のレイアウトをパーソナライズできます。詳細については、「詳細ページレイアウトの変更」を参照してください。
- **ユーザー管理ページレイアウト。**このタイプのページレイアウトは、[ユーザー管理とアクセス制御] の下にある [ユーザーリスト] ページから表示されるユーザー詳細ページに使用されます。
- **ユーザー所有者ページレイアウト。**このタイプのページレイアウトは、[設定 (個人)] の [個人詳細] ページに使用されます。ユーザーは、ユーザー役割で許可されている場合は [個人詳細] ページの項目および関連情報セクションのレイアウトを制御できます。詳細については、「詳細ページレイアウトの変更」を参照してください。
- **パートナー管理ページレイアウト。**このタイプのページレイアウトは、パートナーユーザーが [パートナー自己管理] リンクからユーザーレコードにアクセスすると表示されるユーザー詳細ページに使用されます。[パートナー自己管理] リンクにアクセスするために、パートナーユーザーには [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が必要です。

この独立したユーザーページレイアウトタイプは、プライベートデータを含むユーザーフィールドがある場合に役立ちます。このような状況では、ユーザーがレコードからユーザー名をドリルダウンするときにプライベートフィールドを表示しないようにする必要があります。したがって、プライベートフィールドは、ユーザー所有者ページレイアウトタイプまたはユーザー管理ページレイアウトタイプのページレイアウトでは使用できるようにし、ユーザーページレイアウトタイプのページレイアウトでは使用できないようにします。

ページレイアウトは、特定の役割に割り当てられます。そのため、適切なページレイアウトを役割に割り当てることで、その役割を持つユーザーには表示権限のないプライベートフィールドが表示されないようになります。

次の例は、特定の役割のプライベートフィールドとして追跡するときに役立つフィールドのタイプです。

- テレセールス
 - 拒否されていない確認済み見込み客数
 - 連絡をとった見込み客数 (月ごと)
- フィールドセールス要員
 - 見込み客から顧客への変換費用
- マーケティング管理者
 - キャンペーンの効果 (費用の売上金額との比較)
- 地域セールスマネージャ
 - 四半期ごとの不成約顧客数
 - 地域競合会社に成約が流れた売上予定額

独立したユーザーページレイアウトタイプは、一部のユーザーに対してフィールドを読み取り専用にするときにも役立ちます。この場合、フィールドを編集できないようにするユーザーの役割に対して、ユーザー所有者ページレイアウトタイプのページレイアウトで、そのフィールドを読み取り専用フィールドで使用できるようにします。

注意：ユーザーページレイアウトへの[上司]フィールドおよび[上司 (エイリアス)]フィールドの追加には、特定の制約が適用されます。詳細は、「ユーザーレコードの[上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドについて (ページ 250)」を参照してください。

ページレイアウトの作成については「静的ページレイアウトのカスタマイズ (ページ 142)」を、役割の設定については「役割の追加 (ページ 272)」を参照してください。

ユーザーレコードの[上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドについて

ユーザーレコードのマネージャ情報は、レポート階層および売上予想で使用されます。ユーザーのマネージャを指定できるように、ユーザー管理またはパートナー管理レイアウトタイプの各ページレイアウトには、次のいずれかのフィールドを表示する必要があります。

- **上司。**このフィールドにはユーザーのマネージャの氏名が表示されます。
- **上司 (エイリアス)。**このフィールドにはユーザーのマネージャの簡単な識別子が表示されます。

ただし、ユーザーページレイアウトを作成する場合は、両方のフィールドを同じユーザーページレイアウトに追加することはできません。単一のページレイアウトで[上司]フィールドと[上司 (エイリアス)]フィールドの両方を使用可能にすると、そのページレイアウトが割り当てられている役割を持つユーザーは、ユーザーレコードのリストまたはユーザー詳細ページで、インライン編集機能を使用できません。

同様に、[上司]と[上司 (エイリアス)]フィールドの両方をユーザーレコードタイプの同じ検索レイアウトに追加しないでください。検索レイアウトでこの両方のフィールドを使用可能にすると、その検索レイアウトが割り当てられている役割を持つユーザーは、ユーザーレコードを検索できません（つまり、検索が失敗します）。

ユーザーのセールス目標の設定

セールス要員が Oracle CRM On Demand を使用してその売上予想を管理している場合は、目標を設定する必要があります。セールス要員は自分自身の目標を設定できます。管理者はセールス要員の目標を設定できます。

この項では、管理者がユーザーの目標を設定する手順について説明します。

ユーザーの目標を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御]セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御]リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御]ページで、[ユーザー管理]リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト]ページで、目標を設定するユーザーの[名前(姓)]リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細]ページで、[目標]セクションまでスクロールダウンし、次の該当する操作を行います。
 - [新規目標]ボタンをクリックします。
 - 編集する目標の[編集]リンクをクリックします。
- 6 [目標を編集]ページで、必要な情報をフィールドに入力します。

- 年間目標を会計年度に対して均等に分割するには、[合計目標]に金額を入力し、[分割]をクリックします。
- 月間目標を合計するには、各月の金額を入力し、[合計]をクリックします。

7 レコードを保存します。

ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定

レコードタイプごとにユーザーのデフォルトブックを指定できます。ユーザーには、デフォルトで、指定したブックがレコードタイプのブックセクタに表示されます。ただし、デフォルトブックを指定しても、レコードに対するユーザーのアクセスは制限されません。ユーザーは、ブックセクタで別のブックを選択できます。

レコードタイプに対するデフォルトブックとしてカスタムブックを選択しており、レコードタイプがブックモードで設定されている場合、ユーザーがそのレコードタイプのレコードを作成すると、レコードの[ブック]フィールドにはデフォルトブック名が自動的に入力されます。レコードタイプに対するデフォルトブックとしてユーザーブックまたは[全ブック]を選択している場合、ユーザーがそのレコードタイプのレコードを作成すると、レコードタイプがブックモードで設定されていても、レコードの[ブック]フィールドにはデフォルトブック名が自動的に入力されません。ブックモードおよび他のレコード所有権のモードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) (ページ 307)」を参照してください。

次の手順で、レコードタイプごとにユーザーのデフォルトブックを設定する方法を説明します。

レコードタイプごとにユーザーのデフォルトブックを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御]セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御]リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御]ページで、[ユーザー管理]をクリックします。
- 4 [ユーザーリスト]ページで、デフォルトブックを設定するユーザーの[名前 (姓)]リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細]ページで、[レコードタイプ別のデフォルトブック]セクションまでスクロールダウンし、次のいずれかを実行します。
 - a [新規]をクリックして、レコードタイプのデフォルトブックを追加します。
 - b 変更するデフォルトブックの[編集]リンクをクリックします。
- 6 [レコードタイプ別のデフォルトブックを追加する]ページで、レコードタイプとブックの設定を選択します。
- 7 変更を保存します。

ユーザーのユーザーIDの変更

ユーザーのユーザーIDは変更できます。

ユーザーIDの最大文字数は50文字です。ユーザーIDには、空白文字または次の特殊文字を含めることができません。

- アスタリスク (*)

- バックスラッシュ (\)
- 番号記号 (#)
- 疑問符 (?)
- スラッシュ (/)
- チルダ (~)

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。ユーザーに電子メールアドレスやユーザーIDの変更を許可するには、サインイン機能とパスワード管理機能を設定する必要があります。手順については、「[企業のパスワード管理の定義](#) (ページ 43)」を参照してください。

ユーザーのユーザーID を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、ユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 6 [ユーザー編集] ページで、[ユーザーID] フィールドを編集します。
- 7 レコードを保存します。

企業の管理者が企業プロファイルの [ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定で選択するオプションに応じて、ユーザーのプロファイルの [ユーザー ID] フィールドの値が変更されたときに、電子メールがユーザーに送信される場合があります。[ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定の詳細は、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。

ユーザーは、新しいユーザーID とユーザーの既存のパスワードを使用して Oracle CRM On Demand にサインインできます。

ユーザーのパスワードのリセット

Oracle CRM On Demand では、ユーザーはセキュリティに関する 2 つ以上の質問に答えを提供する必要があります。これらの質問と回答は、後でユーザーがパスワードを忘れたときに使用できます。ユーザーがセキュリティに関する自分の質問を忘れた場合、またはロックアウトされたがすぐにアクセスする必要がある場合は、自分のパスワードをリセットできます。

注： この手順の結果は、[ユーザー編集] ページで [[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信] チェックボックスをオンにした場合と同じです。仮パスワードが記載された電子メールを送信する前に、ユーザーの役割と関連情報を設定する必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理] 権限および [会社の管理 - すべてのパスワードのリセット] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、パスワードを変更するユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。

ユーザーのパスワードをリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、パスワードをリセットするユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、タイトルバーの [パスワードをリセット] ボタンをクリックします。

ユーザーの既存のパスワードが新しい仮パスワードと置き換えられます。新しい仮パスワードが電子メールでユーザーに送信されます。

注： このイベントは、[ユーザー詳細] ページの [サインイン履歴] セクションに記録されます。

ユーザーの DMS PIN のリセット

Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales へのユーザーのアクセスを管理するために、個人識別番号 (PIN) が使用されます。PIN をリセットすると、Oracle CRM On Demand のデータにアクセスする前に Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales のユーザーのアカウントが強制的に再認証されます。

Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales は独立した製品です。Oracle CRM On Demand ユーザーに、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales を使用するライセンスは自動的に付与されません。Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales がユーザーに提供された場合は、Oracle CRM On Demand によって、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales へのユーザーのアクセスが自動的に管理されます。たとえば、ユーザーのパスワードとアカウントの状態は、両方のシステムで多少の遅延はありますが同期化された状態になります。強制的に同期化するには、ユーザーの PIN を明示的にリセットする必要があります。たとえば、Oracle CRM On Demand でユーザーのアカウントを無効化した後すぐに強制的に同期化して、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales のユーザーのアカウントが同時に無効化されるようにします。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーの DMS PIN をリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、PIN をリセットするユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、タイトルバーの [DMS PIN のリセット] をクリックします。

ユーザーのプライマリ部署の変更

企業で「部署」レコードタイプを使用している場合は、ユーザーを部署に関連付けることができます。部署、およびユーザーと部署の関連付けの詳細は、「[部署の設定](#) (ページ 61)」および「[ユーザーと部署の関連付け](#) (ページ 64)」を参照してください。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、ユーザーの役割に[ユーザーの管理]権限および[役割およびアクセスの管理]権限の両方が含まれている必要があります。また、ユーザーレコードタイプに対して役割に割り当てられている [ユーザー管理] ページレイアウトには、プライマリ部署フィールドが表示されている必要があります。

ユーザーのプライマリ部署を変更するには

- 1 [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザーおよびグループの管理] セクションで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] で、プライマリ部署を変更するユーザーの姓をクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページのプライマリ部署フィールドで、[ルックアップ] アイコンをクリックして、ユーザーのプライマリ部署とする部署を選択します。

ユーザーのサインイン活動の確認

社内の各ユーザーのサインイン履歴を確認できます。

注: 90日より前のユーザーサインインレコードはOracle CRM On Demandから継続的に削除されます。 ユーザー採用基準の履歴トレンド分析を Oracle CRM On Demand の分析でサポートするために、ユーザー採用履歴データがデータウェアハウスに保存されていますが、Oracle CRM On Demand を新しいリリースにアップグレードする際にデータの完全な抽出、変換、ロード (ETL) を実行した場合、または 1 つの Oracle CRM On Demand 環境から別の Oracle CRM On Demand 環境に企業データを移行した場合は、データが保持されません。 [使用状況追跡分析] 分析サブジェクトエリアの詳細については、「[使用状況追跡分析分析サブジェクトエリア](#)」を参照してください。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーのサインイン活動を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、サインイン活動を表示するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 ユーザーのサインイン活動を確認するには、[サインイン履歴] セクションまでスクロールダウンします。

注: サインインレコードのタイプフィールドには、サインインが試みられたチャネルが表示されます。たとえば、ブラウザウィンドウを介してサインインが試みられた場合は、[タイプ] フィールドに [インタラクティブ] という値が表示されます。Web サービスを介してサインインが試みられた場合は、[タイプ] フィールドに [Web サービス] という値が表示されます。

ユーザーのセキュリティ関連活動の確認

セキュリティ関連活動の詳細は、ユーザーレコードの [監査] セクションで確認できます。

ユーザーレコードの [監査] および [監査証跡] セクションについて

監査情報は、次のようにユーザーレコードの 2 つの関連セクションに表示されます。

- **[監査] セクション。** [監査] セクションには、ユーザーのパスワードが最初に設定された時間やパスワードがリセットされた時間など、セキュリティに関連する活動の情報が表示されます。
- **[監査証跡] セクション。** ユーザーレコードの [監査証跡] セクションには、ユーザーレコードの特定のフィールドについて変更内容が表示されます。デフォルトでは複数のフィールドが監査されますが、企業の管理者は、追加の監査対象フィールドを指定できます。企業の管理者は、マスター監査証跡でユーザーの監査証跡情報を表示することもできます。レコードタイプの監査証跡をカスタマイズする方法については、「[監査証跡のカスタマイズ](#) (ページ 176)」を参照してください。個々のレコードの監査証跡を表示する方法は、「[レコードの監査証跡の表示](#)」を参照してください。マスター監査証跡での監査証跡情報を表示する方法は、「[マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#) (ページ 70)」を参照してください。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーのセキュリティ関連活動を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、表示するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [監査] セクションまでスクロールし、ユーザーレコードのセキュリティ関連活動の詳細を確認します。

ユーザーの委任について

委任ユーザー機能が有効な場合、ユーザーは自分のレコードの所有者アクセスを他のユーザーに委任できます。加えて、該当する権限を持つユーザーは、他のユーザーの委任者を指名できます。通常は、企業の管理者のみが他のユーザーの委任者を指名できます。

委任ユーザー機能は、[企業プロフィール] ページの次のチェックボックスを使用して制御します。

- 管理者の表示が有効
- ブックセクタの表示

委任ユーザー機能を有効にするには、これらのチェックボックスを両方ともオンにする必要があります。加えて、委任されたユーザーと委任元のユーザーの関連情報セクションが、次のようにユーザーの役割または管理者の役割の関連ページレイアウトで使用可能になっている必要があります。

- ユーザーが委任者を指名できるようにするには、ユーザーの役割のユーザー所有者ページレイアウトで「委任されたユーザー」関連情報セクションを使用可能にする必要があります。
- 委任されたユーザーのリストをユーザーが確認できるようにするには、ユーザーの役割のユーザー所有者ページレイアウトで「委任されたユーザー」関連情報セクションを使用可能にする必要があります。
- 管理者が他のユーザーの委任者を指名できるようにするには、管理者の役割のユーザー管理ページレイアウトで、次の少なくとも 1 つの関連情報セクションを使用可能にする必要があります。
 - **委任されたユーザー。**ユーザーのレコードの「委任されたユーザー」セクションでは、管理者がユーザーの委任者を指名できます。
 - **委任元ユーザー。**ユーザーのレコードの「委任元ユーザー」セクションでは、管理者がユーザーを他のユーザーの委任者として指名できます。

委任ユーザーを指名するときは、次の情報に注意してください。

- 「委任されたユーザー - 役割」フィールドが、ユーザーの役割やデータアクセスに関連付けられることはありません。これは、企業の管理者がユーザーの委任を分類するために定義可能なピックリストです。このピックリストには、デフォルト値がありません。企業の管理者は、「Delegated Users Field setup (委任ユーザーフィールドのセットアップ)」ページから必要に応じてカスタマイズできます。ピックリストのカスタマイズの詳細については、「[ピックリスト値の変更](#) (ページ 137)」を参照してください。
- 委任ユーザーは、プライマリユーザーが所有する、またはプライマリユーザーがチームやグループをとおしてアクセスできるレコードへの、プライマリユーザーの所有者アクセスを取得します。レコードへのプライマリユーザーのデフォルトアクセスは取得しません。
- どのレコードタイプでも、委任ユーザーが委任アクセスを使用してそのタイプのレコードを表示するには、その委任ユーザーの役割で「アクセス可能」オプションが有効になっている必要があります。同様に、委任ユーザーがそのタイプのレコードを作成するには、その委任ユーザーの役割でレコードタイプの「作成可能」オプションが有効になっている必要があります。
- 委任ユーザーは、ブックセレクトの「サブ項目を含める」オプションを使用して、自分自身のレコードとプライマリユーザーのレコードをすべてリストに表示できます。代わりに、自分自身の名前を選択すると、所有権、役割、チームなどをおしてアクセスできるレコードのみを表示できます。または、プライマリユーザーの名前を選択すると、プライマリユーザーが所有する、またはチームやグループをとおしてアクセス可能なレコードのみを表示できます。
- 委任ユーザーがプライマリユーザーにより委任されたデータを参照しているときでも、レポートサブジェクトエリアに関する委任ユーザーのデータアクセスレベル（つまり、マネージャ表示、チーム表示、またはフル表示）が適用されます。

委任ユーザーの管理（管理者）

企業の管理者は、ユーザーを他のユーザーの委任者として指名できます。ユーザー委任作業の詳細については、「[ユーザーの委任について](#) (ページ 255)」を参照してください。

注：ユーザーは、各自の「[個人詳細](#)」ページを使用して各自の委任者を指名することもできます。ユーザーが委任者を指名する方法の詳細については、「[委任ユーザーの追加](#)」を参照してください。

このトピックで説明されている手順を実行するには、次の権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

- ユーザーの管理

■ ユーザーおよびアクセスの管理 - 委任されたユーザーの管理

また、各自の役割のユーザー管理ページレイアウトで、次の少なくとも 1 つの関連情報セクションを使用可能にする必要があります。

■ **委任されたユーザー。**ユーザーのレコードの「委任されたユーザー」セクションでは、ユーザーの 1 人以上の委任者を指名できます。

■ **委任元ユーザー。**ユーザーのレコードの「委任元ユーザー」セクションでは、ユーザーを他の 1 人以上のユーザーの委任者として指名できます。

「委任されたユーザー」および「委任元ユーザー」関連情報セクションが、委任者を指名する「ユーザー詳細」ページに表示されない場合は、次のようにしてセクションを使用可能にできます。

■ 「ユーザー詳細」ページで、ページの右上隅にある「レイアウトを編集」をクリックし、セクションをページレイアウトに追加します。

■ 必要な関連情報セクションがページレイアウトに追加できるようになっていない場合は、各自の役割のユーザー管理ページレイアウトをカスタマイズできます。ページレイアウトのカスタマイズの詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

ユーザーに 1 人以上の委任者を指名するには、次の手順を実行します。

ユーザーに 1 人以上の委任者を指名するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」をクリックします。
- 3 「ユーザー管理とアクセス制御」ページで、「ユーザー管理」をクリックします。
- 4 「ユーザーリスト」ページで、委任者を追加するユーザーの「名前 (姓)」リンクをクリックします。
- 5 「ユーザー詳細」ページで「委任されたユーザー」セクションまでスクロールダウンし、セクションのタイトルバーの「追加」をクリックします。
- 6 「委任されたユーザー - 編集」ページで「ルックアップ」アイコンをクリックします。
- 7 「ルックアップ」ウィンドウで、委任者として指名するユーザーを選択します。
- 8 「委任されたユーザー - 役割」フィールドに値が定義されている場合は、必要に応じて各ユーザーに対して委任ユーザーの役割を選択できます。
- 9 変更を保存します。

注：Oracle CRM On Demand の「ユーザー詳細」ページの「委任されたユーザー」セクションでは、「役割」フィールドには委任者の役割が表示されます。「委任されたユーザー - 役割」フィールドには、委任者の委任ユーザーの役割が表示されず（定義されている場合）。

ユーザーの委任者リストから委任者を削除するには、次の手順を実行します。

ユーザーの委任者リストから委任者を削除するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] をクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、委任者リストを更新するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[委任されたユーザー] セクションまでスクロールダウンします。
- 6 レコードレベルのメニューで、委任者リストから削除するユーザーの [削除] を選択します。
- 7 [OK] をクリックして、変更内容を確認します。

ユーザーを 1 人以上のユーザーの委任者として指名するには、次の手順を実行します。

ユーザーを 1 人以上のユーザーの委任者として指名するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] をクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、1 人以上のユーザーの委任者として指名するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで [委任元ユーザー] セクションまでスクロールダウンし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 6 [委任されたユーザー - 編集] ページで [ルックアップ] アイコンをクリックします。
- 7 [ルックアップ] ウィンドウで、現在のユーザーを委任者として指名するユーザーを選択します。
- 8 変更を保存します。

企業内の別の部署へのユーザーの異動など、特定の状況では、1 人以上のユーザーの委任者として機能するためのユーザーの権限を取り消すことができます。1 人以上のユーザーの委任者として機能するためのユーザーの権限を取り消すには、次の手順を実行します。

1 人以上のユーザーの委任者として機能するためのユーザーの権限を取り消すには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] をクリックします。

- 4 [ユーザーリスト] ページで、委任者として機能するための権限を取り消すユーザーの [名前 (姓)] をクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[委任元ユーザー] セクションまでスクロールダウンします。
- 6 現在のユーザーの委任者として機能する必要がなくなった各ユーザーについて、レコードレベルのメニューから [削除] を選択し、[OK] をクリックして変更内容を確認します。

ユーザーの在庫期間の作成

このトピックは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition 専用です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition を使用するセールス要員ごとに在庫期間を作成する必要があります。これは各セールス要員に対して 1 回のみ行ってください。在庫期間は、手動で、あるいは Oracle CRM On Demand のインポート機能を使用して作成できます。

注: 通常、在庫期間は、会社で Oracle CRM On Demand が最初に設定されるときにインポート機能を使用して作成されます。

あるセールス要員のために最初の在庫期間を作成すると、その後はそのセールス要員の在庫期間を閉じるたびに、新しい在庫期間が自動的に作成されます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーの在庫期間を作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、ユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで [新規在庫期間] をクリックします。

在庫期間の開始日はデフォルトでは現在の日付になります。

注: Oracle CRM On Demand では、ユーザーの在庫期間が作成されたことを確認するメッセージは表示されず、[ユーザー詳細] ページは開いたままとなります。在庫期間が作成されたことを確認する場合は、[在庫期間] タブをクリックし、最近変更された在庫期間のリストを表示します。

ユーザーの無効化

ユーザーは削除できません。代わりに、ユーザーを無効にする必要があります。無効にしたユーザーにはライセンスは必要ありません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーを無効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、システムから削除するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[編集] ボタンをクリックします。
- 6 [ユーザー編集] ページで、[主要ユーザー情報] セクションの [状態] フィールドの値を [無効] にします。
- 7 レコードを保存します。

パートナー自己管理

企業の管理者は、パートナー組織の 1 名以上のユーザーをパートナー管理者として Oracle CRM On Demand に設定できます。パートナー管理者は、Oracle CRM On Demand のユーザーとしてのパートナー組織のメンバーの設定、それらのユーザーレコードの編集、それらのユーザーのパスワードのリセットやユーザー ID の変更といった、限定的なユーザー管理タスクの一部を実行できます。パートナー管理者は、Oracle CRM On Demand の [パートナー自己管理] ページでユーザーを管理します。

[パートナー自己管理] ページへのアクセスは、[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限で制御されます。

注: 企業の管理者は、[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限をパートナー組織のメンバーに付与します。この権限はブランド所有者企業のユーザーには付与されません。

パートナー管理者の設定方法の詳細は、「[パートナー管理者の設定プロセス \(管理者\)](#) (ページ 260)」を参照してください。[パートナー自己管理] ページでのユーザーの管理方法の詳細は、「[パートナー組織のユーザーの管理 \(パートナー\)](#) (ページ 261)」を参照してください。

パートナー管理者の設定プロセス (管理者)

[パートナー自己管理] ページへのアクセスを制御する権限は、[パートナー組織内のユーザーの管理] です。この権限により、パートナー管理者は、自らのパートナー組織のメンバーのみのユーザーレコードを操作できるようになります。パートナー管理者には、[ユーザーの管理] 権限は不要であり、付与しないでください。この権限によって、パートナー管理者が、自分のパートナー組織外のユーザーのユーザーレコードを表示および編集できるようになるためです。

セキュリティ上の理由から、企業の管理者は、パートナー管理者がパートナー組織のユーザーに与えることができる役割も決めます。このためには、パートナー組織レコードに役割を関連付けます。こうすると、パートナー管理者がユーザーを設定するときに、パートナー組織に関連付けた役割のみがユーザーに与えられます。パートナー管理者がユーザーに付与できる役割を制限すると、パートナー管理者がユーザーに不適切な権限を与える可能性や、ユーザーが見る必要のないデータにアクセスする可能性がなくなります。

注: パートナーレコードに役割を関連付けると、パートナー管理者がユーザーに与えることができる役割の選択肢が制限されます。これによって、ブランド所有者企業の企業管理者がパートナー組織のユーザーに割り当てることができる役割の選択肢が制限されることはありません。

パートナー管理者を設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 パートナー管理者のユーザー役割に、[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限を付与します。

役割への権限の付与方法の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

注: パートナー管理者のために新しい役割を作成するか、適切な既存の役割を編集できます。また、様々なパートナー組織のパートナー管理者のために異なる役割を作成することもできます。

- 2 (オプション) ユーザーレコードのタイプに応じてカスタマイズした [パートナー管理] ページレイアウトを作成して、そのユーザーの役割に割り当てます。
カスタマイズしたページレイアウトの作成の詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。ページレイアウトの役割への割当の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。
- 3 (オプション) パートナー組織のユーザーのために固有の役割を作成する場合は、役割を設定します。
役割の設定の詳細は、「[役割管理](#) (ページ 265)」と「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。
- 4 パートナー組織レコードの [パートナー役割] 関連情報セクションで、パートナー管理者がパートナー組織のユーザーに付与できる役割を追加します。
レコードのリンクの詳細については、「[選択したレコードへのレコードのリンク](#)」を参照してください。
- 5 パートナー管理者のために作成または編集した役割が、パートナー管理者としてこれから行動するユーザーにまだ割り当てられていない場合は、そのユーザーに役割を割り当てます。
役割のユーザーへの割当の詳細は、「[ユーザーの設定](#) (ページ 236)」を参照してください。

パートナー組織のユーザーの管理 (パートナー)

作業前の準備。 パートナー組織のユーザーを管理するには、役割に [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれる必要があります。

自らの組織のユーザーを Oracle CRM On Demand の [パートナー自己管理] ページで管理します。[パートナー自己管理] ページには、Oracle CRM On Demand のすべてのページにあるグローバル [管理] リンクからアクセスします。

自らのパートナー組織のユーザーを管理するには、次の操作を実行します。

- [ユーザーの設定 \(パートナー\)](#) (ページ 262)
- [ユーザーのユーザーIDの変更 \(パートナー\)](#) (ページ 263)
- [ユーザーのパスワードのリセット \(パートナー\)](#) (ページ 264)
- [ユーザーの無効化 \(パートナー\)](#) (ページ 265)

注: [パートナー自己管理] ページを使用してユーザーレコードに加えられた変更について、Oracle CRM On Demand 管理者が監査証跡を設定する場合があります。監査証跡が設定されると、監査対象フィールドに対して加えられた変更の詳細を [ユーザー詳細] ページの [監査証跡] 関連情報セクションで表示できます。

関連トピック

ユーザー管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーフィールド](#) (ページ 238)
- レコードの監査証跡の表示

ユーザーの設定（パートナー）

作業前の準備。 次の手順を実行するには、役割に「パートナー組織内のユーザーの管理」権限が含まれる必要があります。

ユーザーを設定するときは、次のフィールドによって、ユーザーがアクセス、表示および実行できる項目が決まります。フィールドを正しく使用してください。

- **【状態】フィールド。** 最初にユーザーを設定するとき、ユーザーがただちに Oracle CRM On Demand にアクセスできるように設定できます。ユーザーの状態を「有効」に設定し、ユーザーレコードの保存時に必要なサインイン情報をユーザーに送信するように Oracle CRM On Demand に指定してください。

または、後でユーザーが Oracle CRM On Demand にアクセスできるようにするときは、ユーザーレコードを設定し、ユーザーの状態を「無効」に設定します。後になって Oracle CRM On Demand へのアクセスをユーザーに許可するときに、ユーザーの状態を「有効」に変更し、パスワードのリセット機能を使用して必要なサインイン情報をそのユーザーに電子メールで送信します。

- **【上司】または【上司（エイリアス）】フィールド。** レポート構造によって、マネージャがアクセスできるレコードが決まります。また、売上予想の計算やマネージャおよびエグゼクティブ向けのレポートにどのユーザーのデータを含めるかも決まります。ユーザーを設定するページには、【上司】フィールドまたは【上司（エイリアス）】フィールドのいずれかを挿入できますが、このフィールドの両方は指定しないでください。【上司】および【上司（エイリアス）】フィールドの詳細は、「[ユーザーレコードの【上司】および【上司（エイリアス）】フィールドについて](#)（ページ 250）」を参照してください。

ヒント： レポート階層のトップレベルのユーザーを最初に入力してください。

- **【役割】フィールド。** ユーザーの役割によって、ユーザーがアクセスできるタブ、機能、レコードおよびページレイアウトが決まります。

注： 企業の管理者が、パートナー組織のユーザーに割り当てることができる役割を決定します。

パートナー組織のユーザーを作成するとき、ユーザーレコードの【パートナー組織】フィールドには自動的にパートナー組織の名前が入力されます。これは変更できません。

新規ユーザー用のサインイン情報について

Oracle CRM On Demand にサインインする新規ユーザーには、Oracle CRM On Demand の一時 URL と仮パスワードが必要です。ユーザーアカウントの作成時に、次のように Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報をユーザーに送信するように要求できます。この要求は、ユーザーアカウントの作成後に実行することもできます。

- ユーザーアカウントを設定するときにサインイン情報を送信する場合は、ユーザーレコードで「【保存】をクリックしたときにパスワードを送信」チェックボックスをオンにし、ユーザーレコードの最初の保存を実行します。

情報をすぐにユーザーに送信する場合は、レコードを最初に保存する前にこのチェックボックスをオンにする必要があります。サインイン情報が 2 回に分けて電子メールでユーザーに送信されます。

- 最初の電子メールには一時 URL が含まれます。

- 2 通目の電子メールには、仮パスワード、およびユーザーのサインイン ID の詳細が記載されています。

- サインイン情報を後からユーザーに送信する場合は、ユーザーレコードを作成するときに「【保存】をクリックしたときに仮パスワードを送信」チェックボックスをオンにしないでください。

後でサインイン情報をユーザーに送信するときは、ユーザーレコードの「パスワードをリセット」ボタンをクリックして、Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報を送信するように要求できます。【パスワードをリセット】ボタンをクリックすると、サインイン情報は 2 通の電子メールでユーザーに送信されます。

- 最初の電子メールには一時 URL が含まれます。

- 2 通目の電子メールには、仮パスワードが記載されています。

2 通目の電子メールには、ユーザーのサインイン ID の詳細は記載されていません。

ユーザーの削除について

ユーザーは削除できません。従業員が退職した場合は、そのユーザーの [状態] を [無効] に変更します。

次の手順で、組織のメンバーを Oracle CRM On Demand のユーザーとして設定する方法を説明します。

ユーザーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 新規ユーザーを追加するには、[新規ユーザー] をクリックします。
 - ユーザーの情報を編集するには、ユーザーの名前（姓）をクリックし、[ユーザー詳細] ページで [編集] ボタンをクリックします。
- 4 [ユーザー編集] ページに情報を入力します。
詳細については、「[ユーザーフィールド](#) (ページ 238)」を参照してください。
- 5 レコードを保存します。

ヒント: フィルター済みリストを作成することにより、表示するユーザーレコードを制限できます。フィルター済みリストの詳細は、「[リストの使用](#)」を参照してください。

ユーザーレコードのどのリストを開いても、リストフィルターの基準を満たし、パートナー組織のメンバーであるユーザーのみが表示されます。次の手順で、ユーザーのフィルター済みリストを開く方法を説明します。

ユーザーのフィルター済みリストを開くには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、ドロップダウンリストからオプションを選択します。

ユーザーのユーザーID の変更 (パートナー)

次の手順で、パートナー組織のユーザーのユーザーID を変更する方法を説明します。

ユーザーID の最大文字数は 50 文字です。ユーザーID には、空白文字または次の特殊文字を含めることができません。

- アスタリスク (*)
- バックスラッシュ (\)
- 番号記号 (#)
- 疑問符 (?)
- スラッシュ (/)
- チルダ (~)

作業前の準備。 次の手順を実行するには、役割に [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれる必要があります。

ユーザーのユーザーID を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、ユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザー詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページで、[ユーザーID] フィールドを編集します。
- 6 レコードを保存します。

企業の管理者が企業プロファイルの [ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定で選択するオプションに応じて、ユーザーのプロファイルの [ユーザー ID] フィールドの値が変更されたときに、電子メールがユーザーに送信される場合があります。[ユーザープロファイル更新時に電子メールを送信] 設定の詳細は、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。

ユーザーは、新しいユーザーID とユーザーの既存のパスワードを使用して Oracle CRM On Demand にサインインできます。

ユーザーのパスワードのリセット (パートナー)

Oracle CRM On Demand では、ユーザーはセキュリティに関して 2 つ以上の質問に答える必要があります。これらの質問と回答は、後でユーザーがパスワードを忘れたときに使用できます。ユーザーがセキュリティに関する自分の質問を忘れた場合、またはロックアウトされたがすぐにアクセスする必要がある場合は、自分のパスワードをリセットできます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[パートナー組織内のユーザーを管理します。] および [会社の管理 - すべてのパスワードのリセット] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、パスワードを変更するユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。

注： この手順の結果は、[ユーザー編集] ページで [[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信] チェックボックスをオンにした場合と同じです。仮パスワードが記載された電子メールを送信する前に、ユーザーの役割と関連情報を設定する必要があります。

次の手順で、パートナー組織のユーザーのパスワードをリセットする方法を説明します。

ユーザーのパスワードをリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「パートナー自己管理」リンクをクリックします。
「ユーザーリスト」ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 「ユーザーリスト」ページで、パスワードをリセットするユーザーの「名前（姓）」リンクをクリックします。
- 4 「ユーザー詳細」ページで、タイトルバーの「パスワードをリセット」ボタンをクリックします。
ユーザーの既存のパスワードが新しい仮パスワードと置き換えられます。新しい仮パスワードが電子メールでユーザーに送信されます。

注： このイベントは、「ユーザー詳細」ページの「サインイン履歴」セクションに記録されます。

ユーザーの無効化（パートナー）

ユーザーは削除できません。かわりに、ユーザーを無効にしてください。無効なユーザーにはライセンスが必要ありません。次の手順で、パートナー組織のユーザーを無効にする方法を説明します。

作業前の準備： 次の手順を実行するには、役割に「パートナー組織内のユーザーの管理」権限が含まれる必要があります。

ユーザーを無効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「パートナー自己管理」リンクをクリックします。
「ユーザーリスト」ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 「ユーザーリスト」ページで、システムから削除するユーザーの「名前（姓）」リンクをクリックします。
- 4 「ユーザー詳細」ページで、「編集」ボタンをクリックします。
- 5 「ユーザー編集」ページで、「主要ユーザー情報」セクションの「状態」フィールドの値を「無効」にします。
- 6 レコードを保存します。

役割管理

Oracle CRM On Demand では、「役割リスト」ページと役割管理ウィザードで役割を管理します。「役割リスト」ページと役割管理ウィザードには、Oracle CRM On Demand のすべてのページにあるグローバル「管理」リンクからアクセスします。

Oracle CRM On Demand での役割は、セールスエグゼクティブやサービス管理者など、ユーザーが組織で実行する職務に似ています。組織では、職務ごとに固有の権限や許可が与えられます。同様に Oracle CRM On Demand のコンテキストにおいても、ユーザーが使用権限を持つ Oracle CRM On Demand の機能、ユーザーが保護情報を操作するために与えられる許可、情報を表示するユーザーインターフェイス設定を定義することで、役割によって職務が区別されます。

注:ユーザーとしては、従業員またはパートナー組織の従業員が可能です。また、Oracle CRM On Demand にアクセスする外部システムもユーザーとして設定できます。

役割によって定義されるパラメータを次に示します。

- 権限
- レコードタイプへのアクセス
- 役割のアクセスプロファイル
- 次の項目を含むユーザーインターフェイス設定
 - タブ設定
 - ページレイアウト
 - 検索レイアウト
 - ホームページレイアウト

各ユーザーには 1 つの役割が割り当てられます。また、同一の役割を複数のユーザーに割り当てることができます。役割には階層はありません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) (ページ 268)
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [役割の権限について](#) (ページ 270)
- [役割の IP アドレス制限について](#) (ページ 271)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

役割の設定に関するガイドライン

Oracle CRM On Demand では、事前に作成された一連の役割が提供されます。これらに基づいて社内の役割を設定できます。ユーザーと役割の設定テンプレートには、事前に作成された役割の情報が含まれ、レコードアクセス、権限およびデフォルトタブアクセスがリストされます。ユーザーと役割の設定テンプレートの検索の詳細は、「[設定時における管理者テンプレートの使用](#) (ページ 16)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand に設定できる役割タイプの例として、設備関連の取引先管理を担当するセールス部門と、新しいビジネスを担当するセールス部門の 2 つが会社で必要になることがあります。設備関連の取引先管理を担当するセールス部門のフィールドセールス要員は、その顧客の設備導入に関する取引先情報を追跡します。新しいビジネスを担当するセールス部門のフィールドセールス要員は、その見込み取引先の購入条件のプロファイルとなる取引先情報を追跡します。これらの 2 つの職務は似ていますが、それぞれの日常的なプロセスのサポートに最も関連のある情報のタイプは異なります。この例では、次の 2 つの役割を設定できます。

- 設備関連のフィールドセールス要員の役割

■ 新しいビジネスのフィールドセールス要員の役割

これらの各役割は、事前に作成された［フィールドセールス要員］役割に基づいて作成できます。2つのセールス部門に固有のビジネス要件をサポートするために異なるページレイアウトを追加し、新しい役割を調整します。

たとえば、組織の変更や別の会社の吸収が行われた場合など、必要に応じて、役割の定義の変更や追加を続けることができます。会社の組織構造が変更されると、1人以上の従業員の職務も変更になる可能性があります。会社が別の会社を買収した場合には、その従業員を Oracle CRM On Demand のユーザーとして吸収する必要が生じることがあります。

役割を設定するときは次のガイドラインに従います。

■ 各従業員または従業員のグループがどのように Oracle CRM On Demand を使用するかを決定します。

従業員の職務を調べて、次の項目を決定します。

- ユーザーが完了する必要があるタスクおよびアクセスする必要があるレコード
- 各タイプのレコードに対してユーザーが必要とするアクセスの種類
- ユーザーがアクセスを禁止されているレコードまたはタブがあるかどうか

次の表に、アクセスタイプの一例を示します。

アクセスタイプ	例
機能へのアクセス	テレセールスの役割を割り当てられたユーザーは、［見込み客詳細］ページの［変換］ボタンにアクセスできます。
レコードへのアクセス	エグゼクティブの役割を割り当てられたユーザーは、すべての商談レコードをその所有者にかかわらず編集できます。
タブへのアクセス	デフォルトでは、セールス&マーケティングマネージャの役割が割り当てられたユーザーは、［取引先］タブと［商談］タブにアクセスできますが、［サービスリクエスト］タブや［ソリューション］タブにはアクセスできません。

■ 事前に作成された各役割の特徴を確認して、それらの役割が従業員のニーズを満たすかどうかを調べます。

事前に作成された役割の名前は、社内の肩書と一致する必要はありません。職務とタスクは、肩書ではなく役割に対応させる必要があります。

■ 次のように役割を設定します。

- 事前に作成された役割が、従業員グループのために必要な役割と似ている場合は、その役割をコピーし、新しい名前を付け、要件に応じて編集して、新しい役割を作成します。
- 事前に作成された役割が必要な役割と似ていない場合は、要件を満たす新しい役割を作成します。

ヒント:ユーザーと役割の設定テンプレートを使用して、従業員グループの役割の要件を簡単に文書化できます。その後、役割を作成または編集し、企業の従業員を Oracle CRM On Demand のユーザーとして設定する際に、完成したテンプレートを参照します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) (ページ 265)
- [［役割リスト］ページの使用](#) (ページ 268)
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)

- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [役割の権限について](#) (ページ 270)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

「役割リスト」 ページの使用

「役割リスト」 ページでは、次の表のアクションを実行できます。

操作	手順
新しい役割の追加	「役割リスト」 ページのタイトルバーで「新規役割」をクリックします。役割管理ウィザードが開きます。 役割管理ウィザードの使用方法的詳細は、「役割の追加 (ページ 272)」を参照してください。
既存の役割のコピーによる新規役割の追加	役割名の横のレコードレベルメニューで「コピー」を選択します。役割管理ウィザードが開きます。 役割管理ウィザードの使用方法的詳細は、「役割の追加 (ページ 272)」を参照してください。
役割の削除	役割名の横のレコードレベルメニューで「削除」を選択してから、その役割を削除することを確認します。 注: 「管理者」 役割は削除できません。 役割を削除しても、その役割が割り当てられているすべてのユーザーは、別の役割が割り当てられるまではその役割を保持し続けます。ただし、役割を削除した後で、その役割をユーザーに割り当てることはできません。
役割リストを表示する言語の選択	「役割リスト」 ページのタイトルバーにある「翻訳言語」フィールドで、役割のリストを表示する言語を選択します。Oracle CRM On Demand でその企業に対してサポートされている任意の言語でリストを表示できます。 注: 既存の役割に翻訳済みの役割名がない場合、役割名は翻訳されず、カッコ内に表示されます。

アルファベット文字検索機能を使用できる場合は、アルファベット文字検索で役割のリストをフィルター処理できます。アルファベット文字検索の詳細は、「リストのフィルター処理」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) (ページ 265)
- [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)

- [役割の権限について](#) (ページ 270)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

役割のレコードタイプアクセスについて

役割のプライマリレコードタイプへのアクセスは、役割管理ウィザードのステップ2で制御します。役割を追加する方法の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

プライマリレコードタイプは、独立したレコードタイプとして使用できるレコードタイプです。ほとんどのプライマリレコードタイプ（すべてではない）は、Oracle CRM On Demand のタブとして表示できます。タブとして表示できないプライマリレコードタイプもあります。たとえば、[ブック] レコードタイプはプライマリレコードタイプです（ブックレコードは独立したレコードとして作成できます）。ただし、[ブック] レコードタイプはタブとして表示できません。プライマリレコードタイプでないレコードタイプはタブとして表示できません。

例外はありますが、次の基準を満たすプライマリレコードタイプが役割管理ウィザードのステップ2に表示されます。

- 自分の会社が使用ライセンスを持つレコードタイプ。
- 自分の役割に適切なアクセス権限が含まれているレコードタイプ。

例外は、企業プロフィール、ユーザーレコード、ワークフロールールなど、管理目的のみに使用されるレコードタイプです。そのようなレコードタイプへのアクセスは権限によってのみ制御されます。

ウィザードのステップ2に表示される各プライマリレコードタイプでは、役割でのレコードタイプへのアクセスは次の3つの設定によって制御されます。

- **アクセス可能。** 役割管理ウィザードのステップ2で役割についてプライマリレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスをオンにすると、その役割を持つユーザーがそのレコードタイプのレコードにアクセスできます。役割についてそのレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオフの場合、その役割を持つユーザーは、そのレコードタイプに対してあらゆる形式でのアクセスを拒否されます。たとえば、役割について [取引先] レコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオフの場合、[取引先] レコードタイプに対するあらゆる形式のアクセス（関連アプレット、検索機能、[取引先] レコードタイプに対する他のアクセスを含む）が、その役割を持つユーザーに対して拒否されます。その後、次の状況が発生することがあります。
 - [取引先] レコードタイプにアクセスできないユーザーが、取引先レコードに商談を関連付けようとすると、操作が失敗します。
 - [取引先] レコードタイプにアクセスできないユーザーが、取引先にすでにリンクされている商談を表示しても、リンクされた取引先レコードの詳細は表示できません。

注:レコードタイプのアクセスを拒否する（役割管理ウィザードでレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスをオンにしない）ことにより、ユーザーが別のレコードタイプのレコードを作成できなくなる場合があります。たとえば、あるレコードタイプへのアクセスを拒否したときに、ユーザーが別のレコードタイプに基づくレコードを作成するためにそのレコードタイプにアクセスする必要があると、ユーザーはそのレコードを作成できません。

- **作成可能。** 役割について役割管理ウィザードのステップ2でレコードタイプの作成可能チェックボックスをオンにすると、その役割を持つユーザーはそのレコードタイプのレコードを作成できます。

プライマリレコードタイプの [作成可能] チェックボックスをオフにすると、その役割を持つユーザーは、そのプライマリレコードタイプのレコードを作成できません。

注:プライマリレコードタイプのレコードを作成する権限は、この設定によって制御されます。アクセスプロフィールでは制御されません。アクセスプロフィールは既存のデータへのアクセスを制御するため、アクセスプロフィールでプライマリレコードへのアクセスを制御するには、それらのレコードが事前に存在する必要があります。

- **すべてのレコードを読み取り可能**：役割について役割管理ウィザードのステップ 2 でプライマリレコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスをオンにすると、その役割を持つユーザーはそのレコードタイプのすべてのレコードを表示できます。役割についてプライマリレコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスをオフにすると、一般的には、その役割を持つユーザーがそのレコードタイプのレコードを表示できるのは、レコードの表示を承認される場合のみになります。他のアクセス制御コンポーネント（ブック、チーム、グループ、管理階層など）もレコードの表示に影響することがあります。ユーザーは、そのようなアクセス制御コンポーネントにより、自らが所有していないレコードを表示できることがあります。ただし、他のアクセス制御コンポーネントでレコードの表示が承認されず、[すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスがオフの場合、ユーザーに表示できるのは所有するレコードのみです。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) (ページ 265)
- [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) (ページ 268)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [役割の権限について](#) (ページ 270)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

役割の権限について

役割管理ウィザードのステップ 4 で役割の権限を付与または無効化します。役割の追加の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

権限により、企業が Oracle CRM On Demand で使用するためにライセンスされる機能を管理します。企業が Oracle CRM On Demand を使用するよう最初に設定するときに、ライセンスされたすべての機能に対するすべての権限が管理者の役割に付与されます。ユーザーが Oracle CRM On Demand とやり取りするたびに、Oracle CRM On Demand はそのユーザーの役割に割り当てられている権限のセットを確認して、ユーザーが特定の機能の実行および特定のレコードタイプへのアクセスに必要な権限を持っているかどうかを判断します。以前に役割に付与された権限が後で取り消された場合、その役割を持つユーザーは機能を使用できなくなります。権限が取り消されても、権限を持つユーザーが設定した既存のデータおよび設定情報は失われません。

役割管理ウィザードでは、権限はカテゴリに分類されます。各カテゴリは、Oracle CRM On Demand の機能の一部を構成する権限のグループを表します。たとえば、*[管理：ユーザーおよびアクセスの制御]* は、[ユーザー管理とアクセス制御] のすべての機能領域を制御する権限です。

各権限は、権限のカテゴリ内の個々の機能領域に関連します。たとえば、*[ブックの管理]* は、役割を持つユーザーが、カスタムブックとサブブックを作成、更新、編集および削除する場合、また関連付けられたメンバーを管理する場合に必要な権限です。各権限は、制御フィールドおよび機能に固有のその他の機能も公開します。ユーザーが機能を使用するために必要な権限を判断するには、オンラインヘルプを参照してください。

注：役割に権限を付与するだけでは、ユーザーが機能を使用するためのすべてのアクセス権を付与するのに十分ではありません。権限を付与すると、機能に必要なレコードタイプと機能の詳細が役割に公開されます。たとえば、*[ブックの管理]* 権限が役割に割り当てられた場合、役割を持つユーザーは、役割管理ウィザードのステップ 2 と、アクセスプロファイルウィザードでも [ブック] レコードタイプを参照できます。ただし、ブックレコードの操作に必要な権限をユーザーに付与するには、ユーザーの役割に対する役割管理ウィザードのステップ 2（レコードタイプアクセス）および役割のアクセスプロファイルで、必要なアクセスレベルを設定する必要があります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) (ページ 265)
- [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) (ページ 268)
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

役割の IP アドレス制限について

IP アドレス制限を役割レベルで指定できます。この機能により Oracle CRM On Demand へのアクセスを制限できるため、ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするときに使用するコンピュータを、そのユーザーの役割に指定されている IP アドレス範囲を持つコンピュータに制限できます。企業レベルで IP アドレス制限を指定することもできます。詳細は、「[IP アドレスの使用制限](#) (参照 "[IP アドレスの使用制限](#)" ページ 51)」を参照してください。ユーザーのコンピュータの IP アドレスが、役割レベルおよび企業レベルで指定された範囲内のアドレスである場合のみ、そのユーザーはサインインを許可されます。

企業レベル、役割レベルおよび両方のレベルで Oracle CRM On Demand へのアクセスを特定の IP アドレス範囲に制限するには、企業プロファイルで「IP アドレスの制約が有効」チェックボックスを選択する必要があります。このチェックボックスがまだ選択されていない場合は Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡し、チェックボックスの選択を依頼してください。

企業レベルで特定の IP アドレス範囲にアクセスを制限していない場合でも、役割レベルで特定の IP アドレスにアクセスを制限できます。ただし、企業レベルと役割レベルの両方で特定の IP アドレス範囲にアクセスを制限する場合、ユーザー役割に許可する IP アドレス範囲が企業レベルで許可する IP アドレス範囲内に収まるようにしてください。ユーザー役割のアクセスを制限した場合、その役割を持つユーザーは、その役割に許可された IP アドレス範囲内であり、かつ企業レベルで許可された IP アドレス範囲内であるアドレスを持つコンピュータからのみ Oracle CRM On Demand にサインインできます。

次の表は、企業レベルの IP アドレス制限と役割レベルの IP アドレス制限の関係性を示す例です。この表内のすべてのケースで、企業プロファイル上の「IP アドレスの制約が有効」チェックボックスが選択されており、IP アドレス制限は「フィールドセールス要員」役割のみに指定されています。

企業レベルで許可された IP アドレス	フィールドセールス要員 役割に許可された IP アドレス	ユーザーに許可される IP アドレス	メモ
IP アドレスの指定なし	203.0.113.254	■ フィールドセールス要員役割を持つユーザーに、IP アドレス 203.0.113.254 が許可されます。 ■ フィールドセールス要員役割を持たないユーザーに、任意の IP アドレスが許可されます。	なし。

企業レベルで許可された IP アドレス	フィールドセールス要員役割に許可された IP アドレス	ユーザーに許可される IP アドレス	メモ
198.51.100.1 から 198.51.100.254	IP アドレスの指定なし	IP アドレス 198.51.100.1 から 198.51.100.254 がすべてのユーザーに許可されます。	なし。
198.51.100.1 から 198.51.100.254	203.0.113.254	■ フィールドセールス要員役割を持つユーザーに許可される IP アドレスはありません。 ■ フィールドセールス要員役割を持たないユーザーに、IP アドレス 198.51.100.1 から 198.51.100.254 が許可されます。	IP アドレス 203.0.113.254 は企業レベルで許可されているアドレスの範囲外です。
192.0.2.1 から 192.0.2.254	192.0.2.1.50	■ フィールドセールス要員役割を持つユーザーに、IP アドレス 192.0.2.1.50 が許可されます。 ■ フィールドセールス要員役割を持たないユーザーに、IP アドレス 192.0.2.1 から 192.0.2.254 が許可されます。	IP アドレス 192.0.2.1.50 は企業レベルで許可されているアドレスの範囲内です。
IP アドレスの指定なし	IP アドレスの指定なし	フィールドセールス要員役割ユーザーを含むすべてのユーザーが、任意の IP アドレスから Oracle CRM On Demand にアクセスできます。	なし。

Oracle CRM On Demand へのアクセスを特定の IP アドレス範囲に制限する方法の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

役割の追加

役割は、次の操作によって Oracle CRM On Demand に追加できます。

- 新規役割を作成する
- 既存の役割をコピーして名前を変更し、そのコピーの権限とアクセス権を編集する

役割は類似しているが、ユーザーには異なるページレイアウトを表示する場合は、役割をコピーすると便利です。たとえば、北米のエグゼクティブとヨーロッパ、中東、アフリカ (EMEA) のエグゼクティブに、異なる方法で商談情報を表示する必要

があり、その結果、各ユーザーセットについて異なるフィールドとページレイアウトが必要な場合を考えます。この設定を行うには、デフォルトのエグゼクティブの役割に基づいて 2 つの役割を作成し、新規役割の名前を「Exec - North America」および「Exec - EMEA」と指定します。エグゼクティブの役割をコピーすると、新規役割には元の役割のアクセス権限が保持され、ページレイアウトのみ変更する必要があります。これによって、新規役割を割り当てるユーザーには、そのユーザーの作業に関連するビューとフィールドが表示されます。

注: 役割に関連付けるページレイアウトを作成する必要があります。ページレイアウトの作成方法については、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ \(ページ 90\)](#)」を参照してください。

ヒント: 各役割についてテストユーザーを設定することをお勧めします。このテストユーザーを有効にして、設定が正しく設定されていることを確認します。他のユーザーは、アクセス権、役割の設定、レポートとデータ共有の階層、ワークフロールール、およびその他のビジネスプロセスのカスタマイズを含むすべてのユーザー設定が完了するまで有効にしないでください。テストが終了した後は、テストユーザーを無効にしてください。

作業前の準備。 次の操作を実行します。

- [役割およびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられていることを確認します。
- 「[役割の設定に関するガイドライン \(ページ 266\)](#)」を参照して、役割の設定に関するガイドラインを確認します。

注: Oracle CRM On Demand では、役割に対するあらゆる変更について監査レコードが生成されます。ユーザーの役割に [マスター監査証跡および管理設定の監査へのアクセス] 権限が含まれている場合は、役割に対する変更の監査証跡を表示できます。監査証跡の表示方法の詳細は、「[管理設定変更の監査証跡の確認 \(ページ 71\)](#)」を参照してください。

次の手順では、役割の追加方法について説明します。

役割を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [役割管理] セクションで、[役割管理] をクリックします。
- 4 [役割リスト] ページの [翻訳言語] フィールドで、企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 次の該当する操作を行います。
 - 既存の役割をコピーして新規役割を作成するには、コピーする役割で [コピー] をクリックします。
 - 既存の役割に基づかないで新規役割を作成するには、ページのタイトルバーにある [新規役割] をクリックします。

プロセスを進めるための役割管理ウィザードが表示されます。この役割管理ウィザードの各ステップで、役割に関する設定を行います。役割に関するすべての設定に応じて、役割を割り当てるユーザーのアクセス権が決まります。
- 6 ステップ 1 の [役割情報] で、名前と説明を入力し、必要に応じて残りのフィールドに入力します。その他のフィールドの説明は次の表のとおりです。

フィールド	説明
翻訳	[翻訳] チェックボックスは、次の両方の状況でのみ有効です。 ■ 既存の役割の名前が変更されている場合 ■ 既存の役割名が他の 1 つ以上の言語にすでに翻訳されている場合

フィールド	説明
	このような状況では、[翻訳] チェックボックスを使用して、翻訳済みの役割名を新しい名前に置換するか、変更しないままにするかを指定できます。[翻訳] チェックボックスの設定に応じて、役割名は次のように表示されます。 ■ [翻訳] チェックボックスをオンにすると、新しい名前は、役割リストの表示に使用されている言語に関係なく、その名前を入力言語で表示されます。新しい名前を入力言語で役割リストが表示された場合、名前は黒いフォントで表示されます。ただし、役割リストが他の言語で表示された場合、名前は括弧で囲まれた青いフォントで表示されます。 ■ [翻訳] チェックボックスをオフにすると、新しい名前が表示されるのは、その新しい名前を入力言語で役割リストが表示されたときです。ただし、役割リストが他の言語で表示された場合は、元の翻訳済みの役割名がそのまま表示されます。 [翻訳] チェックボックスが、新規役割の追加に影響を与えることはありません。新規役割を追加すると、新しい名前は役割リストにすべての言語で表示されます。役割リストが新しい名前を入力言語で表示された場合、新規役割の名前は黒いフォントで表示されます。役割リストが他の言語で表示された場合、新規役割の名前は括弧で囲まれた青いフォントで表示されます。
デフォルトセールスプロセス	(オプション) この役割を割り当てられたユーザーが作成した新しい商談に対してデフォルトのセールスプロセスを設定するには、この「デフォルトセールスプロセス」フィールドでオプションを選択します。 このオプションの詳細は、「セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定 (ページ 466)」を参照してください。
デフォルトのテーマ	(オプション) この役割に割り当てられたユーザーがデスクトップまたはラップトップコンピュータを使用して Oracle CRM On Demand にサインインするときにデフォルトで使用されるテーマ。ユーザーは、各自の個人設定を編集して、この設定を上書きできます。ユーザーのレコードでデフォルトテーマが選択されていない場合は、ユーザーの役割に対して選択されているデフォルトテーマが使用されます。ユーザーのレコードおよびユーザーの役割の両方でデフォルトテーマが選択されていない場合は、企業に対して指定されているデフォルトテーマが使用されます。 テーマの作成方法の詳細は、「新規テーマの作成 (ページ 219)」を参照してください。
タブレットのテーマ	(オプション) この役割に割り当てられたユーザーがタブレットコンピュータまたは他のタッチスクリーンデバイスを使用して Oracle CRM On Demand にサインインするときに使用されるテーマ (Oracle CRM On Demand でタブレットコンピュータまたはタッチスクリーンデバイスが検出された場合)。ユーザーは、各自の個人設定を編集して、この設定を上書きできます。ユーザーのレコードでタブレットテーマが選択されていない場合は、ユーザーの役割に対して選択されているタブレットテーマが使用されます。ユーザーのレコードおよびユーザーの役割の両方でタブレットテーマが選択されていない場合は、企業に対して指定されているタブレットテーマが使用されます。どのレベルでもタブレットテーマが指定されていない場合は、デフォルトテーマが使用されます。
アクションバーおよびグローバルヘッダーレイアウト	デフォルトでは、すべての役割に対して標準レイアウトのアクションバーおよびグローバルヘッダーが使用されます。役割には、別のレイアウトを割り当てるができます。ユーザーがクラシックテーマを使用する場合、その役割に対するアクションバーおよびグローバルヘッダーレイアウトにより、アクションバーレイアウトでユーザーが使用できるセクションが決定されます。ユーザーがモダンテーマを使用する場合、その役割に対するアクションバーおよびグローバルヘッダーレイアウトにより、アクションバーでユーザーが使用できるセ

フィールド	説明
	クッションが決定され、グローバルヘッダーでユーザーが使用できるセクションも決定されます。
関連情報形式	(オプション) レコードの [詳細] ページの関連情報セクションに対してデフォルトの形式を設定するには、[リスト] または [タブ] を選択します。 この設定により、レコードの [詳細] ページの関連情報セクションがリストで表示されるか、表として表示されるかが決まります。この設定は各ユーザーのレコードにも設定可能で、役割に [関連情報表示形式のパーソナライズ] 権限があるユーザーは、各自の個人プロファイルの [関連情報形式] オプションを設定できます。ユーザーのレコードの [関連情報形式] オプションが空白の場合は、ユーザーの役割のデフォルト設定が使用されます。ユーザーの役割の [関連情報形式] オプションが空白の場合は、企業のデフォルト設定が使用されます。
見込み客変更レイアウト	(オプション) この役割を割り当てられたユーザーに対して、([見込み客を変換] ページの) 見込み客変換レイアウトを設定するには、[見込み客変更レイアウト] フィールドでレイアウトを選択します。 役割に対してレイアウトを選択しない場合は、企業のデフォルトのレイアウトが使用されます。見込み客変換レイアウトの作成方法の詳細は、「見込み客変換レイアウトの作成 (ページ 457)」を参照してください。
IP アドレス制限の有効化	(読み取り専用) このチェックボックスが選択されている場合、この役割を持つユーザーが特定の IP アドレスからのみ Oracle CRM On Demand にアクセスするように指定できます。[許可された IP アドレス] フィールドで IP アドレスを指定できます。
許可された IP アドレス	この役割を持つユーザーが特定の IP アドレスからのみ Oracle CRM On Demand にアクセスするようにする場合は、その役割で使用する有効なアドレスまたはアドレス範囲をこのフィールドに入力します。このフィールドにアドレスを入力しなかった場合、この役割を持つユーザーは企業レベルで許可されている IP アドレスから Oracle CRM On Demand にアクセスできます。IP アドレスの制限機能の詳細は、「役割の IP アドレス制限について (ページ 271)」を参照してください。 IP アドレスおよび IP アドレス範囲をカンマで区切ります。次の例は、複数のアドレスを入力する方法を示しています。 192.0.2.1, 192.0.2.10, 192.0.2.15 次の例のとおり、アドレス範囲を示すにはハイフン (-) を使用します。 192.0.2.1-3, 192.0.2.50-100, 192.0.2.200-254 注: 自分のユーザー役割の IP アドレスを制限する場合で、現在の IP アドレスがユーザー役割に許可するアドレス範囲に含まれていない場合は、役割に対する変更を保存できません。これは、自分自身を間違えて Oracle CRM On Demand からロックアウトしてしまうことを防止するための機能です。

- ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] で、レコードタイプごとに、役割に付与する各アクセスレベルのチェックボックスをオンにします。

各レコードタイプには、次のアクセスレベルを 1 つ以上選択できます。

- アクセス可能
- 作成可能

■ すべてのレコードを読み取り可能

これらのアクセスレベルの詳細は、「[役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)」を参照してください。

注意:レコードタイプへのアクセスを拒否すると（役割管理ウィザードでレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスをオフにします）、ユーザーが別のレコードタイプのレコードを作成することを防止できます。たとえば、あるレコードタイプへのアクセスを拒否したときに、ユーザーが別のレコードタイプに基づくレコードを作成するためにそのレコードタイプにアクセスする必要があると、ユーザーはそのレコードを作成できません。

注:見込み客または取引交渉登録を変換するユーザーには、特定のレコードタイプに対する適切なアクセスレベルが設定されている必要があります。見込み客の変換に必要なアクセスレベルの詳細は、「[見込み客を変換するためのアクセスプロファイルと役割の設定](#)」を参照してください。取引交渉登録の変換に必要なアクセスレベルの詳細は、「[取引交渉登録を変換するためのアクセスプロファイルと役割の設定](#)」を参照してください。

ヒント:役割に対するアクセスレベルを変更し、その変更を保存した後、その役割が割り当てられているユーザーは、サインアウトして再度サインインし、自分の役割の変更を有効にする必要があります。

2 ステップ 3 の [アクセスプロファイル] で、この役割に割り当てるアクセスプロファイルを選択します。

役割のアクセスプロファイルの詳細は、「[役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)」を参照してください。

3 ステップ 4 の [権限] で、役割に付与する各権限の [割当] チェックボックスをオンにするか、役割から取り消す権限の [割当] チェックボックスをオフにします。

権限は、カテゴリーのアルファベット順に編成されています。

注意: 管理者の役割で、権限の [割当] チェックボックスがオフの場合は、権限が Oracle CRM On Demand から削除されるため、企業の管理者はその権限を他の役割に割り当てることができない場合があります。このような問題が発生した場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡して、権限を復元してください。

役割の権限の詳細は、「[役割の権限について](#) (ページ 270)」を参照してください。

4 ステップ 5 の [タブへのアクセスと順序] で、ページの適切なセクションにタブを移動し、[選択されたタブ] セクションで上向き矢印と下向き矢印をクリックして、ユーザーに対してデフォルトで表示するタブの表示順序を定義します。

[使用不可タブ] セクションには、役割に対して使用可能なレコードタイプタブとカスタム Web タブが表示されます。このセクションに表示されるレコードタイプのリストは、Oracle CRM On Demand によって決定されます。このリストには、役割管理ウィザードのステップ 2 でリストしたほとんどのレコードタイプも表示されます。[ブック] などの他のレコードタイプはタブとして表示できないため、このリストには表示されません。役割が割り当てられたユーザーは、[使用不可タブ] セクションに表示されたタブを使用できません。

各タブを、この役割が割り当てられたユーザーに対して使用可能または表示可能にするには、次の操作を行います。

■ ユーザーにデフォルトで表示するタブを [選択されたタブ] セクションに移動します。このセクションには、役割が割り当てられたユーザーがその役割で最初にサインインしたときにデフォルトで表示される、レコードタイプタブとカスタム Web タブが表示されます。上向き矢印と下向き矢印を使用して、最初に表示するタブの順序を決定します。役割が割り当てられた各ユーザーは、自分の設定をカスタマイズできるため、デフォルトでタブを非表示にしたり、タブの表示順序を変更することができます。ユーザーによる個人設定の管理方法の詳細は、「[アプリケーションのパーソナライズ](#)」を参照してください。

■ デフォルトではユーザーに表示しないが、ユーザーが自分で表示できるタブは、[使用可能タブ] セクションに移動します。このセクションには、役割に対しては使用可能だが、デフォルトでは表示されない、レコードタイプタブとカスタム Web タブが表示されます。つまり、このセクションに表示されるタブは、ユーザー自身が個人レイアウト（[設定 (個人)] から使用可能）で表示するように設定するまでは表示されません。役割が割り当てられた各ユーザー

一は、自分の設定をパーソナライズできるため、使用可能なタブをデフォルトで表示するように設定できます。また、各ユーザーは、すべてのタブの表示順序を指定することもできます。

- ユーザーから隠すタブは「使用不可タブ」セクションに残します。

注: 「使用不可タブ」セクションから「使用可能タブ」または「選択されたタブ」セクションにタブを移動した場合、そのタブがユーザーに対して使用可能になるのは、役割管理ウィザードウィザードのステップ 2（「レコードタイプアクセス」）でレコードタイプに対して「アクセス可能」チェックボックスをオンにした場合のみです。

ヒント: 特定の範囲のタブを同時に移動するには、Shift キーを押しながら、その範囲の先頭のタブをクリックし、次に、最後のタブをクリックします。その後、右向きまたは左向き矢印をクリックします。

- 5 ステップ 6 の「ページレイアウト割当」で、レコードタイプごとに、ページビュータイプが静的か動的かを選択し、そのビュータイプで使用可能なページレイアウトのリストからレイアウトを選択します。

ページレイアウトによって、様々なレコードタイプの「作成」、「編集」、「詳細」の各ページに表示されるフィールドとセクションが決定されます。Oracle CRM On Demand には、レコードタイプごとに標準のページレイアウトがあらかじめ用意されています。標準のページレイアウトは静的なページレイアウトで、削除できません。したがって、「ページビュータイプ」フィールドの「静的」オプションは常に使用可能です。「動的」オプションを使用できるのは、レコードタイプに対して使用可能な動的なページレイアウトがある場合のみです。企業の管理者は、レコードタイプに対してカスタマイズされた追加の静的または動的なページレイアウトを作成できます。

レコードタイプごとに、標準のページレイアウトとレコードタイプに対して作成された任意のページレイアウトを役割への割り当てに使用できます。静的および動的なページレイアウトの作成方法の詳細は、「[レコードタイプ別の「アプリケーションカスタマイズ」ページ](#)（ページ 90）」を参照してください。

レコードタイプに対するデフォルトのページレイアウトは、そのレコードタイプの標準の静的なページレイアウトです。

注: 役割管理ウィザードのステップ 6 で表示されるレコードタイプのリストは、Oracle CRM On Demand によって決定されます。Oracle CRM On Demand にタブとして表示されない、「ユーザー管理」や「ユーザー所有者」などのレコードタイプが表示される場合があります。

- 6 レコードタイプの関連情報タブに対してレコードインジケータ設定を構成するには、ステップ 6 の「ページレイアウト割当」で、次の手順を実行します。

- a そのレコードタイプの行で、「タブビューのレコードインジケータ」カラム内の「設定」リンクをクリックし、レコードインジケータ設定を構成するページをオープンします。

- b レコードインジケータを表示する必要がある各関連情報セクションを、「使用可能関連情報」リストから「選択した関連情報」リストに移動します。

注: 現在そのレコードタイプ用に役割に対して選択されている「詳細」ページレイアウトで使用できない関連情報セクションを含め、そのレコードタイプでサポートされているすべての関連情報セクションを選択可能です。レコードインジケータの設定は、設定を再度変更するまで、その役割のレコードタイプに適用されたままとなります。そのため、レコードタイプ用にその役割に割り当てられている「詳細」ページレイアウトを更新した場合、レコードインジケータ設定はその更新したレイアウトに適用されます。同様に、後でその役割に別の「詳細」ページレイアウトを割り当てた場合、レコードインジケータ設定はその新しいページレイアウトに適用されます。

- c レコードタイプに対するレコードインジケータ設定の構成が終了したら、「前へ」をクリックしてウィザードのステップ 6 のメインページに戻ります。

- d この役割に対してレコードインジケータ設定を構成する必要がある各レコードタイプに、この手順のステップ a から c を繰り返します。

注: 役割に「詳細ページのパーソナライズ - レコードインジケータ」権限が含まれているユーザーは、レコードタイプの「詳細」ページのレコードインジケータ設定をパーソナライズできます。ユーザーがレコードインジケータについてパーソナライズした設定は、役割レベルでの設定より優先されます。ただし、ページレイアウトをデフォルトレイアウトにリセットすることで、レコードインジケータについてパーソナライズした設定を含め、役割のレコードタイプに対する、パーソナライズしたすべてのページレイアウトを削除できます。役割に「詳細ページのパーソナライズ - レコードインジケータ」権限が含まれているユーザーは、レコードタイプに対するパーソナライズした独自のレコードインジケータ設定を、役割のそのレコードタイプに対するデフォルト設定にリセットすることもできます。ページレイアウトのリセットの詳細は、「[パーソナライズページレイアウトのリセット \(ページ 297\)](#)」を参照してください。レコードインジケータの詳細は、「[Oracle CRM On Demand の各ページについての概要](#)」を参照してください。また、レコードインジケータの設定のパーソナライズの詳細は、「[関連情報セクション用のレコードインジケータの管理](#)」を参照してください。

- 7** ステップ 7 の「検索レイアウト割当」で、レコードタイプごとに、使用可能な検索レイアウトのリストから検索レイアウトを選択します。

リストされたレコードタイプごとに、使用可能なレイアウトのリストが「検索レイアウト名」フィールドに表示されます。検索レイアウトによって、ユーザーがレコードの検索時に使用できるフィールド（標準フィールドとカスタムフィールド）と、検索結果ページに表示されるフィールドが決定されます。使用可能なほとんどのプライマリレコードタイプの検索レイアウトは、タブとして役割に割り当てることができます。また、検索可能な他のレコードタイプ（「製品」、 「ユーザー」 など）に検索レイアウトを割り当てることができます。カスタマイズされた検索レイアウトの作成および変更方法の詳細は、「[検索レイアウトの管理 \(ページ 167\)](#)」を参照してください。

- 8** ステップ 8 の「ホームページレイアウト割当」で、レコードタイプごとに、使用可能なホームページレイアウトのリストからホームページレイアウトを選択します。

リストされたレコードタイプごとに、標準のホームページレイアウト、およびレコードタイプに対して作成された任意のホームページレイアウトを役割に割り当てることができます。レコードタイプのリストには、役割に対してタブとして使用可能なプライマリレコードタイプがすべて表示されます。

ホームページレイアウトによって、レコードタイプごとにホームページに表示される情報が決定されます。Oracle CRM On Demand には、タブとして表示可能なプライマリレコードタイプごとにデフォルトのホームページレイアウトがあらかじめ用意されています。ユーザーは、カスタマイズされた追加のホームページレイアウトをレコードタイプに対して作成できます。ホームページレイアウトの作成方法の詳細は、「[レコードホームページレイアウトの作成 \(ページ 175\)](#)」を参照してください。

- 9** （オプション）ステップ 9 「新規レコードレイアウトの割当」で、レコードタイプごとに、ユーザーが新しいレコードの情報を入力するページに使用されるレイアウトを指定します。次の表では、役割管理ウィザードのステップ 9 のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
新規レコードレイアウト名	管理者は、ユーザーが新しいレコードの情報を入力するページのカスタムレイアウトを設定できます。レコードタイプに対してこのようなカスタムレイアウトが作成されている場合、新規レコードレイアウト名フィールドのリストからカスタムレイアウトを選択できます。デフォルトでは、このフィールドでは値は選択されていません。この項目を空白のままにすると、役割管理ウィザードのステップ 6 の「詳細」ページで役割に割り当てられたレイアウトは、ユーザーがレコードタイプの項目レイアウトをパーソナライズしていないかぎり（パーソナライズしている場合はパーソナライズレイアウトが使用されます）、ユーザーが新しいレコードの情報を入力するページにも使用されます。

フィールド	説明
簡易作成リンクのみ	次のように、新規レコードレイアウト名フィールドで選択するカスタムレイアウトを使用するタイミングを指定する場合、このチェックボックスを使用します。 - このチェックボックスをオフにすると、レコードが Oracle CRM On Demand 内のエリアから作成された場合、選択したカスタムレイアウトが使用されます。 - このチェックボックスをオンにすると、ユーザーが選択するレイアウトでは、ユーザーがアクションバーまたはグローバルヘッダーを使用してレコードを作成する場合のみレイアウトを使用するように指定できます。ユーザーが Oracle CRM On Demand 内の他のエリアからレコードを作成する場合、ユーザーがレコードタイプの項目レイアウトをパーソナライズしていないかぎり（パーソナライズしている場合はパーソナライズレイアウトが使用されます）、役割の [詳細] ページのレイアウトが使用されます。 注: 新規レコードレイアウト名フィールドでレイアウトを選択しなかった場合は、簡易作成リンクのみチェックボックスが適用されます。

- 1 [終了] をクリックします。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) (ページ 265)
- [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) (ページ 268)
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [役割の権限について](#) (ページ 270)

アクセスプロファイル管理

Oracle CRM On Demand では、[アクセスプロファイルリスト] ページとアクセスプロファイルウィザードでアクセスプロファイル进行管理します。アクセスプロファイルのページには、Oracle CRM On Demand のすべてのページにあるグローバル [管理] リンクからアクセスします。

Oracle CRM On Demand のアクセスプロファイルは、プライマリレコードタイプと関連レコードタイプに対する権限の名前付きコレクションです。

プライマリレコードタイプは、独立レコードタイプとして使用できるレコードタイプです。関連レコードタイプは、親レコードを持つ必要があるレコードタイプです。

多くのプライマリレコードタイプは関連レコードタイプとしても使用できます。たとえば、[商談] は関連レコードタイプです。これは [商談] プライマリレコードタイプに基づいており、親取引先レコード（[取引先] レコードタイプに基づく）に関連しています。

権限は、レコードタイプのインスタンスであるレコードのデータの読み取り、作成、更新または削除を可能にするものです。権限は、アクセス権やアクセスレベルと呼ばれることもあります。取引先、担当者、サービスリクエストなど、レコードタイ

プごとに、レコードタイプそのものの権限を設定できます。一部のレコードタイプについては、関連レコードタイプの権限も設定できます。

プライマリレコードタイプと関連レコードタイプの様々な権限で構成される多数のアクセスプロファイルを設定できます。このような権限を認証されたユーザー（外部システムを含む）に付与するには、アクセスプロファイルを役割、ブック、チームおよびグループに関連付けます。

Oracle CRM On Demand では、定義済みのアクセスプロファイルのセットが提供されます。次に、標準のアクセスプロファイルの一部を示します。

- [編集](#)
- [全部](#)
- [読み取り専用](#)
- [管理者のデフォルトアクセスプロファイル](#)
- [管理者の所有者アクセスプロファイル](#)

通常、アクセスプロファイルには、デフォルトアクセスプロファイルと所有者アクセスプロファイルを区別するために名前が付いています。（定義済みのアクセスプロファイルのリストには、名前にデフォルトと所有者という語を含む対のアクセスプロファイルがあります。）所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルを割り当てる必要がある場合、ユーザー役割へのアクセスプロファイル割当てでどのアクセスプロファイルを使用するかを決めるときに、このような名前が役立ちます。

[編集]、[全部]、[読み取り専用]のアクセスプロファイルは、すべての役割、チームまたはブックメンバーに付与できる一般のアクセスプロファイルです。たとえば、[全部]アクセスプロファイルを、管理者役割の所有者アクセスプロファイルに割り当てることができます。このプロファイルは、管理者役割を持つユーザーに、トップレベルレコードに対する関連レコードの作成、すべてのプライマリレコードタイプとその関連レコードタイプのレコードの取得、更新または削除の権限を与えます。

定義済みのアクセスプロファイルの使用、既存のアクセスプロファイルの編集、カスタムアクセスプロファイルの作成を行って、企業のニーズを満たすことができます。新しいアクセスプロファイルを作成するときには、既存のアクセスプロファイルをコピーし、新しい名前を付け、ニーズに合うようにそのコピーを編集するという方法もあります。

社内のアクセスプロファイルを表示、作成または改訂するには、[役割およびアクセスの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。アクセスプロファイルの管理に必要な権限は企業の管理者のみに付与することをお勧めします。アクセスプロファイルは保護データのセキュリティに直接影響するためです。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [チーム、グループおよびブックのアクセスプロファイルについて](#) (ページ 282)
- [チームの継承によるアクセスの適用について](#) (ページ 283)
- [\[アクセスプロファイルリスト\] ページの使用](#) (ページ 285)
- [プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 286)
- [関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 287)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

役割のアクセスプロファイルについて

Oracle CRM On Demand の各役割には次の 2 つのアクセスプロファイル割当があります。

- デフォルトアクセスプロファイル割当
- 所有者アクセスプロファイル割当

1 つのアクセスプロファイルを複数の役割に割り当てることができます。同一のアクセスプロファイルが、1 つの役割のデフォルトアクセスプロファイルと所有者アクセスプロファイルの両方になるように割り当てることができます。たとえば、[全部] アクセスプロファイル（定義済みアクセスプロファイルの 1 つ）を、管理者役割のデフォルトアクセスプロファイルと所有者アクセスプロファイルとして割り当てることができます。

アクセスプロファイルは、役割管理ウィザードのステップ 3 で役割に割り当てます。役割を追加する方法の詳細は、「[役割の追加](#)（ページ 272）」を参照してください。

デフォルトアクセスプロファイル

役割のデフォルトアクセスプロファイルでユーザーのアクセス権が制御されるレコードは、そのユーザーが所有していないが、ユーザーの役割のレコードタイプアクセス設定で関連するレコードタイプについて [すべてのレコードを読み取り可能] オプションが選択されたためにユーザーに表示できるレコードです。

ユーザーの役割でレコードタイプについて [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスをオフにした場合、そのユーザーは役割を介してそのレコードタイプのアクセス権を取得できません。ユーザーの役割のデフォルトアクセスプロファイルはそのレコードタイプに対しては使用されません。

アクセスプロファイルの命名規約に従って、デフォルトアクセスプロファイルとして割り当てのためにアクセスプロファイルを設定するときは、次のように名前が付けられます。

役割名デフォルトアクセスプロファイル

説明：

- 役割名は、アクセスプロファイルが使用される役割の名前です。

たとえば、管理者デフォルトアクセスプロファイルという名前は、このアクセスプロファイルが、管理者役割に関してレコードタイプとその関連レコードタイプのアクセス権を制御することを意味します。

所有者アクセスプロファイル

役割の所有者アクセスプロファイルは、ユーザーが所有しているレコードまたはユーザーの部下が所有しているレコードに対するそのユーザーのアクセス権を制御します。

アクセスプロファイルの命名規約に従って、所有者アクセスプロファイルとして割り当てられるようにアクセスプロファイルを設定するときは、次のように名前が付けられます。

role name 所有者アクセスプロファイル

説明：

- 役割名は、アクセスプロファイルが使用される役割の名前です。

たとえば、サービス管理者所有者アクセスプロファイルという名前は、このアクセスプロファイルが、サービス管理者役割に関してレコードタイプとその関連レコードタイプのアクセス権を制御することを意味します。

関連トピック

アクセスプロファイルの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

役割の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) (ページ 265)
- [役割の設定に関するガイドライン](#) (ページ 266)
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) (ページ 268)
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) (ページ 269)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)
- [役割の権限について](#) (ページ 270)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

チーム、グループおよびブックのアクセスプロファイルについて

アクセスプロファイルは、チームまたはグループのメンバーであるユーザー（ユーザーブックを介して）や、カスタムブックに関連付けられているユーザーにアクセス権を与えるために使用されます。（「[役割のアクセスプロファイルについて](#)（ページ 281）」で説明するように、アクセスプロファイルは役割にも割り当てられます。）アクセスプロファイルをチームとブックに関してユーザーに割り当てると、役割に割り当てられたアクセスプロファイルで提供されるアクセス権で制限されていたとしても、ユーザーはレコードにアクセスできます。

注:Oracle CRM On Demand では、デフォルトブックは各ユーザーに割り当てられ、ユーザーの名前が付けられます。レコードがユーザーに割り当てられると、レコードはユーザーのデフォルトブックに割り当てられます。レコードがチームにより所有されている場合、チームはそのチームのメンバーとなっているユーザーの一連のデフォルトブックを代表します。ユーザーがチームのメンバーになると、そのユーザーのユーザーブックは、チームを構成するユーザーブックのセットに追加されます。ユーザーブックに自動的にレコードが関連付けられるのは、レコード所有者が変更された場合や、チームメンバーシップが変更された場合です。

グループは、特定のレコードタイプに対してサポートされる定義済みのチームです。あるレコードの所有者がグループのメンバーであるとき、そのグループの他のメンバーはそのレコードに関するチームに自動的に追加されます。グループメンバーには、デフォルトでレコードに対する完全なアクセス権が与えられ、アクセスレベルを変更できません。

チーム内の各ユーザーブックには、チームのメンバーシップを介してアクセスできるレコードのユーザーアクセス権を制御するアクセスプロファイルを与える必要があります。アクセスプロファイルの「☐ チームメンバーに付与可能」チェックボックスをオンにすると、任意のアクセスプロファイルをチームメンバーシップへの割当対象にすることができます。

同じく、カスタムブックに関連付けられている各ユーザーには、そのカスタムブックでレコードへのユーザーアクセスを制御するアクセスプロファイルを与える必要があります。アクセスプロファイルの「☐ ブックユーザーに付与可能」チェックボックスをオンにすると、任意のアクセスプロファイルをブックとユーザーの関連付けへの割当対象にすることができます。

ユーザーブックおよびカスタムブックの詳細は、「[ブックの管理](#)（ページ 299）」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

チームの継承によるアクセスの適用について

チーム継承とは、取引先にリンクされているレコードのチームへの取引先チームのメンバーの自動追加です。チーム継承は、親取引先に関連する担当者と商談のオプションとして使用可能です。チーム継承は、他のタイプのチーム関係ではサポートされません。

注意: ユーザーがチームのメンバーになると、そのユーザー用のユーザーブックが、そのチームを構成するユーザーブックのセットに追加されます。Oracle CRM On Demand では、チーム継承機能によってチームに追加されるユーザーと、手動でチームに追加されるユーザーは区別されません（つまり、チーム継承機能によってチームに追加されるユーザーブックは、手動でチームに追加されるユーザーブックと同様に扱われます）。

担当者レコードタイプの場合のチーム継承について

[担当者]レコードタイプの場合、チーム継承は、[企業プロファイル] ページの担当者の[親チーム継承の有効化]チェックボックスで制御されます。このチェックボックスが選択されている場合、親取引先にリンクされている担当者上のチームは、次のように親取引先チームのメンバーを継承します。

- 担当者が親取引先に関連する場合：
 - 取引先チームについてユーザーレコードで [担当者アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、各取引先チームメンバー（取引先所有者を含む）は、担当者チームのメンバーになります。
 - [全部] アクセスプロファイルが非アクティブ化されている場合でも、取引先の所有者には、担当者チームのメンバーシップに関して [全部] アクセスプロファイルがデフォルトで付与されます。
- 取引先チームに新しいメンバーを追加する際には、その取引先に関連する担当者のチームのユーザーのメンバーシップが次のように決定されます。
 - 取引先チームのユーザーレコードの [担当者アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、取引先チームの新しいメンバーは、その取引先に関連する各担当者の担当者チームのメンバーにもなります。また、各関連担当者の担当者チームのそのユーザーのアクセスプロファイルは、取引先チームのユーザーのアクセスプロファイルと同じになるように更新されます。
 - 取引先チームのユーザーレコードの [担当者アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されていない場合、取引先チームの新しいメンバーは、その取引先に関連するどの担当者の担当者チームにも追加されません。ユーザーが取引先に関連する担当者の担当者チームのメンバーに既になっている場合は、その担当者の担当者チームからそのユーザーが削除されます。
- 取引先所有者が変更される場合：
 - 関連するすべての担当者レコードに関して、新しい所有者が担当者チームのメンバーになります。
 - 前の取引先所有者は、前の取引先所有者がすでに追加されていた担当者チームのメンバーのまま残ります。
- ユーザーを取引先チームから削除しても、そのユーザーは、チーム継承によって追加されていた担当者チームのメンバーとして残ります。

商談レコードタイプの場合のチーム継承について

[商談]レコードタイプの場合、チーム継承は、[企業プロファイル] ページの商談の[親チーム継承の有効化]チェックボックスで制御されます。このチェックボックスが選択されている場合、親取引先にリンクされている商談上のチームは、次のように親取引先チームのメンバーを継承します。

- 商談が親取引先に関連する場合：
 - 取引先チームについてユーザーレコードで [商談アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、各取引先チームメンバー（取引先所有者を含む）は、商談チームのメンバーになります。
 - [全部] アクセスプロファイルが非アクティブ化されている場合でも、取引先の所有者には、商談チームのメンバーシップに関して [全部] アクセスプロファイルが付与されます。
- 取引先チームに新しいメンバーを追加する際には、その取引先に関連する商談のチームのユーザーのメンバーシップが次のように決定されます。
 - 取引先チームのユーザーレコードの [商談アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、取引先チームの新しいメンバーは、その取引先に関連する各商談の商談チームのメンバーにもなります。また、各関連商談の商談チームのそのユーザーのアクセスプロファイルは、取引先チームのユーザーのアクセスプロファイルと同じになるように更新されます。
 - 取引先チームのユーザーレコードの [商談アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されていない場合、取引先チームの新しいメンバーは、その取引先に関連するどの商談の商談チームにも追加されません。ユーザーが取引先に関連する商談の商談チームのメンバーに既になっている場合は、その商談の商談チームからそのユーザーが削除されます。
- 取引先所有者が変更される場合：
 - 関連するすべての商談レコードに関して、新しい所有者が商談チームのメンバーになります。
 - 前の取引先所有者は、前の取引先所有者がすでに追加されていた商談チームのメンバーのまま残ります。
- ユーザーを取引先チームから削除しても、そのユーザーは、チーム継承によって追加されていた商談チームのメンバーとして残ります。

チーム継承が無効化された場合に起こること

関連する担当者レコードおよび商談レコード上のチームのメンバーになる取引先チームメンバーに、チーム継承によって付与されるアクセス権が多すぎる場合があります。その場合は、[企業プロファイル] ページ上で関連するチェックボックスを選択解除することによって、[担当者]レコードタイプまたは[商談]レコードタイプ、あるいはそれら両方に対してチーム継承を無効にできます。

[担当者]レコードタイプに対してチーム継承を無効にすると、取引先チームおよび担当者チームのメンバーシップの動作は次のようになります。

- 取引先チームのユーザーレコード内の [担当者アクセス] フィールドは表示されません。
- 取引先チームの新しいメンバーとして追加されるユーザーは、取引先にリンクされる担当者上の担当者チームには追加されません。
- 前に [担当者]レコードタイプに対してチーム継承が有効になっており、それを無効にした場合は、チーム継承機能によってチームのメンバーになったユーザーは、それらのチームのメンバーとして残ります。

[商談]レコードタイプに対してチーム継承を無効にすると、取引先チームおよび商談チームのメンバーシップの動作は次のようになります。

- 取引先チームのユーザーレコード内の [商談アクセス] フィールドは表示されません。

- 取引先チームの新しいメンバーとして追加されるユーザーは、取引先にリンクされる商談上の商談チームには追加されません。
- 前に[商談]レコードタイプに対してチーム継承が有効になっており、それを無効にした場合は、チーム継承機能によってチームのメンバーになったユーザーは、それらのチームのメンバーとして残ります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

「アクセスプロファイルリスト」 ページの使用

「アクセスプロファイルリスト」 ページでは、次の表のアクションを実行できます。

操作	手順
新しいアクセスプロファイルの追加	「アクセスプロファイルリスト」 ページのタイトルバーの「新規」をクリックします。アクセスプロファイルウィザードが開きます。 アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「アクセスプロファイルの設定プロセス (ページ 293)」を参照してください。
既存のアクセスプロファイルのコピーによる新しいアクセスプロファイルの追加	アクセスプロファイル名の横のレコードレベルメニューで「コピー」を選択します。アクセスプロファイルウィザードが開きます。 アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「アクセスプロファイルの設定プロセス (ページ 293)」を参照してください。
アクセスプロファイルの無効化	アクセスプロファイルの「無効化」チェックボックスをオンにします。 アクセスプロファイルを無効にすると、役割、チームまたはブックとの新たな関連付けで使えなくなります。ただし、無効になったアクセスプロファイルは、別のアクセスプロファイルを役割、チームまたはブックに割り当てたまま役割、チームまたはブックに関連付けられていたアクセスプロファイルとして引き続き機能します。
アクセスプロファイルリストを表示する言語の選択	「アクセスプロファイルリスト」 ページのタイトルバーにある「翻訳言語」フィールドで、アクセスプロファイルのリストを表示する言語を選択します。Oracle CRM On Demand でその企業に対してサポートされている任意の言語でリストを表示できます。 注:既存のアクセスプロファイルに翻訳済みのアクセスプロファイル名がない場合、アクセスプロファイル名は翻訳されず、カッコ内に表示されます。

アルファベット文字検索機能を使用できる場合は、アルファベット文字検索でアクセスプロファイルのリストをフィルター処理できます。アルファベット文字検索の詳細は、「リストのフィルター処理」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて

プライマリレコードタイプのアクセス権を付与または無効化するには、アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 でアクセスレベルを設定します。アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。

アクセスレベルは、レコードタイプに関して付与できる最も許容度が低いレベルの権限です。各プライマリレコードタイプでは、1 つ以上のアクセス制御コンポーネント（役割、レポート階層、チームおよびブック）を介してこのアクセスプロファイルを継承するすべてのユーザーのアクセス権を指定します。たとえば、ユーザーが商談リストから商談にドリルダウンするとき、ユーザーが商談の詳細を表示して操作を実行するためのアクセス権は、アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 の「商談」プライマリレコードタイプのアクセスレベルによって制御されます。

プライマリレコードタイプのアクセスレベルに関するここでの説明は、アクセスレベルが個別に動作する場合の機能に関するものです。ユーザーが表示できるレコードとユーザーがレコードに対して実行できる操作は、1 つ以上のアクセスレベルの組合せで制御され、これらのアクセスレベルは 1 つ以上のアクセスプロファイルによってレコードに適用されます。

特別の権限によって制御されるレコードタイプは、すべてのアクセスプロファイルに表示され、アクセスレベルがデフォルトで設定されています。プライマリレコードタイプの場合、デフォルト設定は「読み取り専用」です。様々なレコードタイプで必要なアクセスレベルをユーザーに与えるには、デフォルト設定を変更する必要があります。

各プライマリレコードタイプのアクセスレベルは、次のいずれかに設定できます。

- **読み取り専用。**「読み取り専用」アクセスレベルでは、ユーザーはプライマリレコードに対して編集または削除などの操作を実行できません。
- **読み取り / 編集。**「読み取り / 編集」アクセスレベルでは、ユーザーがプライマリレコードを表示して編集できます。
- **読み取り / 編集 / 削除。**「読み取り / 編集 / 削除」アクセスレベルでは、ユーザーはプライマリレコードの表示、編集および削除を実行できます。

注: プライマリレコードタイプのレコードを作成する権限は、アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 の設定では制御されません。プライマリレコードタイプのレコードを作成する権限は、役割管理ウィザードのステップ 2 の設定で制御されます。役割の詳細は、「[役割管理](#) (ページ 265)」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

関連するレコードタイプのアクセスレベルについて

アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 で、関連レコードタイプへのアクセス権を付与または無効化します。アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。

特別な権限によって制御される関連レコードタイプは、すべてのアクセスプロファイルに表示され、アクセスレベルがデフォルトで「アクセスなし」に設定されます。様々なレコードタイプに必要なアクセスレベルをユーザーに与えるには、デフォルト設定を変更する必要があります。

たとえば、[カスタムオブジェクト 04] レコードタイプは、親の [商談] レコードタイプの関連レコードタイプです。[全部] アクセスプロファイルでは、[カスタムオブジェクト 04] 関連レコードタイプのアクセスレベルはデフォルトの「アクセスなし」に設定されています。この結果、商談チームに所属し [全部] アクセスプロファイルを持つユーザーは、[カスタムオブジェクト 04] 関連レコードタイプに基づく関連レコードタイプを表示できません。ユーザーが商談レコードについて [カスタムオブジェクト 04] レコードを表示できるようにするには、デフォルトアクセスレベルを変更する必要があります。

このトピックの内容は次のとおりです。

- レコードの関係
- 関連レコードタイプのアクセスレベルオプション

レコードの関係

親レコードタイプとその関連レコードタイプ（子レコード）の関係によって、関連レコードタイプに割り当てられるアクセスレベルオプションが決まります。

関係のタイプと対応するアクセスレベルオプションを次に示します。

- **1 対多関係。** 1 対多関係では、親レコードが関連レコードタイプの多数の子レコードを持つことができます。たとえば、アクセスプロファイルウィザードの取引先関連情報ページでは、[資産] 関連レコードタイプが使用可能です。[取引先] 親レコードタイプには、[資産] 関連レコードタイプとの 1 対多関係があります。1 対多関係では次のアクセスレベルが使用可能です。
 - 表示
 - 読み取り専用
 - アクセスなし
- **1 対多プライマリ関係。** 1 対多プライマリ関係では、関連レコードタイプがプライマリレコードタイプに基づいており、プライマリレコードタイプのアクセス権によって関連レコードタイプのアクセス権を決定できます。1 対多プライマリ関係の親レコードは、関連レコードタイプの多数の子レコードを持つことができます。たとえば、取引先関連情報ページの [商談] 関連レコードタイプは、[商談] プライマリレコードタイプに基づきます。[取引先] 親レコードタイプには、[商談] 関連レコードタイプとの 1 対多プライマリ関係があります。次のアクセスレベルが 1 対多プライマリ関係で使用可能です。
 - 表示
 - 読み取り専用
 - アクセスなし
 - プライマリの継承
- **1 対子関係。** 1 対子関係では、子レコードが基づくレコードタイプに対応するプライマリレコードタイプがありません。[添付資料]、[メモ] および [チーム] は、対応するプライマリレコードタイプがない関連レコードタイプの例です。

注:このルールの例外は、商談に対する担当者子レコード間の関係です。[担当者]レコードタイプには対応するプライマリレコードタイプがありますが、商談と担当者との関係は 1 対子関係です。ユーザーは、既存の担当者の商談への追加や、商談からの担当者の削除を行えます。ユーザーは、商談から新しい担当者を作成することはできません。

次のアクセスレベルが 1 対子関係で使用可能です。

- 読み取り/作成
 - 読み取り/作成/編集
 - 読み取り/編集
 - 読み取り/編集/削除
 - 読み取り専用
 - アクセスなし
 - 全部
- **1 対読み取り専用関係。**ただし、関係の名前からわかるように、1 対読み取り専用関係ではユーザーは子レコードを編集または作成できません。[監査証跡] は、対応するプライマリレコードタイプがない関連レコードタイプの例です。Oracle CRM On Demand によって [監査証跡] レコードタイプが作成されます。1 対読み取り専用関係では次のアクセスレベルが使用可能です。
- 読み取り専用
 - アクセスなし
- **多対多関係。**多対多関係では、親レコードタイプおよび関連レコードタイプがどちらもプライマリレコードタイプに基づいており、関係の表示方法に応じて、各レコードタイプのレコードが互いの親または子になることができます。たとえば、アクセスプロファイルウィザードのカスタムオブジェクト 01 関連情報ページの [取引先] 関連レコードタイプは、[取引先] プライマリレコードタイプに基づきます。[カスタムオブジェクト 01] 親レコードタイプには、[取引先] 関連レコードタイプとの多対多関係があります。
- 注意:** 2 つのレコードタイプ間の関係は、どちらのレコードタイプが親であるか、ならびにどちらのレコードタイプが関連レコードタイプであるかによって異なる場合があります。たとえば、[カスタムオブジェクト 01] 親レコードタイプには [取引先] 関連レコードタイプとの多対多関係がありますが、[取引先] 親レコードタイプには [カスタムオブジェクト 01] 関連レコードタイプとの多対多プライマリ関係があります。
- 多対多関係では次のアクセスレベルが使用可能です。
- 読み取り/作成
 - 読み取り専用
 - 表示
 - アクセスなし
- **多対多プライマリ関係。**多対多プライマリ関係は、親レコードタイプおよび関連レコードタイプの両方がプライマリレコードタイプに基づく関係でもあり、各レコードタイプのレコードが互いの親または子になることができます。ただし、プライマリレコードタイプのアクセス権によって関連レコードタイプのアクセス権を決定できる場合には、いくつかの追加アクセスレベルが使用可能です。たとえば、アクセスプロファイルウィザードアカウントの取引先関連情報ページの [カスタムオブジェクト 01] 関連レコードタイプは、[カスタムオブジェクト 01] プライマリレコードタイプに基づきます。[取引先] 親レコードタイプには、[カスタムオブジェクト 01] 関連レコードタイプとの多対多プライマリ関係があります。次のアクセスレベルが多対多プライマリ関係で使用可能です。
- 読み取り/作成

- 読み取り専用
- 表示
- アクセスなし
- プライマリの継承
- プライマリの追加/継承
- プライマリの追加/削除/継承

注意: [読み取り/作成] アクセスレベルは、コール製品詳細メッセージ応答、コール製品詳細メッセージプラン項目関係およびコール製品詳細メッセージプラン項目のレコードタイプではサポートされていません。

関連レコードタイプのアクセスレベルオプション

関連レコードタイプのすべてのアクセスレベルオプションを次に示します。

- **アクセスなし。** [アクセスなし] オプションは、すべての関連レコードタイプで使用可能です。ユーザーは関連リストのレコードを表示できません。
- **読み取り専用。** [読み取り専用] アクセスレベルでは、ユーザーは親レコードでの関連レコードのインライン編集を行えません。
- **読み取り/作成。** [読み取り/作成] アクセスレベルは、1 対子レコードである関連レコードタイプまたは多対多関係に含まれる関連レコードタイプで使用できます。1 対子レコードでは、[読み取り/作成] アクセスレベルによりユーザーが新しいレコードの作成や詳細を表示するための既存のレコードのドリルダウンを行えますが、レコードの編集または削除は行えません。多対多関係では、[読み取り/作成] アクセスレベルによりユーザーは既存のレコードを親レコードに対する子レコードとして関連付けることができますが、既存の関連付けを削除することはできません。
- **読み取り/作成/編集。** [読み取り/作成/編集] アクセスレベルは、1 対子レコードである関連レコードタイプで使用できます。ユーザーは、新規レコードの作成や詳細を表示するための既存レコードのドリルダウン、また必要な場合にはレコードの編集を行えます。[読み取り/作成/編集] アクセスレベルではユーザーは子レコードを削除できません。
- **読み取り/編集。** [読み取り/編集] アクセスレベルは、1 対読み取り専用関係の読み取り専用である関連レコードを除き、すべての関係で使用可能です。[読み取り/編集] アクセスレベルでは、ユーザーが関連レコードを表示および編集できます。
- **読み取り/編集/削除。** [読み取り/編集/削除] アクセスレベルは、1 対子関係の子レコードである関連レコードタイプで使用可能です。[読み取り/編集/削除] アクセスレベルでは、ユーザーはレコードの詳細を表示するための既存レコードのドリルダウン、レコードの編集、またはレコードの削除を行うことができます。[読み取り/編集/削除] アクセスレベルでは、ユーザーは新しい子レコードを作成することはできません。
- **全部。** [全部] アクセスレベルは、対応するプライマリレコードタイプがない関連レコードタイプで使用可能です。そのようなレコードタイプでは、[全部] アクセスレベルにより、ユーザーがレコードの作成、表示、編集および削除を行えます。
- **表示。** [表示] アクセスレベルは、1 対多および多対多関係の関連レコードタイプでのみ使用可能です。[表示] アクセスレベルでは、関連レコードの動作は次のとおりです。
 - 親レコードに関連するすべての子レコードは、ユーザーに子レコード自体を参照する権限があるかどうかに関係なく、関連レコードのリストに表示されます。
 - 関連する各レコードは、関係の親レコードタイプのアクセスレベルではなく、自分のプライマリレコードタイプのアクセスレベルを継承します。

たとえば、[取引先] 親レコードタイプの [商談] 関連レコードタイプのアクセスレベルが [表示] に設定されている場合、関連する商談レコードの動作は、次のようになります。

- 親取引先レコードに関連するすべての商談は、ユーザーに商談レコードを参照する権限があるかどうかに関係なく、関連レコードのリストに表示されます。
- 各商談レコードは、親の「取引先」レコードタイプからではなく、プライマリの [商談] レコードタイプからアクセスレベルを継承します。ユーザーがレコードの詳細を確認するために関連する商談レコードのドリルダウンを試みると、商談レコードが引き続き存在していて、ユーザーにその商談レコードの詳細を表示する権限がある場合にのみ、操作は正常に実行されます。ユーザーにその商談レコードの詳細を参照する権限がない場合は、エラーメッセージが表示されます。
- **プライマリの継承。** [プライマリの継承] アクセスレベルは、特定の 1 対多および多対多関連レコードタイプのみで使用できます。[プライマリの継承] アクセスレベルでは、関連レコードの動作は次のとおりです。
 - 関連レコードのリストには、ユーザーに参照権限がある関連する子レコードのみが表示されます。
 - 関連する各レコードは、関係の親レコードタイプのアクセスレベルではなく、自分のプライマリレコードタイプのアクセスレベルを継承します。

たとえば、[取引先] 親レコードタイプの [商談] 関連レコードタイプのアクセスレベルが [プライマリの継承] に設定されている場合、関連する商談レコードの動作は、次のようになります。

- 関連レコードのリストには、ユーザーに参照権限がある関連する商談レコードのみが表示されます。
- 各商談レコードは、親の「取引先」レコードタイプからではなく、プライマリの [商談] レコードタイプからアクセスレベルを継承します。ユーザーがレコードの詳細を確認するために関連する商談レコードのドリルダウンを試みると、ユーザーには関連レコードのリストのすべての商談レコードの詳細を参照する権限があるため、商談レコードが引き続き存在している場合は、操作が常に正常に実行されます。

多対多関係では、[プライマリの継承] アクセスレベルの選択は、ユーザーが 2 つの既存レコードの関係を追加または削除できないことを意味します。ただし、[プライマリの継承] アクセスレベルは、[追加] アクセス権との組合せまたは [追加] アクセス権と [削除] アクセス権との組合せでも使用できます。

注: [プライマリの継承] アクセスレベル（またはこのアクセスレベルの任意の組合せ）が、関連レコードタイプに対して使用されるプロファイルで見つかった場合、[プライマリの継承] 設定が優先されます。たとえば、[プライマリの継承] アクセスレベルと [表示] アクセスレベルの両方が見つかったと、[プライマリの継承] アクセスレベルが [表示] アクセスレベルよりも優先されます。[プライマリの継承]、[読み取り専用]、[表示] アクセスレベルのすべてが見つかった場合、[プライマリの継承] アクセスレベルが [表示] アクセスレベルと [読み取り専用] アクセスレベルよりも優先されます。

- **プライマリの追加/継承。** [プライマリの追加/継承] アクセスレベルは、親との間で多対多関係を共有する関連レコードで使用可能です。[プライマリの追加/継承] アクセスレベルの [プライマリの継承] の部分は、[プライマリの継承] アクセスレベルと同様に機能します。ただし、[プライマリの追加/継承] アクセスレベルでは、ユーザーは既存の関連レコードを親レコードに関連付けることもできます。関連レコードが正常に追加されると、そのレコードはプライマリレコードのアクセスレベルを継承します。[プライマリの追加/継承] アクセスレベルでは、ユーザーは既存の関連レコードを削除できません。
- **プライマリの追加/削除/継承。** [プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルは、親との間で多対多関係を共有する関連レコードで使用可能です。[プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルの [プライマリの継承] の部分は、[プライマリの継承] アクセスレベルと同様に機能します。ただし、[プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルでは、ユーザーは既存の関連レコードの親レコードへの関連付けや、レコード間のリンクの削除（関連解除）を行えます。ユーザーが関連レコードを削除または関連解除しても、レコードは削除されずデータベースに残ります。関連レコードが正常に追加されると、そのレコードはプライマリレコードのアクセスレベルを継承します。

一般的なルールとして、次の表に示す関連レコードタイプについては、レコードタイプが関連レコードタイプとして使用可能なすべての場合に [プライマリの継承] アクセスレベルがサポートされます。ただし、次の例外が適用されます。

- [世帯] 親レコードタイプでは、見込み客関連レコードタイプは [プライマリの継承] アクセスレベルを継承しません。
- [パートナー] 親レコードタイプに対する [商談] 関連レコードタイプでは、[プライマリの継承] アクセスレベルがサポートされません。

次の表に示す関係のアクセスレベルが現在 [表示] に設定されている場合は、アクセスレベルを [表示] から [プライマリの継承] に変更することをお勧めします。

注意: [完了済み活動] 関連レコードタイプに設定したアクセスレベルが、親レコードの [詳細] ページの [完了済み活動] 関連情報セクションに表示されるレコードに適用されます。[活動] または [オープン活動] 関連レコードタイプに設定したアクセスレベルが、親レコードの [詳細] ページの [活動]、[オープンタスク]、[オープンアポイント]、および [オープン活動] 関連情報セクションに表示されるレコードに適用されます。

関連レコードタイプ
認定リクエスト
活動
出席者コール
ビジネス計画
コール製品詳細メッセージ応答
コール製品詳細メッセージプラン項目関係
コール製品詳細メッセージプラン項目
コール
認定リクエスト
完了済み活動
コース登録
カスタムオブジェクト 01 以降
試験登録
金融口座: 口座名義人
金融口座: 支店
金融口座: 保有する他金融機関
金融口座
見込み客
メッセージ応答
メッセージプラン項目関係
メッセージプラン項目
目標

関連レコードタイプ
オープン活動
商談
計画取引先
計画担当者
計画商談
サービスリクエスト
サブ商談
トランザクション項目

次の表に、[プライマリの継承]、[プライマリの追加/継承]、および [プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルすべてを使用できる関係を示します。この表に示す関係は多対多関係です。

注: [プライマリの継承] アクセルレベルとその組合せをサポートする多対多関係で [読み取り/作成] アクセスレベルを現在使用している場合は、関連レコードタイプの [読み取り/作成] アクセスレベルを [プライマリの継承] の組合せのいずれかに変更することをお勧めします。

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
取引先	カスタムオブジェクト 01 から 03
活動	カスタムオブジェクト 01 から 03
キャンペーン	カスタムオブジェクト 01 から 03
キャンペーン	商談
担当者	コール
担当者	完了済み活動
担当者	カスタムオブジェクト 01 から 03
担当者	オープン活動
担当者	商談
カスタムオブジェクト 01 から 03	完了済み活動
カスタムオブジェクト 01 から 03	カスタムオブジェクト 01 から 03
カスタムオブジェクト 01 から 03	オープン活動
カスタムオブジェクト 01 から 03	見込み客
カスタムオブジェクト 01 から 03	商談
カスタムオブジェクト 01 から 03	サービスリクエスト
自動車ディーラー	カスタムオブジェクト 01 から 03

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
自動車ディーラー	サービスリクエスト
資金	カスタムオブジェクト 01 から 03
世帯	カスタムオブジェクト 01 から 03
見込み客	カスタムオブジェクト 01 から 03
イベント	カスタムオブジェクト 01 から 03
商談	カスタムオブジェクト 01 から 03
パートナー	カスタムオブジェクト 01 から 03
ポートフォリオ	カスタムオブジェクト 01 から 03
サービスリクエスト	カスタムオブジェクト 01 から 03
解決策	カスタムオブジェクト 01 から 03
解決策	サービスリクエスト
車両	カスタムオブジェクト 01 から 03

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)
- [アクセス権の指定方法](#) (ページ 349)

アクセスプロファイルの設定プロセス

このトピックでは、アクセスプロファイルの設定方法について説明します。

注： Oracle CRM On Demand では、アクセスプロファイルに対するあらゆる変更について監査レコードが生成されます。ユーザーの役割に「マスター監査証跡および管理設定の監査へのアクセス」権限が含まれている場合は、アクセスプロファイルに対する変更の監査証跡を表示できます。監査証跡の表示方法の詳細は、「[管理設定変更の監査証跡の確認](#) (ページ 71)」を参照してください。

作業前の準備。 社内のアクセスプロファイルを表示、作成または改訂するには、[役割およびアクセスの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

アクセスプロファイルを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 [アクセスプロファイルの追加](#) (ページ 294)。
- 2 [プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定](#) (ページ 295)。
- 3 [関連レコードタイプのアクセスレベルの指定](#) (ページ 296)。

アクセスプロファイルの追加情報を提供するトピックへのリンクは、「[アクセスプロファイルの関連トピック](#) (ページ 296)」を参照してください。

アクセスプロファイルの追加

アクセスプロファイルは、次の操作によって追加できます。

- 新しいプロファイルを作成する
- 既存のプロファイルをコピーして、アクセスレベルを編集する

次の手順では、アクセスプロファイルの作成方法について説明します。

アクセスプロファイルを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
 - 3 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] リンクをクリックします。
 - 4 [アクセスプロファイル] リストで、次のいずれかの操作を行います。
 - 既存のプロファイルに基づいて新しいプロファイルを作成するには、コピー元のプロファイルの [コピー] をクリックします。
 - 既存のプロファイルをベースにせずに新しいプロファイルを作成するには、タイトルバーの [新規] をクリックします。
- アクセスプロファイルウィザードが開くので、画面の指示に従って手順を完了します。
- 5 アクセスプロファイルウィザードのステップ 1 で、名前と説明を入力し、その他のフィールドを必要に応じて設定します。その他のフィールドの説明は次の表のとおりです。

フィールド	説明
翻訳	[翻訳] チェックボックスは、次の両方の状況でのみ有効です。 ■ 既存のアクセスプロファイル名を変更する場合 ■ 既存のアクセスプロファイル名が 1 つ以上の追加の言語にすでに翻訳されている場合 このような状況では、[翻訳] チェックボックスを使用して、翻訳されたアクセスプロファイル名を新しい名前に置き換えるか、変更しないままにするかを指定できます。[翻訳] チェックボックスの設定に応じて、アクセスプロファイル名の表示は次のようになります。 ■ [翻訳] チェックボックスをオンにすると、アクセスプロファイルリストの表示に使用されている言語に関係なく、新しい名前が入力した言語で表示されます。アクセスプロファイルリストの表示に新しい名前を入力した言語が使用されている場合は、デフォルトフォントで名前が表示されます。ただし、それ以外の言語でアクセスプロファイルリストが表示されている場合は、括弧内に青色のフォントで名前が表示されます。

フィールド	説明
	■ [翻訳] チェックボックスをオフにすると、アクセスプロファイルリストの表示に新しい名前を入力した言語が使用されている場合に、新しい名前が表示されます。ただし、それ以外の言語でアクセスプロファイルリストが表示されている場合は、元の翻訳されたアクセスプロファイル名が引き続き表示されます。 新しいアクセスプロファイルが追加されたときに [翻訳] チェックボックスの選択が影響を及ぼすことはありません。新しいアクセスプロファイルが追加されると、アクセスプロファイルリストには、すべての言語で新しい名前が自動的に表示されます。アクセスプロファイルリストの表示に新しい名前を入力した言語が使用されている場合、新しいアクセスプロファイルの名前はデフォルトフォントで表示されます。それ以外の言語でアクセスプロファイルリストが表示されている場合は、括弧内に青色のフォントで新しいアクセスプロファイルの名前が表示されます。
チームメンバーに付与可能	アクセスプロファイルをチームメンバーに割り当てられるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
ブックユーザーに付与可能	アクセスプロファイルをブックユーザーに割り当てられるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、「 ブックのアクセスプロファイルの作成 (ページ 333)」を参照してください。
無効化	このチェックボックスをオンにすると、アクセスプロファイルが無効になります。無効になったアクセスプロファイルは、役割、チームまたはブックとの新しい関連付けには使用できません。ただし、無効になったアクセスプロファイルは、別のアクセスプロファイルを役割、チームまたはブックに割り当ててまで役割、チームまたはブックに関連付けられていたアクセスプロファイルとして引き続き機能します。

注:定義済みの [編集]、[全部] および [読み取り専用] の各アクセスプロファイルでは、[チームメンバーに付与可能] チェックボックスと [ブックユーザーに付与可能] チェックボックスはデフォルトでオンになっています。そのため、ユーザーがチームまたはブックに別のユーザーを追加すると、[ユーザーを追加] ダイアログボックスまたは [ユーザーを編集] ダイアログボックスに表示されるアクセスプロファイルのピックリストには、定義済みのこれらのアクセスプロファイルが含まれます。ユーザーがこれらの3つのアクセスプロファイルをブック内のユーザーまたはチーム内のユーザーブックに割り当てることができないようにするには、そのアクセスプロファイルに対応するチェックボックスをオフにしてください。

プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定

プライマリレコードタイプのアクセスレベルを指定するには、次の手順を実行します。

プライマリレコードタイプのアクセスレベルを指定するには

- 1 アクセスプロファイルウィザードのステップ2で、各プライマリレコードタイプのアクセスレベルを選択します。次の中から選択します。
 - 読み取り専用
 - 読み取り/編集
 - 読み取り/編集/削除

プライマリレコードタイプのアクセスレベルの詳細は、「[プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 286)」を参照してください。

- 2 プライマリレコードタイプの関連レコードタイプのアクセスレベルを指定する場合は、プライマリレコードタイプの「関連情報」リンクをクリックします。それ以外の場合は、「終了」をクリックして変更を保存します。

ほとんどのレコードタイプには、「関連情報」リンクがあります。関連情報は、レコードの「詳細」ページにリンクされたレコードとして表示されます。関連レコードタイプのアクセスレベルの詳細は、「[関連レコードタイプのアクセスレベルの指定](#) (ページ 296)」を参照してください。

関連レコードタイプのアクセスレベルの指定

関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するには、次の手順を実行します。

関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するには

- 1 アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 で、1 つ以上の関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するプライマリレコードタイプの「関連情報」リンクをクリックします。

- 2 関連情報レコードタイプごとに適切なアクセスレベルを選択します。

各関連レコードタイプのアクセスレベルフィールドに表示されるアクセスレベルのオプションのピックリストは、関連レコードタイプとその親レコードタイプとの関係によって異なります。このフィールドと役割管理ウィザードで設定するアクセスレベルに応じて、そのレコードタイプのレコードをユーザーが作成、更新または表示する権限の付与または無効化を行うことができます。

関連レコードタイプのアクセスレベルの詳細は、「[関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 287)」を参照してください。

注:新しい商談を作成するには、「商談」レコードタイプの「売上」関連レコードタイプのアクセスレベルを「全部」に設定する必要があります。

見込み客の変換の際に必要なアクセスプロファイルの設定については、「見込み客の変換のためのアクセスプロファイルと役割の設定」を参照してください。取引交渉登録の変換の際に必要なアクセスプロファイルの設定については、「取引交渉登録を変換するためのアクセスプロファイルと役割の設定」を参照してください。

- 3 プライマリレコードタイプの関連レコードタイプのアクセスレベルの設定が終了した後、「前へ」をクリックしてウィザードのステップ 2 のメインページに戻ります。
- 4 1 つ以上の関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するプライマリレコードタイプごとに、この手順のステップ 1 から 3 を繰り返します。
- 5 すべてのプライマリレコードタイプと関連レコードタイプについてアクセスレベルの設定が終了した後は、「終了」をクリックして設定を保存します。

アクセスプロファイルの関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) (ページ 281)

- チーム、グループおよびブックのアクセスプロファイルについて (ページ 282)
- チームの継承によるアクセスの適用について (ページ 283)
- [アクセスプロファイルリスト] ページの使用 (ページ 285)
- アクセス権の指定方法 (ページ 349)

パーソナライゼーション管理

ユーザーは、レコードの [詳細] ページ、ホームページのレイアウト、アクションバーのレイアウトなど、Oracle CRM On Demand の特定のエリアをパーソナライズできます。ただし、特定の役割のユーザーがパーソナライズレイアウトの使用をやめて、自分の役割のデフォルトレイアウトを再び使用するようにする必要がある場合は、これらのユーザーのパーソナライズレイアウトを削除できます。たとえば、[営業員] 役割のユーザーのパーソナライズホームページレイアウトをすべて削除したり、[営業管理者] 役割のユーザーのパーソナライズアクションバーをすべて削除したりすることができます。

Oracle CRM On Demand のパーソナライズの管理方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- パーソナライズページレイアウトのリセット (ページ 297)
- パーソナライズアクションバーレイアウトのリセット (ページ 298)
- パーソナライズホームページレイアウトのリセット (ページ 298)

パーソナライズページレイアウトのリセット

Oracle CRM On Demand の特定の役割のユーザーのパーソナライズページレイアウトをすべて削除して、その役割のデフォルトページレイアウトを復元できます。レイアウトを役割のレコードタイプに対するデフォルトレイアウトにリセットした場合の動作は次のとおりです。

- すべてのパーソナライズ関連情報レイアウトがデフォルトレイアウトに復元されます。
- すべてのパーソナライズ項目レイアウトがデフォルトレイアウトに復元されます。
- 関連情報セクションでレコードインジケータを表示するためのすべてのパーソナライズ設定が、役割レベルでレコードタイプに対して構成されている設定に戻ります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[役割およびアクセスの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

パーソナライズページレイアウトをリセットするには、次のようにします。

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。

- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[パーソナライゼーション管理] セクションの [ページレイアウトのリセット] リンクをクリックして、[ページレイアウトのリセット] ページをオープンします。
- 4 ステップ 1 では、[役割の選択] で、ページレイアウトをリセットする役割を選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 ステップ 2 では、[レイアウトの選択] で、左矢印および右矢印を使用して [利用可能] セクションから [選択] セクションにレコードタイプを移動して、リセットするレコードタイプレイアウトを選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 ステップ 3 では、[確認] で選択内容を確認し、[終了] をクリックして変更を保存します。

注: ユーザー役割のページレイアウトをリセットした場合、その役割を持つユーザーは Oracle CRM On Demand からサインアウトし再度サインインしないかぎり、レイアウトの変更を表示できません。

パーソナライズアクションバーレイアウトのリセット

Oracle CRM On Demand の特定の役割のユーザーのパーソナライズアクションバーレイアウトをすべて削除して、その役割のデフォルトアクションバーレイアウトを復元できます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[役割およびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

パーソナライズアクションバーレイアウトをリセットするには、次のようにします。

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[アクションバーレイアウトのリセット] リンクをクリックします。
- 4 [アクションバーレイアウトのリセット] ページで、アクションバーレイアウトをリセットする役割を選択して [次へ] をクリックします。
- 5 [概要] ページで [終了] をクリックします。
- 6 [概要] ページで [終了] をクリックします。

パーソナライズホームページレイアウトのリセット

Oracle CRM On Demand の特定の役割のユーザーのパーソナライズホームページレイアウトをすべて削除して、その役割のデフォルトホームページレイアウトを復元できます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[役割およびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

パーソナライズホームページレイアウトをリセットするには、次のようにします。

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」リンクをクリックします。
- 3 「ユーザー管理とアクセス制御」ページで、「ホームページレイアウトのリセット」リンクをクリックします。
- 4 「ホームページレイアウトのリセット」ページで、ページレイアウトをリセットする役割を選択して「次へ」をクリックします。
- 5 「レイアウトの選択」ページで、左矢印および右矢印を使用して「利用可能」セクションから「表示」セクションに利用可能なホームページレイアウトを移動して、リセットするホームページレイアウトを選択し、「次へ」をクリックします。

ブックの管理

ブックは、ユーザーが各レコードのチームメンバーにならなくても共同作業できるように、レコードを整理および分離する効率的な方法です。

ブックを使用して企業データを整理すると、レコードの検索が速く効率的になります。ブックは、グループおよびチームと共存できます。ユーザーのグループへのアクセスを提供する要件が直接的で比較的単純な場合、グループの割当を使用できます。ただし、グループレコードの所有権の要件が複雑な場合は、ブックの使用が推奨されます。

デフォルトユーザーブック

Oracle CRM On Demand では、デフォルトブックが各ユーザーに割り当てられ、ユーザーの名前が付けられます。レコードがユーザーに割り当てられると、レコードはユーザーのデフォルトブックに割り当てられます。レコードがチームにより所有されている場合、チームはそのチームのメンバーとなっているユーザーの一連のデフォルトブックを代表します。レコードの所有者が変更されたり、チームのメンバーが変更されると、ユーザーブックは自動的にレコードに関連付けられます。

カスタムブック

ブック機能が有効な場合、カスタムブックを使用し、ビジネス上の目的に合わせてデータを整理できます。通常、ブックはカスタムブックを指します。ブックは互いに独立することもできますし、ブックを階層に整理することもできます。たとえば、ブックを作成して、テリトリーや製品などのビジネスの組織単位に従ってデータを分割できます。その後、ブックへの適切なアクセスレベルをユーザーに設定できます。

パートナー用に自動作成されるブック

Oracle CRM On Demand でパートナーレコードが有効な場合は、パートナー組織用のブックが自動作成されます。パートナー用に自動作成されるブックは、パートナーレコードのブック関連項目を表示しているときに、パートナーレコードのページからアクセス可能なブックのルックアップウィンドウで選択できます。パートナーレコードのページにアクセスできるのは、ブランド所有者の企業のユーザーのみです。パートナー関係をパートナーレコードに追加するときに「パートナーへのアクセス」チェックボックスまたは「パートナーへの相互アクセス・(リバース)」チェックボックスがオンになっていると、関連するパートナー用に自動的に作成されたブックが同期されます。これで、Oracle CRM On Demand でパートナー取引先が関

連付けられている場合であれば、同期された各パートナーブックに関連付けられているパートナーユーザーは、パートナー組織を関連付ける対象のパートナー取引先を参照できます。

パートナー組織にユーザーを追加すると、そのユーザーは、パートナー組織のパートナーブックに自動的に関連付けられます。

パートナーのカスタムブック

パートナー組織用のカスタムブックを作成することもできます。必要に応じて、ブランド所有者の企業のユーザーとパートナー組織のユーザーを含む任意の組合せのユーザーを、そのようなカスタムブックに割り当てることができます。

ブックでサポートされるレコードタイプ

さまざまなタイプのレコードを同じユーザーに割り当てることができるのと同じように、さまざまなタイプのレコードを同じブックに割り当てることができます。次のレコードタイプをブックに割り当てることができます。

- 取引先
- 認定
- 割当
- 申込書類
- アポイント
- ビジネス計画
- キャンペーン
- 認定レベル
- 担当者
- コース
- カスタムオブジェクト
- 取引交渉登録
- 自動車ディーラー
- イベント
- 試験
- 金融口座
- 財務計画
- 資金
- HCP 担当者割当
- 世帯
- 在庫監査レポート
- 在庫期間

- 見込み客
- MDF リクエスト
- メッセージプラン
- 目標
- 商談
- オーダー
- パートナー
- 保険
- ポートフォリオ
- プログラム
- サンプルロット
- サンプルリクエスト
- サンプルトランザクション
- サービスリクエスト
- スマートコール
- 解決策
- 特別価格リクエスト
- タスク
- 車両

ブックセレクトのブック

企業のブックセレクトが有効な場合、リストページのタイトルバーのターゲット検索と高度な検索、および [レポートホームページ] にブックセレクトフィールドが表示されます。ブックセレクトは、ターゲット検索の対象を、ユーザーが検索するレコードを含む可能性のあるカスタムブックまたはユーザーブックに限定するために使用されます。ブックセレクトフィールドに表示されるプラス記号 (+) は、サブレベルが存在することを示しています。

注: パートナーブックがブックセレクトに表示されるのは、パートナーレコードタイプの場合のみです。

ブックセレクトの横にあるアイコンをクリックすると、ブック階層が表示されます。ブック階層の構成は次のとおりです。

- **すべて。** カスタムブックとユーザーブックを含む、すべてのブックのデフォルトルートノード
 - **ブック。** 企業に対して設定されたすべてのカスタムブックのデフォルトルートノード
 - **ユーザー。** すべてのユーザーブックのデフォルトルートノード

[すべて]、[ブック] および [ユーザー] は、ノードまたはアンカーです。実際のブックではありません。ブック階層の例として、企業が [America (アメリカ)] という地域ブック階層を設定したとします。部下を持つユーザー [John Williams] も、地域階層のブックに関連付けられています。このユーザーに関しては、[すべて] オプションの下にブックセレクトに次の階層が表示されます。

- **ブック**

- **America (アメリカ)** (親ブック)

- **北** (サブブック。サブブックも、より下の階層のサブブックの親ブックとなる可能性があります)
- **東** (サブブック)
- **西** (サブブック)
- **南** (サブブック)

- **ユーザー**

- **John Williams** (部下を持つユーザー)

- **Lucy Harris** (部下。部下も部下を持つ可能性があります)
- **Rick Rogers** (部下)
- **Donna Jones** (部下)
- **Jeff Smith** (部下)

注:階層の一番下のレベルのブックは、**リーフノードブック**と呼ばれます。

ブックセクタの「サブ項目を含める」チェックボックスを使用すると、ユーザーはサブ項目（部下やサブブック）のデータを検索先に含めるかどうかを指定できます。レポートでブックセクタがどのように機能するかについての詳細は、「分析のレコードの表示について」および「レポートの制限について」を参照してください。

検索先のブックの選択

レコードを検索するとき、ユーザーは検索するデータが含まれるブックを選択します。検索するデータが、ブック階層の特定のレベルのどのブックに含まれているかはっきりしない場合、ユーザーは階層の1つ上にあるブックを検索先に選択できます。

ユーザーがブックセクタで「サブ項目を含める」オプションを選択し、企業プロフィールで「マネージャ表示が有効」チェックボックスがオンの場合、サブブックまたは部下のデータが検索先に含められます。

例として、次のブック階層について考えます。

- **America (アメリカ)**

- **North (北部)**
 - **North Area 1 (北部エリア 1)**
 - **North Area 2 (北部エリア 2)**

ユーザーは、「North Area 1 (北部エリア 1)」と「North Area 2 (北部エリア 2)」のどちらにレコードがあるのかははっきりしない場合、検索先として「アメリカ」ブックではなく「北部」ブックを選択します。

関連トピック

ブック構造の設計、ブックの設定、およびユーザーがブックを使用できるようにする方法の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [ブック構造の設計について](#) (ページ 303)
- [ブックの Web サービスのサポートについて](#) (ページ 307)

- [レコード所有権モードについて](#) (ページ 307)
- [レコード所有権モードおよび自動生成タスク](#) (ページ 312)
- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) (ページ 317)
- [時間ベースのブック割当について](#) (ページ 318)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) (ページ 320)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) (ページ 321)
- [ブックの設定のプロセス](#) (ページ 322)
- [管理者の役割に設定されたブックの確認](#) (ページ 323)
- [ブックタイプとブックユーザー役割の作成](#) (ページ 327)
- [レコード所有権モードの設定](#) (ページ 328)
- [ブックとブック階層の作成](#) (ページ 328)
- [ユーザーとブックの関連付け](#) (ページ 330)
- [ブックのアクセスプロファイルの作成](#) (ページ 333)
- [企業のブックの有効化](#) (ページ 334)
- [ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#) (ページ 335)
- [\[レコード詳細\] ページのレイアウトへのブックの追加](#) (ページ 337)
- [ブックへのレコードの割り当て](#) (ページ 338)
- [\[ブック階層\] ページ \(参照 " \[Book Hierarchy \(ブック階層\)\] ページ" ページ 340\)](#)
- [ブックのフィールド](#) (ページ 341)
- [ブックのトラブルシューティングに関する情報](#) (ページ 342)

ブック構造の設計について

効率的なブック構造をセットアップするには、ブック階層を慎重に計画する必要があります。会社のブック階層を設計および編集するには、次の点に注意してください。

- ユーザーブックを複製するカスタムブックを作成しない。
- ビジネスデータに対する組織ポリシーとアクセスポリシーを決定する。
- 社内構造とデータ管理間に関係があるかどうか判断する。
- 社内データの関連付けを判断する。
- ユーザーニーズに基づいてブックを設計し、ユーザーがブックを頻繁に使用するタスクについて検討する。
- 企業プロファイルで [マネージャ表示が有効] チェックボックスにより提供される機能ができるだけ使用されないようにブックを設計する。
- ブック階層内のレベル数を最小限にする。

- できるだけ、ブック構造内のクロスリストの量を少なくする。クロスリストとは、複数のブック間でレコードが複製されることです。
- ブックの管理を自動化するためにワークフロールールを使用する。また、ブック名を設計する際には、ブック名を解決する式を使用することで、単一のワークフローアクションを使用して異なるブックを異なるレコードに割り当てることができる機能を検討する。

ユーザーブック

ユーザーブックを複製するカスタムブックを作成することで生じる欠点は、カスタムブック内のデータとデフォルトユーザーブック内のデータを同期化しなければならないということです。この余分なタスクにより、サーバー処理時間が増え、レコード取得速度に影響が出ます。

注：企業がユーザーブックの複製を検討する理由の1つとして、ユーザーに、別のユーザーのデータへの一時的なアクセスを許可する場合があります。このニーズを満たすためのより適した方法として、別のユーザーのデータにアクセスする必要があるユーザーを、そのデータを所有しているユーザーの委任ユーザーとして追加するという方法があります。

データアクセスのニーズ

ブック構造に、企業の社内階層を反映させる必要はありません。その代わりに、ブック構造には、社内でのデータの管理方法を反映することをお勧めします。社内業務は、地域別に管理できるものもあれば、製品ラインまたは業種別に管理できるものもあります。次の場合については、特に注意が必要です。

- 2つ（またはそれ以上）の部署が互いのデータにアクセスしてはならない
- 2つ（またはそれ以上）の部署が互いのデータにアクセスできる必要がある

社内構造の関連性

多くの企業において、親組織は、子組織の全データに対して完全なアクセス権を持っています。このような親組織のメンバーは、通常、すべての子組織のデータに対してグローバルなアクセス権を持ちます。

このような構造の企業の場合、親組織レベルの組織構造を反映するブックのセットアップは行うことはお勧めしません。ただし、次の状況が考えられます。

- 他のレベル（子組織レベルなど）の組織構造を反映するブックをセットアップする。
- 親組織レベルで他のブック階層をセットアップする。たとえば、親組織レベルで、親組織のユーザーが、全子組織内の重要な潜在的収益のある商談を参照できるようにするブックまたはブック階層を作成することができます。

データの関連付け

ユーザーが部署を移動するときの手順について検討します。次に例を示します。

- ユーザーが部署を移動するときに、データの関連付けを維持して、そのユーザーが管理するデータもユーザーとともに新しい部署に移動する場合は、レコードの所有権およびチームを介してデータを管理することをお勧めします。通常、アポイントとタスクはすべてのレベルにおいてユーザーとともに移動します。販売環境によっては、顧客データもすべてユーザーとともに移動します。このようなデータの関連付けは、中小企業または低販売量、高価値の販売を行う企業に当てはまります。
- データの組織的所有権が存在するように、地域支社などの固定組織にデータが通常ある場合、組織構造を反映するブックを介してデータを管理することをお勧めします。

- ユーザーが別の部署に移動してからしばらくの間、データの関連付けと組織的所有権をどちらも維持する場合、2つの階層を共存させることができます。

ユーザーのニーズとタスク

ブック構造を設計する際には、ユーザーが頻繁にブックを使用するタスクについて検討します。たとえば、リストからの作業、レコードの検索、レポートの作成や使用などです。

リストの使用

ユーザーが必要とするリストを識別するために、頻繁に使用されるリストのタイプと、ユーザーにとって理想的なリストを判断します。このためには、社内ユーザーに inputs を依頼します。ブック構造内に、理想的なリストに必要なすべてのレコードが含まれるブックがない場合、そのブック構造に階層がない可能性があります。たとえば、地域別階層と製品別階層の両方をセットアップすることができます。

1つのブックの特定のサブセット内で長時間作業する場合、そのサブセット用のサブブックを作成します。そのサブブックには、ユーザーが識別可能な名前を付けます。また、ユーザーが毎回適切なブックを選択する必要がないように、サブブックを「ブック」セレクトアのデフォルトとして設定することもできます。「ブック」セレクトアのデフォルトの設定方法については、「[ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#) (ページ 335)」を参照してください。

レコードの検索

社内ユーザーの検索ニーズを判断するために、ユーザーに特定のレコードを検索するシナリオについて尋ねます。ブック構造とブックサイズは、ユーザーが頻繁に実行する検索と検索基準を反映する必要があります。

注:既にブック構造が配置されており、それを編集している場合は、特定のレコードがその階層内の特定のブックに存在していることを確認できるかどうかをユーザーに尋ねてください。ユーザーが一樣に、より高いレベルのブックしか確認できないと答える場合には、そのブック構造に別のサブセットがあれば、この検索範囲を絞ることができるかどうか確認してください。高いレベルのブックの検索は、通常の検索の例外としてのみ行うようにしてください。

検索で使用するフィールドも、検索速度に影響します。

- インデックス付きフィールドを使用してブック内のレコードを検索すると、パフォーマンスが最適化されます（インデックス付きフィールドは、検索セクションで緑色のテキストで示されます）。
- インデックス付きフィールドではなく、インデックスが付いていないフィールドを使用してブック内のレコードを検索する場合、検索速度は遅くなり、検索するレコード数に応じて、パフォーマンスも影響を受けます（インデックスが付いていない検索フィールドは検索セクションで黒色のテキストで示されます）。

たとえば、ユーザーがインデックス付きフィールドを使用して担当者レコードを検索する場合は、最下位レベルのブック（リーフノードブックと呼ばれます）のレコード数は、各レコードタイプにつき最大 100,000 です。ただし、ユーザーがインデックスの付いていないフィールドを使用して担当者レコードを検索する場合は、リーフノードブックのサイズをレコード数 20,000 から 30,000 に小さくすることができます。

データ構成は会社によって異なります。ブックのレコード数について推奨値はありません。ブックのサイズは継続して管理することが必要です。ブックを使用すると検索するレコード数を減らすことができ、検索速度が上がります。

レポートの作成と使用

管理者以外のユーザーは全員、レポート用のデータ表示ルールに従います。ユーザーブックまたはカスタムブックがレポートの「ブック」セレクトアで指定された場合、レポート対象とみなされるデータは次のとおりです。

- 履歴分析（レポートタブとダッシュボードタブ、およびレコードのホームページに埋め込まれたレポートからアクセスされた履歴分析を含む）内の全コンテンツは、そのブックに限定され、指定されたブックの全サブレベルを含みます。そのユーザーが所有するレコード、またはそのユーザーがチームメンバーとなっているレコードでも、選択されたブックまたはサブブックにもそれらのレコードが含まれていない限り、含まれません。
- リアルタイムのレポートは、[ブック] セレクタで選択されたブック（カスタムブックまたはユーザーブック）に直接関連付けられているデータに制限されます。選択されたブックにサブブックまたは部下が含まれる場合、そのサブブックや部下のデータはリアルタイムのレポートでは無視されます。

注:通常、ブック構造はセットアップ後に変更する必要はありませんが、変更することもできます。このような変更を行う場合、ダウンタイムは必要なく、変更もすぐに適用されます。ただし、この変更は、リアルタイムレポート内のデータにはすぐに反映されません。

レポート内のレコードの表示の詳細は「レポート」を参照してください。

マネージャ表示

ブック階層を設計する際には、次の原則に基づいてください。

- 企業プロファイルの [マネージャ表示が有効] チェックボックスによって提供される機能は、できるだけ使用しないようにします。
 - [サブ項目を含める] オプションは、データ量が大きい検索では基本的に使用しないようにします（データ量が大きくなるレコード数は会社および検索パターンによって異なります）。
- [サブ項目を含める] オプションを使用することが必要な場合があります。部下が互いに共有できないため、部下を含むユーザーブックに対して管理者がリストを実行する場合などです。データ量が大きい場合、検索時間は長くなります。パフォーマンスを最適化するには、必要な場合に限り、[サブ項目を含める] オプションを有効にします。

階層レベル

すべてのレベルにレコードがあり、レベル数が多いブック階層は、管理者表示が有効になっているチーム機能と似た動作になります。このような階層では、データセットが小さいとパフォーマンスが向上します。データ量が大きくなるにつれて、階層内のレベル数が少ない方が（または、階層レベルがない方が）チーム機能よりはるかにパフォーマンスが良くなります。

ブック階層内のあるレベルが、データセキュリティまたはデータ組織にとって付加価値のないものである場合には、冗長ブックとそのサブブックをマージしてください。あるレコードが、同じ親ブック内の2つのサブブックのうちどちらに含まれているのかを識別できるかどうか、ブックユーザーに尋ねてください。識別できない場合には、その2つのサブブックを親ブックに折りたたむのが最適な方法です。

ブック階層内のレベル数を減らす簡単な方法は、サブブックに親ブック名を接頭辞として付けるという方法です。たとえば、North America という名前の親ブックを持つ North という名前のサブブックがある場合、親ブックを削除して、サブブックの名前を NA – North にします。

クロスリスト

クロスリストとは、複数のブック間でレコードを複製することです。クロスリストは同期化が必要で、その結果サーバーのパフォーマンスに影響する読み書き処理が増大するため、ユーザーが管理するための諸経費がかかります。クロスリストの使用は最小限にしてください。

ブックの管理の自動化

通常、ブック割当基準はレコードタイプの 1 つ以上のフィールドにマップされます。これらのフィールドのうち 1 つが変わると、ブック割当を自動的に認識するワークフロールールを作成できます。

たとえば、*Territory* というブック階層があった場合、あるレコードタイプ内のあるフィールド（たとえば、取引先の *Territory* フィールド）を監視するワークフロールールを作成し、次に、取引先の *Territory* フィールド値が変わると、そのレコードの *Territory* ブックを新しいブックに更新するブック割当アクションをルールに設定することができます。

ブック名を設計する際には、ブック名を解決する式に基づいて単一のワークフローアクションで異なるブックを異なるレコードに割り当てることができるような方法で「ブックを割り当て」ワークフローアクションを使用する必要があるかどうかを検討します。

たとえば、北アメリカに取引先があり、EMEA に拠点を置く取引先もあるとします。それらの異なる所在地のために 2 つの別個のブックを設定し、取引先所在地に応じて適切なブックを取引先に割り当てる必要があります。この構成を設定するには、2 つのブックを作成し、一方を「North America」、他方を「EMEA」という名前にします。次に、「Sales Location」という名前の、値が「North America」および「EMEA」であるカスタムピクリスト項目を作成し、そのカスタム項目を適切な役割の「取引先」レコードタイプのページレイアウトに追加します。その後、取引先レコードの更新時に以下のことが実行される、「ブックを割り当て」ワークフローアクションを作成します。

- 取引先レコード上の「Sales Location」フィールドで選択されている値を判断する式を評価します。
- 取引先レコードを、その式で返された値と名前が一致するブックと関連付けます。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)

ブックの Web サービスのサポートについて

ブックは、Web サービスを介して管理できます。社内でブックが有効になっている場合、Book WSDL (Web Services Description Language) をダウンロードできます。Web サービスの詳細については、『*Oracle Web Services On Demand Guide*』を参照してください。

レコード所有権モードについて

企業のビジネス要件によっては、所有者に特定のレコードタイプのレコードを割り当てる必要がない場合があります。かわりに、従業員が別の権限に移動した場合、またはビジネスモデルの変更によってセールスチームを再調整した場合に、レコードの所有権を再割当する必要がないようにレコードを編成する必要があります。Oracle CRM On Demand のリリース 20 からは、所有者をレコードに割り当てるのではなく、プライマリカスタムブックをレコードに関連付けることによって、このようなビジネス要件をサポートします。ユーザーがレコードのプライマリカスタムブックのメンバーである場合は、ユーザーの役割およびアクセスプロファイル設定で必要なアクセス権がユーザーに付与されているかぎり、そのレコードにアクセスしてレコードを使用できます。また、企業は、レコードに割当済み所有者または関連プライマリカスタムブックのいずれかを必要としないレコードタイプを設定できます。

Oracle CRM On Demand では、ブックを使用するほとんどのレコードタイプに対して、次のモードのレコード所有権を設定できます。

- **ユーザーモード。**ユーザーモードは、リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand のレコード所有権に似ています。レコードタイプがユーザーモードに設定された場合、そのレコードタイプの各レコードには所有者を割り当てる必要があります。

ます。レコードの詳細ページで [ブック] フィールドが使用可能な場合、[ブック] フィールドには、所有者に関連付けられたユーザーブックが表示されます。

注：デフォルトでは、サービスリクエストレコードは所有者なしで存在でき、一部のレコードタイプ（[ユーザー]、[製品] など）ではレコードに所有者を設定しません。この機能は、以前のリリースの Oracle CRM On Demand から変更ありません。

- **ブックモード。**レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、そのレコードタイプのレコードに所有者を割り当てることはできません。かわりに、各レコードにはプライマリカスタムブックが必要です。ユーザーがレコードのプライマリブックのメンバーである場合は、ユーザーの役割およびアクセスプロファイル設定で必要なアクセス権がユーザーに付与されているかぎり、そのレコードにアクセスしてレコードを使用できます。ブックモードは、ブックをサポートしているレコードタイプでのみ使用できます。
- **混合モード。**混合モードは、ユーザーまたはブックモードとも呼ばれます。レコードタイプがこのモードに設定されている場合、そのレコードタイプのレコードは次のいずれかの方法で設定できます。
 - レコードは、割り済み所有者または関連プライマリカスタムブックのいずれかが設定されていなくても存在できます。ユーザーがこのようなレコードにアクセスするには、チームメンバーシップ、またはレコードに関連付けられたブックのメンバーシップを使用します。また、役割管理ウィザードのステップ 2 でユーザーの役割に対して [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスがオンに設定されているユーザーは、レコードにアクセスできます。
 - レコードに所有者を割り当てることができます。
 - レコードにプライマリカスタムブックを関連付けることができます。

注：レコードに割り済み所有者と関連プライマリカスタムブックの両方は設定できません。

混合モードは、ブックをサポートしているレコードタイプでのみ使用できます。

注：[サンプルトランザクション] レコードタイプに対しては、すべてのサンプルトランザクションが特定のユーザーの在庫期間に関連している必要があるため、ユーザーモードのレコード所有権を使用する必要があります。[サンプルトランザクション] レコードタイプに対しては、ブックモードまたは混合モードを設定しないでください。

レコードタイプに対して設定した所有権モードに関係なく、ユーザーは、追加のブックをレコードに割り当てたり、追加のユーザーをレコードにリンクすることができます（レコードタイプでチームをサポートしている場合）。ユーザーがレコードに割り当てられたブックのメンバーである場合は、ユーザーの役割およびアクセスプロファイル設定で必要なアクセス権がユーザーに付与されているかぎり、そのレコードにアクセスしてレコードを使用できます。

レポート

[取引先] および [担当者] レコードタイプの場合は、レコードとそのレコードのプライマリブック間の関係に基づいて、リアルタイムのレポートおよび履歴レポートを作成できます。レポートおよびレコード所有権モードの詳細は、「分析のレコードの表示について」を参照してください。

レコード所有権モードは、[レポート] ホームページのブックセレクタでブックを選択するときに適用されるデータ表示ルールに影響を与えません。レポートにおけるブックのデータ表示ルールの詳細は、「[ブック構造の設計について](#) (ページ 303)」を参照してください。

レコード所有権モードをサポートしているレコードタイプ

レコード所有権モードは、次の例外を除いて、カスタムブックをサポートするレコードタイプでサポートされています。

- 割当
- 資金

- 在庫監査レポート
- 在庫期間
- メッセージプラン
- スマートコール
- 解決策

カスタムブックをサポートする他のすべてのレコードタイプは、ユーザーモード、ブックモードまたは混合モードに設定できます。ブックをサポートする各種レコードタイプには、所有権モードを組み合わせることができます。たとえば、[担当者] レコードタイプはブックモードに、[取引先] レコードタイプはユーザーモードに設定できます。レコードタイプのレコード所有権モードはいつでも変更できます。レコードタイプのレコード所有権モードを設定するには、次の表に示すように、レコードタイプの [所有者] フィールドと [ブック] フィールドが必須か必須でないかを設定します。

注：レコードタイプのページレイアウトは、レコード所有権モードに対して正しく設定されている必要があります。詳細は、「[レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて \(ページ 98\)](#)」を参照してください。

レコード所有権モード	[所有者] フィールドの [必須] 設定	[ブック] フィールドの [必須] 設定	その他の設定の詳細	コメント
ユーザーモード	はい	いいえ	なし	レコードレイアウトに [ブック] フィールドを表示する場合、そのフィールドは読み取り専用で、レコードの割り当て済み所有者であるユーザーのユーザーブックの名前が表示されます。
ブックモード	いいえ	はい	(オプション) [所有者] フィールドを読み取り専用を設定します。	レコードレイアウトに [所有者] フィールドを表示する場合、そのフィールドは空白である必要があります。 [ブック] フィールドはピックリストフィールドで、企業に対して設定したカスタムブックのリストが表示されます。
混合モード	いいえ	いいえ	なし	レコードの [ブック] フィールドでカスタムブックを選択すると、[所有者] フィールドは空白になります。 [所有者] フィールドでユーザーを選択すると、[ブック] フィールドには所有者のユーザーブックの名前が自動的に設定されます。

デフォルトのレコード所有権モード

リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand で作成された既存の企業の場合、デフォルトのレコード所有権モードはユーザーモードですが、例外として、[サービスリクエスト] レコードタイプはデフォルトで混合モードに設定されます。新しい企業の場合は、混合モードが、レコード所有権モードをサポートするレコードタイプに対するデフォルトのレコード所有権モードです。

【所有者】 および 【ブック】 フィールドのデフォルト値

ユーザーが新規のレコードページを開くと、【所有者】 および 【ブック】 フィールドの値は、次のように表示されます。

- レコードタイプがユーザーモードに設定されている場合は、【所有者】 フィールドには現在のユーザーのエイリアスが自動的に挿入されます。【ブック】 フィールド（存在する場合）には、現在のユーザーのユーザーブック名が自動的に挿入されます。
- レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、【所有者】 フィールドおよび【ブック】 フィールドのいずれにも値は挿入されません。

注: ユーザーがカレンダーを使用して作成したアポインメントは、レコード所有権モードの通常の動作に対する例外です。ユーザーがカレンダーを使用してアポインメントを作成すると、【所有者】 フィールドには、レコード所有権モードには関係なく現在のユーザーの名前が挿入されます。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、次のように動作します。
 - 新規レコードの【所有者】 フィールドは入力されません。
 - 【ブック】 フィールドは、現行ユーザーのユーザーレコードのレコードタイプに指定されたデフォルトブックに従って、次のようにデフォルト値が決まります。
 - レコードタイプのデフォルトブックとしてカスタムブックを指定した場合、新規レコードの【ブック】 フィールドには、指定したデフォルトブック名が自動挿入されます。
 - レコードタイプのデフォルトブックを指定しなかった場合、あるいはユーザーブックまたは【全ブック】 をレコードタイプのデフォルトブックとして指定した場合、新規レコードの【ブック】 フィールドは入力されません。

ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定の詳細は、「[ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定](#)（ページ 251）」を参照してください。

注: ページレイアウトに【所有者】 フィールドが必要で、レコードタイプが混合モードの場合は、ユーザーがそのページレイアウトを使用する新規レコードページを開くと、デフォルトで【所有者】 フィールドが空白になります。レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトの詳細は、「[レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて](#)（ページ 98）」を参照してください。

レコード所有権モードに関する考慮事項

レコードタイプのレコード所有権モードを設定するときは、次の点を考慮してください。

- **アサイメントマネージャ。** 割当マネージャは、ユーザーに対してのみレコードを再割当できます。レコードを再割当できるのは、レコードタイプがレコード所有権のユーザーモードまたは混合モードに設定されている場合のみです。割当マネージャが所有者にレコードを再割当する前に、レコードに割り当てられたプライマリカスタムブックがある場合、割当マネージャは、レコードからプライマリブックを削除します。割当マネージャは、レコードタイプがブックモードに設定されている場合、レコードを再割当できません。レコードタイプをブックモードに設定する場合は、そのレコードタイプに対するすべてのルールグループを無効にすることを強くお勧めします。割当ルールの詳細は、「[割当ルールについて](#)（ページ 445）」を参照してください。
- **他のアプリケーションとの連携。** 次のアプリケーションでは、レコードに所有者を設定する必要があります。アプリケーションで使用するレコードタイプがブックモードに設定されている場合、これらのアプリケーションは使用不可で、レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、レコードに所有者を設定する必要があります。
 - Offline On Demand
 - Oracle Outlook Email Integration On Demand
 - Oracle Notes Email Integration On Demand

- Oracle CRM On Demand Integration for Office
- Oracle CRM On Demand Connected Mobile Sales
- **所有権モードの変更後のレコード更新。**レコードタイプのレコード所有権モードをユーザーモードに変更する場合は、そのタイプの全レコードに所有者を設定するように更新することを検討してください。そうしない場合、そのレコードタイプのレコードを次に更新するユーザーは、レコードの所有者を選択するように要求されます。同様に、レコードタイプのレコード所有権モードをブックモードに変更する場合は、そのタイプの全レコードに適切なプライマリカスタムブックを割り当てるように更新することを検討してください。そうしない場合、そのレコードタイプのレコードを次に更新するユーザーは、レコードのプライマリカスタムブックを選択するように要求されます。

レコードタイプのレコード所有権モードを変更する際の動作

企業がレコードタイプのレコード所有権モードを別のモードに変更すると、そのレコードタイプの新規レコードには、新しい所有権モードが適用されます。既存のレコードに対する動作は次のとおりです。

- **新しいレコード所有権モードがユーザーモードの場合。**所有権モードの変更後に初めてレコードを更新する際の動作は次のとおりです。
 - レコードにユーザーが所有者として割り当てられていない場合、レコードを更新するユーザーは、[所有者] フィールドでユーザーを選択する必要があります。
 - すでにレコードにプライマリカスタムブックが割り当てられている場合は、[ブック] フィールドからプライマリブックの名前がクリアされ、新しい所有者のユーザーブックの名前が [ブック] フィールドに表示されます。また、ブックがレコードから削除され、レコードの [詳細] ページの [ブック] セクションに表示されなくなります。
 - **新しいレコード所有権モードがブックモードの場合。**所有権モードの変更後に初めてレコードを更新する際の動作は次のとおりです。
 - レコードにプライマリブックが関連付けられていない場合、レコードを更新するユーザーは、[ブック] フィールドでプライマリカスタムブックを選択する必要があります。
 - すでにレコードに所有者が割り当てられている場合の動作は次のとおりです。
 - レコードの [所有者] フィールドはクリアされます。
 - レコードタイプがチームをサポートしている場合は、レコードの前の所有者を除き、チームのすべてのメンバーがチームのメンバーとして残ります。この動作は、定義済みグループのメンバーであるチームメンバーの場合と同じです。つまり、レコードの前の所有者を除いて、グループのメンバー全員がチームのメンバーとして残ります。ただし、[取引先] レコードタイプはこのルールに対する例外になります。取引先の前の所有者が定義済みグループのメンバーである場合は、そのグループのすべてのメンバーがチームから削除されます。定義済みグループのメンバー以外のチームメンバーは、他のレコードタイプの場合と同様に、チームのメンバーとして残ります。
- 注:** 標準アプリケーションでは、ここで説明されているように、レコードの前の所有者はチームのメンバーとして保持されません。ただし、管理者がレコードタイプを構成して、レコードの前の所有者がレコードのチームのメンバーとして保持されるようにできます。チームのメンバーとして前の所有者を保持するためのレコードタイプの構成の詳細は、「[共有レコードの前の所有権のカスタマイズ](#) (ページ 227)」を参照してください。
- **新しいレコード所有権モードが混合モードの場合。**所有権モードの変更後に初めてレコードを更新する際の動作は次のとおりです。レコードタイプが混合モードである間は、レコードが更新されるたびにこの動作が適用されます。
 - レコードを更新するユーザーは、所有者やプライマリブックを選択する必要はありません。
 - レコードを更新するユーザーは、レコードに対して所有者またはプライマリカスタムブックを選択できますが、両方は選択できません。

- ユーザーがレコードに所有者を割り当てるときに、すでにプライマリカスタムブックがそのレコードに関連付けられている場合は、レコードの「ブック」フィールドがクリアされます。また、ブックがレコードから削除され、レコードの「詳細」ページの「ブック」セクションに表示されなくなります。
- ユーザーがカスタムブックをレコードのプライマリブックとして関連付けるときに、すでにレコードに所有者が割り当てられている場合の動作は次のとおりです。
 - レコードの「所有者」フィールドはクリアされます。
 - レコードタイプがチームをサポートしている場合は、レコードの前の所有者を除き、チームのすべてのメンバーがチームのメンバーとして残ります。この動作は、定義済みグループのメンバーであるチームメンバーの場合と同じです。つまり、レコードの前の所有者を除いて、グループのメンバー全員がチームのメンバーとして残ります。ただし、「取引先」レコードタイプはこのルールに対する例外になります。取引先の前の所有者が定義済みグループのメンバーである場合は、そのグループのすべてのメンバーがレコードから削除されます。定義済みグループのメンバー以外のチームメンバーは、他のレコードタイプの場合と同様に、チームのメンバーとして残ります。

大量更新機能を使用してレコードを更新するときの動作

大量更新機能は特定のレコードタイプでのみサポートされており、ユーザーはこの機能を使用して、レコードのグループ内のフィールドをリストページから更新できます。ユーザーが大量更新機能を使用してレコードのグループを更新するとき、レコードの必須フィールドが null の場合でも値の入力を要求されません。したがって、レコードタイプのレコード所有権モードが変更された後にユーザーがレコードのグループを更新するときは、新しいレコード所有権モードでレコードに所有者またはプライマリカスタムブックが必要な場合でも、ユーザーは更新するレコードに対して所有者またはプライマリカスタムブックを選択するように要求されません。

レコード所有権モードおよび自動生成タスク

レコード所有権モードは、ワークフロールール「タスクを作成」アクションで生成されるタスク、セールスプロセスのセールスステージで生成されるタスクなど、Oracle CRM On Demand で自動的に生成されるタスクの所有権に影響を与えます。

生成タスクに関する考慮事項

タスクを生成するとき、Oracle CRM On Demand では次の点が考慮されます。

- ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの「所有者」フィールドで選択されたオプション
- ソースレコードの「所有者」フィールドと「ブック」フィールドの値（これらのフィールドに値が存在する場合）

注：セールスステージタスクのソースレコードは、セールスプロセスにアクセスする商談で、商談にリンクした取引先の場合もあります。ワークフローアクションのソースレコードは、ワークフロールールをトリガーするレコードです。
- 「活動」レコードタイプのレコード所有権モード

Oracle CRM On Demand で生成タスクに所有者およびプライマリカスタムブックを割り当てる方法

Oracle CRM On Demand では、自動生成タスクに所有者またはプライマリカスタムブックのいずれかを割り当てることができますが、両方を割り当てることはできません。Oracle CRM On Demand では、次のいずれかを自動生成タスクの所有者として割り当てることができます。

■ 次のユーザーのいずれか：

- ソースレコードの所有者
- ソースレコードの所有者のマネージャ
- チームの役割またはチームユーザーの役割を持つユーザー

注：チームの役割とは、レコードに関してユーザーがチーム内で実行する部分を説明する役割です。チームユーザーの役割とは、Oracle CRM On Demand の全ユーザーに割り当てられる Oracle CRM On Demand 役割で、レコードに関するチームのメンバーであるユーザーも含まれます。ソースレコードに関するチームの各メンバーは、チームの役割とともにチームユーザーの役割も持つことができます。

■ ワークフローアクションで生成されたタスクの場合、所有者はワークフローアクションで指定されます。

Oracle CRM On Demand では、自動生成タスクのプライマリカスタムブックとして、次のいずれかを割り当てることができます。

■ ソースレコードに関連付けられたプライマリカスタムブック

■ 次のいずれかのデフォルトカスタムブック：

- ソースレコードの所有者
- ソースレコードの所有者のマネージャ
- チームの役割またはチームユーザーの役割を持つユーザー

タスクに対するユーザーのデフォルトブックは次のように決定します。

- データを含めることができるデフォルトカスタムブックがユーザーのレコードの [活動] レコードタイプに関連付けられている場合は、そのブックがデフォルトブックになります。

注：レコードタイプのデフォルトブックは、[ユーザー詳細] ページの [レコードタイプ別のデフォルトブック] セクションで指定します。

- ユーザーのレコードの [活動] レコードタイプに対してデフォルトブックが指定されておらず、データを含めることができるデフォルトカスタムブックがユーザーのレコードのデフォルトブックフィールドに指定されている場合は、ユーザーのレコードのデフォルトブックフィールドに指定されたブックがデフォルトブックになります。

注：デフォルトブックはカスタムブックである必要があります。Oracle CRM On Demand では、ユーザーブックをタスクのプライマリブックとして割り当てることはできません。さらに、デフォルトカスタムブックは、データを含めることができるブックである必要があります。

適切な所有者、またはデータを含めることができるプライマリカスタムブックが識別できない場合、Oracle CRM On Demand ではタスクが生成されません。次の表では、Oracle CRM On Demand で生成タスクに割り当てる所有者またはプライマリカスタムブックを決定する方法について説明します。

ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの所有者オプション	ソースレコード：所有者またはプライマリカスタムブック	【活動】レコードタイプ：ユーザーモード	【活動】レコードタイプ：ブックモード	【活動】レコードタイプ：混合モード
ソースレコード所有者	所有者	ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。	ソースレコードの所有者にデフォルトブックがある場合、Oracle CRM On Demand ではそのブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。 ソースレコードの所有者にデフォルトブックがない場合、タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。
ソースレコード所有者	プライマリカスタムブック	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	ソースレコードのプライマリカスタムブックが、タスクのプライマリブックとして割り当てられます。	ソースレコードのプライマリカスタムブックが、タスクのプライマリブックとして割り当てられます。
ソースレコード所有者	所有者およびプライマリカスタムブックなし	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
ソースレコード所有者のマネージャ	所有者	ソースレコードの所有者にマネージャがいる場合は、そのマネージャがタスクの所有者になります。 ソースレコードの所有者にマネージャがない場合の動作は次のとおりです。 ■ セールスプロセスの場合は、ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。 ■ ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。	このケースの動作の詳細は、このトピックの 2 番目の表を参照してください。	ソースレコードの所有者にマネージャがいる場合は、そのマネージャがタスクの所有者になります。 ソースレコードの所有者にマネージャがない場合の動作は次のとおりです。 ■ セールスプロセスの場合は、ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。 ■ ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。

ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの所有者オプション	ソースレコード：所有者またはプライマリカスタムブック	【活動】レコードタイプ：ユーザーモード	【活動】レコードタイプ：ブックモード	【活動】レコードタイプ：混合モード
ソースレコード所有者のマネージャ	プライマリカスタムブック	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
ソースレコード所有者のマネージャ	所有者およびプライマリカスタムブックなし	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
チームの役割またはチームユーザーの役割	この役割を持つチームメンバーが 1 名以上いる場合	チームメンバーがタスクの所有者になります。タスクは、指定の役割を持つチームメンバーごとに生成されます。	チームメンバーにデフォルトブックがある場合、Oracle CRM On Demand ではそのブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。 チームメンバーにデフォルトブックがない場合、タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	チームメンバーがタスクの所有者になります。タスクは、指定の役割を持つチームメンバーごとに生成されます。
チームの役割またはチームユーザーの役割	この役割を持つチームメンバーがいない場合	ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 セールスプロセスでは、ソース商談に所有者がいる場合、その商談所有者がタスクの所有者になります。ソース商談に所有者がいない場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。	ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 セールスプロセスでは、ソース商談の所有者にデフォルトブックがある場合、そのデフォルトブックがタスクに割り当てられます。ソース商談の所有者にデフォルトブックがない場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。	ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 セールスプロセスでは、ソース商談に所有者がいる場合、その商談所有者がタスクの所有者になります。ソース商談に所有者がいない場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。

ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの所有者オプション	ソースレコード：所有者またはプライマリカスタムブック	〔活動〕レコードタイプ：ユーザーモード	〔活動〕レコードタイプ：ブックモード	〔活動〕レコードタイプ：混合モード
特定のユーザー	なし	特定のユーザーがタスクの所有者になります。	特定のユーザーにデフォルトブックがある場合、Oracle CRM On Demand ではそのブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。 特定のユーザーにデフォルトブックがない場合、タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	特定のユーザーがタスクの所有者になります。

次の表では、次に示す状況の場合に、Oracle CRM On Demand で生成タスクに割り当てる所有者またはプライマリカスタムブックを決定する方法について説明します。

- セールスステージタスクまたはワークフローアクションの〔所有者〕フィールドのオプションが、ソースレコード所有者のマネージャに設定されています。
- ソースレコードに所有者が設定されています。
- 〔活動〕レコードタイプがブックモードに設定されています。

所有者にマネージャがいる	マネージャにデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	所有者にデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	セールスプロセスの動作	ワークフローの動作
はい	はい	なし	Oracle CRM On Demand では、マネージャのデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。	Oracle CRM On Demand では、マネージャのデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。
はい	いいえ	はい	Oracle CRM On Demand では、ソースレコード所有者のデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。

所有者にマネージャがいる	マネージャにデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	所有者にデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	セールスプロセスの動作	ワークフローの動作
いいえ	なし	はい	Oracle CRM On Demand では、ソースレコード所有者のデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
いいえ	なし	いいえ	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。

ブックおよびブック割当のインポートについて

次のブック関連レコードを Oracle CRM On Demand にインポートできます。

- **ブック**。ブックレコードのインポートについては、「[ブックのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[ブックのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 571)」を参照してください。
- **ブックユーザー**。ユーザーをカスタムブックに関連付けるブックユーザーレコードをインポートできます。ブックユーザーレコードのインポートについては、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 569)」を参照してください。
- **取引先ブック**。ブックを取引先に割り当てる取引先ブックレコードをインポートできます。取引先ブックレコードのインポートについては、「[取引先ブックのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[取引先ブックのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 544)」を参照してください。
- **担当者ブック**。ブックを担当者に割り当てる担当者ブックレコードをインポートできます。担当者ブックレコードのインポートについては、「[担当者ブックのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[担当者ブックのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 583)」を参照してください。

注：取引先ブックまたは担当者ブックのレコードをインポートするには、将来のブックの管理権限が役割に含まれている必要があります。

ブックを取引先や担当者に割り当てるレコードをインポートするときは、ブック割当ごとに開始日と終了日を指定できます。また、将来のプライマリフラグフィールドを使用して、割当が有効になると、取引先または担当者に割り当てるブックがその取引先または担当者のプライマリブックになるかどうかを指定できます。時間ベースのブック割当の詳細は、「[時間ベースのブック割当について](#) (ページ 318)」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) (ページ 320)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) (ページ 321)

時間ベースのブック割当について

取引先ブックレコードおよび担当者ブックレコードをインポートして、取引先および担当者のブック割当を管理できます。インポートするブック割当ごとに開始日と終了日を指定できます。ブック割当の開始日を指定しない場合、割当は即時に有効になります。また、将来のプライマリフラグフィールドを使用して、ブック割当が有効になると、取引先または担当者に割り当てるブックがその取引先または担当者のプライマリブックになるかどうかを指定できます。

注: 取引先ブックまたは担当者ブックのレコードをインポートするには、将来のブックの管理権限が役割に含まれている必要があります。

取引先および担当者ブック割当の更新

ブック割当プロセスは、取引先および担当者のすべてのブック割当を検査して、必要に応じて割当てを更新するために定期的に実行されます。Oracle CRM On Demand の自分のインスタンスでブック割当プロセスの実行がスケジュールされている時期を特定するには、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

ブック割当プロセスによって、取引先および担当者のブック割当は次のように更新されます。

- **ブック割当を有効化します。**ブック割当の開始日に割当がまだ有効でない場合は、その割当が有効になります。ブック割当が有効になると、そのブックのメンバーであるユーザーは、そのブックのメンバーシップを使用して取引先または担当者にアクセスできます。

たとえば、開始日が次の年の 1 月 1 日で、ブック A を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコードをインポートするとします。取引先 1 のブック A のブック割当は、来年の 1 月 1 日午前 0 時以降にブック割当プロセスが最初に実行されると有効になります。

- **ブックがプライマリブックかどうかを判別します。**ブック割当に対して将来のプライマリフラグフィールドが [Y] に設定されている場合、割当が有効化されると、ブックは取引先または担当者のプライマリブックになります。

たとえば、現在はブック A が取引先 1 のプライマリブックであるとします。ブック B を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコード（開始日は次の年の 1 月 1 日、将来のプライマリフラグフィールドは [Y] に設定）をインポートします。ブック割当プロセスが次の年の 1 月 1 日午前 0 時以降に最初に実行されると、取引先 1 に対するブック B のブック割当が有効になり、ブック B が取引先 1 のプライマリブックになります。ブック A は取引先 1 のプライマリブックでなくなります。ただし、取引先 1 に対するブック A のブック割当は、ブック割当プロセスの実行時に割当の終了日を経過していないかぎり、有効なままです。

- **複数のブックがプライマリブックとして指定された場合の競合を解決します。**1 つの取引先または担当者に対して、同じ開始日で将来のプライマリフラグフィールドが [Y] に設定されているブック割当が複数ある場合、割当の開始日には、次のように処理されます。

- すべてのブック割当が有効になります。
- 有効になった最初のブック割当が、レコードのプライマリブックになります。
- レコードに既存のプライマリブックがある場合、そのブックはレコードのプライマリブックではなくなりますが、ブック割当の終了日が経過しないかぎり、そのブック割当は有効なままです。

たとえば、現在はブック A が取引先 1 のプライマリブックであるとします。取引先 1 に対して 2 つの取引先ブックレコードをインポートします。1 つはブック B を取引先 1 に割り当てるレコードで、もう 1 つはブック C を取引先 1 に割り当てるレコードです。両方の割当とも、開始日は次の年の 1 月 1 日で、将来のプライマリフラグフィールドは [Y] に設定されています。ブック割当プロセスが次の年の 1 月 1 日午前 0 時以降に最初に実行されると、取引先 1 に対するブック B とブック C の割当が有効になり、最初に処理された割当が取引先 1 のプライマリブックになります。ブック A は取引先 1 のプライマリブックでなくなります。ただし、取引先 1 に対するブック A のブック割当は、ブック割当プロセスの実行時に割当の終了日を経過していないかぎり、有効なままです。

- 必要に応じて、ブック割当を無効化してプライマリブックを削除します。ブック割当レコードの終了日が経過すると、割当は無効になり、ブックはレコードから削除されます。さらに、ブックが取引先または担当者のプライマリブックだった場合、そのブックは取引先または担当者のプライマリブックではなくなります。

たとえば、現在はブック A が取引先 1 のプライマリブックであるとして、ブック割当の終了日は今年の 12 月 31 日です。ブック割当スクリプトが次の年の 1 月 1 日午前 0 時以降に最初に実行されると、ブック割当が無効になり、ブック A は取引先 1 のプライマリブックの場所から削除されます。

ブック割当が無効になると、ブックと取引先または担当者との間の関係が終了し、ブックは取引先または担当者から削除されます。ユーザーは、そのブックのメンバーシップを使用して取引先または担当者にアクセスできなくなります。ただし、別のブックまたは他のアクセス制御コンポーネント（チームメンバーシップなど）を使用して取引先または担当者にアクセスできるユーザーは、引き続きレコードにアクセスできます。

ブック割当プロセスは変更できません。

時間ベースのブック割当の例

時間ベースのブック割当の例として、現在はブック A が取引先 1 に割り当てられていない場合を考えてみます。今年の 12 月 1 日に、ブック A を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコードをインポートします。ブック割当の開始日は次の年の 1 月 1 日で、終了日は同じ年の 3 月 31 日です。ブック割当プロセスによって、ブック割当は次のように有効化および無効化されます。

- 次の年の 1 月 1 日午前 0 時以降にブック割当プロセスが最初に実行されるより前は、取引先 1 へのブック A の割当は無効で、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されません。
- 次の年の 1 月 1 日午前 0 時以降にブック割当プロセスが最初に実行されると、ブック割当プロセスによってブック割当が有効化されます。これによって、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されます。
- 次の年の 3 月 31 日終了以降にブック割当プロセスが最初に実行されると、ブック割当プロセスによってブック割当が無効化されます。これによって、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されなくなります。

ブック割当の開始日と終了日を指定する際の制限

ブック割当の開始日と終了日を指定する際は、次の制限に注意してください。

- 開始日と終了日の両方を指定する場合、開始日は終了日より前の日付である必要があります。
- 開始日を指定しない場合、割当は Oracle CRM On Demand に追加されると同時に有効になります。
- 終了日を指定しない場合は、ブックがレコードから削除されないかぎり、ブック割当は有効なままです。
- 終了日を指定して開始日を指定しない場合、ブック割当は即時に有効になり、終了日に達するか、またはブック割当がレコードから削除されるか、いずれかが発生するまでブック割当は有効です。

たとえば、ブック A を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコードをインポートし、このレコードには開始日と終了日が指定されていないとします。この場合、ブック割当は即時に有効になり、ブック割当に終了日が指定されていないため、ブック割当プロセスによってブック割当が無効になることはありません。ただし、ブック A は、ユーザーインターフェイスを使用して取引先 1 から削除できます。

注：1 つの取引先に複数のブックを同時に割り当て、ブック割当ごとに開始日と終了日を同じ日付にすることも異なる日付にすることも可能です。同様に、1 つの担当者に複数のブックを同時に割り当て、ブック割当ごとに開始日と終了日を同じ日付にすることも異なる日付にすることも可能です。

開始日と終了日は Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのブック割当詳細に表示できますが、ユーザーインターフェイスでこれらの日付は変更できません。

既存のブック割当の更新について

ブックを取引先または担当者に割り当てるレコードをインポートするときに、その取引先または担当者にブックがすでに割り当てられている場合は、Oracle CRM On Demand の既存のブック割当レコードが、インポートされるレコードの値で更新されます。また、〔開始日〕または〔終了日〕フィールドの既存の値は、空白の値をインポートすることによって上書きできます。たとえば、ブック A が取引先 1 にすでに割り当てられているとします。割当の開始日は過去の日付で、終了日は将来の日付です。次に、開始日は既存の割当と同じだが終了日がないブック A および取引先 1 に対する取引先ブックレコードをインポートします。この場合、既存の割当が更新され、終了日は削除されます。

有効なブック割当を更新する際の条件

既存のブック割当がすでに有効な場合、既存の割当の有効期間とインポートするレコードの有効期間は、重複するか連続している必要があります。有効なブック割当を更新するためにインポートするレコードの開始日と終了日は、次の条件を満たす必要があります。

- 既存の割当に終了日が指定されていない場合、インポートするレコードの開始日に将来の日付は指定できません。
- インポートするレコードの開始日は、既存の割当の終了日より 8 日以上後の日付にできません。

これらの条件を満たさない場合、既存の有効なブック割当は更新されません。

将来のブック割当を更新する際の条件

ブックを取引先または担当者に割り当てるレコードをインポートするときに、開始日が将来の日付で、同じブックおよび同じ取引先か担当者に対するブック割当レコードがすでに存在する場合、インポートする割当の終了日は既存の割当レコードの開始日より 8 日以上前の日付にできません。たとえば、次の年の 2 月 1 日にブック A を取引先 1 に割り当てるレコードがすでに存在し、この割当の開始日を次の年の 1 月 1 日に変更する場合、インポートするレコードの終了日は次の年の 1 月 25 日より前の日付にできません。インポートする割当レコードの終了日が 1 月 24 日以前の場合、レコードのインポートは失敗し、レコードがすでに存在することを示すエラーメッセージが返されます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) (ページ 317)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) (ページ 320)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) (ページ 321)

ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ

このシナリオは、企業がカスタムブックを使用する方法の例を示します。このシナリオでは、カスタムブックを使用してセールステリトリーを管理します。カスタムブック機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。

企業は、地域ベースで取引先を編成し、セールス要員のグループを割り当てて、各地域、つまりテリトリー内の取引先を担当させます。さらに、様々な理由でセールス要員を別のテリトリーに再割当する場合があります。このような再割当が発生した

場合は、セールス要員とテリトリーの関係性を再調整する必要があります。頻度は多くありませんが、取引先が別のテリトリーに移転する場合があります。このような移転が発生した場合は、取引先とテリトリーの関係性を再調整する必要があります。このシナリオをサポートするために、ブック、ユーザーおよび取引先の設定例を「[ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) (ページ 321)」に示します。

ブックを使用してセールステリトリーを管理する例

このトピックでは、カスタムブックを使用してセールステリトリーを管理する例を示します。カスタムブック機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。このトピックに示す例は、「[ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) (ページ 320)」で説明したシナリオをサポートしています。

ブックを使用してセールステリトリーを管理するには

- 1 セールステリトリーを表すカスタムブックを作成またはインポートします。
ブックの作成については、「[ブックとブック階層の作成](#) (ページ 328)」を参照してください。ブックのインポートについては、「[ブックのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[ブックのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 571)」を参照してください。
- 2 セールス要員を適切なテリトリーブックに関連付けます。
Oracle CRM On Demand でユーザーをブックに直接割り当てるか、またはブックユーザーレコードをインポートできます。ユーザーとブックの関連付けについては、「[ユーザーとブックの関連付け](#) (ページ 330)」を参照してください。ブックユーザーレコードのインポートについては、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 569)」を参照してください。
- 3 [取引先] レコードタイプをブックモードに設定します。
レコード所有権モードの設定については、「[レコード所有権モードの設定](#) (ページ 328)」を参照してください。
- 4 必要な取引先ブックレコードをインポートして、適切なテリトリーブックを取引先に割り当てます。
各取引先ブックレコードの開始日を使用して、割当が有効になる日付、つまり、セールス要員が自分のテリトリー内の取引先にアクセス可能になる日付を指定します。必要場合は、各ブック割当が終了する日付も指定できます。
ブック割当レコードのインポートの詳細は、次のトピックを参照してください。
 - [取引先ブックのフィールド：インポートの準備](#) (ページ 544)
 - [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) (ページ 317)
 - [時間ベースのブック割当について](#) (ページ 318)

取引先ブックレコードをインポートし、指定の開始日にブック割当プロシージャによって割当が有効化されると、セールス要員は自分のテリトリーのレコードにアクセスできます。

セールス要員を別のテリトリーに再割当する場合は、セールス要員とテリトリーの関係性を再調整する必要があります。

セールス要員とテリトリーの間関係性を再調整するには

- セールス要員のユーザーレコードを次のように更新します。

- セールス要員を新しいテリトリーに割り当てる場合は、テリトリーブックをユーザーレコードに追加します。
- セールス要員を今後はテリトリーに割り当てない場合は、ブックをユーザーレコードから削除します。

Oracle CRM On Demand でユーザーレコードを直接更新するか、またはブックユーザーレコードをインポートできます。ユーザーとブックの関連付けについては、「[ユーザーとブックの関連付け](#) (ページ 330)」を参照してください。ブックユーザーレコードのインポートについては、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 569)」を参照してください。

取引先が別のテリトリーに移転する場合は、取引先とテリトリーの間関係を再調整する必要があります。

取引先とテリトリーの間関係を再調整するには

- 取引先レコードを次のように更新します。
 - 新しいテリトリーブックを取引先に追加します。
 - 古いテリトリーブックをユーザーレコードから削除します。

Oracle CRM On Demand で取引先レコードを直接更新するか、または取引先ブックレコードをインポートできます。ブックへのレコードの割り当てについては、「[ブックへのレコードの割り当て](#) (ページ 338)」を参照してください。取引先ブックレコードのインポートについては、「[取引先ブックのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[取引先ブックのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 544)」を参照してください。

ブックの設定のプロセス

企業のブックを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡し、企業のブック機能を有効にするように依頼します。

Oracle CRM On Demand Customer Care が企業のブック機能を有効にすると、Oracle CRM On Demand でいくつかのコントロールが利用可能になります。これらのコントロールを使用できるかどうかおよびブックを使用するための管理者役割が設定されているかどうかを確認する方法については、「[管理者の役割に設定されたブックの確認](#) (ページ 323)」を参照してください。
- 2 ブック構造を設計します。

ブック構造の設計のガイドラインについては、「[ブック構造の設計について](#) (ページ 303)」を参照してください。
- 3 (オプション) ブックタイプとブックユーザー役割を作成します。

詳細については、「[ブックタイプとブックユーザー役割の作成](#) (ページ 327)」を参照してください。
- 4 (オプション) レコードタイプのレコード所有権モードを設定します。

詳細は、[レコード所有権モードについて](#) (ページ 307)」および「[レコード所有権モードの設定](#) (ページ 328)」を参照してください。
- 5 ブックとブック階層を作成します。

詳細については、「[ブックとブック階層の作成](#) (ページ 328)」を参照してください。
- 6 ユーザーをブックに関連付けます。

詳細については、「[ユーザーとブックの関連付け](#) (ページ 330)」を参照してください。

7 企業のブックを有効にします。

詳細については、「[企業のブックの有効化](#) (ページ 334)」を参照してください。

8 ユーザーとユーザー役割に対してブックを有効にします。

詳細については、「[ユーザーとユーザー役割に対するブックの有効化](#) (参照 "[ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#)" ページ 335)」を参照してください。

関連トピック

ブックとブック構造の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ブックの管理](#) (ページ 299)
- [ブックの Web サービスのサポートについて](#) (ページ 307)
- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) (ページ 317)
- [時間ベースのブック割当について](#) (ページ 318)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) (ページ 320)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) (ページ 321)
- [\[レコード詳細\] ページのレイアウトへのブックの追加](#) (ページ 337)
- [ブックへのレコードの割り当て](#) (ページ 338)
- [\[ブック階層\] ページ](#) (参照 "[\[Book Hierarchy \(ブック階層\)\] ページ](#)" ページ 340)
- [ブックのフィールド](#) (ページ 341)

管理者の役割に設定されたブックの確認

社内のブック機能を有効にするために、カスタマーサポートでは次のことを行います。

- 管理者の役割に、[ブックの管理] 権限とブックへのアクセス権を付与する。
- 管理者がブックへのアクセスを許可できるようにアクセスプロファイルを設定する。

次の手順では、管理者の役割がブックに対して設定されていることを確認する方法について説明します。

管理者の役割がブックに対して設定されていることを確認するには

- 1** 管理者の役割を持つユーザーとして Oracle CRM On Demand にサインインします。
- 2** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 3** [管理ホームページ] の [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。

- 4 [役割管理] セクションで、[役割管理] リンクをクリックします。
- 5 [翻訳言語] リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 6 管理者の役割の [編集] リンクをクリックします。
- 7 役割管理ウィザードで、ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] に進み、ブックレコードへのアクセス権が次の表のようになっていることを確認します。

次の表では、管理者の役割に必要なブックレコードアクセスについて説明します。

レコードタイプ	アクセス権がありますか？	作成できますか？	すべてのレコードを読み取れますか？
ブック	オン	オン	オン

- 8 ステップ 4 の [権限] に進み、[ブックの管理] 権限が選択されていることを確認します。

次の表では、[ブックの管理] 権限について説明します。

カテゴリ	権限	説明
管理：ユーザーおよびアクセスの制御	ブックの管理	ブックアクセスを管理し、データをブックに一括割り当てし、ブック関連ワークフローを定義します。

注: [ブックの管理] 権限を持つ役割のユーザーは、ユーザー役割を管理できる権限の場合と同様、その他のユーザー役割に管理権限を付与することができます。ほとんどの管理タスクの場合と同じく、ブックの管理権限も、社内管理者のみに付与することをお勧めします。

- 9 [ユーザー管理とアクセス制御] ページに戻ります。
- 10 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] リンクをクリックします。
- 11 [翻訳言語] ドロップダウンリストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 12 以下の操作により、アクセスプロファイルの設定が正しいことを確認します。

- a 管理者のデフォルトアクセスプロファイルの [編集] リンクをクリックして、設定が以下の表のとおりになっていることを確認します。
- b 管理者の所有者アクセスプロファイルの [編集] リンクをクリックして、設定が以下の表のとおりになっていることを確認します。

次の表では、管理者の役割を持つユーザーに Oracle CRM On Demand でブックの管理を許可するために必要な設定について説明します。

レコードタイプ	関連レコード	管理者のデフォルトアクセスプロファイル	管理者の所有者アクセスプロファイル
取引先	ブック	全部	全部
認定*	ブック	全部	全部
活動	ブック	全部	全部

レコードタイプ	関連レコード	管理者のデフォルトアクセスプロファイル	管理者の所有者アクセスプロファイル
割当*	ブック	全部	全部
申込書類*	ブック	全部	全部
ブック	なし	読み取り/編集/削除	読み取り/編集/削除
ブック	サブブック	表示	表示
ブック	ユーザー	全部	全部
ビジネス計画*	ブック	全部	全部
キャンペーン	ブック	全部	全部
認定レベル*	ブック	全部	全部
担当者	ブック	全部	全部
コース*	ブック	全部	全部
カスタムオブジェクト	ブック	全部	全部
取引交渉登録*	ブック	全部	全部
自動車ディーラー*	ブック	全部	全部
イベント*	ブック	全部	全部
試験*	ブック	全部	全部
金融口座*	ブック	全部	全部
財務計画*	ブック	全部	全部
資金*	ブック	全部	全部
世帯*	ブック	全部	全部
在庫監査レポート*	ブック	全部	全部
在庫期間*	ブック	全部	全部
見込み客	ブック	全部	全部
MDF リクエスト*	ブック	全部	全部
メッセージプラン*	ブック	全部	全部
目標*	ブック	全部	全部
商談	ブック	全部	全部
パートナー*	ブック	全部	全部
保険証券*	ブック	全部	全部

レコードタイプ	関連レコード	管理者のデフォルトアクセスプロファイル	管理者の所有者アクセスプロファイル
ポートフォリオ*	ブック	全部	全部
プログラム*	ブック	全部	全部
サンプルロット*	ブック	全部	全部
サンプルトランザクション*	ブック	全部	全部
サービスリクエスト	ブック	全部	全部
スマートコール*	ブック	全部	全部
解決策	ブック	全部	全部
車両*	ブック	全部	全部

注:アスタリスク(*)が付いているレコードタイプは、Oracle CRM On Demand の標準エディションで使用できません。これらのレコードタイプのアクセス設定は、それぞれのレコードタイプが使用可能である場合のみ関係します。

次の表では、[ブックの管理] 権限により有効になるコントロールについて説明します。各コンポーネントにアクセスして、必要なすべてのコントロールが使用可能であることを確認できます。

コンポーネント	[ブックの管理] 権限により有効になるコントロール
管理ホームページ	■ [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブック管理] リンクが使用可能になります。このリンクから、[ブック階層] ページにアクセスして、ブックの作成、更新、および管理を行うことができます。 ■ [データ管理ツール] セクションで、[バッチ割当ブックキュー] リンクが使用可能になります。このリンクから、アクティブまたは完了したバッチ割当ブックリクエストの詳細が表示される [バッチ割当ブックキュー] ページにアクセスできます。
[アプリケーションカスタマイズ] ページ	■ [レコードタイプセットアップ] セクションで、[ブック] リンクが使用可能になります。このリンクから、[Book Application Customization (ブックアプリケーションカスタマイズ)] ページにアクセスできます。ここで、[ブックタイプ] フィールドや [Book User Role (ブックユーザー役割)] フィールドのピックリスト値など、ブックフィールドおよびブックユーザーフィールドを設定できます。
役割管理ウィザード	■ ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] に、ブックオプションが明細項目として表示されます。 ■ ステップ 4 の [権限] に、[ブックの管理] 権限がオプションとして表示されます。
アクセスプロファイルウィザード	■ ステップ 1 の [アクセスプロファイル名] に、[ブックユーザーに付与可能] チェックボックスが表示されます。 ■ ステップ 2 の [アクセスレベルを指定] で、次の操作を行います。 ■ ブックオプションが最上位オブジェクトとして表示されます。 ■ ブックをサポートするレコードタイプの [関連情報] リンクの下に、ブック関

コンポーネント	[ブックの管理] 権限により有効になるコントロール
	連情報セクションの明細項目が表示されます。
[企業プロフィール] ページ	■ ページの [会社データ表示設定] セクションに、[ブックの有効化] チェックボックスが表示されます。
ページレイアウトウィザード (レイアウト管理)	■ ステップ 4 の [関連情報] で、ブックをサポートするすべてのレコードタイプについて、ページの [利用可能] セクションにブック関連情報が表示されます。
[レコードタイプの名前変更] ページ	■ ブックオプションが、項目の 1 つとして表示されます。
ワークフロー	■ ブックの割り当てアクションが、使用可能なオプションの 1 つとして表示されます (ワークフローの管理権限が有効になっている役割の場合)。
[リストメニュー] ページ	■ [バッチ割り当てブック] が、サポートされているレコードタイプのメニューオプションの 1 つとして表示されます。

ブックタイプとブックユーザー役割の作成

ブックの構造を編成するには、ブックタイプを作成し、それぞれのブックにタイプを割り当てます。たとえば、テリトリーに関するブックの階層を作成する場合は、[テリトリー] というブックタイプを作成します。[ブックタイプ] フィールドは、企業のニーズを満たすようにカスタマイズできる編集可能なピックリストフィールドです。

ブックユーザーの役割を作成し、ブックにユーザーを関連付ける際にユーザーに割り当てることもできます。ブックユーザーの役割は、Oracle CRM On Demand ユーザーの役割とは異なります。たとえば、[テリトリーユーザー]、[テリトリー管理者] などのブックユーザーの役割を作成し、テリトリーブック階層を操作するユーザーに割り当てることができます。

次の手順では、ブックタイプおよびブックユーザー役割の作成手順について説明します。

ブックタイプとブックユーザー役割を作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで [ブック] をクリックします。
- 4 [Book Application Customization (ブックアプリケーションカスタマイズ)] ページで、次の該当する操作を行います。
 - ブックタイプを作成するには、[Book Field Setup (ブックフィールドのセットアップ)] をクリックします。
 - ブックユーザーの役割を作成するには、[Book Users Field Setup (ブックユーザーフィールドのセットアップ)] をクリックします。
- 5 フィールドの [ピックリストを編集] リンクをクリックします。

6 ピックリストの値を入力し、変更内容を保存します。

ピックリストフィールドの編集の詳細は、「[ピックリスト値の変更](#) (ページ 137)」を参照してください。

レコード所有権モードの設定

Oracle CRM On Demand では、ビジネス要件をサポートするために、次のモードのレコード所有権を設定できます。

- ユーザーモード
- ブックモード
- 混合モード

レコード所有権のモードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) (ページ 307)」を参照してください。

レコード所有権モードを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、設定するレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「フィールド管理」セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] (レコードタイプは、設定するレコードタイプの名前) をクリックします。
- 5 設定するレコード所有権モードに応じて、次のようにフィールドを編集します。
 - レコードタイプをユーザーモードに設定するには、[所有者] フィールド (必須フィールド) を設定し、次に [ブック] フィールド (必須フィールドではない) を設定します。
 - レコードタイプをブックモードに設定するには、[ブック] フィールド (必須フィールド) を設定し、次に [所有者] フィールド (必須フィールドではない) を設定します。
 - レコードタイプを混合モードに設定するには、[所有者] フィールドと [ブック] フィールド (いずれも必須フィールドではない) の両方を設定します。
- 6 変更を保存します。

フィールドの編集の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

注: レコード所有権モードを設定した後に、レコードタイプのページレイアウトがレコード所有権モードに対して正しく設定されていることを確認する必要があります。レコード所有権モードのページレイアウトの詳細は、「[レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて](#) (ページ 98)」を参照してください。

ブックとブック階層の作成

[管理ホームページ] の [ユーザー管理とアクセス制御] セクションからブックを作成できます。

注: ブックレコードをインポートしてブックを作成することもできます。詳細は、「[ブックのフィールド: インポート準備](#) (参照 "ブックのフィールド: インポートの準備" ページ 571)」を参照してください。

作業前の準備：

- この操作を行うには、自分のユーザー役割に「ブックの管理」権限が含まれている必要があります。
- ブックとブック階層を作成する前に、「[ブック構造の設計について](#) (ページ 303)」に目を通しておいてください。

注：Oracle CRM On Demand では、ブックに対するあらゆる変更について監査レコードが生成されます。ユーザーの役割に「マスター監査証跡および管理設定の監査へのアクセス」権限が含まれている場合は、ブックに対する変更の監査証跡を表示できます。監査証跡の表示方法の詳細は、「[管理設定変更の監査証跡の確認](#) (ページ 71)」を参照してください。

次の手順では、ブックの作成手順について説明します。

ブックを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「管理ホームページ」の「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ブック管理」リンクをクリックします。
- 3 「ブック階層」ページで、「新規」をクリックします。
- 4 「ブック編集」ページで、必要な情報を入力し、レコードを保存します。

次の表では、ブックに入力する必要がある情報について説明します。

フィールド	説明
ブック名	「ブック」セレクトに表示する場合は、ブック名を 60 文字以内で指定することをお勧めします。
ブックタイプ	(オプション) ピックリストからブックタイプを選択します。
親ブック	■ これがルートブックである場合は、このフィールドを空白のままにします。 ■ これがサブブックである場合は、「親ブック」フィールドの隣の「ルックアップ」アイコンをクリックして、親ブックを選択します。
データを含めることができる	現在のブックにのみ適用されます。サブブックは対象外です。レコードとブックを関連付けるには、このチェックボックスをオンにします。パフォーマンス上の理由から、データを含むブックに対してのみこの機能を適用してください。 注:Oracle CRM On Demand の「ブック」セレクトでは、データを含めることができるカスタムブックは青色の文書アイコンで表されます。データを含めることができないカスタムブックは、黄色のフォルダアイコンで表されます。

サブブックの作成

既存の親ブックに対してサブブックを作成する場合、前記の手順と同じ方法でサブブックを作成することも、次の手順に従ってサブブックを作成することもできます。

既存のブックに対してサブブックを作成するには

- 1 「ブック階層」ページで、親ブックのリンクをクリックします。

- 2 [ブック詳細] ページで、[サブブック] タイトルバーの[新規] をクリックします。
- 3 [Book Edit (ブック編集)] ページで、ブックの情報を入力してから変更を保存します。

ブックを新しい親ブックに移動

別のブックのサブブックになるようにブックを変更することも、サブブックを親ブックから別の親ブックに移動することもできます。ブックの親を変更すると、次のようにブック階層も変わります。

- 新しい親は、現在のブックとそのブックの子であるサブブックに適用されます。
- 古い親ブックに割り当てられていたユーザーは、現在のブックとサブブックへのアクセス権を失います。
- 新しい親ブックに割り当てられたユーザーは、現在のブックとサブブックへのアクセス権を取得します。
- 現在のブックに直接割り当てられているユーザーは、親ブックの変更に影響されません。

注:親ブックを削除する場合は、まずそのサブブック、ユーザー、およびデータをすべて削除する必要があります。削除されたブックは[削除済み項目] エリアに 30 日間保存されます。その期間中であれば、ブックを復元できます。ただし 30 日が経過すると、そのブックは永久に削除され、復元できなくなります。レコードの削除/復元の詳細は、「レコードの削除/復元」を参照してください。

ヒント:特定のブックに含まれているレコード数を確認するには、各レコードタイプの履歴レポートを作成します。レコードの作成方法については、「レポート」を参照してください。

次の手順では、ブックを新しい親ブックに移動する方法について説明します。

ブックを新しい親ブックに移動するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [管理ホームページ] の[ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブック管理] リンクをクリックします。
- 3 [ブック階層] ページで、変更するブックの[編集] リンクをクリックします。
- 4 [親ブック] フィールドの隣の[ルックアップ] アイコンをクリックして、新しい親ブックを選択します。
- 5 変更を保存します。

ユーザーとブックの関連付け

ブックにアクセスできるユーザーおよび各ユーザーのブック内のレコードに対するアクセスレベルを定義できます。ブックにユーザーを関連付けるときは、ブックを操作する際にユーザーにアクセスプロファイルを指定します。次の標準オプションがあります。

- **編集:** ブックのレコードを読み取って更新できます。
- **全部:** ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。
- **読み取り専用:** ブックのレコードを読み取ることができます。

ブックのカスタムアクセスプロファイルを作成することもできます。[ブックユーザー編集] ページの[アクセスプロファイル] ピックリストには、[ブックユーザーに付与可能] オプションがオンになっているすべてのアクセスプロファイルが表示

されます。ブックのカスタムアクセスプロファイルを作成する方法については、「[ブックのアクセスプロファイルの作成](#) (ページ 333)」を参照してください。

ブックに対するユーザーのアクセスレベルは、レコードに対するユーザーのアクセス権全体に影響します。次に、ユーザーのアクセス権を決定する方法の例を示します。

例 1

セールス要員の Ryan Taylor の Oracle CRM On Demand の設定は次のとおりです。

- セールス要員の役割を使用して、取引先レコードにアクセスできる
- 所有者アクセスプロファイルのアクセスレベルは、取引先レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- デフォルトアクセスプロファイルのアクセスレベルは、取引先レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- ABC Widgets 取引先の取引先チームのメンバーではない
- Widget Makers ブックに関連付けられ、ブックのアクセスプロファイルは [全部] に設定されている

ABC Widgets 取引先が Widget Makers ブックにある場合、ABC Widgets レコードに対するアクセス権によって、レコードの読み取り、編集、および削除ができます。Oracle CRM On Demand のアクセス制御システムは、関連するすべてのアクセスプロファイルから最も高い自由度の権利を算出して適用するので、Ryan にはこれらのアクセス権が与えられます。この場合、ブックのアクセスプロファイルは [全部] に設定されているので、取引先レコードのアクセスプロファイルより優先されます。

例 2

セールス要員の Tanya Lee の Oracle CRM On Demand の設定は次のとおりです。

- セールス要員の役割を使用して、商談レコードにアクセスできる
- 所有者アクセスプロファイルのアクセスレベルは、商談レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- 商談アクセスプロファイルのアクセスレベルは、商談レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- [商談アクセス] フィールドが [編集] に設定された商談チームのメンバーである
- Widget Makers ブックに関連付けられ、ブックのアクセスプロファイルは [全部] に設定されている

商談が Widget Makers ブックにある場合、Tanya のアクセス権では、レコードを読み取り、編集および削除できます。一方、商談が Widget Makers ブックにない場合、(所有者アクセスプロファイル、自分のデフォルトアクセスプロファイルおよび自分の商談チームのメンバーシップからの) Tanya のアクセス権では、商談を読み取って編集することはできませんが、商談は削除できません。

ユーザーとブックを関連付ける方法

ユーザーとブックを関連付けるには、次の 3 つの方法があります。

- ブックレコードからは、ブックに複数のユーザーを関連付けることができます。
- ユーザーレコードからは、ユーザーに複数のブックを関連付けることができます。
- ブックユーザーレコードをインポートできます。詳細は、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#) (参照 "[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)" ページ 569)」を参照してください。

次の手順では、ブックレコードを使用して複数のユーザーをブックに関連付ける方法について説明します。

複数のユーザーをブックに関連付けるには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブックの管理] リンクをクリックします。
- 3 [ブック階層] ページで、ユーザーに関連付けるブックの名前のリンクをクリックします。
- 4 [ブック詳細] ページで、[ブックユーザー] セクションのタイトルバーの [ユーザーを追加] をクリックします。
- 5 [ブックユーザー編集] ページで、ブックに関連付けるユーザーを選択します。

次の表では、ブックに関連付ける各ユーザーに指定する必要がある情報について説明します。

フィールド	説明
ユーザー	[ユーザー] フィールドの横の [ルックアップ] アイコンをクリックし、ユーザーを選択します。 注：ユーザーの委任を実行しても、ユーザーのブックに自動的にアクセスできるようにはなりません。別途、委任ユーザーとブックに関連付ける必要があります。
ブックユーザー役割	(オプション) ピックリストから役割を選択します。 注：ブックユーザー役割は、Oracle CRM On Demand 役割ではありません。ブックユーザー役割の作成については、「ブックタイプとブックユーザー役割の作成 (ページ 327)」を参照してください。
アクセスプロファイル	ブックに対して有効になっているプロファイルのリストから、現在のブックおよびそのすべてのサブブックに対するユーザーのアクセス権を決定するアクセスプロファイルを選択します。標準オプションは次のとおりです。 ■ 編集：ブックのレコードを読み取って更新できます。 ■ 全部：ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。 ■ 読み取り専用：ブックのレコードを読み取ることができます。 注:ブックのカスタムアクセスプロファイルの作成の詳細については、「ブックのアクセスプロファイルの作成 (ページ 333)」を参照してください。

次の手順では、ユーザーレコードを使用して複数のブックをユーザーに関連付ける方法について説明します。

複数のブックをユーザーに関連付けるには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザーおよびグループの管理] セクションで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] で、ブックに関連付けるユーザーの姓をクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページの [割り当て済みブック] セクションのタイトルバーで、[ブックの追加] をクリックします。

注: [ユーザー詳細] ページに [割り当てられたブック] セクションが表示されない場合は、[レイアウトを編集] リンクをクリックしてセクションをページレイアウトに追加します。

- 6 [割当ブック編集] ページで、ユーザーに関連付けるブックを選択し、各ブックに対してユーザー情報を指定します。
次の表では、ユーザーに関連付ける各ブックに指定する必要がある情報について説明します。

フィールド	説明
ブック名	[ブック名] フィールドの右側にあるアイコンをクリックし、[ブック] セクタでブックを選択して [OK] をクリックします。
ブックユーザー役割	(オプション) ピックリストから役割を選択します。 注: ブックユーザー役割は、Oracle CRM On Demand 役割ではありません。ブックユーザー役割の作成については、「 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 (ページ 327) 」を参照してください。
アクセスプロファイル	ブックに対して有効になっているプロファイルのリストから、現在のブックおよびそのすべてのサブブックに対するユーザーのアクセス権を決定するアクセスプロファイルを選択します。標準オプションは次のとおりです。 ■ 編集: ブックのレコードを読み取って更新できます。 ■ 全部: ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。 ■ 読み取り専用: ブックのレコードを読み取ることができます。 注: ブックのカスタムアクセスプロファイルの作成の詳細については、「 ブックのアクセスプロファイルの作成 (ページ 333) 」を参照してください。

注: ユーザーをブックに関連付けても、ユーザーはブックにアクセスできません。ユーザーがブックにアクセスできるようにするには、「[ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化 \(ページ 335\)](#)」に説明されているように、ブックにアクセスする必要がある各ユーザーおよびユーザー役割に対して、ブックを有効にする必要があります。

ブックのアクセスプロファイルの作成

ユーザーをブックに関連付ける場合は、ブックおよびそのすべてのサブブックのレコードに対するユーザーのアクセス権を決定するアクセスプロファイルを選択します。ブックのアクセスプロファイルは、ユーザーの他のすべてのアクセスプロファイルとともに評価され、アクセスプロファイルが許可するレコードへのアクセス権のうち、最も寛容なアクセス権がユーザーに付与されます。アクセスプロファイルの連携方法については、「[ユーザーとブックの関連付け \(ページ 330\)](#)」を参照してください。

ユーザーをブックに関連付ける場合に選択できる標準アクセスプロファイルは、次のとおりです。

- **編集:** ブックのレコードを読み取って更新できます。
- **全部:** ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。
- **読み取り専用:** ブックのレコードを読み取ることができます。

ブックのカスタムアクセスプロファイルを作成することもできます。[ブックユーザー編集] ページと [割当ブック編集] ページに表示される [アクセスプロファイル] ピックリストには、[ブックユーザーに付与可能] オプションがオンになっているすべてのアクセスプロファイルが含まれます。

次の手順では、ブックのアクセスプロファイルを作成する方法について説明します。

ブックのアクセスプロファイルを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] リンクをクリックします。
- 4 新しいアクセスプロファイルを作成するか、または既存のアクセスプロファイルを編集します。
- 5 アクセスプロファイルウィザードのステップ 1 で、[ブックユーザーに付与可能] チェックボックスをオンにします。
- 6 ステップ 2 の [アクセスレベルを指定] で、各レコードタイプおよび関連する情報タイプのアクセスレベルを指定します。
- 7 アクセスプロファイルの作成または編集が完了したら、[終了] をクリックして変更を保存します。

企業のブックの有効化

ブック構造を設定したら、企業のブックを有効にできます。次の手順では、企業のブックを有効にする方法について説明します。

企業のブックを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロファイル] セクションで、[企業プロファイル] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロファイル] ページで、次のオプションを設定します。これらのオプションの詳細については、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。
 - a [企業設定] セクションで、[グローバル検索方法] を [ターゲット検索] に設定します。[ターゲット検索] を選択すると、アクションバーの検索セクションに [ブック] セレクタが表示されます。
 - b [分析表示設定] セクションで、[履歴サブジェクトエリア] オプションを [フル表示] に設定します。この設定によって、ブックのデータは、レポートとダッシュボードをサポートするデータベースにあるデータと同期されます。
 - c [会社データ表示設定] セクションで、次のチェックボックスがオンになっていることを確認します。

設定項目	目的
ブックの有効化	このフィールドを使用して、[ブック] セレクタでカスタムブックとユーザーブックを表示するかどうかを制御します。[ブックの有効化] チェックボックスをオフにすると、[ブック] セレクタにはユーザーブックおよび被委任者ブック（被委任者が存在する場合）のみが表示されます。 注： [企業プロファイル] ページに [ブックの有効化] オプションを表

設定項目	目的
	示するには、ユーザー役割に「ブックの管理」権限が必要です。 注意： このチェックボックスをオンにするとオフに戻せません。ただし、ブック階層はこのオプションをオンにした後でも変更できます。
ブックセレクトタの表示	ユーザー、委任またはカスタムブックによってレコードをフィルターするために使用できる「ブック」セレクトタを有効にします。

ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化

ユーザーがブックを使用できるようにするには、ユーザーの役割およびそのデフォルトのアクセスプロファイルを設定します。各ユーザーのユーザーレコードも設定します。

次の手順では、ユーザー役割に対してブックを有効にする方法について説明します。これらの手順は、ブックを使用するそれぞれの役割に対して実行する必要があります。

ユーザー役割のブックを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」リンクをクリックします。
- 3 「役割管理」セクションで、「役割管理」リンクをクリックします。
- 4 「翻訳言語」リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 変更する役割のリンクをクリックします。
- 6 役割管理ウィザードの「ステップ 2 - レコードタイプアクセス」に移動し、ブックレコードタイプのアクセスレベルを設定します。

次の表では、管理者以外のユーザーがブックにアクセスできるようにする設定について説明します。

レコードタイプ	アクセス権がありますか？	作成できますか？	すべてのレコードを読み取れますか？
ブック	オン	オフ	オフ

注：「すべてのレコードを読み取れますか？」チェックボックスは必ずオフにする必要があります。オンにすると、ユーザーは「Book Hierarchy（ブック階層）」リストページのすべてのブックにアクセスできるようになります。

- 7 「終了」をクリックして変更を保存します。
- 8 「ユーザー管理とアクセス制御」ページに移動します。
- 9 「アクセスプロファイル管理」セクションで、「アクセスプロファイル」をクリックします。
- 10 「翻訳言語」リストから企業のプライマリ言語を選択します。

- 11** ブックに対して有効にするユーザー役割に使用する [デフォルトアクセスプロファイル] の [編集] リンクをクリックし、ブックおよびそれに関連するレコードタイプにアクセスできるように設定します。

次の表では、個々のユーザー役割のブックへのアクセスを有効にするユーザー役割の [デフォルトアクセスプロファイル] に必要な設定について説明します。デフォルトアクセスプロファイルを設定すると、ブックへの必要なアクセスをユーザー役割に与えることができます。したがって、その役割に対して所有者アクセスプロファイルを設定する必要はありません。

レコードタイプ	関連レコード	デフォルトアクセスプロファイル
ブック	なし	読み取り専用。
ブック	サブブック	表示。 このプロファイルによって、[Book Detail (ブック詳細)] ページのすべてのサブブックを閲覧できます。デフォルトは [アクセスなし] です。
ブック	ユーザー	読み取り専用。 このプロファイルによって、[Book Detail (ブック詳細)] ページでこのブックに関連付けられているすべてのユーザーを参照できます。デフォルトは [アクセスなし] です。

- 12** [終了] をクリックして変更を保存します。

次の手順では、ユーザーに対してブックを有効にする方法について説明します。これらの手順は、ブックを使用する各ユーザーに対して実行する必要があります。

ユーザーに対してブックを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理] セクションで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 プロファイルを編集するユーザーの [編集] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページの [主要ユーザー情報] セクションで、次の設定を行います。
 - **分析のデフォルトブック。** この設定によって、[レポートホームページ] と [ダッシュボードホームページ] の [ブック] セレクタのユーザーに対してデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブックが決まります。この設定によって、編集しているユーザーのユーザー名とサインイン ID (デフォルト) が表示されます。このレコードの設定は、ユーザーがレポートとダッシュボードに対して最も頻繁に使用するカスタムブックまたはユーザーブック

に変更してください。ユーザーレコードに対するこの設定によって、データへのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、[ブック] セレクタ内の別のブックまたはユーザーを選択できます。

- **デフォルトブック。**この設定によって、[レポート] と [ダッシュボード] 以外の領域で作業する場合に、[ブック] セレクタのユーザーに対してデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブックが決まります。デフォルトでは [すべて] が表示されます。この設定は、ユーザーがブックのデータを操作するたびにブックを選択する必要がないように、最も頻繁に使用するカスタムブックまたはユーザーブックに変更してください。ユーザーレコードに対するこの設定によって、レコードへのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、[ブック] セレクタ内の別のブックまたはユーザーを選択できます。

6 [ユーザー編集] ページの [ユーザーセキュリティ情報] セクションで、次の設定を行います。

- a [レポートサブジェクトエリア] の値を [マネージャ表示] または [チーム表示] に設定します。

注: この 2 つのいずれかの値を選択する必要があります。そうしなければ、レポートにデータが含まれなくなります。選択するオプション ([マネージャ表示] または [チーム表示]) によるレポートのデータへの影響はありません。

- b [履歴サブジェクトエリア] の値を [フル表示] に設定します。

7 [保存] をクリックします。

注: ブックにアクセスするには、ユーザーをブックに関連付ける必要があります。さらに、ユーザーの被委任者は、そのままではユーザーのブックにアクセスできません。被委任者もブックに関連付ける必要があります。

「レコード詳細」ページのレイアウトへのブックの追加

あるレコードタイプに対して、ユーザーが詳細ページでブックの関連情報のセクションを使用できるようにするには、次のような設定を行う必要があります。

- ユーザー役割のレコードタイプのページレイアウトでブックの関連情報のセクションを使用できるようにします。

注意: ブックをサポートする各レコードタイプのために、[ブック] 関連情報セクション用のカスタムレイアウトを任意で作成することもできます。たとえば、[取引先] レコードタイプ用の [アプリケーションカスタマイズ] ページを使用して、[取引先詳細] ページのための [ブック] 関連情報セクション用のカスタムレイアウトを作成できます。関連情報セクション用のカスタムレイアウトの作成の詳細は、「[関連項目 レイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 140)」を参照してください。

- ユーザー役割のアクセスプロファイルで、レコードタイプの関連情報セクションとしてブックへのアクセス権をユーザー役割に付与します。

次の手順では、レコードタイプのページレイアウトでブックの関連情報セクションを使用できるようにする方法について説明します。

レコードタイプのページレイアウトでブックの関連情報セクションを使用できるようにするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。

たとえば、[商談詳細] ページでブックの関連情報を使用できるようにするには、[商談] リンクをクリックします。

- 4 [ページレイアウト] セクションで、必要な [ページレイアウト] リンクをクリックします（たとえば、[商談ページレイアウト]）。
- 5 レコードタイプの [ページレイアウト] ページで、ページレイアウトの [編集] リンクをクリックし、ブックの関連情報セクションを使用できるようにします。
- 6 ページレイアウトウィザードで、ステップ 4 の [関連情報] に移動し、矢印をクリックしてブック項目を [表示] セクションに移動します。
- 7 （オプション）[ページレイアウト]ウィザードで、[ステップ 5]の[関連情報レイアウト]に移動し、[ブック]関連情報セクション用に使用するレイアウトを選択します。
- 8 [終了] をクリックして変更を保存します。
- 9 Oracle CRM On Demand からサインアウトし、再びサインインします。

次の手順では、ブックへのアクセス権をレコードタイプの関連情報セクションとしてユーザー役割に付与する方法について説明します。

ブックへのアクセス権をレコードタイプの関連情報セクションとしてユーザー役割に付与するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] をクリックします。
- 4 ブックの関連情報セクションを使用できるようにするユーザー役割の、デフォルトアクセスプロファイルの [編集] リンクをクリックします。
- 5 アクセスプロファイルウィザードで、ステップ 2 の [アクセスレベルを指定] に移動し、ブックの関連情報セクションを使用できるようにするレコードタイプの [関連情報] リンクをクリックします。

たとえば、ブックの関連情報を [商談詳細] ページで使用するようにするには、商談レコードの横の [関連情報] リンクをクリックします。
- 6 ユーザー役割の要件に従って、ブックのアクセスレベルを選択します。
- 7 [終了] をクリックして変更を保存します。
- 8 ブックに対して有効にするユーザー役割で使用する所有者アクセスプロファイルに対して、ステップ 4～7 を繰り返します。

ブックへのレコードの割り当て

カスタムブックには、次の方法でレコードを割り当てることができます。

- **1 回に 1 レコード（手動）。**レコードの「[詳細]」ページでブックの値を選択できます。
- **一括。**レコードをブックに一括で割り当てることができます。
- **ブック割当のインポート。**取引先および担当者のみを対象としてブック割当をインポートできます。ブック割当のインポートの詳細は、「[ブックおよびブック割当のインポートについて](#)（ページ 317）」を参照してください。

レコードは、アクティブなワークフロールールと条件を使用してもブックに割り当てることができます。ワークフロールールの詳細は、「[ワークフロールールについて](#)（ページ 380）」を参照してください。

取引先および担当者に対するブック割当の開始日と終了日について

取引先レコードおよび担当者レコードのブック割当には開始日と終了日を設定できます。これらのフィールドは、インポートアシスタントまたは Web サービスを使用することによってのみ更新できます。このような Web サービスリクエストすべてに対して、Web Services v1.0 API を使用する必要があります。

ブック割当は終了日になるまで、またはブック割当がレコードから削除されるまで有効です。終了日になると、ブックとレコードの関係は終了し、ブックのメンバーシップを通じてユーザーがレコードにアクセスすることはできなくなります。ただし、レコードの所有権やチームのメンバーシップなどの他のアクセス制御コンポーネントを通じてレコードへのアクセス権が確保されているユーザーは、引き続きレコードにアクセスできます。

時間ベースのブック割当の管理方法は、「[時間ベースのブック割当について](#)（ページ 318）」を参照してください。

作業前の準備：

- レコードの「[詳細]」ページでレコードをブックに割り当てるには、レコードタイプの「[詳細]」ページレイアウトに「ブック」セクションが含まれている必要があります。
- レコードをバッチ割当でブックに割り当てるには、ユーザーの役割に「ブックの管理」権限が必要です。

次の手順では、単一のレコードをブックに割り当てる方法について説明します。

単一のレコードをブックに割り当てるには

- 1 レコードの詳細ページに移動します。
- 2 詳細ページの「ブック」セクションのタイトルバーで、「追加」をクリックします。
- 3 ブックセレクトで、レコードを割り当てるブックを選択し、「OK」をクリックします。

次の手順では、レコードをバッチ割当でブックに割り当てる方法について説明します。

レコードをバッチ割当でブックに割り当てるには

- 1 リストウィンドウで、タイトルバーの「[メニュー]」ボタンをクリックし、「バッチ割当ブック」をクリックします。
- 2 「バッチ割当ブック」ウィンドウで、「[対象ブック]」の横のセレクトボタンをクリックし、「ブックルックアップ」でレコードを割り当てるブックを選択します。
- 3 リストからレコードの割当オプションを選択します。

次の表では、選択可能な割当オプションについて説明します。

オプション	説明
追加	すべてのレコードに対象ブックを追加します。この割り当ては、それ以前のレコードへのブック割り当てには影響を及ぼしません。
置換タイプ	対象ブックをすべてのレコードに追加し、対象ブックと同じタイプの以前に割り当てられたブックをすべて削除します。 注：ブックタイプは、企業の管理者によって定義されます。
すべて置換	対象ブックをすべてのレコードに追加し、タイプにかかわらず、以前に割り当てられたすべてのブックを削除します。
ブックの置換	置換するブックを指定します。 ここで指定したブックのレコードが、対象レコードに再度割り当てられます。その他のレコードに影響はありません。
削除	すべてのレコードから対象ブックへの既存の割り当てを削除します。
すべてを削除	レコードから割り当てられたブックをすべて削除します。

- 4 ステップ 3 で [追加] 以外のオプションを選択した場合は、ここで [適用先] オプションを選択する必要があります。次の表では、選択可能な [適用先] オプションについて説明します。

オプション	説明
手動関連付け	選択されたすべてのレコードのうち、既存のブック割当が手動で行われたものに割当オプションを適用します。
自動関連付け	選択されたすべてのレコードのうち、既存のブック割当がワークフローまたはバッチによって行われたものに、割当オプションを適用します。
両方	選択されたすべてのレコードに割当オプションを適用します。

- 5 選択した割当基準を適用するには、[割当] をクリックします。

[バッチ割当ブックキュー] ウィンドウが開き、[アクティブなリクエスト] セクションに割当リクエストが表示されます。詳細については、「[バッチ割当ブックキューページ](#) (ページ 723)」を参照してください。

リクエストが処理されると、電子メールで通知が送付されます。

【Book Hierarchy（ブック階層）】 ページ

【Book Hierarchy（ブック階層）】 ページには、カスタムブックに関する情報が表示されます。すべてのブックまたはそのサブセットを表示できます。

次の表では、【Book Hierarchy（ブック階層）】 ページで行える操作について説明します。

操作	手順

操作	手順
ブックの別のサブセットの表示	[Book Hierarchy (ブック階層)] タイトルバーでリストをクリックし、ブックの別のサブセットを選択するか、または[すべてのブック]を選択してすべてのブックを表示します。
ブックの作成	[Book Hierarchy (ブック階層)] タイトルバーの[新規]をクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、必要な情報を入力してレコードを保存します。
既存のブックに対するサブブックの作成	親ブックの名前のリンクをクリックします。[ブック詳細] ページで、[サブブック] タイトルバーの[新規]をクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、ブックの情報を入力してから変更を保存します。
ブックを新しい親ブックに移動する	変更するブックの[編集]リンクをクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、[親ブック] フィールドの横の[ルックアップ] アイコンをクリックし、新しい親ブックを選択してから変更を保存します。
ユーザーをブックに関連付ける	ブックの名前のリンクをクリックします。[ブック詳細] ページの[ブックユーザー] タイトルバーで、[ユーザーを追加]をクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、ブックに関連付けるユーザーを選択してユーザー情報を指定します。詳細については、「 ユーザーとブックの関連付け (ページ 330)」を参照してください。

ブックのフィールド

[Book Edit (ブック編集)] ページと [Book Detail (ブック詳細)] ページには、カスタムブックの詳細が表示されます。ブックの詳細を変更し、ブックにサブブックを追加し、ブックにユーザーを追加できます。

次の表では、一部のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
主要なブック情報	
ブック名	ブックの名前。
親ブック	ブックがサブブックの場合は親ブックの名前が表示されます。ルートブックの場合、このフィールドは空白です。
ブックタイプ	ブックには、ブック構造を編成するためにブックタイプを割り当てることができます。ブックタイプの作成については、「 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 (ページ 327)」を参照してください。
データを含めることができる	このブックにレコードに関連付けることができるかどうかを示します。パフォーマンス上の理由により、データを含まないブックでは、このチェックボックスをオンにしないでください。

フィールド	説明
パートナー	Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management の場合のみ存在します。詳細は、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management Configuration Guide の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリ (参照 Oracle CRM On Demand documentation library - http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmo-d-096050.html)にある「Oracle Technology Network」を参照してください。
パートナーの場所	Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management の場合のみ存在します。詳細は、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management Configuration Guide の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリ (参照 Oracle CRM On Demand documentation library - http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmo-d-096050.html)にある「Oracle Technology Network」を参照してください。
サブブックのセクション	
ブック名	現在のブックのサブブックになっているブックの名前。
ブックタイプ	サブブックのブックタイプ。
データを含めることができる	サブブックにレコードを関連付けることができるかどうかを示します。
[ブックユーザー] セクション	
名前 (姓)	このブックに関連付けるユーザーの姓。
名前 (名)	このブックに関連付けるユーザーの名。
ブックユーザー役割	現在のブックのユーザーのブック役割。ユーザーがブックに関連付けられている場合、ブックユーザー役割をユーザーに割り当てることができます。ブックユーザー役割は、Oracle CRM On Demand のユーザー役割とは異なります。ブックユーザー役割の作成については、「 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 (ページ 327)」を参照してください。
アクセスプロファイル	現在のブックおよびそのすべてのサブブックに対するユーザーのアクセス権。ブック用のプロファイルリストから選択します。ブック固有のアクセスプロファイルの作成については、「 ブックのアクセスプロファイルの作成 (ページ 333)」を参照してください。

ブックのトラブルシューティングに関する情報

ブックのトラブルシューティング機能の詳細は、My Oracle Support の 565278.1 (記事 ID) を参照してください。

グループの管理

グループの管理は、共同作業を行うユーザーに情報の共通セットを共有させてチームを形成するためのオプション機能です。

社内でグループを設定すると、ユーザーは次の操作を行うことができます。

- グループメンバーはグループ内のすべてのメンバーの空き時間情報を表示する、結合されたカレンダーにアクセスできます。これにより、従業員がアポイントをスケジュールする最適な時刻を決め、従業員（および担当者）にアポイントについて通知することができます。

注:結合されたグループカレンダーにアクセスするためには、ユーザーの役割に「共有カレンダー」権限を割り当てる必要があります。「共有カレンダー」権限を持つユーザーは、カスタムカレンダービューもセットアップできます。詳細については、「他のユーザーのカレンダーの表示」および「カスタムカレンダービューの追加」を参照してください。

- グループメンバーは、次のレコードタイプの所有権を自動的に共有できます。

- 活動
- 取引先
- 担当者
- 世帯
- 商談
- ポートフォリオ

レコードがグループのメンバーに割り当てられている場合は、グループのすべてのメンバーがレコードの共同所有者になります。たとえば、あるユーザーがグループ XYZ に所属している場合、そのユーザーがグループのメンバーになった後にユーザーに割り当てられる取引先は、グループ XYZ のすべてのメンバーの取引先リストに挿入されます。このようなレコードでは、「プライマリグループ」フィールドが「詳細」ページレイアウトにある場合は、そのフィールドにグループ名が表示されます。グループのすべてのメンバーは、レコードに指定されている所有者も含め、レコードの「詳細」ページの「チーム」関連情報セクションに表示されます。グループのすべてのメンバーは、レコードを更新できます。

デフォルトでは、現在のグループのメンバーは、メンバーがグループに参加した後にグループメンバーに割り当てられたグループレコードに対して完全なアクセス権を持ちます。「個人」というマークが付けられたアポイント、タスク、担当者レコードの詳細を他のグループメンバーが参照することはできません。

注：この機能を使用できるようにするには、「企業プロファイル」ページの「デフォルトのグループ割当」オプションを選択する必要があります。このオプションは、グループを作成する前に選択する必要があります。詳細については、「[グループの設定](#) (ページ 345)」を参照してください。

次の動作がグループに適用されます。

- 各ユーザーは 1 つのグループにしか属することができません。
- ユーザーがグループに追加されると、グループメンバーを選択するときに、その名前はユーザーリストに表示されなくなります。
- 企業でグループ割当オプションを選択する場合：
 - グループが定義される前に存在していたレコードは、「所有者」フィールドがグループに属する新しい所有者で更新される場合を除いて、更新されません。
 - ユーザーがグループに参加すると、ユーザーはグループのレコードにアクセスできます。ただし、その新しいグループメンバーがグループへの参加前に所有していたレコードは、既存のグループメンバーには自動的に認識可能になり

ません。ユーザーがグループに加わった後にレコードの所有者になった場合、このレコードは他のグループメンバーにも公開されます。

次の例では、グループレコードの所有権について説明します。

- ユーザー1 とユーザー2 はグループ 1 に所属しています。ユーザー3 はグループ 1 に所属していません。
 - ユーザー3 は取引先 31 の所有者です。ユーザー1 とユーザー2 は、取引先 31 にアクセスできません。
 - ユーザー3 をグループ 1 に追加します。ユーザー1 とユーザー2 は取引先 31 にアクセスできません。
 - ユーザー3 を取引先 32 の所有者にします。ユーザー1 とユーザー2 も取引先 32 にアクセスできるようになります。
- ユーザーをグループから削除すると、そのユーザーは、グループが所有しているすべての共有レコードから削除されます。ユーザーは、自分の個人レコードには引き続きアクセスできます。

グループおよびレコード所有権モードについて

レコードタイプに対して設定したレコード所有権モードによっては、そのタイプのレコードには所有者が設定されない場合があります。かわりに、レコードにはプライマリカスタムブックが設定されるか、所有者もプライマリカスタムブックも設定されない場合があります。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) (ページ 307)」を参照してください。レコード所有権モードは、ブックをサポートしているレコードタイプにのみ適用されます。

レコードタイプのレコード所有権モードを変更した場合、以前に所有者が設定されていたレコードでは、レコード所有権モードの変更後はじめてレコードが更新されたときに、所有者がレコードから削除される場合があります。この場合、レコードの前の所有者がグループのメンバーである場合は、そのレコードの前の所有者を除いて、グループのメンバー全員がチームのメンバーとして残ります。ただし、[取引先] レコードタイプはこのルールに対する例外になります。取引先の前の所有者がグループのメンバーである場合は、そのグループのすべてのメンバーがチームから削除されます。

注: 標準アプリケーションでは、ここで説明されているように、レコードの前の所有者はチームのメンバーとして保持されません。ただし、管理者がレコードタイプを構成して、レコードの前の所有者がレコードのチームのメンバーとして保持されるようにできます。チームのメンバーとして前の所有者を保持するためのレコードタイプの構成の詳細は、「[共有レコードの前の所有権のカスタマイズ](#) (ページ 227)」を参照してください。

グループとチーム

Oracle CRM On Demand では、グループとチームを次のように識別します。

- グループは企業の管理者によって設定され、企業のレコードセット全体に適用されます。Oracle CRM On Demand に対して企業が設定されている場合は、グループ機能がカスタマーサポートまたは企業の管理者によって有効になっている必要があります
- レコード所有者または企業の管理者がチームを設定します。チームは、チームに許可された次のレコードタイプにのみ適用されます。
 - 取引先
 - 認定
 - 申込書類
 - ビジネス計画
 - 認定レベル
 - 担当者

- コース
- カスタムオブジェクト
- 取引交渉登録
- イベント
- 試験
- 世帯
- 見込み客
- MDF リクエスト
- 目標
- 商談
- オーダー
- パートナー
- ポートフォリオ
- サンプルリクエスト
- サービスリクエスト
- 特別価格リクエスト

チームを設定してレコードにアクセスするには、所有者はレコードの [詳細] ページの [チーム] セクションを使用してそのレコードを明示的に共有する必要があります。

グループの設定方法については、「[グループの設定](#) (ページ 345)」を参照してください。

関連トピック

グループと共有カレンダーの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- 他のユーザーのカレンダーの表示
- カスタムカレンダービューの追加

グループの設定

作業前の準備。 次の操作を実行します。

- 次に示す、適切な権限を含む役割が割り当てられていることを確認してください。
 - グループを作成、編集または削除するには、[役割およびアクセスの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。
 - ユーザーをグループに追加するかグループから削除するには、[役割およびアクセスの管理] 権限および[ユーザーの管理] 権限の両方を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。
 - [デフォルトのグループ割当] 機能をオンまたはオフに切り替えるには、[企業の管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

- グループの機能については、「[グループの管理](#) (ページ 343)」を参照してください。

グループの設定とユーザーのインポートの順序

グループを設定する場合は、次の順序に従います。

- 1 デフォルトのグループ割当機能を有効にします。

注意:デフォルトのグループ割当機能を使用する予定がない場合でも、グループの設定または変更前には、デフォルトのグループ割当機能をオンにする（つまり、[企業プロファイル] ページの [デフォルトのグループ割当] オプションを選択する）必要があります。グループの設定または変更前にこの機能をオンにしない場合、そのグループは正しく実行されません。この場合は、グループを削除し、デフォルトのグループ割当機能をオンにして、グループを再作成する必要があります。

- 2 グループを作成し、そのグループにユーザーを割り当てます。
- 3 デフォルトのグループ割当機能を使用する予定はないが、ユーザーが、グループを使用して結合されたグループカレンダーを表示できるようにする場合は、グループの作成とそのグループへのメンバーの追加が終了した後で、デフォルトのグループ割当機能をオフにしてください。
- 4 デフォルトの所有者（ユーザー）でレコードをインポートし、このレコードにグループを適用します。

デフォルトのグループ割当機能をオンにするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロファイル] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロファイル] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [会社データ表示設定] セクションで、[デフォルトのグループ割当] チェックボックスをオンにします。
- 6 設定を保存します。

グループを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザーおよびグループの管理] セクションの [公開共有グループ] リンクをクリックします。
- 4 [グループリスト] ページで、[新規グループ] をクリックします。
- 5 [グループ編集] ページで、必須フィールドに情報を入力します。

フィールド	説明
名前	50 文字に制限されます。デフォルトでは、必須フィールド。
説明	255 文字に制限されます。

注意: アプリケーションはグループレコードの追跡に、グループ名ではなく、基になるグループ ID を使用するため、既存のレコードに影響を与えることなくグループ名を変更できます。ただし、グループ名は社内で固有な名前にする必要があります。

- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [グループ詳細] ページで、[メンバーを追加] をクリックします。
- 8 [グループメンバー] ページで、[ルックアップ] アイコンをクリックして、ユーザーを追加します。
グループに割り当てられていないユーザーだけがリストに表示されます。ユーザーが属するグループを決定するには、そのユーザーの [詳細] ページに移動する必要があります。
- 9 レコードを保存します。
- 10 デフォルトのグループ割当機能を使用する予定はないが、ユーザーが、グループを使用して結合されたグループカレンダーを表示できるようにする場合は、グループの作成とそのグループへのメンバーの追加が終了した後で、デフォルトのグループ割当機能をオフにしてください。
デフォルトのグループ割当機能をオフにするには、次の操作を行います。
 - a 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - b [企業管理] リンクをクリックします。
 - c [企業プロファイル] リンクをクリックします。
 - d [企業プロファイル] ページで、[編集] をクリックします。
 - e [会社データ表示設定] セクションで、[デフォルトのグループ割当] チェックボックスをオフにします。
 - f 設定を保存します。

後でグループまたはグループメンバーシップを変更する場合は、デフォルトのグループ割当機能を再度オンにしてから変更を行い、変更後にこの機能をオフにする必要があります。

デフォルトグループ割当の設定の変更について

社内でユーザーグループの使用の停止を決定した場合、デフォルトグループ割当機能を無効にする前に、次の手順に従ってください。

- 1 グループのレコードのプライマリ所有者に指定するユーザー以外のユーザーをすべて削除します。
- 2 グループを削除します。
- 3 企業プロファイルの [デフォルトのグループ割当] チェックボックスをオフにします。

関連トピック

グループと共有カレンダーの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [グループの管理](#) (ページ 343)
- [他のユーザーのカレンダーの表示](#)
- [カスタムカレンダービューの追加](#)

テリトリー管理

テリトリーとテリトリー階層を設定できます。たとえば、セールス要員をグループまたはテリトリーに編成できます。テリトリーは、地理的条件、製品または業種に基づくことができます。個々のセールスグループは、担当テリトリーの取引先および商談の処理について責任を持ちます。Oracle CRM On Demand で設定したテリトリー単位で、新しい取引先レコードや商談レコードを割り当てることができます。テリトリーの設定については、「[テリトリーの設定](#) (ページ 348)」を参照してください。

テリトリーの設定

作業前の準備：

- 社内でテリトリーが定義されていない場合は、Oracle CRM On Demand で情報を設定する前に、命名規則と階層を指定します。情報を入力する場合は、最上位のテリトリーから開始して、下位のテリトリーを追加します。
- 次の手順を実行するには、[テリトリーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

次の手順では、テリトリーの設定方法について説明します。

テリトリーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[テリトリー管理] リンクをクリックします。
- 3 [テリトリー階層] ページで、次の該当する操作を行います。
 - テリトリーを追加するには、[新規のテリトリー] をクリックします。
 - テリトリー情報を更新するには、[テリトリー名] カラムで適切なリンクをクリックし、[テリトリー詳細] ページで [編集] をクリックします。
- 4 [テリトリー編集] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
テリトリー名	50 文字に制限されます。
親テリトリー	これが最上位のテリトリーの場合は、このフィールドを空白のままにします。

フィールド	説明
現在の目標	このテリトリーに割り当てられている目標を入力できます。
テリトリー通貨	企業のデフォルト通貨を継承します。

- 5 レコードを保存します。
- 6 (オプション) [テリトリー詳細] ページで、[子テリトリー] タイトルバーの [新規] をクリックして、下位のテリトリーを追加します。

親テリトリーを更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[テリトリー管理] リンクをクリックします。
- 3 [テリトリー階層] ページで、子テリトリーを選択します。
- 4 [テリトリー詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [テリトリー編集] ページで、[親テリトリー] フィールドの横にある [ルックアップ] アイコンをクリックします。
- 6 [ルックアップ] ウィンドウで、親取引先を選択します。
- 7 レコードを保存します。

レコードのテリトリーを更新するには

レコードのテリトリーフィールドは、いくつかの方法で更新できます。通常、この処理は自動的に行われます。

- **割当マネージャ**：割当マネージャを使用してこのフィールドに情報を入力し、レコードの関連所有者およびチームメンバーを割り当てることができます。
- **インポート**：数多くのレコードについてテリトリーの所有権を更新する場合、割当マネージャを使用して、レコードの割当をトリガーする所有者再割当フラグを設定します。
- **手動**：ユーザーは、自分のテリトリーをレコードに割り当てることができます。

アクセス権の指定方法

各種レコードタイプで表現されるデータへのアクセス権が Oracle CRM On Demand により指定される方法の詳細は、次の各トピックを参照してください。

- [プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法](#) (ページ 350)
- [プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法](#) (ページ 350)
- [関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法](#) (ページ 352)

- [関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法](#) (ページ 354)
- [アクセスレベルの計算例](#) (ページ 355)

プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーがプライマリレコードタイプのレコードリストを表示しようとして、タブのクリック、検索の実行、または Web サービスの使用を行うと、Oracle CRM On Demand は次のプロセスを使用して、そのレコードタイプのレコードに対するユーザーのアクセス権を判別します。

- Oracle CRM On Demand は、ユーザー役割の権限によってユーザーに与えられた権限を判別します。
- Oracle CRM On Demand は、ユーザー役割のレコードタイプ設定によってユーザーに与えられた権限を判別します (アクセス可能、作成可能、すべてのレコードを読み取り可能)。

ユーザーが権限によって所定のレコードタイプのレコードを使用でき、ユーザー役割でレコードタイプに [すべてのレコードを読み取り可能] 設定が選択されている場合、そのユーザーはそのレコードタイプのすべてのレコードを表示できます。

ユーザーが権限によって所定のレコードタイプのレコードを使用できるが、ユーザー役割でレコードタイプに [すべてのレコードを読み取り可能] 設定が選択されていない場合、そのユーザーが表示できるのは、該当レコードタイプの所有しているすべてのレコードと、次のいずれかのアクセス制御コンポーネントによって表示を承認されている該当レコードタイプのレコードです。

- レポート階層
- カスタムブックのメンバーシップ
- ユーザーの委任
- チームのメンバーシップ

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスレベルの計算例](#) (ページ 355)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)

プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーが、プライマリレコードの更新や削除、または詳細を表示するためのドリルダウンを行おうとするとき、Oracle CRM On Demand は、次のプロセスを使用してユーザーがレコードに対して実行できるアクションを判別します。

- Oracle CRM On Demand は、ユーザーの役割に対するアクセスプロファイルで付与されたアクセスレベルを次のように判別します。
 - ユーザーがレコードの所有者である場合、ユーザーの所有者アクセスプロファイルが使用されます。

- ユーザーがレコードの所有者ではないが、ユーザーの役割でそのレコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されている場合、ユーザーのデフォルトアクセスプロファイルが使用されます。
- Oracle CRM On Demand は、次の各アクセス制御コンポーネントで付与されたアクセスレベルを判別します。
 - レポート階層
 - カスタムブックのメンバーシップ
 - ユーザーの委任
 - チームのメンバーシップ

レポート階層、カスタムブックのメンバーシップ、ユーザーの委任およびチームメンバーシップによって付与されるアクセスレベルを Oracle CRM On Demand が判別する方法は、このトピックでこれから詳しく説明します。Oracle CRM On Demand は常に、これらのアクセス制御コンポーネントそれぞれから最も許容度が高いアクセスレベルを使用します。アクセスプロファイルを作成して、ユーザー、ブックおよびチームに割り当てるときは、このことに注意してください。

レコードのアクセス権限の組合せにより、ユーザーがレコードに対して実行できるアクションが決まります。ユーザーがレコードに対して少なくとも読み取り専用アクセスを持つ場合、レコードの詳細が表示されます。そうでない場合、ユーザーにエラーメッセージが表示されます。

レポート階層によるアクセス権

レポート階層におけるユーザーの位置によって付与されるアクセス権を判別するために、Oracle CRM On Demand はユーザーの各部下について次の状況を確認します。

- 部下がレコードの所有者である場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 部下がレコードに関するチームメンバーである場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを、チームメンバーとして部下に割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。

注:部下がレコードの所有者でない場合、またはレコードのチームのメンバーでない場合、その部下はアクセスの計算に入りません。

Oracle CRM On Demand は、部下がアクセスの計算に入れられるすべてのアクセス権を検討し、ユーザーに与えられる最も許容度が高いアクセスレベルを計算します。

カスタムブックのメンバーシップによるアクセス権

カスタムブックに対するユーザーのメンバーシップによって付与されるアクセス権を判別するために、Oracle CRM On Demand は次の状況を確認します。

- レコードがブックに関連付けられている場合、Oracle CRM On Demand は、レコードタイプのアクセスレベルを、ブックのメンバーであるユーザーに割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。
- 祖父母、親、子などの複数のレベルで構成されるブック階層内の子ブックにレコードが関連付けられている場合、アクセスレベルは次のように抽出されます。
 - ユーザーが3つすべてのブックのメンバーである場合、アクセスレベルは祖父母、親、子の各ブックのユーザーのアクセスプロファイルから導出されます。
 - ユーザーが祖父母ブックのみのメンバーである場合、アクセスレベルは祖父母ブックのユーザーのアクセスプロファイルから導出されます。

いずれにしても、レコードの 1 つ以上のアクセスレベルが [プライマリの継承] の場合は、プライマリレコードタイプの継承アクセスレベルが使用されます。レコードの複数のアクセスレベルが [プライマリの継承] の場合は、各アクセスプロファイルからのプライマリレコードタイプの継承アクセスレベルの結合が使用されます。Oracle CRM On Demand は、ブックメンバーシップがアクセスの最終的な計算に寄与するすべてのアクセルレベルを検討し、ユーザーに与えられる最も許容度が高いアクセスレベルを決定します。

ユーザーの委任によるアクセス権

ユーザーの委任によって付与されるアクセス権を判別するために、Oracle CRM On Demand は各委任元（現在のユーザーが委任している各ユーザー）について次の状況を確認します。

- 委任元がレコードの所有者である場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを委任元の所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 委任元がレコードに関するチームメンバーである場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを、チーム内の委任元に割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。
- 委任元の部下がレコードの所有者である場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを部下の所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 委任元の部下がレコードに関するチームメンバーである場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを、チーム内の部下に割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。

Oracle CRM On Demand は、ユーザーの委任によってアクセスの計算に入れられるすべてのアクセルレベルを検討し、ユーザーに与えられる最も許容度が高いアクセスレベルを決定します。

チームメンバーシップによるアクセス権

ユーザーがレコードに関するチームメンバーである場合（レコードの所有者ではない）、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルをユーザーのチームメンバーシップのアクセスプロファイルから抽出します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスレベルの計算例](#) (ページ 355)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)

関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーがレコードの [詳細] ページを正常に表示したとき、Oracle CRM On Demand は次のプロセスを使用して、ユーザーが表示できる関連レコードを判別します。

- Oracle CRM On Demand は、レコードタイプを表示するための適切な権限がユーザーの役割に含まれていることを確認します。ユーザーの役割にレコードタイプを表示するために必要な権限がない場合、その関連レコードタイプのレコードは表示されません。
- 関連レコードタイプがプライマリレコードタイプに基づく場合、Oracle CRM On Demand は、その関連レコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオンになっていることを確認します。関連レコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオフの場合、その関連レコードタイプのレコードは表示されません。

352 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

- 親レコードの所有者が現在のユーザーである場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が現在のユーザーの部下（レポート階層の任意のレベル）である場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が関連付けられていないユーザーの場合：
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されている場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルから抽出します。
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されていない場合、現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルは使用されません。

この場合、現在のユーザーが親レコードの「詳細」ページにアクセスできるのは、次の 1 つまたは複数に該当するときです。

 - 現在のユーザーが親レコードのチームのメンバーです。
 - 現在のユーザーの直接または間接の部下が親レコードにアクセスできます。
 - 現在のユーザーが、親レコードを含むブックのメンバーです。または、親レコードが、現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
 - 現在のユーザーが親レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。

このように Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを、適切な各アクセス制御コンポーネントを介して親レコードのアクセスプロファイルから抽出します。
- Oracle CRM On Demand は、次にすべての関連アクセスレベルを評価して、次のように「プライマリの継承」アクセスレベルが一連のアクセスレベルに含まれるかどうか、またどのレコードを表示するかを判別します。
 - 「プライマリの継承」アクセスレベルが見つからない場合：
 - 最も許容度の高いアクセスレベルが「アクセスなし」の場合、関連レコードは表示されません。
 - 最も許容度の高いアクセスレベルが「アクセスなし」以外の場合、すべての関連レコードが表示されます。現在のユーザーが表示を承認されていないレコードも含まれます。
 - 「プライマリの継承」アクセスレベルが見つかり、現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオンになっていると、すべての関連レコードが表示されます。
 - 「プライマリの継承」アクセスレベルが見つかったが、現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオフの場合、表示される関連レコードのセットにすべてのレコードが含まれるのは、次のいずれか 1 つに該当するときです。
 - 現在のユーザーが関連レコードを所有しています。
 - 現在のユーザーが関連レコードに関するチームのメンバーです。
 - 現在のユーザーの直接または間接の部下がレコードにアクセスできます。
 - 現在のユーザーが、関連レコードを含むブックのメンバーです。または、関連レコードが、現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
 - 現在のユーザーが、関連レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。

注：活動、オープンした活動、およびクローズした活動の関連レコードタイプは、前述のルールに対する例外です。活動関連レコードタイプに「プライマリの継承」アクセスレベルが見つかったが、現在のユーザーの役割で「活動」レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオフの場合、

表示される一連の関連活動には、ユーザーが所有する活動、ユーザーが別のユーザーに委任した活動、およびユーザーが所属しているグループが所有する活動のみが含まれます。現在のユーザーがブック経由でのみアクセスできる活動、ユーザーが別のユーザーの委任者であるという理由でのみ現在のユーザーがアクセスできる活動、および現在のユーザーがレポート階層経由でのみアクセスできる活動は、一連の関連活動には含まれません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスレベルの計算例](#) (ページ 355)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)

関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーが関連レコードの更新や削除、または詳細を表示するドリルダウンを実行しようとする、Oracle CRM On Demand は、次のプロセスを使用してユーザーがレコードに対して実行できるアクションを判別します。

- 親レコードの所有者が現在のユーザーである場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が現在のユーザーの部下（レポート階層の任意のレベル）である場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が関連付けられていないユーザーの場合：
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されている場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルから抽出します。
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されていない場合、現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルは使用されません。

この場合、現在のユーザーが親レコードの「詳細」ページにアクセスできるのは、次の 1 つまたは複数に該当するときです。

- 現在のユーザーが親レコードのチームのメンバーです。
- 現在のユーザーの直接または間接の部下が親レコードにアクセスできます。
- 現在のユーザーが、親レコードを含むブックのメンバーです。または、親レコードが、現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
- 現在のユーザーが親レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。

関連レコードへのアクセスが親レコードのコンテキストを介して与えられるとき、Oracle CRM On Demand は、該当する各アクセス制御コンポーネントのアクセスプロファイルから関連レコードタイプの適切なアクセスレベルを抽出します。

- 次のいずれかに該当する場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードについて、現在のユーザーの関連レコードとの関係からもアクセスレベルを抽出します。

- 現在のユーザーが関連記録に関するチームのメンバーです。現在のユーザーが関連記録の所有者である場合は、ユーザーはチームにも属しています。このため、所有者アクセスプロファイルが使用されます。
- 現在のユーザーの直接または間接の部下が関連記録にアクセスできます。
- 現在のユーザーが関連記録を含むブックのメンバーです。または関連記録が現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
- 現在のユーザーが、関連記録にアクセスできる別のユーザーによって委任されています。
- 次に、Oracle CRM On Demand は、適用されるすべてのアクセスレベルを評価して、[プライマリの継承] アクセスレベルが一連のアクセスレベルにあるかどうかを判別します。
 - [プライマリの継承] アクセスレベル（またはその組合せのいずれか）が、適用される一連のアクセスレベルで見つかった場合、関連記録タイプは自らのプライマリ記録タイプの役割設定とアクセス設定を継承します。[プライマリの継承] アクセスレベル設定により、ユーザーが記録に対して実行できるアクションが決まります。Oracle CRM On Demand が複数の [プライマリの継承] アクセスレベルを見つけると、そのアクセスレベルの組合せが決まります。[プライマリの継承] アクセスレベルおよび組合せの詳細は、「[関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#) (ページ 287)」を参照してください。
 - [プライマリの継承] アクセスレベル（またはその組合せのいずれか）が、適用される一連のアクセスレベルで見つからないが、関連記録タイプに対応するプライマリ記録タイプがある場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリ記録タイプと関連記録タイプのアクセスレベルの交差を判別します。

たとえば、商談関連記録タイプのアクセスレベルが [読み取り専用] で、対応する商談プライマリ記録タイプのアクセスレベルが [読み取り/編集] の場合、アクセスレベルの交差は [読み取り専用] になります。

関連記録タイプについて得られたすべてのアクセスレベルの組合せにより、ユーザーがその記録タイプの記録に対して実行できるアクションが決まります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスレベルの計算例](#) (ページ 355)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)

アクセスレベルの計算例

次のリンクをクリックして、Oracle CRM On Demand によるユーザーのアクセス権の計算方法の例を参照してください。

- [例 1: \[表示\] アクセスレベルの使用](#) (ページ 356)
- [例 2: \[プライマリの継承\] アクセスレベルの使用](#) (ページ 360)
- [例 3: ブックによるデータの保護](#) (ページ 363)

これらの例のアクセス権は、ユーザーの役割、アクセスプロファイルおよびその他のアクセス制御コンポーネントの特定の設定に基づいています。Oracle CRM On Demand では、認証されたユーザーとやり取りするたびにアクセス権を計算します。Oracle CRM On Demand は、ユーザーの役割とすべてのアクセスプロファイルからアクセス権を判別します。アクセスプロファイルは、所有者アクセスプロファイル、デフォルトアクセスプロファイル、レポート階層、カスタムブックのメンバーシップ、ユーザー委任、チームのメンバーシップを介して適用され、これらは **アクセス制御コンポーネント** と呼ばれます。

注:ユーザーとしては、会社の従業員またはパートナー組織の従業員が可能です。また、Oracle CRM On Demand にアクセスする外部システムもユーザーとして設定できます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) (ページ 279)
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)

例 1：[表示] アクセスレベルの使用

このトピックでは、Oracle CRM On Demand がユーザーのアクセス権を計算する方法の 1 つの例を示します。

この例では、Amanda Jacobsen には [セールス要員] 役割があります。Amanda は、新しい取引先を作成し、他のすべての取引先レコードを表示できます。商談を作成できますが、表示できるのは自分が所有する商談または表示を承認されている商談のみです。

次の表に、[セールス要員] 役割のレコードタイプ設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセス可能	作成可能	すべてのレコードを読み取り可能
取引先	はい	はい	はい
商談	はい	はい	いいえ

[セールス要員] 役割により、Amanda は、自分が作成する取引先と商談を完全に制御でき、所有していないレコードの権限は制限されます。[セールス要員] 役割には、所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルの 2 つのアクセスプロファイルが必要です。

次の表に、セールス要員所有者アクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り/編集/削除	商談	表示
商談	読み取り/編集/削除	なし	なし

次の表に、セールス要員デフォルトアクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り専用	商談	表示
商談	読み取り専用	なし	なし

アクセス権計算のこの例では、チーム継承が[商談]レコードタイプに対して有効になっていないこと、つまり、[企業プロファイル] ページ上の商談の[親チーム継承の有効化]チェックボックスが選択解除されていることが前提となっています。親チーム継承機能の動作の詳細は、「[チームの継承によるアクセスの適用について](#) (ページ 283)」を参照してください。

同じ会社の David Bloom にも [セールス要員] 役割があります。David のアクセス権は Amanda と同じです。

Amanda は、取引先 1 にリンクされている商談 X の所有者です。David が商談 Y を作成し、取引先 1 にリンクします。Amanda はこの商談チームには所属していません。

Amanda が社内の取引先リストを表示するときは、すべての取引先を表示できます。所有していないものも含めてすべての取引先の表示が役割で許可されるためです。次の表に、Amanda が取引先 1 の取引先名をクリックして、レコードをドリルダウンするときに表示される内容を示します。この例では、関連するフィールドとカラムのみが表示されます。

取引先詳細：取引先 1		
取引先詳細		
取引先名。	取引先 1	
所有者。	Jonathan Hope	
商談		
商談		所有者
商談 X		Amanda Jacobsen
商談 Y		David Bloom
取引先チーム		
名前（姓）	名前（名）	取引先アクセス
Hope	Jonathan	所有者

例 1 での関連レコードの表示

この例で Amanda が取引先について表示できる関連商談レコードを判別するために、Oracle CRM On Demand は Amanda のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

注:複数のアクセスレベルが様々なアクセス制御コンポーネントから検出される場合、アクセス権を計算するときにそれらのすべてが考慮されます。

- Amanda が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の役割で、すべての取引先レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「はい」です。Amanda の役割により、すべての取引先レコードが読み取り可能なため、Amanda は取引先を表示できます。Amanda は親取引先の所有者ではないため、デフォルトアクセスプロファイルが使用されます。Amanda のデフォルトアクセスプロファイルでの商談関連レコードタイプのアクセスレベルは「表示」です。

- Amanda がブックメンバーであるブックに親レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の部下（直接または間接）が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

この質問の答えが「はい」の場合（つまり、Amanda の部下の 1 名以上が取引先チームのメンバーである場合）、Oracle CRM On Demand は、部下それぞれについて適切なアクセスプロファイルから商談関連レコードタイプのアクセスレベルを抽出します。取引先に関する部下のチームメンバーシップの「取引先アクセス」フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルがこのケースで使用されます（「商談アクセス」フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルではありません）。

- Amanda が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- Amanda の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

ユーザーの役割で「商談」レコードタイプの「アクセス可能」オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- Amanda の役割で「商談」レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

商談は権限では制御されないため、この例では、権限は Amanda のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが「プライマリの継承」またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

3 Oracle CRM On Demand は次に、検出されたすべてのアクセスレベルを調べ、最も許容度が高いレベルを判別します。このケースでは、検出された最高の許容度のアクセスレベルは「ビュー」です。「プライマリの継承」アクセスレベルはないため、ユーザーが表示を承認されていないものも含めてすべての子商談レコードが表示されます。

例 1 での関連レコードへのアクション

ユーザーが関連レコードにアクションを実行しようとするとき、Oracle CRM On Demand は、そのアクションのための適切なアクセス権がユーザーにあるかどうかを判別する必要があります。この例では、Amanda はレコードの詳細の読み取り、レコードの編集またはレコードの削除を行おうとします。次の 2 つのケースについて説明します。

- ケース 1 では、Amanda が商談 X に対してアクションを実行しようとしています。

- ケース 2 では、Amanda が商談 Y に対してアクションを実行しようとしています。

ケース 1: Amanda が自分が所有している商談 X に対してアクションを実行しようとしています。

Oracle CRM On Demand は、Amanda のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

注:複数のアクセスレベルが様々なアクセス制御コンポーネントから検出される場合、アクセス権を計算するときにそれらのすべてが考慮されます。

- Amanda が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の役割ですべての商談レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。Amanda が親取引先レコードを表示できるのはデフォルトアクセスプロファイルが使用されるためですが、デフォルトアクセスプロファイルは商談レコードに対しては使用されません。

- Amanda がブックメンバーであるブックに商談レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「はい」です。Amanda は商談の所有者であるため、商談チームにも所属します。Amanda のデフォルトアクセスプロファイル（セールス要員のデフォルトアクセスプロファイル）でのプライマリ商談レコードタイプのアクセスレベルは [読み取り/編集/削除] です。

- Amanda の部下（直接または間接）が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- Amanda の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

Amanda の役割で [商談] レコードタイプの [アクセス可能] オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- Amanda の役割で [商談] レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

[商談] レコードタイプは権限では制御されません。この例では、権限は Amanda のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが [プライマリの継承] またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

3 Oracle CRM On Demand は次に、検出されたすべてのアクセスレベルを調べ、最も許容度が高いレベルを判別します。このケースでは、検出された最も許容度が高いアクセスレベルは [読み取り/編集/削除] です。

ケース 2: Amanda は、David Bloom が所有している商談 Y に対してアクションを実行しようとしています。

Oracle CRM On Demand は、Amanda のアクセス権を次のように調べます。

1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

注: 複数のアクセスレベルが様々なアクセス制御コンポーネントから検出される場合、アクセス権を計算するときにそれらのすべてが考慮されます。

- Amanda が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の役割ですべての商談レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。Amanda が親取引先レコードを表示できるのはデフォルトアクセスプロファイルが使用されるためですが、デフォルトアクセスプロファイルは商談レコードに対しては使用されません。

- Amanda がブックメンバーであるブックに商談レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の部下（直接または間接）が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- Amanda の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

Amanda の役割で [商談] レコードタイプの [アクセス可能] オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- Amanda の役割で [商談] レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

[商談] レコードタイプは権限では制御されないため、この例では、権限は Amanda のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが [プライマリの継承] またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

3 Oracle CRM On Demand は次に、検出されたすべてのアクセスレベルを調べ、最も許容度が高いレベルを判別します。このケースでは、最終的なアクセスレベルは [アクセスなし] です。

関連トピック

その他の例は、次のトピックを参照してください。

- [例 2：\[プライマリの継承\] アクセスレベルの使用](#) (ページ 360)
- [例 3：ブックによるデータの保護](#) (ページ 363)

例 2：[プライマリの継承] アクセスレベルの使用

このトピックでは、Oracle CRM On Demand がユーザーのアクセス権を計算する方法の 1 つの例を示します。

この例では、Amanda Jacobsen は会社のセールス要員です。Amanda は、新しい取引先を作成し、他のすべての取引先レコードを表示できます。商談を作成できますが、表示できるのは自分が所有する商談または表示を承認されている商談のみです。

次の表に、[セールス要員] 役割のレコードタイプ設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセス可能	作成可能	すべてのレコードを読み取り可能
取引先	はい	はい	はい
商談	はい	はい	いいえ

[セールス要員] 役割により、Amanda は、自分が作成する取引先と商談を完全に制御でき、所有していないレコードの権限は制限されます。[セールス要員] 役割には、所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルの 2 つのアクセスプロファイルが必要です。

次の表に、セールス要員所有者アクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り/編集/削除	商談	プライマリの継承
商談	読み取り/編集/削除	なし	なし

次の表に、セールス要員デフォルトアクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り専用	商談	プライマリの継承
商談	読み取り専用	なし	なし

アクセス権計算のこの例では、チーム継承が[商談]レコードタイプに対して有効になっていないこと、つまり、[企業プロファイル] ページ上の商談の[親チーム継承の有効化]チェックボックスが選択解除されていることが前提となっています。親チーム継承機能の動作の詳細は、「[チームの継承によるアクセスの適用について](#) (ページ 283)」を参照してください。

同じ会社の David Bloom もセールス要員です。David のアクセス権は Amanda と同じです。

Amanda は、取引先 1 にリンクされている商談 X の所有者です。David が商談 Y を作成し、取引先 1 にリンクします。Amanda はこの商談チームには所属していません。

Amanda が社内の取引先リストを表示するときは、すべての取引先を表示できます。所有していないものも含めてすべての取引先の表示が役割で許可されるためです。次の表に、Amanda が取引先 1 の取引先名をクリックして、レコードをドリルダウンするときに表示される内容を示します。この例では、関連するフィールドとカラムのみが表示されます。

取引先詳細：取引先 1	
取引先詳細	
取引先名。	取引先 1
所有者。	Jonathan Hope
商談	
商談	所有者
商談 X	Amanda Jacobsen

取引先詳細：取引先 1

取引先チーム

名前（姓）	名前（名）	取引先アクセス
Hope	Jonathan	所有者
Bloom	David	メンバー

例 2 での関連レコードの表示

この例で Amanda が取引先について表示できる関連商談レコードを判別するために、Oracle CRM On Demand は Amanda のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

- Amanda が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の役割で、すべての取引先レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「はい」です。Amanda の役割により、すべての取引先レコードが読み取り可能なため、Amanda は取引先を表示できます。Amanda は親取引先の所有者ではないため、デフォルトアクセスプロファイルが使用されます。Amanda のデフォルトアクセスプロファイルでの商談関連レコードタイプのアクセスレベルは [プライマリの継承] です。

- Amanda がブックメンバーであるブックに親レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の部下（直接または間接）が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

この質問の答えが「はい」の場合（つまり、Amanda の部下の 1 名以上が取引先チームのメンバーである場合）、Oracle CRM On Demand は、部下それぞれについて適切なアクセスプロファイルから商談関連レコードタイプのアクセスレベルを抽出します。取引先に関する部下のチームメンバーシップの [取引先アクセス] フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルがこのケースで使用されます（[商談アクセス] フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルではありません）。

- Amanda が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- 2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- Amanda の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

Amanda の役割で [商談] レコードタイプの [アクセス可能] オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- Amanda の役割で [商談] レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。
商談は権限では制御されないため、この例では、権限は Amanda のアクセス権の計算に影響しません。
- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが [プライマリの継承] またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「はい」であるため、Oracle CRM On Demand は取引先に関する次の商談レコードを表示します。

- Amanda が所有者であるリンクされているすべての商談レコード。
- Amanda が他のすべてのアクセス制御コンポーネントによって表示を承認されているリンクされているすべての商談レコード。

Amanda の役割では、所有していない商談の表示は認められないため、David Bloom が作成した商談は表示できません。

例 2 での関連レコードへのアクション

Amanda がこの例で商談 X にアクションを実行しようとする、計算は同じように行われ、結果のアクセス権は「例 1 : [表示] アクセスレベルの使用 (ページ 356)」のケース 1 と同じになります。最終的なアクセスレベルは [読み取り/編集/削除] です。

関連トピック

その他の例は、次のトピックを参照してください。

- 例 1 : [表示] アクセスレベルの使用 (ページ 356)
- 例 3 : ブックによるデータの保護 (ページ 363)

例 3 : ブックによるデータの保護

このトピックでは、Oracle CRM On Demand がユーザーのアクセス権を計算する方法の 1 つの例を示します。

この例では、会社はカスタムブックを使用してテリトリー別にデータを整理しています。この例で使用される 2 つのブックは、南西と東です。

南西ブックには次の 3 名のメンバーが含まれます。

- Amanda Jacobsen
- David Bloom
- Carlos Guzman

南西ブックのすべてのユーザーには、ブックの役割に [読み取り専用] アクセスプロファイルがあります。

東ブックには次の 3 名のメンバーが含まれます。

- Rick Rogers
- Raj Kumar
- Jonathan Hope

東ブックのすべてのユーザーには、ブックのメンバーシップレコードに「読み取り専用」アクセスプロファイルがあります。

いずれかのユーザーが取引先レコードまたは商談レコードを作成すると、自動（ワーフフロー）プロセスにより適切なブックがそのレコードに割り当てられます。レコードのテリトリー属性に基づいてブックが割り当てられます。

これらのユーザーすべてに「セールス要員」役割があります。このようなユーザーは新しい取引先と商談を作成できます。自らのテリトリーのすべての取引先レコードと商談レコードを表示できますが、他のテリトリーのものは表示できません。

次の表に、「セールス要員」役割のレコードタイプ設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセス可能	作成可能	すべてのレコードを読み取り可能
取引先	はい	はい	いいえ
商談	はい	はい	いいえ

これらすべてのユーザーは作成した取引先と商談を完全に制御できますが、所有していないレコードの権限は制限されます。「セールス要員」役割には、所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルの 2 つのアクセスプロファイルが必要です。

次の表に、セールス要員所有者アクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り/編集/削除	商談	プライマリの継承
		ブック	読み取り専用
商談	読み取り/編集/削除	ブック	読み取り専用

次の表に、セールス要員デフォルトアクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り専用	商談	プライマリの継承
		ブック	読み取り専用
商談	読み取り専用	ブック	読み取り専用

注:ブックをサポートするすべてのプライマリレコードタイプでは、「ブック」関連レコードタイプとの関係は 1 対子関係です。

アクセス権計算のこの例では、チーム継承が「商談」レコードタイプに対して有効になっていないこと、つまり、「企業プロフィール」ページ上の商談の「親チーム継承の有効化」チェックボックスが選択解除されていることが前提となっています。親チーム継承機能の動作の詳細は、「[チームの継承によるアクセスの適用について](#)（ページ 283）」を参照してください。

Amanda Jacobsen が社内の取引先リストを表示するとき、南西ブックの取引先と自分が所有している取引先を表示できます。その他の取引先は表示できません。

次の表に、Amanda が取引先 1 の取引先名をクリックしてレコードをドリルダウンするときに表示されるレコードを示します。この例では、関連するフィールドとカラムのみが表示されます。

取引先詳細：取引先 1

取引先詳細

取引先名。	取引先 1
所有者。	Jonathan Hope

商談

商談	所有者
商談 X	Amanda Jacobsen
商談 Y	David Bloom

取引先チーム

名前（姓）	名前（名）	取引先アクセス
Hope	Jonathan	所有者

Amanda は 2 つの商談を表示できます。それらの商談は、メンバーである南西ブックに含まれるためです。南西ブックの他のすべてのメンバーもそれらの商談を表示できます。

Jonathan Hope は東ブックのメンバーです。Jonathan も Oracle CRM On Demand にサインインすると、取引先 1 を表示できます。Jonathan がこの取引先を所有しているためです。ただし、取引先 1 に関連する商談は表示できません。それらの商談は所有していません。取引先の「商談」関連レコードタイプに対する「プライマリの継承」アクセスレベルにより、このセキュリティが得られます。

東ブックのメンバーである Rick Rogers と Raj Kumar は、取引先 1、商談 X または商談 Y のレコードを表示できません。この取引先を表示できないのは東ブックに含まれておらず、所有していない取引先レコードの表示が役割で許可されないためです。同じく、商談 X または商談 Y を表示できないのは、これらの商談が東ブックに含まれておらず、所有していない商談の表示が役割で許可されないためです。

Amanda は、David Bloom が所有する商談 Y を変更できません。理由は次のとおりです。

- Amanda はこの取引先を所有していないため、自分の所有者アクセスプロファイルが使用されません。
- Amanda の役割では、所有していない商談レコードにアクセスできません。このため、デフォルトアクセスプロファイルは使用されません。
- この時点でアクティブなアクセスプロファイルは、南西ブックのメンバーシップから Amanda が得られる「読み取り専用」アクセスプロファイルのみです。

このため、商談 Y に対する Amanda のアクセスレベルは「読み取り専用」になります。

関連トピック

その他の例は、次のトピックを参照してください。

- [例 1：「表示」アクセスレベルの使用](#)（ページ 356）
- [例 2：「プライマリの継承」アクセスレベルの使用](#)（ページ 360）

ビジネスプロセス管理

次に示した作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [プロセスの作成](#) (ページ 373)
- [プロセスへの推移ステートの追加](#) (ページ 374)
- [プロセスの制限](#) (ページ 376)
- [推移ステートの項目の設定](#) (ページ 376)
- [関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化](#) (ページ 377)
- [ワークフロールールを作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限](#) (ページ 402)
- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールール順序の変更](#) (ページ 431)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)
- [\[ワークフローエラーモニター\] でのエラーインスタンスの表示](#) (ページ 437)
- [\[ワークフローエラーモニター\] からのエラーインスタンスの削除](#) (ページ 438)
- [\[ワークフロー待機モニター\] での保留インスタンスの表示](#) (ページ 441)
- [\[ワークフロー待機モニター\] からの保留インスタンスの削除](#) (ページ 442)
- [割当ルールを設定](#) (ページ 449)
- [見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) (ページ 456)
- [見込み客変換レイアウトの作成](#) (ページ 457)
- [売上予想定義の設定](#) (ページ 459)
- [売上予想定義の更新](#) (ページ 465)
- [セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定](#) (ページ 466)
- [企業の業種リストのカスタマイズ](#) (ページ 474)
- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について](#) (ページ 368)
- [プロセス管理でのプライマリフィールドについて](#) (ページ 368)
- [活動レコードのロックのシナリオ](#) (ページ 369)
- [プロセスを使用してレコードをロックする例](#) (ページ 369)
- [プロセス管理機能](#) (ページ 371)
- [Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#) (ページ 373)
- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)
- [ワークフローモニター](#) (ページ 435)
- [割当ルールについて](#) (ページ 445)
- [見込み客変換の管理](#) (ページ 454)

プロセス管理

Oracle CRM On Demand の [プロセス管理] セクションでは、レコードが特定の状態のときに、外部アプリケーションを含むユーザーが、指定のレコードタイプのレコードに対して特定のアクションを実行できないようにプロセスを設定できます。このように、ユーザーが特定のアクションを実行できないようにすることを *レコードのロック* と呼びます。

Oracle CRM On Demand では、プロセス管理機能はデフォルトで有効ではありません。これは、Oracle CRM On Demand Customer Care によって企業ごとに有効にする必要があります。企業でプロセス管理機能を使用する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡して、[プロセス管理] 権限を企業の管理者の役割に付与するように依頼してください。

Oracle CRM On Demand Customer Care が [プロセス管理] 権限を企業の管理者に付与すると、企業の管理者はこの権限を他の役割に付与できます。

注：どのレコードをロックするかを決定する制御は、レコードを使用するユーザーの権限を計算するときに Oracle CRM On Demand が検証する最後のセキュリティコンポーネントです。他のアクセス制御コンポーネントによって付与された権限が先に検証されます。*アクセス制御コンポーネント*は、レコードにアクセスして使用するユーザーの権限の計算に入れられる Oracle CRM On Demand の機能です。アクセス制御コンポーネントの例として、レコード所有権、アクセスプロファイル、役割、チーム、ブックおよびレポート階層があります。レコードをロックする制御は、他のアクセス制御コンポーネントによって有効になる制限より優先されません。

必要に応じて、企業で設定したレコードロックプロセスを特定のユーザーが上書きすることを許可できます。詳細は、「[レコードロックプロセスの上書きについて](#) (ページ 379)」を参照してください。

プロセスおよびプロセスの作成方法については、次のトピックを参照してください。

- [プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について](#) (ページ 368)
- [プロセス管理でのプライマリフィールドについて](#) (ページ 368)
- [活動レコードのロックのシナリオ](#) (ページ 369)
- [プロセスを使用してレコードをロックする例](#) (ページ 369)

- [プロセス管理機能](#) (ページ 371)
- [Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#) (ページ 373)
- [プロセスの作成](#) (ページ 373)
- [プロセスへの推移ステートの追加](#) (ページ 374)
- [プロセスの制限](#) (ページ 376)
- [推移ステートの項目の設定](#) (ページ 376)
- [関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化](#) (ページ 377)

プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について

レコードタイプに関連するプロセスでは、いくつかの推移ステートを設定します。*推移ステート*は、特定の条件を満たす場合にレコードが移行する状態を表します。*推移項目*はレコードタイプのピックリストフィールドで、別の推移ステートへのレコードの推移を決定します。プロセスのピックリストフィールドは、プロセスの定義で識別されます。

プロセスでは、推移項目の各値を 1 つの推移ステートにリンクできます。各推移ステートには、次の情報を指定できます。

- **条件。**条件によって、レコードがこの推移ステートに移動可能かどうかを判断します。
- **エラーメッセージ。**ユーザーがレコードをこの推移ステートに移動しようとしたとき、条件を満たしていない場合はエラーメッセージが表示されます。
- **レコードアクセスコントロール。**レコードアクセスコントロールによって、レコードがその推移ステートのときにユーザーがレコードに対して実行できないアクションを決定します。ユーザーがその推移ステートのレコードを削除または更新できないようにすることができます。
- **項目設定。**項目設定によって、レコードがその推移ステートのときの特定項目の動作を決定します。
- **関連アクセス制御。**関連アクセス制御によって、親レコードがその推移ステートのときにユーザーが関連レコードに対して実行できないアクションを決定します。

たとえば、[状態] フィールドを推移項目として使用して [解決策] レコードタイプのプロセスを設定し、[ドラフト]、[承認] および [旧式] の各状態値に対する 3 つの推移ステートをプロセスに追加します。次に、たとえば、[承認] 状態の推移ステートにある解決策をユーザーが削除できないようにしたり、[旧式] 状態の推移ステートにある解決策をユーザーが更新できないようにすることができます。

プロセス管理でのプライマリフィールドについて

レコードタイプのピックリストフィールドを使用して、そのレコードタイプの特定のレコードのみにプロセスが適用されるように制限できます。ピックリストフィールドは *プライマリフィールド* と呼ばれ、レコードのプライマリフィールドの値が、プロセスに対して指定した値 (つまり、プライマリ値) のいずれかに一致するレコードにのみ、プロセスが適用されます。たとえば、[活動] レコードタイプで、[コールタイプ] フィールドをプライマリフィールドとして使用できます。[活動] レコードタイプに対するプロセスは、特定のタイプのコールレコードにのみ適用されるように制限できます。

活動レコードのロックのシナリオ

このトピックでは、製薬企業のセールス要員が Oracle CRM On Demand でコール活動レコードを使用して客先への訪問の詳細を記録する方法、および特定の時点でコール活動レコードをロックする方法の例を示します。企業では、ビジネスモデルに応じて Oracle CRM On Demand を様々な方法で使用できます。

セールス要員は、地元のクリニックを訪問して、クリニックのサンプル棚を補充し、この製薬企業が発売を予定している新製品について院長と対話することを計画しています。このセールス要員は、臨床試験結果とホワイトペーパーを収録したプロモーション CD を院長に渡すつもりです。セールス要員が Oracle CRM On Demand にコール活動レコードを設定するときは、レコードの状態を「開始前」に設定します。

セールス要員がクリニックに到着し、クリニックのスタッフがサンプル棚の鍵を取りに行く間に、待ち時間がありました。セールス要員はこの時間を利用して、Oracle CRM On Demand のコール活動レコードの状態を「進行中」に更新します。その後、セールス要員は、サンプル棚を補充し、院長と新製品について情報交換をして、プロモーション資料を院長に渡しました。

終業時間に向けて、セールス要員は Oracle CRM On Demand にサインインし、その日の活動に関連するレコードの更新を開始します。セールス要員はクリニックへの訪問に関するコール活動レコードを更新しますが、レコードの状態を最終状態の「提出済み」に変更する前に、再度レコードをレビューしたいと考えています。セールス要員は、営業会議に出席する予定があるため、レコードの状態を「完了」に設定して離席します。この時点では、レコードを Oracle CRM On Demand から削除できません。

セールス要員は会議から戻ると、コール活動レコードを再度レビューして、レコードの状態を「提出済み」に設定します。この時点で、コール活動レコードは更新および Oracle CRM On Demand からの削除ができなくなり、レコードの全フィールドが読み取り専用になります。さらに、提出済みのコール活動レコードには、他のレコードをリンクできません。このシナリオをサポートするプロセスの例は、「[プロセスを使用してレコードをロックする例](#) (ページ 369)」に示します。

プロセスを使用してレコードをロックする例

このトピックでは、「[活動レコードのロックのシナリオ](#) (ページ 369)」に説明するシナリオをサポートするプロセスの作成例を示します。この機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。

次のように、ユーザーが実行できるアクションを制限するプロセスを作成します。

- レコードの状態が「完了」の場合、ユーザーはそのレコードを削除できません。
- レコードの状態が「提出済み」の場合の動作は次のとおりです。
 - ユーザーは、レコードを更新または削除できず、他のレコードをコール活動レコードにリンクできません。
 - コール活動レコードの全フィールドは読み取り専用になります。
- このプロセスは、取引先コールおよびプロフェッショナルコールに適用されますが、一般的なコールには適用されません。

コール活動レコードをロックするプロセスを設定するには

- 1 Oracle CRM On Demand で、次のようにプロセスを作成します。
 - a 「プロセス名」フィールドに、プロセスの一意の名前を入力します。
 - b 「オブジェクト名」フィールドで、「活動」を選択します。

「オブジェクト名」フィールドで「活動」を選択すると、「プライマリフィールド」が「コールタイプ」に自動的に設定されます。「推移項目」は「状態」に自動的に設定されます。プロセスの作成の詳細は、「[プロセスの作成](#) (ページ 373)」を参照してください。

- 2 この手順のステップ 1 で作成したプロセスに、次の表に示すように推移ステートを追加します。

プロセスへの推移ステートの追加の詳細は、「[プロセスへの推移ステートの追加](#) (ページ 374)」を参照してください。

都道府県	「更新の無効化」チェックボックス	「削除の無効化」チェックボックス
開始前	オフ	オフ
進行中	オフ	オフ
完了	オフ	オン
コミット	オン	オン

- 3 「取引先コール」および「プロフェッショナルコール」のプライマリ値をプロセスに追加することによって、プロセスが取引先コールおよびプロフェッショナルコールには適用されるが、一般的なコールには適用されないように制限します。プロセスの制限の詳細は、「[プロセスの制限](#) (ページ 376)」を参照してください。

- 4 「提出済み」推移ステートで、項目を設定し、全フィールドの「読み取り専用」チェックボックスをオンにします。推移ステートの項目の設定の詳細は、「[推移ステートの項目の設定](#) (ページ 376)」を参照してください。

- 5 「完了」および「提出済み」推移ステートで、関連レコードタイプに対する適切なアクセス制御を有効にします。次の表に、チェックボックスの設定を示します。関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化の詳細は、「[関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化](#) (ページ 377)」を参照してください。

推移ステート	関連レコードタイプ	作成 / 追加の無効化	更新の無効化	削除の無効化
完了	メッセージ応答	オフ	オフ	オン
	製品詳細	オフ	オフ	オン
	提供プロモーションアイテム	オフ	オフ	オン
	提供サンプル	オフ	オフ	オン
	サンプルリクエスト	オフ	オフ	オン
	サンプルトランザクション	オフ	オフ	オン
	署名	オフ	オフ	オン
	解決策	オフ	オフ	オン
提出済み	添付資料	オン	オン	オン

推移ステート	関連レコードタイプ	作成 / 追加の無効化	更新の無効化	削除の無効化
	ブック	オン	オン	オン
	担当者 (M:M)	オン	オン	オン
	カスタムオブジェクト 01 から 03	オン	オン	オン
	メッセージ応答	オン	オン	オン
	製品詳細	オン	オン	オン
	提供サンプル	オン	オン	オン
	サンプルリクエスト	オン	オン	オン
	サンプルトランザクショ ン	オン	オン	オン
	署名	オン	オン	オン
	解決策 (M:M)	オン	オン	オン

注: サンプルリクエストレコードには、サンプルリクエスト項目レコードがリンクされており、親レコードをロックするときには、これらのレコードもロックする必要があります。サンプルリクエスト項目レコードをロックするには、サンプルリクエストレコードタイプに基づく別のプロセスを設定する必要があります。同様に、サンプルトランザクションには、トランザクション項目レコードがリンクされています。トランザクション項目レコードをロックするには、[サンプルトランザクション] レコードタイプに基づく別のプロセスを設定する必要があります。レコードタイプに対して設定したプロセスは、そのレコードタイプの親レコードをロックしますが、子レコードにリンクされているレコードはロックしません。

プロセス管理機能

プロセス管理では、次のレコードタイプがサポートされています。

- 取引先
- 活動
- 住所
- ビジネス計画
- コール製品詳細
- イベント
- 見込み客
- メッセージプラン
- 目標
- 商談
- サンプル免責条項
- サンプルリクエスト

- サンプルトランザクション
- サービスリクエスト
- 解決策

制限

次の制限が適用されます。

- プロセス管理をサポートするレコードタイプごとに、1 つのプロセスのみを設定できます。
- サポートされているレコードタイプごとに、レコードタイプの「状態」フィールドがプロセスの推移項目として使用されます。別の推移項目は選択できません。

注: ユーザーは、コール製品詳細レコードの状態を直接変更できません。コール製品詳細レコードの状態が常に関連コールの状態と同一になるように、関連コールの状態が更新されたときに、Oracle CRM On Demand によってコール製品詳細レコードの状態が更新されます。
- プロセスを制限するためにプライマリフィールドの使用をサポートしているのは、「活動」レコードタイプのみです。「活動」レコードタイプのプライマリフィールドは、「コールタイプ」フィールドです。別のプライマリフィールドは選択できません。
- 推移ステートの推移項目に関するオプションは、レコードがその推移ステートのときに特定の項目が読み取り専用になるように指定するオプションに制限されます。
- プロセスを保存するときにプロセスレコードに表示される順序番号フィールドと「デフォルト」チェックボックスは、現行リリースの Oracle CRM On Demand では使用されません。

関連レコードタイプ

プロセス管理でサポートされている各親レコードタイプについては、その親レコードタイプでサポートされ、企業で使用可能なすべての関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効化できますが、次の表に示す例外があります。

親レコードタイプ	サポート外の関連レコードタイプ
取引先	■ アセスメント ■ 金融口座: 支店 ■ 金融口座: Held-Away Institutions
活動	アセスメント
ビジネス計画	アセスメント
見込み客	アセスメント
目標	アセスメント
商談	アセスメント
サービスリクエスト	アセスメント

注: 企業で設定したレコードロックプロセスを特定のユーザーが上書きすることを許可できます。詳細は、「[レコードロックプロセスの上書きについて](#) (ページ 379)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス

Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 プロセスの作成 (ページ 373)
 - 2 プロセスへの推移ステートの追加 (ページ 374)
- また、オプションで、次のタスクを実行できます。
- プロセスの制限 (ページ 376)
 - 推移ステートの項目の設定 (ページ 376)
 - 関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化 (ページ 377)

プロセスの作成

プロセスを作成するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#) (ページ 373)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

プロセスを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[プロセス管理] をクリックします。
- 3 [プロセスリスト] ページで、[新規] をクリックします。
- 4 [プロセス編集] ページで、プロセス情報を入力します。
- 5 変更を保存します。

注： プロセスを保存するときに [プロセス詳細] ページに表示される順序番号フィールドと [デフォルト] チェックボックスは、現行リリースの Oracle CRM On Demand では使用されません。

次の表では、プロセスフィールドについて説明します。これらのフィールドを現行リリースの Oracle CRM On Demand で使用する方法の詳細は、「[プロセス管理機能](#) (ページ 371)」にリストされている制限を参照してください。

フィールド	説明
プロセス名	プロセスに指定する名前。
レコードタイプ	プロセスのレコードタイプ。プロセスを作成できるレコードタイプのリストは、「 プロセス管理機能 (ページ 371)」を参照してください。

フィールド	説明
プライマリフィールド	プロセスをレコードタイプの特定のレコードに制限するためのフィルタとして使用する、レコードタイプのフィールドの名前。このフィールドは読み取り専用です。[活動] レコードタイプの場合、[プライマリフィールド] のデフォルト値は [コールタイプ] です。その他のレコードタイプの場合、フィールドは空白です。プライマリフィールドの詳細は、「 プロセス管理でのプライマリフィールドについて (ページ 368)」を参照してください。
推移項目	別の推移ステートへのレコードの推移を決定する、レコードタイプのフィールドの名前。このフィールドは読み取り専用です。サポートされているすべてのレコードタイプに対して、デフォルト値は [状態] です。推移項目の詳細は、「 プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について (ページ 368)」を参照してください。
説明	(オプション) プロセスの説明。

プロセスへの推移ステートの追加

プロセスでは、推移項目の各値を 1 つの推移ステートにリンクできます。推移項目および推移ステートの詳細は、「[プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について](#) (ページ 368)」を参照してください。

プロセスに推移ステートを追加するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#) (ページ 373)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

プロセスに推移ステートを追加するには

- 1 [プロセスリスト] ページで、推移ステートを追加するプロセスの [プロセス名] リンクをクリックします。
- 2 [プロセス詳細] ページで、ページの [推移ステート] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 3 [推移ステート編集] ページで、推移ステート情報を入力します。
- 4 変更を保存します。
- 5 プロセスに追加する推移ステートごとに、この手順のステップ 2 から 4 を繰り返します。

次の表では、推移ステートの一部のフィールドについて説明します。Oracle CRM On Demand のページの [主要情報] セクションおよび [認証] セクションのヘッダーには、推移項目の名前が表示されます。

フィールド	説明
主要情報	
都道府県	この推移ステートを識別する推移項目値。プロセスでは、各推移項目値は1つの推移ステートでのみ使用できます。値が推移ステートで使用されると、その値は「状況」フィールドの値のピックリストから削除されません。
カテゴリー	(オプション) 推移ステートが関連付けられるセールスカテゴリー。
説明	(オプション) 推移ステートの説明。
認証	
条件	(オプション) レコードがこの推移ステートに移動可能かどうかを判断する条件。 テキストボックスに式を直接入力するか、[fx] アイコンをクリックして Expression Builder ウィンドウを開き、そのウィンドウで式を定義できます。Expression Builder の詳細は、「Expression Builder (ページ 766)」を参照してください。 式には計算フィールドを使用しないでください。推移ステートの「条件」フィールドの式では、計算フィールドはサポートされていません。 ユーザーがプロセスで指定したレコードタイプのレコードをこの推移ステートに移動しようとしたときに、指定された条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示され、ユーザーの変更は保存されません。
エラーメッセージ	(オプション) ユーザーがプロセスで指定したレコードタイプのレコードをこの推移ステートに移動しようとしたときに、その推移ステートに対して設定された条件を満たしていない場合に表示される、エラーメッセージのテキスト。
レコードアクセスコントロール	
更新の無効化	(オプション) このチェックボックスをオンにすると、レコードがこの推移ステートの場合に、外部アプリケーションを含むユーザーは、プロセスで指定したレコードタイプのレコードを更新できません。

フィールド	説明
削除の無効化	(オプション) このチェックボックスをオンにすると、レコードがこの推移ステートの場合に、外部アプリケーションを含むユーザーは、プロセスで指定したレコードタイプのレコードを削除できません。 また、この推移ステートのレコードが親レコードの子である場合、ユーザーは親子関係からそのレコードを削除できません (削除すると、子レコードが Oracle CRM On Demand から削除されます)。 ただし、親レコードとの関係から子レコードを削除しても子レコードが Oracle CRM On Demand から削除されない場合、レコードがこの推移ステートのときはレコードを親子関係から削除できますが、レコード自体は削除できません。

プロセスの制限

レコードタイプの特定のレコードにのみプロセスを適用するように制限するには、レコードタイプのプライマリフィールドの値の中から、プロセスに対して有効な値を指定します。プライマリフィールドの詳細は、「[プロセス管理でのプライマリフィールドについて](#) (ページ 368)」を参照してください。

プロセスを制限するには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

プロセスを制限するには

- 1 [プロセスリスト] ページで、制限するプロセスの [プロセス名] リンクをクリックします。
- 2 [プロセス詳細] ページで、ページの [プライマリ値] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 3 [プライマリ値編集] ページの [値] フィールドで、プロセスが制限される値を選択します。
[プライマリ値編集] ページでは、最大 5 つまで値を選択できます。追加の値を選択する場合は、この手順を繰り返します。
- 4 変更を保存します。
- 5 この手順のステップ 2 から 4 を必要な回数だけ繰り返して、追加のプライマリ値を追加します。

推移ステートの項目の設定

推移ステートの項目を設定することによって、レコードがその推移ステートのときの特定項目の動作を指定できます。

推移ステートの項目を設定するには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

推移ステートの項目を設定するには

- 1 [プロセス詳細] ページで、項目を設定する推移ステートの [状況] フィールドのリンクをクリックします。
- 2 [推移ステート詳細] ページで、ページの [項目設定] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 3 [項目設定編集] ページで、プロセスで指定したレコードタイプのレコードがこの推移ステートのときの項目の動作を次のように指定します。
 - a [項目] リストから項目を選択します。
 - b 項目に対して設定する動作のチェックボックスをオンにします。

注： 推移ステートの項目設定に適用される制限については、「[プロセス管理機能](#) (ページ 371)」を参照してください。

注意： チェックボックスフィールドを読み取り専用を設定するには、ページレイアウト上の使用場所に項目がすでに表示されている必要があります。そうでない場合、項目がページに追加されて、ユーザーがこのタイプのレコードを保存しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

[項目設定編集] ページでは、最大 5 つまで項目設定を指定できます。追加の項目設定を指定する場合は、この手順を繰り返します。
- 4 変更を保存します。
- 5 この手順のステップ 2 から 4 を必要な回数だけ繰り返して、推移ステートに対してすべての項目を設定します。

関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化

関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にすると、親レコードがその推移ステートのときにユーザーが関連レコードに対して実行できるアクションを制限できます。

注： 関連レコードタイプがないレコードタイプもあります。

関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にするには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にするには

- 1 [プロセス詳細] ページで、関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にする推移ステートの [状況] フィールドのリンクをクリックします。
- 2 [推移ステート詳細] ページで、ページの [関連アクセス制御] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。

- 3** 「関連アクセス制御編集」 ページで、関連レコードタイプごとに、有効にするアクセス制御のチェックボックスをオンにします。

「関連アクセス制御編集」 ページでは、最大 5 つまでの関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にできます。追加の関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にする場合は、この手順を繰り返します。

注：「関連アクセス制御編集」 ページでは、アクセス制御に関するチェックボックスは必須としてマークされており、各チェックボックスの名前の横にアスタリスクが表示されています。これらのチェックボックスフィールドの値は常にデータベースに保存されるため、チェックボックスは必須としてマークされています。値は、チェックボックスがオンの場合は「真」、チェックボックスがオフの場合は「偽」です。チェックボックスをオンにすると、「真」値がデータベースに保存されます。チェックボックスをオフにすると、「偽」値がデータベースに保存されます。

- 4** 変更を保存します。

- 5** この手順のステップ 2 から 4 を必要な回数だけ繰り返して、推移ステートの関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にします。

次の表では、関連レコードタイプに対するアクセス制御について説明します。一部の関連レコードタイプは使用できません。使用できない関連レコードタイプのリストは、「[プロセス管理機能](#) (ページ 371)」を参照してください。

注：ユーザーとしては、Oracle CRM On Demand のユーザーの他に、外部アプリケーションも可能です。

フィールド	説明
作成/追加の無効化	このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのときは、親レコードからこの関連レコードタイプの新規レコードを作成したり、このレコードタイプの既存のレコードを親レコードに追加することはできません。
更新の無効化	このチェックボックスの動作は、次のように、親レコードタイプと関連レコードタイプの関係によって異なります。 ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが 1 対多関係の場合、このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのとき、ユーザーはこの関連レコードタイプのレコード（つまり、親レコードの子レコード）を更新できません。 親レコードがこの推移ステートのとき、Oracle CRM On Demand 内のどこからも子レコードは更新できません。たとえば、親レコードに「カスタムオブジェクト 05」レコードタイプの関連レコードがある場合、親レコードがこの推移ステートのときは、これらの「カスタムオブジェクト 05」レコードは「カスタムオブジェクト 05」ホームページからアクセスできる場合でも更新できません。 ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが多対多関係の場合は「更新の無効化」チェックボックスが使用不可になるため、親レコードがこの推移ステートのときにユーザーがこのタイプの関連レコードを更新できないようにすることはできません。
削除の無効化	このチェックボックスの動作は、次のように、親レコードタイプと関連レコードタイプの関係によって異なります。 ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが 1 対多関係の場合、このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのとき、ユーザーはこの関連レコードタイプのレコード（つまり、親レコードの子

フィールド	説明
	レコード) を削除できません。 親レコードがこの推移ステートするとき、Oracle CRM On Demand 内のどこからも子レコードは削除できません。 ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが多対多関係の場合、このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートするとき、ユーザーは親子関係からこの関連タイプの子レコードを削除できません。ただし、ユーザーは、Oracle CRM On Demand の他の場所 (レコードタイプホームページからアクセスできるリストなど) から子レコードを削除できます。

レコードロックプロセスの上書きについて

管理者やマネージャなどの特定のユーザーは、レコードロックプロセスによって制限されずに、ロックされたレコードを使用することが必要な場合があります。ユーザーの役割で [プロセス管理の上書き] 権限を有効化すると、ユーザーがレコードロックプロセスを上書きすることを許可できます。

[プロセス管理の上書き] 権限によって削除されるのは、レコードロックプロセスによって設定されている制限のみです。ロックされたレコードを使用するには、ユーザーがそのレコードを表示できて、適切なアクセスレベルおよび権限が付与されている必要があります。[プロセス管理の上書き] 権限によって、ユーザーは、すべてのレコードタイプのレコードロックプロセスを上書きできます。ユーザーが上書きできるレコードロックプロセスを一部のレコード、または一部のレコードタイプのみに指定することはできません。

注: [プロセス管理の上書き] 権限はデフォルトでは使用できません。この権限を企業で有効化する場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

ワークフロー設定

企業のビジネス要件を満たすワークフロールールを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 すべての利害関係者と共同でビジネスプロセスを計画します。
- 2 設定する必要があるすべてのワークフロールールおよび対応するワークフローアクションを文書化します。ワークフロールールのコンポーネントの詳細は、「[ワークフロールールについて](#) (ページ 380)」を参照してください。
- 3 企業の管理者として Oracle CRM On Demand にサインインし、ワークフロールールを作成します。詳細は、「[ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)」を参照してください。
- 4 ワークフロールールに、すべての必要なワークフローアクションを定義します。様々なタイプのワークフローアクションの作成については、次のトピックを参照してください。
 - [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
 - [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
 - [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)

- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフロールールについて

ワークフロールールは、指定されたイベントが発生するたびに 1 つ以上のアクションを自動的に実行するようにという Oracle CRM On Demand への指示です。

ワークフロールール機能の設定について

新規顧客の場合は、ワークフロールール機能が自動的に有効になっています。ただし、既存顧客の場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care と企業の管理者が Oracle CRM On Demand のワークフロールール機能を次のように設定する必要があります。

- **Oracle CRM On Demand Customer Care の設定。** Oracle CRM On Demand Customer Care がワークフロールール機能を設定すると、[管理ホームページ] の [ビジネスプロセス管理] セクションに [ワークフロー設定] リンクが表示されます。また、管理者の役割を持つユーザーの [デタールールの管理 - ワークフロールールの管理] 権限が有効になります。詳細については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

注： [ユーザー] レコードタイプのワークフロールールを作成するには、ユーザー役割にユーザー権限の [デタールールの管理 - ワークフロールールの管理] も必要です。管理者は、必要に応じて管理者役割および他の役割のこの権限を有効にできます。 [ユーザー] レコードタイプのワークフロールールを作成する場合の考慮事項の詳細は、「[\[ユーザー\] レコードタイプのワークフロールールを作成する場合の考慮事項](#) (参照 "[ユーザーレコードタイプのワークフロールールを作成するときの考慮事項](#)" ページ 394)」を参照してください。

- **[ワークフローを有効化] オプション。** ワークフロールールは、企業の管理者が [企業プロファイル] ページで [ワークフローを有効化] チェックボックスをオンにするまで実行できません。企業プロファイルの設定方法については、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) (ページ 19)」を参照してください。
- **統合イベント。** 統合イベントは、作成、更新、削除、関連付け、関連付け解除、復元、マージなどの操作を含めた、Oracle CRM On Demand のレコードに対する変更に基づいて外部プロセスをトリガーするメカニズムです。追跡するレコードのフィールドを指定できます。企業でワークフロールールを使用して統合イベントを作成する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に統合イベント管理のサポートを依頼し、必要な統合イベントキューの合計サイズを指定します。追跡するフィールドの値を変更すると、その変更が統合イベントに記録されます。また、統合イベントを追加する統合イベントキューを指定することもできます。統合イベントの管理の詳細は、「[統合イベントについて](#) (ページ 724)」を参照してください。
- **ブック。** 企業でワークフロールールを使用してレコードとブックの関連付けを更新する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care にブック管理のサポートを依頼します。ブック管理の詳細は、「[ブックの管理](#) (ページ 299)」を参照してください。

ワークフローールのトリガーイベントとアクション

ルールに指定されたイベント（トリガーイベント）が発生すると、ワークフローールが評価されます。ルールの条件が満たされている場合（またはルールに条件が設定されていない場合）は、ルールに指定されたアクションが実行されます。たとえば、商談が作成されたときに（ワークフローールトリガーイベント）、商談所有者の管理者に電子メールを送信する（ワークフローールアクション）ように指定するワークフローールを作成できます。また、商談の売上が特定の金額を上回った場合にのみ（ワークフローール条件）電子メールを送信するように指定し、電子メールの内容を指定することもできます。

また、指定期間が経過した後や指定日時にアクションが実行されるようにワークフローールを設定することもできます。時間ベースのワークフローールアクションの詳細は、「[時間ベースのワークフローールについて](#)（ページ 392）」を参照してください。

ワークフローールは次のいずれかの場合にトリガーできます。

- レコードが作成、更新、復元、マージ、または削除された場合。

注: リリース 20 以降、ワークフローールアクションによるレコードの更新により、一連の新規ワークフローールがトリガーされることはありません。たとえば、取引先レコードタイプのワークフローールの「値を更新」アクションにより取引先レコードのフィールドが更新される場合、これらのルールに「更新されたレコードが保存される前に」トリガーまたは「更新されたレコードが保存されたとき」トリガーイベントがあるときでも、レコードに対するこの変更によって取引先レコードタイプのワークフローールがトリガーされることはありません。レコードに対する変更の結果として Oracle CRM On Demand で追加のアクションを実行する場合は、レコードを更新したアクションと同じワークフローールに、これらのアクションを設定する必要があります。

- レコードが、他のレコードに関連付けられた場合、または他のレコードから分離した場合。

関連付けや関連付け解除のワークフローールトリガーは、特定のレコードタイプ間の関連付けでのみサポートされます。詳細は、このトピックの「トリガーイベントの関連付けと分離」を参照してください。

注: ワークフローールでは、カスケード削除操作およびディープ削除操作がサポートされています。たとえば、取引先が削除されると、非共有住所である関連住所も削除されます。次に、住所の削除により、「レコードが削除される前」トリガーイベントが設定されている住所レコードタイプのワークフローールがトリガーされます。カスケード削除操作およびディープ削除操作の詳細については、「[レコードの削除/復元について](#)」を参照してください。

ワークフローールは、個々のフィールドに対してではなく、レコード全体に対して設定されます。ワークフローールのトリガーイベントにはいくつかのタイプがありますが、各ワークフローールに指定できるトリガーイベントは1つのみです。選択したルールのトリガーイベントに応じて、ワークフローール条件を満たしたときに Oracle CRM On Demand で1つ以上のアクションが自動的に実行されるように指定できます。

注: ルールの作成後に、そのルールのレコードタイプやトリガーイベントを変更することはできません。ただし、ワークフローール条件の更新は可能です。

各ルールのトリガーイベントは、「ワークフローールリスト」ページと「ワークフローール詳細」ページに表示されます。次の表では、各トリガーイベントで使用可能なアクションについて説明します。

トリガーイベント	使用可能なアクション
新規レコードが保存されたとき	■ 電子メールの送信 ■ タスクの作成 ■ ブックの割り当て ■ 統合イベントの作成 ■ 待機 ■ 値の更新

トリガーイベント	使用可能なアクション
更新されたレコードが保存されたとき	■ 電子メールの送信 ■ タスクの作成 ■ ブックの割り当て ■ 統合イベントの作成 ■ 待機 ■ 値の更新
レコードが削除される前	■ 電子メールの送信 ■ タスクの作成 ■ 統合イベントの作成
更新されたレコードが保存される前に	■ 値の更新
親との関連付けの後	■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ 待機
親との関連付け解除の後	■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ 待機
レコードの復元時	■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ タスクの作成
レコードのマージ時	■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ タスクの作成

一部の追加ワークフローアクションは、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition および Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management で使用できます。詳細は、「[ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)」を参照してください。

注意: Oracle CRM On Demand でワークリストを使用する場合、サンプルリクエスト項目に対するブロック製品の処理はサポートされません。詳細は、「[サンプルリクエスト項目ワークフローとブロック製品ルールについて](#)」を参照してください。

注: 特定のレコードタイプについては、現在そのタイプのレコードの復元が不可であるため、[レコードの復元時] トリガーイベントで設定されたワークフローはトリガーされません。たとえば、取引先チームレコードの復元は現在不可です。このようなレコードタイプの復元のサポートが将来追加された場合、[レコードの復元時] トリガーイベントで設定されたワークフロールールは適宜トリガーされます。

ワークフロールールとルールアクションに適用される制限事項

ワークフロールールとルールアクションには、次の制限事項が適用されます。

- **ワークフロールール条件。**ワークフロールールに条件を定義した場合は、ルールがトリガーされたときにルール条件が満たされている場合にのみ、ワークフロールールのアクションが実行されます。条件が満たされていない場合、アクションは実行されません。ワークフロールールに条件を定義していない場合は、ルールがトリガーされるたびにワークフロールールのアクションが実行されます。
- **ワークフロールールの複数のアクション。**1つのワークフロールールに対して複数のアクション（最大 25 個）を作成できます。1つのルールに 25 個を超えるアクションを作成しようとすると、エラーメッセージが表示されます。ワークフロールールに複数のアクションがある場合は、アクション 1 から指定の順序でアクションが実行されます。アクションが完了するまで、次のアクションは実行されません。ルールのアクションの順序は変更できます。ワークフローアクションの詳細は、「[ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)」を参照してください。

注：ワークフローアクションが完了前に予期せず終了した場合、ルールの残りのアクションは実行されません。

- **レコードタイプ。**さまざまなレコードタイプに対するワークフロールールを作成することができます。ただし、各ワークフロールールは、1 種類のレコードタイプにのみ適用されます。たとえば、あるレコードタイプのワークフロールールを作成した後、別のレコードタイプでも同じアクションを実行するには、このレコードタイプに対して、同じトリガーイベント、ルール条件、およびアクションを持つ、別のワークフロールールを作成する必要があります。
- **シングルレコードコンテキスト。**ワークフロールールは、レコードが作成、更新、削除された場合にトリガーされます。1つのレコードのコンテキスト内でのみ動作するため、ワークフロールールがアクセスおよび更新できるフィールドも 1つのレコードだけです。

注:ワークフロールールがレコードの関連付けまたは分離アクションによってトリガーされると、そのワークフローによって作成された統合イベントは、子レコードおよび親レコードの両方のフィールドを含めることができます。

ワークフロールールの順序

ワークフロールールを作成すると、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプと同じトリガーイベントに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。ワークフロールールに対するトリガーイベントが [親との関連付けの後] または [親との関連付け解除の後] の場合は、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプ、同じトリガーイベント、および同じ親レコードタイプに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。順序番号により、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいた一連のワークフロールールを Oracle CRM On Demand が呼び出す順序が決まります。ルールの順序は変更できます。ワークフロールールの順序の変更の詳細は、「[ワークフロールールの順序の変更](#) (ページ 431)」を参照してください。

一連のワークフロールールの終了

ワークフロールールの条件を満たした場合、Oracle CRM On Demand によって一連のワークフロールールの処理が停止されるように指定できます。ワークフロールールがトリガーされると、ルールの条件が評価されます。ルールの条件を満たし、ワークフロールールの [終了] チェックボックスがオンの場合は、現在のワークフロールールで有効なアクションが実行されますが、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいている後続のワークフロールールは処理されません。

トリガーイベントの関連付けと分離

ワークフロールール上のトリガーイベントの関連付けと分離は、特定のレコードタイプ間の関連付けでのみサポートされます。トリガーイベントの関連付けと分離では、次のアクションを使用できます。

- **メール送信。**このアクションは、トリガーイベントのすべての関連付けと分離で使用できます。

■ **待機。**このアクションは、トリガーイベントのすべての関連付けと分離で使用できます。

■ **統合イベントの作成。**このアクションは、一部の関連付けと分離でのみ使用できます。

次の表で、トリガーイベントの関連付けと分離をサポートする関連付けを示し、どの関連付けと分離が「統合イベントの作成」アクションをサポートしているかを示します。

親レコードタイプ	レコードタイプ	「統合イベントの作成」アクションのサポート
取引先	住所	はい
取引先	担当者	はい
取引先	カスタムオブジェクト 01	いいえ
取引先	カスタムオブジェクト 02	いいえ
取引先	カスタムオブジェクト 03	いいえ
活動	担当者	いいえ
担当者	取引先	はい
担当者	住所	はい
担当者	カスタムオブジェクト 01	いいえ
担当者	カスタムオブジェクト 02	いいえ
担当者	カスタムオブジェクト 03	いいえ
担当者	商談	はい
商談	担当者	はい
商談	カスタムオブジェクト 02	いいえ

次の表で、関連付けまたは分離のワークフロールールをトリガーできるアクションを示します。この表では、統合イベントアクションがワークフロールール上で設定された場合に、ワークフロールールによって生成される統合イベントも示しています。

注:レコード内のデータによっては、追加の統合イベントが生成される場合があります。たとえば、取引先に作成された新しい担当者がその取引先のプライマリ担当者である場合、追加の統合イベント（取引先の更新）が生成されます。

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
非共有住所で新規取引先を作成します。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	取引先: 挿入 住所: 挿入 住所: 関連付ける
			Web サービス	取引先: 挿入 住所: 挿入

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
				住所：関連付ける
既存の取引先に対して非共有住所を作成します。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	住所：挿入 取引先：更新 住所：関連付ける
			Web サービス	住所：挿入 取引先：更新 住所：関連付ける
取引先から非共有住所を削除します。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	住所：削除 取引先：更新
			Web サービス	住所：削除 取引先：更新 住所：分離
関連する既存の共有住所を使用して新規取引先を作成します。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	取引先：挿入
			Web サービス	取引先：挿入 取引先住所：挿入
既存の共有住所を既存の取引先にリンクします。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	取引先住所：挿入
			Web サービス	取引先住所：挿入
取引先の「詳細」ページの住所関連情報セクションから新規共有住所を作成します。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	取引先：更新 住所：挿入 住所：関連付ける
			Web サービス	該当なし
取引先から共有住所を削除します。	取引先	住所	ユーザーインターフェイス	取引先住所：削除 取引先：更新
			Web サービス	取引先住所：削除

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
取引先に新しい担当者を作成します。	取引先	担当者	ユーザーインターフェイス	取引先：更新 担当者：挿入 担当者：関連付ける
			Web サービス	担当者：挿入 担当者：関連付ける 取引先：更新
既存の担当者を取引先にリンクします。	取引先	担当者	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：挿入 担当者：更新
			Web サービス	担当者：関連付ける 取引先：更新
取引先から担当者を削除します。	取引先	担当者	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：削除 担当者：更新（プライマリ担当者のみ）
			Web サービス	担当者：分離 取引先：更新
既存の取引先を担当者にリンクします。	担当者	取引先	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：挿入 取引先：更新
			Web サービス	取引先担当者：挿入 担当者：更新
担当者から取引先を削除します。	担当者	取引先	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：削除 担当者：更新（プライマリ担当者のみ）
			Web サービス	取引先担当者：削除 担当者：更新（プライマリ担当者のみ）
非共有住所で新規担当者を作成します。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	担当者：挿入 住所：挿入 住所：関連付ける
			Web サービス	担当者：挿入 住所：挿入

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
				住所：関連付ける
既存の担当者に対して非共有住所を作成します。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	住所：挿入 担当者：更新 住所：関連付ける
			Web サービス	住所：挿入 担当者：更新 住所：関連付ける
担当者から非共有住所を削除します。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	住所：削除 担当者：更新
			Web サービス	住所：削除 担当者：更新 住所：分離
関連する既存の共有住所を使用して新規担当者を作成します。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	担当者：挿入
			Web サービス	担当者：挿入 担当者の住所：挿入
既存の共有住所を既存の担当者にリンクします。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	担当者の住所：挿入
			Web サービス	担当者の住所：挿入
担当者の「詳細」ページの住所関連情報セクションから新規共有住所を作成します。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	担当者：更新 住所：挿入 住所：関連付ける
			Web サービス	該当なし
担当者から共有住所を削除します。	担当者	住所	ユーザーインターフェイス	担当者の住所：削除 担当者：更新
			Web サービス	担当者の住所：削除

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
担当者に新しい商談を作成します。	担当者	商談	ユーザーインターフェイス	商談：挿入 商談：関連付け
			Web サービス	商談：挿入 商談：関連付け 担当者：更新
担当者から商談を削除します。	担当者	商談	ユーザーインターフェイス	商談：関連付け解除
			Web サービス	商談：関連付け解除
取引先に新しい商談を作成します。 注: このアクションはユーザーインターフェイスからは使用できません。	商談	担当者	Web サービス	担当者：挿入 担当者：関連付ける
既存の担当者を商談にリンクします。	商談	担当者	ユーザーインターフェイス	商談：更新 商談担当者役割：挿入
			Web サービス	担当者：関連付ける 商談：更新
商談から担当者を削除します。	商談	担当者	ユーザーインターフェイス	商談担当者役割：削除 商談：更新
			Web サービス	担当者：分離 商談：更新

ワークフロールールアクションの失敗

ワークフロールールアクションの完了に失敗した場合は、次の処理が実行されます。

- [値を更新] アクションが失敗した場合、ルールをトリガーした操作がブロックされ、ワークフロールールに指定されているその他のアクションは実行されません。操作が失敗したことを示すエラーメッセージが表示されます。
- [値を更新] アクション以外のワークフロールールアクションが失敗した場合、ユーザーはエラーメッセージを受け取りますが、ルールをトリガーした操作はブロックされず、ワークフロールールに指定されているその他のアクションが実行されます。タスクの作成が許可されていないために [タスクを作成] アクションが失敗した場合に返されるエラーメッセージなど、一部のエラーメッセージはユーザーには表示されません。このようなエラーはログファイルに書き込まれます。

注: ワークフロールールで「メール送信」アクションが設定されている場合は、その電子メールが正常に生成されると、ワークフローアクションが正常に完了したとみなされます。ただし、そのワークフロールールをトリガーした操作が正常に完了するまで、その電子メールは送信されません。管理者は、電子メールモニターで、現在送信待ちの発信電子メールのリストを確認できます。電子メールモニターの詳細は、「[企業の保留中および送信済み電子メールの確認 \(ページ 72\)](#)」を参照してください。

レコードの表示およびワークフローアクション

ワークフロールールをトリガーするアクションをユーザーが実行し、ユーザーのアクションの結果としてレコードを表示できなくなった場合、ワークフロールールに対する一部のアクションが失敗することがあります。

たとえば、変更した取引先レコードの保存時にトリガーされるワークフロールールがあるとします。取引先レコードを所有するユーザーが取引先を別のユーザーに再割当てした場合、その取引先レコードの保存時にワークフロールールがトリガーされます。レコードの元の所有者が他のどのような手段（チームまたはブックのメンバーシップなど）によっても取引先レコードを表示できなくなった場合、その取引先レコードにアクセスする必要があるワークフローアクションは失敗します。

レコード所有権モードおよびワークフローアクション

カスタムブックを異なる所有権モード（ユーザーモード、混合モードまたはブックモード）でサポートするレコードタイプを設定できます。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて \(ページ 307\)](#)」を参照してください。レコード所有権モードはワークフローのルールおよびアクションと相互作用します。

「ブックを割り当て」ワークフローアクションでプライマリカスタムブックをレコードから削除しようとした場合の動作は次のとおりです。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、ワークフローアクションが失敗します。
- レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、プライマリカスタムブックがレコードから削除されるときに、Oracle CRM On Demand によってレコードの「ブック」フィールドの値が削除されます。
- レコードタイプがユーザーモードに設定されている場合は、レコードのいずれのブックもプライマリカスタムブックではないため、レコード所有権モードはワークフローアクションに影響しません。

「レコード上の電子メールアドレス」オプションを使用して電子メールを送信するように「メール送信」アクションが設定されている場合など、ワークフローアクションがレコードの「所有者」フィールドの値に依存する場合は、次の状況が発生します。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、ワークフローアクションが失敗します。
- レコードタイプがユーザーモードまたは混合モードに設定され、レコードで関係のあるユーザーを識別するフィールドが空白の場合は、ワークフローアクションが失敗します。

たとえば、取引先所有者に電子メールを送信する「メール送信」アクションを設定する場合、取引先レコードの「所有者」フィールドが空白になっていると、ワークフローアクションは失敗します。一方、「所有者」フィールドに値が挿入されていると、ワークフローアクションは正常に実行されます。

待ち時間

ワークフロールールは順番に、そして同期的に評価されます。したがって、すべてのルールが評価されるまでは、全体的な更新操作は完了しません。ワークフロールールでは、操作に対して一定の待ち時間（操作の開始と操作の終了までの時間）を設けています。たとえば、ワークフローによって作成される各タスクは、レコードの更新操作に対して最大で 20% の待ち時間を追加することができます。ワークフロールールによって作成される各電子メールには、約 5% の待ち時間が追加されます。

式の評価には、それほど時間はかかりません。待ち時間を最短にするには、相互排他的な式をワークフロー条件に追加します。ワークフロールールは、パフォーマンスを念頭に置いたうえで、段階的に構築します。

次に示した作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールの順序の変更](#) (ページ 431)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフローアクションについて

1 つのワークフロールールに対して複数のアクション（最大 25 個）を作成できます。

作成可能なワークフローアクションのタイプは次のとおりです。

- **ブックを割り当て**。[ブックを割り当て] アクションでは、ワークフロールールの条件を満たすと、レコードにブックを割り当てます。
- **統合イベントの作成**。[統合イベントの作成] アクションでは、ワークフロールールの条件を満たし、[統合イベントの作成] アクションで追跡されているフィールドの少なくとも 1 つで変更が検出された場合、自動的に 1 つ以上の統合キューに統合イベントを送信します。
- **タスクを作成**。[タスクを作成] アクションでは、ワークフロールールの条件を満たすと、タスクを作成します。
- **メール送信**。[メール送信] アクションでは、ワークフロールールの条件を満たすと、電子メールが生成されます。ワークフロールールをトリガーした操作が正常に完了すると、電子メールが自動的に送信されます。
- **値を更新**。[値を更新] アクションでは、レコードの変更時に、元の変更に関する情報（レコードの変更日時、変更したユーザー、変更内容）を保持したままフィールドを更新します。このアクションは、ワークフロールールの [値を更新] アクションより前にある 1 つ以上の [待機] アクションに定義されている待機期間の終了後に実行されます。
- **待機** 待機アクションを使用すると、Oracle CRM On Demand では、待機期間が経過するまで、ワークフロールールの他の（後続の）アクションの実行が延期されます。

注：待機期間には、Oracle CRM On Demand がワークフロールールの他のアクションの実行を開始する前に経過する必要がある最小時間を指定します。Oracle CRM On Demand データベースおよび Oracle CRM On Demand サーバーの負荷、および待機期間終了時の保留中待機アクションの数によっては、他のアクションが実行されるまでに経過する実際の時間がさらに長くなる場合があります。

注：ワークフロールールに複数のアクションを指定した場合、アクション 1 から指定の順序でアクションが実行されます。アクションが完了するまで、次のアクションは実行されません。ワークフロールールのアクションを作成した後で、アクション

の順序を変更できます。詳細については、「[ワークフロールールアクションの順序の変更 \(ページ 430\)](#)」を参照してください。

ワークフロールールアクションを作成するときは、Expression Builder を使用して、レコードからフィールドを選択し、変数を計算する式を定義します。電子メールの件名とメッセージの本文テキスト、タスクの件名と説明テキストまたは更新するフィールドの新しい値に、レコードのフィールドと変数をマージできます。また、式ビルダーを使用して、ワークフローの「待機」アクションの待機期間の長さまたは終了日時を計算することもできます。定義する式のフィールドの名前と変数は、ワークフロールールの実装時に値に置き換わります。Expression Builder の詳細は、「[Expression Builder \(ページ 766\)](#)」を参照してください。

注: [連結フィールド](#)は、複数のフィールドからの値の表示や追加テキストの表示が可能なフィールドです。連結フィールドは、「値を更新」ワークフローアクションで更新できず、統合イベントに含めることもできません。そのかわり、連結フィールドを構成する個々のフィールドを使用する必要があります。

ワークフローアクションを作成する手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て \(ページ 403\)](#)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成 \(ページ 405\)](#)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成 \(ページ 408\)](#)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信 \(ページ 414\)](#)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新 \(ページ 426\)](#)
- [ワークフローアクションの作成：待機 \(ページ 428\)](#)

Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management の追加ワークフローアクション

次の 3 つの追加ワークフローアクションは、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management でのみ使用できます。

- パートナーブック同期
- ブックパートナー同期
- 所有者パートナー同期

これらのアクションとその使用方法の詳細は、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management Configuration Guide を参照してください。このマニュアルは、Oracle CRM On Demand の [Oracle Technology Network ドキュメントライブラリ](#) (参照 [Oracle CRM On Demand documentation library - http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmod-096050.html](#)) から入手できます。

Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の追加ワークフローアクション

「[コールの送信](#)」と「[実行](#)」の 2 つの追加ワークフローアクションを、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition で使用できます。

「[コールの送信](#)」アクション

「[コールの送信](#)」アクションは、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition と連携するように Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales アプリケーションを使用している顧客のみが設定する必要があります。このワークフローアクションの設定手順の詳細は、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales Administration Guide で在

庫追跡の支出トランザクションワークフロールールの設定に関する情報を確認してください。これは、Oracle Technology Network の [Oracle CRM On Demand のドキュメントライブラリ](http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmod-096050.html) (参照 Oracle CRM On Demand documentation library - <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmod-096050.html>)から入手できます。

Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition を使用していない顧客は、このワークフローアクションを設定できません。このワークフローアクションを設定すると、作成された活動レコードが、[オープン] 状態を経ずに、[提出済み] 状態に設定され、完了済み活動の下にリストされる可能性があります。

[コールの送信] アクションは、次の各トリガーイベントで使用可能です。

- 新規レコードが保存されたとき
- 更新されたレコードが保存されたとき

[コールの送信] アクションの次のアクションは、[待機] アクションである必要があります。

【実行】アクション

[実行] アクションを使用できるのは、サンプルトランザクションレコードタイプのワークフロールールのみです。[実行] アクションでは、Oracle CRM On Demand で処理されるサンプルトランザクションレコードが自動的に実行されます。これは、ユーザーインターフェイスのサンプルトランザクションの [詳細] ページの [実行] ボタンをクリックするのと同じです。[実行] ワークフローアクションの使用の詳細は、「[サンプルトランザクションの自動実行の設定](#) (ページ 760)」を参照してください。

[実行] アクションは、[更新されたレコードが保存されたとき] トリガーイベントで使用可能です。[実行] アクションの前のアクションは、[待機] アクションである必要があります。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

時間ベースのワークフロールールについて

待機期間が経過した後にアクションが実行されるように、ワークフロールールを設定できます。たとえば、レコードの期日が経過した後、またはレコードが一定期間使用されていなかった場合に、ルールのアクションが実行されるようにルールを設定できます。

時間ベースのワークフロールールを設定するには、ルールに 1 つ以上の [待機] アクションを追加します。時間ベースのアクションを実行するケースごとに、遅延の期間、または遅延の終了日時を指定する [待機] アクションを作成します。期間または日付を直接入力するか、期間または日付を計算する式を作成できます。次に、遅延するアクションの直前に [待機] アクションがくるように、ルールのアクションを並べ替えます。ビジネスプロセスの実現に複数のルールが必要な場合は、目的を実現するためにルールを適切に並べ替えます。

待機アクション後のワークフロー条件の再評価について

〔待機〕アクションを使用して、待機期間の終了時にワークフロールール条件を再評価するかどうかを指定できます。〔待機〕アクションの〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスがオンの場合は、待機期間の終了後にレコードが再び読み込まれ、ワークフロールールの条件に対して再評価されます。

（待機期間中にレコードが変更されたために）ルール条件が満たされていない場合、ルールの残りのアクションは実行されません。デフォルトでは、〔待機〕アクションの〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスはオンになります。

〔待機〕アクションの〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスをオフにすると、待機期間が終了した後に、レコードが再び読み込まれ、ルールに対する次のアクションが実行されます。このときに、レコードがまだルール条件を満たしているかどうかはチェックされません。ルールに複数の〔待機〕アクションがある場合は、待機期間の終了後にルール条件を再評価する〔待機〕アクションごとに〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスをオンにする必要があります。

時間ベースのワークフロールールの使用例

次に、時間ベースのワークフロールールの使用例を示します。時間ベースのワークフロールールは、ビジネスモデルに応じて異なる方法で使用できます。

サービスリクエストには、〔標準〕、〔緊急〕、〔非常に重要〕の3つの優先順位オプションが使用されます。サービスリクエストが作成されると、サービスリクエストの優先順位はデフォルトで〔標準〕に設定されます。サービスエスカレーションのビジネスプロセスでは、次のアクションが必要です。

- 1 新しいサービスリクエストが作成された後、サービスリクエストの状態が24時間以内に更新されない場合は、サービスリクエストの優先順位が〔緊急〕に変更され、サービスリクエストを更新する必要があることを所有者に通知する電子メールがサービスリクエストの所有者に送信されます。
- 2 サービスリクエストの状態が変更されずにさらに24時間経過すると、次の処理が実行されます。
 - サービスリクエストの〔優先順位〕フィールドが〔非常に重要〕に変更されます。
 - サービスリクエストが当初の所有者のマネージャに再割り当てされます。
 - サービスリクエストが所有者のマネージャに再割り当てされたこと、および優先順位が〔非常に重要〕に変更されたことを伝える電子メールが、サービスリクエストの当初の所有者と新しい所有者に送信されます。

この要件を満たすために、企業の管理者は、次のように設定されるサービスリクエストレコードタイプのワークフロールールを設定します。

- 1 ルールトリガーは、〔新規レコードが保存されたとき〕という値に設定されます。
- 2 ルール条件は、次のように、サービスリクエストの状態が〔保留中〕に設定されていないことを指定します。

```
[<Status>]<>LookupValue("SR_STATUS", "Pending")
```

- 3 ワークフロールールには次の一連のアクションがあります。
 - a 期間が24時間で、〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスがオンの〔待機〕アクション
 - b サービスリクエストの〔優先順位〕フィールドを〔緊急〕に変更する〔値を更新〕アクション
 - c サービスリクエストの優先順位が〔緊急〕に変更されたこと、およびサービスリクエストを更新する必要があることを所有者に通知する電子メールをサービスリクエストの所有者に送信する〔メール送信〕アクション

- d** 期間が 24 時間で、[待機後のルール条件を再評価します] チェックボックスがオンの [待機] アクション
- e** サービスリクエストの [優先順位] フィールドを [非常に重要] に変更する [値を更新] アクション
- f** 当初の所有者のマネージャを新しい所有者として割り当てる [値を更新] アクション
- g** サービスリクエストが再割り当てされたこと、およびサービスリクエストの優先順位が [非常に重要] に変更されたことを通知する電子メールをサービスリクエストの所有者と所有者のマネージャに送信する [メール送信] アクション

ワークフロールールの [待機] アクションおよび [値を更新] アクションの作成については、「[ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)」および「[ワークフローアクションの作成：値を更新](#) (参照 "[ワークフローアクションの作成：値の更新](#)" ページ 426)」を参照してください。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ユーザーレコードタイプのワークフロールールを作成するときの考慮事項

[ユーザー] レコードタイプのワークフロールールを作成するとき次の考慮事項が適用されます。

- [ユーザー] レコードタイプのワークフロールールを作成するには、ユーザー役割で次の権限の両方が有効になっている必要があります。
 - データルールの管理 - ワークフロールールの管理
 - データルールの管理 - ユーザーのワークフロールールの管理
- [ユーザー] レコードタイプのワークフロールールは、次の場合にはトリガーされません。
 - 会社のリクエストで Oracle CRM On Demand Customer Care によりユーザーレコードに対して変更が加えられたとき。

注: ユーザーは、トラブルシューティングの目的で Oracle CRM On Demand のテクニカルサポート要員にサインインアクセス権を付与できます。テクニカルサポート要員がユーザーとしてサインイン中にユーザ

ーレコードに変更を加えると、その変更はテクニカルサポート要員が代理するユーザーによる変更と同様に扱われ、その変更により関連するワークフロールールがトリガーされます。

- ユーザーのパスワードが、管理者がユーザーのレコード上で[パスワードのリセット]をクリックしてリセットされたとき。

注: ユーザーレコード上で管理者が[[保存]をクリックしたときに仮パスワードを送信] チェックボックスをオンにした場合、ユーザーレコードに対する更新とみなされ、この変更により関連するすべてのワークフロールールがトリガーされます。

- ユーザーのパスワードが Web サービスを使用してリセットされたとき。
- ユーザーが初めて Oracle CRM On Demand にサインインした後にパスワードを設定したとき。
- ユーザーが自分のパスワードを変更したとき。
- ユーザーが初めて Oracle CRM On Demand にサインインした後にセキュリティに関する質問を設定したとき。
- ユーザーが自分のセキュリティに関する質問を変更したとき。
- ユーザーレコード上のセールス目標に変更が加えられたとき。
- [ブックを割り当て] ワークフローアクションは、[ユーザー] レコードタイプのワークフロールールではサポートされていません。これは、カスタムブックが、取引先や担当者などの他のレコードタイプへの割当てと同じようにはユーザーレコードに割り当てられていないためです。ユーザーはブックと関連付けてブック内のレコードに対するユーザーアクセス権を提供できますが、ユーザーのデフォルトユーザーブックのみがユーザーレコードに割り当てられます。
- [値を更新] ワークフローアクションを使用してユーザーレコード上の[状態]項目を更新できません。
- [ユーザー] レコードタイプのワークフロールールに[値を更新]アクションが含まれ、そのワークフロールールが[設定 (個人)]リンクを使用してユーザーレコードに加えられた変更でトリガーされた場合、[値を更新]アクションでユーザーの読み取り専用項目は更新されません。
- [ユーザー] レコードタイプの[メール送信] ワークフローアクションを作成する場合、[宛先] フィールドで[特定の電子メールアドレス] オプションを使用できません。[特定のユーザー] および[レコード上の電子メールアドレス] オプションのみが使用可能です。[レコード上の電子メールアドレス] オプションの場合、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **現在のユーザー。** ワークフロールールをトリガーしたアクションを実行したユーザーです。
 - **監査役。** ワークフロールールをトリガーしたアクションにより作成または更新されたユーザーレコード上の[監査役] フィールドに名前を指定されたユーザーです。
 - **上司。** ワークフロールールをトリガーしたアクションにより作成または更新されたユーザーレコード上の[上司] フィールドに名前を指定されたユーザーです。

同様に、[ユーザー] レコードタイプの[タスクを作成] ワークフローアクションを作成したとき、[所有者] フィールドの[レコード上の電子メールアドレス] オプションで使用可能なオプションは[現在のユーザー]、[監査役] および[上司] です。

ワークフロールールの作成

このトピックでは、ワークフロールールの作成方法について説明します。

注: 企業プロファイルでワークフロー保存取消メッセージに対する言語翻訳サポートの有効化チェックボックスがオンになっている場合、既存のワークフローを編集するときに[ワークフロールール詳細] ページおよび[ワークフロールール編集] ページで[翻訳言語] フィールドを使用できます。[翻訳言語] フィールドを使用すると、ワークフロールールの条件が満たさ

れず、ルールの「保存取消」チェックボックスがオンになっている場合、ユーザーまたは Web サービスに返されるカスタムエラーメッセージの翻訳を入力できます。「翻訳言語」フィールドの詳細は、「[ワークフロー保存操作の取り消し](#) (参照 "[ワークフロー保存操作の取り消し](#)" ページ 399)」を参照してください。

作業前の準備。「[ワークフロールールについて](#) (ページ 380)」で説明されているように、企業で Oracle CRM On Demand のワークフロー機能が設定されている必要があります。このトピックで説明する手順を実行するには、「データルールの管理 - ワークフロールールの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。「ユーザー」レコードタイプのワークフロールールを作成するには、ユーザー役割にユーザー権限の「データルールの管理 - ワークフロールールの管理」も必要です。管理者は、必要に応じて管理者役割および他の役割のこの権限を有効にできます。「ユーザー」レコードタイプのワークフロールールを作成する場合の考慮事項の詳細は、「[\[ユーザー\] レコードタイプのワークフロールールを作成する場合の考慮事項](#) (参照 "[ユーザーレコードタイプのワークフロールールを作成するときの考慮事項](#)" ページ 394)」を参照してください。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

注:ルールの作成後に、そのルールのレコードタイプやトリガーイベントを変更することはできません。ただし、ワークフロー条件の更新は可能です。

ワークフロールールを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。
- 3 「ワークフロールールリスト」ページで、次の該当する操作を行います。
 - 既存のワークフロールールをコピーして新しいワークフロールールを作成するには、コピーするワークフロールールの「コピー」をクリックします。
 - 既存のルールをベースにせずに新しいワークフロールールを作成するには、タイトルバーの「新規」をクリックします。
- 4 「ワークフロールール詳細」ページの「キーワークフロールール詳細」セクションで、ルール情報を入力します。

次の表では、ルールフィールドについて説明します。

フィールド	説明
ワークフロー名	50 文字までの一意の名前を入力します。
有効	「有効」チェックボックスを使用して、ルールの有効と無効を切り替えます。同時に有効にできるワークフロールールの数に制限はありません。

フィールド	説明
オーダー	このフィールドは、ワークフロールールを作成するときは読み取り専用です。このフィールドにより、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいて Oracle CRM On Demand がルールを呼び出す順序が決まります。Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプと同じトリガーイベントに基づいてルールに対して次の未使用の番号が割り当てられます。ワークフロールールに対するトリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」の場合は、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプ、同じトリガーイベント、および同じ親レコードタイプに基づいて、ルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。ワークフロールールの順序は後で変更できます。詳細については、「 ワークフロールールの順序の変更 （ページ 431）」を参照してください。
終了	このワークフロールールの「終了」チェックボックスがオンの場合、ルールの条件が満たされると、このワークフロールールで有効なアクションが実行されます。ただし、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいている後続のワークフロールールはトリガーされません。 このワークフロールールの条件を満たさない場合は、このワークフロールールの「終了」チェックボックスの設定に関係なく、Oracle CRM On Demand により、順序の次のルールに進みます。
説明	（オプション）ルールの目的など、ワークフロールールに関する追加情報を入力します。
レコードタイプ	ワークフロールールのレコードタイプを選択します。 トリガーイベントを作成、更新および削除する場合、ワークフロールールは、1 種類のレコードタイプにのみ関連付けられます。ルールはそのレコードタイプに対して評価され、そのレコードタイプに対してアクションが実行されます。ルールの作成後、そのルールのレコードタイプを変更することはできません。 トリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」のワークフロールールの場合は、子レコードのレコードタイプを選択します。たとえば、ワークフロールールを、担当者レコードが取引先レコードに関連付けられたときにトリガーしたい場合は、このフィールドで担当者を選択し、「親レコードタイプ」フィールドで取引先を選択します。
トリガーイベント	ルールをトリガーするイベントを選択します。 指定のレコードタイプでこのイベントが発生すると、ルールが評価されます。ルールの作成後、そのルールのトリガーイベントを変更することはできません。 注:「親との関連付けの後」および「親との関連付け解除の後」のトリガーイベントは、取引先、担当者、および商談のレコードタイプに対してのみサポートされます。詳細については、「ワークフロールールについて（ページ 380）」の「トリガーイベントの関連付けと分離」を参照してください。

フィールド	説明
親レコードタイプ	このフィールドは、[親との関連付けの後] または [親との関連付け解除の後] のトリガーイベントを選択した場合に表示されます。 親レコードタイプを選択します。たとえば、担当者レコードが親の取引先レコードと関連付けられたときにワークフロールールをトリガーする場合は、このフィールドで [取引先] を選択し、[レコードタイプ] フィールドで [担当者] を選択します。

- 5 ワークフロールールに条件を定義する場合は、ページの [ワークフロールール条件] セクションにある [fx] アイコンをクリックし、Expression Builder を使用してワークフロールール条件を定義します。Expression Builder の詳細は、「[Expression Builder](#) (ページ 766)」を参照してください。

注:ワークフロールールに条件を定義しない場合は、ルールがトリガーされるたびにルールアクションが実行されます。

ワークフロールールの条件を作成する場合は、次の点を考慮してください。

- ワークフロールールの条件には、最大 1024 文字含めることができます。
- 特定の役割またはチャネル専用のワークフロールールを設定できます。ワークフロールールを特定の役割またはチャネルに制限する方法の詳細は、「[ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限](#) (ページ 402)」を参照してください。
- ワークフロールールの次のような条件を使用して、レコード内のフィールドが更新されたかどうかを確認できます。この例では、フィールドが変更されたかどうかを確認するための文字列として「Invalid」を使用していますが、調査対象のフィールドに値としてその文字列が存在しない場合は任意の文字列を使用できます。

```
IfNull([<FieldName>], "Invalid") <> IfNull(PRE("<FieldName>"), "Invalid")
```

注意: [待機] アクションの後に呼び出されるワークフローまたはアクションで PRE 関数を使用した場合、関数はフィールドの以前の値を返しません。PRE() 関数の詳細は、「[PRE](#) (ページ 805)」を参照してください。

- 6 [ワークフロールール詳細] ページで [条件が偽の場合にアクション] セクションが有効な場合は、ルールの条件を満たさない場合に保存操作が必ず取り消されるように指定できます。

ルールの条件を満たさない場合に保存操作を取り消す指定の詳細は、「[ワークフロー保存操作の取り消し](#) (参照 "ワークフロー保存操作の取り消し" ページ 399)」を参照してください。

- 7 ワークフロールールを保存します。

ルールを保存した場合は、そのルール用のアクションを作成できます。1 つのワークフロールールに対して複数のアクション (最大 25 個) を作成できます。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

ワークフローアクションを作成する手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成: ブックの割り当て](#) (ページ 403)

- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [ワークフロー保存操作の取り消し](#) (参照 "[ワークフロー保存操作の取り消し](#)" ページ 399)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールの順序の変更](#) (ページ 431)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフロー保存操作の取り消し

「更新されたレコードが保存される前に」トリガーを持つワークフロールールでは、ルールの条件が満たされない場合に、[保存取消] 機能を使用して、そのルールをトリガーした変更を保存するための操作が取り消されるように指定できます。ただし、Oracle CRM On Demand による変更は、保存操作の取り消しを指定した場合でも、取り消されません。

取り消されたワークフロー保存操作のメッセージの翻訳について

ワークフロールールに保存取消機能を設定すると、ルールの条件を満たさない場合、およびルールの [保存取消] チェックボックスがオンの場合にユーザーまたは Web サービスに返すカスタムメッセージを指定できます。企業のデフォルト言語を使用しないユーザーに対して、翻訳されたバージョンのカスタムメッセージの提供が必要な場合があります。翻訳されたバージョンのカスタムメッセージを入力する能力は、企業プロファイル上のワークフロー保存取消メッセージに対する言語翻訳サポートの有効化チェックボックスにより制御されます。企業プロファイル上のこのチェックボックスがオフの場合、ワークフロールールに対して翻訳されたメッセージは入力できません。

企業プロファイル上でワークフロー保存取消メッセージに対する言語翻訳サポートの有効化チェックボックスがオンの場合の動作は次のとおりです。

- [翻訳言語] フィールドは、既存のワークフロールールを編集するときに [ワークフロールール詳細] ページおよび [ワークフロールール編集] ページで使用できます。カスタムメッセージが指定されたワークフロールールを作成した後、メッセージは企業のデフォルト言語以外のすべての言語で括弧で囲まれた青色のフォントで表示されます。この結果、ワークフロールールを編集して翻訳されたバージョンのメッセージを入力できます。

注: カスタムメッセージを指定しない場合は、デフォルトのメッセージが返されます。翻訳されたバージョンのデフォルトメッセージは入力できません。

■ 「翻訳」チェックボックスは、既存のワークフロールール内の「ワークフロールール編集」ページおよび「ワークフロールール詳細」ページで使用できます。企業のデフォルト言語で表された既存のルール内のメッセージを変更する場合、「翻訳」チェックボックスを使用して、翻訳されたバージョンのメッセージを更新されたメッセージで置き換えるか、変更しないままにするかを指定できます。「翻訳」チェックボックスをオンにすると、更新されたメッセージがデフォルトのフォントでデフォルトの企業言語で表示されます。翻訳された言語のメッセージを入力するまでは括弧で囲まれた青色のフォントで表示されます。メッセージをデフォルトの企業言語で更新するときに「翻訳」チェックボックスをオンにしないと、メッセージはデフォルトの企業言語で変更されますが翻訳されたメッセージは変更されません。

注: ワークフロールールを作成したとき、「翻訳」チェックボックスはオフで読み取り専用です。「翻訳」チェックボックスは既存のワークフロールールを編集するときのみ有効です。さらに、ワークフロールールを編集するときに翻訳フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、「翻訳」チェックボックスは読み取り専用です。

作業前の準備。 この手順を実行するには、ユーザーの役割に「ワークフロー保存取消」権限および「データルール管理 - ワークフロールール管理」権限が必要です。

注意: 「商談」レコードタイプは例外です。「商談」レコードタイプに対するワークフロールールで「保存取消」機能を使用する場合、ユーザーの役割に「ワークフロー保存取消」権限は必要ありません。ユーザーの役割に「データルール管理 - ワークフロールール管理」権限が設定されている場合、「更新されたレコードが保存される前に」トリガーがある「商談」レコードタイプに対するワークフロールールで、「保存取消」機能を使用できます。

ルール条件を満たさない場合に、ワークフローの保存操作を取り消すには

- 1 「ワークフロールール詳細」ページの「条件が偽の場合にアクション」セクションで、「保存取消」チェックボックスをオンにします。
- 2 （オプション）ルール条件を満たさないために保存処理が取り消されたときに表示するエラーメッセージを指定します。
- 3 変更を保存します。

次の表では、「ワークフロールール詳細」ページの「条件が偽の場合にアクション」セクションのオプションについて説明します。

フィールド	説明
翻訳	このチェックボックスは、ワークフロー保存取消メッセージに対する言語翻訳サポートの有効化チェックボックスが企業プロファイルでオンになっている場合にのみ使用可能です。 企業のデフォルト言語で表されたワークフロールール内のメッセージを変更する場合、「翻訳」チェックボックスを次のように使用します。 ■ 翻訳されたバージョンのメッセージを更新されたメッセージで置き換える場合、「翻訳」チェックボックスをオンにします。 ■ 翻訳されたバージョンのメッセージを変更せずに残す場合、「翻訳」チェックボックスをオンにしないでください。
保存取消	このチェックボックスをオンにすると、ルール条件を満たさない場合に次のアクションが実行されます。 ■ ワークフロールールが終了します。 ■ 「更新されたレコードが保存される前に」トリガーイベントが指定されている（同じレコードタイプに基づく）以降のすべてのワークフロー

フィールド	説明
	ールールも終了します。 ■ レコードの状態に対する以前のすべての変更（Oracle CRM On Demand で加えられた変更を除く）がロールバックされます。 ■ レコードが元の状態に戻ります。ただし、Oracle CRM On Demand でレコードが更新されている場合は、その変更が「保存取消」アクションよりも優先されます。たとえば、プライマリ担当者が関連担当者から削除されると、Oracle CRM On Demand で親商談レコードのプライマリ担当者情報が更新されます。Oracle CRM On Demand によるこの更新は、商談レコードに対する「保存取消」アクションよりも優先されます。 ■ 「更新されたレコードが保存されたとき」トリガーイベントが指定されている、同じレコードタイプの以降のすべてのワークフロールールはトリガーされません。 ■ 次のようなメッセージが返されます。 ■ ユーザーのアクションによってルールがトリガーされると、そのルールをトリガーしたアクションを実行したユーザーに対してメッセージが表示されます。 ■ Web サービスによってルールが呼び出された場合は、その Web サービスに対してメッセージがエラー文字列として返されます。 メッセージは、「メッセージの表示」フィールドで指定できます。 このチェックボックスをオフにすると、ルールの条件を満たさない場合は、保存操作が行われません（メッセージも返されません）。 デフォルトでは、「保存取消」チェックボックスはオフになっています。
メッセージの表示	このフィールドでは、ルールの条件を満たさない場合、およびルールの「保存取消」チェックボックスがオンの場合にユーザーまたは Web サービスに返すメッセージを指定できます。 このフィールドにメッセージを指定しない場合は、デフォルトのメッセージが返されます。メッセージの最大文字数は 1,999 文字です。

次の手順では、ワークフロー保存取消操作に対して翻訳されたバージョンのメッセージを入力する方法について説明します。

ワークフローに対して翻訳されたバージョンのメッセージを入力するには

- 1 「ワークフロールールリスト」ページで、ワークフロールールの「編集」リンクをクリックします。
- 2 「ワークフロールール編集」ページにある「翻訳言語」フィールドで、翻訳されたメッセージを入力する言語を選択します。

注: デフォルトの企業言語以外の言語を選択すると、[ワークフロールール編集] ページまたは [ワークフロールール詳細] ページからワークフロールールを作成できません。ワークフロールールを作成できるのは、[翻訳言語] フィールドでデフォルトの企業言語が選択された場合のみです。

3 [メッセージの表示] フィールドに翻訳されたメッセージを入力します。

4 変更を保存します。

各言語にこの手順を繰り返します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

■ [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)

■ [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)

ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限

ワークフロールールに条件を追加して、ワークフロールールを特定のチャネルまたは役割に制限できます。

チャネルによってワークフロールールが呼び出されないようにするには

■ 条件式で `ExcludeChannel()` 関数を使用します。

たとえば、大規模なインポート処理によってワークフロールールがトリガーされないようにするには、ワークフロールールで次の条件を使用します。

```
ExcludeChannel ("Import")
```

`ExcludeChannel()` 関数の詳細は、「[ExcludeChannel](#) (ページ 784)」を参照してください。

ワークフロールールを特定の役割に制限するには

■ 条件式で `UserValue()` 関数とともに `<Role>` 属性を使用します。

たとえば、ルールをトリガーするアクションを実行したユーザーの役割が [管理者] であり、レコードの [優先順位] が [高] に設定されている場合にのみワークフロールールが呼び出されるように制限するには、ワークフロールールで次の条件を使用します。

```
UserValue('<Role>')="Administrator" AND [<Priority>]="High"
```

`UserValue()` 関数の詳細は、「[UserValue](#) (ページ 814)」を参照してください。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て

ワークフロールール of 「ブックを割り当て」 アクションでは、ワークフロールールの条件が満たされた場合にブックがレコードに自動的に割り当てられます。レコードに割り当て特定のブックを選択するか、評価結果がレコードに割り当てブックの名前になる式を指定できます。

評価結果がブック名になる式を指定することで、式の結果に応じて異なるブックを異なるレコードに割り当てることができる、 「ブックを割り当て」 ワークフローアクションを設定できます。たとえば、北アメリカに取引先があり、EMEA に拠点を置く取引先もあるとします。それらの異なる所在地のために 2 つの別個のブックを設定し、取引先所在地に応じて適切なブックを取引先に割り当てる必要があります。この構成を設定するには、2 つのブックを作成し、一方を「North America」、他方を「EMEA」という名前にします。次に、「Sales Location」という名前の、値が「North America」および「EMEA」であるカスタムピクリスト項目を作成し、そのカスタム項目を適切な役割の「取引先」レコードタイプのページレイアウトに追加します。その後、取引先レコードの更新時に以下のことが実行される、「ブックを割り当て」ワークフローアクションを作成します。

■ 取引先レコード上の「Sales Location」フィールドで選択されている値を判断する式を評価します。

■ 取引先レコードを、その式で返された値と名前が一致するブックと関連付けます。

注：1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、「ブックを割り当て」アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「ワークフロールールの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

「ブックを割り当て」アクションを作成するには

1 アクションを作成するルールに移動します。

a 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。

b 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。

c 「ワークフロールールリスト」ページで、アクションを作成するルールを見つけます。

リストページでワークフロールールを検索する方法については、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。

2 ルールの「ワークフロー名」リンクをクリックします。

3 「ワークフロールール詳細」ページの「アクション」タイトルバーで「メニュー」をクリックし、「ブックを割り当て」を選択します。

注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント:アクションの「コピー」リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

4 「ワークフローアクション編集」ページで、アクションの名前を入力します。

5 アクションを有効にするには、「有効」チェックボックスをオンにします。

6 レコードに割り当てるブックを指定するには、次のいずれかを行います。

- [ブック名] フィールドの横にあるセレクトボタンをクリックしてから、レコードを割り当てるブックを選択し、[OK] をクリックします。
- [fx] アイコンをクリックして Expression Builder をオープンし、評価結果がレコードに割り当てるブックの名前になる式を作成し、[保存] をクリックします。

たとえば、このトピック内で前に説明した構成をサポートするには、リストからカスタムの [Sales Location] フィールドを選択します。そのフィールドの言語独立名が、適切な構文で式エディターに表示されます。

注: 式の結果が null 値、または有効なブック名ではない値の場合は、ワークフローアクションが失敗し、ワークフローエラーモニターでエラーが記録されます。

Expression Builder の詳細は、「[Expression Builder](#) (ページ 766)」を参照してください。

7 適切な [割当オプション] と [適用先] オプションを選択します。

オプションについては、「[ブックへのレコードの割り当て](#) (ページ 338)」を参照してください。

注: ワークフローアクションで、あるブックから別のブックにレコードを再割当する必要がある場合は、ブックの置換フィールドで、置き換えるブックを指定できます。置き換えるブックの名前を選択するか、評価結果が置き換えるブックの名前となる式を Expression Builder を使用して作成できます。式の結果が null 値、または有効なブック名ではない値の場合は、ワークフローアクションが失敗し、ワークフローエラーモニターでエラーが記録されます。

8 アクションを保存します。

レコード所有者モードおよびブックの割り当て

カスタムブックを異なる所有権モード（ユーザーモード、混合モードまたはブックモード）でサポートするレコードタイプを設定できます。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) (ページ 307)」を参照してください。レコード所有権モードはワークフローのルールおよびアクションと相互作用します。

[ブックを割り当て] ワークフローアクションでプライマリカスタムブックをレコードから削除しようとした場合の動作は次のとおりです。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、ワークフローアクションが失敗します。
- レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、プライマリカスタムブックがレコードから削除されるときに、Oracle CRM On Demand によってレコードの [ブック] フィールドの値が削除されます。
- レコードタイプがユーザーモードに設定されている場合は、レコードのいずれのブックもプライマリカスタムブックではないため、レコード所有権モードはワークフローアクションに影響しません。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成

ワークフロールールに対する「統合イベントの作成」アクションでは、ワークフロールールの条件を満たし、「統合イベントの作成」アクションで追跡されているフィールドの少なくとも 1 つで変更が検出された場合、自動的に 1 つ以上の統合キューに統合イベントを送信します。

「統合イベントの作成」アクションおよび「待機」アクションについて

「統合イベントの作成」アクションを使用して、ワークフロールールをトリガーするイベントによってレコードに加えられた変更を取得する統合イベントを作成する場合は、ワークフロールールのアクションの順序として、「待機」アクションの前に「統合イベントの作成」アクションを設定する必要があります。ワークフロールールで「統合イベントの作成」アクションの前に「待機」アクションを実行すると、「統合イベントの作成」アクションでレコードに対する変更が検出されなくなります。「待機」アクションの待機期間が終了すると、ルールの残りのアクションが実行される前にレコードが再び読み取られ、ワークフロールールをトリガーしたイベントの前にレコードに記録されたフィールド値は保持されません。したがって、フィールドの以前の値と現在の値は同一と見なされ、「統合イベントの作成」アクションによって統合イベントは作成されません。これは、追跡対象のフィールドの変更が検出されないためです。

統合イベントのピックリスト値形式について

統合イベントキューの設定状態に応じ、統合イベントの作成の原因になったアクションの実行ユーザーの言語、または言語独立コード (LIC) 値で、統合イベントのピックリストフィールドの値が記録されます。統合イベントキューのピックリスト値形式の指定の詳細は、「[統合イベントキューの作成](#) (ページ 725)」および「[統合イベント設定の管理](#) (ページ 726)」を参照してください。

取引先レコードおよび担当者の住所レコードにおける「請求」、「出荷」および「プライマリ」フラグについて

「取引先住所」レコードタイプの統合イベントでは、住所が取引先に指定された請求先住所または出荷先住所のいずれであることを示す「請求」および「出荷」フラグを含めることができます。同様に、「担当者の住所」レコードタイプの統合イベントでは、住所が担当者のプライマリ住所かどうかを示す「プライマリ」フラグを含めることができます。ただし、「請求」、「出荷」および「プライマリ」フラグに対する変更は追跡できません。これは、フラグについて「常に含む」チェックボックスを選択した場合でも、これらのフラグに対する変更を使用して統合イベントの作成をトリガーすることはできないことを意味します。これらのフラグのいずれかを統合イベントに含め、そのフラグが変更の追跡対象であるフィールドと同時に変更され

た場合、追跡対象のフィールドに対する変更の結果として作成された統合イベントには、フラグの新しい値は表示されません。かわりに、統合イベントには更新実行前のフラグの値が表示されます。ただし、追跡対象のフィールドに対する変更の結果として次回統合イベントが作成されたとき、統合イベントには前回更新実行後のフラグフィールドの値が含まれます。

たとえば、住所 A および住所 B という 2 つの住所が、Jane Smith という担当者にリンクしていると想定します。住所 A は Jane Smith のプライマリ住所です。次のように設定された [担当者の住所] レコードタイプに対するワークフローの [統合イベントの作成] アクションがあります。

■ [アドレスタイプ] フィールドについてのみ [変更を追跡] チェックボックスが選択されています。

■ [プライマリ] フィールドについて [常に含む] チェックボックスが選択されています。

ユーザーが Jane Smith の担当者の住所レコードから住所 A の [アドレスタイプ] フィールドを更新し、住所 A の [プライマリ] チェックボックスを選択解除した場合、[アドレスタイプ] フィールドに対する変更の結果としてワークフローアクションにより作成された統合イベントには新規住所タイプが表示されますが、統合イベントの [プライマリ] フラグの値は、住所 A が Jane Smith のプライマリ住所であることを引き続き示します。ただし、次回担当者の住所レコードから住所 A の [アドレスタイプ] フィールドが変更され、変更の結果として統合イベントが作成されたとき、統合イベントの [プライマリ] フラグは、住所 A が Jane Smith のプライマリ住所でないことを示します。

注：1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、[統合イベントの作成] アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。このトピックで説明する手順を実行するには、[ワークフロールールの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

[統合イベントの作成] アクションを作成するには

1 アクションを作成するルールに移動します。

a 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

b [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。

c [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。

リストページでワークフロールールを検索する方法については、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。

2 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

3 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[統合イベントの作成] を選択します。

注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント:アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。

5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。

6 統合イベントを書き込む統合キューを選択します。

- 7 ワークフロールールのレコードタイプで Web Services v1.0 と Web Services v2.0 の両方のスキーマがサポートされている場合、[スキーマバージョン] フィールドで、統合イベントで使用する Web サービスのバージョンを選択します。

ワークフロールールレコードタイプで Web Services v1.0 と Web Services v2.0 の両方のスキーマがサポートされている場合、[スキーマバージョン] フィールドでは、デフォルトで [Web Services v2.0] が選択されていますが、ワークフローアクションの保存前はこの選択を変更できます。

注: ワークフローアクションを作成して保存した後は、スキーマバージョンフィールドの値を変更できません。

ワークフロールールレコードタイプでサポートされているスキーマが 1 つのみの場合は、その Web サービスのバージョンがデフォルトで選択されます。Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

- 8 ワークフローアクションを保存します。
- 9 アクションのリストにあるレコードレベルメニューから、設定する統合イベントアクションに対して [設定] を選択します。

注: [設定] オプションは、トリガーイベントが [レコードのマージ時] のアクションには使用できません。

- 10 統合イベント追跡の設定ページで、フィールドに対するチェックボックスを必要に応じてオンにします。
- フィールドの値が変更されていない場合でもそのフィールドを統合イベントに含める場合は、[常に含む] チェックボックスをオンにします。
 - このフィールドが更新されるたびに統合イベントを生成する場合は、[変更を追跡] チェックボックスをオンにします。

- 11 変更を保存します。

次の表では、統合イベント追跡の設定ページのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
表示名	ユーザーインターフェイスに表示されるフィールドの名前。
統合タグ	このフィールドが統合イベントに含まれているときに使用する統合タグ。 統合タグは、[レコードタイプフィールド] ページの [統合タグ Web Services v2.0] カラムに表示されます。
必須	この読み取り専用チェックボックスは、フィールドが必須フィールドとして設定されているかどうかを示します。
常に含む	フィールドの値が変更されていない場合でもそのフィールドを統合イベントに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。 注: [常に含む] チェックボックスはデフォルトでオンになっており、Oracle CRM On Demand が使用する特定のフィールドに対してオフにすることはできません。
変更を追跡	このフィールドが更新されるたびに統合イベントを生成する場合は、このチェックボックスをオンにします。[変更を追跡] チェックボックスの詳細は、このトピックの「[変更を追跡] チェックボックスについて」を参照してください。

「変更を追跡」チェックボックスについて

ワークフロールールに対するトリガーイベントが「レコードが削除される前」、**「親との関連付けの後」**または**「親との関連付け解除の後」**である場合、「変更を追跡」チェックボックスは使用できません。また、ワークフロールールに対するトリガーイベントが**「親との関連付けの後」**または**「親との関連付け解除の後」**の場合、ページに表示されるフィールドのセットは、子レコードレベルのフィールドのセットとなります。統合イベントに含まれているフィールドセットは親レコードレベルでも設定できません。

「変更を追跡」チェックボックスが使用可能なワークフローアクションの場合、ワークフローアクションにより統合イベントが作成されるのは、「変更を追跡」チェックボックスが少なくとも 1 つのフィールドで選択されており、「変更を追跡」チェックボックスが選択されているフィールドのうち少なくとも 1 つにおいて変更が検出された場合のみです。統合イベントが作成されると、ワークフローアクションで「常に含む」チェックボックスが選択されているすべてのフィールドが統合イベントに含まれます。

統合イベントの詳細は、「[統合イベントについて](#) (ページ 724)」を参照してください。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)
- [統合イベントについて](#) (ページ 724)

ワークフローアクションの作成：タスクの作成

ワークフロールールの「タスクを作成」アクションでは、ワークフロールールの条件が満たされた場合にタスクが自動的に作成されます。

注：1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定について

「タスクを作成」アクションは「活動」レコードタイプに対して使用できるため、新しい活動レコードが保存されたり、既存の活動レコードが更新、削除、または復元されたときのフォローアップタスクを作成するためにワークフロールールを設定できます。活動レコード用に作成したフォローアップタスクは、「活動」レコードタイプに基づいた後続のワークフロールールをトリガーしません。詳細は、「[活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定例](#) (ページ 412)」を参照してください。

親レコードにリンクされているタスク

ワークフロールールが、子タスクをサポートするレコードタイプに基づいている場合は、そのルールの「タスクを作成」アクションでタスクが作成されると、ワークフロールールをトリガーしたレコードが、新しい子タスクレコードの親レコードになります。さらに、ワークフロールールアクションで作成された活動は、次のように、他の親レコードに自動的にリンクされます。

- 「タスクを作成」アクションで商談レコードの活動が作成されると、ワークフローアクションによって、その活動が商談の親取引先および商談レコード自体に自動的にリンクされます。
- 「タスクを作成」アクションでサービスリクエストレコードの活動が作成されると、ワークフローアクションによって、その活動がサービスリクエストの親取引先と担当者、さらにサービスリクエストレコード自体に自動的にリンクされます。

ワークフロールールが、子タスクをサポートしていないレコードタイプに基づいている場合は、そのルールの「タスクを作成」アクションでタスクが作成されると、そのタスクはいずれの親レコードにもリンクされません。

次の手順では、「タスクを作成」アクションの作成方法について説明します。

注：「タスクを作成」アクションを成功させるために、ワークフローをトリガーするアクションを実行するユーザーには、タスクを作成するための適切なアクセス権限が必要です。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「ワークフロールールの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

「タスクを作成」アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
 - b 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。
 - c 「ワークフロールールリスト」ページで、アクションを作成するルールを見つけます。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。
- 2 ルールの「ワークフロー名」リンクをクリックします。
- 3 「ワークフロールール詳細」ページの「アクション」タイトルバーで「メニュー」をクリックし、「タスクを作成」を選択します。

注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント:アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

- 4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。
- 5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。
- 6 次の表で説明するフィールドに入力し、アクションを保存します。

注:タスクの [所有者] フィールドで [レコード上の関連ユーザー] オプションを選択し、レコードの所有者が無効なユーザーである場合、タスクは作成されません。

フィールド	説明
所有者	タスクの所有者のタイプ（[レコード上の関連ユーザー] または [特定のユーザー]）を選択し、所有者を選択します。 ■ [レコード上の関連ユーザー] を選択する場合は、リストからユーザーを選択します。 チームの役割を所有者として選択した場合は、割り当てられたチームの役割を持つ各ユーザーに、ワークフロールールによりタスクが作成されます。 注: 取引先、担当者および商談では、レコードタイプに追加されたカスタムチームの役割はどれも、[レコード上の電子メールアドレス] 所有者のリストで選択できます。レコードのカスタマイズの詳細は、「レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ (ページ 90)」を参照してください。ワークフローアクションが [ユーザー] レコードタイプ用の場合に [所有者] フィールドで選択できるユーザーの詳細は、「ユーザーレコードタイプのワークフロールールを作成するときの考慮事項 (ページ 394)」を参照してください。 ■ [特定のユーザー] を選択する場合は、[ルックアップ] アイコンをクリックし、タスクの所有者を選択します。 注: レコード所有権モードが自動生成タスクの所有権に与える影響の詳細は、「レコード所有権モードおよび自動生成タスク (ページ 312)」を参照してください。
タイプ	ドロップダウンリストから活動タイプを選択します。
締切日	評価結果がタスクの締切日になる式を入力します。Expression Builder を使用して式を作成できます。フィールドの横にある [fx] アイコンをクリックすると、Expression Builder ウィンドウが開きます。式には、最大で 1024 文字を含めることができます。 注: ワークフローアクションが正常に動作するようにするには、[締切日] フィールドに、評価結果が有効な日付になる式を入力する必要があります。[締切日] フィールドに式以外（日付や整数など）を入力しないでください。 評価結果が現在の日付かそれ以前の日付になる式を入力すると、締切日

フィールド	説明
	はデフォルトで現在の日付になります。 締切日は、最大で 2400 日後に設定できます。式の評価結果が 2400 日後よりも先の日付になる場合、締切日は 2400 日後に設定されます。たとえば、式に「Today()+3000」と入力した場合、結果は「Today()+2400」として計算されます。 式の評価結果が無効な日付または他のデータ型（文字列、整数、ブールなど）になる場合、エラーが発生し、活動は作成されません。 Expression Builder の [構文のチェック] ボタンを使用して、式の構文をテストできます。ただし、Expression Builder では、式の評価結果が有効な日付になるかどうかは検証されません。 Oracle On Demand Expression Builder の使用方法については、「Expression Builder (ページ 766)」を参照してください。
優先順位	ドロップダウンリストから活動の優先順位を選択します。
状態	ドロップダウンリストから活動状態を選択します。
タスク通貨	通貨を選択します。
個人	このタスクの所有者だけにタスクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
主題	タスクの主題行を入力します。 テキストには、関数とフィールド名を埋め込むことができます。埋め込まれた関数またはフィールド名の前後にある 3 つのパーセント記号 (%%%) は、これが文字列に変換されることを示しています。 たとえば、テキストには次の内容を含めることができます。 %%[<ContactLastName>]%%の呼び出し 関数またはフィールド名をフィールドに直接入力した場合、その前後に 3 つのパーセント記号を入力する必要があります。Expression Builder を使用して関数またはフィールド名を埋め込んだ場合は、パーセント記号が自動的に追加されます。Expression Builder を使用して複雑な式を埋め込んだ場合は、パーセント記号が適切な位置に追加されないことがあります。その場合は、式全体の前後にパーセント記号が配置されて、式が正しく評価されるようにしてください。 たとえば、%%Today() + 30%%では現在の日付に 30 日が追加されますが、%%Today() %%%+ 30 では現在の日付の文字列表現に 30 がつなぎ合わされます。 Expression Builder を使用して機能とフィールド名をフィールドに埋め込むには、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックします。 静的テキストのみ入力する場合、Expression Builder を使用する必要はありません。 このフィールドには、式の前後のパーセント記号を含め、最大 1024 文

フィールド	説明
	字含めることができます。
説明	タスクの説明を入力します。 〔主題〕フィールドで説明したように、関数とフィールド名をテキストに埋め込むことができます。 このフィールドには、式の前後のパーセント記号を含め、最大 1024 文字含めることができます。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために〔フィールド〕リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず〔フィールド〕リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定例

このトピックでは、活動レコードが作成されたときにフォローアップタスクを作成するようにワークフロールールを設定する場合の例を示します。この機能の使用方法はビジネスモデルによって異なります。

ユーザーが新しい活動を作成するたびにフォローアップタスクが自動的に作成されるようにします。フォローアップタスクは次のように設定します。

- タスクはコールです。
- フォローアップタスクの締切日は、元のタスクの作成日から 2 日後です。
- フォローアップタスクの優先順位は、[1 - 高] に設定します。
- フォローアップタスクの所有者は、元の活動の所有者と同じです。

新しい活動のフォローアップタスクを作成するようにワークフローを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページのタイトルバーで、[新規] をクリックします。
- 4 [ワークフロールール詳細] ページの [キーワークフロールール詳細] セクションで、次のようにルール情報を入力します。
 - a [ワークフロー名] フィールドに、ワークフロールールの名前を入力します。
 - b [活動中] チェックボックスをオンにします。
 - c [レコードタイプ] フィールドで、[活動] を選択します。
 - d [トリガーイベント] フィールドで、[新規レコードが保存されたとき] を選択します。
- 5 ワークフロールールを保存します。
- 6 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで、[メニュー] をクリックし、[タスクを作成] を選択します。
- 7 [ワークフローアクション編集] ページで、次のようにアクション情報を入力します。
 - a [アクション名] フィールドに、アクションの名前を入力します。
 - b [有効] チェックボックスをオンにします。
 - c [所有者] フィールドで、[レコード上の電子メールアドレス]、[活動所有者] の順に選択します。
 - d [タイプ] フィールドで、[電話連絡] を選択します。
 - e [締切日] フィールドで、[fx] アイコンをクリックし、Expression Builder ウィンドウで [式] フィールドに次の式を入力し、式を保存します。
Today()+2
 - f [優先順位] フィールドで、[1 - 高] を選択します。
 - g [主題] フィールドに、タスクの主題行（「Follow-Up Call for New Activity」など）を入力します。
- 8 ワークフローアクションを保存します。

ワークフローアクションの作成：電子メールの送信

ワークフロールール of [メール送信] アクションでは、ワークフロールールの条件が満たされた場合に電子メールが自動的に生成されます。ワークフロールールをトリガーした操作が正常に完了すると、電子メールが自動的に送信されます。

注： 1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

ワークフローアクションで送信される電子メールの [差出人] アドレスについて

[メール送信] ワークフローアクションで送信する電子メールに [差出人] アドレスを指定するときは、次のいずれかのオプションを選択できます。

■ デフォルトの電子メールアドレス

このオプションを選択した場合、電子メールの [差出人] アドレスは、donotreply@crmondemand.com となり、電子メールの [送信者] フィールドは、support@crmondemand.com に設定されます。電子メール受信者が電子メールに回答しようとすると、返信の [宛先] フィールドは自動的に support@crmondemand.com に設定されます。

注： Oracle CRM On Demand のリリース 20 からは、[メール送信] ワークフローアクションで送信する電子メールのデフォルトの [差出人] アドレスは、donotreply@crmondemand.com となります。リリース 20 より前の Oracle CRM On Demand でのデフォルトの [差出人] アドレスは、support@crmondemand.com でした。

■ 現在のユーザー

このオプションを選択した場合、電子メールは、ワークフローをトリガーするサインインユーザーに代わって送信されます。電子メールの [差出人] アドレスは、donotreply@crmondemand.com となり、電子メールの [送信者] フィールドは、ユーザーの電子メールアドレスに設定されます。電子メール受信者が電子メールに回答すると、返信の [宛先] フィールドにあるアドレスは、ワークフロールールをトリガーするサインインユーザーの電子メールアドレスに自動的に設定されます。

■ 特定の電子メールアドレス

このオプションを選択した場合、電子メールは、ワークフローアクションで指定した電子メールアドレスに代わって送信されます。電子メールの [差出人] アドレスは、donotreply@crmondemand.com となり、電子メールの [送信者] フィールドは、指定した電子メールアドレスに設定されます。電子メール受信者が電子メールに回答すると、返信の [宛先] フィールドにあるアドレスは、ワークフローアクションで指定した特定の電子メールアドレスに自動的に設定されます。

注： Oracle の電子メール配信システムで電子メールを追跡できるように、Oracle CRM On Demand では電子メールごとに文字列が生成されます。以前のリリースの Oracle CRM On Demand では、追跡文字列が電子メールに表示されていました。リリース 24 以降、追跡文字列は電子メールに表示されなくなり、かわりに、電子メール受信者に表示されないヘッダーに格納されます。

[メール送信] ワークフローアクションでの件名行およびメッセージ本文テキストの翻訳について

[メール送信] アクションの作成後に、オプションで、そのワークフローアクションで生成される電子メールの件名行およびメッセージ本文テキストの翻訳版を入力するようアクションを編集できます。企業で有効な各言語の翻訳を入力できます。ある言語のために件名行およびメッセージ本文テキストの翻訳を入力しない場合は、代わりに、企業のデフォルト言語でのテキストが使用されます。

電子メールアクションの実行時は、Oracle CRM On Demand で、[メール送信] アクションの[宛先] フィールド内の値を使用して次のように電子メールの言語が決定されます。

- [宛先] フィールドで[特定のユーザー] または[レコード上の電子メールアドレス] が選択されている場合、電子メールの言語は電子メール受信者のユーザー言語となります。[宛先] フィールドで[レコード上の電子メールアドレス] が選択されており、その電子メールが複数のユーザーに送信される場合、各電子メールの言語はその電子メールの受信者のユーザー言語となります。
- [宛先] フィールドで[特定の電子メールアドレス] が選択されている場合は、Oracle CRM On Demand で、[メール送信] アクションの[差出人] フィールドの値を使用して次のように電子メールの言語が決定されます。
- [差出人] フィールドで[現在のユーザー] が選択されている場合、電子メールの言語は現在のユーザー（つまり、そのワークフローをトリガーしたサインインユーザー）のユーザー言語となります。
- [差出人] フィールドで[デフォルトの電子メールアドレス] または[特定の電子メールアドレス] が選択されている場合、電子メールの言語は企業のデフォルト言語となります。

【メール送信】アクションが更新された場合

企業のデフォルト言語での件名行テキストまたはメッセージ本文テキスト、あるいはそれら両方を変更するときには、[翻訳] チェックボックスを使用して、次のように他言語での動作を決定できます。

- [翻訳] チェックボックスを選択しない場合は、次のようになります。
- 翻訳が入力されたことがない言語については、件名行およびメッセージ本文テキストは、企業のデフォルト言語用に指定されている更新済みテキストに自動的に置き換えられます。
- 既存の翻訳版の件名行およびメッセージ本文テキストは、変更されずに残ります。
- [翻訳] チェックボックスを選択した場合は、変更内容を保存すると、他のすべての言語の件名行およびメッセージ本文テキストが、企業のデフォルト言語用に指定されている件名行およびメッセージ本文テキストで上書きされます。他の言語用には、翻訳版を入力するまで、そのテキストは括弧で囲まれ、青いフォントで表示されます。

注：[メール送信] アクションに関するフィールドを更新する際に[翻訳] チェックボックスを選択した場合は、変更内容を保存すると、企業のデフォルト言語用の件名行またはメッセージ本文テキストを更新していない場合でも、すべての言語の件名行およびメッセージ本文テキストが、企業のデフォルト言語用に指定されている件名行およびメッセージ本文テキストで上書きされます。

【翻訳】チェックボックスについて

[翻訳] チェックボックスは、既存の[メール送信] ワークフローアクションを編集する際に、[翻訳言語] フィールドで企業のデフォルト言語が選択されている場合のみ有効となります。新しい[メール送信] ワークフローアクションの作成時は、[翻訳] チェックボックスはオフになっており、読み取り専用となります。また、ワークフローアクションを編集するときに[翻訳言語] フィールドで企業のデフォルト言語以外の言語を選択した場合、[翻訳] チェックボックスは読み取り専用となります。

次の手順では、[メール送信] アクションの作成方法について説明します。

注：Oracle CRM On Demand のワークフロー機能は、電子メールを一括して送信するためのツールとして使用することを意図していません。多数の電子メールを顧客に送信する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Marketing などの製品を使用することをお勧めします。

作業前の準備。次の手順を実行するには、[ワークフロールール管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

[メール送信] アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - b [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
 - c [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 2 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。
- 3 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[メール送信] を選択します。

注: ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント: アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。
- 4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。
- 5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。
- 6 [差出人] フィールドで、次のように、電子メールの送信元のアドレスを選択または入力します。
 - 電子メールをデフォルトのアドレスから送信するには、[デフォルトの電子メールアドレス] オプションを選択します。
 - ワークフローをトリガーするサインインユーザーの代わって電子メールを送信するには、[現在のユーザー] オプションを選択します。
 - 特定のアドレスに代わって電子メールを送信するには、[特定の電子メールアドレス] オプションを選択します。
アドレスを入力するときは、次の制限が適用されます。
 - 電子メールアドレスは、直接入力するか、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、Expression Builder を使用して電子メールアドレスを定義できます。
 - 電子メールアドレスを 1 つのみ指定します。[差出人] フィールドでは、複数のアドレスはサポートされません。
 - 絶対電子メールアドレスを指定する場合は、一重引用符または二重引用符でアドレスを囲む必要があります。
 - Expression Builder でチェックされるのは、アドレスの式の構文のみです。アドレスが有効かどうかはチェックされません。
 - このフィールドには、1024 文字まで入力できます。
- 7 [宛先] フィールドで、次のようにして電子メール受信者の電子メールアドレスを選択または入力します。
 - [特定のユーザー] または [レコード上の関連ユーザー] を選択し、次のようにして受信者を選択します。
 - [特定のユーザー] を選択する場合は、[ルックアップ] アイコンをクリックし、ユーザーを選択します。

- [レコード上の関連ユーザー] を選択する場合は、リストから受信者を選択します。

チームの役割を受信者として選択した場合は、割り当てられたチームの役割を持つ各ユーザーにワークフロールールからメールが送信されます。

注:取引先、担当者および商談では、レコードタイプに追加されたカスタムの役割はどれも、[レコード上の電子メールアドレス] 受信者のリストで選択できます。レコードのカスタマイズの詳細は、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ \(ページ 90\)](#)」を参照してください。ワークフローアクションが [ユーザー] レコードタイプ用の場合に電子メールを送信できる受信者の詳細は、「[ユーザーレコードタイプのワークフロールールを作成するときの考慮事項 \(ページ 394\)](#)」を参照してください。

- [特定の電子メールアドレス] オプションを選択し、アドレスを指定します。

アドレスを入力するときは、次の制限が適用されます。

- 電子メールアドレスは、直接入力するか、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、Expression Builder を使用して電子メールアドレスを定義できます。
- 複数のアドレスを入力するには、セミコロン (;) 区切りを使用します。
- 絶対電子メールアドレスは、一重または二重引用符で囲む必要があります。
- Expression Builder でチェックされるのは、アドレスの式の構文のみです。アドレスが有効かどうかはチェックされません。
- このフィールドには、1024 文字まで入力できます。

次の例に、複数アドレスのエントリを示します。

```
PRE('<EmailField1>') + ';' + [<EmailField1>] + ';' + "john.doe@company.com"
```

注: [ユーザー] レコードタイプの [メール送信] ワークフローアクションを作成する場合、[宛先] フィールドで [特定の電子メールアドレス] オプションを使用できません。 [特定のユーザー] および [レコード上の電子メールアドレス] オプションのみが使用可能です。

8 電子メールの件名行を入力します。

テキストには、関数とフィールド名を埋め込むことができます。埋め込まれた関数またはフィールド名の前後にある 3 つのパーセント記号 (%%%) は、テキスト値に変換されることを示しています。

たとえば、テキストには次の内容を含めることができます。

新しい%%[<AccountType>]%%取引先が作成されました

関数またはフィールド名をフィールドに直接入力した場合、その前後に 3 つのパーセント記号を入力する必要があります。Expression Builder を使用して関数またはフィールド名を埋め込んだ場合は、パーセント記号が自動的に追加されます。Expression Builder を使用して複雑な式を埋め込んだ場合は、パーセント記号が適切な位置に追加されないことがあります。その場合は、式全体の前後にパーセント記号が配置されて、式が正しく評価されるようにしてください。

たとえば、%%Today() + 30%%では現在の日付に 30 日が追加されますが、%%Today() %%+ 30 では現在の日付の文字列表現に 30 がつなぎ合わされます。

Expression Builder を使用して機能とフィールド名をフィールドに埋め込むには、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックします。静的テキストのみ入力する場合、Expression Builder を使用する必要はありません。

このフィールドには、関数とフィールド名の前後のパーセント記号を含め、最大 1024 文字含めることができます。

9 [電子メール形式] フィールドで、電子メールメッセージに使用する形式を選択します。

[プレーンテキスト]または[HTML]をメッセージ形式として選択できます。

10 電子メールのメッセージを入力します。

手順 8 で説明したように、関数とフィールド名をテキストに埋め込むことができます。

たとえば、テキストには次の内容を含めることができます。

%%[<ContactLastName>]%%様

このフィールドには、式の前後のパーセント記号を含め、最大 2000 文字含めることができます。

HTML コードをメッセージに使用する際の考慮事項およびサポートされている要素と属性のリストについては、「[ワークフロー電子メールメッセージの HTML コード](#) (ページ 419)」を参照してください。

11 アクションを保存します。

次の手順では、電子メールにおいて件名行およびメッセージ本文テキストの翻訳版を入力する方法を説明します。

注: ある言語のために件名行およびメッセージ本文テキストの翻訳を入力しない場合は、代わりに、企業のデフォルト言語でのテキストが使用されます。既存の「メール送信」アクションでの企業のデフォルト言語の件名行テキストまたはメッセージ本文テキスト、あるいはそれら両方を後で変更した場合は、「翻訳」チェックボックスが選択されていないと、更新内容が、翻訳が入力されたことがない言語の件名行およびメッセージ本文テキストにも適用されます。

電子メールの件名行およびメッセージ本文テキストの翻訳版を入力する手順は、次のとおりです。

- 1 「ワークフロールール詳細」ページで、翻訳を入力する必要がある「メール送信」ワークフローアクションの「編集」リンクをクリックします。
- 2 「ワークフローアクション編集」ページの「翻訳言語」フィールドで、翻訳を入力する言語を選択します。
- 3 「件名」フィールドに、電子メールの件名行の翻訳版を入力します。
テキストには、関数とフィールド名を埋め込むことができます。
- 4 「メッセージ本文」フィールドに、メッセージテキストの翻訳版を入力します。
テキストには、関数とフィールド名を埋め込むことができます。
- 5 変更を保存します。
- 6 翻訳を入力する必要がある各言語に、この手順を繰り返します。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために「フィールド」リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず「フィールド」リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)

- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフロー電子メールメッセージの HTML コード

ワークフロー[メール送信]アクションの電子メールの[メッセージ]フィールドで HTML コードを使用する際には、次の点に注意してください。

- ワークフローアクションを保存する際に、余分な改行およびスペースが電子メールメッセージに追加される場合があります。これらの余分な行およびスペースは、受信者に送信される電子メールには表示されません。
- HTML 電子メールメッセージ内の式の評価結果が HTML タグを含む文字列になる場合は、Oracle CRM On Demand で電子メールが送信される際に、受信者の電子メールアプリケーションで HTML コードではなくテキストとして扱われるようにタグがエンコードされます。

たとえば、[説明]フィールドの値を返す式 `%%%[{Description}]%%%` が電子メールメッセージに含まれており、次の HTML コードが[説明]フィールドに含まれているとします。

```
<b>これは説明です</b>
```

この場合、式が評価されるときに、フィールドの値の一部として返されるタグは HTML コードとして解釈されません。かわりに、電子メールメッセージに表示される[説明]フィールドの値は、`<b>および</b>` タグを含めて、Oracle CRM On Demand の[説明]フィールドとまったく同じように表示されます。

- 受信者の電子メールアプリケーションが HTML をサポートしていない場合は、電子メールアプリケーションがその受信者に対する HTML メッセージの表示方法を決定します。
- Oracle CRM On Demand では、HTML5 でサポートされている要素のサブセットが HTML 電子メールメッセージに対してサポートされています。ワークフロー電子メールメッセージでの使用を Oracle CRM On Demand がサポートしていない HTML 要素を使用すると、ワークフローアクションを保存する際に、サポートされていない要素のタグが電子メールメッセージから削除されます。エラーメッセージは表示されません。特定の要素の場合は、要素のコンテンツもメッセージから削除されます。

このトピックの残りの部分では、サポートされる要素とサポートされない要素の詳細を説明します。

サポートされる要素および属性

次の表は、ワークフロー電子メールメッセージでの使用が Oracle CRM On Demand でサポートされる要素および要素に対してサポートされる属性を示しています。style 属性で利用できるプロパティの詳細は、このトピックの「style 属性に対してサポートされるプロパティ」セクションを参照してください。

サポートされる要素	サポートされる属性
<a>	- href - rel - style
<abbr>	- style - title
<address>	style
	style
<bdo>	- dir - style
<blockquote>	style
 	style
<caption>	style
<cite>	style
<code>	style
<col>	- align - span - style - valign - width
<colgroup>	- align - span - style - valign - width
<dd>	style
<del>	style
<dfn>	style

サポートされる要素	サポートされる属性
<div>	- align - style
<dl>	style
<dt>	style
	style
<fieldset>	style
<h1>	style
<h2>	style
<h3>	style
<h4>	style
<h5>	style
<h6>	style
<hr>	- align - size - style - width
<i>	style
	- align - alt - border - height - hspace - src - style - vspace - width
<ins>	style
<legend>	style
	style
	style

サポートされる要素	サポートされる属性
<p>	- align - style
<pre>	style
<q>	style
<s>	style
<samp>	style
<small>	style
	style
	style
<sub>	style
<sup>	style
<table>	- align - bgcolor - border - cellpadding - cellspacing - height - style - width
<tbody>	style
<td>	- abbr - align - bgcolor - colspan - height - rowspan - style - width
<tfoot>	style

サポートされる要素	サポートされる属性
<th>	- abbr - align - bgcolor - colspan - height - rowspan - style - width
<thead>	style
<tr>	- align - height - style - valign - width
<u>	style
	style
<var>	style

HTML5 に関する詳細は、World Wide Consortium (W3C) Web サイトの HTML5 仕様 <https://www.w3.org/TR/html5/> を参照してください。

style 属性に対してサポートされるプロパティ

style 属性では、次のカスケーディングスタイルシート(CSS)のプロパティの使用がサポートされており、ワークフロー電子メールのメッセージでの使用がサポートされるすべての要素で使用できます。

- color
- font-family
- font-size
- font-style
- list-style-position
- list-style-type
- text-align

style 属性での使用が Oracle CRM On Demand でサポートされないプロパティを使用すると、ワークフローアクションを保存するときに、サポートされないプロパティが style 属性から削除されます。

サポートされない要素

ワークフロー電子メールメッセージでの使用を Oracle CRM On Demand がサポートしていない HTML 要素を使用すると、ワークフローアクションを保存する際に、サポートされていない要素のタグが電子メールメッセージから削除されます。エラーメッセージは表示されません。次の要素の場合以外は、要素のコンテンツはメッセージに保持されます。次の要素については、要素のタグとコンテンツの両方がセキュリティ上の理由により削除されます。

- <applet>
- <area>
- <base>
- <basefont>
- <big>
- <button>
- <center>
-
- <form>
- <frame>
- <frameset>
- <iframe>
- <input>
- <isindex>
- <label>
- <link>
- <map>
- <menu>
- <noframes>
- <noscript>
- <object>
- <optgroup>
- <option>
- <param>
- <script>
- <select>
- <strike>
- <style>
- <textarea>

■ <tt>

HTML メッセージの例

次の例では、ワークフロー電子メールで Oracle CRM On Demand が HTML メッセージを処理する方法を示します。この例では、優先度の高い商談が作成されると、ワークフローアクションによりチームメンバーに電子メールが送信されます。

[メール送信]ワークフローアクションの[メッセージ]フィールドに次のようなメッセージが入力されたとします。

```
<html>
<body>
<pre>
<b>チームの皆さん</b>
<big>グッドニュースです。</big>
%%%[{Created By Full Name}]%%%が作成した<i>%%%[{Name}]%%%</i>という商談は、<b>ポテンシャル
が高い</b>商談のようです。<b>次の四半期に追加できるよう、優先ターゲットとして対応してください。</b>
よろしく願いいたします。
David
</pre>
</body>
</html>
```

注: <pre>要素でメッセージコンテンツを囲まない場合は、
タグで各改行を指定する必要があります。

入力された電子メールメッセージには、サポートされない<html>、<body>および<big>要素のインスタンスが含まれています。ワークフローアクションを保存すると、<html>および<body>要素のタグは削除されますが、これらの要素のコンテンツは保持されます。<big>要素の場合、要素のタグとコンテンツの両方が削除されます。そのため、保存されたワークフローアクションのメッセージは次のように表示されます。

```
<pre>
<b>チームの皆さん</b>
%%%[{Created By Full Name}]%%%が作成した<i>%%%[{Name}]%%%</i>という商談は、<b>ポテンシャル
が高い</b>商談のようです。<b>次の四半期に追加できるよう、優先ターゲットとして対応してください。</b>
よろしく願いいたします。
David
</pre>
```

電子メールが送信されると、HTML がサポートされる電子メールアプリケーションではメッセージが次のように表示されます。

チームの皆さん

Amanda Jacobsen が作成した *Auto Manufacturer* という商談は、**ポテンシャルが高い**商談のようです。**次の四半期に追加**できるよう、**優先ターゲットとして対応してください。**

よろしく願いいたします。

David

ワークフローアクションの作成：値の更新

ワークフロールール of 「値を更新」アクションでは、レコードの変更時に、元の変更に関する情報（レコードの変更日時、変更したユーザー、変更内容）を保持したまま自動的にフィールドが更新されます。このアクションは、ワークフロールール of 「値を更新」アクションより前にある 1 つ以上の「待機」アクションに定義されている待機期間（ある場合）の終了後に実行されます。

ワークフロールールに対するトリガーイベントが「更新されたレコードが保存される前に」でないかぎり、ワークフロールールでは、有効な「待機」アクションが「値を更新」アクションより前に少なくとも 1 つ存在している必要があります。トリガーイベントが「更新されたレコードが保存される前に」のワークフロールールを除いて、Oracle CRM On Demand を使用して「値を更新」アクションを有効化できるのは、そのアクションの前に少なくとも 1 つの有効な「待機」アクションがワークフロールールにある場合のみです。ワークフロールールに多数の「値を更新」アクションがある場合は、「値を更新」アクションごとに「待機」アクションを設定する必要はありません。ルールのすべての「値を更新」アクションの前に 1 つの「待機」アクションを設定すれば十分です。

注：1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、「値を更新」アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「ワークフロールール of 管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#)（ページ 272）」を参照してください。

「値を更新」アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
 - b 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。
 - c 「ワークフロールールリスト」ページで、アクションを作成するルールを見つけます。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。
- 2 ルールの「ワークフロー名」リンクをクリックします。
- 3 「ワークフロールール詳細」ページの「アクション」タイトルバーで「メニュー」をクリックし、「値を更新」を選択します。
注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。
ヒント:アクションの「コピー」リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。
- 4 「ワークフローアクション編集」ページで、アクションの名前を入力します。
- 5 アクションを有効にするには、「有効」チェックボックスをオンにします。

6 次の表で説明するフィールドに入力し、アクションを保存します。

426 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

フィールド	説明
フィールド名	ドロップダウンリストから更新するフィールド名を選択します。 注意: 更新できる一連のフィールドはワークフロールールのレコードタイプによって決まります。また、フィールドがフィールド設定レベルで読取り専用指定されている場合は、[値を更新] アクションでそのフィールドを更新することはできません。一部のレコードタイプでは、更新できる一連のフィールドの一部のカスタムオブジェクトフィールドが含まれます。[カスタムオブジェクト 1]、[カスタムオブジェクト 02] および [カスタムオブジェクト 03] フィールド、およびそれに対応する ID フィールドは多くのレコードタイプで更新できます。[商談] レコードタイプの場合は、[カスタムオブジェクト 05] および [カスタムオブジェクト 06] フィールド、およびそれに対応する ID フィールドも更新できます。
値	フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、フィールドの新しい値を計算する式を定義します。Expression Builder の [構文のチェック] ボタンで構文をテストできます。 このフィールドには、1024 文字まで入力できます。 [マージン] が [売上] から [費用] を引いた値と等しいカスタムの [マージン] フィールドなど、フィールドの計算式を定義する場合は、[売上] フィールドや [費用] フィールドの値が変更されていなくても、ワークフロールールがトリガーされるたびにフィールドの値が計算されます。パフォーマンスを向上させるには、ワークフロールールに次のような追加条件を定義します。 <pre>FieldValue('<売上>') <> PRE('<売上>') OR FieldValue('<費用>') <> PRE('<費用>')</pre> PRE 関数は、更新前のフィールドの値を返します。
既存値を上書き	フィールドの既存値を新しい値で置き換える場合、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにしないかぎり、フィールドの既存値は更新されません。 フィールドが空の場合は、このチェックボックスがオフの場合でもフィールドは新しい値で更新されます。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフローアクションの作成：待機

待機アクションを使用すると、Oracle CRM On Demand では、待機期間が経過するまで、ワークフロールールの他の（後続の）アクションの実行が延期されます。待機期間は、期間として指定することも、待機期間の終了日時を指定することもできます。また、待機期間を直接入力することも、待機期間を計算する式を作成することもできます。

注：待機期間には、Oracle CRM On Demand がワークフロールールの他のアクションの実行を開始する前に経過する必要がある最小時間を指定します。Oracle CRM On Demand データベースおよび Oracle CRM On Demand サーバーの負荷、および待機期間終了時の保留中待機アクションの数によっては、他のアクションが実行されるまでに経過する実際の時間がさらに長くなる場合があります。

【待機】アクションおよび【統合イベントの作成】アクションについて

【統合イベントの作成】アクションを使用して、ワークフロールールをトリガーするイベントによってレコードに加えられた変更を取得する統合イベントを作成する場合は、ワークフロールールのアクションの順序として、【待機】アクションの前に【統合イベントの作成】アクションを設定する必要があります。ワークフロールールで【統合イベントの作成】アクションの前に【待機】アクションを実行すると、【統合イベントの作成】アクションでレコードに対する変更が検出されなくなります。【待機】アクションの待機期間が終了すると、ルールの残りのアクションが実行される前にレコードが再び読み取られ、ワークフロールールをトリガーしたイベントの前にレコードに記録されたフィールド値は保持されません。したがって、フィールドの以前の値と現在の値は同一と見なされ、【統合イベントの作成】アクションによって統合イベントは作成されません。これは、追跡対象のフィールドの変更が検出されないためです。

注：1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、【待機】アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。次の手順を実行するには、【ワークフロールールの管理】権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

【待機】アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある【管理】グローバルリンクをクリックします。
 - b 【ビジネスプロセス管理】セクションで、【ワークフロー設定】をクリックします。
 - c 【ワークフロールールリスト】ページで、アクションを作成するルールを見つけます。

リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

- 2 ルールの「ワークフロー名」リンクをクリックします。
- 3 「ワークフロールール詳細」ページの「アクション」タイトルバーで「メニュー」をクリックし、「待機」を選択します。

注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント：アクションの「コピー」リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

- 4 「ワークフローアクション編集」ページで、アクションの名前を入力します。
- 5 アクションを有効にするには、「有効」チェックボックスをオンにします。
- 6 待機期間の終了後に Oracle CRM On Demand でルール条件を再評価しない場合は、「待機後のルール条件を再評価します」チェックボックスをオフにします。

注：「待機後のルール条件を再評価します」チェックボックスの詳細は、「[時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)」を参照してください。

- 7 次のいずれかのオプションを使用して、待機の期間を指定します。

- 「期間」オプションを選択し、遅延する期間を年、月、日、時間および分で次のように入力します。

- 「年」フィールドに、0 から 5 の正の整数値を入力します。
- 「月」フィールドに、0 から 12 の正の整数値を入力します。
- 「日」フィールドに、0 から 200 の正の整数値を入力します。
- 「時間」フィールドに、0 から 200 の正の整数値を入力します。
- 「分」フィールドに、0 から 59 の正の整数値を入力します。

負の値または 1.5 のような整数以外の値は指定できません。

- 「期間式」オプションを選択し、フィールドの横の「fx」アイコンをクリックし、「式ビルダー」を使用して遅延期間を計算する式を作成します。

「式ビルダー」の Duration 関数を使用して、日数または日数の割合で期間を計算します。詳細は、「[期間](#) (ページ 782)」を参照してください。

式は数値に評価される必要があります。次に、遅延の期間を計算する有効な式の例を示します。

`Duration('P0YT1H') + Duration('P0YT1M') + Duration('P1Y')`

`Duration('P0YT1H') + 1`

`Duration('P1YT1H') - 1`

サポートされる最大の期間は 'P5Y12M200DT200H59M' (5 年 12 か月 200 日 200 時間 59 分) です。

注：計算された待機期間が負の場合、待機期間はゼロに設定され、「待機」アクションが即座に終了します。ワークフロールールの残りのアクションは遅延なしで実行されます。

- 「時間」オプションを選択し、カレンダーアイコンをクリックして、遅延の終了日時を選択します。

個人設定で指定されているタイムゾーンに従って時間を選択します。

- [時間式] オプションを選択し、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、[式ビルダー] を使用して遅延の終了日時を計算する式を作成します。

[式ビルダー] の Duration 関数を使用して、日数または日数の割合で期間を計算します。詳細は、「[期間](#) (ページ 782)」を参照してください。

式は日時に評価される必要があります。次に、遅延の終了日時を計算する有効な式の例を示します。

`Timestamp() + Duration('P0YT5M')`

`Today() + Duration('P0YT1H5M')`

注：計算された終了日時をすでに経過している場合、アクションの待機期間は 0（ゼロ）に設定され、[待機] アクションが即座に終了します。ワークフロールールに残りのアクションは遅延なしで実行されます。

式が有効な日時に評価されない場合は、[待機] アクションが即座に終了し、ワークフロールールに残りのアクションは遅延なしで実行されます。

トリガー日時後に式の評価が 5 年 12 か月 200 日 200 時間 59 分（サポートされる最大の待機期間）を超える場合、終了日時は、トリガー日時にサポートされる最大待機期間を加算した値として計算されます。

8 アクションを保存します。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフロールールアクションの順序の変更

ワークフロールールに複数のアクションを指定した場合、アクション 1 から指定の順序でアクションが実行されます。アクションが完了するまで、次のアクションは実行されません。ルールのアクションの順序は変更できます。

ワークフロールールアクションの順序を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。
- 3 「ワークフロールールリスト」ページで、アクションの順序を変更するルールを検索します。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 ルールの「ワークフロー名」リンクをクリックします。
- 5 「ワークフロールール詳細」ページの「アクション」タイトルバーで「順序を編集」ボタンをクリックします。
- 6 「アクション順序を編集」ページでは、矢印アイコンをクリックして次のことを行います。
 - リスト内でアクションを上下に移動します。
 - アクションリストの最上部または最下部にアクションを移動します。

注：ルールに「値を更新」アクションがある場合は、ワークフロールールに対するトリガーイベントが「更新されたレコードが保存される前に」でないかぎり、そのアクションより前に有効な「待機」アクションが少なくとも1つ存在している必要があります。
- 7 「保存」をクリックして変更を保存します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) (ページ 403)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) (ページ 405)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) (ページ 408)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) (ページ 414)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) (ページ 426)
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) (ページ 428)

ワークフロールールの順序の変更

ワークフロールールを作成すると、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプと同じトリガーイベントに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。ワークフロールールに対するトリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」の場合は、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプ、同じトリガーイベント、および同じ親レコードタイプに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当て

られます。順序番号により、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいた一連のワークフロールールを Oracle CRM On Demand が呼び出す順序が決まります。ルールの順序は変更できません。

たとえば、[取引先] レコードタイプと [レコードが削除される前] というトリガーイベントに基づいてワークフロールールを作成するときに、2 つのワークフロールールに同じレコードタイプとトリガーイベントがすでに指定されている場合、新しいルールにはオーダー番号 3 が割り当てられます。新しいルールが指定されたレコードタイプとトリガーイベントで最初に呼び出されるルールになるように、後でオーダー番号を変更できます。

次の手順では、ワークフロールールの順序を変更する方法について説明します。

ワークフロールールの順序を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページで、順序を変更するルールを検索し、ルール名のリンクをクリックします。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 [ワークフロールール詳細] ページで、[順序を編集] をクリックします。
- 5 [ワークフローシーケンスを編集] ページでは、矢印アイコンをクリックして次のことを行います。
 - リスト内でワークフロールールを上下に移動します。
 - ルールリストの最上部または最下部にワークフロールールを移動します。
- 6 [保存] をクリックして変更を保存します。

注:ワークフロールールを削除すると、同じレコードタイプとトリガーイベントに基づいている他のルールは自動的に再編成されます。ただし、ワークフロールールを非アクティブにすると、同じレコードタイプとトリガーイベントに基づいたルールリスト内の順序は変更されませんが、非アクティブになったルールは呼び出されません。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)

ワークフロールールとアクションの無効化

ルールの〔待機〕アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールを非アクティブにした場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールに残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

〔待機〕アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールの〔待機〕アクションを非アクティブにした場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールに残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

次の手順では、ワークフロールールを非アクティブにする方法について説明します。

ワークフロールールを非アクティブにするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔ビジネスプロセス管理〕セクションで、〔ワークフロー設定〕をクリックします。
- 3 〔ワークフロールールリスト〕ページで、非アクティブにするルールを見つけます。
〔リスト〕ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 ルールのレコードレベルメニューで、〔編集〕を選択します。
- 5 〔ワークフロールール詳細〕ページで、〔有効〕チェックボックスをオフにします。
- 6 変更を保存します。

次の手順では、ワークフロールールアクションを非アクティブにする方法について説明します。

ワークフロールールアクションを非アクティブにするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔ビジネスプロセス管理〕セクションで、〔ワークフロー設定〕をクリックします。
- 3 〔ワークフロールールリスト〕ページで、アクションを削除するルールを見つけます。
〔リスト〕ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 ルールの〔ワークフロー名〕リンクをクリックします。
- 5 〔ワークフロールール詳細〕ページの〔アクション〕セクションで、削除するアクションを見つけます。
- 6 アクションのレコードレベルメニューで、〔編集〕を選択します。
- 7 〔ワークフローアクション編集〕ページで、〔有効〕チェックボックスをオフにします。

注：ルールに〔値を更新〕アクションがある場合は、ワークフロールールに対するトリガーイベントが〔更新されたレコードが保存される前に〕でないかぎり、そのアクションより前に有効な〔待機〕アクションが少なくとも1つ存

している必要があります。Oracle CRM On Demand では、[待機] アクションを非アクティブにしようとしたときに、[値を更新] アクションより前に別の [待機] アクションがない場合は、その [待機] アクションを非アクティブにできません。

8 変更を保存します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールの順序の変更](#) (ページ 431)
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) (ページ 434)

ワークフロールールとアクションの削除

ワークフロールールを削除すると、ルールのすべてのアクションも削除されます。また、関連するレコードタイプに対する残りのルールの順序番号が必要に応じて自動的に更新され、番号のシーケンスにギャップがなくなります。

ルールの [待機] アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールを削除した場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

ワークフロールールからアクションを削除すると、ルールの残りのアクションの順序番号が必要に応じて自動的に更新され、番号のシーケンスにギャップがなくなります。

[待機] アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールから [待機] アクションを削除した場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

次の手順では、ワークフロールールを削除する方法について説明します。

ワークフロールールを削除するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページで、削除するルールを見つけます。
[リスト] ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

4 ルールのレコードレベルメニューで、[削除] を選択します。

5 ルールを削除することを確認します。

次の手順では、ワークフロールールアクションを削除する方法について説明します。

ワークフロールールアクションを削除するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。

3 [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを削除するルールを見つけます。

[リスト] ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

4 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

5 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] セクションで、削除するアクションを見つけます。

6 アクションのレコードレベルメニューで、[削除] を選択します。

注： [値を更新] アクションがルールにある場合は、ワークフロールールに対するトリガーイベントが [更新されたレコードが保存される前に] でないかぎり、そのアクションより前に有効な [待機] アクションが少なくとも 1 つ存在する必要があります。 Oracle CRM On Demand では、[待機] アクションを削除しようとしたときに、[値を更新] アクションより前に別の [待機] アクションがない場合は、その [待機] アクションを削除できません。

7 アクションを削除することを確認します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) (ページ 380)
- [ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) (ページ 392)
- [ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) (ページ 430)
- [ワークフロールールの順序の変更](#) (ページ 431)
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) (ページ 433)

ワークフローモニター

ワークフローモニターから、次の内容に関する情報を表示できます。

- イベント後ワークフローアクションの失敗したインスタンス。詳細は、「[ワークフローエラーモニター](#) (ページ 436)」を参照してください。
- 待機アクションの保留インスタンス。詳細は、「[ワークフロー待機モニター](#) (ページ 440)」を参照してください。

ワークフローエラーモニター

イベント後ワークフローアクションのインスタンスが失敗すると、失敗に関する情報が「ワークフローエラーモニター」に記録されます。イベント後ワークフローアクションは、ワークフロールールをトリガーしたイベントが正常に完了した後に発生するワークフローアクションです。ワークフロールールに次のトリガーイベントのいずれかがある場合、そのワークフロールールに対するすべてのワークフローアクションはイベント後ワークフローアクションです。

- 親との関連付けの後
- 親との関連付け解除の後
- 更新されたレコードが保存されたとき
- 新規レコードが保存されたとき
- レコードの復元時
- レコードのマージ時

「ワークフローエラーモニター」で提供される情報を使用すると、イベント後ワークフローアクションのインスタンスが失敗した理由を理解するのに役立ちます。必要に応じて、「ワークフローエラーモニター」からワークフロールールの詳細にアクセスして、ワークフローアクションの設定でエラーを修正できます。イベント後ワークフローアクションの失敗したインスタンスの詳細は、30 日が経過するか削除するまで（どちらか早い方）、「ワークフローエラーモニター」に保持されます。

トリガーイベントが次のいずれかであるワークフロールールに対するワークフローアクションの場合は、「ワークフローエラーモニター」にその失敗したインスタンスに関する情報が表示されません。

- 更新されたレコードが保存される前に
- レコードが削除される前

これらのワークフロールールに対するワークフローアクションは、ルールをトリガーするイベントが完了する前に発生するように設定されています。このようなワークフローアクションのインスタンスが失敗した場合は、失敗が次のように報告されます。

- ワークフロールールがユーザーインタラクションによってトリガーされた場合は、ワークフローアクションの失敗がそのワークフロールールをトリガーしたアクションを実行したユーザーに報告されます。失敗はエラーメッセージとして表示されるか、ログファイルに報告されます。
- ワークフロールールが Web サービスによってトリガーされた場合は、ワークフローアクションの失敗がその Web サービスに対する応答で報告されます。

注: ワークフローアクションの失敗によって、ワークフロールールをトリガーしたアクションが正常に完了することを妨げることはありません。

「ワークフローエラーモニター」の使用の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [「ワークフローエラーモニター」でのエラーインスタンスの表示](#) (ページ 437)
- [「ワークフローエラーモニター」からのエラーインスタンスの削除](#) (ページ 438)
- [ワークフローエラーインスタンスのフィールド](#) (ページ 439)

【ワークフローエラーモニター】でのエラーインスタンスの表示

次の手順では、【ワークフローエラーモニター】でエラーインスタンスを表示する方法について説明します。【ワークフローエラーモニター】に記録および表示される内容については、「[ワークフローエラーモニター](#) (ページ 436)」および「[ワークフローエラーインスタンスのフィールド](#) (ページ 439)」を参照してください。

作業前の準備: ワークフローモニターを使用するには、ユーザーの役割に「データルールの管理 - ワークフロールールの管理」権限が含まれている必要があります。

【ワークフローエラーモニター】でエラーインスタンスを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある【管理】グローバルリンクをクリックします。
- 2 【ビジネスプロセス管理】セクションで、【ワークフローモニター】をクリックします。
- 3 【ワークフローモニター】ページで、【ワークフローエラーモニター】をクリックします。
- 4 【エラーインスタンスリスト】ページで、目的のインスタンスを見つけます。
ヒント: リストのフィルター処理の詳細は、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。
- 5 インスタンスの詳細を表示するには、【インスタンス ID】リンクをクリックします。
- 6 レコードがインスタンスであるワークフローアクションの詳細を表示するには、【ワークフロー名】リンクをクリックします。

次の手順では、エラーインスタンスのフィルター処理したリストの作成方法を説明します。

エラーインスタンスのフィルター処理したリストを作成するには

- 【エラーインスタンスリスト】ページで、タイトルバーの【メニュー】をクリックし、【リストを新規作成】を選択します。
リストの作成と編集の詳細は、「[リストの作成と編集](#)」を参照してください。

次の手順では、エラーインスタンスのフィルター処理したリストを管理する方法について説明します。

エラーインスタンスのフィルター処理したリストを管理するには

- 【エラーインスタンスリスト】ページで、タイトルバーの【メニュー】をクリックし、【リスト管理】ページを選択します。
リストの管理の詳細は、「[【リスト管理】ページ](#)」を参照してください。

次の手順では、エラーインスタンスのリストに対するフィルターを表示する方法について説明します。

エラーインスタンスのリストに対するフィルターを表示するには

- 【エラーインスタンスリスト】ページで、タイトルバーの【メニュー】をクリックし、【リストフィルターを表示】を選択します。

リストフィルターの詳細は、「[リストを表示] ページ」を参照してください。

[ワークフローエラーモニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローエラーモニター](#) (ページ 436)
- [\[ワークフローエラーモニター\] からのエラーインスタンスの削除](#) (ページ 438)
- [ワークフローエラーインスタンスのフィールド](#) (ページ 439)

関連トピック

ワークフロールールの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)

[ワークフローエラーモニター] からのエラーインスタンスの削除

[ワークフローエラーモニター] から、エラーインスタンスを一度に1つずつ削除できます。イベント後ワークフローアクションの失敗したインスタンスの詳細は、30日が経過するか削除するまで（どちらか早い方）、[ワークフローエラーモニター] に保持されます。[ワークフローエラーモニター] に記録および表示される内容については、「[ワークフローエラーモニター](#) (ページ 436)」および「[ワークフローエラーインスタンスのフィールド](#) (ページ 439)」を参照してください。

注意: 一括削除機能は、[エラーインスタンスリスト] ページでは使用できません。

作業前の準備: ワークフローモニターを使用するには、ユーザーの役割に[データルールの管理 - ワークフロールールの管理] 権限が含まれている必要があります。

次の手順では、[ワークフローエラーモニター] からエラーインスタンスを削除する方法について説明します。

[ワークフローエラーモニター] からエラーインスタンスを削除するには

- 1 [エラーインスタンスリスト] ページで、削除するインスタンスを見つけます。

ヒント: リストのフィルター処理の詳細は、「リストのフィルター処理」を参照してください。

- 2 そのインスタンスの[削除] リンクをクリックします。

[ワークフローエラーモニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローエラーモニター](#) (ページ 436)
- [\[ワークフローエラーモニター\] でのエラーインスタンスの表示](#) (ページ 437)
- [ワークフローエラーインスタンスのフィールド](#) (ページ 439)

関連トピック

ワークフロールールの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)

ワークフローエラーインスタンスのフィールド

次の表では、イベント後ワークフローアクションの失敗したインスタンスに対して表示できるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
インスタンス ID	このワークフローインスタンスに対して Oracle CRM On Demand が生成する ID。
ワークフロー名	ワークフローアクションが設定されているワークフロールールの名前。ワークフロールールの名前をクリックすると、[ワークフロールール詳細] ページが開き、ワークフロールール設定の詳細を表示できます。
ワークフローアクション	ワークフローアクションの名前。該当のインスタンスはこのワークフローアクションのインスタンスです。
トリガーイベント	ワークフロールールをトリガーするイベント。
レコードタイプ	ワークフロールールがこのインスタンスをトリガーしたレコードのレコードタイプ。
レコード行 ID	ワークフロールールがこのインスタンスをトリガーしたレコードのレコード行 ID。
親レコードタイプ	ワークフロールールがこのインスタンスをトリガーしたレコードがワークフロールールをトリガーしたアクションのコンテキスト内にある親レコードの子である場合、このフィールドには親レコードのレコードタイプが表示されます。
親レコード行 ID	ワークフロールールがこのインスタンスをトリガーしたレコードがワークフロールールをトリガーしたアクションのコンテキスト内にある親レコードの子である場合、このフィールドには親レコードの行 ID が表示されます。
エラーメッセージ	ワークフローアクションのこのインスタンスが終了した理由。
開始者	ワークフロールールがこのインスタンスをトリガーしたアクションを実行したユーザーの名前。
開始日時	ワークフロールールがこのインスタンスがトリガーされた日時。
終了日時	ワークフローアクションのこのインスタンスが終了した日時。
チャンネル名	ワークフロールールがこのインスタンスのトリガーで使されたチャンネル（Web サービス、オンライン、インポートなど）の名前。

[ワークフロー待機モニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

■ [ワークフローエラーモニター](#) (ページ 436)

- [\[ワークフローエラーモニター\] でのエラーインスタンスの表示](#) (ページ 437)
- [\[ワークフローエラーモニター\] からのエラーインスタンスの削除](#) (ページ 438)

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)

ワークフロー待機モニター

[ワークフロー待機モニター] から、[待機] アクションの保留インスタンスの詳細とワークフローアクションの詳細を表示できます。たとえば、ワークフロー [待機] アクションのインスタンスが予想よりも長時間保留状態になっている場合は、[ワークフロー待機モニター] を使用してインスタンスを調査し、ワークフローアクションの設定を参照して、必要に応じてインスタンスを削除できます。

注: [待機] アクションの保留インスタンスを削除した場合、ワークフローの残りのアクションはいずれも実行されません。

たとえば、次のアクションシーケンスでワークフローを設定できます。

- 1 24 時間の期間の [待機] アクション
- 2 [メール送信] アクション
- 3 48 時間の期間の [待機] アクション
- 4 [メール送信] アクション
- 5 [タスクを作成] アクション

アクションが正しく設定されている場合は、シーケンス中の最初の [待機] アクション (アクション 1) が少なくとも 24 時間 [保留中] 状態のままになります。待機期間が終了した後、[メール送信] アクション (アクション 2) が実行されます。2 つ目の [待機] アクション (ワークフローのアクション 3) はシーケンス中の次のアクションです。これは少なくとも 48 時間 [保留中] 状態のままになります。待機期間が終了した後、[メール送信] アクション (アクション 4) および [タスクを作成] アクション (アクション 5) が実行されます。

注: 待機期間には、Oracle CRM On Demand がワークフローの他のアクションの実行を開始する前に経過する必要がある最小時間を指定します。Oracle CRM On Demand データベースおよび Oracle CRM On Demand サーバーの負荷、および待機期間終了時の保留中待機アクションの数によっては、他のアクションが実行されるまでに経過する実際の時間がさらに長くなる場合があります。

ただし、アクション 3 の待機期間が間違っ 48 時間ではなく 48 日と指定されていた場合、アクションは 48 日が経過するまで保留状態のままになります。[ワークフロー待機モニター] でアクションを参照し、アクション詳細を表示して、待機期間が間違っ 指定されているかどうかを確認できます。その後、[待機] アクションインスタンスを削除できます。

[待機] アクションインスタンスを削除すると、ワークフローインスタンスが終了し、ルールインスタンスの残りのアクションは実行されません。前述の例では、次のように実行されます。

- アクション 1 が保留中に削除された場合、アクション 2、3、4 および 5 は実行されません。
- アクション 3 が保留中に削除された場合、アクション 4 および 5 が実行されません。

注：待機アクションは、[保留中] 状態になる唯一のタイプのワークフローアクションです。

[ワークフロー待機モニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー待機モニター] での保留インスタンスの表示 (ページ 441)
- [ワークフロー待機モニター] からの保留インスタンスの削除 (ページ 442)
- ワークフロー保留インスタンスのフィールド (ページ 443)

[ワークフロー待機モニター] での保留インスタンスの表示

次の手順では、[ワークフロー待機モニター] で保留インスタンスを表示する方法について説明します。[ワークフロー待機モニター] に記録および表示される内容については、「[ワークフロー待機モニター](#) (ページ 440)」および「[ワークフロー保留インスタンスのフィールド](#) (ページ 443)」を参照してください。

作業前の準備：ワークフローモニターを使用するには、ユーザーの役割に[データルールの管理 - ワークフロールールの管理] 権限が含まれている必要があります。

[ワークフロー待機モニター] で保留インスタンスを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフローモニター] をクリックします。
- 3 [ワークフローモニター] ページで、[ワークフロー待機モニター] をクリックします。
- 4 [保留インスタンスリスト] ページで、目的のインスタンスを見つけます。
ヒント: リストのフィルター処理の詳細は、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。
- 5 インスタンスの詳細を表示するには、[インスタンス ID] リンクをクリックします。
- 6 レコードがインスタンスであるワークフローアクションの詳細を表示するには、[ワークフロー名] リンクをクリックします。

次の手順では、保留インスタンスのフィルター処理したリストの作成方法を説明します。

保留中のインスタンスのフィルター処理したリストを作成するには

- [保留インスタンスリスト] ページで、タイトルバーの[メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。

リストの作成と編集の詳細は、「[リストの作成と編集](#)」を参照してください。

次の手順では、保留中のインスタンスのフィルター処理したリストを管理する方法について説明します。

保留中のインスタンスのリストを管理するには

- [保留インスタンスリスト] ページで、タイトルバーの[メニュー] をクリックし、[リスト管理] ページを選択します。

リストの管理の詳細は、「[リスト管理] ページ」を参照してください。

次の手順では、保留中のインスタンスのリストに対するフィルターを表示する方法について説明します。

保留インスタンスのリストに対するフィルターを表示するには

- [保留インスタンスリスト] ページで、タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。

リストフィルターの詳細は、「[リストを表示] ページ」を参照してください。

[ワークフロー待機モニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー待機モニター](#) (ページ 440)
- [\[ワークフロー待機モニター\] からの保留インスタンスの削除](#) (ページ 442)
- [ワークフロー保留インスタンスのフィールド](#) (ページ 443)

関連トピック

ワークフロールールの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)

[ワークフロー待機モニター] からの保留インスタンスの削除

[ワークフロー待機モニター] から、保留インスタンスを一度に1つずつ削除できます。インスタンスのフィルター処理したリストを作成し、一括削除機能を使用して、複数の保留インスタンスを同時に削除することもできます。[ワークフロー待機モニター] に記録および表示される内容については、「[ワークフロー待機モニター](#) (ページ 440)」および「[ワークフロー保留インスタンスのフィールド](#) (ページ 443)」を参照してください。

注: [ワークフローエラーモニター] から [待機] アクションの保留インスタンスを削除すると、ワークフロールールインスタンスが終了し、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されません。

作業前の準備: ワークフローモニターを使用するには、ユーザーの役割に [データルールの管理 - ワークフロールールの管理] 権限が含まれている必要があります。

次の手順では、[ワークフロー待機モニター] から保留インスタンスを削除する方法について説明します。

[ワークフロー待機モニター] から保留インスタンスを削除するには

- 1 [保留インスタンスリスト] ページで、削除するインスタンスを見つけます。

ヒント: リストのフィルター処理の詳細は、「[リストのフィルター処理](#)」を参照してください。

- 2 そのインスタンスの [削除] リンクをクリックします。

次の手順では、[ワークフロー待機モニター] から保留インスタンスのリストを削除する方法について説明します。

「ワークフロー待機モニター」から保留インスタンスのリストを削除するには

- 1 まだ作成していない場合は、削除するインスタンスのリストを作成します。
リストの作成と編集の詳細は、「リストの作成と編集」を参照してください。
- 2 「保留インスタンスリスト」ページで、「メニュー」をクリックし、「一括削除」を選択します。
- 3 「OK」をクリックして、処理の続行を確認します。
- 4 「一括削除キュー」ページで、「アクティブなリクエスト」セクションの「続行」をクリックします。
注: 「続行」をクリックしない場合、レコードは削除されません。
ヒント: 「管理」グローバルリンクをクリックし、「管理ホームページ」で「一括削除キュー」をクリックすることにより、いつでも「一括削除キュー」ページに戻ることができます。
- 5 削除操作のログファイルを確認するには、「一括削除キュー」ページで「処理済みリクエスト」セクションの「ログ」をクリックします。

「ワークフロー待機モニター」の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー待機モニター](#) (ページ 440)
- [「ワークフロー待機モニター」での保留インスタンスの表示](#) (ページ 441)
- [ワークフロー保留インスタンスのフィールド](#) (ページ 443)

関連トピック

ワークフロールールに関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)

ワークフロー保留インスタンスのフィールド

次の表では、「待機」アクションの保留インスタンスに対して表示できるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
インスタンス ID	このワークフローインスタンスに対して Oracle CRM On Demand が生成する ID。
ワークフロー名	ワークフローアクションが設定されているワークフロールールの名前。ワークフロールールの名前をクリックすると、「ワークフロールール詳細」ページが開き、ワークフロールール設定の詳細を表示できます。
レコードタイプ	ワークフロールールがこのインスタンスをトリガーしたレコードのレコードタイプ。
トリガーイベント	ワークフロールールをトリガーするイベント。
ワークフローアクション	ワークフローアクションの名前。該当のインスタンスはこのワークフローアクションのインスタンスです。

フィールド	説明
開始者	ワークフロールールはこのインスタンスをトリガーしたアクションを実行したユーザーの名前。
開始日時	ワークフロールールはこのインスタンスがトリガーされた日時。
再開日時	ワークフローアクションのこのインスタンスの待機期間が終了する日時。

「ワークフロー待機モニター」の使用方法的詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー待機モニター](#) (ページ 440)
- [「ワークフロー待機モニター」での保留インスタンスの表示](#) (ページ 441)
- [「ワークフロー待機モニター」からの保留インスタンスの削除](#) (ページ 442)

関連トピック

ワークフロールールの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) (ページ 379)

データルールおよび割当

割当ルール（レコードの自動割当）、売上予想定義、見込み客変換レイアウトおよびマッピング、セールス方法、および業種の設定に関する作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [割当ルールの設定](#) (ページ 449)
- [見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) (ページ 456)
- [見込み客変換レイアウトの作成](#) (ページ 457)
- [売上予想定義の設定](#) (ページ 459)
- [売上予想定義の更新](#) (ページ 465)
- [セールスプロセス、カテゴリ、およびコーチの設定](#) (ページ 466)
- [企業の業種リストのカスタマイズ](#) (ページ 474)

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [割当ルールについて](#) (ページ 445)
- [見込み客変換の管理](#) (ページ 454)

割当ルールについて

作業前の準備。割当ルールを設定するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

割当ルールでは、「ルールグループ」と呼ばれるルールを設定し、これに基づいて、見込み客、商談、サービスリクエスト、または取引先を、適切なユーザー、チーム、およびテリトリーに自動的に割り当てることができます。

企業でグループ割当オプションを選択している場合は、すべてのグループメンバーが、そのグループのメンバーに割り当てたレコードを共有します。詳細は、「[グループの管理](#) (ページ 343)」を参照してください。

企業の構造とビジネスプロセスによって、割当ルールを単純にすることができます。次に例を示します。

- 各地域のセールス見込み客を、地域セールスマネージャに割り当てます。
- 新しいサービスリクエストを、テクニカルサービスマネージャに割り当てます。

ルールは、より複雑にすることもできます。次に例を示します。

- 見込み客の大部分を製品担当と地域によって割り当て、一部をテレマーケティングマネージャに割り当てます。
- サービスリクエストの大部分を問題エリアによって割り当て、特定の製品に関するすべてのリクエストを1人のユーザーに転送します。

次の表では、レコードタイプの割り当て方法について説明します。

レコードタイプ	割り当てオプション
取引先	従業員またはテリトリーにレコードを割り当てることができます。また、新しく割り当てられた取引先の所有権を共有するチームを指定できます。
見込み客	従業員にレコードを割り当てることができます。
商談	従業員またはテリトリーにレコードを割り当てることができます。また、新しく割り当てられた商談の所有権を共有するチームを指定できます。
サービスリクエスト	従業員にレコードを割り当てることができます。

有効なルールグループの割当ルールは、レコードタイプに関して次のことが該当する場合に評価されます。

- 見込み客: [所有者を再割当] チェックボックスが選択されており、変更が保存される場合。
- サービスリクエスト:
 - サービスリクエストが所有者なしで作成されたか、レコードから所有者が削除された場合（[所有者] フィールドが空白の状態）
 - [所有者を再割当] チェックボックスが選択されており、変更が保存される場合。
- 取引先: [所有者を再割当] チェックボックスが選択されており、変更が保存される場合。
- 商談: [所有者を再割当] チェックボックスが選択されており、変更が保存される場合。

注: レコードで [所有者を再割当] チェックボックスが選択され、レコードが保存されるとすぐに、割当マネージャがレコードを再割当しようとします。ただし、見込み客レコードが取引先または商談に変換される際に、見込み客が完全に変換されるまで割当マネージャがレコードを再割当できないため、取引先または商談の再割当に失敗します。たとえば、ワークフロールールを使用して [所有者を再割当] チェックボックスを選択したり、見込み客の変換時に取引先または商談についてデフォルト値を設定すると、レコードは再割当されません。かわりに、レコードが完全に変換された後で、変換済みレコードの [所有者を再割当] チェックボックスを選択し、レコードを手動で再割当する必要があります。

電子メール通知

見込み客またはサービスリクエストに所有者を割り当てると、新しい所有者に電子メールが送信されます。電子メールに使用されるテンプレートは、新しい所有者の「個人詳細」ページで選択した言語によって決まります。たとえば、ユーザーが通知の電子メールをスペイン語で受信したい場合は、ユーザーの「個人詳細」ページの「言語」フィールドでスペイン語を選択する必要があります。ルールベースでサービスリクエストの電子メール通知をオフにするには、「サービスリクエスト割当ルールの編集」ページの「電子メール通知を送信」チェックボックス（フラグ）をオフにします。割当ルールの更新の詳細は、「[割当ルールの設定](#)（ページ 449）」を参照してください。

電子メール通知では、「差出人」アドレスは常に donotreply@crmondemand.com で、「送信者」フィールドは、割当ルールグループの「返信先電子メール」フィールドに指定したアドレスに設定されます。Oracle の電子メール配信システムで電子メールを追跡できるように、各電子メールには、Oracle CRM On Demand によって文字列が追加されます。電子メール受信者が電子メール通知に回答すると、返信の「宛先」フィールドは、割当ルールグループの「返信先電子メール」フィールドに指定したアドレスに設定されます。

再割当プロセスの追跡

これらの3つのフィールドを使用して、所有者の再割当プロセスを追跡したり、再割当プロセスの所要時間を分析したりできます。これらのフィールドは、取引先、商談、見込み客、およびサービスリクエストのページレイアウトに追加できます。次のフィールドがあります。

■ 割り当て状態

「行列待ち」（レコードがキューに入り、割当マネージャによる処理を待っている状態）、「処理中」（レコードが割当マネージャによって処理されている状態）、または空白（レコードがキューに入っておらず、処理もされていない状態）のいずれかの状態になります。

■ 最後の割当提出日付

レコードが処理のためキューに入り、現在割当マネージャによって処理されている場合、このフィールドには、「所有者を再割当」チェックボックスをオンにしてレコードを保存した日時が表示されます。サービスリクエストレコードの場合、このフィールドは、「所有者」フィールドが空白の状態ではレコードが保存された日時を表示します。

■ 最後の割当終了日付

レコードの再割当が実行されたことがない場合、このフィールドは空白です。それ以外の場合、フィールドには再割当が実行された日時が表示されます。

ページレイアウトにフィールドを追加する方法の詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)（ページ 142）」を参照してください。

ルールグループの有効化

複数の割当ルールグループを作成した場合は、レコードタイプごとに1つずつ有効にする必要があります。

注意：最後にルールをリリースしたときに「**活動中**」とマークが付けられていたルールグループは、そのルールを再度リリースするまでは活動中になります。ルールを再度リリースすると、直前に「**活動中**」とマークが付けられたルールグループが活動中になります。新しいルールグループを作成して活動中のマークを付けるときは、ルールをリリースするまではすでに活動中のルールグループを削除しないでください。

ヒント：ルールグループは、見込み客の履歴として参照できます。ルールグループを削除する代わりに「**非活動中**」とマークを付けておきます。

グループ割当について

企業でレコードを、1人の従業員にではなくグループ全体に割り当てる場合、企業の管理者は次の操作を行う必要があります。

- 1 「企業プロフィール」ページの「デフォルトのグループ割当」フィールドを選択します（「[企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#)（ページ 19）」を参照）。
- 2 割当ルールを有効にする前にグループを設定します（「[グループの設定](#)（ページ 345）」を参照）。
- 3 割り当て中に、取引先または商談の所有者に指定するグループのメンバーを1人選択します。

注：グループ機能は、見込み客レコードまたはサービスリクエストレコードではサポートされていません。

レコードがグループの所有者に割り当てられると、次のようになります。

- 「所有者」フィールドに所有者情報が表示されます。
- レコードの編集および詳細ページの「プライマリグループ」フィールドに、所有者が属するグループ名が表示されます（企業の管理者がそのフィールドをレイアウトに追加した場合）。
- レコードは、ホームページやレコードリストなど、従業員のレコードを通常表示するアプリケーションのエリアに表示されます。

一般に、グループ内のすべてのメンバーは、レコードへの完全アクセス権を持っていますが、アクセスレベルを調整してユーザーによるアクセスを制限できます。

割当マネージャおよびレコード所有権モードについて

割当マネージャは、ユーザーに対してのみレコードを再割当できます。レコードを再割当できるのは、レコードタイプがレコード所有権のユーザーモードまたは混合モードに設定されている場合のみです。割当マネージャが所有者にレコードを再割当する前に、レコードに割り当てられたプライマリカスタムブックがある場合、割当マネージャは、レコードからプライマリブックを削除します。割当マネージャは、レコードタイプがブックモードに設定されている場合、レコードを再割当できません。レコードタイプをブックモードに設定する場合は、そのレコードタイプに対するすべてのルールグループを無効にすることを強くお勧めします。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#)（ページ 307）」を参照してください。

見込み客割り当てのシナリオ

ここでは、見込み客の割り当てに関する企業での一般的なビジネスルールの例を示します。この企業の見込み客を自動的に割り当てるルールを設定するため、管理者は次の操作を行います。

- 1 見込み客の割り当てに関する企業のビジネスルールを記述します。

たとえば、米国内の取引先の場合、多くのセールステリトリーは州単位で割り当てられますが、一部の州では製品担当がテリトリーの割り当てを決定します。また、取引先の XYZ 社は常に、見込み客の州や製品への関心とは関係なく、1名の特定のセールスマネージャに割り当てられます。

- 2 このビジネスルールをカバーするために必要なすべての割り当てシナリオをリストアップします。

- **取引先（会社）は XYZ 社：**セールスマネージャ A に割り当てます。
- **プライマリ住所 - 州は CA、NV、OR、WA：**セールスマネージャ B に割り当てます。
- **プライマリ住所 - 州は OH、IN、MI、NY、KY：**セールスマネージャ C に割り当てます。

- **製品 ABC** に関心を持っている見込み客（上記のすべての州。ただし XYZ 社を除く）：セールスマネージャ D に割り当てます。
- **プライマリ住所 - その他の州**：セールスマネージャ E に割り当てます。

3 シナリオを考慮すべき順序に並べます。

まず、[取引先] フィールドを調べます。値が XYZ 社の場合、その他の条件は一切考慮せずに、セールスマネージャ A に見込み客を割り当てます。この基準が満たされない場合は、[プライマリの米国の州] フィールドを調べます。値が CA、NV、OR、または WA である場合、セールスマネージャ B に見込み客を割り当てます。同様に、残りのセールスマネージャにも見込み客を割り当てます。

ベストプラクティスとしては、レコード割当テンプレートを使用して、企業の割当シナリオを計画し、望ましい結果が得られるようなルールを設定することをお勧めします。

割当ルールの基準条件

次の条件を割当ルールの条件として使用できます。

- **間**。レコードの条件フィールドの値が、ルール条件で定義された 2 つの値の間にある場合に、ルールが満たされたと見なされます（レコードの条件フィールドの値がルールの値のいずれかに等しい場合は、結果には含まれません）。値を区切るにはカンマを使用します。ダッシュ (-) を使用して値の範囲を指定したり、値を区切ったりすることはできません。

[間] 条件は、日付フィールドに対してのみ使用します。日付は、MM/DD/YYYY 形式で表示します。

- **すべての値を含む**。レコードの条件フィールドの値が値に完全一致する場合に、ルールが満たされたと見なされます。アプリケーションでは、値のサブストリング、または値が同じでも大文字小文字が異なる値は取得しません。1 つの値またはカンマで区切られた複数の値を入力できます。

- **正確なフィールド値を含む**。レコードの条件フィールドに、条件フィールド値のすべての文字列が含まれる（それ以外の文字は含まれない）場合に、ルールが満たされたと見なされます。たとえば、条件値として [クローズ済み] を入力した場合、レコードの条件フィールド値が [クローズ済み] の場合はルールが満たされたとみなされ、[クローズ済み/成立] の場合はルールが満たされないとみなされます。

日付フィールドまたは数値フィールドに対しては、[正確なフィールド値を含む] 条件を使用できません。

- **どの値も含まない**。レコードの条件フィールドの中に、ルール条件値に等しくない値が含まれる場合に、レコードが満たされたと見なされます。

日付フィールドまたは数値フィールドに対しては、[どの値も含まない] 条件を使用できません。

- **以下**。レコードの条件フィールドの値が、ルール条件値よりも小さいか等しい場合に、ルールが満たされたと見なされます。

[以下] 条件は数値フィールドと通貨フィールドにのみ使用可能です。

- **以上**。レコードの条件フィールドの値が、ルール条件値よりも大きい等しい場合に、ルールが満たされたと見なされます。

[以上] 条件は数値フィールドと通貨フィールドにのみ使用可能です。

ルール条件に関しては、次の点に注意してください。

- 条件がないルールは常に成功します。
- ルールは順番に評価され、あるルール条件が満たされると評価が終了します。

たとえば、評価されるルールが 10 個あり、ルール 6 の条件が満たされると、ルール 7、8、9、および 10 は無視されます（つまり、これらのルールは評価されません）。同様に、ルール 6 に条件がない場合、ルール 6 は成功し、ルール 7、8、9、および 10 は無視されます。

割当ルールの設定手順については、「[割当ルールの設定](#)（ページ 449）」を参照してください。

割当ルールの設定

作業前の準備：

- 割当ルールを設定するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 割当ルールの作成に関する詳細については、「[割当ルールについて](#)（ページ 445）」を参照してください。

割当ルールグループの例

ルールグループはルールから成り、ルールは条件から成ります。ルールグループのコンポーネントを次の図に示します。

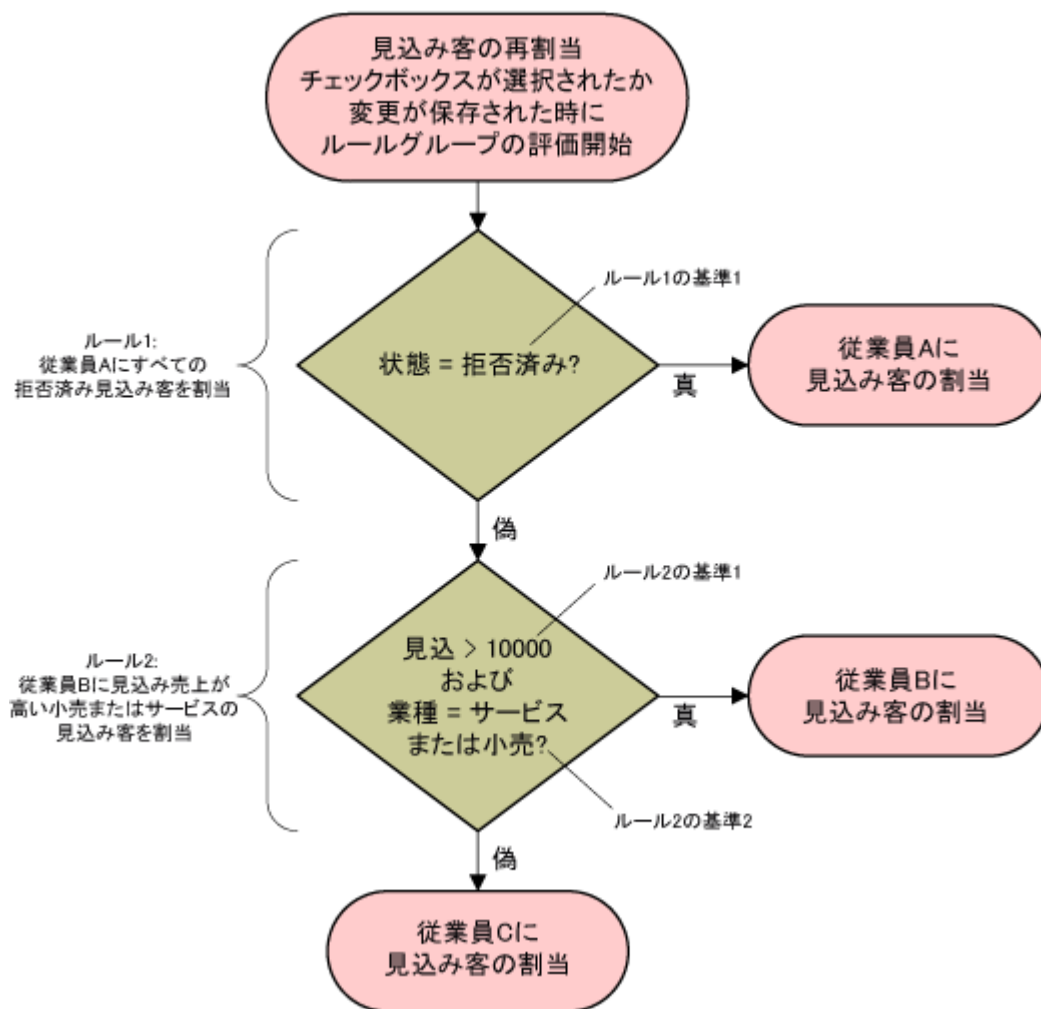


Figure 1: 見込み客割当ルールグループの評価方法

注：[見込み客詳細] ページの[拒否] ボタンを正しく機能させるには、ルールグループの最初のルールで、拒否された見込み客を割り当てする必要があります。

割当ルールグループを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [割当ルール] セクションで、該当するレコードタイプのリンクをクリックします。

現在までに企業について定義されているすべてのルールグループのリストが表示されます。

4 新しいルールグループを作成します。

- a [新規ルールグループ] ボタンをクリックします。
- b [作成/編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。

フィールド	説明
ルールグループ名	30 文字までの一意の名前。
有効なルールグループ	一度に 1 つのルールグループだけを有効にできます。新しいルールグループを有効にすると、それまで有効になっていたルールグループが無効になります。
未割当所有者	いずれかのルールによって割り当てられていないレコードを継承する従業員。 例 ：図 1 の従業員 C
返信先電子メール	このフィールドは、見込み客およびサービスリクエストルールグループでのみ表示されます。割当ルールグループの [返信先電子メール] フィールドに指定した電子メールアドレスは、見込み客とサービスリクエストの所有者に送信される電子メール通知の [送信者] フィールドに表示されます。また、電子メール受信者が電子メール通知に回答すると、返信の [宛先] フィールドが [返信先電子メール] フィールドで指定したアドレスに設定されます。 注 ：電子メール通知は、取引先および商談レコードについては送信されません。
未割当取引先テリトリー	いずれかのルールによって割り当てられていないレコードを継承するテリトリー。 このフィールドは取引先ルールグループにのみ表示されます。
未割当商談テリトリー	いずれかのルールによって割り当てられていないレコードを継承するテリトリー。 このフィールドは商談ルールグループにのみ表示されます。

- c レコードを保存します。
これで、ルールグループにルールを追加する準備として、新しいルールグループの名前が保存されました。

5 ルールをルールグループに追加します。

- a [ルールグループ詳細] ページの [ルール] タイトルバーで [新規] をクリックします。
- b [作成/編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。
次の表の「例」の列には、図 1 のルール 2 のフィールドに入力する情報を示しています。

フィールド	説明	例
ルール名	固有の名前。	見込み売上が高い小売またはサービスの見込み客を割り当てます。
オーダー	ルールを評価する順序。あるルール条件が満たされると、レコードが割り当てられ、後続のルールは無視されます。	1
所有者に割当	ルール条件が満たされると、レコードがこのユーザーに割り当てられます。 取引先および商談のグループ割当の場合、ユーザーはレコードを共有するグループのメンバーである必要があります。	従業員 B
テリトリーに割当	ルール条件が満たされると、レコードがこのテリトリーに割り当てられます。 このフィールドは取引先および商談ルールにのみ表示されます。	北東部地域
関連する担当者を含める	ルール条件が満たされた場合、取引先にリンクされた担当者は、指定された取引先所有者およびテリトリーに割り当てられます。 このフィールドは取引先ルールにのみ表示されます。	なし
関連する商談を含める	ルール条件が満たされた場合、取引先にリンクされた商談は、指定された取引先所有者およびテリトリーに割り当てられます。 このフィールドは取引先ルールにのみ表示されます。	なし
チーム割当を含む	ルール条件が満たされると、チームメンバーが取引先に割り当てられます。 このフィールドは取引先および商談ルールにのみ表示されます。	なし

- c** レコードを保存します。

これでルールが割り当てられたので、このルールに条件を追加できます。

- 6** (オプション) 取引先と商談の場合、リンクされたレコードおよびユーザーに対するアクセスを次のように更新します。

- a** [ルールグループ詳細] ページで、リンクされているレコードおよびユーザーのアクセスを更新するルールの [名前] リンクをクリックします。

- b** [ルール詳細] ページで、[チーム割当] タイトルバーの [ユーザーを追加] または [ユーザーを編集] をクリックします。
- c** [ルックアップ] アイコンをクリックし、ユーザーを選択します。
- d** 取引先、担当者、および商談に対するアクセスレベルを割り当てます。
- e** 変更を保存します。

7 ルール条件をルールに追加します。

- a** [ルール詳細] ページの [ルール条件] タイトルバーで、[新規] をクリックします。
- b** [作成/編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。

次の表の「例」の列には、図 1 のルール 2 のフィールドに入力する情報を示しています。

フィールド	説明	例
フィールド	評価するフィールドの名前。 注 ：フィールドのラベルが変更された場合、新しいフィールド名が表示されます。	見込売上
条件	[すべての値を含む]、[正確なフィールド値を含む]、および [どの値も含まない] 条件は、日付フィールドまたは数値フィールドには使用できません。 [以上] または [以下] 条件は、数値フィールドおよび通貨フィールドでのみ使用できます。 [間] 演算子は、日付フィールドでのみ使用できます。	以上
値	値を区切るにはカンマを使用します。一致条件に使用されるアドレスなどの値にカンマが含まれる場合は、その値を引用符で囲みます。 条件が [間] の場合は、最小値と最大値をカンマで区切って入力します。	10000

- c** 次の該当する操作を行います。
 - ルールにさらに条件を追加する場合、[ルール条件の保存&新規作成] をクリックし、ステップ b に戻ります。1 つのルールに複数の条件が定義されている場合、ルールが満たされたと見なされるためには、レコードがすべての条件を満たしている必要があります。
 - ルールのすべての条件を入力したら、[保存] をクリックします。
- 8** [ルール詳細] ページの [ルール] タイトルバーで、[ルールグループ詳細に戻る] をクリックします。
- 9** [ルールグループ詳細] ページで、次の該当する操作を行います。
 - ルールグループにさらにルールを追加する場合は、ステップ 5 に戻ります。
 - ルールグループのすべてのルールを入力した後、[ルールグループリストに戻る] をクリックして終了します。

ヒント : ルールは「ルールグループ」に表示される順序で実行されるので、正しい順序で表示されていることを確認してください。1つのルールが満たされると、以降のルールは無視されます。

編集するには、ルールグループを有効または無効にします。

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール&割当」リンクをクリックします。
- 3 「割当ルール」セクションで、編集する割当ルールのタイプのリンクをクリックします。
現在までに企業について定義されている、指定タイプのすべてのルールグループのリストが表示されます。
- 4 更新する「ルールグループ」リンクをクリックします。
- 5 「ルールグループ詳細」ページで、「編集」をクリックします。
- 6 フィールドを更新し、レコードを保存します。

変更は、Oracle Server 時間の深夜（デフォルト）に有効になるか、または、割当ルールグループを更新するように設定されている時刻に有効になります。

注意 : ルールグループに「活動中」のマークを付けると、最後にルールをリリースしたときに「活動中」のマークが付けられたルールグループは、そのルールが再度リリースされるまで継続して活動中になります。ルールを再度リリースすると、直前に「活動中」とマークが付けられたルールグループが活動中になります。ルールをリリースするまではすでに「活動中」のルールグループを削除しないでください。

割当ルールを編集するには

- 1 「ルールグループ詳細」ページで、変更するルールの「編集」リンクをクリックします。
- 2 フィールドを更新します。

注: 「順序」フィールドを編集すると、ルールを評価する順序を変更できます。変更するルールに対し、そのルールよりも先に評価されるルールよりも大きく、後に評価されるルールよりも小さい数値を入力します。

たとえば、1番から3番までの順番が付けられた3つのルールがあり、現在1番のルールを現在2番のルールよりも後に評価するよう順序を変えるには、1番のルールを2.1（または2よりも大きく、3よりも低い任意の値）に変更します。

- 3 レコードを保存します。

見込み客変換の管理

社内のユーザーは、見込み客レコードを取引先、担当者、または商談のレコードに変換できます。企業が Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用するように設定されている場合は、見込み客レコードを取引交渉登録レコードに変換することもできます。

見込み客レコードを変換するとき、次のいずれかの作業を行うことができます。

- 見込み客レコードに自動的にリンクされる新しい取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードを作成します。
- 見込み客レコードを既存の取引先および担当者レコードにリンクします。ユーザーは、見込み客を変換するときに、見込み客にリンクするレコードを選択します。

ページの見込み客変更レイアウトを作成し、これらのレイアウトをユーザー役割に割り当てることで、[見込み客を変換] ページでユーザーが使用できるオプションを決定できます。

見込み客の変換中、一部の値はデフォルトで新しいレコードに継承されます。ただし、カスタムフィールドなどの追加フィールドのマッピングによって、継承される情報の量を増やすことができます。

見込み客を変換するには、ユーザーが、レコードタイプへの適切なアクセス権と役割内の適切な権限を持っている必要があります。

ユーザーは、見込み客を拒否するときに、[見込み客を拒否] ページの [拒否コード] フィールドで拒否コードを選択する必要があります。[拒否コード] フィールドのいくつかの値はデフォルトで提供されますが、これらの値を変更、またはリストに値を追加できます。[拒否コード] ピックリストの詳細は、「[見込み客の拒否コード](#) (ページ 459)」を参照してください。

関連トピック

見込み客変換管理の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [見込み客変換の設定のプロセス](#) (ページ 455)
- [見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) (ページ 456)
- [見込み客変換レイアウトの作成](#) (ページ 457)

見込み客変換の設定のプロセス

ユーザーおよびレコードタイプの見込み客変換および拒否設定を設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 見込み客変換中に追加フィールドをマップする場合は、新しいマッピングを設定します。
フィールドのマッピングの詳細は、「[見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) (ページ 456)」を参照してください。
- 2 [見込み客を変換] ページのレイアウトをカスタマイズする場合は、次の手順に従います。
 - a 新しいレイアウトを作成します。
レイアウトの作成の詳細は、「[見込み客変更レイアウトの作成](#) (参照 "[見込み客変換レイアウトの作成](#)" ページ 457)」を参照してください。
 - b 新しいレイアウトを適切な役割に追加します。
役割の追加の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。
- 3 ユーザーが、レコードタイプへの適切なアクセス権と役割内の適切な権限を持っていることを確認します。
見込み客の変換に必要な設定の詳細は、「見込み客を変換するためのアクセスプロファイルおよび役割の設定」を参照してください。
- 4 [拒否コード] ピックリストの値を編集する場合は、フィールド値を編集します。

フィールド値の編集の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。[拒否コード] ピックリストの詳細は、「[見込み客の拒否コード](#) (ページ 459)」を参照してください。

見込み客変換中の追加フィールドのマッピング

社内のユーザーは、見込み客レコードを取引先、担当者、または商談のレコードに変換できます。企業が Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用するように設定されている場合は、見込み客レコードを取引交渉登録レコードに変換することもできます。

ユーザーが見込み客を取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードに変換する場合、デフォルトでは、一部の値が新しいレコードに移行されます。ただし、カスタムフィールドなどの追加フィールドのマッピングによって、継承される情報の量を増やすことができます。見込み客フィールドのマッピング方法の例は、「[見込み客](#)」を参照してください。

ユーザーが見込み客レコードを変換すると、マップされたフィールドの値が次のように移行されます。

- ユーザーが新しい取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードを作成すると、見込み客レコードのマップされたフィールドの値は、新しいレコードの指定のフィールドに移行されます。
- ユーザーが見込み客レコードを、見込み客の変換時に選択した既存の取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードにリンクすると、値を指定済みの既存のレコード内のフィールドは変更されません。空のフィールドは、マップされた見込み客フィールドの値で更新されます。

注意: パートナーユーザーは、取引交渉登録を承認したり、取引交渉登録に承認者を割り当てることはできません。したがって、パートナーユーザーが見込み客を取引交渉登録に変換しようとする、変換プロセスにより取引交渉登録レコードの[現在の承認者] フィールドまたは[最終承認者] フィールドの更新が試行された場合に、変換に失敗します。パートナーユーザーが見込み客を取引交渉登録に変換することを企業が許可している場合は、取引交渉登録レコードタイプの[現在の承認者] フィールドまたは[最終承認者] フィールドに、見込み客レコードタイプのフィールドをマップしないでください。

Web リンクフィールドについて

見込み客変換の際に、Web リンクフィールドをマップしないでください。Web リンクフィールドには、データではなく、ユーザーがアクションを実行するためにクリックできるリンクのスクリプトが含まれています。Web リンクフィールドの内容は、見込み客の変換時に新しいレコードに移行できません。

連結フィールドについて

見込み客変換の際に、連結フィールドをマップしないでください。連結フィールドは、複数のフィールドからの値の表示やテキストの表示が可能なフィールドです。連結フィールドの内容は、見込み客の変換時に新しいレコードに移行できません。見込み客変換の際、連結フィールドに表示されるフィールドからの値を新規レコードに移行するには、見込み客変換用に個々のフィールドをマップします。

カスタマイズされたピックリストのフィールドおよび値について

見込み客レコードのピックリストのフィールドを、取引先レコード、担当者レコード、商談レコード、取引交渉登録レコードのテキストフィールド（長いまたは短い）や、同一の値を持つピックリストのフィールドにマップできます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

見込み客レコードを変換するときに追加フィールドをマップするには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール & 割当」をクリックします。
- 3 「見込み客変更管理」セクションで、「見込み客変更マッピング」をクリックします。
- 4 「見込み客変更マッピング」ページで、マップするフィールドを選択します。
- 5 マッピングをデフォルトの設定に戻すには、タイトルバーの「初期値」ボタンをクリックします。
- 6 「保存」をクリックします。

見込み客変換レイアウトの作成

「見込み客を変換」ページのカスタマイズしたレイアウトを作成し、レイアウトをユーザー役割に割り当てることで、ユーザーが見込み客を変換するときに使用できるオプションを指定できます。

注:見込み客を取引先、担当者、商談または取引交渉登録に変換するには、ユーザーのアクセスプロファイルおよび役割にも適切な設定が必要です。見込み客の変換に必要な設定の詳細は、「見込み客を変換するためのアクセスプロファイルおよび役割の設定」を参照してください。

次の表に、「見込み客を変換」ページで使用可能にできるオプションを示します。

レコードタイプ	オプション
取引先	取引先に変更しない 既存取引先を使用する 新規取引先を自動作成
担当者	既存担当者を使用する 新規担当者を自動作成
商談	商談に変更しない 新規商談を自動作成
取引交渉登録	取引交渉登録を作成しない 取引交渉登録の自動作成 注: [取引交渉登録] オプションは、企業が Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用 するように設定されている場合のみ該当しま す。

標準レイアウトが用意されています。標準レイアウトには、取引先、担当者、および商談のオプションはすべて含まれていますが、取引交渉登録のオプションは含まれていません。標準レイアウトをコピーしてコピーを編集できますが、標準レイアウトを編集または削除することはできません。

レコードタイプに対して使用可能にするオプションに応じて、[見込み客を変換] ページのレコードタイプセクションは次のような影響を受けます。

- いずれかのオプションをレコードタイプに対して使用可能にしない場合、[見込み客を変換] ページには、そのレコードタイプのセクションが含まれません。
- [取引先] レコードタイプに対して [取引先に変更しない] オプションのみを使用可能にした場合、[取引先] セクションはページに表示されません。
- [商談] レコードタイプに対して [商談に変更しない] オプションのみを使用可能にした場合、[商談] セクションはページに表示されません。
- (Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用する場合のみ) [取引交渉登録] レコードタイプに対して [取引交渉登録を作成しない] オプションのみを使用可能にした場合、[取引交渉登録] セクションはページに表示されません。

作業前の準備。ここで説明する手順を実行するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

見込み客変換レイアウトを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール & 割当] をクリックします。
- 3 [見込み客変更管理] セクションで、[見込み客変更レイアウト] をクリックします。
- 4 [見込み客変更レイアウトリスト] ページで、[新規レイアウト] をクリックします。
- 5 ステップ 1 の [レイアウト名] で、次の操作を行います。
 - a レイアウトの名前を入力します。
 - b (オプション) レイアウトの説明を入力します。
 - c このレイアウトをすべてのユーザーのデフォルトにする場合は、[デフォルト見込み客変更レイアウト] チェックボックスをオンにします。

注：デフォルトでは、Oracle CRM On Demand で提供される標準見込み客変更レイアウトは、別のレイアウトがデフォルトとしてマークされていないかぎり、会社のデフォルトの見込み客変更レイアウトとして機能します。別のレイアウトを作成し、新しいレイアウトの [デフォルトレイアウト] チェックボックスをオンにした場合、標準見込み客変更レイアウトはデフォルトではなくなります。したがって、標準見込み客変更レイアウトは、[デフォルトレイアウト] チェックボックスが他のレイアウトに対してオンになっていない場合にのみ、会社のデフォルトレイアウトになります。ただし、標準見込み客変更レイアウトの [デフォルトレイアウト] チェックボックスは、デフォルトとして機能している場合にも、常にオフのままになります。

- 6 ステップ 2 の [アクションの選択] では、[見込み客変更レコードタイプ] セクションでアクションを選択するレコードタイプ ([取引先]、[担当者]、[商談] または [取引交渉登録]) をハイライト表示し、矢印をクリックして、ページに表示するアクションを [見込み客変更使用可能アクション] セクションから [見込み客変更選択済みアクション] に移動します。各レコードタイプについて、このステップを繰り返します。

- 7 ステップ 3 の [確認] では、選択内容を確認し、必要に応じてステップ 2 [アクションの選択] に戻って選択内容を変更します。
- 8 [終了] をクリックして変更を保存します。

見込み客の拒否コード

ユーザーが見込み客を拒否する場合は、[見込み客を拒否] ページの [拒否コード] フィールドで拒否コードを選択する必要があります。ユーザーは、[拒否理由] フィールドに拒否の理由の説明テキストを入力することもできます。ユーザーが [拒否コード] フィールドで *[その他]* 値を入力した場合は、[拒否理由] フィールドが必須フィールドになり、ユーザーは見込み客が拒否された理由の説明を入力する必要があります。それ以外の場合、[拒否理由] フィールドはオプションです。

[拒否コード] フィールドのいくつかの値はデフォルトで指定されますが、これらの値を変更またはリストに値を追加できます。デフォルト値は次のとおりです。

- サードパーティ担当者
- 再連絡しない
- 副本
- 担当者との接触に失敗しました
- 不適切な担当者
- 不十分なデータ
- 無効な電話番号
- ビジネス商談なし
- 進行中の商談
- その他
- 最近連絡 (30 日未満)
- データ入力/システムエラー
- すでに製品を所有
- ターゲット基準に合致しません

ピックリスト値の編集については、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

注: *[その他]* 値の名前を変更した場合でも、ユーザーが名前変更した値を [見込み客を拒否] ページで選択したときに、[拒否理由] フィールドは必須フィールドになります。

売上予想定義の設定

Oracle CRM On Demand における売上予想は、定義された設定に従って自動的に生成されます。売上予想は、週ごとまたは月ごとに自動的に生成されます。生成された各売上予想はアーカイブに保存され、参照と分析用の履歴レコードになります。

すべての売上予想は、その四半期の売上と見込み売上に関する情報のスナップショットです。売上予想により、セールス要員とマネージャは、商談の現在の状況に従って、目標額、実際の確定売上、および予想売上に対する四半期のセールス実績を追跡することができます。

売上予想の参加者は役割によって選択されます。企業のレポート構造と、売上予想の参加者として選択する役割は、参加者が 1 人のトップレベルのユーザーにロールアップされるように設定する必要があります。通常、このトップレベルのユーザーは企業の副社長または最高経営責任者（CEO）です。

Oracle CRM On Demand によって売上予想が生成されると、従業員に売上予想が作成されたことを知らせる警告が各参加者の [個人ホームページ] に 2 日間表示されます。警告を表示する期間を延長するには、その警告の [失効日] フィールドを更新します。警告については、「[全社レベルの警告の公開](#) (ページ 74)」を参照してください。

売上予想タイプの決定

企業は、商談、製品、取引先、または担当者のいずれかに基づいて売上予想を行うことができます。売上予想には次の 4 タイプがあります。

- 商談製品
- 商談売上
- 取引先売上
- 担当者売上

企業は、売上予想の生成に対して設定された特定の売上予想日に基づいて、複数の売上予想タイプを生成できます。企業の売上予想の設定を選択するときは、企業全体で使用する売上予想タイプを決定します。

注:セールス要員が実行するアクションは、売上予想タイプによって特定されます。セールス要員が商談レコード、取引先レコード、担当者レコードの作成を開始する前に、売上予想のタイプを通知する必要があります。

商談製品売上予想

商談製品売上予想では、商談にリンクされている製品について報告します。商談製品売上予想の予想額は、すべての製品の [数量]、[売上]、および [予想売上] フィールドから計算されます。これらの製品は、売上予想の参加者が所有し、売上予想期間中に売上が認識される予定の製品です。製品の売上は、1 回で報告するか、複数の期間にわたって報告できます。

商談製品売上予想では、セールス要員が製品を商談レコードにリンクする必要があります。また、セールス要員は、売上予想に含める製品を指定するために、数量、購入価格、開始日、およびクローズ日を入力する必要があります。

商談製品レコードを売上予想に含めるには、その商談製品売上レコードが次の条件を満たしている必要があります。

- 売上予想期間内にクローズ日がある
- 売上予想の参加者によって所有されている

企業の予想売上にレコード値を含めるには、他にも情報を追加する必要があります。詳細は、「[商談と売上予想について](#)」を参照してください。

製品に基づいて売上を 1 回のみまたは繰り返し予想する場合は、商談製品売上予想を設定します。

商談売上予想

商談売上予想では、商談レコードに記載されている売上について報告します。売上予想額は、次の条件を満たすすべての商談レコードの [売上] フィールドと [予想売上] フィールドの値から計算されます。

- 売上予想期間内に商談のクローズ日がある
- 次のいずれかの条件を満たしている場合：

- 商談が売上予想の参加者によって所有されている
- 売上予想の参加者が商談チームのメンバーで、商談売上のシェアが0%より大きい（つまり、[商談チーム] ページの [分割 %] フィールドの値が0より大きい）

注:商談の売上をチームメンバー間で共有する場合は、企業プロファイルで [商談売上分割の有効化] チェックボックスをオンにする必要があります。

商談売上予想の場合、セールス要員は、商談の [売上] フィールドと [クローズ日] に入力し、売上予想に含める商談を指定する必要があります。売上予想では、リンクされている製品はすべて無視されます。

企業の予想売上にレコード値を含めるには、他にも情報を追加する必要があります。詳細については、商談と売上予想についてを参照してください。

個々の製品の売上額にかかわらず、商談売上の合計額を予想する場合は、商談売上予想を設定します。

取引先売上予想と担当者売上予想

取引先売上予想と担当者売上予想は、取引先レコードまたは担当者レコードにリンクした売上レコードに記載されている売上に対して報告されます。売上予想額は、売上予想に含める条件を満たしているレコードの [売上] フィールドと [予想売上] フィールドの値から計算されます。売上予想に含めるには、取引先売上レコードまたは担当者売上レコードが次の条件を満たしている必要があります。

- レコードが売上予想の参加者によって所有されている
- レコードの状態が [オープン]、[保留中]、または [クローズ] である
- レコードに対して [売上予想] フィールドがオンになっている
- レコードを商談にリンクできない
- レコードに、売上予想期間中に認識される予定の売上がある

取引先または担当者の売上は、一度に報告するか、または時間経過と共に報告するように設定できます。取引先売上予想と担当者売上予想を行うには、売上を取引先レコードと担当者レコードにリンクする必要があります。売上予想に含める製品を指定するために、売上レコードの [開始日]、[クローズ日]、[状態]、および [売上予想] の各フィールドを更新する必要があります。

企業の予想売上にレコード値を含めるには、他にも情報を追加する必要があります。詳細は、「取引先ごとの売上の追跡」および「担当者ごとの売上の追跡」を参照してください。

売上を一度だけまたは繰り返し予想する場合は、取引先売上予想または担当者売上予想を設定します。

売上予想期間の選択

売上予想を設定することで、最大で4四半期分の売上予測値を表示できます。拡張売上予想機能を使用すると、現四半期および以降の3つの四半期の予想をそれぞれ表示できます。

デフォルトでは、売上予想期間が1四半期（現四半期のみが売上予想に含まれる）に設定されます。複数の四半期を含めるように期間を変更すると、売上予想には現四半期と以降の四半期が含まれます。たとえば、2四半期分の期間を選択すると、売上予想には現四半期と次の四半期が含まれます。

レポート構造	売上予想が機能するか / しないか	理由
	わせ： ■ エグゼクティブ ■ フィールドセールス要員	ルス要員が、参加者ではないセールスマネージャにロールアップされる。
	機能する役割の組み合わせ： ■ エグゼクティブ ■ 営業管理者 ■ フィールドセールス要員	参加者が1人の参加者にロールアップされる。
	機能しない役割の組み合わせ： ■ エグゼクティブ ■ 営業管理者 ■ フィールドセールス要員	2人の参加者がだれにも報告しない。売上予想の1人の参加者（構造のトップレベルの参加者）だけは、だれにも報告しないことを許可される。

売上予想に無効なユーザーを含める

売上予想には、有効なユーザーとともに無効なユーザーも含めることができます。売上予想定義を設定するときは、無効なユーザーを売上予想に含めるかどうかを指定します。

マネージャが自分の部下の売上予想を提出することを許可する

売上予想定義を設定するときは、マネージャが自分の売上予想を提出する際に、自分の部下の売上予想を自動的に提出できるかどうかを指定します。

売上予想とカスタム会計カレンダー

カスタム会計カレンダーを使用する場合は、売上予想の生成に企業のカスタム会計カレンダー定義が使用されます。したがって、売上予想期間の月とカスタム会計カレンダーの月は一致します。

企業の管理者は、Oracle CRM On Demand で売上予想を作成する年ごとにカスタム会計カレンダーレコードを作成する必要があります。選択した売上予想期間をサポートするのに必要な数の会計カレンダーが作成されていない場合は、売上予想マスターを生成したり、売上予想を作成することはできません。

注:会計カレンダーの数が不十分なために売上予想の生成に失敗すると、プライマリ担当者（[企業プロフィール]で指定）がカスタマーサポートから電子メール通知を受け取ります。売上予想定義をサポートする会計カレンダーレコードを作成し、売上予想定義を更新すると、通常の売上予想日ではない場合でも、その晩に売上予想が自動的に生成されます。

売上予想失敗に関する電子メール通知について

売上予想が失敗した場合に送信される電子メール通知では、[差出人]アドレスは常に donotreply@crmondemand.com で、[送信者]フィールドは常に support@crmondemand.com に設定されます。Oracle の電子メール配信システムで電子メールを追跡できるように、各電子メールには、Oracle CRM On Demand によって文字列が追加されます。電子メール受信者が電子メールに回答しようとすると、返信の[宛先]フィールドは自動的に support@crmondemand.com に設定されます。

次の手順では、売上予想定義の設定方法について説明します。

売上予想定義を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理]セクションで、[データルール&割当]リンクをクリックします。
- 3 [売上予想管理]セクションで、[売上予想定義]をクリックします。
- 4 [売上予想定義]ページで、[更新]をクリックします。
- 5 ステップ1の[売上予想タイプの選択]で、生成する各売上予想タイプの[有効]チェックボックスをオンにします。
企業は、商談製品、商談売上、取引先売上、および担当者売上に基づいて販売売上高を予想できます。
- 6 ステップ2の[売上予想頻度の選択]で、次の手順を実行します。

- a [売上予想期間]フィールドで、売上予想期間を選択します。

注:企業に対して選択した会計カレンダーの設定によって、各四半期の長さが決まります。売上予想期間の開始日と終了日は、企業プロフィールに設定されている会計カレンダーの開始日と会計カレンダータイプに基づいて計算されます。会計カレンダータイプが[カスタム会計カレンダー]の場合、開始日と終了日は企業の管理者が定義した会計カレンダーに基づきます。

- b [売上予想スナップショットの単位]フィールドで、売上予想スナップショットを作成する頻度を指定します。

売上予想は毎週または毎月生成できます。

注:[月]を選択すると、企業に対して選択した会計カレンダータイプによって、月の長さが決まります。

- c [売上予想スナップショット実行曜日]フィールドで、売上予想スナップショットを作成する月の日付または曜日を選択します。

売上予想は、ホスト施設のタイムゾーンで選択した日の開始時（午前0時1分）に生成されます。Oracle CRM On Demand では、売上予想の生成頻度が毎月で、現在の月に、売上予想の生成日として選択した日がない場合は、その月の最終日に売上予想を生成するようにスナップショットが調整されます。たとえば、[売上予想スナップショット実行曜日]が30日に設定され、現在の月が2月の場合は、Oracle CRM On Demand では、28日に売上予想を生成するように売上予想スナップショットが調整されます。

7 ステップ 3 の「売上予想ロールの選択」で、次の手順を実行します。

- a 売上予想に参加するユーザーの役割を「売上予想役割」エリアに追加します。矢印をクリックして、企業の役割を「売上予想役割」リストに移動します。
- b 無効なユーザーの売上予想を許可するには、「無効なユーザーの売上予想を許可」チェックボックスをオンにします。
- c マネージャが自分の部下の売上予想を自動的に提出するのを許可するには、「マネージャ送信時のチームに対する売上予想の自動送信」チェックボックスをオンにします。

8 「終了」をクリックします。

9 「売上予想定義」ページで、売上予想スナップショットの頻度、売上予想スナップショット実行曜日、次の売上予想マスター日、および売上予想マスター参加者のリストをレビューして売上予想の詳細を確認します。

注意: 売上予想定義を設定した後に、ユーザーレコードまたは会計カレンダーを変更した場合は、売上予想定義の設定を更新する必要があります。詳細については、「[売上予想定義の更新 \(ページ 465\)](#)」を参照してください。

売上予想定義の更新

企業の売上予想定義を更新することで、売上予想の頻度の変更や役割の追加または変更を行えます。また、ユーザーレコードに特定の変更が実施された場合または会計カレンダーが変更された場合は、変更内容が反映されるように売上予想定義を更新する必要があります。

次の変更が行われた場合は、売上予想定義を更新する必要があります。

- 売上予想参加者のマネージャが変更された場合。マネージャ情報は、「上司」フィールドまたは「上司 (エイリアス)」フィールド (どちらのフィールドがユーザーレコードのページレイアウトに表示されるかによって決まる) にある売上予想参加者のユーザーレコードに保存されます。

売上予想参加者のマネージャが変更された場合は、次のように、売上予想定義を更新する必要があります。

- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれていない場合は、売上予想定義に役割を追加する必要があります。
- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれている場合は、新しいレポート構造が今後の売上予想に反映されるように売上予想定義を更新する必要があります。

注: 売上予想参加者階層には、最上位レベル以外のすべての参加者のマネージャが含まれている必要があります。

- 売上予想階層の参加者であるユーザーが非アクティブ化された場合。

従業員が退社するときは、そのユーザーの状態を「無効」に変更する必要があります。無効になった従業員が売上予想階層のマネージャである場合は、その従業員に報告する売上予想参加者のユーザーレコードも更新する必要があります。

この場合は、次のように売上予想定義を更新する必要があります。

- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれていない場合は、売上予想定義に役割を追加する必要があります。
- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれている場合は、新しいレポート構造が今後の売上予想に反映されるように売上予想定義を更新する必要があります。

注:売上予想定義で、無効になったユーザーの売上予想が許可されている場合は、売上予想参加者が無効にされたときに売上予想定義を更新する必要はありません。

- 売上予想定義に含まれている役割に対してユーザーが追加または削除された場合。

この場合は、変更内容が反映されるように売上予想定義の更新のみを実行する必要があります。

- 会計カレンダーに変更が加えられた場合。

この場合は、変更内容が反映されるように売上予想定義の更新のみを実行する必要があります。

注:会計カレンダーに変更が加えられた場合は、企業で使用している会計カレンダーのタイプ（標準またはカスタム）に関係なく、売上予想定義を更新する必要があります。

注:ここで説明されている変更が Oracle CRM On Demand で行われた場合は、売上予想定義が更新されるまで、生成される売上予想には変更が反映されません。

次の手順では、売上予想定義の更新方法について説明します。

売上予想定義を更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール&割当」リンクをクリックします。
- 3 「売上予想管理」セクションで、「売上予想定義」をクリックします。
- 4 「売上予想定義」ページで、「更新」をクリックします。
- 5 「ステップ 1: 売上予想タイプの選択」で、必要に応じて変更を加えます。
- 6 「ステップ 2: 売上予想頻度の選択」をクリックします。
- 7 「ステップ 2: 売上予想頻度の選択」で、必要に応じて変更を加えます。
- 8 「ステップ 3: 売上予想ロールの選択」をクリックします。
- 9 「ステップ 3: 売上予想ロールの選択」で、必要に応じて変更を加えます。
- 10 「終了」をクリックします。

売上予想定義が自動的に更新され、更新された売上予想参加者リストなどの定義の概要が、「売上予想定義」ページに表示されます。

セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定

セールス方法をカスタマイズして、セールス環境の要件や複雑さを反映させることができます。これによりセールス要員は、さまざまなセールスステージで取引のガイドとしてセールス方法を利用できます。

企業の販売プロセスまたはビジネス習慣を反映するように、セールスステージ情報を調整できます。商談の作成および更新時、従業員はその商談の進行状況を表すセールスステージを選択します。各セールスステージはパーセンテージにリンクされています。この情報は、パイプライン、予想売上、確定売上の計算を含むレポートと売上予想にも使用されます。

セールスステージのカスタマイズの一環として、次の操作を行えます。

- セールスステージの名前の変更
- セールスステージの追加および削除
- セールスステージの順序の変更
- セールスステージに関連付けられた確度のパーセンテージの変更

セールスプロセスについて

セールス環境の中には、セールスステージが1セットのみの単一のセールスプロセスのみを必要とするものがあります。プロセスごとに別々のセールスステージを使用するような、より複雑なセールス環境もあります。たとえば、社内のセールス要員とフィールドセールス要員は、それぞれ別々のセールスプロセスに従う可能性があります。

セールス要員が従うセールスプロセスは、商談タイプによっても変わることがあります。たとえば、機器を販売するセールス要員の場合、セールスステージ数が増え、セールスプロセスが比較的長くなります。これに対して、サービス契約を販売するセールス要員の場合、セールスステージ数が少なくなり、セールスプロセスが短くなります。

セールス方法をさらに整理するには、一連のセールスステージをセールスプロセスとして定義し、各プロセスを次のいずれかにリンクできます。

- 商談タイプ
- ユーザーの役割

これにより、異なる商談タイプまたは異なるユーザー役割についてセールスプロセス（および各プロセスを持つセールスステージ）をカスタマイズできます。

例:セールス要員が新しい商談を作成します。商談に関する情報を入力するときに、[商談タイプ] オプションから[サービス]を選択します。これにより、アプリケーションではその商談タイプに適切なセールスプロセスが表示されます。

注: 商談タイプに基づくセールスプロセスは、ユーザーの役割に基づくデフォルトのセールスプロセスより優先されます。別の言い方をすると、従業員が商談を作成すると、その役割のデフォルトのセールスプロセスがその商談に割り当てられます。その後、従業員が、セールスプロセスが割り当てられている商談タイプを選択すると、その商談のセールスプロセスが、選択した商談タイプに基づいて推進されます。

検索およびリストフィルターでのセールスステージについて

ユーザーが検索基準およびリストフィルターで選択できるセールスステージは、次のように決定されます。

- アクションバーの[商談] レコードタイプのターゲット検索で、[セールスステージ] フィールドを検索フィールドとして使用できる場合、ユーザーは、ユーザーの役割に対して指定されているセールスプロセスに関連付けられたセールスステージ、またはユーザーの役割に対してセールスプロセスが指定されていない場合は、デフォルトのセールスプロセスに対するセールスステージのみを選択できます。使用可能なセールスステージは、アクションバーで[商談タイプ] フィールドを検索フィールドとして使用でき、ユーザーが検索に商談タイプを選択した場合でも、商談タイプで制限されません。
- [商談] レコードタイプの高度な検索で、ユーザーは、[セールスステージ] フィールドに対してフィルター値として Oracle CRM On Demand に存在するいずれかのセールスステージを選択できます。使用可能なフィルター値は、検索を実行するユーザーの役割に対してデフォルトのセールスプロセスが指定されている場合、またはユーザーが検索に対するフィルターとして商談タイプを選択した場合でも、特定のセールスプロセスのセールスステージに制限されません。
- [商談] レコードタイプに対するリストフィルターの設定時に、ユーザーは、[セールスステージ] フィールドに対してフィルター値として Oracle CRM On Demand に存在するいずれかのセールスステージを選択できます。使用可能なフ

フィルター値は、リストを作成するユーザーの役割に対してデフォルトのセールスプロセスが指定されている場合、またはユーザーがリストのフィルターとして商談タイプを選択した場合でも、特定のセールスプロセスのセールスステージに制限されません。

セールスステージカテゴリーについて

異なるセールスプロセスにわたって特定のセールスステージにリンクできる、ステージ 1、2 または 3 のようなセールスステージカテゴリーも設定できます。異なるプロセスからの情報を集約する必要がある場合、セールスステージカテゴリーに対してレポートを実行し、すべての商談タイプまたは役割にわたってパイプラインの正確なビューを提供できます。

セールスプロセスコーチについて

セールスプロセスコーチを使用して、各セールスステージに必要な情報を正確に入力するための指示をチームに与えることができます。セールスプロセスコーチは、ドキュメント、テンプレート、および競合先情報のような有用な情報だけでなく、従業員が従う特定の手順も提供します。また、セールスサイクルにおける商談の進行状況に基づいた情報の収集を強化できます。さらに、商談レコードの保存時に、特定のタスクが自動的に作成されるように指定できます。これらのタスクは従業員のタスクリストに表示されます。

セールスプロセスコーチの一環として、次の操作を行えます。

- 従業員が [コーチ] ボタンを使用してアクセスする各セールスステージの情報の追加
- 入力すべきフィールドなど各セールスステージの要件の設定（これらの要件は、新しいステージで商談を保存する前の確認事項として使用されます）。
- 従業員がさまざまなセールスステージにリンクされた商談を保存するときに生成される自動化タスクの設定

システムを導入した後にいずれかのセールスステージを変更すると、それまでのすべてのレコードは、手動で更新されるまでは割り当てられたセールスステージを維持します。

注： [確度 (%)] フィールドのデフォルトのピックリスト値を変更するには、商談の項目設定ページからそのフィールドを編集する必要があります（「[ピックリスト値の変更](#)（ページ 137）」を参照）。

セールス方法を設定する場合は、次の一般的なプロセスに従います。

- 1 セールスステージカテゴリーを設定します（セールスプロセスが複数ある場合）。
- 2 セールスプロセス（複数可）を設定します。
- 3 各セールスプロセスのセールスステージを設定します。
- 4 セールスステージに対してコーチ機能を設定します。

作業前の準備：

- 次の手順を実行するには、[セールスステージ定義] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- [商談タイプ] フィールドに基づいてセールスプロセスを割り当てる場合、ピックリスト値が使用する値であることを確認します。デフォルトの商談タイプ値は、[更新] および [新規ビジネス] です。ピックリスト値をカスタマイズする方法については、「[ピックリスト値の変更](#)（ページ 137）」を参照してください。

さらに、[商談タイプ] フィールドと一緒に使用する役割ごとにページレイアウトに表示されることを確認します。手順については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)（ページ 142）」を参照してください。

セールスステージカテゴリーを設定するには（オプション）

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール&割当」リンクをクリックします。
- 3 「セールス方法」セクションで、「セールスカテゴリー」リンクをクリックします。
- 4 「翻訳言語」リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 「セールスステージカテゴリー」ページで、「新規」をクリックして新規セールスステージカテゴリーを作成するか、編集するセールスステージカテゴリーのレコードレベルメニューから「編集」を選択します。
- 6 「セールスステージカテゴリーを編集」ページまたは「新規セールスステージカテゴリー」ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
ステージカテゴリー	セールスステージカテゴリーの名前。
オーダー	セールスステージカテゴリーが Oracle CRM On Demand Answers に表示される順序。
翻訳	（オプション）更新した（既存の）名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、「翻訳」チェックボックスをオンにします。 新しいセールスステージカテゴリー名を追加すると、「翻訳」チェックボックスが読み取り専用になります。追加した新しい名前は、他の有効な言語で自動的に表示されます（括弧なしの青いテキスト）。 セールスステージカテゴリーの名前を更新したときに「翻訳」チェックボックスをオンにした場合、翻訳された名前を手動で入力するまで、更新された名前は他の有効な言語のピックリストに表示されます（括弧で囲まれた青いテキストで）。青いテキストは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。 「翻訳」チェックボックスをオンにしないと、更新された名前は他の言語では表示されず、ここで行った変更は反映されません。

- 7 レコードを保存します。
- 8 新しいセールスステージカテゴリーの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a 「翻訳言語」リストから言語を選択します。
 - b セールスステージカテゴリーの「編集」リンクをクリックします。
 - c 翻訳した名前を「ステージカテゴリー」フィールドに入力し、「保存」をクリックします。

セールスプロセスを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール&割当」リンクをクリックします。
- 3 「セールス方法」セクションで、「セールスプロセス」リンクをクリックします。
- 4 「翻訳言語」リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 「セールスプロセスリスト」ページで、「新規」をクリックして新規セールスプロセスを作成するか、編集するセールスプロセスのレコードレベルメニューから「編集」を選択します。
- 6 「セールスプロセスの編集」ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
デフォルトセールスプロセス	企業のデフォルトのセールスプロセス。ユーザー役割またはレコードの商談タイプに他のセールスプロセスが割り当てられていない場合、このセールスプロセスが使用されます。
翻訳	(オプション) 更新した(既存の)名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、「翻訳」チェックボックスをオンにします。

- 7 「保存」をクリックします。
- 8 セールスプロセスを「商談タイプ」フィールド値にリンクするには
 - a 「セールスプロセスリスト」ページで、リンクするセールスプロセス名をクリックします。
 - b 「関連商談タイプ」タイトルバーの「追加」をクリックします。
 - c 「商談タイプ」を選択し、「保存」をクリックします。

注： 各商談タイプにリンクできるセールスプロセスは1つのみです。リンク後、商談タイプ値はピックリストから削除され、他のセールスプロセスで選択できないようになります。これで、複数のセールスプロセスが1つの商談タイプにリンクされることがなくなります。

選択した値に対応する「商談タイプ」フィールドのあるレコードに従業員が持つ場合、従業員にはこのセールスプロセスのセールスステージが表示されます。
- 9 新しいセールスプロセスの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a 「セールスプロセスリスト」ページに戻ります。
 - b 「翻訳言語」リストから言語を選択します。
 - c セールスプロセスの「編集」リンクをクリックします。
 - d 翻訳した名前を「セールスプロセス」フィールドに入力し、「保存」をクリックします。

- 10 セールスプロセスをデフォルトとして使用するよう選択するには

- a [セールスプロセスリスト] ページで、デフォルトとして設定するセールスプロセスの [セールスプロセス名] リンクをクリックします。
- b [編集] をクリックします。
- c [デフォルトのセールスプロセス] チェックボックスをオンにします。
- d レコードを保存します。

注： このセールスプロセスは、他にリンクされたセールスプロセスがないレコードまたは役割について表示されます。

セールスプロセスのセールスステージを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [セールス方法] セクションで、[セールスプロセス] リンクをクリックします。
- 4 [セールスプロセスリスト] ページで、[セールスプロセス名] リンクをクリックします。
- 5 セールスステージを設定するには
 - a [セールスステージ] タイトルバーで、[新規] をクリックして新規セールスステージを作成するか、編集するセールスステージのレコードレベルメニューから [編集] を選択します。
 - b [セールスステージ編集] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
デフォルト確度	指定したクローズ日に指定した売上取引がクローズする確率を表すパーセンテージ。デフォルトでは、商談に割り当てられる確度は商談のセールスステージに基づいて自動的に調整されます。ユーザーはこの値を手動で上書きできますが、ユーザーが商談に対して新しいセールスステージを選択すると、商談の [確度 (%)] フィールドの値は、新しいセールスステージに対するデフォルトの確度の値に自動的に更新されます。 注： 1 つ以上の商談レコードの [セールスステージ] フィールドの値を変更するために大量更新機能を使用される場合、レコードの [確度 (%)] フィールドの値は、新しいセールスステージに対するデフォルトの確度 (%) に更新されません。 重要： [クローズ済み/成立] と [クローズ済み/失敗] を除き、0%または 100% の確度を持つ他のセールスステージは設定しないでください。Oracle CRM On Demand アプリケーションによって内部的に使用されるピックリストを変更すると、標準機能に好ましくない影響が出る可能性があります。
オーダー	セールスステージがピックリストに表示される順序。セールスステージを追加したら、それ以降のすべてのセールスステージの順序値を変更する必要があります。このように、商談ページの [セールスステージ] ドロップダウンリストに、正しい順序で情報を確実に並べることができます。

フィールド	説明
翻訳	(オプション) 更新した (既存の) 名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。
ステージカテゴリ	このセールスステージが該当するセールスステージカテゴリの名前。

- 6 レコードを保存します。
- 7 新しいセールスステージの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [セールスプロセス詳細] ページの [セールスステージ] セクションで、[リストを全表示] をクリックします。
 - b [セールスステージ] ページの [翻訳言語] フィールドで、言語を選択します。
 - c セールスステージの [編集] リンクをクリックします。
 - d 翻訳した名前を [セールスステージ名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
- 8 レコードを保存します。

セールスステージに対してコーチ機能を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [セールス方法] セクションで、[セールスプロセス] リンクをクリックします。
- 4 [翻訳言語] リストから企業のプライマリ言語を選択します。
 企業のプライマリ言語を選択しないと [翻訳] チェックボックスは表示されず、ここに追加した翻訳していない用語は表示されません。
- 5 [セールスステージリスト] ページで、コーチ情報の対象として設定するセールスステージのリンク ([セールスステージ] カラム内) をクリックします。
- 6 フィールドをこのセールスステージに対して必須にするために、次の操作を行います。
 - a [その他の必須項目] タイトルバーの [新規] をクリックします。
 - b [その他の必須項目を編集] ページで、リストからフィールドを選択します。
 - c 画面上に表示されるデフォルト値を入力するためのヒントを確認し、その後、デフォルト (オプション) として設定する値を入力します。
 デフォルト値を入力すると、そのフィールドが空白の場合にだけ、デフォルト値はレコードに追加されます。たとえば、レコードに売上値が既に保存されている場合、ここで売上のデフォルト値を指定しても、レコードに既に保存されている売上額は上書きされません。
 - d レコードを保存します。

- 7 ステージにおける目標や重要ステップなど、従業員が確認するセールスステージのガイドラインを追加するには、次の操作を行います。
 - a [プロセスコーチステップ] タイトルバーで、[新規] をクリックします。
 - b [プロセスコーチステップ編集] ページで、この情報の表示順序を示す数字を入力します。
従業員が商談レコードから [コーチ] ボタンをクリックすると、従業員は最初の 10 個のサブステップを見ることができます。10 個を超えるサブステップを追加した場合、従業員は [リストを全表示] リンクをクリックすることによってリスト全体を見ることができます。
 - c 翻訳対象の情報をマークするには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。
 - d レコードを保存します。
このセールスステージにリンクされた商談レコードについて、従業員が自身の商談レコードから [コーチ] ボタンをクリックすると、この情報がその従業員の [セールスプロセスコーチ] ページに表示されます。
- 8 従業員がセールスステージに適したリソースにアクセスするために使用する添付資料または URL を追加するには、次の操作を行います。
 - a [便利なりソース] タイトルバーで、[添付資料を追加] または [URL を追加] をクリックします。
 - b [添付資料編集] または [URL 編集] ページで、情報を入力します。
 - c レコードを保存します。
従業員が自身の商談レコードから [コーチ] ボタンをクリックすると、このセールスステージにリンクされた添付資料または URL のリストがその従業員のセールスプロセスコーチページに表示されます。
- 9 従業員がセールスステージを更新すると自動的に生成されるタスクを定義するには、次の操作を行います。
 - a [自動化タスク] タイトルバーの [新規] をクリックします。
 - b [自動化タスク編集] ページで、情報を入力します。
ここで設定する情報は各タスクのテンプレートとして使用されます。新しく生成されたタスクはこの商談にリンクされるので、そのタスクは該当する活動リストだけでなく [商談詳細] ページにも表示されます。
注： [締切日] フィールドに数字を入力して、タスクの作成後から締め切りまでの日数を指定する必要があります。たとえば、タスクが 12 月 6 日に作成され、締切日としてここで「10」と入力した場合、12 月 16 日に締め切りになるタスクとして、そのタスクは従業員のタスクリストに表示されます。
所有者の場合、次の動作が適用されます。
 - このタスクは、選択した役割が割り当てられているユーザーごとに生成されます。
 - どのユーザーも取引先チームの役割を果たしていない場合、このタスクは商談所有者に割り当てられます。**注：** レコード所有権モードが自動生成タスクの所有権に与える影響の詳細は、「[レコード所有権モードおよび自動生成タスク](#) (ページ 312)」を参照してください。
 - c レコードを保存します。

企業の業種リストのカスタマイズ

〔業種〕フィールドは、取引先、アプリケーション、見込み客およびパートナーなどの様々なレコードタイプのピックリストフィールドです。レコードに関連付けられているビジネスのタイプを追跡するのに使用されます。業種を追加または削除したり、リスト内の業種の表示名を変更したりして、企業で使用している用語体系に合わせて業種ピックリストを変更できます。

注: リストに追加できる業種の数に制限はありません。ただし、レコード詳細ページで〔業種〕フィールドのピックリスト値としてユーザーが選択できるのは、リスト内の最初の 300 件のアクティブの業種のみです。業種値は ASCII コードの昇順で配置されます。つまり、並べ替えで大文字小文字が区別されます。数字で始まる値、大文字で始まる値、小文字で始まる値の順に表示されます。〔有効化〕チェックボックスが選択されている業種はアクティブになります。

次の手順では、業種の更新方法について説明します。

業種を更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔ビジネスプロセス管理〕セクションで、〔データルールおよび割当〕リンクをクリックします。
- 3 〔業界定義〕セクションで、〔業界定義〕リンクをクリックします。
- 4 〔業界編集〕ページで、必要に応じて業種の情報を変更します。
- 5 変更を保存します。

次の手順では、業種の追加方法について説明します。

業種を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔ビジネスプロセス管理〕セクションで、〔データルールおよび割当〕リンクをクリックします。
- 3 〔業界定義〕セクションで、〔業界定義〕リンクをクリックします。
- 4 〔業界編集〕ページの〔翻訳言語〕フィールドで、企業のプライマリ言語を選択し、〔新規〕をクリックします。
- 5 新規の〔業界編集〕ページで、業種の情報を入力します。
- 6 変更を保存します。

注: 業種の SIC コードは、〔業界編集〕ページに表示されます。SIC（標準産業分類）システムは、すべての事業を、その製品またはサービスのタイプによって分類する一連の数値コードです。事業規模や所有のタイプとは関係なく、同じ活動を行う事業には同じ SIC コードが割り当てられます。SIC コードは、データの収集、表形式化および分析を容易にし、統計分析比較を向上する目的で開発されました。

次の手順では、業種の翻訳を手入力する方法について説明します。

業種の翻訳を手動で入力するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルールおよび割当」リンクをクリックします。
- 3 「業界定義」セクションで、「業界定義」リンクをクリックします。
- 4 「業界編集」ページの「翻訳言語」フィールドで、言語を選択します。
- 5 翻訳した名前を「表示名」フィールドに入力します。
- 6 変更を保存します。

注: 企業を Oracle CRM On Demand で最初に設定すると、その業種のデフォルト名と表示名が企業のデフォルト言語で生成されます。企業のデフォルト言語を後で変更した場合、その業種の表示名は新しい言語で表示されます。ただし、業種のデフォルト名は、最初に企業のデフォルト言語であった言語で表示され続けます。

変更トラッキング

管理者は、変更トラッキング機能を使用してレコードタイプに対するランタイムの変更を追跡できます。レコードタイプに対して変更トラッキング機能を有効にすると、Oracle CRM On Demand によって、そのレコードタイプに対するすべての変更イベントがログに記録されて、変更トラッキングレコードが変更トラッキングイベントリストに書き込まれます。Oracle CRM On Demand によって削除済み項目の通常の削除が実行されると、古い変更トラッキングレコードは永久に削除されます。古いレコードとは、30 日以上経過したレコードと定義されています。

Oracle CRM On Demand と統合された Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales などの外部アプリケーションでは、変更トラッキング機能を使用できます。また、外部アプリケーションは、Web サービスを使用して変更トラッキングエントリを読み取ることができます。Web サービスを使用した変更トラッキングエントリの読み取りの詳細は、『*Oracle Web Services On Demand Guide*』を参照してください。

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)
- [追跡されるレコードタイプ](#) (ページ 476)
- [変更トラッキングイベントについて](#) (ページ 487)
- [「変更トラッキングリスト」ページの表示](#) (ページ 488)
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#) (ページ 485)
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

変更トラッキング機能の有効化

すべてのモジュールに対して次の手順を使用して、Oracle CRM On Demand の変更トラッキング機能を有効にします。

作業前の準備。 ユーザーは、Oracle CRM On Demand に管理者としてサインインし、[変更トラッキングの管理] 権限および[役割およびアクセスの管理]権限の両方を含む役割を割り当てられている必要があります。企業の管理者の役割に対して変更トラッキングの管理権限が有効化されていない場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

レコードタイプに対して変更トラッキングを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、変更トラッキングの有効化をクリックします。
- 3 開いたページで、追跡するレコードタイプ（オブジェクト名）の [変更ワークフローの有効化] チェックボックスをオンにします。

注: レコードタイプの変更トラッキング機能を無効にするには、そのレコードタイプの [変更ワークフローの有効化] チェックボックスをオフにします。

[管理ホームページ] に移動して、[ビジネスプロセス管理] セクションの [変更トラッキング] をクリックすると、[変更トラッキングリスト] ページにリストされている関連変更情報を表示できます。

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [追跡されるレコードタイプ](#) (ページ 476)
- [変更トラッキングイベントについて](#) (ページ 487)
- [\[変更トラッキングリスト\] ページの表示](#) (ページ 488)
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#) (ページ 485)
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

追跡されるレコードタイプ

このトピックでは、Oracle CRM On Demand によって変更イベントが追跡されるレコードタイプを示します。変更トラッキング機能を使用するには、それらのレコードタイプを選択する必要があります。[変更トラッキングリスト] ページに表示されるレコードタイプ名は、Oracle CRM On Demand ユーザーインターフェイスの他の場所に表示されるレコードタイプ名と一致します。変更トラッキング情報を取得するための Oracle CRM On Demand の Web サービスリクエストで使用されるレコードタイプ名は、次の表の右側の列にリストされている名前と一致する必要があります。

注: 右側の列内のレコードタイプ名は言語独立です。

次の表に、Oracle CRM On Demand で変更トラッキング機能を有効にできるレコードタイプを示します。

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイス のレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコード タイプ
取引先	取引先
取引先住所	AccountAddress
取引先ブック	AccountBook
取引先競合会社	Competitor
取引先担当者	AccountContact
取引先担当者役割	ContactRole
取引先のメモ	メモ
取引先パートナー	パートナー
取引先関係	RelatedAccount
取引先チーム	AccountTeam
認定	認定
認定ブック	AccreditationBook
認定リクエスト	AccreditationRequest
認定チーム	AccreditationTeam
活動	活動
活動添付資料 (全件)	添付資料
活動ユーザー	ユーザー
住所	住所
住所	Address
割当	割当
割当ブック	AllocationBook
申込書類	申込書類
アプリケーションブック	ApplicationBook
アプリケーションチーム	ApplicationTeam
アセスメント	SalesAssessment
アセスメント値	SalesAssessmentValue
資産	資産

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
自動車ディーラー製造メーカー	AutoDealerMakes
自動車営業時間	AutoSalesHours
自動車サービス時間	AutoServiceHours
ブロック製品	BlockedProduct
ブック	ブック
ブックユーザー	BookUser
ブローカープロフィール	BrokerProfile
ビジネス計画	BusinessPlan
ビジネス計画ブック	BusinessPlanBook
ビジネス計画チーム	BusinessPlanTeam
コール製品詳細	ProductsDetailed
コール製品詳細メッセージ応答	CallProdDetailMsgRsp
コール製品詳細メッセージプラン項目	CallProdDetailMsgPlanItem
コール製品詳細メッセージプラン項目関係	CallProdDetailMsgPlnRel
コール提供プロモーションアイテム	PromotionalItems
コール提供サンプル	SampleDropped
キャンペーン	キャンペーン
キャンペーンブック	CampaignBook
キャンペーン受取人	Recipient
認定レベル	認定レベル
認定レベルブック	CertificationBook
認定リクエスト	CertificationRequest
認定チーム	CertificationTeam
請求	請求
担当者	担当者
担当者の住所	ContactAddress
担当者最適時刻	ContactBestTimes
担当者ブック	ContactBook
担当者の関心事	Interests

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイス のレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
担当者のメモ	メモ
担当者ポートフォリオ	担当者
担当者関係	RelatedContact
担当者の都道府県免許	ContactLicense
担当者チーム	チーム
コース	コース
コースブック	CourseBook
コース登録	CourseEnrollment
コースチーム	CourseTeam
補償内容	補償内容
カスタムオブジェクト 01	CustomObject1
カスタムオブジェクト 01 ブック	CustomObject1Book
カスタムオブジェクト 01 チーム	チーム
カスタムオブジェクト 02	CustomObject2
カスタムオブジェクト 02 ブック	CustomObject2Book
カスタムオブジェクト 02 チーム	チーム
カスタムオブジェクト 03	CustomObject3
カスタムオブジェクト 03 ブック	CustomObject3Book
カスタムオブジェクト 03 チーム	チーム
カスタムオブジェクト 04	CustomObject4
カスタムオブジェクト 04 ブック	CustomObject4Book
カスタムオブジェクト 04 チーム	CustomObject4Team
カスタムオブジェクト 05	CustomObject5
カスタムオブジェクト 05 ブック	CustomObject5Book
カスタムオブジェクト 05 チーム	CustomObject5Team
カスタムオブジェクト 06	CustomObject6
カスタムオブジェクト 06 ブック	CustomObject6Book
カスタムオブジェクト 06 チーム	CustomObject6Team
カスタムオブジェクト 07	CustomObject7

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
カスタムオブジェクト 07 ブック	CustomObject7Book
カスタムオブジェクト 07 チーム	CustomObject7Team
カスタムオブジェクト 08	CustomObject8
カスタムオブジェクト 08 ブック	CustomObject8Book
カスタムオブジェクト 08 チーム	CustomObject8Team
カスタムオブジェクト 09	CustomObject9
カスタムオブジェクト 09 ブック	CustomObject9Book
カスタムオブジェクト 09 チーム	CustomObject9Team
カスタムオブジェクト 10	CustomObject10
カスタムオブジェクト 10 ブック	CustomObject10Book
カスタムオブジェクト 10 チーム	CustomObject10Team
カスタムオブジェクト 11	CustomObject11
カスタムオブジェクト 11 ブック	CustomObject11Book
カスタムオブジェクト 11 チーム	CustomObject11Team
カスタムオブジェクト 12	CustomObject12
カスタムオブジェクト 12 ブック	CustomObject12Book
カスタムオブジェクト 12 チーム	CustomObject12Team
カスタムオブジェクト 13	CustomObject13
カスタムオブジェクト 13 ブック	CustomObject13Book
カスタムオブジェクト 13 チーム	CustomObject13Team
カスタムオブジェクト 14	CustomObject14
カスタムオブジェクト 14 ブック	CustomObject14Book
カスタムオブジェクト 14 チーム	CustomObject14Team
カスタムオブジェクト 15	CustomObject15
カスタムオブジェクト 15 ブック	CustomObject15Book
カスタムオブジェクト 15 チーム	CustomObject15Team
注: 企業では、カスタムオブジェクト 15 を超える追加のカスタムオブジェクトとその子オブジェクトを設定できます。これらの追加カスタムオブジェクトとその子オブジェクトは、前のカスタムオブジェクトとその子オブジェクトと同じネーミングパターンに従います。	
損傷	損傷

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
取引交渉登録	DealRegistration
取引交渉登録ブック	DealRegistrationBook
取引交渉登録チーム	DealRegistrationTeam
自動車ディーラー	自動車ディーラー
自動車ディーラーテリトリー	ChannelPartnerTerritory
レコードタイプ別のデフォルトブック	UserUserDefaultBookPerType
部署	部署
イベント	医学教育
イベントブック	MedEdBook
EventTeam	MedEdTeam
試験	試験
試験ブック	ExamBook
試験登録	ExamRegistration
試験チーム	ExamTeam
金融口座	FinancialAccount
金融口座ブック	FinancialAccountBook
金融口座名義人	FinancialAccountHolder
金融口座保有状況	FinancialAccountHolding
財務計画	FinancialPlan
財務計画ブック	FinancialPlanBook
金融製品	FinancialProduct
金融トランザクション	FinancialTransaction
資金	資金
資金ブック	FundBook
資金引き落とし	FundDebit
資金項目	OccamFundCredit
資金メンバーシップ	FundPartner
資金参加者	FundParticipantUserSharing
資金リクエスト	FundRequest

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイス のレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
HCP 担当者割当	HCPContactAllocation
HCP 担当者割当ブック	HCPContactAllocationBook
世帯	世帯
世帯担当者	担当者
世帯チーム	チーム
保険不動産	InsuranceProperty
在庫監査レポート	InventoryAuditReport
在庫監査レポートブック	InventoryAuditReportBook
在庫期間	InventoryPeriod
在庫期間ブック	InventoryPeriodBook
招待者	招待者
関連パーティ	InvolvedParty
見込み客	見込み客
見込み客ブック	ブック
見込み客パートナー	パートナー
見込み客チーム	LeadTeam
MDF リクエスト	MDFRequest
MDF リクエストブック	MDFRequestBook
MDF リクエストチーム	MDFRequestTeam
メッセージ応答	MessageResponse
メッセージプラン	MessagePlan
メッセージプランブック	MessagePlanBook
メッセージプラン項目	MsgPlanItem
メッセージプラン項目関係	MsgPlanItemRelation
目標	目標
目標ブック	ObjectivesBook
目標チーム	ObjectivesTeam
商談	商談
商談ブック	ブック

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイス のレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
商談競合会社	Competitor
商談担当者役割	OpportunityContactRole
商談のメモ	メモ
商談パートナー	パートナー
商談チーム	チーム
オーダー	オーダー
オーダーブック	OrderBook
オーダー項目	OrderItem
オーダーチーム	OrderTeam
パートナー	パートナー
パートナーブック	PartnerBook
パートナープログラム	プログラム
パートナーチーム	PartnerTeam
期間	CRMOD_LS_Period
ピックリスト	Picklist (管理者 API)
ピックリスト値グループ	PicklistValueGroup
計画取引先	PlanAccount
計画担当者	PlanContact
計画商談	PlanOpportunity
保険	保険
保険ブック	PolicyBook
保険名義人	PolicyHolder
ポートフォリオ	ポートフォリオ
ポートフォリオチーム	チーム
役割	ユーザー
価格リスト	PriceList
価格リスト明細項目	PriceListLineItem
製品	製品
製品カテゴリー	ProductCategory

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
製品領域	ProductIndication
プログラムブック	ProgramBook
プログラムメンバーシップ	ProgramPartner
見積り	見積り
関連免責条項	RelatedDisclaimer
売上	製品
サンプル免責条項	SampleDisclaimer
サンプル在庫	SampleInventory
サンプルロット	SampleLot
サンプルロットブック	SampleLotBook
サンプルリクエスト	SampleRequest
サンプルリクエストブック	SampleRequestBook
サンプルリクエスト項目	SampleRequestItem
サンプルトランザクション	SampleTransaction
サンプルトランザクションブック	SampleTransactionBook
サービスリクエスト	ServiceRequest
サービスリクエストチーム	ServiceRequestTeam
署名	署名
スマートコール	活動
ソーシャルメディア	SocialMedia
解決策	解決策
解決策ブック	SolutionBook
特別価格製品	SPRequestLineItem
特別価格リクエスト	SPRequest
特別価格リクエストブック	SPRequestBook
特別価格リクエストチーム	SPRequestTeam
テリトリー	テリトリー
トランザクション項目	TransactionItem
ユーザー	ユーザー

Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのレコードタイプ	Oracle CRM On Demand の Web サービスのレコードタイプ
ユーザー部署	UserDivision
ユーザー所有者	ユーザー
車両	車両
車両ブック	VehicleBook
車両財務情報	EautoFinancialDetail
車両セールス履歴	EautoSalesHistory
車両サービス履歴	EautoServiceHistory

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)
- [変更トラッキングイベントについて](#) (ページ 487)
- [\[変更トラッキングリスト\] ページの表示](#) (ページ 488)
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#) (ページ 485)
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報

このトピックでは、変更トラッキング機能を使用してピックリストの値リストの変更を追跡する方法について説明します。ピックリストの変更を追跡するには、ピックリストを含むレコードタイプに加えて、変更トラッキング機能のピックリストを有効にします。ピックリストは、[変更トラッキングリスト] ページでオブジェクト名として使用できます。ピックリストオブジェクトに対して変更トラッキング機能が有効な場合は、Oracle CRM On Demand によって、該当のレコードタイプのピックリストの作成、読み取り、更新、または削除操作について、そのレコードタイプの名前が [変更トラッキングリスト] ページに記録されます。次の表では、ピックリストオブジェクトに対して変更トラッキング機能が有効な場合の [変更トラッキングリスト] ページの各列について説明します。

カラム見出し	説明
オブジェクト名	ピックリスト。
オブジェクト ID	Oracle CRM On Demand によって割り当てられるオブジェクトの行 ID。例：1QA2-NX0XH。この ID は、ピックリストに関連付けられている値リストに対して一意です。

カラム見出し	説明
	。 特定のフィールドでは、複数のオブジェクトにわたって同じ値リストを使用します。ユーザーがこの値リストの値を編集すると、Oracle CRM On Demand によって、すべてのフィールドに対する変更トラッキングエントリがログに記録されます。この場合、オブジェクト ID は、その変更トラッキングエントリすべてで同じです。
レコードタイプ	ピックリストが編集されたレコードタイプの変更トラッキング名。レコードタイプが追跡される場合に、変更トラッキングページに表示されるレコードタイプの名前です。
フィールド名	編集されたピックリストフィールドに対する Web サービスバージョン 2.0 のタグ。

ピックリストフィールドを編集したときにエントリが「変更トラッキングリスト」ページに表示されるのは、編集しているピックリストフィールドのレコードタイプが変更トラッキング機能に対して有効になっている場合のみです。特定のレコードタイプのピックリストフィールドに対する 1 つの編集によって、「変更トラッキングリスト」ページに複数のエントリが記録される可能性があります。これは、Oracle CRM On Demand によって、ピックリストフィールドが、複数のレコードタイプにわたる複数のピックリストフィールド間で共有する値リストタイプにマップされるためです。エントリ数は、編集したピックリストフィールドの値リストタイプにマップされている公開フィールド数に一致します。

たとえば、値リストタイプが PARTY_REL_TYPE に設定されている「ピックリストロール」と呼ばれるピックリストがあり、このピックリストは、「取引先パートナー」、「取引先競合会社」、「商談競合会社」、「商談パートナー」レコードタイプでも使用されていると想定します。また、このピックリストは、これらのレコードタイプの「役割」および「役割をリバース」の 2 つフィールドで使用されていると想定します。この例のピックリストフィールドの値リストを更新する場合は、Oracle CRM On Demand によって、この例のすべてのピックリストフィールドに対する個々の変更トラッキングエントリが作成されます。

ピックリストの値リストの変更トラッキングに対する制限

次の条件では、Oracle CRM On Demand によって、ピックリストの値リストに対する変更トラッキングイベントが作成されません。

- ピックリストに関連付けられているレコードタイプが企業で設定されていない。
- ピックリストの更新が変更トラッキング機能に対して有効でないレコードタイプに属している。
- 更新済ピックリストフィールドが Web サービスを介してアクセスできない。

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)
- [追跡されるレコードタイプ](#) (ページ 476)
- [変更トラッキングイベントについて](#) (ページ 487)
- [「変更トラッキングリスト」ページの表示](#) (ページ 488)
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

変更トラッキングイベントについて

次の表に、[変更トラッキングリスト] ページで作成および表示される変更トラッキングイベントを示します。

イベント名	説明
Associate	このイベントは、担当者と取引先などの多対多関係にある 2 つのレコードの関連付けを示します。例：担当者を取引先レコードに追加したときに Associate イベントが発生します。同様に、担当者を取引先レコードから削除したときに Dissociate イベントが発生します。
DeleteRecord	このイベントは、メッセージプランレコードの削除時など、レコードに削除マークが付けられた状態を示します。レコードの削除を追跡する場合にこのイベントを使用します。
Dissociate	このイベントは、多対多関係にある 2 つのレコードの関連付けの解除を示します。例：担当者を取引先レコードから削除したときに Dissociate イベントが発生します。
MergeRecords	このイベントは、重複見込み客レコードとその子レコードがプライマリ見込み客レコードとマージされたときなど、2 つのレコードがマージされたことを示します。この例では、マージ後のレコードのオブジェクト ID がプライマリ見込み客レコードの行 ID で、子レコードのオブジェクト ID が重複の見込み客レコードの行 ID です。MergeRecords イベントは、[取引先]、[担当者]、[世帯]、[見込み客]、[パートナー]、[ポートフォリオ]、および [サービスリクエスト] レコードタイプでサポートされます。 注: Oracle CRM On Demand では、子レベルのレコードマージに対する個々の MergeRecords イベントをログに記録しません。
PredeleteRecord	このイベントは、レコードが削除されようとしているが、実際には削除されない可能性があることを示します。 注意: 削除済みレコードの追跡には、このイベントを使用しないことをお勧めします。レコードの削除を追跡する場合は、かわりに DeleteRecord イベントを使用してください。
RestoreRecord	このイベントは、削除マークが付いたメッセージプランレコードの復元時など、削除マークが付いたレコードが復元された状態を示します。
WriteRecordNew	このイベントは、新規取引先レコードの作成時など、レコードタイプの新規レコードが保存された状態を示します。このイベントは、ピックリストに対する変更も示します。
WriteRecordUpdated	このイベントは、既存の担当者レコードの更新時など、親レコードタイプまたは子オブジェクトの既存レコードが変更された状態を示します。

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)

- [追跡されるレコードタイプ](#) (ページ 476)
- [\[変更トラッキングリスト\] ページの表示](#) (ページ 488)
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#) (ページ 485)
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

[変更トラッキングリスト] ページの表示

このトピックでは、変更トラッキング情報の表示方法について説明します。

作業前の準備。 Oracle CRM On Demand に管理者としてサインインし、役割に変更トラッキングの管理権限が含まれている必要があります。企業の管理者の役割に対して変更トラッキングの管理権限が有効化されていない場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

[変更トラッキングリスト] ページを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[変更トラッキング] をクリックします。

[変更トラッキングリスト] ページが開いて、すべての変更トラッキングレコードのリストが表示されます。変更トラッキングレコードの例については、「[変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)」を参照してください。

次の表では、[変更トラッキングリスト] ページについて説明します。

カラム見出し	説明
オブジェクト名	トラッキングイベントを適用するオブジェクトの名前。例：[担当者]。オブジェクト名は通常レコードタイプ名です（つまり、ピックリストである可能性があります）。
オブジェクト ID	Oracle CRM On Demand によって割り当てられるオブジェクトの行 ID。例：1QA2-NX0XH。
子オブジェクト名	トラッキングイベントを適用する子オブジェクトの名前。例：[担当者の住所]。子オブジェクト名は変更イベントに該当する場合、つまり、ビュー内のオブジェクトが他のオブジェクトの子として変更された場合（例：担当者ビュー内のアドレスの変更）にのみ表示されます。
子オブジェクト ID	Oracle CRM On Demand によって割り当てられる子オブジェクトのオブジェクト ID。例：1QA2-OBA65。
イベント名	新規レコード作成時のイベントの名前（例：WriteRecordNew）。イベント名の詳細は、「 変更トラッキングイベントについて (ページ 487)」のイベント名の説明を参照してください。

カラム見出し	説明
レコードタイプ	管理者が、変更トラッキングをトリガーする設定変更を実行したレコードタイプ。[レコードタイプ] フィールドは、設定変更の場合のみ入力されます。設定変更に対する変更トラッキングの例には、管理者がピックリストフィールドの値リストを編集した場合があります。この場合、[レコードタイプ] フィールドには、編集されたピックリストフィールドが属するオブジェクトの名前が記録されます。
フィールド名	編集したピックリストのフィールドに対する Web サービスバージョン 2.0 のタグ。カスタムピックリストフィールドの場合、Web サービスバージョン 2.0 のタグは汎用統合タグです。このフィールドは、ピックリストの編集の場合のみ入力されます。
変更番号	レコードが変更された回数を示すカウンター。レコードが最初に作成されたとき、変更番号は 0（ゼロ）に設定され、レコードが変更されるたびにインクリメントされます。
変更 : 日付	変更イベントが発生した日付（MMDDYYYY）と時刻（HH:MM:AM PM）。

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)
- [追跡されるレコードタイプ](#) (ページ 476)
- [変更トラッキングイベントについて](#) (ページ 487)
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#) (ページ 485)
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#) (ページ 489)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

変更トラッキングイベントレコードの例

このトピックでは、特定のユーザー操作に対して Oracle CRM On Demand で作成される変更トラッキングイベントレコードの例について説明します。変更トラッキング機能を有効にすると、[変更トラッキングリスト] ページに、次の例に示すようなイベントレコードが表示されます。ユーザーの操作および記録されたレコードタイプの関係によっては、1つのイベントの結果として複数のレコードが書き込まれる可能性があります。たとえば、1対多の親子関係または多対多のオブジェクト間関係がある場合は、複数のレコードが書き込まれる可能性があります。

例 1：新規取引先レコード作成時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが新規取引先レコードを作成します。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordNew	なし	なし	0	03/26/2014 09:28 AM

例 2：既存取引先レコードの更新時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが取引先レコードのフィールドを変更して既存の取引先レコードを更新します。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	1	03/26/2014 09:52 AM

例 3：既存取引先レコードの削除時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが既存の取引先レコードを削除します。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	PreDeleteRecord	なし	なし	2	03/26/2014 09:58 AM
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	DeleteRecord	なし	なし	3	03/26/2014 10:00 AM

例 4：削除マークが付いた取引先レコードの復元時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが削除マークの付いたレコードを Oracle CRM On Demand からパージする前に復元します。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	RestoreRecord	なし	なし	3	03/26/2014 10:03 AM

例 5 : 取引先レコードを担当者レコードに関連付ける場合の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが担当者レコード内で既存の取引先レコードを担当者レコードに追加します（つまり、取引先レコードを担当者レコードに関連付けます）。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更 : 日付
担当者	1QA2-OD635	取引先	1QA2-OD54E	Associate	なし	なし	0	03/26/2014 10:16 AM
担当者	1QA2-OD635	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	1	03/26/2014 10:16 AM
担当者	1QA2-OD635	取引先担当者	1QA2-OD639	WriteRecordUpdated	なし	なし	1	03/26/2014 10:16 AM
取引先	1QA2-OD54E	担当者	1QA2-OD635	Associate	なし	なし	0	03/26/2014 10:16 AM
取引先	1QA2-OD54E	担当者	1QA2-OD635	WriteRecordUpdated	なし	なし	4	03/26/2014 10:16 AM
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	4	03/26/2014 10:16 AM
担当者	1QA2-OD635	取引先	1QA2-OD54E	WriteRecordUpdated	なし	なし	4	03/26/2014 10:16 AM

例 6 : 取引先レコードと担当者レコードの関連付けを解除する場合の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが担当者から関連する取引先レコードを削除します（つまり、取引先レコードと担当者レコードの関連付けを解除します）。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更 : 日付
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	5	03/26/2014 10:35 AM
担当者	1QA2-OD635	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	2	03/26/2014 10:35 AM
担当者	1QA2-OD635	取引先	1QA2-OD54E	Dissociate	なし	なし	1	03/26/2014 10:35 AM
取引先	1QA2-OD54E	担当者	1QA2-OD635	Dissociate	なし	なし	1	03/26/2014 10:35 AM

例 7：親取引先レコードに子レコードを追加する場合の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが取引先レコード内で新規住所レコードを関連項目として作成します（つまり、取引先住所を親取引先レコードの子レコードとして追加します）。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	住所	1QA2-OD6PM	WriteRecordNew	なし	なし	0	03/26/2014 11:44 AM
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	6	03/26/2014 11:44 AM

例 8：既存子レコードの更新時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが取引先レコード内で既存の住所レコードを更新します（つまり、取引先住所を親取引先レコードの子レコードとして更新します）。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	住所	1QA2-OD6PM	WriteRecordUpdated	なし	なし	1	03/26/2014 11:51 AM

例 9：既存子レコードの更新時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが取引先レコード内で既存の住所レコードを削除します（つまり、取引先住所を親取引先レコードの子レコードとして削除します）。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付
取引先	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordUpdated	なし	なし	8	03/26/2014 12:00 PM
取引先	1QA2-OD54E	住所	1QA2-OD6PN	なし	なし	なし	1	03/26/2014 12:00 PM

例 10：ピックリスト値の更新時の変更トラッキングレコード

この例では、ユーザーが取引先のピックリストを更新します（つまり、[未定] と呼ばれる値を追加することで、取引先レコードの既存の「優先順位」ピックリストフィールドをカスタマイズします）。Oracle CRM On Demand は次の表のようなイベントレコードを生成します。

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更：日付

オブジェクト名	オブジェクト ID	子オブジェクト名	子オブジェクト ID	イベント名	レコードタイプ	フィールド名	変更番号	変更 : 日付
ピックリスト	1QA2-OD54E	なし	なし	WriteRecordUpdated	取引先	優先順位	8	03/26/2014 1:00 PM

関連トピック

変更トラッキング機能の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [変更トラッキング機能の有効化](#) (ページ 476)
- [追跡されるレコードタイプ](#) (ページ 476)
- [変更トラッキングイベントについて](#) (ページ 487)
- [\[変更トラッキングリスト\] ページの表示](#) (ページ 488)
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#) (ページ 485)
- [手動による変更レコードの作成](#) (ページ 493)

手動による変更レコードの作成

変更トラッキング機能を使用すると、Oracle CRM On Demand でイベントレコードの書込および追跡を自動的に行うことができますが、手動でイベントレコードを作成することもできます。この機能は Oracle CRM On Demand の外部のイベントを記録する場合に便利です。

作業前の準備。 Oracle CRM On Demand に管理者としてサインインし、役割に変更トラッキングの管理権限が含まれている必要があります。企業の管理者の役割に対して変更トラッキングの管理権限が有効化されていない場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

変更レコードを手動で作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[変更トラッキング] をクリックします。
- 3 [変更トラッキングリスト] ページで、[新規] をクリックします。
- 4 次の表で説明するフィールドに入力し、レコードを保存します。

フィールド	説明

フィールド	説明
主要変更トラッキング情報	
オブジェクト名	トラッキングイベントを適用するレコードタイプの名前。例：[担当者]。オブジェクト名は通常レコードタイプ名です（つまり、ピックリストである可能性があります）。（必須）
オブジェクト ID	Oracle CRM On Demand によって割り当てられるレコードタイプの行 ID。例：1QA2-NX0XH。（必須）
子オブジェクト名	トラッキングイベントを適用する子レコードの名前。例：[担当者の住所]。子レコード名は該当する場合、つまり、ビュー内のオブジェクトが他のレコードの子として変更された場合（例：担当者ビュー内のアドレスの変更）にのみ表示されます。
子行 ID	Oracle CRM On Demand によって割り当てられる子レコードの行 ID。例：1QA2-OBA65。
イベント名	新規レコード作成時のイベントの名前（例：WriteRecordNew）。有効なイベント名の詳細は、「 変更トラッキングイベントについて （ページ 487）」のイベント名の説明を参照してください。（必須）
変更番号	レコードが変更された回数を示すカウンター。レコードが最初に作成されたとき、変更番号は 0 に設定され、レコードが変更されるたびにインクリメントされます。（必須）
レコードタイプ	管理者が、変更トラッキング機能をトリガーする設定変更を実行したレコードタイプ。[レコードタイプ] フィールドは、設定変更の場合のみ入力されます。設定変更に対する変更トラッキングの例には、管理者がピックリストフィールドの値リストを編集した場合があります。この場合、[レコードタイプ] フィールドには、編集されたピックリストフィールドが属するオブジェクトの名前が記録されます。
フィールド名	編集したピックリストのフィールドに対する Web サービスバージョン 2.0 のタグ。カスタムピックリストフィールドの場合、Web サービスバージョン 2.0 のタグは汎用統合タグです。このフィールドは、ピックリストの編集の場合のみ入力されます。
変更：日付	変更イベントが発生した日付（MMDDYYYY）と時刻（HH:MM:AM PM）。

関連トピック

変更トラッキングの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#)（ページ 475）
- [変更トラッキング機能の有効化](#)（ページ 476）
- [追跡されるレコードタイプ](#)（ページ 476）
- [変更トラッキングイベントについて](#)（ページ 487）
- [\[変更トラッキングリスト\] ページの表示](#)（ページ 488）
- [ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報](#)（ページ 485）
- [変更トラッキングイベントレコードの例](#)（ページ 489）

データ管理ツール

[管理ホームページ] の [データ管理ツール] セクションでは、次のタスクを実行できます。

- 企業のデータのインポートとエクスポート。詳細については、「[インポートツールとエクスポートツール](#) (ページ 495)」を参照してください。
- 一括削除リクエストの表示。詳細については、「[一括削除キューページ](#) (ページ 722)」を参照してください。
- バッチ割当ブックリクエストの表示。詳細については、「[バッチ割当ブックキューページ](#) (ページ 723)」を参照してください。
- 統合イベントキューの作成と管理。詳細については、「[統合イベントについて](#) (ページ 724)」を参照してください。

インポートツールとエクスポートツール

[インポートツールとエクスポートツール] ページでは、Oracle CRM On Demand でのインポート機能とエクスポート機能を拡張できる次のユーティリティを使用できます。

- **インポートアシスタント**。詳細は、「[インポートアシスタント](#) (ページ 703)」を参照してください。
- **Oracle Data Loader On Demand**。詳細は、「[Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティ](#) (ページ 714)」を参照してください。
- **Oracle Migration Tool On Demand**。詳細は、「[Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティ](#) (ページ 720)」を参照してください。
- **Oracle Web Services**。詳細については、「[Web サービスの統合](#) (参照 "[Web サービスの統合](#)" ページ 715)」を参照してください。

適切なインポート方法を選択する方法の詳細は、My Oracle Support の 1089184.1 (記事 ID) を参照してください。

インポートプロセスは次の手順で構成されます。

- [データのインポートの準備](#) (ページ 542)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [インポート結果の確認](#) (ページ 708)

また、Oracle CRM On Demand から CSV ファイルにデータをエクスポートできます。エクスポートに関する情報については、次の該当するトピックをクリックしてください。

- [データのエクスポート](#) (ページ 710)
- [エクスポート結果の確認](#) (ページ 713)

作業前の準備：

- データをインポートするには、[管理インポート] 権限または [マーケティングリストをインポート] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。[管理インポート] 権限では、すべてのレコードタイプをインポートできます。これに対し、[マーケティングリストをインポート] 権限では、取引先、担当者、および見込み客しかインポートできません。
- ユーザーが最大 2000 人の担当者をインポートする場合は、ユーザーの役割に対して [個人インポート] 権限を有効にする必要があります。この [個人インポート] 権限によって、ユーザーのデータインポートをより詳細に制御できます。役割の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

- この節全体と、レコードのインポートに関する「使い方」のレッスンを確認します。これらのレッスンでは、インポートを実行するための追加情報（ガイドラインなど）が提供されています。

注：インポートされたレコードを元に戻したり、レコードを大量に削除したりはできません。したがって、後でデータを消去することにならないように、5 - 10 レコードから成るファイルを使用して、インポート手順の予行練習を行ってください。大量のレコードをインポートする場合は、データのインポートのトレーニングセッションに参加するか、カスタマーサポートにご相談ください。これらのリソースについては、Oracle CRM On Demand の各ページの上にある **「トレーニングおよびサポート」** グローバルリンクをクリックしてください。

- Oracle CRM On Demand で連結フィールドをインポートしたりエクスポートしたりすることはできません。連結フィールドは、複数のフィールドからの値の表示や追加テキストの表示が可能なフィールドです。ただし、連結フィールドを構成する個々のフィールドをインポートおよびエクスポートできます。

- データをエクスポートするには、**「エクスポートを管理」** 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カンマ区切り値（CSV）ファイルからデータをインポートして、Oracle CRM On Demand にレコードを自動的に作成できます。各 CSV ファイルのサイズは、20MB 未満である必要があります。ファイルサイズを小さくするには、レコードを複数のファイルに分割するか、またはインポートしないカラムを削除してデータを小さくします。『Oracle Data Loader On Demand Guide』でサンプル CSV ファイルを確認できます。

次の表では、データをインポートすることで作成できるレコードのタイプ、およびインポートプロセスの各実行でインポートできるレコード数について説明します。

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
取引先	30000
取引先住所	50000
取引先競合会社	50000
取引先担当者	50000
取引先パートナー	50000
取引先チーム	50000
住所	30000
アポイント	30000
アポイント担当者	50000
アポイントユーザー	50000
資産	80000
担当者（管理者）	30000
担当者の住所	50000
担当者チーム	50000
キャンペーン	50000
キャンペーン受取人	50000

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
取引交渉登録	30000
見込み客	30000
変更トラッキング	30000
メモ	50000
オーダー	30000
オーダー項目	30000
商談	30000
商談担当者役割	50000
商談製品	80000
商談チーム	50000
製品	80000
製品カテゴリー	30000
プロパティ	30000
ソーシャルプロフィール	30000
解決策	50000
サービスリクエスト	30000
タスク	30000
タスク担当者	50000
タスクユーザー	50000
ユーザー	500
車両補償内容	50000

実装している業界固有のソリューションに応じて、次のレコードをインポート可能にできます。

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
割当	30000
申込書類	30000
ブロック製品	30000
ビジネス計画	30000

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
請求	30000
担当者の都道府県免許	30000
補償内容	30000
カスタムオブジェクト	30000
損傷	30000
自動車ディーラー	80000
取引交渉登録	30000
イベント	30000
金融口座	30000
金融口座名義人	30000
金融口座保有状況	30000
財務計画	30000
金融製品	30000
金融トランザクション	30000
HCP 担当者割当	30000
在庫監査レポート	30000
在庫期間	30000
関連パーティ	30000
保険不動産	30000
MDF リクエスト	30000
メッセージプラン	30000
メッセージプラン項目	30000
メッセージプラン項目関係	30000
メッセージ応答	30000
目標	30000
パートナー	30000
パートナープログラム	30000
計画取引先	30000

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
計画担当者	30000
計画商談	30000
保険	30000
保険名義人	30000
ポートフォリオ	30000
価格リスト	30000
価格リスト明細項目	30000
サンプル免責条項	30000
サンプル在庫	30000
サンプルロット	30000
サンプルトランザクション	30000
署名	30000
特別価格製品	30000
特別価格リクエスト	30000
トランザクション項目	30000
車両	80000

国と住所のマッピングについて

ここで示す表では、次のことを示しています。

■ Oracle CRM On Demand の [国] フィールドのピックリスト値

Oracle CRM On Demand の [国] フィールドのピックリスト値は編集できません。ファイルのインポート時にすべてのデータを取り込むには、取り込むデータが、句読点や大文字小文字を含めて、自身の国で許容可能な名前と正確に一致することを確認してください。正確に一致しないデータはインポートされません。

注： [国] フィールドのピックリスト値には 30 文字までという制限があるので、その制限を超える名前はピックリスト内で切り捨てられます。

■ 国ごとの住所のマッピング

データのインポート時、Oracle CRM On Demand が使用する住所フィールドそれぞれについて、カラムを設定する必要があります。次の表では、各国の住所フィールドを Oracle CRM On Demand 内の該当するフィールドにマップする方法について説明します。正確にマップすることにより、アプリケーションの正確なフィールドに、ファイル内のすべてのデータを実際に取り込むことができます。

注意: 次の表には独立国のほか、独立国の属国、外国領土および領地も記載されています。たとえば、マン島は英国王室の属領で、スバルパル諸島はノルウェー領です。

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
アメリカ	8	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市	郡	米国の州	郵便番号	
アフガニスタン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
オーランド諸島	5	町/番地	住所 2					郵便番号	島
アルバニア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
アルジェリア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
アメリカンサモア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
アンドラ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
アンゴラ	4	通り/ 番地	住所 2		市				
アングイラ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
アンティグアとバービュダ島	4				市	私書箱			島
アルゼンチン	7	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市			郵便番号	都道府県
アルメニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
アルバ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
アセンション島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
オーストラリア	6	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市			郵便番号	都道府県

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
オーストリア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
アゼルバイジャン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
バハマ	6	住所 1	住所 2		市			Island Code (島コード)	島
バーレン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
バングラデシュ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
アルバドス	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ベラルーシ	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
ベルギー	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
ベリーズ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
ベニン	4				市	並べ替えコード		Boite Postale (ア フリカでの 郵便番号)	
バーミューダ	5	町/番地	住所 2		市			郵便番号	
ブータン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ボリビア	4	通り/ 番地	住所 2		市				
ボネール島、セント ユースタティウスおよびサバ	5	住所 1	住所 2		市				島
ボスニアとヘルツ ェゴヴィナ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
ボツワナ	3				市	私書箱			

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ブーベ島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ブラジル	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県
英領インド洋地域	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ブルネイダルサラーム国	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ブルガリア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
ブルキナファソ	4				市	並べ替えコード		Boite Postale (ア フリカでの 郵便番号)	
ブルンジ	3				市	私書箱			
カンボジア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
カメルーン	3				市	私書箱			
カナダ	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
カーボベルデ	4	通り/ 番地	住所 2		市				
ケイマン諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
中央アフリカ共和国	3				市	私書箱			
チャド	3				市	私書箱			
チャネル諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
チリ	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市	コミューン		郵便番号	都道府県
中国	7	番地/ 通り	住所 2	地区	市			郵便番号	都道府県
クリスマス島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ココス（キーリング）諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
コロンビア	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市	並べ替えコード			都道府県
コンゴ	3	町/番地			市				
コンゴ共和国	4				市	並べ替えコード		Boite Postale（ア フリカでの 郵便番号）	
クック諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
コスタリカ	6	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	
クロアチア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
キューバ	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現 地での郵便 番号）	
クラサオ島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
キプロス	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
チェコ共和国	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
デンマーク	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
ジブチ	3				市	私書箱			
ドミニカ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ドミニカ共和国	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
東ティモール	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
エクアドル	7	住所 1	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
エジプト	6	住所 1		地区	市			郵便番号	都道府県
エルサルバドル	5	通り/ 番地			市			郵便番号	都道府県
赤道ギニア	3				市	私書箱			
エリトリア	3	通り/ 番地			市				
エストニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
エチオピア	3				市	私書箱			
フォークランド諸島（マルビナス）	3	通り/ 番地			市			郵便番号	
フェロー諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
フィジー	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
フィンランド	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
フランス	6	番地/ 通り	住所 2		市	CEDEX Code (CEDEX コード)		郵便番号	
フランス領ギアナ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
フランス領ポリネシア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
フランス南部領土	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ガボン	3				市	私書箱			
ガンビア	3	通り/ 番地			市				
グルジア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ドイツ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ガーナ	3				市	私書箱			
ジブラルタル	3	通り/ 番地			市				
ギリシャ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
グリーンランド	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
グレナダ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
グアドループ	5	町/番地	住所 2		市			郵便番号	
グアム	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
グアテマラ	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現地での郵便番号）	
ガーンジー	6	町/番地	住所 2	住所 3				郵便番号	島
ギニア	3				市	私書箱			
ギニアビサウ	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現地での郵便番号）	
ガイアナ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ハイチ	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
ハード島およびマクドナルド諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ローマ法王庁（バチカン市国）	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
ホンジュラス	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県
香港	7	番地/ 通り	住所 2	地区	市	住所 4			テリトリーの一部

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ハンガリー	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
アイスランド	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
インド	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
インドネシア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
イラン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
イラク	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
アイルランド	6	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市	郡		エアコード	
マン島	7	町/番地	住所 2	住所 3	市	郡		郵便番号	
イスラエル	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
イタリア	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	都道府県
コートジボワール	4				市	並べ替えコード		Boite Postale (ア フリカでの 郵便番号)	
ジャマイカ	6	番地/ 通り	住所 2		市	並べ替えコード			Parish (ア メリカの群)
日本	6	番地/通り /丁目	区		市郡			郵便番号	都道府県
ジャージー	5	町/番地	住所 2					郵便番号	Parish (ア メリカの群)
ヨルダン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
カザフスタン	4	住所 1			市			郵便番号	

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ケニア	4				市	私書箱		郵便番号	
キリバス	4	住所 1			市				島
韓国	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
朝鮮民主主義人民共和国	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
コソボ	6	通り/番地	住所 2	地区	市			郵便番号	
クウェート	6	通り/ 番地	住所 2		市	郡		郵便番号	
キリギスタン	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
ラオス人民民主共和国	5	町/番地	住所 2		市			郵便番号	
ラトビア	5	通り/ 番地			市	並べ替えコード		郵便番号	
レバノン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
レソト	3				市	私書箱			
リベリア	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
リビア	5	町/番地	住所 2	フロア	市				
リヒテンシュタイン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
リトアニア	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現地での郵便番号）	
ルクセンブルグ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
マカオ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
マケドニア	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
マダガスカル	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
マラウイ	3				市	私書箱			
マレーシア	7	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市			郵便番号	都道府県
モルディヴ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
マリ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
マルタ	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	島
マーシャル諸島	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
マルチニク	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
モーリタニア	3				市	私書箱			
モーリシャス	3	通り/ 番地			市				
マヨット	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
メキシコ	8	通り/ 番地	住所 2	フロア	市	Colonia/Section (アメリカの地区)		郵便番号	都道府県
ミクロネシア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
モルダヴィア共和国	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
モナコ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
モンゴル	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
モンテネグロ	6	住所 1	Address2		市			郵便番号	都道府県

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
モンセラト	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
モロッコ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
モザンビーク	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現地での郵便番号）	
ミャンマー	5	住所 1			市	地域区分		郵便番号	
ナミビア	3				市	私書箱			
ナウル	3			地区		私書箱			
ネパール	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
オランダ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
オランダ領アンティル諸島	5	住所 1	住所 2		市				島
ニューカレドニア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ニュージーランド	6	番地/ 通り	住所 2	地区	市			郵便番号	
ニカラグア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
ニジェール	3				市	私書箱			
ナイジェリア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ニウエ	3				市	私書箱			
ノーフォーク島	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
北マリアナ諸島	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ノルウェイ	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
オマーン	4				市	私書箱		郵便番号	地域
パキスタン	6	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市			郵便番号	
パラウ	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
パレスチナ自治政府	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
パナマ	5	住所 1			市	並べ替えコード			都道府県
パプアニューギニア	3				市				都道府県
パラグアイ	4	通り/ 番地	住所 2		市				
ペルー	5	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード			都道府県
フィリピン	7	通り/ 番地	住所 2	地区	市			郵便番号	都道府県
ピトケアン島	1								
ポーランド	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現地での郵便番号）	
ポルトガル	6	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	
プエルトリコ	5	住所 1			市	URB（市街化地域）		郵便番号	
カタール	6		Address2		市	郡		郵便番号	私書箱
レユニオン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ルーマニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
ロシア連邦	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ルワンダ	3				市	私書箱			
サモア	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
サンマリノ	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
サントメおよびプリンシペ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
サウジアラビア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
セネガル	3	通り/ 番地			市				
セルビア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
セイシェル	4				市	私書箱			島
シエラレオネ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
シンガポール	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
セントマーチン	5	住所 1	住所 2		市				島
スロバキア	6	通り/ 番地	住所 2		市	並べ替えコード		郵便番号	
スロベニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
ソロモン諸島	5				市	私書箱		Island Code (島コード)	島
ソマリア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
南アフリカ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
南ジョージア/南サンドイッチ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
南スーダン	4	番地/ 住所-区、			市	私書箱		郵便番号	

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
		町、番地							
スペイン	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県
スリランカ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
セントバーツ	6	番地/ 通り	住所 2		市	CEDEX Code (CEDEX コード)		郵便番号	
セントヘレナ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
セントクリストファーおよびネヴィス島	5	住所 1	住所 2		市				島
セントルシア	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
セントマーチン	6	番地/ 通り	住所 2		市	CEDEX Code (CEDEX コード)		郵便番号	
サンピエールおよびミクロン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
セントビンセントグレナディーン諸島	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
スーダン	4				市	私書箱		郵便番号	
スリナム	3	通り/ 番地			市				
スバルバル諸島およびヤンマイエン島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
スワジランド	4				市	私書箱		郵便番号	
スウェーデン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
スイス	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
シリアアラブ共和国	3	通り/ 番地			市				

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
台湾	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
タジキスタン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
タンザニア連合共和国	3				市	私書箱			
タイ	7	住所 1	住所 2	住所 3	市			郵便番号	都道府県
トーゴ	3				市	私書箱			
トケラウ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
トンガ	4				市	私書箱			島
トリニダードトバゴ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				
チュニジア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	
トルコ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	地域
トルクメニスタン	4	番地/ 通り			市			郵便番号	
タークスアンドケ ーコス諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
トゥヴァル	4				市	私書箱			島
ウガンダ	3				市	私書箱			
ウクライナ	5	住所 1	住所 2		市			郵便番号	
コモロ連合	3				市	私書箱			
アラブ首長国連邦	6		住所 2		市	私書箱		郵便番号	Emirate (emir の管 轄区域)
英国	7	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市	郡		郵便番号	
合衆国周辺離島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県

国（編集不可の値）	フィールド番号	住所	住所 2	住所 3	市	郡	州	郵便番号	都道府県
ウルグアイ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ウズベキスタン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	Oblast (ロシアの州)
バヌアツ	3				市	私書箱			
ベネズエラ	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県
ベトナム	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
バージン諸島(英領)	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
バージン諸島(米領)	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県
ワリスツツナ諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県
西サハラ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
イエメン	3	通り/ 番地			市				
ザンビア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	
ジンバブエ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市				

米国用に使用できる州 / 領土の略語

次の表では、米国用に使用できるピックリスト値を示します。

略語	正式名
AK	アラスカ
AL	アラバマ
AR	アーカンソー

略語	正式名
AZ	アリゾナ
CA	カリフォルニア
CO	コロラド
CT	コネチカット
DC	コロンビア特別区域
DE	デラウェア
FL	フロリダ
GA	ゲルジア
HI	ハワイ
IA	アイオワ
ID	アイダホ
IL	イリノイ
IN	インディアナ
KS	カンザス
KY	ケンタッキー
LA	ルイジアナ
MA	マサチューセッツ
MD	メリーランド
ME	メイン
MI	ミシガン
MN	ミネソタ
MO	ミズーリ
MS	ミシシッピ
MT	モンタナ
NC	ノースカロライナ
ND	ノースダコタ
NE	ネブラスカ
NH	ニューハンプシャー
NJ	ニュージャージー

略語	正式名
NM	ニューメキシコ
NV	ネバダ
NY	ニューヨーク
OH	オハイオ
OK	オクラホマ
または	オレゴン
PA	ペンシルベニア
PR	プエルトリコ
RI	ロードアイランド
SC	サウスカロライナ
SD	サウスダコタ
TN	テネシー
TX	テキサス
UT	ユタ
VA	バージニア
VT	バーモント
WA	ワシントン
WI	ウィスコンシン
WV	ウエストバージニア
WY	ワイオミング

米国用に使用できるメーリングコード

次の表では、米軍の郵便配達に使用する 3 つの正式な州コードを示します。

略語	説明
AE（郵便番号：09xxx）	米軍ヨーロッパ。（カナダ、中東、アフリカを含む）。
AK（郵便番号：962xx - 966xx）	米軍太平洋。

略語	説明
AA（郵便番号：340xx）	米軍アメリカ。（中央アメリカおよび南アメリカを含む）。

カナダ用に使用できる州 / 領土の略語

次の表では、カナダの州の正式な略語を示します（テキストフィールド）。

略語	正式名
AB	アルバータ
BC	ブリティッシュコロンビア
MB	マニトバ
NB	ニューブランズウィック
NL	ニューファンドランドラブラドル
NS	ノバスコシア
NT	ノースウエスト
NU	ヌナブト
ON	オンタリオ
PE	プリンスエドワードアイランド
QC	ケベック
SK	サスカチュワン
YT	ユーコン

レコードの重複と外部 ID について

レコードをインポートする際には、次のいずれかのオプションを選択して重複レコードを処理できます。

- 重複レコードをインポートしない
- 既存のレコードを上書きする

注意: 上書きオプションは、アポイントユーザー、タスクユーザーまたはメモをインポートした場合には使用できません。これらのレコードタイプでは、常に新しいレコードが作成されます。

- 重複レコードに対して追加のレコードを作成する（担当者、見込み客、アポイントおよびタスクのみ）

データのインポート時に既存のレコードを上書きする場合、Oracle CRM On Demand では、重複レコードのチェックに使用されるフィールド内の値をチェックして、インポートファイル内のレコードが Oracle CRM On Demand の既存のレコー

ドと重複しているかどうかをチェックします。レコードが重複している場合は、Oracle CRM On Demand により、重複レコードのチェックに使用されるフィールドが除外され、Oracle CRM On Demand の既存のレコードのフィールドが、インポートしたレコードの値に更新されます。

多くのレコードタイプで、[外部 ID] フィールドまたは定義済みフィールドセットを使用して、インポートファイル内のレコードが Oracle CRM On Demand の既存のレコードと重複しているかどうかをチェックできます。重複レコードのチェックに使用されるフィールドとして [外部 ID] を使用する場合は、重複レコードが検出されると、[外部 ID] フィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。同様に、重複レコードのチェックに使用されるフィールドとして定義済みフィールドセットを使用する場合は、重複チェックに使用されるフィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。

たとえば、[取引先] レコードタイプの場合、[外部 ID] フィールド、または [取引先名] フィールドと [所在地] フィールドの組合せを使用して、重複レコードをチェックできます。ファイル内のレコードが重複している場合、Oracle CRM On Demand の既存のレコードは、インポートファイルのデータで次のように更新されます。

- [外部 ID] フィールドを使用して重複をチェックする場合は、[外部 ID] フィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。
- [取引先名] フィールドと [所在地] フィールドを使用して重複レコードをチェックする場合は、[取引先名] フィールドと [所在地] フィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。

レコードを更新するには

- 1 インポート CSV ファイルに、外部 ID、またはそのレコードタイプのすべての重複チェックフィールドのカラムを設定します。
- 2 重複チェックフィールドの値の外部 ID が、既存レコードの値と正確に一致していることを確認します。外部 ID を使用する場合は、それぞれのコードがシステム内で一意でないと正常に更新を実行できません。
- 3 CSV ファイルには、少なくともすべての必須のフィールドを含めます。
- 4 インポートアシスタントのステップ 1 で、[既存のレコードに上書き] を選択します。
- 5 インポートアシスタントの [項目マッピング] ステップで、[外部 ID] フィールドまたはすべての重複チェックフィールドをマップすることを確認します。
- 6 インポートアシスタントのステップをすべて実行して、データをインポートします。

インポートアシスタントを使用してレコードを更新する場合は、[項目マッピング] ステップでマップしたフィールドのみが上書きされます。したがって、更新の必要がなく、重複チェックにも必要ないフィールドは、マップする必要がありません。

外部 ID があり、インポートプロセスで外部 ID をマップしている場合、アプリケーションは、レコードが重複しているかどうかの確認にこれらの ID を使用します。他のレコードタイプをインポートしている場合は、関連付けが Oracle CRM On Demand に継承されるように、これらの外部 ID を参照として使用します。

たとえば、account.csv ファイルに account_id カラムがあり、Oracle CRM On Demand の「外部固有 ID」にマップするとします。担当者をインポートする際に、contacts.csv ファイルに contact_id カラム（担当者に固有の ID）および account_id カラム（account.csv ファイル内の ID への参照）が含まれる場合は、contact_id を「外部固有 ID」に、account_id を「取引先の外部 ID」にマップします。インポートプロセスで、アプリケーションは各担当者レコードの account_id フィールドをチェックして、既存の取引先を特定し、その取引先を担当者にリンクします。

外部 ID がなく、ファイルの外部 ID をアプリケーションの外部 ID フィールドにマップしていない場合、アプリケーションは、特定のフィールドを比較することによって、重複を確認します。レコードの重複を確認するために使用するフィールドを次の表に示します。

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
取引先	■ 取引先名および所在地 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
取引先住所	取引先、住所およびアドレスタイプ
取引先ブック	取引先およびブック
取引先担当者	■ [取引先名] および [担当者氏名] - または ■ [取引先の外部 ID] および [担当者の外部 ID]（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ [取引先 ID] および [担当者 ID]（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
取引先チーム	取引先およびユーザー
認定	■ 名前 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
認定リクエスト	■ ID - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
住所	■ アドレス名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
割当	■ 製品、タイプ、所有者および開始日 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
申込書類	■ 名前 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
アポイント	■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID） 注意: アポイントがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
アポイント担当者	■ アポイントの外部 ID、担当者（担当者の外部 ID または担当者氏名）
アポイントユーザー	■ アポイントの外部 ID、ユーザー（ユーザーのサインイン ID またはユーザーの外部 ID）
資産	■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成）
ブロック製品	■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
ブック	■ ブック名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
ブックユーザー	■ 既存のブックを識別している場合は、ブック ID、ブックの外部 ID、またはブック名 ■ ブック内のブックユーザーを識別している場合は、ユーザーのサインイン ID、ユーザーの外部 ID、またはユーザー ID
ブローカープロフィール	■ ブローカープロフィール名

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
	または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
ビジネス計画	■ 計画名 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
キャンペーン	■ ソースコード または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
キャンペーン受取人	キャンペーン（キャンペーンの外部 ID またはキャンペーン ID）、担当者（担当者氏名または担当者の外部 ID）、ソースコード 注:担当者氏名または担当者の外部 ID のいずれかを指定する必要がありますが、両方は指定できません。
認定レベル	■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
認定リクエスト	■ ID または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
請求	■ 請求番号 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
	または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
担当者	■ 名前 (名)、名前 (姓)、勤務先電話番号、および電子メール または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID) 注: 担当者がユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
担当者の住所	担当者、住所およびアドレスタイプ
担当者ブック	担当者およびブック
担当者の都道府県免許	■ 免許証番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
担当者チーム	担当者 (担当者名または担当者の外部 ID) およびユーザー (ユーザー ID)
コース	■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
コース登録	■ ID または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
補償内容	■ 補償内容名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
カスタムオブジェクト 01、02、03	外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） 注: カスタムオブジェクトレコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
カスタムオブジェクト 04 以降	■ 名前 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID） 注: カスタムオブジェクトレコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
損傷	■ 損傷名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
自動車ディーラー	■ 名前 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
取引交渉登録	■ 名前 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
イベント	■ 名前 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
試験	■ 名前 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
試験登録	■ ID - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
金融口座	■ 金融口座 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
金融口座保有状況	■ 金融口座保有状況の名前 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
金融口座名義人	■ 金融口座名義人名 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
財務計画	■ 財務計画名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
金融製品	■ 金融製品名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
金融トランザクション	■ 取引 ID - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
HCP 担当者割当	■ 担当者 ID、製品 ID、割当タイプおよび開始日 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
保険不動産	■ タイプ - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
在庫監査レポート	■ レポート日 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
在庫期間	■ 開始日 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
招待者	■ イベントおよび担当者名（担当者氏名または担当者氏名と担当者 ID） - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
関連パーティ	■ 関連パーティ名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
見込み客	■ 名前（名）、名前（姓）、企業、電話番号、および電子メール - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID） 注:見込み客がユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
MDF リクエスト	■ リクエスト名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
メッセージプラン	■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
メッセージプラン項目	■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
メッセージプラン項目関係	■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
メモ	■ 重複のチェックなし（常に新しいレコードを作成）
目標	■ 目標名 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
商談	■ 商談名および取引先（取引先名または取引先の外部 ID） または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
商談担当者役割	■ 商談名および担当者氏名
商談製品売上	外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） 注:商談製品売上レコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
オーダー	■ オーダー番号 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
オーダー項目	■ オーダー項目番号 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
パートナー	■ パートナー名および所在地 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
パートナープログラム	■ パートナープログラム名 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
計画取引先	■ 関係コード - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
計画担当者	■ 担当者氏名 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
計画商談	■ 商談 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
保険	■ 保険証券番号 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
保険名義人	■ 証券名義人名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
ポートフォリオ	■ 口座番号および製品 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
価格リスト	■ 価格リスト名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
価格リスト明細項目	■ 明細項目 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
製品	■ 製品名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
製品領域	■ 製品領域名 - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
製品カテゴリ	■ カテゴリ名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
サンプル免責条項	■ 関係コード - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
サンプル在庫	■ 関係コード - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
サンプルロット	■ ロット番号 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
サンプルリクエスト	■ オーダー番号 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
サンプルリクエスト項目	■ オーダー項目番号 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
サンプルトランザクション	■ 名前 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
サービスリクエスト	■ SR 番号 - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
ソーシャルプロフィール	■ 作成者およびコミュニティ - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
解決策	■ タイトル - または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) - または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
特別価格製品	■ 項目番号 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID） 注:特別価格製品レコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
特別価格リクエスト 注: インポートアシスタントでは、このレコードタイプは「SP リクエスト」と表示されます。	■ リクエスト名 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
タスク	■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
タスク担当者	■ タスクの外部 ID、担当者（担当者の外部 ID または担当者氏名）
タスクユーザー	■ タスクの外部 ID、ユーザー（ユーザーのサインイン ID またはユーザーの外部 ID）
トランザクション項目	■ サンプル - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
ユーザー	■ ユーザー ID - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
車両	■ 車両識別番号 - または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） - または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
車両補償内容	車両および担当者

注意：ファイルの更新時には、重複を確認するため、外部 ID または他のフィールドセットのいずれかをマップすることをお勧めします。その両方をマップすると、上書きする必要のない、重複チェックに使用されるフィールドを上書きしてしまうおそれがあります。たとえば、取引先レコードの更新時に、外部 ID、取引先名、所在地をマップし、外部 ID に基づいて重複が見つかった場合、取引先名と所在地はデータベースの既存の値が上書きされます。外部 ID に基づいて重複が見つからなかった場合、取引先名および所在地に基づいて重複チェックが行われ、見つかった場合は、データベースの外部 ID が上書きされます。

取引先のインポートおよび外部 ID に関するまとめ

取引先のインポート時に、アプリケーション側で重複レコードを処理する方法を指定できます。

■ 重複レコードをインポートしない

重複が見つかった場合、重複レコードはインポートされません。

■ 既存のレコードに上書き

重複が見つかった場合、既存のレコードは更新されません。複数の重複が見つかった場合、どのレコードも挿入または更新されません。

インポート時の処理方法を選択した後、取引先のインポートで利用可能な 2 つの外部 ID など、フィールドのマッピングオプションを選択します。

■ 外部固有 ID。インポートする現在のレコードの外部 ID を参照します。ここで説明しているように外部固有 ID は重複チェックに直接関係します。

■ 親取引先の外部 ID。現在のレコードの親レコードの外部 ID を参照します。

これらの外部 ID に関係する動作はそれぞれ独立しています。

外部固有 ID のシナリオ

シナリオ A - 外部固有 ID がマップされていない

取引先名および所在地に基づいて重複チェックが行われます。重複が見つかった場合の動作は、選択した重複チェックオプションによって決まります。

シナリオ B - 外部固有 ID がマップされている

外部固有 ID を使用して重複レコードが検索されます。

■ シナリオ B1 - 重複した外部 ID が 1 つ見つかった

現在重複が見つかったレコードのほか取引先名および所在地についても、重複があるかどうかチェックされます。重複が見つかった場合、どのレコードも更新または挿入されません。

重複チェックオプションが「既存のレコードに上書き」に設定されている場合、取引先名および所在地を含め、レコードは更新されます。

重複チェックオプションが「重複レコードをインポートしない」に設定されている場合、どのレコードも更新または挿入されません。

■ シナリオ B2 - 重複した外部 ID が複数見つかった

どのレコードも挿入または更新されません。

■ シナリオ B3 - 重複した外部 ID が見つからない

取引先名および所在地に基づいて重複チェックが行われます。

■ シナリオ B3a - 重複した取引先名および所在地が見つからないレコードが挿入されます。

■ シナリオ B3b - 重複した取引先名および所在地が 1 つ見つかった
重複チェックオプションが「既存のレコードに上書き」に設定されている場合、*外部固有 ID* を含めて、レコードは更新されます。重複チェックオプションが「重複レコードをインポートしない」に設定されている場合、レコードは更新されません。

■ シナリオ B3c - 重複した取引先名および所在地が複数見つかった
どのレコードも挿入または更新されません。

シナリオ C - 外部固有 ID がマップされていない

取引先名および所在地は重複チェックを行うために使用されます。

■ シナリオ C1 - 重複した取引先名および所在地が 1 つ見つかった

重複チェックオプションが「既存のレコードに上書き」に設定されている場合、レコードは更新されます。

重複チェックオプションが「重複レコードをインポートしない」に設定されている場合、どのレコードも更新または挿入されません。

■ シナリオ C2 - 重複した取引先名および所在地が複数見つかった

どのレコードも挿入または更新されません。

■ シナリオ C3 - 重複した取引先名および所在地が見つからない

レコードが挿入されます。

親取引先の外部 ID のシナリオ

親取引先の外部 ID は、関連する親取引先レコードを設定するためだけに使用されます。この ID は重複チェックまたは更新に影響を与えません。

シナリオ A - 親取引先の外部 ID がマップされている

親取引先の外部 ID は、親取引先を特定するためだけに使用されます。

■ シナリオ A1 - 複数のレコードが親取引先の外部 ID に一致した
親取引先は設定されません。

■ シナリオ A2 - 1 つのレコードが親取引先の外部 ID に一致した

親取引先が設定されます。

- シナリオ A3 - どのレコードも親取引先の外部 ID に一致しない

親取引先は設定されません。

シナリオ B - 親取引先の外部 ID がマップされていない

親取引先の名前および所在地は、親取引先を特定するためだけに使用されます。

- シナリオ B1 - 複数のレコードが親取引先の名前および所在地と一致した

親取引先は設定されません。

- シナリオ B2 - 1 つのレコードが親取引先の名前および所在地と一致した

親取引先が設定されます。

- シナリオ B3 - どのレコードも親取引先の名前および所在地と一致しない

親取引先は設定されません。

インポート時のレコードのリンク

レコードをインポートするときに、インポートするレコードをデータベース内の既存のレコードにリンクできます。たとえば、担当者レコード（墨田純）を取引先レコード（墨田自動車修理工場）にリンクすることができます。

インポート時に別のレコードをリンクするには、データベース内にすでにレコードが存在している必要があります。したがって、複数のタイプのレコードをインポートするときは、[インポートツールとエクスポートツール] ページに表示されている順にインポートすることをお勧めします。たとえば、取引先レコードをインポートしてから担当者レコードをインポートします。

インポート時に、次のいずれかの方法でレコードをリンクできます。

- リンクするレコードの名前を指定
- 外部 ID コードを指定

どちらの場合も、インポートファイル（CSV ファイル）にデータの入った列があることを確認する必要があります。

名前を使用したレコードのリンク

名前を指定してレコードをリンクするには、インポートファイルに、リンクするレコードの名前の列を追加します。たとえば、取引先にリンクする担当者レコードをインポートする場合、次の操作を行います。

- インポートファイルに [取引先名] 列を追加
- 担当者レコードごとに適切な取引先名を指定
- インポートアシスタントを使用して担当者レコードの [取引先] フィールドに [取引先名] 列をマップ

注：データベース内に存在しない取引先が関連付けられている担当者レコードをインポートする場合は、インポート時に取引先を作成できます。システム生成の取引先レコードは、担当者の住所を、請求および出荷先住所として使用します。この機能を有効にするには、インポートアシスタントのステップ 1 で、[関連レコードを作成する] オプションを選択します。

外部 ID を使用したレコードのリンク

アプリケーション内の各レコードに対して、[外部 ID] フィールドに一意の識別コードをインポートできます。それ以降のインポートでは、この [外部 ID] フィールドを使用してレコード間のリンクを作成できます。

たとえば、担当者レコードのエクスポートファイル (CSV ファイル) は、個々の担当者に関連付けられた取引先を示しています。各取引先は、名前ではなく、[取引先コード] カラムの数値コードで表されます。これらのレコードをインポートするときは、まず取引先レコードをインポートし、CSV ファイルの [取引先コード] カラムをアプリケーションの [外部 ID] フィールドとマップします。次に、担当者レコードをインポートし、CSV ファイルの [取引先コード] カラムを Oracle CRM On Demand の担当者レコードの [取引先外部 ID] フィールドとマップします。これにより、担当者レコードと取引先レコードのリンクが作成されます。

データチェックのガイドライン

Oracle CRM On Demand にインポートする前に、CSV ファイルのデータをチェックします。

- 1 該当するデータのフィールドタイプに関するガイドラインをチェックします。詳細は、「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」を参照してください。
- 2 インポートする各レコードタイプに関する固有の情報をチェックします。

[インポートツールとエクスポートツール] ページのドロップダウンリストに、レコードをインポートする推奨順序が表示されます。リストに表示されるレコードタイプは、実装している業界固有のソリューションによって異なりますが、このリストに表示されている順序でレコードタイプをインポートする必要があります。

注：データチェックのガイドラインでは、米国およびカナダ版の Oracle CRM On Demand での例を使用しています。その他の国向けの Oracle CRM On Demand では、有効な値のデフォルトのリストが変更されていることがあるため、このトピックの情報とは異なる場合があります。たとえば、有効な州の値は、米国およびカナダ版以外の Oracle CRM On Demand では異なります。さらに、有効な値はサポートされている言語によっても異なる場合があります。

エクスポート CSV ファイルのフィールド順序は、Oracle CRM On Demand によって決定され、いつでも変更できます。したがって、エクスポート CSV ファイルのフィールドが特定の順序になることを期待しないでください。iTAG またはフィールド名の値を変更しても、エクスポートファイルのフィールドの順序には影響しません。フィールドの順序をさらに制御する場合は、Oracle Web サービスの使用を検討してください。

データインポート時のフィールドタイプのガイドライン

インポートするデータが、該当するフィールドタイプの仕様を満たしていることを確認します。このトピックで説明するフィールドタイプは次のとおりです。

- テキスト
- ピックリスト
- 数値
- 整数
- 通貨
- 率
- チェックボックス

- 電子メール
- 電話
- 日時
- 日付

テキスト

Oracle CRM On Demand の各テキストフィールドには最大長が設定されています。最大長を超える文字はインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

ヒント： インポートするデータの長さを最大長と比較します（ファイルをスプレッドシートアプリケーションで開き、スプレッドシート機能の 1 つを使用して、カラムの最大長の値を確認します）。データが最大長を超える場合は、データをカスタムフィールドにインポートし、データを 2 つの個別のフィールドに分割するか、目的の長さに収まるように一部のデータを省略することをお勧めします。

ピックリスト

ピックリストフィールドを使用すると、そのフィールドの値のリストから値を選択できます。インポートプロセスでは、CSV ファイルからアプリケーションに新しいピックリスト値を追加するか、追加しないかを指定できます。

注： ユーザーの言語設定が企業レベルの言語設定と同じである場合は、常にピックリスト値のオプションが表示されます。ユーザーの言語が企業の言語設定と異なる場合は、このオプションは表示されません。たとえば、企業の言語がフランス語の場合、言語をフランス語に設定しているユーザーにはこのオプションが表示されますが、同じ企業のユーザーでも英語に設定しているユーザーには表示されません。

追加しないことを選択すると、アプリケーションの値に厳密に一致するピックリスト値だけがインポートされます（値では大文字小文字が区別されます）。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

企業の管理者は、いくつかの特定のフィールドを除き、フィールドのピックリスト値を変更できます（例外については、インポートするレコードタイプのガイドラインを参照してください）。

注： データのインポート時に新しいピックリスト値を追加するオプションを選択した場合、これらの新しいピックリスト値は 24 時間が経過するまでレポートに表示できないことがあります。そのため、その時間はフィルターとして新しいピックリスト値を使用できない場合があります。

ファイルのデータをアプリケーションの有効な値と比較するには

- 1 スプレッドシートアプリケーションでファイルを開きます。

ヒント： ファイルを Microsoft Excel で開いた場合は、オートフィルタ機能を使用して、ファイルの特定のカラムに表示される値を確認できます。

- 2 Oracle CRM On Demand の有効な値とファイルの値とを比較します。そのためには、次の該当する操作を行います。

- 管理者の場合は、アプリケーションの [管理] グローバルリンクをクリックし、値を比較するフィールドが含まれる [フィールドセットアップ] ページを表示します。
- Oracle CRM On Demand で、適切なタブをクリックしてレコードを選択します。[編集] ページで、確認したいフィールドのドロップダウンリストをクリックし、値をデータと比較します。

ヒント： インポートデータを、既存の値に一致する値を持つもののみに制限する場合は、インポートしたすべてのデータが既存の値と一致することを確認します。一致しているかどうかを確認する場合は、大文字小文字が問題になります。有効な値に一致するようにインポートファイルのデータを変更することも、ピックリスト値をアプリケーションに追加することもできます（「[ピックリスト値の変更](#)（ページ 137）」を参照）。

数値

インポートデータとして、-2,147,483,648 から 2,147,483,647 の範囲の任意の数値が有効です。インポートデータのカンマは無視されます。小数点の後の数字は小数点以下第 2 位の最近似値に丸められます。

インポート時に、予期しない文字を持つ値が見つかった場合、または値が許容範囲を超えている場合は、フィールドのデータはインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

インポートする形式にかかわらず、数値フィールドはアプリケーションの共通の形式で表示されます（1,234 など）。

整数

整数は-2147483648 から 2147483647 までの任意の数値です。

通貨

インポートデータは最大 15 桁の有効な数値です。インポートデータのカンマは無視されます。小数点の後の数字は小数点以下第 2 位の最近似値に丸められます。インポートデータの前には、\$またはその他の通貨文字が付きます。負の数値も有効です。

インポート時に、予期しない文字が含まれた値が見つかった場合、または値の桁数が多すぎる場合は、フィールドのデータはインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

インポートする形式にかかわらず、通貨フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます（\$1,000,000.00 など）。

率

インポートデータは最大 15 桁の有効な数値です。インポートデータのカンマは無視されます。小数点の後の数字は小数点以下第 2 位の最近似値に丸められます。負の数値も有効です。インポートデータは、前または後に%文字を付けることができ、数字と%の間に任意数のスペースを挿入できます。たとえば、次のすべての有効な値はアプリケーションでは 1,234.36%と表示されます。

1234.36
1,234.36
1234.35678
1234.36%
1,234.36 %

インポート時に、予期しない文字を持つ値が見つかった場合、または値が許容範囲を超えている場合は、フィールドのデータはインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

インポートする形式にかかわらず、率フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます（1,234.36%など（カンマで桁が区切られ、後ろに%符号が付く））。

チェックボックス

チェックボックスの設定はオンとオフの2つだけです。次の表では、データをインポートするときに使用できる値を示しています。これらの値は大文字小文字が区別されないので、アプリケーションは「true」や「t」なども認識します。

チェックボックスがオン	チェックボックスがオフ (選択されていない)
1	0
Y	N
はい	いいえ
T	F
True	False
確認済み	未確認

インポートデータが他の値の場合は、アプリケーションのチェックボックスフィールドはオフの設定になります。このような状況が発生しても、インポート結果の電子メールメッセージは警告として送信されません。

異なる言語環境下でインポートする場合は、表内の値の翻訳を使用する必要があります。ただし、表内の上から2行に示した値（Y、N、1、0）は、言語設定にかかわらず、アプリケーションによって認識されます。

ヒント： オンの設定になることが予想されるにもかかわらず、インポート時にオンの設定が認識されない値を確認します。これらの値は、インポートする前にYに変換してください。

インポートプロセスで、インポートするレコードタイプのチェックボックスフィールドがインポートファイルのフィールドにマップされていない場合は、インポートする各レコードについてその値がオフに設定されます。

電子メール

インポートデータが任意の形式と一致しない場合、フィールドのデータはインポートされません。次の基準は無効とみなされます。

- 電子メールデータの最後または先頭に記号（@）またはピリオド（.）を使用できません。両方の記号の前後には英数字が必要です。たとえば、次の値は有効ではありません。
a@.
@a.
@.a
a@a.
a@.a
@a.a
- 空文字列
- 長すぎる文字列
- @の前に文字がない（@rightequip.com など）
- @がない（isamplerightequip.com）
- ピリオド（.）がない（isample@rightequipcom など）
- ドメインがない（isample@など）
- comなどのドメインのサフィックスがない（isample@rightequip など）

- @が複数ある (isample@@rightequip.com など)
- ピリオド (.) が連続している (isample@rightequip..com など)
- 文字列の間に空白がある (isa mple@rightequip など)
- 電子メールアドレスのローカルパートに、次に該当しない文字がある
 - 大文字と小文字の文字 (大小は区別されない)
 - 0 から 9 の数字
 - ! # \$ % & ' * + - / = ? ^ _ ` { | } ~ .
- 電子メールアドレスのドメイン名に特殊文字 ! # \$ % & ' * + - / = ? ^ _ ` { | } ~ () が含まれている

形式が誤っているためにフィールドのデータがインポートされなかった場合は、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

電話

電話番号データの入力に適用される同じ形式ルールが、電話番号データのインポートにも適用されます。認識される電話番号形式のデータはアプリケーションで一貫性のある形式に変換されます。

テキストフィールドに適用されるフィールドの長さのルールが、電話番号フィールドにも適用されます。特に、インポートデータがアプリケーションのフィールドの最大長を超える場合、超えた文字はインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

日時

インポートデータには、複数の異なる日時表現を含めることができます。インポートプロセスの一環として、CSV ファイルで使用する形式を選択します。

インポートする形式にかかわらず、日時フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます (01/19/1964 12:15 PM など)。データの表示に使用される形式は、[個人詳細] ページに表示されるユーザーのロケールの設定によって決まります。

日時の値は、インポートを実行しているユーザーがアプリケーションの [個人詳細] ページで指定したタイムゾーンに対して適切であると見なされます。ただし、日時をインポートした後は、異なるタイムゾーンからデータを表示しているユーザーに対しては、そのユーザーのタイムゾーンに対して調整された日時が表示されます。

ヒント： インポートを実行しているユーザーのタイムゾーンが、インポートデータファイルの日時のタイムゾーンと一致していることを確認してください。たとえば、インポートデータで指定された日時が太平洋標準時に関連している場合に、東部標準時ゾーンのユーザーがそのデータをインポートすると、すべての時刻は3時間遅れで表示されます。この問題を解決するには、時刻が正しくインポートされるように、インポート時にタイムゾーンを一時的に太平洋標準時に設定します。インポートを開始する前に、インポートファイルの日時のタイムゾーンを必ず確認してください。ほとんどの場合は、CSV データファイルの日時はグリニッジ標準時 (GMT) 形式なので、インポートの前にこの点を必ず確認してください。

■ [日時] フィールドタイプの日付について

インポートアシスタントを実行する場合は、インポートデータの日付で月 (MM) を先にするのか、日 (DD) を先にするのかを指定する必要があります。月を先にするように指定すると、次の形式がサポートされます。

MM/DD/YY
MM/DD/YYYY
MM/DD (年のデフォルトは現在の年)

日を先にするように指定すると、次の形式がサポートされます。

DD/MM/YY
DD/MM/YYYY
DD/MM（年のデフォルトは現在の年）

インポートデータの形式を YYYY-MM-DD と指定することもできます。

これらのどの形式でも、日付または月が 1 桁の場合は、MM と DD の先頭に 0 を挿入できます。ただし、0 は必須ではありません。

注：現時点では、DD-MON-YY または DD-MON-YYYY 形式の日付はサポートされていません。

■ [日時] フィールドタイプの時刻について

インポートデータでは時刻を指定できます。日付とともに時刻を指定するには、日付の後にスペースを挿入し、その後時刻を指定します。日付とともに時刻を指定しない場合は、時刻は 00:00:00（深夜）に設定されます。次の時刻形式がサポートされています。

HH24:MI:SS
HH:MI:SS AM

（HH24 は 24 時間制の時刻を表します。HH が 12 時間制の場合は、AM は AM または PM を表します）

MI または SS は省略できます。省略した場合は、インポート時に 00 に設定されます。値が 1 桁の場合は、HH、MI、および SS の先頭に 0 を挿入できます。ただし、0 は必須ではありません。

注：インポート中に選択する日時形式オプションに関係なく、インポートプロセスでは 24 時間制の時刻を使用します。たとえば、デフォルトのカナダ形式（hh:mm:ss AM/PM）を選択し、ファイルが 15:00:00 という時刻を示している場合、データは 3:00:00 PM として適切にインポートされます。

日付

アプリケーションの日付タイプフィールドを使用すると、日付の入力と表示だけが可能になり、時刻は指定できません。これらのフィールドの 1 つにインポートする場合は、有効なインポートデータ形式は日時タイプのフィールドと同じになります。ただし、インポートデータで時刻を指定しないでください。時刻を指定しても、インポート時に無視されます。

インポートする形式にかかわらず、日付フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます（12/18/2003 など）。

必須のフィールドについて

フィールドが（デフォルトで、または管理者によって）必須と指定されている場合は、その必須のフィールドを CSV ファイルのカラムにマップしないと、レコード全体が拒否されます。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

ヒント：インポートしているレコードタイプのフィールドを確認して、必須のフィールドを調べます。インポートデータに、これらのすべてのフィールドの有効な値が含まれることを確認してください。

読み取り専用フィールドについて

インポート中、読み取り専用フィールドは次のような動作をします。

- 読み取り専用フィールドにピックリストがある場合、そのフィールドとインポートするフィールドとの間でピックリスト値が正確に一致している必要があります。

- フィールドに読み取り専用でアクセスしている場合、そのフィールドにデータをインポートすることはできません。

データのインポートの準備

Oracle CRM On Demand へのデータのインポートを開始する前に、使用するインポート方法を決定する必要があります。適切なインポート方法を選択する方法の詳細は、「[インポートツールとエクスポートツール](#) (ページ 495)」を参照してください。たとえば、Oracle Data Loader On Demand ユーティリティでは、特定のレコードタイプのみがサポートされています。詳細は、『Oracle Data Loader On Demand Guide』を参照してください。また、インポートを実行する前に、『データのインポートの準備』に目を通すことをお勧めします。

すべてのファイルデータが確実にインポートされるように、場合によっては、CSV ファイルのデータを編集したり、Oracle CRM On Demand をカスタマイズしたりする必要があります。この操作が必要かどうかを確認するには、インポートを開始する前に次の手順を実行します。

- インポートするレコードのタイプを決定します。

見込み客、取引先、担当者、およびメモなどの異なるレコードタイプをインポートすることができます。同時にインポートできるレコードタイプは 1 つだけです。また、推奨のインポート手順に従う必要があります。

たとえば、1 つのファイルに担当者のリストが含まれ、別のファイルに取引先が含まれる場合は、最初取引先をインポートし、次に担当者をインポートして、これらのレコードタイプ間に設定された関係を保持します。

この手順の順序は、[インポートツールとエクスポートツール] ページのユーザーインターフェイス自体に表示されます。

- ファイルのデータを調べて、次の内容を確認します。

- 大文字小文字、略語、綴りに一貫性があること

テキスト値は、CSV ファイルに表示されるとおりにインポートされます。したがって、大文字小文字に違いがあると、不要な追加のレコードが作成されることがあります。たとえば、取引先名に ABC、abc、A.B.C. の値を指定すると、いずれも新しいレコードが作成されます。

さらに、取引先名と場所が同じ場合は、2 つの取引先レコードは同一と見なされるので、追加のレコードが作成されないように、住所の綴り、大文字小文字、略語を一致させる必要があります。たとえば、次のすべてのレコードは同一と見なされません。

ABC, 111 10th Avenue

ABC, 111 10th Ave.

ABC, 111 10th Ave

ABC, 111 Tenth Avenue

- 許容される最大長を超えないこと
- 該当するフィールドの形式の要件に従っていること

詳細については、「[データチェックのガイドライン](#) (ページ 536)」を参照してください。

- アプリケーション側でインポートするレコードタイプの必須のフィールドを確認します。

CSV ファイルのデータをすべての必須フィールドにマップする必要があります。マップしないと、レコードは拒否されます。必須フィールドを確認するには、インポートするレコードタイプの編集ページを参照してください。必須のフィールドは赤色のテキストで表示されます。また、管理者はフィールドを条件付き必須、つまり、デフォルトではフィールドが必須でなくても、レコードの他のフィールドのデータが特定の条件を満たすと必須になるように設

定できます。フィールドに対して定義された条件が真になった結果としてフィールドが必須になる場合に、条件付き必須フィールドの値がインポートファイルに含まれていないと、レコードは拒否されます。

- アプリケーションのデフォルトのフィールドにマップされないデータをインポートする場合は、アプリケーションにフィールドを追加します。

インポートプロセスでは、ファイル内のすべてのフィールドをアプリケーションの既存のフィールドにマップして、そのデータを取得する必要があります。[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている場合は、新しい（カスタム）フィールドを Oracle CRM On Demand で作成し、既存のフィールドにマップできます。手順については、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

- 必要に応じてピックリスト値を設定します。

インポートプロセスでは、アプリケーションの既存のピックリスト値に一致しない CSV ファイルのピックリスト値をアプリケーションで処理する方法を指定できます。

- 新しい値としてアプリケーションに追加する

注：アプリケーションのピックリスト値の変更を確認するには、サインアウトして、再びサインインする必要があります。

- 追加しない（一致する値だけを取得し、他の値は空白にしておく）

アプリケーションに存在するピックリスト値を使用して、その値に一致するデータだけをインポートする場合は、綴りと大文字小文字（値では大文字小文字が区別される）を含めて、ピックリスト値が厳密に一致していることを確認します。

一部のピックリスト値は変更できず、この動作に従わないものもあります。「[データチェックのガイドライン](#) (ページ 536)」を参照し、インポートするレコードタイプのガイドラインを確認してください。

- 正しい時刻形式を選択します。

HH:MM:SS AM の形式を選択すると、CSV ファイル内でデータが AM または PM であるかどうかを示されます。AM/PM の時刻形式を選択しても、データに AM または PM が含まれない場合、フィールドは次のように処理されます。

- HH フィールドが 8 以上で 12 以下の場合、これらのフィールドは AM とみなされます。
- HH フィールドが 7 以下と 13 以上の場合、これらのフィールドは PM とみなされます。たとえば、7 : 00 : 00 は 7 : 00 PM と処理され、9:00:00 は 9:00 AM と処理されます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ピックリスト値の変更](#) (ページ 137)
- [インポートツールとエクスポートツール](#) (ページ 495)

データのインポート準備の詳細は、My Oracle Support の 565278.1（記事 ID）を参照してください。

取引先住所フィールド：インポートの準備

次の表では、取引先住所を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。Oracle CRM On Demand に「取引先住所」フィールドをインポートできるのは、企業に共有住所が設定されている場合のみです。共有住所の詳細は、「住所の管理」を参照してください。

デフォルトの取引先住所 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
行 ID	ID	15	なし。
取引先 ID	ID	15	なし。
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし。
住所 ID	ID	15	なし。
住所外部 ID	テキスト	30	なし。
住所タイプ	ピックリスト	30	使用可能なデフォルト住所タイプは、[居住施設]、[事務所]、[別荘]、[その他]、[バニティ]、[個人]、[郵便]、[病院]、および [クリニック] です。
請求	チェックボックス	1	[請求] フィールドの値が [Y] である場合、その住所は請求先住所です。このフィールドの値は [Y]、[N] です。
出荷先	チェックボックス	1	[出荷先] フィールドの値が [Y] である場合、その住所は出荷先住所です。このフィールドの値は [Y]、[N] です。

取引先ブックのフィールド：インポートの準備

次の表では、取引先ブックを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定に関する情報を示しています。

注：取引先ブックまたは担当者ブックのレコードをインポートするには、将来のブックの管理権限が役割に含まれている必要があります。

このトピックの情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。時間ベースのブック割当の詳細は、「[時間ベースのブック割当について](#)（ページ 318）」を参照してください。

デフォルトのブック取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント

デフォルトのブック取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ブック	文字列	150	なし
ブック Id	文字列	15	なし
ブックの外部 ID	文字列	30	なし
取引先: ID	文字列	15	取引先識別子。
取引先	文字列	100	なし
取引先部署	文字列	50	なし
取引先の外部 ID	文字列	30	なし
開始日	日付	なし	レコードの有効化の実行が必須の日付。
終了日	日付	なし	レコードの有効化の終了が必須の日付。
将来のプライマリフラグ	文字列	1	将来のプライマリフラグの値が [Y] に指定されている場合は、ブックが有効化されたときに、現在のレコードのブックがデータオブジェクトのプライマリとして設定されます。このフィールドは、[開始日] フィールドに基づいています。このフィールドの値は [Y] 、[N] です。

取引先担当者のフィールド: インポートの準備

次の表では、取引先担当者を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。ここでは「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先 ID	ID	15	なし

デフォルトの取引先担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先名	可変長文字列	100	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
担当者名	テキスト	255	担当者の氏名
担当者 ID	ID	15	なし
通貨	可変長文字列	20	なし
為替日	日付	なし	なし

取引先競合会社のフィールド: インポートの準備

次の表では、取引先競合会社を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。ここでは「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先競合会社フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先 ID	ID	15	なし
競合会社 ID	ID	15	なし
この取引先	テキスト	100	親取引先名を示します
取引先競合会社	テキスト	100	競合会社の名前を示します
Account External Unique ID (取引先の外部固有 ID)	テキスト	30	なし
競合会社外部 ID	テキスト	30	なし
ID	ID	15	取引先競合会社の行 ID を示します
役割	ピックリスト	30	なし
役割をリバース	ピックリスト	30	なし
開始日	日付	なし	なし
終了日	日付	なし	なし

デフォルトの取引先競合会社フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
状態	テキスト	30	なし
強み	メモ	1999	なし
弱み	メモ	1999	なし
担当者 ID	ID	15	なし
プライマリ担当者	テキスト	100	なし
コメント	メモ	1999	なし

取引先イベントフィールド: インポートの準備

次の表では、取引先イベントを Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。ここでは「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先イベントフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	50	なし
取引先 ID	ID	15	なし
Account External Unique ID (取引先の外部固有 ID)	ID	15	取引先の外部固有 ID です。
イベント	テキスト	50	イベントの名前です。
イベント ID	ID	15	なし
イベント外部システム ID	ID	15	イベントの外部システム ID です。
行 ID	ID	15	なし

取引先フィールド: インポートの準備

次の表では、取引先を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
取引先名	テキスト	100	このフィールドはデフォルトでは必須です。したがって、インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
取引先タイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は「競合会社」、「顧客」、「パートナー」、「見込み顧客」です。
年間売上	通貨	15	なし
請求先住所	ピックリスト	100	このフィールドの値は、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。この値は、既存の住所レコードの「アドレス名」フィールドと一致する必要があります。「共有アドレスの検証」の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
請求先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および[Township (カナダの郡区)]の住所項目をこのフィールドにマップします(国と住所のマッピングについて (ページ 499)を参照)。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの郡)]、[Part Of Territory (アメリカの準州)]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および[Oblast (ロシアの州)]の住所項目(または米国の州に相当するその他の項目)をこのフィールドにマップします(「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照)。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です(すべて大文字)。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの[外部固有 ID]と一致する必要があります。[共有アドレスの検証]の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
訪問頻度	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの[説明]フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
名前のふりがな	テキスト	100	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
病院識別番号	テキスト		医療施設番号。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
業種	ピックリスト	50	このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。他の方法として、企業の Oracle CRM On Demand 管理者が、カスタム [取引先] フィールドを作成し、有効な値を設定することで、その値をインポートデータに含めることができます。この場合は、このフィールドではなく、カスタムフィールドにデータをインポートできます。 有効なデフォルト値は [自動車]、[エネルギー業界]、[金融サービス]、[ハイテク業界]、[製造]、[その他]、[製薬業]、[小売]、[サービス]、[通信業] です。
影響タイプ	テキスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
統合 ID	テキスト	30	なし
最終訪問日	UTC 日時	7	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
場所	テキスト	50	ほとんどの場合、このフィールドを使用してレコードが重複しているかどうかを判断します。詳細については、「 レコードの重複と外部 ID について (ページ 517)」を参照してください。 たとえば、取引先 XYZ の本社と支社を識別するために、アプリケーションは、取引先の名前と所在地の両方をチェックして、レコードが重複しているかどうかを判断します。
代表 FAX 番号	電話	40	なし

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
代表電話番号	電話	40	なし
マーケットポテンシャル	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
市場セグメント	テキスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このテキストは変更できます。
マーケットシェア	数値	22	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
従業員数	整数	なし	なし
医師数	数値	なし	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致する必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
親取引先	テキスト	100	有効な取引先名になっている必要があります。
親取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
親取引先部署	テキスト	50	なし
パートナー	チェックボックス	なし	この取引先がパートナーであるかどうかを示します。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
優先順位	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [低] 、 [中] 、 [高] です。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先株式会社	チェックボックス	なし	株式会社である（株式非公開会社ではない）場合は、このフィールドをオンに設定します。
評価 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
評価 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
評価 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
取引先を再割当	チェックボックス	なし	取引先を再度割り当てる必要があることを示します。インポートした場合、企業の管理者またはマネージャが再割り当て機能を設定すると、この取引先レコードに対して自動割り当て規則が適用されます。
問い合わせ	チェックボックス	なし	見込み顧客に割り当て可能な参照にこの取引先が相当する場合は、このフィールドをオンに設定する必要があります。
リファレンス開始日	日付	なし	なし
地域	ピックリスト	25	有効なデフォルト値は [東]、[西]、[中央部] です。
ルート	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
出荷先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて （ページ 499）」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
出荷先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section（アメリカの地区）]、[CEDEX Code（CEDEX コード）]、[住所 4]、[URB（市街化地域）]、および[Township（カナダの郡区）]の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State（MEX の州）]、[BRA State（BRA の州）]、[Parish（アメリカの郡）]、[Part Of Territory（アメリカの準州）]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate（emir の管轄区域）]、および[Oblast（ロシアの州）]の住所項目（または米国の州に相当するその他の項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			る場合は使用できません。
出荷先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
納入先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
ソースキャンペーン	ピックリスト	30	その取引先を生成したキャンペーン。
状態	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
信号機 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
信号機 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
信号機 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
テリトリー	テキスト	255	なし
Web サイト	テキスト	100	このフィールドのインポートされたデータに対して形式のチェック（長さのチェックを除く）は行われません。
年度累計売上	数値	22	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

取引先パートナーのフィールド：インポートの準備

次の表では、取引先パートナーを Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先 パートナーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント

デフォルトの取引先 パートナーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先 ID	ID	15	なし。
パートナーID	ID	15	なし。
親取引先名	テキスト	100	なし。
取引先外部固有 ID	テキスト	30	なし。
パートナー外部 ID	テキスト	30	なし。
ID	ID	15	なし。
役割	ピックリスト	30	なし。
役割をリバース	ピックリスト	30	なし。
開始日	日付	なし	なし。
終了日	日付	なし	なし。
状態	テキスト	30	なし。
強み	メモ	1999	なし。
弱み	メモ	1999	なし。
担当者 ID	ID	15	なし。
プライマリ担当者	テキスト	100	なし。
コメント	メモ	1999	なし。

取引先チームフィールド：インポートの準備

次の表では、取引先チームを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先	フィールドの	最大長	コメント

チームフィールド名	タイプ		
取引先アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[完全]、[読み取り専用]、[編集]、[所有者] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
取引先部署	テキスト	50	なし
取引先名	テキスト	100	なし
担当者アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[読み取り専用]、[編集]、[完全]、[アクセスなし] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
商談アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[読み取り専用]、[編集]、[完全]、[アクセスなし] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
チームの役割	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は、[所有者]、[エグゼクティブスポンサー]、[コンサルタント]、[パートナー]、[その他] です。
ユーザーID	テキスト	50	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし

認定のフィールド：インポートの準備

次の表では、認定データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
認定料金	通貨	22	なし。
認定 ID	テキスト	50	認定の内部識別子は一意にすることをお勧めします。

使用可能期間開始	日付	7	なし。
使用可能期間終了	日付	7	なし。
会社	テキスト	50	なし。
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に認定担当者がすでに存在している場合に使用します。
通貨	ピックリスト	15	なし
説明	テキスト	250	なし。
電子メール	テキスト	40	認定担当者の電子メールアドレス。
為替日	日付	なし	なし
名前（名）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定担当者の名前（名）を入力します。
名前（姓）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定担当者の名前（姓）を入力します。
名前	テキスト	50	認定名は一意にすることをお勧めします。
目標	ピックリスト	50	なし。
所有者	ピックリスト	15	なし。
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	50	認定担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし。
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし。
更新可能	チェックボックス	1	なし。
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[セールス]、[テクニカル]、[サービス]、[インストレーション]、[アップグレード]、[デザイン]、[セキュリティ] です。

有効 (月)	数値	22	なし。
Web サイト	テキスト	100	追加の認定情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 認定のフィールド

認定リクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、コース認定のリクエストデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定リクエストフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
認定日	日付	7	なし
認定名	ピックリスト	15	なし
認定番号	テキスト	50	通常、認定番号は一意です。
認定状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[リクエスト済み]、[認可]、[拒否] です。
説明	テキスト	250	なし
失効日	日付	7	なし
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	15	なし
パートナー名	ピックリスト	15	なし
プラン	ピックリスト	15	なし
更新可能	チェックボックス	1	なし

リクエスト日	日付	7	このフィールドには、デフォルトではレコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

住所フィールド：インポートの準備

次の表では、住所を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定に関する情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの住所 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
アドレス名	テキスト	100	このフィールドは必須で、一意である必要があります。
国	テキスト	30	なし
住所 1	テキスト	200	なし
住所 2	テキスト	100	なし
住所 3	テキスト	100	なし
都道府県	テキスト	30	なし
市	テキスト	50	なし
都道府県	テキスト	50	なし
郵便番号	テキスト	30	なし
説明	テキスト	100	なし
コメント	テキスト	1999	なし
緯度	数値	22	ジオコーディング機能がサポートされている Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales や Oracle CRM On Demand Connected Mobile Sales などのモバイルアプリケーションのフィールド値を使用できます。

デフォルトの住所 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
経度	数値	22	ジオコーディング機能がサポートされている Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales や Oracle CRM On Demand Connected Mobile Sales などのモバイルアプリケーションのフィールド値を使用できます。

割当のフィールド：インポートの準備

次の表では、割当を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの割当 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
割当タイプ	テキスト	30	なし
割当数量	数値	22	営業員が管理者から割り当てられた製品の数量。
販売数量	数値	22	割り当て期間中にセールス要員が提供した製品の数量。
終了日	日時	7	製品の払出が可能な最終日。
最大数量	数値	22	営業員が一定期間に顧客に納入できる製品の数量。
ソートキー	数値	22	リスト内の製品の表示順序。
[残数量]	数値	22	割り当て期間中にセールス要員が依然として提供できる製品の数量。
サンプル	テキスト	15	割当に関連付けられている製品名。
開始日	日時	7	流通を開始する日。
サンプリングの停止フラグ	ブール	1	このフィールドがオンの場合、今後は製品を払出できません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

560 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

■ データのインポート (ページ 703)

申込書類のフィールド：インポートの準備

次の表では、申込書類レコードを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの申込書類フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
住所 住所 1	可変長文字列	200	申請を行う企業の住所（番地）。
住所 住所 2	可変長文字列	100	なし
住所 住所 3	可変長文字列	100	なし
住所 市区郡	可変長文字列	50	なし
住所 国	可変長文字列	30	なし
住所 私書箱/並べ替えコード	可変長文字列	200	なし
住所 都道府県	可変長文字列	50	なし
住所 米国の州	可変長文字列	10	なし
住所 郵便番号	可変長文字列	30	なし
年間売上	数値	22	企業の年間売上の合計。
承認状況	可変長文字列	30	申込書類の現在の承認状況。
承認日	日付	7	申込書類が承認された日時。
キャンペーン	可変長文字列	15	パートナーの申込を勧誘するキャンペーンの名前。
携帯電話番号	可変長文字列	40	提出者の携帯電話番号。
通貨	ピックリスト	15	なし
現在の承認者	可変長文字列	15	現在の承認者の名前。
電子メールアドレス	可変長文字列	100	提出者の電子メールアドレス。
為替日	日付	なし	なし
既存のパートナーシップ	可変長文字列		既存のパートナーシップのリスト。
予想パートナーシップ給付金	可変長文字列	500	パートナーシップの予想利益のリスト。

デフォルトの申込書類フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前 (名)	可変長文字列	50	提出者の名前 (名)。
業種	可変長文字列	50	企業が他社と競合している業種。
肩書	可変長文字列	75	提出者の肩書。
名前 (姓)	可変長文字列	50	提出者の名前 (姓)。
所在地	可変長文字列	50	企業の所在地。
代表 FAX 番号	可変長文字列	40	企業の代表 FAX 番号。
代表電話番号	可変長文字列	40	会社の代表電話番号。
名前	可変長文字列	50	会社の名前。
従業員数	数値	22	企業の従業員の合計数。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
パートナー	可変長文字列	15	この申込書類に関連付けられているパートナー。
パートナープログラム	可変長文字列	15	申込書類に関連付けられているパートナープログラムの名前。
パートナータイプ	可変長文字列	30	申込書類を提出しているパートナーのタイプ。
プログラムレベル	可変長文字列	30	申込書類に関連付けられているパートナープログラムのレベル。
拒否理由	可変長文字列	30	申込書類が拒否された理由。
ソース	可変長文字列	30	申込の情報源。例：Web サイト、ダイレクトメール、電子メール。
送信状況	可変長文字列	30	提出の状況。例：未提出、提出済、リコール済など。
送信日	日付	7	申込書類の提出日時。
Web サイト	可変長文字列	100	会社の URL アドレス。
勤務先 FAX 番号	可変長文字列	40	提出者の勤務先 FAX 番号。
勤務先電話番号	可変長文字列	40	提出者の勤務先電話番号。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ データのインポート (ページ 703)

アポイント担当者フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者とアポイントとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのアポイント担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者名	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
アポイントの外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

アポイントユーザーフィールド：インポートの準備

次の表では、ユーザーとアポイントとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのアポイントユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ユーザーID	テキスト	30	なし
アポイントの外部 ID	テキスト	30	なし

デフォルトのアポイント ユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

アポイント、タスク、および電話連絡フィールド：インポートの準備

次の表では、アポイントおよびタスクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

正しい時刻形式を選択します。HH:MM:SS AM の形式を選択すると、CSV ファイル内でデータが AM または PM であるかどうかを示されます。AM/PM の時刻形式を選択しても、データに AM または PM が含まれない場合、フィールドは次のように処理されます。HH フィールドが 8 以上で 12 以下の場合、これらのフィールドは AM とみなされます。HH フィールドが 7 以下と 13 以上の場合、これらのフィールドは PM とみなされます。たとえば、7 : 00 : 00 は 7 : 00 PM と処理され、9:00:00 は 9:00 AM と処理されます。

デフォルトアポイント、タスクお よび電話連絡 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先部署	テキスト	50	なし
活動	テキスト	100	なし
活動通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
アポイントリマインダ	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。

デフォルトアポイント、タスクおよび電話連絡 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
キャンペーン	テキスト	50	なし
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30	なし
コメント	メモ	250	なし
担当者	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
締切日	日付	32	なし。このフィールドはタスクで使用できます。これはデフォルトで必須フィールドです。
終了時刻	日時	32	なし。このフィールドはアポイントで使用できます。これはデフォルトで必須フィールドです。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
イベント	ピックリスト	50	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
資金リクエスト	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand High Tech Edition および Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition の場合のみ存在します。読み取り専用です。
統合 ID	テキスト	30	なし
見込み客	テキスト	255	なし
見込み客の外部 ID	テキスト	30	なし
場所	テキスト	100	アポイントの場合のみ存在します。
商談	テキスト	100	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサ

デフォルトアポイント、タスクおよび電話連絡 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			インオンユーザーID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
優先順位	ピックリスト	30	このフィールドはデフォルトでは必須です。有効なデフォルト値は [1-高]、[2-中]、[3-低] です。
個人	チェックボックス	なし	なし
サービスリクエスト	テキスト	64	なし
サービスリクエストの外部 ID	テキスト	30	なし
開始時刻	日時	32	なし。このフィールドはアポイントで使用できます。これはデフォルトで必須フィールドです。
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [完了]、[延期]、[進行中]、[他のユーザーを待機中]、[開始前] です。
主題	テキスト	150	タスクとアポイントで使用できます。これはデフォルトで必須フィールドです。
タスク通貨	テキスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
タスクリマインダ	日時	32	なし。
タイプ	ピックリスト	30	このフィールドはタスクとアポイントで使用できます。有効なデフォルト値は [電話連絡]、[フォローアップ]、[デモ]、[電子メール]、[イベント]、[FAX]、[ミーティング]、[その他]、[個人]、[プレゼンテーション]、[予定] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [活動フィールド](#)
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

資産フィールド：インポートの準備

次の表では、資産を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの資産フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
資産通貨	ピックリスト	20	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
契約	テキスト	30	なし
顧客担当者	テキスト	255	なし
説明	テキスト	250	なし
失効日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
インストール日	日付	7	資産を Oracle CRM On Demand にインポートすると、このフィールドに現在の日付が自動的に入力されます。
統合 ID	テキスト	30	なし
通知日	日付	7	Oracle CRM On Demand High Tech Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの資産フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
運用状況	テキスト	30	なし
製品の外部 ID	テキスト	30	なし
製品名	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
購入日	日付	7	なし
購入価格	通貨	15	なし
数量	数値	15	なし
シリアル番号	テキスト	100	なし
出荷日	日付	7	なし
保証	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 資産の追跡
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

ブロック製品フィールド: インポートの準備

次の表では、ブロック製品レコードを Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのブロック製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者	テキスト	15	なし
通貨	ピックリスト	15	なし
説明	テキスト	250	なし
為替日	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし

デフォルトのブロック製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ID	テキスト	15	なし
インデックス付きチェックボックス	ブール	1	なし
インデックス付き通貨	通貨	22	なし
インデックス付き日付	日時	32	なし
インデックス付き数値	数値	22	なし
インデックス付きピックリスト 1	ピックリスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 2	ピックリスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 3	ピックリスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 4	ピックリスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 5	ピックリスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
製品	テキスト	100	なし
担当者: 外部固有 ID	テキスト	50	なし
所有者: 外部固有 ID	テキスト	50	なし
製品: 外部固有 ID	テキスト	50	なし

ブックユーザーのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブックユーザーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。Oracle CRM On Demand でのブックの使用の詳細は、「[ブックの管理](#) (ページ 299)」を参照してください。

デフォルトのブックユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
アクセスプロファイル	文字列	100	なし

デフォルトのブックユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ブックユーザー役割	文字列	30	なし
ユーザー	文字列	50	このフィールドには、ユーザーエイリアスの値を指定します。
ブック名	文字列	150	新規インポートを実行する場合は、[ブック名] フィールドまたは [ブック Id] フィールドにのみ値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。
ブック Id	文字列	15	新規インポートを実行する場合は、[ブック名] フィールドまたは [ブック Id] フィールドにのみ値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。 既存のレコードを更新する場合は、[ブック Id] フィールドが必須です。
ユーザー識別子	文字列	15	既存のレコードを更新する場合は、ユーザー識別子フィールドが必須です。 新規インポートを実行する場合は、[ユーザーのサインイン ID]、ユーザー識別子、または [ユーザーの外部 ID] フィールドのうちの少なくとも 1 つに値を指定することをお勧めします。
ユーザーの外部 ID	文字列	30	新規インポートを実行する場合は、[ユーザーのサインイン ID]、ユーザー識別子、または [ユーザーの外部 ID] フィールドのうちの少なくとも 1 つに値を指定することをお勧めし

デフォルトのブックユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			ます。
ユーザーのサインイン ID	文字列	50	新規インポートを実行する場合は、[ユーザーのサインイン ID]、ユーザー識別子、または [ユーザーの外部 ID] フィールドのうちの少なくとも 1 つに値を指定することをお勧めします。

ブックのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブックを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。Oracle CRM On Demand でのブックの使用の詳細は、「[ブックの管理](#) (ページ 299)」を参照してください。

デフォルトのブックのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ブック Id	文字列	15	なし
親ブック	文字列	150	なし
ブックタイプ	文字列	30	なし
データを含めることができる	文字列	1	なし
ブック名	文字列	150	なし
説明	文字列	255	なし
パートナー	文字列	100	[パートナー] フィールドをインポートする場合は、[所在地] フィールドもインポートすることをお勧めします。
外部固有 ID	文字列	30	なし
場所	文字列	50	このフィールドにはパートナーの所在地を指定します。

ブローカープロファイルのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブローカープロファイルデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのブローカープロファイルフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
ブローカープロファイル名	テキスト	40	ブローカープロファイルの名前。
ブローカープロファイル年度	ピックリスト	30	ブローカープロファイルが有効な年度。
企業の過去および将来の成長率	テキスト	250	企業のブローカーの過去および将来の成長率の説明。
企業概要	テキスト	250	ブローカーに関する追加情報を提供します。
作成	テキスト	30	そのブローカープロファイルを作成したユーザーの名前と作成日が、Oracle CRM On Demand によって生成されます。
通貨	ピックリスト	15	なし
部署	テキスト	50	なし
FAX 番号	電話	35	ブローカーの FAX 番号。
為替日	日付	なし	なし
変更	テキスト	30	そのブローカープロファイルを最後に更新したユーザーの名前と作成日が、Oracle CRM On Demand によって生成されます。
パートナー	ピックリスト	30	ブローカーの名前。
電話番号	電話	35	ブローカーの電話番号。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
プライマリ住所。	テキスト	50	ブローカーのプライマリ住所。
サブチャネル	ピックリスト	30	ブローカーの補償内容。デフォルトの有効値は、[グローバル]、[ローカル]、[全国]、[地域]、[ホールセラー] です。

セグメンテーション	ピックリスト	30	ブローカーのセグメンテーション。デフォルトの有効値は、[商用]、[成長]、[小売] です。
テリトリー/ 地域構造	テキスト	250	ブローカーのテリトリーまたは地域の構造。
Web サイト	テキスト	100	追加のブローカープロファイル情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [ブローカープロファイルのフィールド](#)

ビジネス計画のフィールド：インポートの準備

次の表では、ビジネス計画のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのビジネス計画 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
通貨	ピックリスト	20	なし
説明	メモ	250	なし
部署	テキスト	50	なし
為替日	日付	7	なし
メモ	テキスト	250	なし
商談	テキスト	250	なし
親プラン名	テキスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
期間	テキスト	15	期間オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし

デフォルトのビジネス計画 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
計画売上	通貨	22	なし
製品名	テキスト	15	製品オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
状態	ピックリスト	30	なし
強み	テキスト	250	なし
脅威	テキスト	250	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし
弱み	テキスト	250	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

キャンペーンフィールド：インポートの準備

次の表では、キャンペーンを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのキャンペーン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
実費用	通貨	15	なし
参加者	テキスト	2000	なし
予算計上済みコスト	通貨	15	なし
キャンペーン通貨	ピックリスト	15	なし
キャンペーン電子メール	テキスト	50	なし
キャンペーン	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
キャンペーン電話番号	電話	40	なし
キャンペーンタイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [広告]、[ダイレクトメール]、[電子メール]、[イベント-セミナー]、[イベント-トレードショー]、[

デフォルトのキャンペーン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			イベント-その他]、[リスト-購入]、[リスト-レンタル]、[照会-従業員]、[照会-外部]、[Web サイト]、[その他] です。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
終了日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
目標見込み客数	整数	なし	なし
目標	テキスト	2000	なし
オファー	テキスト	255	なし
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
売上目標	通貨	15	なし
ソースコード	テキスト	30	デフォルトでは、必須フィールド。
開始日	日付	7	なし
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は「計画済み」、[有効]、[完了] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [キャンペーンフィールド：インポートの準備](#) (ページ 574)
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

キャンペーン受取人フィールド：インポートの準備

次の表では、キャンペーン受取人を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。キャンペーン受取人フィールドをインポートするには、少なくとも [担当者の外部 ID] と [キャンペーン] の情報が必要です。

デフォルトの製品カテゴリーフィールド名	データタイプ	最大長さ
配送状況	テキスト	30
応答状況	テキスト	30
キャンペーン名	テキスト	100
担当者名	テキスト	255
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30
担当者の外部 ID	テキスト	30
説明	テキスト	250

認定レベルのフィールド：インポートの準備

次の表では、認定レベルデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定レベルフィールド名	フィールドのタイプ	最大長さ	コメント
使用可能期間開始	日付	7	なし
使用可能期間終了	日付	7	なし

認定レベル料金	通貨	22	なし
認定レベル ID	テキスト	50	認定レベルの内部識別子は一意にすることをお勧めします。
会社名	テキスト	50	なし
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に認定レベル担当者がすでに存在している場合に使用します。
説明	テキスト	250	なし
電子メール	テキスト	50	認定レベル担当者の電子メールアドレス。
名前（名）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定レベル担当者の名前（名）を入力します。
名前（姓）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定レベル担当者の名前（姓）を入力します。
名前	テキスト	50	認定レベルの名前。
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	30	なし
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	40	認定レベル担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし
更新可能	チェックボックス	1	なし
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[プリセール]、[ポストセール]、[テクニカル]、[サービス]、[インストレーション]、[アップグレード]、[デザイン]、[セキュリティ] です。
有効（月）	数値	22	なし
Web サイト	テキスト	100	追加の認定レベル情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 認定レベルのフィールド

認定レベルリクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、認定レベルリクエストデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定レベルリクエストフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
候補名	ピックリスト	15	なし。
候補日	日付	7	なし。
認定レベル名	ピックリスト	15	なし。
認定レベル番号	テキスト	50	通常、認定レベル番号は一意です。
認証状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[リクエスト済み]、[認可]、[拒否] です。
通貨	ピックリスト	15	なし。
説明	テキスト	250	なし。
為替日	日付	なし	なし。
失効日	日付	7	なし。
目標	ピックリスト	15	なし。
所有者	ピックリスト	15	なし。
プラン	ピックリスト	15	なし。
リクエスト日	日付	7	このフィールドには、デフォルトではレコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。
更新可能	チェックボックス	1	なし。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 認定レベルのフィールド

請求フィールド：インポートの準備

次の表では、請求データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、請求データのみ有効です。

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
作業能力	ピックリスト	30	なし
住所	テキスト	200	なし
住所行 1。	テキスト	100	なし
住所行 2。	テキスト	100	なし
負債額	通貨	22	なし
損失額	通貨	22	なし
過失事故	ピックリスト	30	なし
ビジネス口座	テキスト	15	このレコードにリンクされた保有する他金融機関（ビジネスアカウント）。
Business Account: External System ID (ビジネスアカウント：外部システム ID)	テキスト	30	なし
損失のカテゴリ	ピックリスト	30	なし
市	テキスト	50	なし
請求番号	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
従業員のクラス	ピックリスト	30	なし

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
クローズ日	日付	なし	なし
コメント	テキスト	250	なし
Company: External System ID (企業: 外部システム ID)	テキスト	30	外部固有 ID と呼ばれます。
条件	テキスト	50	なし
担当者	テキスト	15	なし
担当者: 外部システム ID	テキスト	30	なし
国	テキスト	30	なし
郡	テキスト	50	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Date of Employer Aware of Claim (雇用者が請求を認識した日付)	日付	なし	なし
Date of Employer Aware of Injury (雇用者が負傷を認識した日付)	日付	なし	なし
部署	テキスト	50	なし
負傷した従業員数	数値	22	なし
イベント番号	テキスト	50	なし
為替日	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
病院名	テキスト	50	なし
世帯	テキスト	15	なし
世帯: 外部システム ID	テキスト	30	なし
Injured During Working Hours (就業中の事故かどうか)	ピックリスト	30	なし
損失の種類	ピックリスト	30	なし
補償の情報源	ピックリスト	30	なし
業種	ピックリスト	30	なし

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
損失の場所	ピックリスト	30	なし
損失コード	ピックリスト	30	なし
Loss Date and Time（損失の日時）	日時	なし	なし
損失の説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが16,350文字を超える場合は16,252文字に切り詰められます。
損失タイプ	ピックリスト	30	なし
負傷コード	ピックリスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Part of Body Injured（負傷箇所）	ピックリスト	30	なし
負傷者数	数値	22	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
負傷した場所	ピックリスト	30	なし
警察署	テキスト	50	なし
事故レポート番号	テキスト	50	なし
保険	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Policy: External System ID（保険証券：外部システム ID）	テキスト	50	このレコードにリンクされた保険証券の外部固有 ID。
郵便番号	テキスト	30	なし
都道府県	テキスト	50	なし
被保険者との関係	ピックリスト	30	なし
レポート日	日付	なし	なし
レポート番号	テキスト	50	なし
レポート作成者	ピックリスト	30	なし
レポーター担当者情報	テキスト	50	なし
都道府県	テキスト	10	なし
状態	ピックリスト	30	なし

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
死亡時刻	日時	なし	なし
負傷の種類	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

担当者住所フィールド: インポートの準備

次の表では、担当者住所を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。

この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。Oracle CRM On Demand に「担当者住所」フィールドをインポートできるのは、企業に共有住所が設定されている場合のみです。共有住所の詳細は、「住所の管理」を参照してください。

デフォルトの担当者住所フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
行 ID	ID	15	なし。
担当者 ID	ID	15	なし。
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし。
住所 ID	ID	15	なし。
住所外部 ID	テキスト	30	なし。
住所タイプ	ピックリスト	30	使用可能なデフォルト住所タイプは、[居住施設]、[事務所]、[別荘]、[その他]、[バニティ]、[個人]、[郵便]、[病院]、および [クリニック] です。
プライマリ	チェックボックス	1	[プライマリ] フィールドの値が [Y] である場合、その住所はプライ

デフォルトの担当者住所フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			マリ住所です。このフィールドの値は [Y]、[N] です。

担当者ブックのフィールド：インポートの準備

次の表では、担当ブックを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。

注：取引先ブックまたは担当者ブックのレコードをインポートするには、将来のブックの管理権限が役割に含まれている必要があります。

この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。時間ベースのブック割当の詳細は、「[時間ベースのブック割当について](#) (ページ 318)」を参照してください。

デフォルトのブック担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前	文字列	150	新規インポートを実行する場合は、[名前] フィールドまたは [ブック Id] フィールドに値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。 既存のレコードを更新する場合は、[名前] フィールドはオプションです。
ブック Id	文字列	15	新規インポートを実行する場合は、[名前] フィールドまたは [ブック Id] フィールドに値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。 既存のレコードを更新する場合は、[ブック

デフォルトのブック担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			Id] フィールドが必須です。
ブックの外部 ID	文字列	30	なし
担当者: ID	文字列	15	担当者 ID は担当者の行 ID です。
担当者の外部 ID	文字列	30	なし
開始日	日付	なし	レコードの有効化の実行が必須の日付。
終了日	日付	なし	レコードの有効化の終了が必須の日付。
将来のプライマリフラグ	文字列	1	将来のプライマリフラグの値が [Y] に指定されている場合は、ブックが有効化されたときに、現在のレコードのブックがデータオブジェクトのプライマリとして設定されます。このフィールドは、[開始日] フィールドに基づいています。このフィールドの値は [Y] 、 [N] です。

担当者フィールド：インポートの準備

取引先と担当者についてインポートする個別のファイルがある場合は、取引先を先にインポートし、次に担当者をインポートします。担当者インポートファイルに、取引先インポートファイルの有効な取引先名が含まれることを確認してください。

担当者インポートファイルしかない場合は、担当者インポートファイルの [取引先名] フィールドの取引先名データに基づいて取引先レコードが作成されます。担当者レコードに住所（2）のデータが含まれる場合は、Oracle CRM On Demand で新しい取引先が作成され、出荷先住所として住所（2）が挿入されます。請求先住所は空白のままです。

複数の担当者が同じ取引先に関連付けられている場合は、その取引先の住所フィールドは、その取引先についてインポートされた最初の担当者に関連付けられた [住所（2）] の値に設定されます。最初にインポートされた担当者に [住所（2）] のデータが含まれず、それ以降のレコードに含まれる場合は、取引先の住所フィールドは空白になります。これは、取引先の住所フィールドに値を設定する場合に、最初にインポートされた担当者だけが考慮されるからです。したがって、担当者インポートファイルだけからインポートしている場合は、インポートする前にデータを取引先名で並べ替えてから、異なる各取引先名の最初の担当者に、取引先に使用する住所が含まれることを確認してください。

次の表では、担当者を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	このフィールドのテキストは、既存の取引先レコードとの一致を調べるために使用されるフィールドの 1 つです。一致するものが見つからない場合、このテキストは、取引先インポートプロセス中に作成される新しい取引先の取引先名になります。詳細については、「 レコードの重複と外部 ID について (ページ 517)」を参照してください。
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先部署	テキスト	50	このフィールドのテキストは、既存の取引先レコードとの一致を調べるために使用されるフィールドの 1 つです。詳細については、「 レコードの重複と外部 ID について (ページ 517)」を参照してください。
アシスタント名	テキスト	50	なし
アシスタント電話番号	電話	40	なし
コンタクトの最適時刻	ピックリスト	30	デフォルト値は、[昼下がり]、[早朝]、[夜]、[遅い午後]、[午前中]、[土曜日] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
ブロック理由コード	ピックリスト	30	デフォルト値は、[ビジネス]、[表示しない]、[出荷しない]、[HR]、および [法曹関連] です。このピックリストは変更できます。
訪問頻度	ピックリスト	30	デフォルト値は、[訪問なし]、[1 - 2 回/年]、[3 - 4 回/年]、[5 回以上/年] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
携帯電話番号	電話	40	なし
クライアント指定日以降	日付	なし	[担当者タイプ] ドロップダウンメニューで [クライアント] 値が選択されている場合、このフィールドには現在の日付が自動的に挿入されます。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			入されます。
担当者の住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの「アドレス名」フィールドと一致する必要があります。 「共有アドレスの検証」の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
担当者の住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者の住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者国	ピックリスト	30	デフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者通貨	ピックリスト	20	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
担当者私書箱/並べ替えコード	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、「Colonia/Section (アメリカの地区)」、「CEDEX Code (CEDEX コード)」、「住所 4」、「URB (市街化地域)」、および「Township (カナダの郡区)」の住所項目をこのフィールドにマップします (国と住所の

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			マッピングについて (ページ 499)を参照)。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの郡)]、[Part Of Territory (アメリカの準州)]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目 (または米国の州に相当するその他の項目) をこのフィールドにマップします (「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照)。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者タイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [見込み顧客]、[顧客]、[パートナー]、[競合会社] です。
担当者米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です (すべて大文字)。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
担当者住所 - 郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
信用評点	数値	22	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
現在の投資比率	ピックリスト	30	デフォルト値は、[積極的]、[中度]、[保守的] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
顧客 ID	テキスト	11	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
生年月日	日付	7	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
学位	ピックリスト	30	デフォルト値は、[PHD]、[医者]、[歯科医官]、[経営学修士]、[登録されていた看護婦]、[R.T.]、[薬剤師]、[科学のマスター]、[歯科医]、[LPN]、[公衆衛生のマスター] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できません。
部門	テキスト	75	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの[説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
電子メール	テキスト	100	なし
経験レベル	ピックリスト	30	デフォルト値は、[なし]、[制限済み]、[良い]、[広範囲な] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できません。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
名前 (名) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
名前 (姓) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
性別	ピックリスト	1	デフォルト値は、[女] および [男] です。このピックリストは変更できます。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
自宅電話番号	電話	40	なし

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
家屋価格	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
統合 ID	テキスト	30	なし
投資計画期間	ピックリスト	30	デフォルト値は、[短期]、[中期]、[長期] です。このピックリストは変更できます。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
肩書	テキスト	75	なし
最終訪問日	日時		Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
見込み客情報源	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [広告]、[ダイレクトメール]、[電子メール]、[イベント-セミナー]、[イベント-トレードショー]、[イベント-その他]、[リスト-購入]、[リスト-レンタル]、[照会-従業員]、[照会-外部]、[Web サイト]、[その他] です。
ライフイベント	ピックリスト	30	デフォルト値は、[結婚]、[出産]、[退職]、[離婚]、および[その他] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
マネージャ	なし	なし	現時点では、このフィールドにデータをインポートすることはできません。この値は Siebel CRM On Demand の [担当者編集] ページで直接設定するしかありません。
マネージャの外部 ID	テキスト	30	なし
未婚/既婚	ピックリスト	30	デフォルト値は、[単身]、[離婚]、[既婚]、[パートナー]、[別居]、[死別]、[寡夫] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
マーケットポテンシャル	ピックリスト	30	デフォルト値は [高]、[中]、[低] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
ミドルネーム	テキスト	50	なし

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
敬称	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は [Miss.]、[Mr.]、[Ms.]、[Dr.] です。
電子メール送信禁止	チェックボックス	なし	なし
目標	ピックリスト	30	デフォルト値は、[資本保持]、[収入]、[収入/成長]、[バランス型]、[成長]、[積極成長率]、[国際的資産分散] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
オプトイン	チェックボックス	なし	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
オプトアウト	チェックボックス	なし	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
持家/賃貸	ピックリスト	30	デフォルト値は、[所有]、[借家] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインイン電子メール ID に一致する必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオン電子メール ID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオン電子メール ID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
個人アドレス外部システム ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
主要目標	ピックリスト	30	デフォルト値は「子供の教育費用として貯金」、「大学資金を貯蓄」、「新築住宅」、「蓄財」、「相続計画」、「資産維持」、「退職」です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
個人	チェックボックス	なし	この担当者を取引先所有者だけに表示する場合は、このフィールドをオンに設定する必要があります。
専門職	テキスト	50	なし。
承認日	日時	なし	なし。
評価 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
評価 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
評価 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
リスクプロファイル	ピックリスト	30	デフォルト値は「リスク回避」、「危険を冒す人」、「保守的」、「中度」、および「積極的」です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
照会者	ピックリスト	101	なし。
ルート	ピックリスト	30	デフォルト値は、「ルート 1」、「ルート 2」、「ルート 3」、「ルート 4」です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
セグメント	ピックリスト	30	デフォルト値は、[ホワイトカラー]、[ブルーカラー]、[地方/農業]、[量販]、[富裕層]、[高純資産]、[純資産 500 万ドル以上]、[超高純資産] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
自営	チェックボックス	なし	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
ソースキャンペーン	ピックリスト	100	その担当者を生成したキャンペーン。
状態	ピックリスト	30	このカラムには、クライアントまたは担当者の状態が格納されます。使用できる値は、[有効]、[暗黙ファイル]、および [デッドファイル] です。
信号機 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
信号機 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
信号機 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
税率等級	数値	22	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
クラス	ピックリスト	30	デフォルト値は、[ゴールド]、[シルバー]、[ブロンズ]、[トップ 100]、[トップ]、[普通]、[低] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
タイムゾーン	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は標準の有効な値と正確に一致している必要があります。
総資産	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
経費総額	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
総収入	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
負債合計	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
総純資産	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルト値は「見込み顧客」、「顧客」、「パートナー」、「競合会社」です。
勤務先 FAX 番号	電話	40	なし
勤務先電話番号	電話	40	なし
年度累計販売	通貨	15	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 担当者フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

担当者の都道府県免許フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者の州免許を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの担当者の都道府県免許フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者	テキスト	15	なし
失効日	テキスト	7	この担当者の医療免許の有効期限（わかっている場合）。
免許証番号	テキスト	30	指定された州に必要な、担当者の免許証番号。
State（州）	テキスト	30	米国またはカナダの州（オプション）。

デフォルトの担当者の都道府県免許 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
状態	テキスト	30	免許証の状態のデフォルト値は、[ブランク]、[有効]、または[期限切れ]です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [担当者の州免許](#)

担当チームフィールド：インポートの準備

次の表では、担当者チームを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルト担当者チーム フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[読み取り専用]、[編集]、[完全]、[アクセスなし] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
担当者氏名	テキスト	60	なし
チームの役割	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は、[所有者]、[エグゼクティブスポンサー]、[コンサルタント]、[パートナー]、[その他] です。
ユーザーID	テキスト	50	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [レコードの共有（チーム）](#)

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

コース登録のフィールド：インポートの準備

次の表では、コース登録データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのコース登録フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
候補名	ピックリスト	15	なし。
終了日付	日付	22	なし。
コース名	ピックリスト	15	コース名は一意にすることをお勧めします。
通貨	ピックリスト	15	なし。
説明	テキスト	250	なし。
登録日	日付	22	このフィールドには、デフォルトではレコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。
登録番号	テキスト	100	なし。
登録状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[登録]、[完了]、[未完了]です。
為替日	日付	なし	なし。
目標	ピックリスト	15	なし。
オファーパートナー	ピックリスト	15	候補が登録しているコースのサードパーティ企業。通常は、コースのオファーパートナーのリストからの登録となります。
所有者	ピックリスト	15	なし。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- コースフィールド

コースのフィールド：インポートの準備

次の表では、コースデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのコースフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
使用可能期間開始	日付	7	なし
使用可能期間終了	日付	7	なし
会社名	テキスト	100	コース担当者が勤務している会社。
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand にコース担当者がすでに存在している場合に使用します。
コース料金	通貨	22	なし
コース ID	テキスト	30	コースの内部識別子は一意にすることをお勧めします。Oracle CRM On Demand では、一意であることを強制していません。
コースの長さ (日)	数値	22	なし
説明	テキスト	255	なし
期間 (時間)	数値	22	なし
電子メール	テキスト	100	コース担当者の電子メールアドレス。
試験	ピックリスト	15	なし
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、コース担当者の名前 (名) を入力します。
フォーマット	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[指導者]、[CBT]、[自己ペース] です。
体験型研究所	チェックボックス	1	なし
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、コース担当者の名前 (姓) を入力します。

メディア	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[クラスルーム]、[オンライン]、[CD/DVD] です。
名前	テキスト	100	コース名は一意にすることをお勧めします。
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	15	なし
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	40	コース担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[プリセール]、[ポストセール]、[テクニカル]、[サービス]、[インストレーション]、[アップグレード]、[デザイン]、[セキュリティ] です。
Web サイト	テキスト	100	追加のコース情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- コースフィールド

補償内容フィールド：インポートの準備

次の表では、補償内容データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

次の表の情報は、補償内容データのものに有効です。

補償内容フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
開始	日付	なし	なし
担当者	テキスト	15	なし
担当者：外部システム ID	テキスト	30	なし
補償内容	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド
Coverage Name（補償内容名）	テキスト	100	なし
Coverage Product（補償製品）	テキスト	15	なし
Coverage Product: External System ID(補償製品：外部システム ID)	テキスト	50	外部固有 ID と呼ばれます。
Coverage Status（補償内容状態）	ピックリスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
控除金額	通貨	22	なし
終了	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated（前回の外部更新）	日時	なし	なし
External Source（外部情報源）	テキスト	50	なし
Individual Limit（個別限度額）	通貨	22	なし
Insured Amount（被保険金額）	通貨	22	なし
Insured Property（被保険対象物）	テキスト	30	なし
Insured Property: External System ID(被保険対象物：外部システム ID)	テキスト	50	外部固有 ID と呼ばれます。
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Policy（保険証券）	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。

補償内容フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Policy: External System ID (保険証券: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
状態	ピックリスト	30	なし
Total Limit (合計限度額)	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

カスタムオブジェクトフィールド: インポートの準備

次の表では、カスタムオブジェクトのカスタムオブジェクトフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的に説明します。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

カスタムオブジェクト 01、カスタムオブジェクト 02、カスタムオブジェクト 03

次の表の情報は、カスタムオブジェクト 01、カスタムオブジェクト 02、カスタムオブジェクト 03 にのみ有効です。

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
名前	テキスト	50
取引先部署	テキスト	50
説明	テキスト	16,350
カスタムオブジェクト 04-15	テキスト	50
部署	テキスト	50
Custom Objects 04-15 External Unique ID (カスタムオブジェクト 04~15 の外部固有 ID)	テキスト	30
統合 ID	テキスト	30
外部固有 ID	テキスト	30
所有者	電子メール	50

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
ピックリスト値グループ	テキスト	50
通貨	テキスト	20
クイック検索 1	テキスト	50
クイック検索 2	テキスト	50
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30
インデックス付き数値	数値	16
インデックス付き日付	日時	32
インデックス付き通貨	通貨	25
インデックス付きチェックボックス	ブール	1
タイプ	テキスト	30
取引先	テキスト	100
キャンペーン	テキスト	100
担当者	テキスト	255
カスタムオブジェクト 01	テキスト	50
カスタムオブジェクト 02	テキスト	50
カスタムオブジェクト 03	テキスト	50
自動車ディーラー	テキスト	100
イベント	テキスト	50
資金	テキスト	50
世帯	テキスト	50
見込み客	テキスト	255
商談	テキスト	100
ポートフォリオ	テキスト	100
製品	テキスト	100

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
サービスリクエスト	テキスト	64
解決策	テキスト	100
車両	テキスト	100
取引先の外部 ID	テキスト	30
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30
担当者の外部 ID	テキスト	30
Custom Object 01 External ID (カスタムオブジェクト 01 の外部 ID)	テキスト	30
Custom Object 02 External ID (カスタムオブジェクト 02 の外部 ID)	テキスト	30
Custom Object 03 External ID (カスタムオブジェクト 03 の外部 ID)	テキスト	30
見込み客の外部 ID	テキスト	30
商談の外部 ID	テキスト	30
所有者の外部 ID	テキスト	30
ポートフォリオの外部 ID	テキスト	30
製品の外部 ID	テキスト	30
サービスリクエストの外部 ID	テキスト	30
解決策の外部 ID	テキスト	30

カスタムオブジェクト 04 以降

次の表の情報は、カスタムオブジェクト 04 以降にのみ有効です。

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
取引先	テキスト	100
活動	テキスト	100
ブック	文字列	150
ブック:ID	文字列	15
キャンペーン	テキスト	100

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
カスタムオブジェクト 01-15	テキスト	50
自動車ディーラー	テキスト	100
説明	テキスト	16,350
為替日	日付	32
外部固有 ID	テキスト	30
イベント	テキスト	50
資金	テキスト	50
資金リクエスト	テキスト	50
世帯	テキスト	1
インデックス付きチェックボックス	ブール	1
インデックス付き通貨	通貨	25
インデックス付き日付	日時	32
インデックス付き数値	数値	16
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30
統合 ID	テキスト	30
見込み客	テキスト	225
名前	テキスト	50
商談	テキスト	100
所有者	電子メール	50
ポートフォリオ	テキスト	100
製品	テキスト	100
クイック検索 1	テキスト	50
クイック検索 2	テキスト	50
サービスリクエスト	テキスト	64

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
タイプ	テキスト	30
車両	テキスト	100
Account External Unique ID (取引先の外部固有 ID)	テキスト	30
Activity External Unique ID (活動の外部固有 ID)	テキスト	30
Asset External System ID (資産の外部システム ID)	テキスト	30
Campaign External Unique ID (キャンペーンの外部固有 ID)	テキスト	30
Company External System ID (企業の外部システム ID)	テキスト	30
Contact External Unique ID (担当者の外部固有 ID)	テキスト	30
Custom Objects 01-15 External Unique IDs (カスタムオブジェクト 01～15 の外部固有 ID)	テキスト	30
Dealer External Unique ID (自動車ディーラーの外部固有 ID)	テキスト	30
Fund Request External Unique ID (資金リクエストの外部固有 ID)	テキスト	30
Household External Unique ID (世帯の外部固有 ID)	テキスト	30
Opportunity External Unique ID (商談の外部固有 ID)	テキスト	30
Owner External Unique ID (所有者の外部固有 ID)	テキスト	30
Portfolio External Unique ID (ポートフォリオの外部固有 ID)	テキスト	30
Product External Unique ID (製品の外部固有 ID)	テキスト	30
Service Request External Unique ID (サービスリクエストの外部固有 ID)	テキスト	30
Solution Request External Unique ID (解決策リクエストの外部固有 ID)	テキスト	30

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
Vehicle External Unique ID (車両の外部固有 ID)	テキスト	30

損傷フィールド：インポートの準備

次の表では、損傷データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、損傷データのみにも有効です。

損傷フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Claim: External System ID (請求: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
損傷	テキスト	50	なし
損害の説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
損傷名	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
損害を被った不動産の説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
損害を被った不動産タイプ	テキスト	50	なし
部署	テキスト	50	なし

損傷フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
予想額	通貨	22	なし
為替日	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
保険不動産	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Insurance Property: External System ID(保険対象物：外部システム ID)	テキスト	50	なし
所有者	テキスト	15	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
不動産番号	数値	22	なし
所有者：外部固有 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

取引交渉登録のフィールド：インポートの準備

次の表では、取引交渉登録を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
承認状況	ピックリスト	30	このフィールドの有効値は、[承認保留]、[承認]、[拒否]、[返済済]、[取消済]、[期限切れ] です。
承認日	日付	なし	なし

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
関連担当者	ピックリスト	100	なし
関連顧客	ピックリスト	100	なし
関連見込み客	テキスト	100	なし
関連見込み客: 外部固有 ID	テキスト	30	なし
関連見込み客: 名前 (名)	テキスト	50	なし
関連見込み客: 名前 (姓)	テキスト	50	なし
関連見込み客: 統合 ID	テキスト	30	なし
関連見込み客: 名前 (姓)	テキスト	50	なし
関連商談	ピックリスト	100	なし
携帯電話	テキスト	40	なし
市	テキスト	50	なし
クローズ日	日付	なし	なし
企業名	テキスト	50	なし
商談に変更	チェックボックス	なし	なし
国	ピックリスト	50	なし
現在の承認者	ピックリスト	100	なし
作成 : 日付	日時	なし	なし
通貨	ピックリスト	なし	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と一致している必要があります。
取引サイズ	通貨	15	なし
説明	テキスト	255	なし
部署	テキスト	50	なし
電子メール	テキスト	50	なし
為替レート	日付	なし	なし
失効日	日付	なし	なし
外部 ID	テキスト	40	なし
FAX	テキスト	40	なし
最終承認者	ピックリスト	100	なし

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前 (名)	テキスト	50	なし
肩書	テキスト	75	なし
名前 (姓)	テキスト	50	なし
ミドルネーム	テキスト	50	なし
変更 : 日付	日時	なし	なし
敬称	ピックリスト	30	なし
名前	テキスト	100	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
新規担当者	チェックボックス	なし	なし
新規顧客	チェックボックス	なし	なし
新規商談	チェックボックス	なし	このフィールドは、取引交渉登録に関連付けられている商談が新規の商談かどうかを示します。
次のステップ	テキスト	250	なし
目標	テキスト	100	なし
目標: 外部固有 ID	テキスト	50	なし
所有者	ピックリスト	30	このフィールドのデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのユーザー ID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのユーザー ID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートフィールドにマップされない場合、所有者は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのユーザー ID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
所有者パートナー取引先	ピックリスト	100	このフィールドには、デフォルトで自動的に取引交渉登録の所有者のパートナー企業が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。Oracle CRM On Demand のアップ

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			ロードプロセスでこのフィールドは更新できません。
開始パートナー取引先	ピックリスト	100	商談を最初に発掘したパートナー。このパートナーは一般に主要パートナーと同じですが、主要パートナー以外にすることもできます。このフィールドはオプションです。
パートナープログラム	ピックリスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
郵便番号	テキスト	30	なし
主要パートナー	ピックリスト	100	主要パートナーは取引交渉登録の責任者です。このフィールドと主要パートナーの場所フィールドによってパートナーは一意に識別されます。このフィールドを null にすることはできません。
主要パートナーの場所	テキスト	50	前述の主要パートナーの場所。このフィールドと [主要パートナー] フィールドによってパートナーは一意に識別されます。このフィールドは null にすることができます。
製品への関心	テキスト	100	なし
拒否理由	ピックリスト	30	なし
特別価格必須	チェックボックス	なし	なし
都道府県	ピックリスト	30	なし
住所-区、町、番地	テキスト	100	なし
送信状況	ピックリスト	30	このフィールドの有効値は、未提出、提出済およびリコール済です。
送信日	日時	なし	なし
サポート必須	チェックボックス	なし	なし
電話番号	テキスト	40	なし
タイプ	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルトの有効値は、標準および非標準です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

608 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

■ データのインポート (ページ 703)

自動車ディーラーのフィールド：インポートの準備

次の表では、自動車ディーラーのフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

注：Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前	テキスト	100	なし
部署	テキスト	50	なし
部署	テキスト	50	なし
親自動車ディーラー	テキスト	100	なし
状態	テキスト	255	なし
親会社部署	テキスト	50	なし
電話番号	電話	40	なし
電子メール	テキスト	50	なし
URL	テキスト	100	なし
状態	テキスト	30	なし
FAX 番号	電話	40	なし
通貨	テキスト	20	なし
ステージ	テキスト	30	なし
ランキング	数値	16	なし
請求先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
請求先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法について

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			では、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は <i>[アメリカ]</i> です。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、<i>[Colonia/Section (アメリカの地区)]</i>、<i>[CEDEX Code (CEDEX コード)]</i>、<i>[住所 4]</i>、<i>[URB (市街化地域)]</i>、および <i>[地域区分]</i> の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて (ページ 499)を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、<i>[MEX State (MEX の州)]</i>、<i>[BRA State (BRA の州)]</i>、<i>[Parish (アメリカの群)]</i>、<i>[テリトリーの一部]</i>、<i>[島]</i>、<i>[都道府県]</i>、<i>[地域]</i>、<i>[Emirate (emir の管轄区域)]</i>、および <i>[Oblast (ロシアの州)]</i> の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
出荷先国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section（アメリカの地区）]、[CEDEX Code（CEDEX コード）]、[住所 4]、[URB（市街化地域）]、および[Township（カナダの郡区）]の住所項目をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State（MEX の州）]、[BRA State（BRA の州）]、[Parish（アメリカの群）]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate（emir の管轄区域）]、および [Oblast（ロシアの州）]の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて（ページ 499）」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
納入先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
親自動車ディーラーの外部 ID	テキスト	30	なし
プライマリ所有者 ID	ID	15	なし
自動車ディーラータイプ	テキスト	30	なし
変更 : 日付 (外部)	日時	32	なし
所有者	電子メール	50	なし
変更者	テキスト	255	なし
行 ID	ID	15	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
カスタムオブジェクト N	テキスト	50	なし
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 6	テキスト	30	なし
インデックス付き数値	数値	16	なし
インデックス付き日付	日時	32	なし
インデックス付き通貨	通貨	25	なし
インデックス付き長いテキスト	テキスト	255	なし
インデックス付き短いテキスト 1	テキスト	100	なし
インデックス付き短いテキスト 2	テキスト	100	なし
インデックス付きチェックボックス	ブール	1	なし

イベントフィールド: インポートの準備

次の表では、イベントフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表の「デフォルトフィールド」のカラムには、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみが表示されます。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に連絡して、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

イベント フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
行 ID	ID	15	なし。
製品	ピックリスト	100	なし。
製品カテゴリー	ピックリスト	100	なし。
所有者エイリアス	テキスト	50	なし。
説明	テキスト	250	なし。
部署	テキスト	50	なし。
セッション詳細	テキスト	500	なし。
所有者名 (名)	テキスト	50	なし。
所有者名 (姓)	テキスト	50	なし。
プライマリ所有者 ID	ID	15	なし。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし。
統合 ID	テキスト	30	なし。
外部システム ID	テキスト	30	なし。
インデックス付き数値	整数	なし	このフィールドの値は、-2147483648 から 2147483647 までの有効な数値である必要があります。
インデックス付きピックリスト 1	ピックリスト	30	なし。
インデックス付きピックリスト 2	ピックリスト	30	なし。
インデックス付きピックリスト 3	ピックリスト	30	なし。

イベント フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
インデックス付きピックリスト 4	ピックリスト	30	なし。
インデックス付きピックリスト 5	ピックリスト	30	なし。
インデックス付きピックリスト 6	ピックリスト	30	なし。
インデックス付き長いテキスト	テキスト	255	なし。
インデックス付き短いテキスト 1	テキスト	40	なし。
インデックス付き短いテキスト 2	テキスト	40	なし。
タイプ	ピックリスト	15	なし。
場所	テキスト	100	なし。
最大出席者	整数	該当なし。	このフィールドの値は、0 から 1000000 までの有効な数値である必要があります。
名前	テキスト	150	このフィールドは必須です。
イベント目標	テキスト	500	このフィールドは必須です。
開始日	日時	該当なし。	なし。
予算	通貨	15	なし。
CME 履修単位	整数	該当なし。	このフィールドの値は、-2147483648 から 2147483647 までの有効な数値である必要があります。
確認日	日時	該当なし。	なし。
終了日	日時	該当なし。	なし。
状態	ピックリスト	30	なし。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

試験のフィールド：インポートの準備

次の表では、試験データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの試験フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	説明
使用可能期間開始	日付	7	なし。
使用可能期間終了	日付	7	なし。
会社名	テキスト	100	なし。
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に試験担当者がすでに存在している場合に使用します。
説明	テキスト	255	なし。
電子メール	テキスト	100	試験担当者の電子メールアドレス。
試験料金	通貨	22	なし。
試験 ID	テキスト	100	コースの内部識別子は一意にすることをお勧めします。
名前（名）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、試験担当者の名前（名）を入力します。
フォーマット	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[複数選択肢]、[QA]、[混合]です。
等級評価方法	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[等級]、[ポイント]、[スコア]です。
名前（姓）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、試験担当者の名前（姓）を入力します。
最大スコア	数値	22	なし。
普通	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[コンピュータベース]、[紙ベース]、[混合]です。
名前	テキスト	100	試験名は一意にすることをお勧めします。
質問数	数値	22	なし。
目標	ピックリスト	15	なし。
所有者	ピックリスト	15	なし。
合格スコア	数値	22	なし。

支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	40	試験担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし。
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし。
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
許可された時間 (分)	数値	22	なし。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[監督対象] および [オンライン] です。試験中に候補が監視される場合、試験は監視対象とみなされます。
有効 (月)	数値	22	なし。
Web サイト	テキスト	100	追加の試験情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 試験のフィールド

試験登録のフィールド：インポートの準備

次の表では、試験登録データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの試験登録フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
管理パートナー	ピックリスト	15	試験を管理するサードパーティ企業。通常は、試験の管理パートナーのリストからの登録となります。
候補名	ピックリスト	15	なし。
終了日付	日付	7	なし。

通貨	ピックリスト	15	なし。
説明	テキスト	255	なし。
試験名	ピックリスト	15	なし。
為替日	日付	なし	なし。
達成済み等級	テキスト	50	なし。
目標	ピックリスト	15	なし。
所有者	ピックリスト	15	なし。
達成済みスコア	数値	22	なし。
スコア失効日	日付	7	なし。
登録日	日付	7	このフィールドには、レコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。
登録番号	テキスト	50	通常、試験登録番号は一意です。
登録状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[登録済み]、[パス]、[失敗] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 試験のフィールド

金融口座フィールド：インポートの準備

次の表では、金融口座を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、金融口座データのものに有効です。

金融口座のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
口座名義人	テキスト	15	なし

金融口座のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Account Holder: External System ID(口座名義人：外部システム ID)	テキスト	30	なし
残高	通貨	22	なし
現在の残高	日時	なし	なし
支店	テキスト	15	なし
支店：外部システム ID	テキスト	30	なし
ビジネス口座	テキスト	15	なし
Business Account: External System ID(ビジネスアカウント：外部システム ID)	テキスト	30	なし
キャンペーン	テキスト	15	なし
キャンペーン：外部システム ID	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。
部署	テキスト	50	なし
為替日	日時	なし	なし
外部 ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
金融口座	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
金融口座番号	テキスト	50	なし
金融アドバイザー	テキスト	15	なし
金融アドバイザー：外部システム ID	テキスト	30	なし
他金融機関保有	ブール	1	なし
保有する他金融機関	テキスト	15	なし
保有する他金融機関：外部システ	テキスト	30	このレコードにリンクされた保有する他金融機

金融口座のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ム ID			関（ビジネスアカウント）の外部固有 ID。
本店	ピックリスト	30	なし
世帯	テキスト	15	なし
世帯：外部システム ID	テキスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
共同	ブール	1	なし
オープン日	日付	なし	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Parent Financial Account: External System ID（親金融口座 ：外部システム ID）	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
ポートフォリオ：外部システム ID	テキスト	30	なし
プライマリ取引先	ブール	1	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）
- [データのインポート](#)（ページ 703）

Financial Account Holders Fields: Import Preparation（金融口座名義人フィールド：インポートの準備）

次の表では、金融口座名義人を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、金融口座名義人データのみ有効です。

金融口座名義人のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ビジネス口座	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Business Account: External System ID(ビジネスアカウント : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
部署	テキスト	50	なし
為替日	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
金融口座	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Account: External System ID(金融口座 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
金融口座名義人	テキスト	15	なし
Financial Account Holder: External System ID (金融口座名義人 : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
Financial Account Holders Name (金融口座名義人名)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド
世帯	テキスト	15	なし
世帯 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
加入日	日付	なし	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
プライマリ担当者	ブール	1	なし
役割	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

Financial Account Holdings Fields: Import Preparation (金融口座保有状況フィールド：インポートの準備)

次の表では、金融口座保有を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、金融口座保有データのものに有効です。

金融口座保有状況のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
通貨コード	ピックリスト	20	なし
部署	テキスト	50	なし
為替日	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
金融口座	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Account: External System ID (金融口座：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
金融口座保有状況の名前	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド
金融製品	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Product: External System ID (金融商品：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融商品の外部固有 ID。
統合 ID	テキスト	30	なし

金融口座保有状況のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
実績	テキスト	22	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
購入日	日時	なし	なし
購入価格	通貨	22	なし
数量	数値	22	なし
値	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

財務計画フィールド：インポートの準備

次の表では、財務計画を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

財務計画

次の表の情報は、財務計画のみに有効です。

財務計画のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者による承認済み	ブール	1	なし
ビジネス口座	テキスト	15	なし
Business Account: External System ID (ビジネスアカウント：外部システム ID)	テキスト	30	なし
キャンペーン	テキスト	15	なし
キャンペーン：外部システム ID	テキスト	30	なし

財務計画のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者	テキスト	15	なし
担当者：外部システム ID	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。
部署	テキスト	50	なし
為替日	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
金融口座	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Account: External System ID(金融口座：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
財務計画名	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
世帯	テキスト	15	なし
世帯：外部システム ID	テキスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
ポートフォリオ	テキスト	15	なし
ポートフォリオ：外部システム ID	テキスト	30	なし
担当者に送信	ブール	1	なし
状態	ピックリスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

624 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32
2016 年 6 月版

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

金融商品フィールド：インポートの準備

次の表では、金融商品を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、金融商品のみに有効です。

金融商品のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
カテゴリー	ピックリスト	30	なし
クラス	ピックリスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
現在の価格	通貨	20	なし
現在の価格（前回の更新）	日時	該当なし。	なし
部署	テキスト	30	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前回の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
金融製品 ID	テキスト	50	なし
金融製品名	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
金融製品の概要	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。
統合 ID	テキスト	30	なし
MDM Product Hub ID (MDM 製品のハブ ID)	テキスト	50	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし

金融商品のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
親金融製品	テキスト	15	なし
Parent Financial Product: External System ID (親金融商品 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた 親金融商品の外部固有 ID。
Parent Financial Product: System ID (親金融商品 : システム ID)	テキスト	50	外部固有 ID と呼ばれます 。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
価格情報源	テキスト	50	現在の価格情報源とも呼ばれ ます。
製品カタログ	テキスト	250	なし
製品 URL	テキスト	250	なし
サブクラス	ピックリスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

Financial Transactions Fields: Import Preparation (財務取引フィールド : インポートの準備)

次の表では、金融トランザクションを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注 : この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

次の表の情報は、財務取引のみに有効です。

財務取引のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date (為替交換日)	日時	なし	なし

財務取引のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Financial Account (金融口座)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Account: External System ID (金融口座 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
Financial Product (金融商品)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Product: External System ID (金融商品 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融商品の外部固有 ID。
Financial Transaction Parent (金融トランザクションの親)	テキスト	15	なし
Financial Transaction Parent (金融トランザクションの親 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融商品の外部固有 ID。
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者 : 外部固有 ID	テキスト	30	なし
数量	数値	22	なし
Transaction Date Time (取引日時)	日時		なし
Transaction ID (取引 ID)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Transaction Period (取引期間)	テキスト	50	なし
Transaction Price (取引価格)	通貨	22	なし
Transaction Source (取引情報源)	テキスト	50	なし
Transaction Type (取引タイプ)	ピックリスト	30	なし
値	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

HCP 担当者割当フィールド: インポートの準備

次の表では、HCP 担当者割当フィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの HCP 担当者割当フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
HCP 担当者割当 ID	可変長文字列	15	行 ID 番号を示します。
割当タイプ	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルト値は、[詳細割当]、[サンプル割当]、[プロモーションアイテム割当] および [サンプルリクエスト割当] です。
開始日	日時	7	このフィールドは必須です。
通貨	ピックリスト	15	なし。
為替日	日付	なし	なし。
部署	テキスト	50	なし。
終了日	日時	7	HCP 担当者割当レコードに対して終了日が定義されている場合、終了日は開始日より後の日付である必要があります。
残数量	数値	22	HCP 担当者割当を最初に作成する際、[割当数量] および [残数量] フィールドの値が同じ正の値である必要があります。数量のフィールドには整数値が必要で

デフォルトの HCP 担当者割当フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			す。
[販売数量]	数値	22	HCP 担当者割当を最初に作成する際、[販売数量] フィールドはゼロである必要があります。数量のフィールドには整数値が必要です。
割当数量	数値	22	HCP 担当者割当を最初に作成する際、[割当数量] および [残数量] フィールドの値が同じ正の値である必要があります。数量のフィールドには整数値が必要です。
担当者 ID	可変長文字列	15	割当が定義されている担当者または医療の専門家の行 ID を示します。
製品 ID	可変長文字列	15	特定の担当者または医療の専門家に対して割当が定義されている製品またはサンプルの行 ID を示します。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

保険対象物フィールド：インポートの準備

次の表では、保険対象物データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、保険対象物データのみに有効です。

保険対象物フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
金額	通貨	22	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
保険	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Policy: External System ID（保険証券：外部システム ID）	テキスト	50	このレコードにリンクされた保険証券の外部固有 ID。
シーケンス	数値	22	一致するレコードの定義済みフィールド。
タイプ	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）

■ [データのインポート](#)（ページ 703）

在庫監査レポートのフィールド：インポートの準備

次の表では、在庫監査レポートを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの在庫監査レポート フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
コメント	メモ	255	なし
完了日	日時	7	なし
在庫期間	テキスト	15	在庫期間オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
理由	ピックリスト	30	なし
レポート日	日時	7	なし
状態	ピックリスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

在庫期間のフィールド：インポートの準備

次の表では、在庫期間を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの在庫期間 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
有効	ブール	1	このフィールドは、在庫期間が有効か無効かを示します。
終了日	日時	7	在庫期間が有効な場合、このフィールドは空です。
調整済	ブール	1	このフィールドは、在庫期間が調整済みかどうかを示します。
開始日	日時	7	在庫期間の開始日。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

招待者のフィールド：インポートの準備

次の表では、招待者のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表の「デフォルトフィールド」のカラムには、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみが表示されます。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に連絡して、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

招待者 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
招待者状況	テキスト	30	デフォルト値は [保留中] です。他の値には、[参加]、[取消済み]、[確認済み]、[却下]、および [ウェイトिंगリスト] があります。
担当者名	テキスト	30	関連アプレットから担当者を選択します。
肩書	テキスト	30	担当者の肩書。
タイプ	テキスト	30	担当者のタイプ。
電子メール	テキスト	30	なし
電話番号	テキスト	30	なし
セッション詳細	テキスト	30	なし
コメント	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

関係者フィールド：インポートの準備

次の表では、関連パーティデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

次の表の情報は、関係者データのみ有効です。

関係者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Claim: External System ID (請求: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
担当者	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。[担当者] フィールドでは、担当者の姓と名が連結されます。
担当者: 外部システム ID	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date (為替交換日)	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Injury Description (負傷の説明)	テキスト	16350	インポートファイルの[説明] フィールドが 16,350 を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
Injury Summary (負傷の概要)	テキスト	250	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
Involved Party Name (関係者名)	テキスト	50	なし
場所	ピックリスト	30	なし
所有者	テキスト	15	レコードの所有者。
所有者: 外部システム ID	テキスト	30	なし
役割	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド。
Role in Accident (事故における役割)	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

見込み客イベントフィールド：インポートの準備

次の表では、見込み客イベントを Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。ここでは「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの見込み客イベントフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
イベント	テキスト	50	イベントの名前です。
イベント ID	ID	15	なし
イベント外部システム ID	ID	15	イベントの外部システム ID です。
見込み客	テキスト	50	見込み客の名前です。
見込み客 ID	ID	15	なし
見込み客外部固有 ID	ID	15	見込み客の外部固有 ID です。
行 ID	ID	15	なし

見込み客フィールド：インポートの準備

次の表では、見込み客を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
エイリアス	テキスト	50	なし

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
年間売上	通貨	15	なし
概算収入	通貨	15	これは、概算の年間収入額です。
関連取引先	テキスト	100	なし。
関連担当者	テキスト	101	許可される最大文字数は 101 文字です。名前（名）には最長 50 文字使用し、その後空白を 1 つ追加し、名前（姓）には最大 50 文字使用することで、フィールドの合計は 101 文字となります。
関連取引交渉登録	テキスト	100	なし
関連取引交渉登録: 外部 ID	テキスト	50	なし
関連商談	なし	なし	変換済みの見込み客をインポートしている場合、このフィールドの値は既存の商談名と一致する必要があります。
請求先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。
請求先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。
請求先住所 - 市	テキスト	50	なし
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。
請求先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および [Township (カナダの郡区)] の住所項目をこのフィールドにマッピングします（「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。
請求先都道府県	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの郡)]、[Part Of Territory (アメリカの

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			準州)]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当するその他の項目）をこのフィールドにマップします。
請求先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。
請求先郵便番号	テキスト	50	なし
キャンペーン	なし	なし	この値は、Oracle CRM On Demand の見込み客インポートアシスタントの使用時に指定されます。インポートデータで [キャンペーン] フィールドの値を直接設定することはできません。
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30	なし
携帯電話番号	電話	40	なし
会社	テキスト	100	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
作成者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
生年月日	日付	なし	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
電子メール	テキスト	100	なし
予想クローズ日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
名前 (名) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
名前 (姓) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
業種	ピックリスト	50	Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。または、企業の Oracle CRM On Demand 管理者が、インポートデータで予想される有効な値が含まれるカスタム [見込み客] フィールドを作成できます。この場合は、このフィールドではなく、カスタムフィールドにデータをインポートできます。 有効なデフォルト値は [自動車]、[エネルギー業界]、[金融サービス]、[ハイテク業界]、[製造]、[その他]、[製薬業]、[小売]、[サービス]、[通信業] です。
統合 ID	テキスト	30	なし
肩書	テキスト	75	なし
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
見込み客通貨	テキスト	20	なし
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
敬称	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は [Miss.]、[Mr.]、[Ms.]、[Dr.] です。
電子メール送信禁止	チェックボックス	なし	なし
次のステップ	テキスト	250	なし

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
従業員数	整数	15	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
見込売上	通貨	15	なし
電話番号	電話	40	なし
製品への関心	テキスト	100	なし
専門職	テキスト	50	これは、指定した専門職または職業です。
評価	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [A] 、 [B] 、 [C] 、 [D] です。
評価 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
評価 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
評価 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
見込み客所有者を再割当	なし	なし	この値は、Oracle CRM On Demand の見込み客インポートアシスタントの使用時に、インポートされたすべての見込み客に対して指定されます。この値によって、インポートされた見込み客が、企業で定義された見込み客割当ルールに基づいて新しい所有者に割り当てられるかどうかが決まります。
照会者	ピックリスト	101	なし
セールス要員	ピックリスト	30	なし
営業員の外部 ID	テキスト	30	なし
ソース	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [広告]、[ダイレクトメール]、[電子メール]、[イベント-セミナー]、[イベント-トレードショー]、[イベント-その他]、[リスト-購入]、[リスト-レンタル]、[照会-従業員]、[照会-外部]、[Web サイト]、[その他] です。
状態	なし	なし	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致しており、ビジネスロジックとも一致している必要があります。
信号機 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
信号機 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
信号機 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
Web サイト	テキスト	100	なし
勤務先 FAX 番号	電話	40	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 見込み客フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ データのインポート (ページ 703)

MDF リクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、市場開発資金（MDF）リクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの MDF リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
事前承認金額	数値	22	ブランド所有者がマーケティング活動用に承認した資金の合計金額。
要求済み金額	数値	22	パートナーがマーケティング活動用に要求している資金の合計金額。
承認状況	可変長文字列	30	MDF リクエストの現在の承認状況。
承認者	可変長文字列	15	現在の承認者の名前。
キャンペーン	可変長文字列	15	MDF が関連付けられたキャンペーン。
カテゴリー	可変長文字列	30	MDF リクエストが属しているカテゴリー。
請求決定日	日付	7	請求が決定された日付。
クレーム状況	可変長文字列	30	MDF 請求の状態を示します。
説明	可変長文字列	250	なし
部署	テキスト	50	なし
締切日	日付	7	リクエストの処理期限。
終了日	UTC 日時	7	マーケティング活動の終了日時。
失効日	UTC 日時	7	MDF リクエストが無効になる日。
資金	可変長文字列	15	MDF リクエストに関連付けられている資金の名前。
最終承認者	可変長文字列	15	最後にリクエストを承認した人の名前。
MDF リクエスト通貨	可変長文字列	20	なし
マーケティングの目的	可変長文字列	30	MDF リクエストに対するマーケティングの理由。

デフォルトの MDF リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
所有者パートナー取引先	可変長文字列	15	所有者が使用するパートナー取引先。
パートナープログラム	可変長文字列	15	リクエストが関連付けられたパートナープログラム。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
事前承認日付	日付	7	MDF リクエストが事前承認された日時。
主要パートナー取引先	可変長文字列	15	MDF リクエストの中心的な役割を果たすパートナー企業。
理由コード	可変長文字列	30	特別価格リクエストが返された、または拒否された理由。
地域	可変長文字列	30	MDF リクエストの対象となる地域。
リクエスト日	日付	7	MDF リクエストが作成された日時。
リクエスト名	可変長文字列	50	MDF リクエストの名前。
開始日	UTC 日時	7	マーケティング活動の開始日時。
送信状況	可変長文字列	30	提出の状況。例：未提出、提出済、リコール済など。
送信日	UTC 日付	7	リクエストが提出された日時。
承認済み請求額合計	数値	22	パートナーに承認された請求額合計。
要求済み請求額合計	数値	22	パートナーが要求した請求額合計。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

メッセージ応答のフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージ応答を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのメッセージ応答フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	15	なし
活動	テキスト	15	なし
コメント	テキスト	250	なし
担当者	テキスト	15	なし
部署	テキスト	50	なし
フォローアップの有効化	ブール	1	なし
終了時刻	日時	7	なし
外部固有 ID	テキスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
プラン	テキスト	15	なし
プラン項目	テキスト	15	なし
応答	テキスト	30	なし
セクション	テキスト	100	なし
シーケンス番号	数値	22	なし
開始時刻	日時	7	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [メッセージ応答の調整](#)

メッセージプランのフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージプランを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトメッセージプラン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
参加者	テキスト	1000	このフィールドは、このメッセージプランの参加対象者（例：心臓外科医）を示します。
コード	テキスト	50	このフィールドは異なる行 ID のメッセージプランを追跡します。たとえば、メッセージプランを改訂した場合、このフィールドでメッセージプランのコピーが作成され、インクリメントしたバージョン番号が付加されます。
開示必須	ブール	1	このフィールドがオンの場合、開示メッセージが表示されます。
部署	テキスト	50	なし
フォローアップの有効化	ブール	1	なし
失効日	日時	7	メッセージプランが終了する日。
外部固有 ID	テキスト	50	なし
シーケンスをロック	ブール	1	このフィールドは、メッセージプランをロックし、ユーザーが順序の変更やメッセージの削除を行うことを防ぎます。
名前	テキスト	200	メッセージプランまたはパーソナライズされたメッセージプランの名前。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
優先順位	数値	22	なし
リリース日	日時	7	メッセージプランのリリース日。
セグメント	テキスト	50	このフィールドは、市場セグメント、つまり、メッセージプランのターゲットとなる取引先のグループ（例：三次医療機関）を示します。また、営業員が訪問を計画する場合に推奨されるメッセージプランを示します。
スキン	テキスト	30	編集またはプレビューするためにメッセージプランナーを開くと、メッセージプランのレイアウトも表示されます。
開始日	日時	7	なし
状態	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルトの有効値は、承認、進行中、拒否、リリース済および提出済です。

デフォルトメッセージプラン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
タイプ	テキスト	30	このフィールドのデフォルトの有効値は、プロダクト開始およびターゲットメッセージです。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [メッセージプラン](#)

メッセージプラン項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージプラン項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトメッセージプラン 項目フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
参加者	テキスト	1000	なし
説明	テキスト	255	なし
事前ロードの無効化	ブール	1	事前ロードの無効化フィールドの値がデフォルト値の [N] である場合、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales アプリケーションのアニメーションの事前ロードは有効化されます。このフィールドの値は必須です。
開示メッセージ	ブール	1	なし
表示名	テキスト	100	なし
部署	テキスト	50	なし
名前	テキスト	100	なし

デフォルトメッセージプラン 項目フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
親メッセージプラン	テキスト	30	メッセージプランは複数のメッセージプラン項目で構成されています。親メッセージプランフィールドは、メッセージプラン項目が属しているメッセージプランです。親メッセージプランフィールドはメッセージプランレコードの名前フィールドにリンクしています。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
評価	ピックリスト	30	なし
送信タイプ	ピックリスト	30	使用可能な値は、PDF 送信または標準送信です。デフォルト値は標準送信です。デフォルトでは、[コピー有効] チェックボックスはオンになっており、[最適化] チェックボックスはオフになっています。
シーケンス番号	数値	22	なし
ソリューション名	テキスト	30	なし
講師のメモ	テキスト	2000	なし
状態	ピックリスト	30	なし
シノプシス	テキスト	2000	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [メッセージプラン項目](#)

メッセージプラン項目関係のフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージプラン項目関係を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトメッセージプラン 項目関係フィールド名	データタイプ	最大長	コメント

デフォルトメッセージプラン 項目関係フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
参加者	テキスト	1000	なし
説明	テキスト	255	なし
表示名	テキスト	100	なし
部署	テキスト	50	なし
名前	テキスト	100	なし
親メッセージプラン	テキスト	15	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
評価	ピックリスト	30	なし
シーケンス番号	数値	22	なし
ソリューション名	テキスト	30	なし
状態	ピックリスト	30	なし
シノプシス	テキスト	2000	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [メッセージプラン項目関係](#)

変更トラッキングのフィールド：インポートの準備

次の表では、変更トラッキングフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。変更トラッキングフィールドのインポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの変更トラッキング フィールド名	データタイプ	最大長	コメント

デフォルトの変更トラッキング フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
子オブジェクト ID	テキスト	15	なし。
子オブジェクト名	テキスト	50	なし。
イベント名	テキスト	150	イベント名の詳細は、「 変更トラッキングイベントについて (ページ 487)」を参照してください。
フィールド名	テキスト	50	なし。
オブジェクト ID	テキスト	15	なし。
オブジェクト名	テキスト	50	なし。
変更番号	数値	22	なし。
変更 : 日付	日時	50	なし。
レコードタイプ	テキスト	50	[取引先] など、ピックリスト値が変更されたレコードタイプを示します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [変更トラッキング](#) (ページ 475)
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

メモフィールド：インポートの準備

次の表では、メモを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのメモフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先名	テキスト	255	なし
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30	なし

デフォルトのメモフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
キャンペーン名	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
担当者名	テキスト	255	なし
説明	テキスト	16, 035	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
商談名	テキスト	100	なし
個人	チェックボックス	なし	なし
サービスリクエストの外部 ID	テキスト	30	なし
サービスリクエスト番号	数値	15	なし
主題	テキスト	30	デフォルトでは、必須フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

目標のフィールド：インポートの準備

次の表では、目標を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの目標 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先名	テキスト	15	定義した目標に関連付けられている取引先名。
担当者名	テキスト	15	定義した目標に関連付けられている担当者名。
通貨	テキスト	20	目標の金額表示に使用される通貨。

デフォルトの目標 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	テキスト	2000	定義した目標の説明フィールド。
部署	テキスト	50	なし
為替日	日時	7	通貨に為替レートが適用された日付。
目標名	テキスト	30	なし
売上目標	テキスト	22	売上目標。
目標	数値	22	〔目標〕フィールドは、販売ユニット数量、処方、販売コールなどを示します。この数量は〔目標単位〕フィールドで定義されます。
目標単位	ピックリスト	30	〔目標単位〕フィールドは、〔目標〕フィールドの数量を定義します。
親目標	テキスト	15	定義済みの目標が親目標に関連付けられている場合、このフィールドで目標と親目標を結合できます。
期間	テキスト	15	この期間値は、ユーザーが Oracle CRM On Demand で売上予想を設定するときに入力する基準に対応します。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
計画名	テキスト	15	特定の目標に関連付けられているビジネス計画名（オプション）。
製品名	テキスト	15	目標に関連付けられている製品名。
状態	ピックリスト	30	目標の状態。
対象参加者	テキスト	2000	目標が適用される個人の集まり。
タイプ	ピックリスト	30	目標のタイプ。この値は顧客が設定します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）
- [データのインポート](#)（ページ 703）
- [目標](#)

商談担当者役割フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者の役割を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの担当者役割フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
購入役割	ピックリスト	39	有効なデフォルト値は [ユーザー]、[評価者]、[承認者]、[意志決定者]、[ユーザーおよび評価者]、[ユーザーおよび承認者]、[ユーザーおよび意志決定者]、[評価者および承認者]、[評価者および意志決定者]、[不明] です。
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
担当者名	テキスト	255	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
商談名	テキスト	100	なし
プライマリ	チェックボックス	なし	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 担当者フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

商談イベントフィールド: インポートの準備

次の表では、商談イベントを Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。ここでは「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの商談イベントフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
イベント	テキスト	50	イベントの名前です。
イベント ID	ID	15	なし
イベント外部システム ID	ID	15	イベントの外部システム ID です。

デフォルトの商談イベントフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
商談	テキスト	50	商談の名前です。
商談 ID	ID	15	なし
Opportunity External Unique ID (商談の外部固有 ID)	ID	15	商談の外部固有 ID です。
行 ID	ID	15	なし

商談フィールド：インポートの準備

次の表では、商談を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの商談 商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先部署	テキスト	50	なし
クローズ日	日付	7	デフォルトでは、必須フィールド。
自動車ディーラー	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
予想売上	通貨	15	インポートできません。見込売上フィールドに確度フィールドを掛けた値に基づいて計算される値。
外部固有 ID	テキスト	255	なし
売上予想	チェックボックス	なし	なし

デフォルトの商談 商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
統合 ID	テキスト	30	なし
見込み客情報源	ピックリスト	30	なし
製造メーカー	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
モデル	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
名前	テキスト	100	なし
次のステップ	テキスト	250	なし
商談通貨	ピックリスト	15	読み取り専用です。
商談通貨	テキスト	20	なし
商談	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
優先順位	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [低] 、 [中] 、 [高] です。
確度 (%)	ピックリスト	3	有効なデフォルト値は [0] 、 [10] 、 [20] 、 [30] 、 [40] 、 [50] 、 [60] 、 [70] 、 [80] 、 [90] 、 [100] です。

デフォルトの商談 商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			注： このフィールドは、常にレイアウト上に表示する必要があります。表示されない場合、予期しない結果が発生します。
製品への関心	テキスト	100	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
評価 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
評価 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
評価 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
成約/不成約の原因	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [設置ベース]、[価格]、[関係]、[業績]、[現行プロジェクトなし]、[予算なし]、[未承認]、[競合他社]、[決裁権なし]、[その他] です。
商談を再割当	チェックボックス	なし	なし
売上	通貨	15	なし
セールスステージ	ピックリスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。 このフィールドは大部分のフィールドと異なった動作をします。つまり、インポートプロセス中の指定にかかわらず、一致しないピックリスト値は追加されません。インポートするデータはこのフィールドの有効な値と一致する必要があります。CSV ファイルからデフォルトのピックリスト値と一致しないピックリスト値を取り込む場合は、インポート前にアプリケーションにそれらの値を追加してください。追加しない場合、レコード全体が拒否されます。有効なデフォルト値は [承認済み見込み客]、[ビジョン構築]、[ショートリスト]、[選択済み]、[交渉]、[クローズ済み/成約]、[クローズ済み/不成約] です。
ソースキャンペーン	ピックリスト	30	その商談を生成したキャンペーン。
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [保留中]、[不成約]、[成約] です。
信号機 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」

デフォルトの商談 商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			を参照してください。
信号機 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
信号機 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
テリトリー	テキスト	50	なし
総資産価値	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
保険料合計	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
タイプ	ピックリスト	30	なし
年	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

商談チームフィールド: インポートの準備

次の表では、商談チームを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの商談チーム フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
商談アクセス	ピックリスト	15	このピックリストは読み取り専用です。インポートする値は次のデフォルト値と正確に一致する必要があります [読み取り専用]、[編集]、[全部]、[アクセスなし]。
商談	テキスト	100	なし。
商談の外部 ID	テキスト	30	なし。
ユーザーID	テキスト	50	なし。
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし。

デフォルトの商談チーム フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ユーザーのサインイン ID	テキスト	50	なし。
チームの役割	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルト値は、[所有者]、[トップスポンサー]、[コンサルタント]、[パートナー]、[その他] です。
分割%	整数	22	チームメンバーに割り当てられる売上のパーセント。
通貨	テキスト	20	なし。
為替日	日付	なし	通貨に為替レートが適用された日付。

商談製品売上フィールド：インポートの準備

次の表では、商談製品レコードを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの商談製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
期間数	整数	3	反復売上は、260 の期間までサポートできます。期間の総数でカバーされている期間の長さは、[頻度] フィールドに指定する頻度によって異なります、たとえば、週次の反復売上がある場合、売上を 5 年間まで追跡できます。
資産値	通貨	15	なし
担当者名	テキスト	255	なし
担当者	ピックリスト	30	なし
説明	テキスト	250	最大 250 文字までです。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
売上予想	チェックボックス	なし	なし
頻度	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。

デフォルトの商談製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			せん。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
統合 ID	テキスト	30	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
商談名	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
所有者	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
保険料	通貨	15	なし
確度 (%)	ピックリスト	22	なし
製品外部 ID	テキスト	30	なし
製品名	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
購入日	日付	7	なし
購入価格	通貨	15	なし
数量	数値	15	なし
シリアル番号	テキスト	100	なし
出荷日	日付	7	なし
開始/終了日	日付	7	なし
状態	テキスト	30	なし

デフォルトの商談製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
タイプ	ピックリスト	30	なし
保証	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

オーダーのフィールド：インポートの準備

次の表では、オーダーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのオーダー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
オーダーID	テキスト	30	オーダー・オブジェクトのプライマリキー。このフィールドは読み取り専用です。
ブック	文字列	150	なし
ブック:ID	文字列	15	なし
オーダー番号	テキスト	50	このフィールドにはデフォルトでオーダーID が表示されます。
説明	テキスト	255	このフィールドにはオーダーの説明を指定します。
部署	テキスト	50	なし
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
価格リスト	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は価格リスト名です。
商談	テキスト	15	なし。
取引先	テキスト	15	なし。

デフォルトのオーダー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
最終取引先	テキスト	15	このフィールドは、企業プロファイルのオーダー使用設定で Ebiz PIP 統合の値を選択した場合に使用されます。 Ebiz PIP 統合は Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite 統合ソリューションであるため、このフィールドは Oracle CRM On Demand Order Management では使用できません。Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite の詳細は、カスタマーサポートにお問い合わせください。
活動	テキスト	15	なし。
担当者	テキスト	15	なし。
出荷先住所	テキスト	15	オーダーの出荷先住所。
請求先住所	テキスト	15	オーダーの請求先住所。
オーダー作成状況	ピックリスト	30	オーダーの状況コード。このフィールドの詳細は、「オーダーのフィールド」を参照してください。
オーダー統合メッセージ	テキスト	255	このフィールドに値が移入されるのは、企業プロファイルのオーダー使用設定で Ebiz PIP 統合の値を選択した場合のみです。 Ebiz PIP 統合は Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite 統合ソリューションであるため、このフィールドは Oracle CRM On Demand Order Management では使用できません。Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand and Oracle E-Business Suite の詳細は、カスタマーサポートにお問い合わせください。

オーダー項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、オーダー項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのオーダー項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
製品	テキスト	15	このフィールドには、製品 ID の外部キーが表示されます

デフォルトのオーダー項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			。これは必須フィールドです。
オーダー	テキスト	15	このフィールドには、オーダーID の外部キーが表示されます。これは必須フィールドです。
オーダー項目番号	テキスト	15	このフィールドにはデフォルトでオブジェクトのプライマリキーが表示されます。
数量	数値	22	このフィールドにはオーダーされた製品の数量が表示されます。これは必須フィールドです。
単価	数値	22	なし。
割引額	数値	22	なし。
割引率	数値	22	なし。
割引後価格	数値	22	なし。

パートナーフィールド：インポートの準備

次の表では、パートナーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
医師数	数値	22	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
取引先パートナー	チェックボックス	1	なし
年間売上	通貨	15	なし
請求先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの「[アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 2	テキスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 3	テキスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求 私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの群)]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。
請求先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求 郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
訪問頻度	ピックリスト	30	このフィールドは、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
チャネル取引先マネージャ	テキスト	50	なし
準拠レビュー日	UTC 日時	7	[準拠状況] のレビュー期限。
準拠状況	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
説明	テキスト	255	なし
部署	テキスト	50	なし
専門知識	テキスト	30	このピックリストは変更できます。
外部固有 ID	テキスト	30	なし。
名前のふりがな	テキスト	100	なし。
病院識別番号	テキスト	30	病院識別番号 (HIN)。
業種	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は [自動車]、[エネルギー業界]、[財務サービス]、[ハイテク業界]、[製造]、[その他]、[製薬業]、[小売]、[サービス]、[通信業] です。
影響タイプ	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
最後の割当終了日付	UTC 日時	7	なし
最後の割当提出日付	UTC 日時	7	なし
最終訪問日	UTC 日時	7	なし
所在地	テキスト	50	なし
代表 FAX 番号	電話	40	なし

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
代表電話番号	電話	40	なし
マーケットポテンシャル	ピックリスト	30	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
市場セグメント	ピックリスト	30	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
マーケットシェア	数値	なし	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。有効な値は 0 から 100 です。
最大ユーザー数	整数	なし	なし
従業員数	整数	22	なし
開始パートナー取引先	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストは有効なパートナーの値を示します。
所有者	テキスト	50	このフィールドはレコードの現在の所有者の名前を示します。
所有者パートナー取引先	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。
パートナー通貨	ピックリスト	15	このピックリストは読み取り専用です。この値は現在のパートナー通貨の既存の値と一致している必要があります。
パートナーレベル	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
パートナー名	テキスト	100	パートナーの名前。
パートナー組織状況	ピックリスト	30	このフィールドは、パートナーが有効なパートナー関係パートナー（PRM）組織であるかどうかを示します。有効に設定すると、パートナー組織用のブックが自動作成されます。このブックにユーザーが自動的に追加されます。このブックが使用されるのは、パートナーレコードフィールドのパートナー関係関連項目でパートナー間が関連付けられている場合のみです。このピックリストは変更できます。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
価格リスト	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は価格リスト名です。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
プライマリパートナータイプ	ピックリスト	30	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値はパートナーに関連付けられたパートナータイプです。
主要パートナー取引先	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値はパートナーの値です。
優先順位	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
取引先株式会社	チェックボックス	なし	なし。
ランキング	数値	22	なし。
取引先を再割当	チェックボックス	なし	このフィールドは、取引先を再度割り当てる必要があることを示します。インポートした場合、企業の管理者またはマネージャが再割り当て機能を設定すると、この取引先レコードに対して自動割り当て規則が適用されます。
問い合わせ	チェックボックス	なし	見込み顧客に割り当て可能な参照にこの取引先が相当する場合は、このフィールドをオンに設定する必要があります。
リファレンス開始日	日付	なし	なし
地域	ピックリスト	25	このピックリストは変更できます。デフォルトの有効値は [東]、[西]、[中央部] です。
ルート	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
出荷先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先住所 2	テキスト	100	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先住所 3	テキスト	50	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は [アメリカ] です。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および [地域区分] の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて (ページ 499)を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先都道府県	テキスト	50	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの群)]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
納入先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの「外部固有 ID」と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
ソースキャンペーン	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は取引先を獲得したソースキャンペーンの名前です。
状態	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
テリトリー	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値はテリトリーの名前です。
Web サイト	テキスト	100	なし。
年度累計売上	通貨	22	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。YTD は年度累計を意味します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

【パートナープログラム】 フィールド: インポートの準備

次の表では、パートナープログラムを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのパートナープログラムフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
開始日	日時	7	なし
取引登録許可	チェックボックス	なし	なし
説明	テキスト	16, 350	なし
終了日	日時	7	なし
MDF 許可	チェックボックス	なし	なし
所有者氏名	ピックリスト	30	なし
パートナープログラム名	テキスト	30	なし
パートナータイプ	ピックリスト	30	なし
プログラムタイプ	ピックリスト	30	なし
特別価格許可	チェックボックス	なし	なし
状態	ピックリスト	30	なし

計画取引先のフィールド：インポートの準備

次の表では、計画取引先を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの計画取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	ピックリスト	15	取引先オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
ビジネス計画	ピックリスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
部署	テキスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし

デフォルトの計画取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
プライマリ計画取引先	ブール	1	取引先がプライマリ取引先かどうかを示します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 計画取引先

計画担当者のフィールド：インポートの準備

次の表では、計画担当者を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの計画担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ビジネス計画	ピックリスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
担当者	ピックリスト	15	担当者オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
部署	テキスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
プライマリ計画担当者	ブール	1	担当者がプライマリ担当者かどうかを示します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- 計画担当者

計画商談のフィールド：インポートの準備

次の表では、計画商談を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの計画商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
部署	テキスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
商談	テキスト	15	商談オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
ビジネス計画	テキスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）
- [データのインポート](#)（ページ 703）
- 計画商談

保険証券フィールド：インポートの準備

次の表では、保険証券を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、保険証券データのものに有効です。

保険証券フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求状況	ピックリスト	30	なし
ビジネス口座	テキスト	15	なし

保険証券フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Business Account: External System ID(ビジネスアカウント : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
キャンペーン	テキスト	15	なし
キャンペーン : 外部システム ID	テキスト	30	なし
キャンセル日	日付	なし	なし
Company: External System ID (企業 : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
部署	テキスト	50	なし
有効日	日付	なし	なし
失効日	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
額面	通貨	22	なし
金融口座	テキスト	15	なし
Financial Account: External System ID(金融口座 : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
世帯	テキスト	15	なし
世帯 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
請求期限	日付	なし	なし
所有者 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
親保険	テキスト	15	なし
Parent Policy: External System ID (親保険証券 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた親保険証券の外部固有 ID。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし

保険証券フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
保険証券番号	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。このフィールドは、保険証券番号フィールドとも呼ばれます。
保険金の支払方法	ピックリスト	30	なし
保険証券タイプ	ピックリスト	30	なし
主要代理店	テキスト	15	なし
Primary Agency: External System ID(プライマリエージェンシー：外部システム ID)	テキスト	30	このレコードにリンクされたプライマリエージェンシー（ビジネスアカウントはパートナーに設定）の外部固有 ID。
主要エージェント	テキスト	15	なし
Primary Agent: External System ID(プライマリエージェント：外部システム ID)	テキスト	30	このレコードにリンクされたプライマリエージェント（担当者）の外部固有 ID。
生産者コード	テキスト	50	なし
レートプラン	ピックリスト	30	なし
レートの状態	ピックリスト	30	なし
照会情報源	ピックリスト	30	なし
状態	ピックリスト	30	なし
サブ状況	ピックリスト	30	なし
期間	テキスト	50	なし
保険料合計	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）
- [データのインポート](#)（ページ 703）

保険契約者フィールド：インポートの準備

次の表では、証券所有者を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは Oracle CRM On Demand Financial Services Edition 専用です。

次の表の情報は、保険契約者データのものに有効です。

デフォルトの保険契約者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ビジネスアカウント名義人	テキスト	15	なし
Business Account Holder: External System ID (ビジネスアカウント所有者: 外部システム ID)	テキスト	30	なし
Company: External System ID (企業: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
担当者名義人	テキスト	15	なし
Contact Holder: External Unique ID (担当者所属先: 外部固有 ID)	テキスト	50	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
部署	テキスト	50	なし
為替日	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
外部の前の更新	日時	なし	なし
外部情報源	テキスト	50	なし
世帯主	テキスト	15	なし
Household Holder: External System ID (世帯主: 外部システム ID)	テキスト	30	なし
名義人の割合	率	22	なし
被保険者タイプ	ピックリスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者: 外部システム ID	テキスト	30	なし

デフォルトの保険契約者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
保険	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Policy: External System ID (保険証券: 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた保険証券の外部固有 ID。
証券名義人名	テキスト	250	一致するレコードの定義済みフィールド
役割	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

ポートフォリオフィールド: インポートの準備

注: この機能は、標準アプリケーションの一部ではないため、ご使用のアプリケーションのバージョンによっては使用できないことがあります。

次の表では、ポートフォリオ口座を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
口座番号	テキスト	100	なし

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先タイプ	ピックリスト	30	デフォルト値は、[年金契約]、[グループ保険]、[401K]、[普通預金]、[IRA]、[生命保険]、[投資信託]、[預金]、および[その他]です。
年率	数値	15	なし
キャンセル/販売日	日付	7	なし
信用限度額	通貨	20	なし
部署	テキスト	50	なし
有効日	日付	7	なし
失効日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
額面金額	通貨	20	なし
施設	テキスト	100	なし
金融機関の場所	テキスト	50	なし
借入れ金額	通貨	20	なし

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
返済期限	日付	7	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
保険料	通貨	20	なし
プライマリ所有者 ID	テキスト	50	なし
製品	テキスト	50	なし
購入日	日付	7	なし
売上	通貨	20	なし
リスククラス	テキスト	50	なし
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は、[有効]、[保留中]、[見積り]、[終了済み]、[クローズ] です。
期間	数値	20	なし
期間単位	ピックリスト	20	有効なデフォルト値は、[日]、[週]、[月]、および [年] です。
総資産価値	通貨	20	なし
評価日	日付	7	なし
金融機関の外部 ID	テキスト	30	取引先への金融機関のリン

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			クです。
製品の外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- ポートフォリオ
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

価格リストのフィールド：インポートの準備

次の表では、価格リストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの価格リストフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
通貨	可変長文字列	20	価格リストの通貨。
説明	可変長文字列	255	なし
有効開始	UTC 日時	7	価格リストが有効になった日付。
有効終了	UTC 日時	7	価格リストの有効期限。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
価格リスト名	可変長文字列	50	なし
状態	可変長文字列	30	価格リストの現在の状態。例：進行中、公開済み。
タイプ	可変長文字列	30	価格リストのタイプ。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

価格リスト明細項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、価格リスト明細項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの価格リスト明細項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	可変長文字列	255	なし
有効開始	UTC 日時	7	価格リストが有効になった日付。
有効終了	UTC 日時	7	価格リストの有効期限。
リスト価格	数値	22	製品の価格。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
価格リスト	可変長文字列	15	明細項目が関連付けられている価格リストの名前。
価格タイプ	可変長文字列	30	明細項目の価格タイプ。例： 標準。
製品	可変長文字列	15	価格明細項目の製品。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

製品カテゴリーフィールド：インポートの準備

次の表では、製品カテゴリーフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのキャンペーン受取人 フィールド名	データタイプ	最大長
カテゴリー名	テキスト	100
親カテゴリー	テキスト	100
外部固有 ID	テキスト	30
親製品カテゴリー外部 ID	テキスト	30
説明	テキスト	16,350

製品フィールド：インポートの準備

次の表では、製品を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルト製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
車体	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。 有効なデフォルト値は [クーペ]、[サロン]、[カブリオレ]、[ハッチバック]、[ワゴン]、[セダン] です。
カテゴリー	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [衣類]、[トラクター]、[SUV]、[内装]、[大型トラック]、[外装]、[電気利用]、[駆動方式]、[軽トラック]、[乗用車] です。
規制	チェックボックス	なし	なし
自動車ディーラー請求価格	通貨	15	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし

デフォルト製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ドア	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。 有効なデフォルト値は [3 ドア] 、 [2 ドア] 、 [4 ドア] です。
エンジン	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
ロット番号追跡	チェックボックス	なし	なし
製造メーカー	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
モデル	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
オーダー可	チェックボックス	なし	なし
親製品	テキスト	100	なし
パーツ番号	テキスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
価格タイプ	ピックリスト	30	なし
製品カテゴリー	テキスト	100	なし
製品通貨	通貨	15	なし
製品名	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
プロダクトタイプ	ピックリスト	30	なし
版	ピックリスト	30	なし
シリアル番号付き	チェックボックス	なし	なし
状態	ピックリスト	30	なし
サブタイプ	ピックリスト	30	なし
治療クラス	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
トランスミッション	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

デフォルト製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
トリム	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
タイプ	ピックリスト	30	なし
年	数値	50	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

製品領域のフィールド：インポートの準備

次の表では、製品を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表の「デフォルトフィールド」のカラムには、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみが表示されます。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの製品 領域フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
部署	テキスト	50	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
製品領域名	テキスト	50	企業内で一意である必要があります。
製品 ID	問い合わせ	該当なし	ブランドレベルでの製品ルックアップ。
製品名	問い合わせ	該当なし	ブランドレベルでの製品名ルックアップ。
製品カテゴリー	問い合わせ	該当なし	読み取り専用テキスト。この名前には、選択した製品ブランドの製品カテゴリーが表示されます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

サンプル免責条項のフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプル免責条項を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプル免責条項フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
コメント	テキスト	255	このフィールドには、免責条項フィールドに関する補足情報が表示されます。
国	ピックリスト	30	免責条項の対象となる国。
数値	テキスト	15	なし。
部署	テキスト	50	なし。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし。
デフォルト言語	ピックリスト	30	関連免責条項レコードのデフォルト言語。
免責条項テキスト	テキスト	1000	免責条項のテキスト。
終了日	日時	7	免責条項の失効日。
開始日	日時	7	免責条項の開始日。
状態	ピックリスト	30	このフィールドの値は、[有効]、[無効] および [期限切れ] です。
タイプ	ピックリスト	30	この値は、免責条項がグローバルであるか、多言語であるかを示しています。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

サンプル在庫のフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプル在庫を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプル在庫 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
監査レポート ID	テキスト	15	なし
部署	テキスト	50	なし
在庫期間	テキスト	15	在庫期間オブジェクト ID を示す参照フィールド。
最終実地棚卸	数値	22	なし
ロット番号	テキスト	15	なし
開始残高	数値	22	なし
実地棚卸	数値	22	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
サンプル	テキスト	15	この在庫のサンプル製品を示す参照フィールド。
システム数	数値	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- サンプル在庫

サンプルロットのフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプルロットを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプルロット フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
締め日	テキスト	255	CutOff_Date フィールドのテキストバージョン。
Cutoff_Date	日付	10	この日付は計算で求められます。計算は失効日から [短日] フィールドの値を引いた値に基づきます。たとえば、失効日が 1 月 31 日

デフォルトのサンプルロット フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			で、[短日] フィールドの値が 30 の場合、[Cutoff_Date] フィールドの値は 1 月 1 日になります。この日付は、サンプルロットを近い将来に使用するか、本社に返すことを示します。
説明	テキスト	255	ロットの説明。
部署	テキスト	50	なし
失効日	日付	7	サンプルロットの失効日。
ロット別在庫	ブール	1	このフィールドは、在庫をロットレベルで追跡するか、製品レベルで追跡するかを示します。
ロット番号	テキスト	100	ロットの名前。
オーダー可	ブール	1	このフィールドは、ロットがオーダー可能かどうかを示します。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
製品レベル	数値	22	なし
サンプル	テキスト	15	製品名。
短日	数値	22	リード日数。
開始日	日付	7	サンプルロットの開始日。
単位	テキスト	30	単位。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- サンプルロット

サンプルリクエストのフィールド: インポートの準備

次の表では、サンプルリクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。データをインポートする前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプルリクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	15	なし。
取引先: 外部固有 ID	テキスト	30	サンプルリクエストがリンクされている親取引先レコードの固有外部 ID。
ブック	文字列	150	なし
ブック:ID	文字列	15	なし
請求先住所	テキスト	15	オーダーの請求先住所。
担当者	テキスト	15	このフィールドは必須です。
担当者: 外部固有 ID	テキスト	30	サンプルリクエストがリンクされている親担当者レコードの固有外部 ID。
通貨	ピックリスト	15	このピックリストの値は読み取り専用です。インポートする値は、このピックリストの有効な値と一致している必要があります。
説明	テキスト	255	このフィールドには、サンプルリクエストレコードの説明が表示されます。
部署	テキスト	50	なし
為替日	日付	なし	なし
外部フラグ	テキスト	1	このフィールドの値は [Y]、[N] です。外部フラグの値が Y の場合は、外部システムによってサンプルリクエストが作成されたことを示しています。
外部固有 ID	テキスト	30	なし。
ID	テキスト	15	このフィールドは、サンプルリクエストの識別子です。
作成されたオーダー	UTC 日時	7	オーダーが作成された日時。
オーダー統合メッセージ	テキスト	255	なし。
オーダー番号	テキスト	50	このフィールドのデフォルト値はオーダー ID です。
所有者	テキスト	15	このフィールドには、レコード所有者が表示されます。
所有者: 外部固有 ID	テキスト	30	サンプルリクエストがリンクされている親所有者レコードの固有外部 ID。
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし

デフォルトのサンプルリクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
出荷先住所	テキスト	15	オーダーの出荷先住所。このフィールドは必須です。
出荷先住所 ID	テキスト	15	出荷先住所の ID フィールド。
状態	ピックリスト	30	サンプルリクエストの状況コード。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

サンプルリクエスト項目のフィールド: インポートの準備

次の表では、サンプルリクエスト項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。データをインポートする前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプルリクエスト項目フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者: 外部固有 ID	テキスト	30	なし。
通貨	ピックリスト	15	このピックリストの値は読み取り専用です。インポートする値は、このピックリストの有効な値と一致している必要があります。
割引額	数値	22	なし。
割引率	数値	22	なし。
部署	テキスト	50	なし。
ID	テキスト	15	このフィールドは、サンプルリクエスト項目の識別子です。
オーダー	テキスト	15	このフィールドには、[サンプルリクエスト ID] が含まれます。このフィールドは必須です。
オーダー項目番号	テキスト	15	このフィールドには、[サンプルリクエスト

デフォルトのサンプルリクエスト項目フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			項目 ID] が含まれます。
所有者：外部固有 ID	テキスト	30	サンプルリクエスト項目がリンクされている親サンプルリクエストレコードの固有外部 ID。
ピックリスト値項目	テキスト	50	なし。
価格	数値	22	なし。
割引後価格	数値	22	なし。
製品	テキスト	15	このフィールドには、製品 ID の外部キーが表示されます。これは必須フィールドです。
製品：外部固有 ID	テキスト	30	サンプルリクエスト項目がリンクされている親製品レコードの固有外部 ID。
数量	数値	22	このフィールドにはオーダーされた製品の数量が表示されます。これは必須フィールドで、ゼロより大きな値にする必要があります。 注： [サンプルリクエスト割当] レコードタイプが定義されている場合、[数量] フィールドの値が、対応する [割当数量]、[最大数量] および [顧客あたりの最大数量] フィールドの値に照らして検証されます。この検証に通らなかった場合、サンプルリクエスト項目レコードタイプを Oracle CRM On Demand にインポートできません。
状態	ピックリスト	30	サンプルリクエスト項目の状況コード。

注： 担当者に対してある製品がブロックされている場合、その担当者についてその製品のサンプルリクエスト項目はインポートできません。インポートを試みた場合、レコードはインポートされず、インポートリクエストのログファイルにエラーメッセージが記録されます。担当者に対して製品をブロックする方法については、「ブロック製品」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

サンプルトランザクションのフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプルトランザクションを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

ワークフローアクションを使用してインポート中に多数のサンプルトランザクションを自動実行する場合は、カスタムフィールドを使用します。たとえば、[Mark for Submit] を Y に設定して、インポート完了後にサンプルトランザクションを実行する準備が完了していることを示します。[実行] ワークフローアクションを使用してサンプルトランザクションを実行する方法の詳細は、「[サンプルトランザクションの自動実行の設定](#) (ページ 760)」を参照してください。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプルトランザクションフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
送信済みパッケージ数	数値	22	サンプルトランザクションの送信時に送信されるパッケージ数。
受信済みパッケージ数	数値	22	サンプルトランザクションの受信時に受信されるパッケージ数。
調整理由	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルト値は、人によるエラー、盗難、初期カウント、紛失、発見、およびリクエストです。
コメント	テキスト	255	説明のフィールド。
日付	日時	7	トランザクションの日付。
部署	テキスト	50	なし
予想到着日	日時	7	なし
予想納入日	日時	7	なし
転送元トランザクション	テキスト	15	なし
在庫期間: 開始日	日時	7	なし
在庫期間: 終了日	日時	7	なし
請求書番号	テキスト	15	なし
名前	テキスト	50	なし
親トランザクション	テキスト	15	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
受信日	日時	7	なし
ルートトランザクション	テキスト	15	なし
状態	ピックリスト	30	デフォルト値は、進行中、運送中、調整済み、処理済み、処理済 (差異あり) です。

デフォルトのサンプルトランザクションフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
送信日	日時	7	なし
追跡番号	テキスト	15	なし
振替先	テキスト	15	なし
タイプ	ピックリスト	30	デフォルト値は、[振替 (内部)]、[振替 (外部)]、[欠落サンプル]、[在庫調整]、[支出] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

サービスリクエストフィールド：インポートの準備

次の表では、サービスリクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサービスリクエストフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
エリア	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：製品、インストール、保守、トレーニング、その他
原因	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：不明確な指示、要トレーニング、既存問題、新規問題、その他
クローズ	時間	日時	なし
担当者	テキスト	255	なし

デフォルトのサービスリクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
自動車ディーラー	ピックリスト	100	Oracle CRM On Demand Automotive Edition
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
部署	テキスト	50	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
開始時間	日時	7	なし
商談	テキスト	100	なし
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。 インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
主要パートナー取引先	可変長文字列	15	なし
優先順位	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：1-緊急、2-高、3-中、4-低
製品	ピックリスト	100	なし
所有者を再割当	チェックボックス	なし	なし
サービス提供元自動車ディーラー	テキスト	70	Oracle CRM On Demand Automotive

デフォルトのサービスリクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			Edition
ソース	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：電話、Web、電子メール、ファックス
SR 通貨	テキスト	20	なし
SR 番号	テキスト	64	なし
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：オープン、保留中、クローズ、オープン-エスカレート、キャンセル
主題	テキスト	250	なし
タイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：質問、問題、エンハンスメントリクエスト、その他
車両	テキスト	100	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- サービスリクエストフィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

署名のフィールド：インポートの準備

次の表では、署名を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの署名 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
活動 ID	テキスト	15	なし
担当者名 (名)	テキスト	50	なし
担当者名 (姓)	テキスト	50	なし
免責条項テキスト	テキスト	500	なし

デフォルトの署名 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ヘッダーテキスト	テキスト	800	なし
営業員名 (名)	テキスト	50	なし
営業員名 (姓)	テキスト	50	なし
署名管理	テキスト	16000	このフィールドは、署名の X 座標と Y 座標を保持します。
署名日	日付	7	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

ソーシャルプロファイルのフィールド：インポートの準備

次の表では、ソーシャルプロファイルを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのソーシャルプロファイル フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
コミュニティ	テキスト	255	担当者が検出されたソーシャルメディアサイト（Facebook や Twitter など）の名前。
通貨	ピックリスト	15	なし。
為替日	日付	なし	なし。
作成者リンク	URL	255	ソーシャルメディアタイプに対するユーザーのプロファイルページへの Web リンク。新しいウィンドウが開きます。
作成者	テキスト	100	ソーシャルメディアサイトでの担当者の一意のユーザー名。
有効	ブール	1	ソーシャルメディアプロファイルが有効かどうかを示します。デフォルト値は true (1) です。

解決策フィールド：インポートの準備

次の表では、解決策を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの解決策 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
部署	テキスト	50	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
FAQ	テキスト	250	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
ピックリスト値グループ	テキスト	50	なし
製品カテゴリー	ピックリスト	100	なし
公開済	ピックリスト	1	有効なデフォルト値は [Y]、[N] です。これらの値は、言語の設定にかかわらず、英語になっている必要があります。
評価 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
評価 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
評価 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、1、2、3、4 および 5 です。
サービスリクエストカウント	整数	22	なし
解決策通貨	ピックリスト	20	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
解決策詳細	テキスト	16,000	なし
解決策評価	数値	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [ドラフト]、[承認]、[旧式] です。

デフォルトの解決策 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
信号機 1	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。 詳細は、「イメージとして表示されるフィールドについて」を参照してください。
信号機 2	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
信号機 3	整数	なし	このフィールドの有効値は、null、0、1 および 2 です。
タイトル	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 解決策フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

特別価格製品のフィールド：インポートの準備

次の表では、特別価格製品を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの特別価格製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
認可原価	数値	22	特別価格リクエストを交渉中のパートナーの価格。
競合会社名	可変長文字列	100	リクエストの競合会社の名前。
競合会社パートナー	可変長文字列	100	競合会社パートナーの名前。
競合会社製品	可変長文字列	100	競合会社の製品の名前。
競合会社製品価格	数値	22	競合会社の製品の価格。
通貨	可変長文字列	20	なし

デフォルトの特別価格製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	可変長文字列	250	なし
標準小売価格	数値	22	使用されている通貨での標準小売価格。
その他の競合情報	可変長文字列	250	競合会社のオファーに関するその他の情報（例：特別価格の理由）。
製品	可変長文字列	15	特別価格リクエストの対象製品の名前。
取得原価	数値	22	パートナーが製品の購入に支払った元の価格。
数量	数値	22	このリクエストでの製品の予想販売数量。
要求原価	数値	22	パートナーが要求した値下価格。
要求再販価格	数値	22	パートナーが希望する再販価格。
SP リクエスト	可変長文字列	15	この特別価格製品が関連付けられている特別価格リクエスト。
提案再販価格	数値	22	ブランド所有者が提案する再販価格。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

特別価格リクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、特別価格リクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの特別価格リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
承認状況	可変長文字列	30	特別価格リクエストの承認状況。
承認者	可変長文字列	15	承認者の名前。

デフォルトの特別価格リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
認可日	UTC 日時	7	特別価格リクエストが承認された日時。
請求決定日	日付	7	請求が決定された日付。
クレーム状況	日付	7	特別価格請求の状況。
通貨	可変長文字列	20	特別価格リクエストの通貨。
取引交渉登録	可変長文字列	15	特別価格リクエストに関連付けられている取引交渉登録。
説明	可変長文字列	15	なし
締切日	日付	7	リクエストの処理期限。
最終顧客	可変長文字列	15	リクエストの顧客。リクエストが商談に関連付けられている場合、商談取引先を選択できます。
終了日	UTC 日付	7	特別価格が無効になる日時。
資金	可変長文字列	15	特別価格リクエストに関連付けられた資金の名前。
最終承認者	可変長文字列	15	最後にリクエストを承認した人の名前。
商談	可変長文字列	15	リクエストに関連付ける商談。
開始パートナー取引先	可変長文字列	15	特別価格リクエストを開始したパートナー。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
所有者パートナー取引先	可変長文字列	15	所有者が提携するパートナー取引先。
パートナープログラム	可変長文字列	15	リクエストが関連付けられたパートナープログラム。
主要パートナー取引先	可変長文字列	15	特別価格リクエストを主導するパートナー社。
理由コード	可変長文字列	30	特別価格リクエストが返された、または拒否された理由。
リクエスト日	日付	7	特別価格リクエストが作成された日時。
リクエスト名	可変長文字列	50	リクエストの名前。
開始日	UTC 日時	7	特別価格が開始する日時。
送信状況	可変長文字列	30	提出の状況。例：未提出、提出済、リコール済など。
送信日	UTC 日時	7	リクエストが提出された日時。

デフォルトの特別価格リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
認可金額合計	数値	22	認可された合計金額。
要求済み金額合計	数値	22	パートナーが要求した合計金額。
承認済み請求額合計	数値	22	パートナーに承認された請求額合計。
要求済み請求額合計	数値	22	パートナーが要求した請求額合計。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

タスク担当者フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者とタスクとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのタスク担当者フィールド名	データタイプ	最大長
担当者名	テキスト	60
担当者の外部 ID	テキスト	30
タスクの外部 ID	テキスト	30

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

タスクユーザーフィールド:インポートの準備

次の表では、ユーザーとタスクとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのタスクユーザーフィールド名	データタイプ	最大長
ユーザーID	テキスト	50
タスクの外部 ID	テキスト	30
ユーザーの外部 ID	テキスト	30

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)

トランザクション項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、トランザクション項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのトランザクション項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	テキスト	250	トランザクション項目の説明。
在庫期間	テキスト	15	なし
行番号	数値	22	トランザクションのヘッダーレコードに関連付けられた一意の番号。
ロット番号	テキスト	15	サンプルロット ID を保持する参照フィールド。
数量	数値	22	トランザクション項目に関連付けられたサンプルの数。
サンプル	テキスト	15	トランザクション項目で提供されるサンプルの名前。すべてのサンプルを文書化する必要があります。
出荷数量	数値	22	トランザクション項目として出荷されたサンプルの数。

デフォルトのトランザクション項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
トランザクション番号	テキスト	15	サンプルトランザクション ID を保持する参照フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)

■ [データのインポート](#) (ページ 703)

ユーザーフィールド：インポートの準備

次の表では、ユーザーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。

注：ユーザーレコードをインポートするには、[ユーザーの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのユーザー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
エイリアス	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
ユーザー住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。
ユーザー住所 2、3	テキスト	100	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。
ユーザー住所 - 市	テキスト	50	なし
ユーザー住所 - 国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照）。

デフォルトのユーザー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ユーザー私書箱/ソートコード	テキスト	30	なし
ユーザー住所 - 都道府県	テキスト	50	カナダについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。ただし、これはピックリストのフィールドではありません。
ユーザー住所 - 米国の州	ピックリスト	2	有効な米国の州のリストについては、「 国と住所のマッピングについて (ページ 499)」を参照してください。
ユーザー住所 - 郵便番号	テキスト	30	なし
携帯電話番号	電話	40	なし
通貨	テキスト	50	このフィールドは全社レベルで設定されます。したがって、これらのフィールドをインポートしたり、そのピックリスト値を編集したりすることはできません。
部門	テキスト	75	なし
部署	テキスト	75	なし
電子メール	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
「保存」をクリックしたときに仮パスワードを送信	チェックボックス	なし	このチェックボックスをオンして保存すると、仮パスワードを含む電子メールがユーザーに送信されます。
従業員番号	数値	30	なし
外部固有 ID	テキスト	30	インポートされたレコードの外部 ID が含まれます。
名前 (名)	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
資金承認限度	数値	22	Oracle CRM On Demand High Tech Edition および Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition の場合のみ存在します。
統合 ID	テキスト	30	外部システムとの統合に使用される ID。
言語	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は標準の有効な値と正確に一致している必要があります。
名前 (姓)	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。

デフォルトのユーザー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ロケール	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
ミドルネーム	テキスト	50	なし
敬称	ピックリスト	15	なし
デフォルトブックの保持	チェックボックス	なし	デフォルトブックの保持フィールドの詳細は、「 ユーザーフィールド (ページ 238)」を参照してください。
上司	テキスト	なし	管理者の姓名に基づく、計算済みのフィールド。
レポート先の外部 ID	テキスト	30	なし
役割	ピックリスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。有効なデフォルト値は、[管理者]、[エグゼクティブ]、[フィールドセールス要員]、[テレセールス]、[セールス&マーケティングマネージャ]、[サービス管理者]、[保守担当者]です。
状態	ピックリスト	30	デフォルトでは、必須フィールド。有効なデフォルト値は [有効]、[無効化] です。
タイムゾーン	テキストと数値	100	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
勤務先 FAX 番号	電話	40	なし
勤務先電話番号	電話	40	デフォルトでは、必須フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)
- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [ユーザーフィールド](#) (ページ 238)

車両担当者フィールド：インポートの準備

次の表では、車両担当者のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの製品カテゴリーフィールド名	データタイプ	最大長
シリアル番号	テキスト	100
製品名	テキスト	100
担当者名	テキスト	60
担当者の外部 ID	テキスト	30
Vehicle External ID（車両外部 ID）	テキスト	30
プライマリ	チェックボックス	なし

車両のフィールド：インポートの準備

次の表では、車両のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)（ページ 536）」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

注：Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
部署	テキスト	50
ピックリスト値グループ	テキスト	50
車両識別番号	テキスト	100
製造メーカー	テキスト	30
モデル	テキスト	30
年	テキスト	22
トリム	テキスト	30
ドア	テキスト	30
外装色	テキスト	30

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
外部固有 ID	テキスト	30
所有者の外部 ID	テキスト	30
取引先の外部 ID	テキスト	30
製品の外部 ID	テキスト	30
販売ディーラーの外部 ID	テキスト	30
サービスディーラーの外部 ID	テキスト	30
プロダクトタイプ	テキスト	30
自動車販売元ディーラー	テキスト	100
状態	テキスト	255
取引先	テキスト	100
取引先タイプ	テキスト	255
担当者	テキスト	255
免許証番号	テキスト	30
ライセンス状況	テキスト	10
免許証失効日	日付	32
トランスミッション	テキスト	30
取引先部署	テキスト	50
状態	テキスト	30
場所	テキスト	30
中古車/新車	テキスト	30
エンジン	テキスト	30
標準小売価格	通貨	25
自動車ディーラー請求価格	通貨	25
所有者	テキスト	30
変更：日付 (外部)	日時	32
変更者	テキスト	255
車両通貨	テキスト	30
内装色	テキスト	30

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
保証タイプ	テキスト	30
保証開始日	日付	32
保証終了日	日付	32
現在の走行距離	数値	16
走行距離測定日	日付	32
製品名	テキスト	100
タイプ	テキスト	255
車体	テキスト	30
説明	テキスト	250
所有者	電子メール	50
作成 : 日付 (外部)	日時	32
行 ID	ID	15
統合 ID	テキスト	30
取引先 ID	ID	15
取引先統合 ID	テキスト	30
カスタムオブジェクト N	テキスト	50
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 6	テキスト	30
インデックス付き数値	数値	16
インデックス付き日付	日時	32
インデックス付き通貨	通貨	25

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
インデックス付き長いテキスト	テキスト	255
インデックス付き短いテキスト 1	テキスト	100
インデックス付き短いテキスト 2	テキスト	100
インデックス付きチェックボックス	ブール	1
製品カテゴリー	テキスト	100
パーツ番号	テキスト	50
購入日	日付	32
購入価格	通貨	25
数量	数値	16
出荷日	日付	32
インストール日	日付	32
失効日	日付	32
通知日	日付	32
契約	テキスト	30

インポートアシスタント

次の各トピックでは、インポートアシスタントを使用して企業データを Oracle CRM On Demand にインポートする方法について説明します。

- [データのインポート](#) (ページ 703)
- [インポート結果の確認](#) (ページ 708)
- [電子メールとログファイルのインポート結果例](#) (ページ 709)

データのインポート

作業前の準備。{1}CSV ファイルを準備し、必要なすべてのフィールドまたはピックリスト値をアプリケーションに追加します。詳細は、「[データのインポートの準備](#) (ページ 542)」を参照してください。データをインポートする前に、My Oracle Support でサポートされているドキュメントを確認して、ユーザーの要件に最適なデータインポート方法を決定できます。

データのインポートの準備が完了した後、インポートアシスタントにアクセスし、インポートを実行します。インポートアシスタントですべてのインポートリクエストが対等に処理されるようにするには、各インポートリクエストを 100 レコードから構成される 1 つ以上の子リクエストに分割します。複数のインポートリクエストの子リクエストが同時に処理されるため、インポートリクエストをキューに配置するために他のリクエストの完了を待機する必要がありません。インポートリクエストの処理時間はキュー内の子リクエストの進行状況を反映して継続的に更新されます。

ヒント：5 件のレコードでテストのインポートを行い、インポートする CSV ファイルが正しく設定されていることを確認します。インポートファイル内のすべてのレコードではなく、5 件のレコードをインポートして修正する方がはるかに簡単です。

レコードをインポートするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションの [インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。
- 3 [データをインポート] セクションで、ドロップダウンメニューからインポート対象のレコードタイプを選択します。
- 4 [開始] ボタンをクリックします。

これにより、インポートアシスタントが起動します。

5 ステップ 1：

注：インポートするレコードに応じて次のオプションが使用可能です。

- a** 一致するレコードをインポートアシスタントで識別する方法を選択します。

インポートアシスタントでは、別のシステムからインポートされる固有の外部 ID フィールドの、外部固有 ID を使用します。また、Oracle CRM On Demand 行 ID および Oracle CRM On Demand 定義済みフィールドも使用します。定義済みフィールドは、取引先名や場所などの ID 以外のフィールドです。

重複レコードの定義方法については、「[レコードの重複と外部 ID について](#) (ページ 517)」を参照してください。

- b** Oracle CRM On Demand 内で重複したレコード固有識別子が見つかった場合のインポートアシスタントの処理を選択します。重複しているレコードはインポートしない、既存のレコードを上書きする、または追加のレコードを作成する、のいずれかを選択できます。

注意：このオプションは、メモでは使用できません。

- c** インポートされたレコードのレコード固有識別子が、Oracle CRM On Demand 内の既存レコードと一致しない場合のインポートアシスタントの処理を選択します。

注意：このオプションは、メモでは使用できません。前のオプションで [既存のレコードを上書き] および [新規レコードを作成しない] を選択した場合は、結果としてレコードが更新されます。

- d** アプリケーションの値と一致しない CSV ファイルのピックリスト値の処理方法を選択します。

インポートアシスタントでは、新しい値をピックリストに追加するか、フィールド値をインポートしないことを選択できます。

注：このオプションは、メモをインポートする場合、またはユーザーの言語が企業のデフォルト言語とは異なる場合は使用できません。また、複数選択ピックリストにも適用されません。複数選択ピックリストは、CSV ファイルの値がアプリケーションに存在する場合にのみインポートできます。

- e** データファイル内に関連付け (関連レコード) がない場合に、インポートアシスタントで新しいレコードを作成するかどうかを指定します。

注：このオプションは、取引先または担当者をインポートする場合にのみ使用可能です。

f CSV ファイルで使用する日時形式を選択します。

詳細は、「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) (ページ 536)」を参照してください。

g ファイルのエンコード方式として [西ヨーロッパ言語] が選択されていることを確認します。

注：別のエンコード方式を使用するかどうか分からない場合は、この設定を変更しないでください。デフォルトの [西ヨーロッパ言語] は、ヨーロッパと北米のほとんどのエンコード方式に適用されます。

h ファイルで使用する CSV 区切りのタイプを選択します。カンマまたはセミコロンを選択できます。

i [エラーログ] ドロップダウンリストで、Oracle CRM On Demand で記録するログを選択します ([メッセージ (全件)]、[エラーと警告] または [エラーのみ])。

j データをインポートする CSV ファイルを選択します。

k データファイルを連続して処理する場合、このチェックボックスをオンにします。

注：データファイルを連続して処理するように選択すると、インポートリクエストが送信されたときに、子インポートリクエストが常に順番に処理されるようになります。CSV ファイルの依存関係が維持されます。

l データのインポート時に監査を無効にする場合、およびデータのインポート時に監査証跡レコードを生成しない場合は、このチェックボックスをオンにします。

注：ユーザーレコードタイプをインポートする場合、この監査設定を無効にすることはできません。このオプションは、役割で [インポート用のレコード監査の管理] 権限が有効になっている場合にのみ使用できます。このチェックボックスをオンにすると、インポート対象のレコードタイプ、およびそのレコードタイプの監査を決定した監査対象フィールドの数に応じて、インポートパフォーマンスが向上する可能性があります。

6 ステップ 2 :

a 必要に応じてファイル検証の手順に従います。

b フィールドマッピングファイルがある場合は、そのファイルを選択します。

c フィールドマッピングファイル (.map) には、CSV ファイルのフィールドと、Oracle CRM On Demand の既存のフィールドとの組み合わせが定義されています。インポートの実行後に、最新のマッピング方式を使用した .map ファイルが含まれる電子メールがシステムにより送信されます。このファイルをコンピュータに保存して、後のインポートで使います。

7 ステップ 3 で、ファイル内のフィールドを Oracle CRM On Demand のフィールドにマップします。少なくとも、すべての必須フィールドは CSV ファイルのカラムヘッダーにマップする必要があります。

インポートアシスタントでは、インポート CSV ファイルのカラムヘッダーがドロップダウンリストの横に表示され、ユーザーが追加したカスタムフィールドを含む、Oracle CRM On Demand の該当するエリアのすべてのフィールドが表示されます。

必要な住所フィールドがドロップダウンリストに表示されない場合は、次の表に示した対応するフィールドを選択します。

リストをフィルターするフィールド	ドロップダウンリストから選択するフィールド

リストをフィルターするフィールド	ドロップダウンリストから選択するフィールド
番地 住所 1 丁目	町/番地
区	住所 2
フロア 地区	住所 3
市/郡	市
Colonia/Section (アメリカの地区) CEDEX Code (CEDEX コード) 住所 4 URB (市街化地域) 地域区分	私書箱/並べ替えコード
MEX State (MEX の州) BRA State (BRA の州) Parish (アメリカの郡) Part of Territory (アメリカの準州) 島 都道府県 地域 Emirate (emir の管轄地域) Oblast (ロシアの州)	都道府県
島コード Boite Postale (アフリカでの郵便番号) Codigo Postal (南米での郵便番号)	郵便番号

.map ファイルを選択した場合は、フィールドが正しくマップされていることを確認してください。場合によっては、前回のインポート後に作成されたカスタムフィールドもマップする必要があります。

外部 ID については、「[レコードの重複と外部 ID について](#) (ページ 517)」を参照してください。

注意 : 間違ったファイルをインポート用に選択した場合は、[取消] をクリックして選択を変更します。この時点で [戻る] ボタンを使用してもキャッシュはクリアされないため、最初に選択したインポートファイルがフィールドマッピングのステップで表示されます。

注意 : [外部固有 ID] および [マネージャの外部 ID] は、担当者とマネージャレコードの関連付けに使用される重要なフィールドです。これらのフィールドがマップされない場合、マネージャレコードは [担当者名] および [マネージャ] の各フィールドを使用して担当者に関連付けられます。[担当者名] および [マネージャ] の各フィールドを使用して関連付けを行う場合、データファイルのレコードは、より厳密な依存関係の順序に従う必要があります。

8 ステップ 4 : 画面上の指示に従います。

9 ステップ 5 : [終了] をクリックします。

インポートリクエストのキューを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「キューのインポート&エクスポート」セクションで、「インポートリクエストキュー」リンクをクリックします。
「インポートリクエストキュー」ページには、完了予定時間などのリクエストに関する情報が表示されます。

次の表では、インポート状態について説明します。

状態	説明
キュー待ち	インポートはまだ処理されていません。
進行中	インポートは処理中です。 注： この状態のリクエストは削除できます。Oracle CRM On Demand に部分的にインポートされるデータを確認する必要があります。
完了	インポート中にエラーが発生しなかったことを示します。
エラーあり	インポートは完了しましたが、エラーが発生したレコードがあります。
失敗	インポートは完了しましたが、レコードはインポートされませんでした。
エラー	エラーが発生したため、インポートは完了しませんでした。
取消済み	インポートは取り消されました。

次の表では、インポートレコードの情報について説明します。

インポートレコードの情報	説明
送信数	CSV ファイル内に含まれるレコード数。
処理数	インポートエンジンが現在までに処理したレコード数。 このフィールドは、20 秒ごと、またはシステムプロセスにより設定された間隔で処理されます。
正常にインポートされた数	問題なくインポートされたレコード数。
一部インポートされた数	インポートされたものの、すべてのフィールドはインポートされなかったレコードの数。
インポートされなかった数	まったくインポートされなかったレコード数。
取り消された数	取り消す前にインポートされたレコードの数。

複数選択ピックリスト値をインポートするには

- 1 CSV ファイルで、複数值ピックリストをセミコロンで区切ります。

たとえば、名前（名）を含む複数值ピックリストがあり、4 つの名前をこのフィールドにインポートする場合、各名前をセミコロンで区切ります。

- 2 「新規値をピックリストに追加」をクリックします。

Oracle CRM On Demand により複数值ピックリストがインポートされます。

インポート結果の確認

Oracle CRM On Demand のキューページを確認すると、インポートの進捗を追跡できます。インポートリクエストが完了すると、インポートキューに移動して完了したインポートジョブにドリルダウンできます。各インポートリクエストには、送信されたデータファイル、生成されたマップファイル、ログファイルが含まれます。ログファイルには、エラーやインポート状況などの基本的なログファイル情報が記録されます。インポート中にエラーが発生した場合は、インポートリクエストに添付されたログファイルを確認することをお勧めします。

さらに、インポートリクエストが完了すると、インポートの詳細を概説する電子メールメッセージを受け取ります。この電子メールには、インポートの概要、インポートされなかったレコードとフィールドの一覧を記録したログファイルが含まれます。

CSV ファイルのデータを修正してから再び情報をインポートできます。2 回目に重複レコードがある場合は、既存のレコードを上書きするように指定する必要があります。

インポートリクエストキューを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「インポートツールとエクスポートツール」セクションで、「インポートツールとエクスポートツール」リンクをクリックします。
- 3 「キューのインポート&エクスポート」セクションで、「インポートリクエストキュー」リンクをクリックします。
「インポートリクエストキュー」ページが開き、インポートの終了時刻または終了予想時刻が表示されます。

インポート結果に関する電子メールメッセージを確認するには

- 電子メールアプリケーションに移動し、Oracle CRM On Demand から電子メールメッセージを開きます。

メッセージには、レコードごとに発生したエラーが記載され、レコードの完全なデータを取得するためのアクションが記載されます。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

■ [電子メールとログファイルのインポート結果例](#) (ページ 709)

電子メールとログファイルのインポート結果例

インポートリクエストが完了すると、インポート結果をまとめた電子メールメッセージが送信されます。

マイク 様、

インポートのリクエストが 3/30/2007 7:10:06 AM に完了しました。結果の概要は次のとおりです。

ユーザー : qa/mjones

インポートタイプ : 取引先

インポートファイル名 : Accounts.csv

完了時間 : 3/30/2007 7:10:06 AM

総レコード数 : 496

正常にインポートされた数 : 495

一部インポートされた数 : 1

無視された重複レコード : 0

失敗 : 0

インポートの詳細は、ログファイルを参照してください。それでも不明点がある場合は、オンラインヘルプを参照してください。

Oracle CRM On Demand をご使用いただき、ありがとうございます。

Oracle CRM On Demand カスタマーサポート

この電子メールには、インポートプロセスの間に発生したエラーがリストされたログファイルが添付されています。例 :

レコード固有のエラーです EXTERNAL_SYSTEM_ID : 46552。インポートフィールド [通貨] の値「INR」に一致するレコードが見つかりません。Oracle CRM On Demand の [取引先通貨] フィールドは更新されませんでしたが、このレコードの他のフィールド値はインポートされました。

エクスポートアシスタント

次の各トピックでは、エクスポートアシスタントを使用して Oracle CRM On Demand データをエクスポートする方法について説明します。

- [データのエクスポート](#) (ページ 710)
- [エクスポート結果の確認](#) (ページ 713)

データのエクスポート

企業データ（特定のレコードタイプの添付資料を含む）のすべてまたは一部を、Oracle CRM On Demand から外部ファイルにエクスポートできます。エクスポートでは、選択したレコードタイプごとにエクスポートした CSV ファイルを格納する 1 つ以上の ZIP ファイルが生成されます。生成される各エクスポートファイルのサイズは 1.5GB 以下です。エクスポート結果は Oracle CRM On Demand で 168 時間（7 日間）保存されます。その期間を過ぎると、エクスポート結果は削除されます。

注意： 企業で業界固有の Oracle CRM On Demand エディションを使用する場合、業界固有のレコードタイプ（世帯や資金）、リンクされている活動およびメモはエクスポートから除外されます。また、経常商談製品のレコードをエクスポートする場合、その行に対応する Parent_ID カラムに、Oracle CRM On Demand によってそのレコードが書き出されます。経常外のレコードの場合、Parent_ID セルは空になります。

部分エクスポートの制限事項について

企業では、7 日ごとに 1 回、完全エクスポートを実行できます。部分エクスポートの場合、企業が 7 日間でエクスポートできるレコード数は、企業が Oracle CRM On Demand について購入するユーザーライセンス数に基づきます。各ライセンスについて、7 日間で 1000 件のレコードを部分エクスポートでエクスポートできます。

次の例では、Oracle CRM On Demand について 5 つのユーザーライセンスを購入したため、7 日間で最大 5000 件のレコードをエクスポートできる企業に対し、部分エクスポートの制限がどのように課せられるかを示します。

- **例 1.** 最近 7 日間で、4000 件のレコードが部分エクスポートリクエストによりエクスポートされました。あるユーザーがこれから 2000 件のレコードの部分エクスポートリクエストを提出します。

この場合、部分エクスポートリクエストにより 7 日間にエクスポートされるレコード数の合計が 6000 件となり、5000 件のレコードの制限を超えるため、このリクエストは失敗します。

- **例 2.** 最近 7 日間で、部分エクスポートリクエストによりエクスポートされたレコードはありません。2 人のユーザーがこれから個別の部分エクスポートリクエストを提出します。一方のエクスポートリクエストは 3000 件、もう一方は 2000 件のレコードです。

この場合、部分エクスポートリクエストにより 7 日間にエクスポートされるレコード数の合計が 5000 件となり、制限を超えないため、どちらのリクエストも成功します。ただし、7 日間のレコードの制限である 5000 件にすでに達しているため、次の 7 日間に提出される後続の部分エクスポートリクエストは失敗します。

注： Oracle CRM On Demand が 7 日間の部分エクスポートによりエクスポートされるレコード数を計算する際、リストページによりエクスポートされるレコードはカウントされません。

作業前の準備。 この手順を実行するには、[エクスポートを管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業のデータをエクスポートするには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「管理ホームページ」の「データ管理ツール」セクションで、「インポートツールとエクスポートツール」リンクをクリックします。
- 3 「インポートツールとエクスポートツール」ページで、「データをエクスポートする」リンクをクリックします。
これにより、データエクスポートアシスタントが起動します。

4 ステップ 1 :

a 次の該当する操作を行います。

- 完全エクスポートを実行する場合は、「すべてのレコードタイプをエクスポート」ラジオボタンを選択します。
- 部分エクスポートを実行する場合は、「選択したレコードタイプをエクスポート」ラジオボタンとエクスポートするレコードタイプを選択します。あるレコードタイプのすべてのデータまたは個々の子レコードのデータをエクスポートできます。
- 特定のレコードタイプの添付資料をエクスポートするには、すべての添付資料データセクションからそのレコードタイプを選択します。添付資料のエクスポートの詳細は、「[企業の添付資料の管理](#) (ページ 738)」を参照してください。

注意: エクスポートされる添付資料ファイルの命名規則は、
<Object>_<ObjectRowId>_<ExportRequestId>.<FileExtension>です。たとえば、Opportunity Attachment_AALA-3135W8_AALA-864XW0.pptx のようになります。

b 「次へ」をクリックします。

親および子レコードタイプは、それぞれ個別の CSV ファイルにエクスポートされ、ZIP ファイルにまとめられます。

注意 : Oracle CRM On Demand でメモデータをエクスポートする場合、CSV ファイルには、Oracle CRM On Demand で作成したすべての公開メモ、およびデータをエクスポートするユーザーに属する個人メモが格納されます。

5 ステップ 2 :

a エクスポートした CSV ファイルで使用するタイムゾーンを選択します。

b エクスポートした CSV ファイルで使用する日時形式を選択します。

注意: 完全エクスポートで日付を選択すると、完全エクスポートは部分エクスポートになります。

c ファイルで使用する CSV 区切りのタイプを選択します。カンマまたはセミコロンを選択できます。

d エクスポート時にデータを制限するフィルター基準を選択します。

注: データを初めてエクスポートするときは、日付でフィルターしなくてもかまいません。ただしその後は、前回のエクスポートの日付でデータをフィルターすることによる増分エクスポートの設定を検討してください。

e エクスポート時にデータを制限する時刻範囲フィルターを選択します。

- f** 添付資料のコンテンツはエクスポートせず、添付資料の詳細のみをエクスポートする場合は、添付資料詳細のみのエクスポートチェックボックスを選択します。すべてのレコードタイプおよび対応するフィールドの添付資料詳細をエクスポートできます。

注: このチェックボックスを使用できるのは、すべての添付資料データセクションでレコードタイプを選択する操作を前の手順で実行した場合のみです。

- g** [次へ] をクリックします。

- 6** ステップ 3 で、概要を確認して [終了] をクリックし、エクスポートリクエストを送信します。
- 7** [リクエストされたエクスポート] ページで、[エクスポートリクエストキュー] リンクをクリックしてリクエストの状態を確認します。

次の表に、使用可能なエクスポートの状態の値を示します。

状態	説明
キュー待ち	エクスポートはまだ処理されていません。
再キュー済み	エクスポートリクエストはキューに再送信されました。
進行中	エクスポートは処理中です。エクスポートを取り消した場合、この状態は [取消中] を経て [取消] に変わります。
完了中	すべてのレコードは正常にエクスポートされました。エクスポートプロセスは、対象の電子メール、概要ファイルおよび zip ファイルをダウンロードする準備をしています。このプロセスが完了するまで、30 秒から 1 分かかる可能性があります。
完了	エクスポートはエラーなしで完了しました。
エラーあり	エクスポートは完了しましたが、エラーが発生したレコードがあります。
取消中	[キュー待ち] 状態のエクスポートリクエストを取り消した場合、エクスポートリクエストはすぐに取り消されます。 [進行中] 状態のエクスポートリクエストを取り消した場合、状態は [取消中] に変わります。取消には数分かかる場合があります。取り消す前にエクスポートが完了した場合、最終状態は [完了] に変わります。 親リクエストと子リクエストのどちらのエクスポートリクエストも取り消すことができます。 親リクエストのエクスポートリクエストを取り消したとき、エクスポート済みの子レコードタイプはダウンロード可能です。ただし、エクスポートされていない子レコードタイプが取り消された場合、それらはダウンロードできません。

状態	説明
	子リクエストのエクスポートリクエストを取り消した場合、子のレコードタイプエクスポートのみが取り消され、それらはダウンロードできません。親エクスポートリクエストの下、その他の子レコードタイプのダウンロードは継続できます。
取消済み	エクスポートリクエストが完全に取り消された後、状態は「取消済み」に変わります。
失敗	エクスポートは完了しましたが、エクスポートされたレコードはありません。
エラー	エラーが発生したため、エクスポートは完了しませんでした。Oracle CRM On Demand でデータをエクスポートする際のエラーのトラブルシューティングの詳細は、My Oracle Support の 1593347.1（記事 ID）を参照してください。

「エクスポートリクエストキュー」ページの詳細は、「[エクスポート結果の確認](#)（ページ 713）」を参照してください。

エクスポート結果の確認

「エクスポートリクエストキュー」ページには、保留中および完了したすべてのエクスポートリクエストが表示されます。[保留リクエスト] セクションにリクエストがある場合は、[更新] をクリックしてリクエストが完了したかどうかを確認できます。リクエストが完了すると、リクエストをドリルダウンして出力ファイルを取得できます。

注意: エクスポートされた結果は、Oracle CRM On Demand で 168 時間保存されます。その期間を過ぎると、エクスポート結果は削除されます。

エクスポートリクエストを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションの [インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。
- 3 [インポートツールとエクスポートツール] ページで、[エクスポートリクエストキュー] リンクをクリックします。
[エクスポートリクエストキュー] ページが表示され、エクスポートリクエストの詳細が表示されます。次の表では、エクスポートリクエストの情報について説明します。

エクスポートレコードの情報	説明
エクスポートタイプ	エクスポートのタイプ: ■ 全部。企業のデータの完全なエクスポート。 ■ 一部。企業のデータの部分的なエクスポート。 注: エンドユーザーが実行したリストのエクスポートは

エクスポートレコードの情報	説明
	監視できません。
レコードタイプ	レコードタイプ。子レコードを含む一部リクエストの場合は、子レコードを親:子（たとえば、Account:Contact）の形式で指定します。
状態	［進行中］、［完了］などの状態。
依頼者	リクエストの提出元ユーザー。
提出済み	エクスポートリクエストが提出された日時。
完了	エクスポートが完了した日時。

リクエストのZIP ファイルを取得するには

- 1 [完了リクエスト] セクションで、[エクスポートタイプ] または [レコードタイプ] リンクをクリックして、[エクスポートリクエスト詳細] ページを開きます。

このページには、エクスポートレコード数（エクスポートされたレコード）および問題なく正常にエクスポートされたレコードタイプ数（完了オブジェクト数）などのエクスポートプロパティが表示されます。

- 2 ページの [エクスポートリクエスト添付資料] セクションの ZIP ファイルが含まれている行で、次の操作を実行できます。

- レコードレベルのメニューから [ダウンロード] を選択して、ZIP ファイルを開くか、または保存します。

ZIP ファイルは、エクスポートの概要が記載されたテキストファイル、およびエクスポートした様々なタイプのレコードの CSV ファイルで構成されます。

注意: マスター監査証跡をエクスポートした場合は、CSV ファイルにカラム[レコードタイプ - 表示名]および[項目の修正 - 表示名]が含まれます。これらのカラムには、レコードタイプおよび修正された項目のそれぞれのために UI で表示される値がリストされます。その一方、[項目の修正]カラムおよび[レコードタイプ]カラムには、レコードタイプの内部値のみが表示されます。

- [削除] をクリックして、ファイルを削除します。

Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティ

次の各トピックでは、Oracle Data Loader On Demand クライアントを使用して Oracle CRM On Demand データをインポートする方法について説明します。

- [Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティについて](#) (ページ 715)
- [Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティのダウンロード](#) (ページ 715)

Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティについて

Oracle Data Loader On Demand クライアントは、データを外部データソースから Oracle CRM On Demand にインポートする手段を提供するコマンドラインユーティリティです。このユーティリティには次の 2 つの関数があります。

- **挿入関数**：この関数は、レコードをファイルから取得して Oracle CRM On Demand に追加します。
- **更新関数**：この関数は、外部データソースのレコードを使用して Oracle CRM On Demand 内の既存レコードを変更します。

詳細は、『Oracle Data Loader On Demand Guide』を参照してください。このマニュアルは、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリから入手できます。

Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティのダウンロード

このユーティリティをダウンロードするには、次の手順を実行します。このユーティリティをインストールして使用するには、Oracle Data Loader On Demand Guide を参照してください。このガイドは、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリから入手できます。

Oracle Data Loader On Demand ユーティリティをダウンロードするには

- 1 Oracle CRM On Demand にサインインし、[管理] をクリックします。
- 2 [データ管理ツール] で、[インポートツールとエクスポートツール] をクリックします。
- 3 [Oracle Data Loader On Demand] で、[Oracle Data Loader On Demand] をクリックします。
- 4 ZIP ファイルをコンピュータに保存します。

Web サービスの統合

Oracle CRM On Demand では、次のことができます。

- Web サービスが有効なアプリケーションから Oracle CRM On Demand データをアクセスおよび変更する
- Oracle CRM On Demand と統合された独自のアプリケーションを作成する

次のことができます。

- WSDL (Web Services Description Language) ファイルをダウンロードし、Web サービスインターフェイスを使用して Oracle CRM On Demand にアクセスするアプリケーションの開発を容易にする（「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード](#) (ページ 716)」を参照）。
- WSDL とスキーマファイルをダウンロードし、統合イベント Web サービスのメソッドを使用して統合キューにアクセスして、特定レコードタイプの変更を追跡できます。スキーマファイルをダウンロードして、サポートされるレコードタイプのカスタムフィールドや名前変更されたフィールドを追跡することもできます。
- 企業が使用した Web サービスの要約を表示する（「[Web サービスの利用の確認](#) (ページ 719)」を参照）。

CTI 統合 API

[Web サービス管理] ページから使用可能な WSDL ファイルの 1 つが CTI アクティビティ Web サービスで、これはコンピュータテレフォニー統合 (CTI) の統合アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) の一部です。CTI 統合 API には、Web サービス統合を使用して Oracle CRM On Demand をサードパーティ CTI ソフトウェアと直接統合する機能があります。CTI 統合 API の詳細は、『Oracle CRM On Demand CTI Developer's Guide』を参照してください。

WSDL およびスキーマファイルのダウンロード

Oracle CRM On Demand に用意されている Web サービスにより、クライアントアプリケーションのユーザーは Oracle CRM On Demand を操作できます。たとえば、レコードの挿入、更新、削除、およびクエリーを行ったり、多くの管理タスクを実行できます。

Web サービスは、次の手段をとおして使用できます。

- **Web Services v1.0**。カスタムオブジェクト 01~03 と、設定済みオブジェクトの操作に使用されます。
- **Web Services v2.0**。すべての Oracle CRM On Demand カスタムオブジェクトと、設定済みオブジェクトおよびそのカスタム Web アプレットの操作に使用されます。Web サービスバージョン 1.0 と比較すると、Web サービスバージョン 2.0 API には、QueryPage メソッドを使用したクエリーを発行するための追加オプションも用意されています。
- **サービス API**。Web サービスをとおした管理タスクの管理に使用されます。たとえば、サービス API を使用すると、Oracle CRM On Demand でユーザーを管理することや、システムにクエリーを発行したり Oracle CRM On Demand に関する情報を使用できます。
- **管理サービス**。Web サービスを利用した Oracle CRM On Demand メタデータの操作に使用されます。管理サービスには Oracle CRM On Demand メタデータを XML 形式で読取りおよびロードする機能があります。

[Web サービス管理] ページからは次のことができます。

- Web サービスにアクセスするアプリケーションにより使用される WSDL (Web Services Description Language) ファイルのダウンロード
- スキーマファイルのダウンロード
- Web サービスドキュメントへのアクセス

Web Services v1.0 および Web Services v2.0 の WSDL ファイルのダウンロード

WSDL ファイルはレコードタイプごとにダウンロードでき、親レコードタイプの WSDL ファイルに含める子レコードタイプを選択できます。

Web Services v1.0 および Web Services v2.0 の WSDL ファイルをダウンロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Web サービス統合] セクションで、[Web サービス管理] をクリックします。
- 3 [サービスを選択] リストから、必要に応じて [Web Services v1.0] または [Web Services v2.0] を選択します。
- 4 [ドキュメント] リストから WSDL を選択します。
- 5 [タイプ] リストから [カスタム] または汎用を選択します。

〔カスタム〕または汎用のどちらを選択したかによって、WSDL で表示されるカスタムフィールドは異なります。カスタム WSDL の場合、カスタムフィールドの XML タグは、〔フィールドセットアップ〕での統合タグに基づきます（「[カスタムフィールドの統合タグの設定](#)（ページ 121）」を参照）。カスタム WSDL では、企業のフィールド命名規則を使用する、企業に固有の WSDL を生成できます。

汎用 WSDL の場合、カスタムフィールドは汎用 XML タグ（CustomNumber0 や CustomCurrency0 など）に基づきます。これらのプレースホルダーをマッピングサービスと一緒に使用することで、アプリケーションは企業で使用しているフィールド名にマップすることができます。

- 6 [WSDL オブジェクト] リストから、必要なレコードタイプ（たとえば〔取引先〕など）を選択します。
〔WSDL オブジェクト] リストに表示される項目は、企業で設定されているレコードタイプによって異なります。選択したレコードタイプのすべての子レコードタイプが、子レコードタイプへのアクセス権を持つかどうかに関係なく、〔使用可能関連情報] リストにアルファベット順に表示されます。Web Services v2.0 の場合は、CustomWebApplet も表示されます。
- 7 WSDL に含める子レコードタイプを、〔使用可能関連情報] リストから〔選択した関連情報] リストに移動します。
- 8 [ダウンロード] ボタンをクリックします。
- 9 WSDL ファイルをコンピュータに保存します。

サービス API の WSDL ファイルのダウンロード

WSDL ファイルは、サービス API ごとにダウンロードできます。統合イベントの WSDL をダウンロードする場合、統合イベントを生成するレコードタイプごとにスキーマファイルを追加でダウンロードする必要があります。「統合イベントのスキーマファイルのダウンロード」の項を参照してください。

サービス API の WSDL ファイルをダウンロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Web サービス統合] セクションで、[Web サービス管理] をクリックします。
- 3 [サービスを選択] リストから、[サービス API] を選択します。
注意: サービス API のマージを選択した場合、〔タイプ] リストから〔カスタム〕または汎用を選択し、このサービス API のスキーマファイルをダウンロードできます。
- 4 [タイプ] リストから〔カスタム〕または汎用を選択します。
- 5 [WSDL オブジェクト] リストから、サービス API の必要な名称を選択します。
- 6 [ダウンロード] ボタンをクリックします。
- 7 WSDL ファイルをコンピュータに保存します。

管理サービスの WSDL ファイルのダウンロード

WSDL ファイルは、管理サービスごとにダウンロードできます。

注: アセスメントスクリプト WSDL またはアクセスプロファイル WSDL をダウンロードするには、[役割およびアクセスの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

管理サービスの WSDL ファイルをダウンロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Web サービス統合] セクションで、[Web サービス管理] をクリックします。
- 3 [サービスを選択] リストから、[管理サービス] を選択します。
- 4 [WSDL オブジェクト] リストから必要なサービスを選択します。
- 5 [ダウンロード] ボタンをクリックします。
- 6 WSDL ファイルをコンピュータに保存します。

統合イベントのスキーマファイルのダウンロード

統合イベント Web サービスでは、WSDL 内のスキーマ (XSD) ファイルを使用します。このスキーマファイルは、integrationevents.wsdl ファイルとともにダウンロードできます。この WSDL ファイルには、企業が現在有効な統合イベントアクションを定義しているすべてのレコードタイプの XSD スキーマファイル用プレースホルダーが含まれています。汎用スキーマファイルが使用可能です。ただし、レコードタイプに対してカスタムフィールドを作成したり、フィールド名を変更した場合は、カスタムスキーマをダウンロードする必要があります。統合イベント Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

統合イベントのスキーマファイルをダウンロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Web サービス統合] セクションで、[Web サービス管理] をクリックします。
- 3 [サービスを選択] リストから、[Web Services v1.0] または [Web Services v2.0] を選択します。
- 4 [ドキュメント] リストから [スキーマ] を選択します。
- 5 [タイプ] リストから [カスタム] または汎用を選択します。
[カスタム] または汎用のどちらを選択したかによって、スキーマファイルで表示されるカスタムフィールドは異なります。カスタムスキーマの場合、カスタムフィールドの XML タグは、[フィールドセットアップ] での統合タグに基づきます。汎用スキーマの場合、カスタムフィールドは汎用の XML タグに基づきます。
- 6 [WSDL オブジェクト] リストから、必要なレコードタイプ (たとえば [取引先] など) を選択します。
[WSDL オブジェクト] リストに表示される項目は、企業で設定されているレコードタイプによって異なります。
- 7 関連情報の選択リストから、スキーマに含める子レコードタイプを選択します。
- 8 [ダウンロード] ボタンをクリックします。

- 9 スキーマファイルをコンピュータに保存します。

Web サービスドキュメントへのアクセス

Web サービスのドキュメントにアクセスするには、[Web サービス管理] ページのタイトルバーの [ドキュメントをダウンロード] をクリックします。Oracle CRM On Demand の [ドキュメント] ページが表示され、このページから Oracle CRM On Demand の様々なリリースの Web サービスおよびその他のドキュメントにアクセスできます。

Web サービスの利用の確認

[Web サービスの利用] ページから、企業で使用された Web サービスの概要を確認できます。デフォルトでは、Web サービスリクエストはセッション ID 別に一覧表示されます。セッションごとに Web サービスクライアント名、Web サービス名、オペレーション、オペレーション数、開始時刻、終了時刻およびユーザーエイリアスが表示されます。次の表では、[Web サービスの利用] ページで行える操作について説明します。

操作	手順
Web サービスリクエストの新規リストの作成	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
Web サービスリクエストの詳細の表示	セッション ID をクリックして、Web サービスリクエストの詳細ページを表示します。
リストのエクスポート	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストをエクスポート] を選択します。「リストのレコードのエクスポート」の手順を実行します。
Web サービスリクエストの検索	[結果表示条件]の横にあるドロップダウンリストから必要なフィルター基準を選択します。
すべての Web サービスリクエストリストの管理	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] を選択します。「リスト管理ページ」で説明されている必要なタスクの手順を実行します。
リスト全体の参照	リストページの上部または下部にあるナビゲーションアイコンをクリックして、リスト内の次のページ、前のページ、先頭ページまたは最終ページに移動します。
リストの検索基準の絞り込み	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを絞り込み] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
リストの主要情報とフィルター情報の表示	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。「[リストを表示] ページ」で説明されている手順を実行します。
リストの Web サービスリクエストの並べ替え	リストの並べ替えの基準にするカラムの見出しをクリックします。たとえば、[開始時刻] をクリックすると、リストは開始時刻に従って並べ替えられます。
表示レコード数の切り替え	ページの下部にある [表示レコード数] ドロップダウンリストで、一度に表示するレコードの数を選択します。
Web サービス操作のサブセットの表示	タイトルバーのドロップダウンリストをクリックし、必要に応じて選択内容を変更します。 ■ すべて。すべての Web サービス操作のリストを表示します。 ■ 今日のすべての操作。今日のすべての Web サービス操作を表示します。

Web サービスリストの作成について

Web サービスリストの作成または編集の方法は、「リストの作成と編集」に説明されている方法と同様です。ただし、[Web サービスリスト] ページには、他のレコードタイプの対応するページにある [検索対象] セクションがありません。

Web サービスリストのフィルターに使用できるフィールドと、検索結果の表示対象として選択できるフィールドは、次のとおりです。

フィールド	説明
終了時刻	Web サービスリクエストの終了時刻。
エントリタイプ	有効な値は [ログイン]、[ログアウト]、および [ディスパッチ] です。 ログインとログアウト以外の Web サービス呼び出しは、着信 Web サービスディスパッチャービジネスサービスを経由するため、このフィールドがすべて [発送] に設定されます。
入力メッセージサイズ (バイト)	入力メッセージのサイズ (バイト単位)。
オペレーション	Web サービスリクエストのオペレーション。
オペレーション数	Web サービスリクエストのオペレーションの数。
出力メッセージサイズ (バイト)	出力メッセージのサイズ (バイト単位)。
セッション ID	Web サービスリクエストのセッション識別子。 これはログイン履歴テーブル内の対応するセッションの外部キーであって、Web サービスリクエストで使用された実際のセッション ID ではありません。
開始時刻	Web サービスリクエストの開始時刻。
ユーザー エイリアス	Web サービスリクエストを実行したユーザーのユーザーエイリアス。
タイプ	リクエストのユーザーエージェント値。Oracle 以外のクライアント統合では、この値がデフォルトで [Web サービス] になります。
Web サービスクライアント名	リクエストの実行元 Web サービスクライアントの名前。
Web サービス名	リクエストが行われた Web サービスの名前。
Web サービススペース	リクエストで使用される名前空間。

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティ

次の各トピックでは、Oracle Migration Tool On Demand クライアントを使用して Oracle CRM On Demand データをエクスポートする方法について説明します。

■ [Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティについて](#) (ページ 721)

- [Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティのダウンロード](#) (ページ 721)

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティについて

Oracle Migration Tool On Demand クライアントは、カスタマイズされた設定を Oracle CRM On Demand 環境から別の環境に手動でコピーする必要をなくすコマンドラインユーティリティです。たとえば、カスタマイズされた設定を顧客のテスト環境から本番環境にコピーするような場合です。このクライアントユーティリティと管理サービス（一連の管理 Web サービス）を使用して、企業の設定の管理を自動化できます。このクライアントユーティリティでは、特定の設定情報を直接コンピュータ間で抽出およびインポートできます。また、設定を即時モードまたはバッチモードでインポートできます。管理サービスを使用して、クライアントアプリケーションから設定にアクセスすることもできます。次の設定をインポートできます。

- アクセスプロファイル
- アクションバー
- カスケード式ピックリスト
- 連結フィールド
- カスタムレコードタイプ
- カスタム Web アプレット
- カスタム Web リンク
- カスタム Web タブ
- フィールド管理の定義
- ホームページレイアウト
- カスタム HTML ヘッドタグ追加
- ページレイアウト
- ピックリスト
- ピックリスト値グループ
- 関連情報レイアウト
- 役割
- セールスアセスメントのテンプレート
- ワークフロールールおよびアクションセット

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティのダウンロード

クライアントユーティリティをダウンロードするには、次の手順に従います。このクライアントユーティリティのインストール、設定および使用方法については、Oracle Migration Tool On Demand Guide の手順に従います。Oracle Migration Tool On Demand Guide は Oracle CRM On Demand の [Oracle Technology Network ドキュメントライブラリ](#) (参照 Oracle CRM On Demand documentation library -

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmod-096050.html>)から入手できます。管理サービスを利用するために必要な WSDL (Web Services Description Language) のダウンロードについては、「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード](#) (ページ 716)」を参照してください。管理サービスで提供される API の詳細は、Oracle Web Services On Demand Guide を参照してください。このガイドは Oracle Technology Network の [Oracle CRM On](#)

Demand ドキュメントライブラリ (参照 Oracle CRM On Demand documentation library - <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/siebelcrmod-096050.html>) から入手可能です。

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティをダウンロードするには

- 1 Oracle Migration Tool On Demand のファイルの抽出先ディレクトリ (例 : C:\Oracle Migration Tool On Demand) をコンピュータ上に作成します。
- 2 Oracle CRM On Demand にサインインし、[管理] をクリックします。
- 3 [データ管理ツール] で、[インポートツールとエクスポートツール] をクリックします。
- 4 [メタデータインポートおよびエクスポートツール] で、[Oracle Migration Tool On Demand] をクリックします。
- 5 ZIP ファイルをコンピュータに保存します。

一括削除キューページ

[一括削除キュー] ページには、企業で提出されたすべてのアクティブなレコード削除リクエストおよび完了したレコード削除リクエストが表示されます。このページから、次の表に示されているタスクを行うことができます。

操作	手順
アクティブなリクエストの取り消し	レコードリストページからレコードのリストを削除すると、一括削除リクエストが一括削除キューページに正常にロードされたことを示す確認の電子メールが送信されます。リクエストの横に [続行] リンクが表示されるまでは、[取り消し] リンクをクリックしてリクエストを取り消すことができます。
アクティブなリクエストの続行	リクエストの横にある [続行] リンクをクリックして、一括削除リクエストを確認します。これにより、一括削除リクエストが正常に完了し、レコードのリストが削除されたことを示す確認の電子メールが送信されます。
レコード数の表示	[表示レコード数] ドロップダウンリストで、一度に表示するリクエストの数を選択します。
処理済みリクエストの削除	[削除] ボタンをクリックして、一括削除リクエストを処理済みリクエストキューから削除します。
処理済みリクエストのログ作成	[ログ] ボタンをクリックして、一括削除リクエストをログファイルとして保存します。

バッチ割当ブックキューページ

「バッチ割当ブックキュー」ページには、企業で提出されたすべてのアクティブなブック割当リクエストおよび完了したブック割当リクエストが表示されます。このページから、次の表に示されているタスクを行うことができます。

操作	手順
取り消し	リクエストの横にある「取り消し」リンクをクリックします。リクエストの状態が「進行中」に変わるまでは、リクエストを取り消すことができます。
リクエストの詳細の表示	リクエストのリスト名をドリルダウンします。「リクエスト詳細」ページで、リクエストのプロパティおよびパラメータを表示できます。
表示リクエスト数の切り替え	「表示レコード数」ドロップダウンリストで、一度に表示するリクエストの数を選択します。
処理済みリクエストの削除	「削除」リンクをクリックして、リクエストを処理済みリクエストキューから削除します。
ログ	「ログ」リンクをクリックして、リクエストをログファイルとして保存します。

リクエストが完了すると、電子メール通知が送信されます。

バッチ割当リクエストの作成については、「[ブックへのレコードの割り当て](#) (ページ 338)」を参照してください。

「関連フィールド初期化キュー」ページ

新規のカスタム関連情報フィールドを保存すると、Oracle CRM On Demand では新規フィールドを初期化するためのリクエストが自動的に提出されます。初期化プロセスでは、レコードのカスタム関連情報フィールドに、関連レコードタイプのレコードにある対応するフィールドの値が入力されます。「関連フィールド初期化キュー」ページには、カスタム関連情報フィールドを初期化する有効で詳細なリクエストが表示されます。このページから、次の表に示すタスクを実行できます。

操作	手順
ログ	「ログ」リンクをクリックすると、初期化リクエストの状態が表示されます。
処理済みリクエストの削除	「削除」リンクをクリックして、リクエストを処理済みリクエストキューから削除します。
再送信	カスタム関連情報フィールドを初期化するリクエストが失敗した場合は、「再送信」をクリックすると、初期化プロセスを再度開始できます。リクエストが正常に完了した場合、「再送信」オプションは使用できません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [カスタム関連情報フィールドについて](#) (ページ 116)

■ [カスタム関連情報フィールドの作成](#) (ページ 118)

統合イベントについて

統合イベントは、Oracle CRM On Demand のレコードに対する個々の変更（作成、更新、削除、関連付け、関連付け解除）に基づいて外部プロセスをトリガーするメカニズムです。統合イベントは、ユーザーが変更したデータに関する情報を保持しています。この情報は XML ファイルとして 1 つまたは複数の統合イベントキューに入れられます。この XML ファイルは、Oracle CRM On Demand 内のイベントの詳細に外部アプリケーションからアクセスするために使用できます。たとえば、外部アプリケーションから Oracle CRM On Demand の取引先の変更を追跡し、その変更に従ってローカル更新をトリガーする処理が必要になる場合があります。

顧客が複数のアプリケーションを個別に Oracle CRM On Demand と統合する必要がある場合、企業の管理者は複数の統合イベントキューを定義できます。統合イベント機能を使用して複数のキューに同じイベントを生成することで、外部アプリケーションはリクエストに特定のキューからのイベントのみを設定できるため、キューの整合性が保証されます。

統合イベント管理の設定について

新規の顧客の場合は、統合イベント機能が自動的に有効になります。ただし、既存の顧客の場合、Oracle CRM On Demand の統合イベント機能は、Oracle CRM On Demand Customer Care と企業の管理者による設定が必要です。Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡して、統合イベント管理のサポートを依頼するとともに、統合イベントキューの最大合計サイズを指定してください。

注： 統合キューの最大サイズは「[企業プロファイル](#)」ページには表示されません。

Oracle CRM On Demand Customer Care が統合イベント機能を設定すると、「[管理ホームページ](#)」の「[データ管理ツール](#)」セクションに「[統合イベント管理](#)」リンクが表示されます。管理者の役割を持つユーザーには、「[統合イベントアクセスの有効化](#)」権限が有効になります。詳細については、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。

統合イベントの作成、保存およびアクセスについて

統合イベントの作成をトリガーするには、「[統合イベントの作成](#)」アクションを含むワークフロールールを作成する必要があります。このようなアクションのそれぞれについて、追跡するレコードのフィールドを指定できます。追跡対象フィールドの値が変更されると、その変更内容が統合イベントに記録されます。統合イベントの書き込み先キューを指定することもできます。ワークフロールールの詳細は、「[ワークフロールールについて](#) (ページ 380)」を参照してください。

統合イベントは 1 つまたは複数のキューに入れられます。このキューの最大合計サイズは、カスタマーサポート担当者によって指定されます。デフォルトの統合イベントキューが用意されていますが、追加キューを作成することもできます。

キューがいっぱいになると、それ以上の統合イベントは保存されません。キューの統合イベント数が再び最大を下回ると、新しいイベントがキューに追加されます。

「[統合イベント設定](#)」ページで、キューから統合イベントを削除できます。また、キューがいっぱいになったとき、またはキューの統合イベント数が指定した数を越えたときに、特定のアドレスに警告の電子メールを送信するように Oracle CRM On Demand を設定することもできます。

デフォルトキューなどの統合イベントキューを無効にすることができますが、キューを削除することはできません。

外部アプリケーションから統合イベントキューにアクセスするには、統合イベント Web サービスを使用します。この Web サービスには次の 2 つのメソッドがあります。

- **GetEvents**。キューから統合イベントを取得します。
- **DeleteEvents**。キューから統合イベントを削除します。

統合イベント Web サービスの WSDL (Web Services Description Language) ファイルのダウンロードの詳細は、「[Web サービスの統合](#) (参照 "[Web サービスの統合](#)" ページ 715)」を参照してください。統合イベント Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

場合によっては、クライアントアプリケーションで処理できないイベントが統合イベントキューに含まれる可能性があります。このような不適切なイベントの処理方法の詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

- 統合イベントキューの作成手順の詳細は、「[統合イベントキューの作成](#) (ページ 725)」を参照してください。
- 統合イベントキューの管理手順の詳細は、「[統合イベント設定の管理](#) (ページ 726)」を参照してください。
- 統合イベントをトリガーするワークフロールール作成手順の詳細については、「[ワークフロールール作成](#) (ページ 395)」を参照してください。

統合イベントキューの作成

統合イベントサポートが有効な場合は、デフォルトの統合イベントキューが Oracle CRM On Demand で提供されます。追加キューを作成して個々の統合イベントの書込先キューを指定することもできます。

作業前の準備。「[統合イベントについて](#) (ページ 724)」での説明に従って、企業の統合イベント管理を設定する必要があります。統合イベント管理を設定すると、キューで許可される統合イベントの最大数が企業プロファイルの一部として設定されます。次の手順を実行するには、[統合イベントアクセスの有効化] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

統合イベントキューを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションで、[統合イベント管理] リンクをクリックします。
- 3 [統合イベント管理] ページで、[統合イベントキュー管理] リンクをクリックします。
- 4 [統合キュー管理] ページで、[新しいキュー] をクリックします。
- 5 [統合イベントキュー設定] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	コメント
キュー名	キューの名前を入力します。必須フィールドです。
説明	キューの使用方法的説明を入力します。
無効化	このチェックボックスがオフになっていることを確認してください。

フィールド	コメント
キューサイズ	キューのサイズを入力します。このサイズは「未割当キュー容量」フィールドに表示されるサイズを超えない値にする必要があります。必須フィールドです。 「統合イベントファイル制限」フィールドに、すべてのキューに関して企業が保存可能なイベントの合計数が表示されます。既存のキューのサイズがこの数に一致している場合、新規にキューを作成することはできません。
通知電子メールアドレス	キューがいっぱいになったか、一定のサイズに達したときに警告の電子メールを送信する電子メールアドレスを入力します。
キュー状態になったトランザクションが一定数に達したときに警告電子メールを送信	「通知電子メールアドレス」フィールドに指定されたアドレスに警告の電子メールを送信するまで保存を許容するキューのサイズを指定します。
ピックリスト形式	このフィールドは必須です。統合イベント内のピックリストフィールド値を記録する際の形式を、次のように選択します。 ■ 言語独立コード（LIC）値で値を記録する場合は、「言語に依存しない値」を選択します。 注: 通常、ピックリストの LIC 値は、英語 - 米国（ENU）ロケールの値と同じです。 ■ 統合イベントの作成の原因になったアクションの実行ユーザーの言語で値を記録する場合は、「ユーザー言語」を選択します。 注: キューを作成した後、「ピックリスト形式」フィールドが読み取り専用となり、変更不能になります。統合イベントキューのピックリスト形式を変更する場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡し、変更を依頼してください。

統合イベント設定の管理

すべての統合イベントキューの設定を編集できます。

作業前の準備。「[統合イベントについて](#)（ページ 724）」での説明に従って、企業の統合イベント管理を設定する必要があります。統合イベント管理を設定すると、キューで許可される統合イベントの最大数が企業プロファイルの一部として設定されます。ここで説明する手順を実行するには、「統合イベントアクセスの有効化」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

統合イベント設定を管理するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。

- 2 [データ管理ツール] セクションで、[統合イベント管理] リンクをクリックします。
- 3 [統合イベント管理] ページで、[統合イベントキュー管理] リンクをクリックします。
- 4 [統合キュー管理] ページで、キューの[編集] リンクをクリックします。
- 5 [統合イベントキュー設定] ページでは、次のタスクを実行できます。

タスク	アクション
キューを無効にします。	[無効化] を選択すると、デフォルトキューを含むすべてのキューが無効になります。
キューのサイズを更新します。	[キューサイズ] フィールドに値を入力します。このサイズは [未割当キュー容量] フィールドに表示されるサイズを超えない値にする必要があります。 [統合イベントファイル制限] フィールドに、すべてのキューに関して企業が保存可能なイベントの合計数が表示されます。既存のキューのサイズがこの数に一致している場合、キューのサイズを増やすことはできません。
キューからトランザクションを削除します。	キューからすべてのトランザクションを削除するには、[[保存] をクリックすると、すべてのトランザクションはクリアされます。] チェックボックスをオンにします。[保存] をクリックしてトランザクションを削除します。 古いトランザクションを削除するには、カレンダーアイコンをクリックし、[[保存] をクリックすると、これより以前のトランザクションはクリアされます] フィールドの日付を選択します。[保存] をクリックしてトランザクションを削除します。
キューがいっぱいになったか、一定のサイズに達したときに警告の電子メールを送信するように Oracle CRM On Demand を設定します。	電子メールアドレスを入力し、オプションとして警告の電子メールを送信する制限サイズを指定します。[保存] をクリックして電子メール設定を保存します。
日時のフィールドの値 (ModifiedDate、CreatedDate など) が統合イベントで記録される方法を指定します。	[タイムゾーン] フィールドから値を選択します。 ■ UTC (協定世界時) 形式で日時を記録するには、[UTC] を選択します。 ■ レコードを更新したユーザーのタイムゾーンに従って日時を記録するには、[ユーザータイムゾーン] を選択します。この値がデフォルトです。 注: [タイムゾーン] フィールドはデフォルトキューにのみ設定します。その他のキューにはすべて、企業のデフォルトキューに対して選択された設定が継承されます。[タイムゾーン] フィールドはすべてのキューを対象として表示されますが、デフォルトのキュー以外のキューの場合は読み取り専用になります。

注: [ピックリスト形式] フィールドを基にキューに書き込まれる統合イベントのピックリストフィールド値の記録形式が決まります。統合イベントの作成の原因になったアクションの実行ユーザーの言語、または言語独立コード (LIC) 値で値を記録できます。

統合イベントキューを作成すると [ピックリスト形式] フィールドが読み取り専用となり、変更不能になります。デフォルトキューを含む統合イベントキューのピックリスト形式を変更するには、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡し、変更を依頼してください。Oracle CRM On Demand Customer Care によりキューのピックリスト値の形式が変更されると、形式の変更後に作成された統合イベントのピックリスト値にのみ変更が適用されます。キューのピックリスト形式を変更しても、キュー内に以前から存在する統合イベントのピックリスト値の形式は変更されません。

コンテンツ管理

企業では、顧客が興味を示し、その後購入した製品を追跡することがよくあります。社内の従業員が製品情報を追跡しやすくするために、製品カタログを設定できます。製品カタログの設定は、製品のカテゴリーへの分類（必要な場合）と、各カテゴリーの下での製品の設定で構成されています。製品には、経常または 1 回かぎりの製品、サービス、およびトレーニングオプションが含まれます。

次のセクションでは、Oracle CRM On Demand 上での製品の追跡に役に立つさまざまな方法について説明します。

商談

商談に従事するセールス要員は、顧客の関心事の詳細（取引の見込み売上を含む）を追跡する商談レコードを作成できます。顧客は、いくつかの製品に興味を示すだけでなく、サービス契約の購入を検討する場合があります。サービス要員は、商談レコードの [製品] セクションにスクロールダウンして、顧客が購入する可能性のある各品目の製品レコードをリンクすることができます。サービス契約（毎月請求）の場合、セールス要員は経常売上情報を記録することもできます。このように、商談レコードにより見込み取引に関する完全な情報が得られるため、企業は次のことを行うことができます。

- 各商談に所属する製品の追跡
- これらの製品に基づいて生成された通期の売上ストリームの計算（経常および経常外製品）

資産

セールスプロフェッショナル、サービスプロフェッショナルのどちらにとっても、顧客がすでに購入した製品およびサービスを認識することは有用です。Oracle CRM On Demand では、製品レコードを顧客の取引先レコードまたは担当者レコードにリンクすることで、購入製品（つまり資産）を追跡することができます。

売上予想

売上予想は、個々の商談レコードまたは製品レコードから作成されたセールス実績の定期的なスナップショットです。製品を商談レコード、取引先レコード、または担当者レコードにリンクすることには、製品売上および経常売上に基いて売上予想を生成するかどうかを企業が決定できるという利点があります。

企業で、商談売上ではなく、製品売上に基いて売上予想を行っている場合は、従業員は売上予想の合計に使用する製品を指定できます。

コンテンツ管理に関連する作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [製品カテゴリーの設定](#) (ページ 729)
- [自社製品の設定](#) (ページ 730)

- PRM の価格リストの設定 (ページ 732)
- ライフサイエンスの価格リストの設定 (ページ 735)
- 企業の添付資料の管理 (ページ 738)
- 詳細ページのイメージの管理 (ページ 739)
- アセスメントスクリプトの設定 (ページ 740)
- レポートフォルダの設定

製品カテゴリーの設定

自社の製品リストが大きくなる場合は、社内で意味のある名前を持つ論理グループに製品を分類することをお勧めします。このようなグループを製品カテゴリーと呼びます。カテゴリーを使用すれば必要なものをすばやく見つけられるようにリストを並べ替えることができるため、製品の検索が容易になります。また、製品カテゴリーの使用により、従業員は自分の商談にリンクする正しい製品をすばやく識別できるようになります。たとえば、事務機器会社の場合は、複写機、ファックス機、サービス、サプライ品などのカテゴリーを設定します。

カテゴリーとサブカテゴリー（子）は必要な数だけ作成できます。

作業前の準備：

- ここで説明する手順を実行するには、[内容を管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 企業で製品カテゴリーが定義されていない場合は、Oracle CRM On Demand で情報を設定する前に、カテゴリーとサブカテゴリーを指定します。情報を入力する場合は、最上部の親カテゴリーから開始して、子カテゴリーを追加します。

製品カテゴリーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] リンクをクリックします。
 - 3 [製品カテゴリー] リンクをクリックします。
 - 4 [製品カテゴリーリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - カテゴリーを追加するには、[新規] をクリックします。
 - カテゴリー情報を更新するには、該当するレコードで [編集] をクリックします。
- 注：** このページに表示するレコードの数を制限するには（さらに、既存のカテゴリーの検索を容易にするには）、タイトルバーのドロップダウンメニューをクリックし、選択内容を変更します。ドロップダウンリストには、自分自身またはマネージャが作成したリストとともに、アプリケーションに付属の標準のリストが含まれます。
- 既存のカテゴリーに子カテゴリーを追加するには、[カテゴリー名] カラムのリンクをクリックし、[子カテゴリー] セクションの [新規] をクリックします。
- 5 [カテゴリー編集] ページで、必要な情報を入力します。カテゴリー名には 100 文字までという制限があります。

6 レコードを保存します。

自社製品の設定

作業前の準備：

- ここで説明する手順を実行するには、[内容を管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 製品をカテゴリーに分類している場合は、製品を定義する前にカテゴリーを設定します。

従業員が製品を商談にリンクできるようにするには、製品在庫を設定する必要があります。製品を定義する際に、従業員が注文を実行可能な製品のリストに記載する製品をマークします（その結果、従業員が製品を自分の商談にリンクできるようになります）。

注： [製品詳細] ページにイメージを表示できます。たとえば、製品または製品梱包の写真を表示する場合があります。詳細は、「レコードの詳細ページでのイメージの表示」を参照してください。

製品を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] リンクをクリックします。
- 3 [製品カタログ] セクションで、[製品] リンクをクリックします。
- 4 [製品リスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 製品を追加するには、[新規] をクリックします。
 - 製品情報を更新するには、必要なレコードで [編集] をクリックします。

注： このページに表示するレコードの数を制限（して既存の製品の検索を容易に）するには、タイトルバーのドロップダウンメニューをクリックし、選択内容を変更します。ドロップダウンリストには、自分自身またはマネージャが作成したリストとともに、アプリケーションに付属の標準のリストが含まれます。

- 5 [製品編集] ページで、必要な情報を入力し、レコードを保存します。

注： 従業員が製品を使用できるようにするには（その結果、製品をその商談にリンクできるようにするには）、[オーダー可] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

ヒント： 製品は削除できません。かわりに、[オーダー可] チェックボックスをオフにして、製品を無効にする必要があります。これで、従業員が選択できる製品のリストからその製品が削除されます。

次の表では、製品のフィールド情報について説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります（製品フィールドの詳細は、「製品フィールド」を参照）。

フィールド	説明
主要な製品情報	

フィールド	説明
製品カテゴリー	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition および Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
クラス	製品の所属先としてグループ化したもの。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
価格タイプ	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
親製品	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
プロダクトタイプ	Oracle CRM On Demand Automotive Edition および Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。 Automotive 製品を定義している場合は、[製品タイプ] フィールドを [車両] に設定してください。 サンプルドロップ製品を定義している場合は（[タイプ] を [サンプル] に設定している場合）、[製品タイプ] フィールドを [サンプル] に設定するか、空のままにしてください。
治療クラス	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
パーツ番号	製品のパーツ番号。
オーダー可	従業員に対して利用可能にする製品には、このフィールドを選択します。[オーダー可] を選択しない場合、製品は製品リストに表示されません。
タイプ	製品のタイプであり、[製品]、[サービス]、[トレーニング]、[マーケット]、[競合会社]、[詳細]、[サンプル] または [プロモーションアイテム] のいずれかです。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合、[タイプ] には次の値を選択する必要があります。 ■ アイテムが製品詳細の場合は [詳細] ■ アイテムが提供サンプルの場合は [サンプル] ■ アイテムが提供プロモーションアイテムの場合は [プロモーションアイテム] これらのタイプを選択すると、セールス要員の [サンプルドロップ]、[製品詳細] または [プロモーションアイテム] ピックリストに表示される製品のタイプ（製品詳細、サンプルまたはプロモーションアイテム）がフィルター処理されます。 注：[タイプ] が [サンプル] の場合は、[製品タイプ] フィールドも [サンプル] に設定するか、空のままにしてください。
サブタイプ	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
状態	製品の状態。
版	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
シリアル番号付き	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

フィールド	説明
ロット番号追跡	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
規制	製品が規制対象であることを示します。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
追加情報	
説明	製品に関する追加情報。このフィールドには 255 文字まで入力できます。

PRM の価格リストの設定

ブランド所有者は、パートナーが特別価格リクエストを作成する際に使用する製品価格リストを維持および発行できます。ブランド所有者の管理者は、複数の価格リストを作成し、各取引先またはパートナー組織に個別に関連付けることができます。価格リストへの複数の製品の割当や特定の価格の指定を行うこともできます。

特別価格リクエストでは、顧客の価格リストによって製品の標準小売価格が決定され、所有者パートナーの価格リストによって再販業者の取得原価が決定されます。これらの価格を価格リストで維持することで、管理が効率化され、特別価格のプロセスが簡素化されます。

注: 価格リストへのアクセス権は、役割に「PRM アクセスの管理」権限が付与されたブランド所有者の管理者に制限されます。

価格リストを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「コンテンツ管理」セクションで、「コンテンツ管理」をクリックします。
- 3 「製品カタログ」セクションで、「価格リスト」をクリックします。
- 4 「価格リスト」リストページで、次の該当する操作を行います。
 - 価格リストを追加するには、「新規」をクリックします。
 - 価格リスト情報を更新するには、価格リストの「編集」リンクをクリックします。

注: このページに表示するレコードの数を制限するには、タイトルバーの「メニュー」をクリックし、選択内容を変更します。リストには、自分自身またはマネージャが作成したリストとともに、Oracle CRM On Demand に付属の標準のリストが含まれます。

- 5 「価格リスト編集」ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、価格リストのフィールドについて説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明

フィールド	説明
主要価格リスト情報	
価格リスト名	価格リストの名前。
有効開始	価格リストの有効期間の開始日。
有効終了	価格リストの有効期間の終了日。このフィールドが空の場合、価格リストは無期限に有効です。
タイプ	価格リストのタイプ。デフォルトで次の値を使用できます。 ■ 流通原価。販売代理店の費用（本来、パートナーまたは再販業者がブランド所有者から製品を購入するために支払う必要がある在庫費用）。 ■ 標準小売価格。メーカーの希望小売価格（ブランド所有者が顧客に製品を販売するために推奨する価格）。 企業は、[タイプ] フィールドのピックリストに値を追加できます。デフォルトで用意された値を変更することはできません。デフォルト値を変更すると、特別価格リクエストの対応するフィールドは価格リストに設定されません。
状態	価格リストの現在の状態（進行中または公開済み）。すべての新規価格リストのデフォルト値は「進行中」です。価格リストがユーザーに提供可能な状態になったとき、「公開済み」に変更します。
通貨	価格リストで使用される通貨のタイプ。価格リストのすべての価格は同一通貨で表記されます。通貨は価格リストの作成時に定義されます。新しい価格リストレコードを保存すると、このフィールドは読み取り専用になります。
追加情報	
作成	価格リストを作成したユーザーの名前とその価格リストの作成日時。
変更	価格リストを最後に更新したユーザーの名前とその価格リストを最後に更新した日時。
説明	価格リストに関する追加情報。2,000 字まで入力できます。

価格リストの公開

価格リストは管理者が更新した後でユーザーに公開され、特別価格リクエストの作成時にユーザーが使用できるようになります。

価格リストを公開するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「コンテンツ管理」セクションで、「コンテンツ管理」をクリックします。

- 3 [製品カタログ] セクションで、[価格リスト] をクリックします。
- 4 公開する価格リストの[編集] リンクをクリックします。
- 5 [価格リスト編集] ページで、[状態] メニューから[公開済み] を選択します。
- 6 [保存] をクリックします。

状態を[公開済み]に変更すると、次の処理が行われます。

- 価格リストは、取引先またはパートナー組織に関連付けられます。
- 価格リストが特別価格リクエストの顧客またはパートナーに関連付けられている場合、特別価格製品の作成時に価格リストを使用して特別価格製品の標準小売価格（[標準小売価格]）フィールドと[取得原価]フィールドが設定されます。
[標準小売価格]フィールドには、特別価格リクエストの最終顧客に関連付けられている価格リストが使用され、[取得原価]フィールドには、特別価格リクエストの所有者パートナーに関連付けられている価格リストが使用されます。さらに、次の条件も満たす必要があります。
 - 最終顧客に関連付けられた価格リストのタイプが[標準小売価格]で、所有者パートナーに関連付けられた価格リストのタイプが流通原価であること。
 - この価格リストの状態が[公開済み]であること。
 - 特別価格リクエストに追加された製品がこの価格リストに存在すること。
 - 特別価格リクエストの開始日が価格リストの有効開始日から有効終了日までの範囲にあること、かつ価格リスト明細項目の有効開始日から有効終了日までの範囲にあること。

価格リスト明細項目の追加

価格リストを作成した後は、価格リストの明細項目として製品を追加できます。1つの価格リストに複数の製品を指定できますが、各製品は特定のリストでそれぞれ1回だけ表示可能です。

価格リスト明細項目を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] をクリックします。
- 3 [製品カタログ] セクションで、[価格リスト] をクリックします。
- 4 更新する価格リストの名前をクリックします。
- 5 [価格リスト詳細] ページの[価格リスト明細項目] 関連情報セクションで、[追加] をクリックします。
- 6 [価格リスト明細項目編集] ページで、必要な情報を入力します。

注: [価格リスト明細項目編集] ページは[製品編集] ページからも表示できます。

次の表では、価格リスト明細項目のフィールドについて説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
主要価格リスト情報	
価格リスト	価格リストの名前。
製品	価格リスト明細項目の製品。
有効開始	指定された価格リスト明細項目の有効期間の開始日。この日付は価格リストの有効開始日から有効終了日までの範囲内に必要があります。
有効終了	指定された価格リスト明細項目の有効期間の終了日。このフィールドが空の場合、価格リスト明細項目は無期限に有効です。
価格タイプ	価格のタイプを示します。現在のデフォルト値は「標準」です。
リスト価格	指定された有効期間中の明細項目の価格。
追加情報	
作成	価格リスト明細項目を作成したユーザーの名前とその価格リスト明細項目の作成日時。
変更	価格リスト明細項目を最後に更新したユーザーの名前とその価格リスト明細項目を最後に更新した日時。
説明	価格リスト明細項目に関する追加情報。2,000 字まで入力できます。

ライフサイエンスの価格リストの設定

Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition を使用する企業は、オーダーに関連付けることができる価格リストを作成できます。価格リストには複数の製品に関連付けることができます。各製品には、特定の価格リストに固有の価格を設定します。

Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition で価格リストを設定するには、ユーザーの役割に対して「内容を管理」権限と「オーダーアクセスの有効化」権限の両方が有効化されている必要があります。オーダーに価格リストに関連付けるには、ユーザーの役割に対して「オーダーアクセスの有効化」権限または「基本サンプル操作の有効化」権限が有効化されている必要があります。

価格リストに製品を追加するには、「価格リスト詳細」ページの「価格リスト明細項目」関連情報セクションにアクセスする必要があります。このセクションは、デフォルトではこのページで使用できません。企業の管理者は、「価格リスト明細項目」関連情報セクションを含むカスタマイズ版レイアウトページを作成して、カスタマイズされたレイアウトを価格リストを設定する各役割に割り当てることができます。「価格リスト」レコードタイプのページレイアウトをユーザー役割に割り当てるには、企業の管理者に「PRM アクセスの管理」権限が付与されている必要があります。企業の管理者の役割に対して「PRM アクセスの管理」権限が有効化されていない場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

注: 企業の管理者の役割に対して「PRM アクセスの管理」権限が有効化された後は、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management で使用されているレコードタイプを Oracle CRM On Demand で使用できます。レコードタイプの詳細は、オンラインヘルプの「パートナー関係管理およびハイテク」の項を参照してください。「状態」フィールドの値が「公開済み」の価格リストは、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management で使用されている一部

のレコードタイプに関連付けることができます。価格リストは、[状態] フィールドの値に関係なく、オーダーレコードに関連付けることができます。

価格リストを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] をクリックします。
- 3 [製品カタログ] セクションで、[価格リスト] をクリックします。
- 4 [価格リスト] リストページで、次の該当する操作を行います。
 - 価格リストを追加するには、[新規] をクリックします。
 - 価格リスト情報を更新するには、価格リストの [編集] リンクをクリックします。
- 5 [価格リスト編集] ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、価格リストのフィールドについて説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
主要価格リスト情報	
価格リスト名	価格リストの名前。
有効開始	価格リストの有効期間の開始日。
有効終了	価格リストの有効期間の終了日。このフィールドが空の場合、価格リストは無期限に有効です。
タイプ	価格リストのタイプ。デフォルトで次の値を使用できます。 ■ 流通原価。製薬会社の費用（本来、医師または薬局が製薬会社から製品を購入するために支払う必要がある在庫費用）。 ■ 標準小売価格。メーカーの希望小売価格（製薬会社が顧客に製品を販売するために推奨する価格）。 企業は、[タイプ] フィールドのピックリストに値を追加できます。
状態	この価格リストの現在の状態。デフォルトで使用可能な値は [進行中] と [公開済み] です。すべての新規価格リストのデフォルト値は [進行中] です。 注: 価格リストは、[状態] フィールドの値に関係なく、オーダーレコードの [価格リスト] フィールドの [ルックアップ] ウィンドウで使用できます。
通貨	価格リストで使用される通貨のタイプ。価格リストのすべての価格は同一通貨で表記されます。通貨は価格リストの作成時に定義されます。新しい価格リストレコードを保存すると、このフィールドは読み取り専用になり更新できません。
追加情報	

フィールド	説明
作成	価格リストを作成したユーザーの名前とその価格リストの作成日時。
変更	価格リストを最後に更新したユーザーの名前とその価格リストを最後に更新した日時。
説明	価格リストに関する追加情報。2,000 字まで入力できます。

価格リスト明細項目の追加

価格リストを作成した後は、価格リストの明細項目として製品を追加できます。1 つの価格リストに複数の製品を指定できますが、各製品は特定のリストでそれぞれ 1 回だけ表示可能です。

価格リスト明細項目を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「コンテンツ管理」セクションで、「コンテンツ管理」をクリックします。
- 3 「製品カタログ」セクションで、「価格リスト」をクリックします。
- 4 更新する価格リストの名前をクリックします。
- 5 「価格リスト詳細」ページの「価格リスト明細項目」関連情報セクションで、「追加」をクリックします。
- 6 「価格リスト明細項目編集」ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、価格リスト明細項目のフィールドについて説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
主要価格リスト情報	
価格リスト	価格リストの名前。
製品	価格リスト明細項目の製品。
有効開始	指定された価格リスト明細項目の有効期間の開始日。この日付は価格リストの有効開始日から有効終了日までの範囲内にある必要があります。
有効終了	指定された価格リスト明細項目の有効期間の終了日。このフィールドが空の場合、価格リスト明細項目は無期限に有効です。
製品パーツ番号	製品パーツ番号は、製品設定の一部として定義されます。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の製品の場合、パーツ番号は通常、製品名と製品の効能または用量で構成されます。
価格タイプ	価格のタイプを示します。現在のデフォルト値は「標準」です。

フィールド	説明
リスト価格	指定された有効期間中の明細項目の価格。
追加情報	
作成	価格リスト明細項目を作成したユーザーの名前とその価格リスト明細項目の作成日時。
変更	価格リスト明細項目を最後に更新したユーザーの名前とその価格リスト明細項目を最後に更新した日時。
説明	価格リスト明細項目に関する追加情報。2,000 字まで入力できます。

企業の添付資料の管理

「管理ホームページ」の「コンテンツ管理」セクションでは、「添付資料を管理」ページにアクセスして添付資料を確認できます。

注: 「添付資料を管理」ページには、設定済みの添付資料関連項目を介して親レコードにリンクされている添付資料のみが表示されます。カスタム添付資料レコードタイプを介して親レコードにリンクされている添付資料や、添付フィールドを介してレコードに追加された添付資料は表示されません。設定済みの添付資料関連項目をサポートしているレコードタイプのリストについては、「[添付資料設定について](#) (ページ 228)」を参照してください。

添付資料を確認することで、次のことがわかります。

- 大きなディスクスペースを占めている添付ファイル

- 2 回以上添付されているファイル

ファイルが 2 回以上添付されている場合は、添付資料を一般的な共有場所に格納し、この場所に置いたファイルのパスに添付資料のファイルパスを置き換えるようにユーザーに指示することをお勧めします。

- 添付資料のサイズに起因するディスクスペースの問題について通知する必要があるユーザー

作業前の準備。 添付資料の管理手順を実行するには、[添付資料および詳細ページイメージの管理]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

添付資料を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「コンテンツ管理」セクションで、「コンテンツ管理」リンクをクリックします。
- 3 添付資料とイメージの管理セクションで、[添付資料を管理]リンクをクリックします。
- 4 次の該当する操作を行います。
 - 添付資料を表示するには、添付資料のレコードレベルメニューで「表示」を選択します。この操作でファイルが開くか、または該当する URL アドレスに移動します。

- 添付資料を削除するには、添付資料のレコードレベルメニューで「削除」を選択します。削除されたファイルまたは URL は、「[削除項目]」ページに移動され、30 日後にデータベースから完全に削除されます。
 - 複数の添付資料を削除するには、新しいリストを作成して表示し、「[メニュー]」をクリックして、「一括削除」を選択します。
 - ファイルまたは URL を別のファイルまたは URL に置き換えるには、「置換」をクリックします。「編集」ページで、必要な情報を入力し、レコードを保存します。
- 詳細については、「レコードへのファイルと URL の添付」を参照してください。
- リストに表示する添付資料レコードを制限するには、ドロップダウンメニューをクリックして選択内容を変更します。
- ドロップダウンリストには、アプリケーションに付属の標準のリストが表示されます。
- リストをエクスポートするには、「[メニュー]」をクリックし、「リストをエクスポート」を選択します。詳細は、「リストのレコードのエクスポート」を参照してください。
 - 新しいリストを作成するには、「リストを新規作成」をクリックします。詳細は、「リストの使用」を参照してください。

詳細ページのイメージの管理

「管理ホームページ」の「コンテンツ管理」セクションから、詳細ページのイメージの管理ページにアクセスして、詳細ページに関連付けられているイメージを確認できます。

詳細ページのイメージの管理ページには、詳細ページ上に表示されるイメージのみが表示され、そのようなすべてのイメージを一元的に管理できる場所が用意されています。別の方法としては、詳細ページに移動して、イメージを個別に管理することもできます。イメージの確認は、どのイメージが大きなディスクスペースを占めているかを判断するために役立ちます。

作業前の準備。 詳細ページのイメージの管理手順を実行するには、「コンテンツの管理 - 添付資料および詳細ページイメージの管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

詳細ページのイメージを管理するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「コンテンツ管理」セクションで、「コンテンツ管理」リンクをクリックします。
- 3 添付資料とイメージの管理セクションで、詳細ページのイメージの管理リンクをクリックします。
- 4 詳細ページのイメージの管理ページが開きます。次のようなカラムが含まれています。
 - **イメージ。** イメージのサムネイル。
 - **サイズ (バイト)。** Oracle CRM On Demand に格納されるイメージのサイズ。
 - **作成者。** イメージを追加したユーザーのユーザー名。
 - **変更者。** イメージを最後に変更したユーザーのユーザー名。

- **最終変更。**イメージが最後に変更された日時。
- **オブジェクトタイプ。**イメージが関連付けられているレコードタイプ。
- **オブジェクト ID。**イメージが関連付けられているレコードの行 ID。

5 次の該当する操作を行います。

- イメージを削除するには、イメージのレコードレベルメニューで [削除] を選択します。その後、表示される指示に従います。
- イメージをダウンロードするには、イメージのレコードレベルメニューで [ダウンロード] を選択します。その後、表示される指示に従います。
- イメージを置換するには、イメージのレコードレベルメニューで [置換] を選択します。その後、表示される指示に従います。
- リストに表示するイメージを制限するには、ドロップダウンメニューをクリックして選択内容を変更します。
ドロップダウンリストには、アプリケーションに付属の標準のリストが表示されます。
- リストをエクスポートするには、[メニュー] をクリックし、[リストをエクスポート] を選択します。詳細は、「リストのレコードのエクスポート」を参照してください。
- 新しいリストを作成するには、[リストを新規作成] をクリックします。詳細は、「リストの使用」を参照してください。

アセスメントスクリプトの設定

ユーザーがデータの収集および意思決定を行う際に、一貫したプロセスに従うことができるように、アセスメントスクリプトを設定できます。アセスメントスクリプトを使用して、見込み客の承認、商談の評価、顧客サービスのやりとりの指導、顧客満足度の調査などを行うことができます。アセスメントの回答はスコア化され、重みが割り当てられた後、指定のしきい値との比較によって、適切な結果または実行するアクションが決定されます。

Oracle CRM On Demand を使用すると、アセスメントスクリプトを設定できます。これにより、企業では次のことができます。

- セールスコール、タスクまたはアポイントの活動情報を取得します。
- 顧客満足度調査の実施。
- ビジネス計画に対する応答の収集。
- 見込み客の確認の自動化。
- 目標に対する応答の収集。
- 商談の評価（企業のセールス方法の実行による）。
- 顧客満足度調査の実施（担当者およびサービスリクエストレコードの場合）。
- コールスクリプトの使用（サービスリクエストレコードの場合）。

アセスメントスクリプトの詳細、またはアセスメントスクリプトの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [アセスメントスクリプトについて](#)（ページ 741）
- [アセスメントスクリプトの作成](#)（ページ 744）

アセスメントスクリプトについて

アセスメントスクリプトは、ユーザーによる顧客データの収集を支援する一連の質問から構成されます。アセスメントスクリプトを使用して、見込み客の承認、商談の評価、顧客サービスのやりとりの指導、顧客満足度の調査、活動情報の取得などを行うことができます。

意思決定のために、顧客の回答に評点を付け、重要度を質問に割り当て、しきい値を設定することができます。さらに、評価中に使用したフィールドを親レコードにマップし、後でこれらのフィールドに基づいてレポートおよび分析を実行できます。

アセスメントスクリプトの使用法

アセスメントスクリプトの使用法は次のとおりです。

- 1 ユーザーがレコードの詳細ページからアセスメントスクリプトを起動します。該当するアセスメントスクリプトのリスト（指定されたレコードフィールド値によって異なる）がレコードの詳細ページに表示されます。必要に応じて、ユーザーは他のアセスメントスクリプトを検索することもできます。
- 2 アセスメントの質問を通じて、ユーザーは重要な顧客情報（セールス見込み客の優良性の詳細など）を収集し、各質問に対する正しい回答をドロップダウンリストから選択します。
- 3 回答に基づいて、評点が自動的に計算され、レコードが更新されます。たとえば、見込み客は承認または拒否と分類されます。
- 4 質問に対する回答はフィールド値としてレコードにマップされるので、簡単にアクセスして、レポートの作成に役立てることができます。
- 5 完了したアセスメントは保存され、親レコードの関連レコードセクションからアクセスすることができます。

作成するアセスメントスクリプトのタイプ

様々なタイプのアセスメントスクリプトを設定できます。各スクリプトタイプは、特定のタスクに適しています。以下の説明に従って、適するスクリプトタイプを使用してください。

- **アカウント調査**：このタイプのスクリプトは、個々の顧客とともに調査を実施する場合に使用します。
- **活動アセスメント**：このタイプのスクリプトは、有益な担当者および取引先コール情報を取得する場合に使用します。
- **ビジネス計画アセスメント**：セールス要員は、このタイプのスクリプトを使用してビジネス計画の効果を判断する際に役立つ情報を収集できます。
- **担当者スクリプト**：このタイプのスクリプトは、個々の担当者とともに顧客満足度調査を実施する場合に使用します。
- **見込み客認定**：このタイプのスクリプトは、セールス要員が承認済み見込み客を識別するのに役立ちます。このタスクのスクリプトを使用すると、トレーニングの必要性が減少し、一貫した見込み客認定が実行されます。

注：見込み客の特定のフィールドが入力されていない場合、見込み客認定スクリプトが見込み客の[状態]フィールドを[資格あり]に設定できない場合があります。詳細は、「見込み客認定の必須フィールド」を参照してください。

- **目標アセスメント**：セールス要員は、このタイプのスクリプトを使用して目標の効果を判断する際に役立つ情報を収集できます。

- **商談アセスメント**: このタイプのスクリプトはセールス方法を埋め込むために使用され、セールス要員が商談を評価するのに役立ちます（その結果、セールス要員は取引に応じて販売戦略を調整できます）。
- **サービスリクエストスクリプト**: このタイプのスクリプトは、サービス要員がサービスリクエストを評価するのに役立ちます。たとえば、リクエストの優先順位やエスカレーションパスを決定する場合などです。このタスクのスクリプトを使用すると、トレーニングの必要性が減少し、一貫した顧客サービスが実行されます。
- **サービスリクエスト調査**: このタイプのスクリプトは、（特定のサービスイベントにリンクされる）顧客満足度調査を管理する場合に使用します。

各タイプのアセスメントは、対応するレコードタイプ（アポイント、セールスコール、タスク、担当者、見込み客、目標、商談、またはサービスリクエスト）にリンクされます。必要に応じて、各タイプのアセスメントを複数作成し、適切なスクリプトをユーザーに提供することもできます。スクリプトは、指定したレコード基準に基づきます。

アセスメントスクリプトの作成方法

アセスメントスクリプトを設定するには、いくつかのタスクを完了する必要があります。

1 アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズします。

このフィルターにより、指定したレコードフィールド値に基づいて、タスクに適したアセスメントを識別するために使用される基準を定義することができます。

たとえば、見込み客認定アセスメントスクリプトは、次のようなフィルターを使用して設定することができます。

- 取引先階層 = ゴールド
- セグメント = 大
- 地域 = 西部

このような場合は、ユーザーが対応する値を含む見込み客レコードからアセスメントスクリプトを起動すると、正しい見込み客認定スクリプトが表示されます。

すべてのタイプのアセスメントスクリプトで同じ 4 つのフィルターフィールドを使用できます（各フィールドには定義済みのピックリスト値が含まれます）。フィルターをカスタマイズするには、次の操作を行う必要があります。

- a アセスメントスクリプトを作成するすべてのレコードタイプについて、フィルターフィールドの表示名とピックリスト値を入力します。

詳細については、「[アセスメントスクリプトの作成](#) (ページ 744)」を参照してください。

- b アセスメントスクリプトを作成するすべてのレコードタイプについて、フィルターフィールドをページレイアウトに追加します。

2 次のようにして、アセスメントスクリプトを作成します。

- a スクリプトの詳細を入力します。
- b 基準（質問）をスクリプトに追加します。
- c 質問ごとに考えられる回答のリストを追加します。

これらの手順の詳細については、「[アセスメントスクリプトの作成](#) (ページ 744)」を参照してください。

3 次のようにして、ユーザーにスクリプトへのアクセス権を付与します。

742 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

- a アセスメントスクリプトを使用する必要があるユーザーの役割ごとに、ユーザーの役割とアクセスプロファイルを設定します。

- **アセスメントの作成手順**：ユーザーがアセスメントスクリプトを作成できるようにするには、ユーザーの役割にアセスメントレコードタイプへのアクセス権を付与する必要があります。つまり、アセスメントレコードタイプに関して、ユーザーの役割のデフォルトおよび所有者アクセスプロファイルのアクセスレベル設定が、少なくとも「読み取り/編集」になっている必要があります。さらに、アセスメントレコードタイプに関して、その役割のレコードタイプアクセス設定の「アクセス可能」および「作成可能」チェックボックスがオンになっている必要があります。
- **アセスメントの表示手順**：ユーザーがアセスメントの詳細を表示できるようにするには、ユーザーの役割にアセスメントレコードタイプへの読み取りアクセス権を付与する必要があります。つまり、アセスメントレコードタイプに関して、ユーザーの役割のデフォルトおよび所有者アクセスプロファイルのアクセスレベル設定が、少なくとも「読み取り専用」になっている必要があります。さらに、アセスメントレコードタイプに関して、その役割のレコードタイプアクセス設定の「アクセス可能」および「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオンになっている必要があります。

ユーザー役割の設定の詳細は、「[役割の追加](#) (ページ 272)」を参照してください。アクセスプロファイルの設定の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) (ページ 293)」を参照してください。

- b アセスメントスクリプトを作成した各レコードタイプについて、適切なアセスメントスクリプトセクションをレコードの「詳細」ページの表示情報に追加します。ページレイアウトのカスタマイズの詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

アセスメントスクリプトの例

企業の管理者が設定すると考えられる典型的なスクリプトの1つは、見込み客認定スクリプトです。このスクリプトは、見込み客を承認済みとするか拒否とするかを決定するために使用されます。

次の表では、このようなスクリプトで使用できる値の例を示します。

スクリプトフィールド	値の例
タイプ	見込み客認定
しきい値スコア	50
しきい値条件を満たす場合の結果値	資格あり
しきい値条件を満たさない場合の結果値	不適格
結果値のマップ先フィールド	説明

次の表に、見込み客認定スクリプトの基準の例をいくつか示します。

基準	重要度
予算の現在の状態	50
このプロジェクトのスケジュールを推進する要素	25
意思決定する予定の時期	25

予算の現在の状態に関する質問に対する回答と、スコアの例を次の表に示します。

回答	スコア

回答	スコア
予算承認	100
予算拒否	0

各基準のスコアは、基準の重要度（パーセンテージ）に回答のスコアを掛けることによって計算されます。この例では、ユーザーが「予算承認」という回答を選択すると、質問のスコアは次のように計算されます。

$$(0.5 * 100) = 50$$

スクリプトの合計スコアは、すべての基準のスコアの合計です。スクリプトの最終結果がスクリプトで定義されたしきい値を満たすか、しきい値を超えると、[見込み客詳細] ページの [説明] フィールドの値は [承認済み] に設定されます。スコアがしきい値に満たないと、[説明] フィールドの値は [不適格] に設定されます。

アセスメントスコアが計算されるときは、次のルールが適用されます。

- 個々の質問のスコアは、小数点第 1 位に四捨五入されます。
- 全体のアセスメントスコアは、整数に四捨五入されます。
- 四捨五入ルールは標準的な数学ルールに基づいているため、0.5 未満の小数位は切り捨てられ、0.5 以上の小数位は切り上げられます。

アセスメントスクリプトの作成

アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズし、アセスメントスクリプトを作成するには、このトピックで説明する手順に従います。

作業前の準備：

- この手順を実行するには、ユーザーの役割に [管理者アセスメント] 権限が含まれている必要があります。
- 必要に応じて、アセスメント条件の一部として使用するピククリストの値およびフィールドをカスタマイズします。たとえば、顧客との面談中に収集した情報を表示するためにカスタムフィールドを追加できます。スクリプトを設定すると、これらのカスタムフィールドに回答をマップできます。

新しいフィールドをすべてそのレコードのページレイアウトに追加するようにしてください。手順については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

注： Oracle CRM On Demand では、アセスメントスクリプトのコンポーネントを直接変換できません。アセスメントスクリプトを複数の言語で使用する場合、言語ごとにスクリプトのバージョンを作成する必要があります。

アセスメントスクリプトフィルターを使用すると、指定したレコード基準に基づいて、タスクのユーザーに表示するのに適したスクリプトを識別できます。次の手順では、アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズする方法について説明します。

アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズするには (オプション)

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] で [アセスメント] をクリックします。

- 4 [アセスメント項目の設定] をクリックします。
- 5 [編集] をクリックし、フィルター1、2、3、および4のそれぞれについて[表示名] カラムを編集します。
- 6 フィールドごとに[ピックリストを編集] をクリックし、ピックリストの値を設定します。
ヒント: 従業員にピックリストから強制的に選択させる場合以外は、ピックリストオプションの上部にあるデフォルトの<値なし>値を保持します。
- 7 レコードを保存します。
- 8 従業員が使用するレコードのページで、これらのフィールドの名前を変更するには、アセスメントスクリプトを実行している各レコードタイプの[項目設定] セクションに移動します。
注: [アセスメントフィールド] に設定した値と同じピックリスト値が、これらの他のレコードで表示されます。ただし、レコードタイプごとにこれらのフィールドの表示名をカスタマイズできます。

アセスメントスクリプトを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] リンクをクリックします。
- 3 [アセスメントスクリプト] リンクをクリックします。
- 4 [アセスメントリスト] ページで、[新規アセスメント] をクリックします。
- 5 [アセスメント編集] ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、アセスメントのフィールド情報について説明します。管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
名前	50 文字に制限されます。 スクリプトの目的を示す分かりやすい名前を使用します。会社の従業員がさまざまな言語を使用している場合は、その言語をスクリプト名に含めません。
タイプ	スクリプトのリンク先のレコードタイプを指定します。使用可能なオプションは、[アカウント調査]、[活動アセスメント]、[ビジネス計画アセスメント]、[担当者スクリプト]、[見込み客認定]、[目標アセスメント]、[商談アセスメント]、[サービスリクエスト - スクリプト]、および[サービスリクエスト - 調査] です。
有効	ユーザーが使用できる有効なスクリプトのみを実行できます。
フィルター 1、2、3、4	アセスメントカテゴリーとして設定したラベルを表示します。
しきい値スコア (1-100)	スクリプトの結果を計算するために使用されます。スクリプトのスコアがしきい値以上であれば、条件が満たされます。
スコアのマップ先項目	親レコード内のスコアを表示するフィールドを指定します。

フィールド	説明
しきい値条件を満たす場合の結果値	(オプション) 条件が満たされた場合に表示する値を指定します。たとえば、見込み客が認定基準を満たした場合は、このフィールドに承認済みと表示できます。
しきい値条件を満たさない場合の結果値	(オプション) しきい値が満たされなかった場合に表示する値を指定します。たとえば、見込み客が認定基準を満たしていない場合は、このフィールドに拒否と表示できます。
結果値のマッピング先フィールド	(オプション) スクリプトが完了したときに親レコード内の結果を表示するフィールドを指定します。
コメントボックスの削除	アセスメント完了時にコメントを追加するための機能を削除する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、コメントボックスが表示され、アセスメント完了時にコメントを入力できるようになります。
応答コントロール	アセスメント基準に応答を追加するときに使用するコントロールを決定します。オプションは、[ドロップダウン] または [ラジオボタン] です。

注: アセスメントスクリプトをレコード詳細ページに表示するには、そのアセスメントスクリプトがアクティブであり、かつ少なくとも 1 つの条件が定義されている必要があります。

- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [アセスメント詳細] ページの [基準] セクションで、[新規] または [編集] をクリックします。
- 8 [基準] ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、基準に入力するフィールドについて説明します。

フィールド	説明
オーダー	ユーザーがアセスメントを完了したときにユーザーに表示する質問の順序を決定します。
基準名	質問を要約した、短くてわかりやすい名前。フィールドには 20 文字まで入力できます。
質問	ユーザーが回答する質問。フィールドには 50 文字まで入力できます。
重要度	質問の重要度を示す 0～100 までの割合。 すべての質問の重要度の合計は 100 になる必要があります。
回答のマッピング先項目	回答を [質問] フィールドの質問にマッピングするための親レコード上のフィールドを指定します。回答を親レコードにマッピングすると、値は統合、レポート、およびリストで使用できるようになります。

- 9 [アセスメント詳細] ページで、各基準名をクリックして、[回答] セクションの [新規] または [編集] ボタンをクリックします。
- 10 各 [回答] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明

フィールド	説明
オーダー	ユーザーがアセスメントを完了したときにユーザーに表示される回答の順序を決定します。
回答	ユーザーが質問に対して選択できるように有効な回答を入力します。30 文字まで入力できます。
スコア	回答に関連付けられた点数。 選択された回答のスコアに関連する質問の重要度を掛けて、合計の質問/回答スコアが決まります。

11 変更を保存します。

注：アセスメントスクリプトを使用する必要があるユーザーの役割ごとに、アセスメントスクリプトにアクセスできるようにユーザーの役割を設定する必要があります。ユーザーの役割に必要な設定の詳細については、「[アセスメントスクリプトについて](#) (ページ 741)」を参照してください。

ヒント：各役割が、アセスメントのために追加した新しいフィールドを含むページレイアウトを備えていることを確認します。

アプリケーションプラグイン

ここでは、アプリケーションプラグインの管理について説明します。企業の管理者は、ユーザーが使用できるプラグインを有効化する必要があります。[管理] ページにアプリケーションプラグインの見出しが表示されない場合、プラグインは有効化されていません。

- Oracle Social Engagement and Monitoring の設定の詳細は、「[Oracle Social Engagement and Monitoring の設定](#) (ページ 747)」を参照してください。
- Oracle Social Network の設定の詳細は、「[Oracle Social Network 統合設定の設定](#) (ページ 749)」を参照してください。
- Oracle Eloqua Engage の設定の詳細は、「[Oracle Eloqua Engage を使用した電子メール配信の設定](#) (ページ 750)」を参照してください。

Oracle Social Engagement and Monitoring の設定

Oracle Social Engagement and Monitoring を使用する前に、最初に Oracle CRM On Demand を有効化するように機能を設定して、ソーシャル監視に基づいて担当者またはサービスリクエストのレコードを作成する必要があります。

注：Oracle Social Engagement and Monitoring を設定するには、役割に [Social Engagement & Monitoring アクセスの管理] 権限が付与されている必要があります。Oracle Social Engagement and Monitoring を使用するには、役割に [Social Engagement & Monitoring 統合] 権限が付与されている必要があります。

Oracle Social Engagement and Monitoring レコードアクセスを設定するには

- 1 [管理]、[Oracle Social Engagement & Monitoring] の順に移動します。

- 2 [担当者] および [サービスリクエスト] の各ボックスを選択し、[保存] をクリックします。

サービスリクエスト機能を有効にするには、企業の管理者が Oracle Social Engagement and Monitoring のフィールドをユーザーの役割のサービスリクエストページレイアウトに追加する必要があります。詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)」を参照してください。

Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand との統合プロセス

企業で Oracle Social Network を使用している場合は、Oracle Social Network を Oracle CRM On Demand に統合できます。Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand の統合後、企業のユーザーは、Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトとして Oracle CRM On Demand のレコードの情報を共有できます。

注: Oracle CRM On Demand のユーザーではない Oracle Social Network のユーザーは、別のユーザーが Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトに共有レコード用のソーシャルオブジェクトを追加している場合、Oracle CRM On Demand からそれらのソーシャルオブジェクトにアクセスできます。同様に、Oracle CRM On Demand の特定のレコードにアクセスできない Oracle CRM On Demand のユーザーは、別のユーザーが Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトにそのレコードを追加している場合、Oracle Social Network のそのレコードに対するソーシャルオブジェクトにアクセスできます。

Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand を統合するには、次のタスクを実行します。

- 1 Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡して、企業の管理者の役割に対して Oracle Social Network の管理権限を有効にしてください。

Oracle CRM On Demand Customer Care によって Oracle Social Network の管理権限が有効化されると、Oracle CRM On Demand の[管理ホームページ]の[アプリケーションブラグイン]セクションにある Oracle Social Network のリンクが使用可能になります。
- 2 「[Oracle Social Network 統合設定の設定](#) (ページ 749)」の説明に従って、Oracle CRM On Demand で Oracle Social Network 統合設定を設定します。
- 3 ユーザーが Oracle Social Network 統合を使用できるように、次のようにページレイアウトおよびユーザー役割を設定します。
 - 該当のレコードタイプの適切なページレイアウトにソーシャル関連情報セクションを追加します。
 - Oracle Social Network 統合権限を有効化し、必要に応じて、ユーザー役割でソーシャル Web タブを使用できるようにします。

注: ソーシャル関連情報セクションの追加先ページレイアウトをパーソナライズしているユーザーには、デフォルトでそれらのページレイアウトにソーシャルセクションが表示されません。パーソナライズページレイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法の詳細については、「[パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法](#) (ページ 184)」を参照してください。デフォルトのレイアウトへのページレイアウトのリセット詳細は、「[パーソナライズページレイアウトのリセット](#) (ページ 297)」を参照してください。

Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand の統合の詳細は、My Oracle Support の 1677135.1 (記事 ID) を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) (ページ 142)
- [役割の追加](#) (ページ 272)

Oracle Social Network 統合設定の設定

このトピックでは、Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand を統合するための設定方法について説明します。設定の一部として、Oracle Social Network で共有できるようにするレコードタイプを指定します。Oracle CRM On Demand の次のレコードタイプは、Oracle Social Network でソーシャルオブジェクトとして共有できます。

- 取引先
- 商談
- サービスリクエスト

Oracle Social Network では、これらのレコードタイプの 1 つ以上を共有にできます。

Oracle Social Network に渡される各レコードタイプのフィールドを指定することもできます。Oracle Social Network のレコード用にレコードタイプごとに最大 10 フィールドまで選択でき、フィールドの表示順序を指定できます。

注: レコードが Oracle Social Network で共有される場合、Oracle Social Network ではそのレコードのソーシャルオブジェクトの見出しにタイトルが表示されます。Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトに表示されるタイトルは、Oracle CRM On Demand のレコードの詳細ページにあるレコードのタイトルと同じです。このタイトルは、Oracle Social Network に表示するために選択できる 10 のフィールドの 1 つとしてカウントされません。

Oracle Social Network 統合設定を設定するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[Oracle Social Network と Oracle CRM On Demand との統合プロセス](#) (ページ 748)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、Oracle Social Network の管理権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。また、次の情報を確認する必要があります。

- 企業の Oracle Social Network インスタンスの URL
- Oracle Social Network の統合ユーザーID および統合パスワード

Oracle Social Network 統合設定を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションプラグイン] セクションで [Oracle Social Network] をクリックして、Oracle Social Network の管理ウィザードを開きます。
- 3 Oracle Social Network の管理ウィザードで、ステップ 1 の [一般設定] に次の情報を入力します。
 - 企業の Oracle Social Network インスタンスに対する URL
 - Oracle Social Network の統合ユーザーID
 - Oracle Social Network の統合パスワード

- 4** ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] で、Oracle Social Network でユーザーが共有できるレコードタイプごとに次のようにします。
- a** [OSN で有効化しますか?] チェックボックスをオンにします。
 - b** レコードタイプの [項目設定] をクリックして、Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトに表示するフィールドを [使用可能項目] リストから [選択した項目] リストに移動します。合計 10 のフィールドまで選択できます。
 - c** [選択した項目] リストで、上下矢印を使用して Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトに表示されるフィールドの順序を配置します。
- これらのフィールドは、Oracle Social Network のソーシャルオブジェクトにある 2 つの列に表示されます。[選択した項目] リストの最初のフィールドは、ソーシャルオブジェクトの左上部に表示され、2 番目のフィールドは右上部に、3 番目のフィールドはレコードの左側にある最初のフィールドの下に表示されます（以下同様）。
- 5** 各レコードタイプのレコードタイプアクセスおよびフィールドの設定が終了した後は、[終了] をクリックして変更内容を保存します。

注: Oracle Social Network の統合設定の設定後、Oracle Social Network との統合に対して有効化した各レコードタイプがソーシャル関連情報セクションで使用可能になります。ソーシャルセクションは、必要に応じて、レコードタイプのページレイアウトに追加できます。ソーシャルセクションは、デフォルトでは任意のページレイアウトに追加されません。

Oracle Eloqua Engage を使用した電子メール配信の設定

Oracle CRM On Demand を構成し、Oracle Eloqua Marketing Cloud Service とそのアドオン製品である Oracle Eloqua Engage を使用して顧客担当者と見込み客にマーケティング電子メールを送信できます。この構成を完了すると、顧客担当者の電子メールテンプレートを使用して Oracle CRM On Demand ユーザーが電子メールを作成できるようになります。これらのユーザーは、[詳細] ページから個々の担当者や見込み客に電子メールを送信できるほか、[リストからの Engage 電子メールの送信を許可] 設定が構成されていれば [リスト] ページから担当者または見込み客のリストに電子メールを送信できます。送信されたすべての電子メールは、電子メールを開いたり、送信したなどの活動がログに記録され、クリックスルーが Oracle Eloqua Engage で追跡されます。Oracle Eloqua Engage については、[Oracle Eloqua Marketing Cloud Service の Web サイト <http://www.oracle.com/us/corporate/features/marketing-automation/index.html>](http://www.oracle.com/us/corporate/features/marketing-automation/index.html) を参照してください。電子メールの送信の詳細は、「Oracle Eloqua Engage を使用したマーケティング電子メールの送信」を参照してください。

注: Oracle Eloqua Marketing Cloud Service および Oracle Eloqua Engage を使用するには、企業が必要なライセンスを購入する必要があります。Oracle Eloqua Marketing Cloud Service と Oracle Eloqua Engage は両方とも、Oracle CRM On Demand から個別にライセンスされている製品です。

作業前の準備。 企業で設定できる Oracle Eloqua Marketing Cloud Service および Oracle Eloqua Engage のインスタンスを使用可能にする必要があります。また、次の権限を含むユーザーの役割が割り当てられている必要があります。

- Oracle Eloqua Marketing Cloud Service Integration
- Oracle Eloqua Marketing Cloud Service Integration の管理

管理者の役割に対してこれらの権限が有効化されていない場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

Oracle Eloqua Engage を使用した電子メール配信を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションプラグイン] セクションで、Oracle Eloqua Marketing Cloud Service リンクをクリックします。

注: 役割に Oracle Eloqua Marketing Cloud Service の統合権限が含まれていない場合は、Oracle CRM On Demand によって、Oracle Eloqua Marketing Cloud Service の [管理] ページが表示されるかわりに、Oracle Eloqua Marketing Cloud Service との統合の特典および機能がハイライト表示されたページが表示されます。

- 3 Oracle Eloqua Marketing Cloud Service 統合管理ページの Engage オプションで、必要に応じて次のボックスまたはフィールドを設定します。

フィールド	説明
Engage URL	Oracle Eloqua Marketing Cloud Service および Oracle Eloqua Engage のインスタンスに対する URL の例を次に示します。 https://secure.eloqua.com この URL は、Oracle Eloqua Marketing Cloud Service 実装プロセスの実行時に取得できます。
リストからの Engage 電子メールの送信の許可	Oracle CRM On Demand で Oracle Eloqua Engage を使用して電子メールを顧客担当者リストに送信する場合は、このフィールドを選択します。

- 4 [保存] をクリックします。

関連トピック

マーケティング電子メールの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- Oracle Eloqua Engage を使用したマーケティング電子メールの送信
- Oracle Eloqua Marketing Cloud Service の Web サイト
<http://www.oracle.com/us/corporate/features/marketing-automation/index.html>

ライフサイエンス管理

[管理ホームページ] の [管理] グローバルリンクおよび [ライフサイエンス管理] セクションを使用して、次のタスクを実行できます。

- スマートコールテンプレートの管理と削除。詳細は、「[スマートコールの管理](#) (ページ 752)」を参照してください。
- Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition 関連設定の設定。詳細は、「[ライフサイエンス関連設定の設定](#) (ページ 755)」を参照してください。
- サンプルを提供する担当者を指定します。詳細は、「[担当者へのサンプル受領権限の付与](#) (ページ 759)」を参照してください。
- ワークフローを使用してサンプルトランザクションの自動実行を設定します。詳細は、「[サンプルトランザクションの自動実行の設定](#) (ページ 760)」を参照してください。

スマートコールの管理

ユーザー役割にスマートコールレコードタイプの適切なアクセスレベル（デフォルトまたは所有者アクセスのいずれか）が付与されている場合は、スマートコールを管理できます。[スマートコールテンプレートを管理] ページからスマートコールに添付された詳細や明細項目の確認、編集、更新を実行できます。編集した後は、必要に応じて、改訂したスマートコールテンプレートを適用し、公開テンプレートまたは個人テンプレートとして保存できます。

スマートコールに適用される制限事項

スマートコールを使用している場合は、次の制限事項に注意してください。

- Oracle CRM On Demand では、スマートコールに対して製品割当フィルタリングはサポートされません。[営業員の割当による製品選択のフィルタリングを有効化の選択] の設定を使用して割当フィルタリングを有効化した場合、割当フィルタリングルールは、保存済みのスマートコールテンプレートに対して考慮されません。セールス要員がこれらのテンプレートを使用する場合は、[製品詳細]、[提供プロモーションアイテム] または [提供サンプル] などのコール関連情報のセクションを使用する際に、割り当てられている製品のみへのアクセスに制限されません。
- スマートコールでは、[コール詳細] ページの [提供サンプル] 関連情報セクションに対して、サンプル割当フィルタリングはサポートされていません。たとえば、提供サンプルの製品セレクトには、タイプが [サンプル] で割当タイプが [サンプル割当] である、ユーザーに割り当てられている製品のみが表示されます。ただし、このコール情報がスマートコールテンプレートとして保存される場合、提供サンプルの製品セレクトには、タイプが [サンプル] および [プロモーションアイテム] で、割当タイプが [サンプル割当] および [プロモーションアイテム割当] のすべての製品が表示されます。
- [スマートコール詳細] ページでは、インライン編集用の [製品] リンクをクリックすると例外が発生するため、[製品詳細] 関連情報セクションの [製品] リンクを使用して既存の製品詳細レコードを編集することはできません。[スマートコール詳細] ページから既存の製品詳細レコードを編集するには、レコードの [製品] リンクを使用するかわりに、レコードの [編集] ボタンをクリックします。
- 製品ブロックルールはスマートコールテンプレートには適用されません。詳細は、「製品のブロックとスマートコールテンプレートについて」を参照してください。

注:スマートコールテンプレートの重複は認められません。各スマートコールテンプレートは一意である必要があります。

スマートコールを管理するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [スマートコール管理] リンクをクリックします。
- 3 [スマートコールテンプレートを管理] ページで
 - スマートコールを確認するには、[主題] カラムのリンクをクリックします。
 - スマートコールを削除するには、該当する行で [削除] をクリックします。
 - スマートコールの詳細を編集するには、該当する行で [編集] をクリックします。

[コール編集] ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」を参照してください。

- スマートコール明細項目を編集するには、[主題] カラムのリンクをクリックして、[スマートコール詳細] ページの適切なセクションに移動し、該当する明細項目の横にある[編集]をクリックします。
- スマートコール明細項目を削除するには、[主題] カラムのリンクをクリックして、[スマートコール詳細] ページの適切なセクションに移動し、該当する明細項目の横にある[削除]をクリックします。
- 新規明細項目をスマートコールに追加するには、[主題] カラムのリンクをクリックします。

スマートコールへの明細項目の追加の詳細は、次のタスクを参照してください。

- 改訂したスマートコールテンプレートは、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の次のタスクで説明されているように、通常の方法で適用して、公開テンプレートまたは個人テンプレートとして保存できます。
 - 客先への訪問（セールスコール）を追跡するには
 - コール情報をテンプレートとして保存するには

4 [スマートコールテンプレートを管理] ページで、[メニュー] ボタンをクリックします。

次の表では、[スマートコールテンプレートを管理] ページの [メニュー] ボタンから実行できる操作について説明します。

操作	手順
バッチ割当ブック	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[バッチ割当ブック] を選択します。「 ブックへのレコードの割り当て (ページ 338)」の手順を実行します。
リストを絞り込み	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを絞り込み] を選択します。「リストの作成と編集」の手順を実行します。
リストを保存	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストの保存] を選択します。
リストフィルターを表示	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。「[リストを表示] ページ」で説明されている手順を実行します。
リスト管理	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] を選択します。「リスト管理ページ」で説明されている必要なタスクの手順を実行します。
リストを新規作成	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。「リストの作成と編集」の手順を実行します。

次の手順では、スマートコールレコードへの製品詳細情報のリンク方法について説明します。

製品詳細情報をスマートコールレコードにリンクするには

1 [スマートコール詳細] ページで、[製品詳細] セクションまでスクロールダウンし、[新規] をクリックします。

注： [スマートコール詳細] ページに [製品詳細] セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の [レイアウトを編集] リンクをクリックして、ページレイアウトに [製品詳細] セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。

- 2 「製品詳細の編集」 ページで、必要な情報を入力します。

「製品詳細の編集」 ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の「製品詳細情報をコールレコードにリンクするには」タスクを参照してください。

- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、製品詳細明細項目をスマートコールレコードに追加します。

次の手順では、スマートコールレコードへの提供サンプル情報のリンク方法について説明します。

提供サンプル情報をスマートコールレコードにリンクするには

- 1 「スマートコール詳細」 ページで、「提供サンプル」 セクションまでスクロールダウンし、「新規」をクリックします。

注：「スマートコール詳細」 ページに「提供サンプル」 セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の「レイアウトを編集」リンクをクリックして、ページレイアウトに「提供サンプル」 セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。

- 2 「提供サンプルの編集」 ページで、必要な情報を入力します。

「提供サンプルの編集」 ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の「提供サンプル情報をコールレコードにリンクするには」タスクを参照してください。

- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、提供サンプル明細項目をスマートコールレコードに追加します。提供サンプルの詳細は、「セールスコール時のサンプルの提供」を参照してください。

次の手順では、スマートコールレコードへのプロモーションアイテム、教育アイテム、またはその他のマーケティングアイテムのリンク方法について説明します。

プロモーションアイテム、教育アイテム、またはその他のマーケティングアイテムをスマートコールレコードにリンクするには

- 1 「スマートコール詳細」 ページで、「プロモーションアイテム」 セクションまでスクロールダウンし、「新規」をクリックします。

注：「スマートコール詳細」 ページに「プロモーションアイテム」 セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の「レイアウトを編集」リンクをクリックして、ページレイアウトに「プロモーションアイテム」 セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。

- 2 「提供プロモーションアイテム編集」 ページで、必要な情報を入力します。

「提供プロモーションアイテム編集」 ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の「プロモーションアイテム、教育アイテム、またはその他のマーケティングアイテムをコールレコードにリンクするには」タスクを参照してください。

- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、プロモーションアイテム明細項目をスマートコールレコードに追加します。

次の手順では、スマートコールレコードへのブック情報のリンク方法について説明します。

ブック情報をスマートコールレコードにリンクするには

- 1 [スマートコール詳細] ページで、[ブック] セクションまでスクロールダウンし、[新規] をクリックします。

注: [スマートコール詳細] ページに [ブック] セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の [レイアウトを編集] リンクをクリックして、ページレイアウトに [ブック] セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。

- 2 [ブック] ページで、必要な情報を入力します。

[ブック編集] ページの各フィールドの詳細は、「[ブックのフィールド](#) (ページ 341)」を参照してください。

- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、ブック明細項目をスマートコールレコードに追加します。

ライフサイエンス関連設定の設定

管理者は [ライフサイエンス関連の設定] ページで、次の Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition 設定を指定できます。

- ライフサイエンス設定
 - コール活動履歴の生成
 - 将来のコールおよびサンプルトランザクションの送信を許可
- サンプル関連の設定の定義
 - 担当者をサンプリングできる回数
 - 営業員の割当による製品選択のフィルタリングを有効化
 - 担当者の都道府県免許検証の有効化
 - 署名検証の有効化

ライフサイエンス関連の設定を更新するには、[ライフサイエンス関連の設定] ページで [編集] をクリックして更新内容を保存するか、インライン編集を使用して個々の設定を更新します。

作業前の準備: Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition 設定を設定するには、[製薬へのアクセスの管理] 権限が自分の役割に含まれている必要があります。

Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition 関連設定を設定するには

- 1 [管理]、[その他のライフサイエンス関連]（[ライフサイエンス管理] セクション内）、[ライフサイエンス関連の設定] をクリックし、ライフサイエンス関連の設定管理ページに移動します。
- 2 必要に応じて次の設定を設定します。
 - [ライフサイエンス設定] セクション
 - コール活動履歴の生成

この設定を選択すると、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales アプリケーションで使用および表示するコール活動のインタラクション履歴データが生成されます。

注意: この設定は、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales アプリケーションの登録ユーザーである場合にのみ選択します。

■ 将来のコールおよびサンプルトランザクションの送信を許可

この設定を選択すると、ユーザーは、将来の日付のコールおよびサンプルトランザクションを実行できます。

注意: この設定は、Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales アプリケーションの登録ユーザーである場合にのみ選択します。

[サンプル関連の設定の定義] セクション

■ 担当者をサンプリングできる回数

この設定の詳細は、「[有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定](#) (ページ 757)」を参照してください。

■ 営業員の割当による製品選択のフィルタリングを有効化

この設定の詳細は、「[セールス要員の割当レコードに基づくピックリストフィルタリングの設定](#) (ページ 758)」を参照してください。

■ 担当者の都道府県免許検証の有効化

この設定を選択すると、製薬のセールス要員が医師や医療事業者に渡す製品サンプルを提出するときに、Oracle CRM On Demand が米国の住所を含むすべてのコールについて担当者の都道府県免許の有効性をチェックします。この設定を選択している場合、Oracle CRM On Demand によって次の検証が実行されます。

- コールの住所で指定されている都道府県が、担当者の都道府県免許に指定されている都道府県と同じであるかどうか。
- コール発生日が都道府県免許の有効期間中であるかどうか。つまり、コール日の前に都道府県免許が失効していないこと。担当者の都道府県免許に日付が指定されていない場合、Oracle CRM On Demand は都道府県免許が有効であると見なします。

これらの検証チェックは製品サンプル提供のみに適用され、製品詳細化やプロモーションアイテム提供など、その他の関連活動には適用されません。すべてのコールタイプ（取引先コール、出席者コールおよび担当者コール）に適用されます。Oracle CRM On Demand が都道府県免許が無効であると判断すると、Oracle CRM On Demand はエラーメッセージを表示してサンプル提供を阻止します。サンプル提供を行うには、セールス要員が有効な都道府県医師免許をコールに追加する必要があります。

■ 署名検証の有効化

この設定を選択すると、セールス要員が顧客コールの際に [コール詳細] ページで [提出] ボタンを使用して製品サンプルを提供しようとしたときに、Oracle CRM On Demand が署名レコードの有無をチェックします。コールに署名レコードが関連付けられておらず、かつ [コール詳細] ページの [提供に使用可能なサンプル] または [提供サンプル] 関連情報セクションの [数量] の値が正の値の場合、Oracle CRM On Demand にエラーメッセージが表示され、セールス要員がコールを提出してもコール処理は行われません。コール処理を続け、要員が製品サンプルを提供できるようにするには、要員は担当者の署名レコードをコールレコードに追加してからコールを再提出する必要があります。

有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定

管理者は、有効な州免許を保持していない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定できます。この設定はグローバルレベルで設定され、組織全体に適用されます。この設定を構成することによって、次のことが保証されます。

- フィールドのセールス要員は、有効な州免許を保持していない担当者がサンプルを受領できる指定の最大回数を超えることができません。
- 担当者が他の州に異動して有効な州免許を待機している間、その担当者はサンプルを受領できます。通常、担当者が他の州に異動した場合は、有効な免許を受け取るまでに数日間待機する必要があります。

作業前の準備。有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定するには、[基本サンプル操作の有効化] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ライフサイエンス管理] セクションで、[その他のライフサイエンス関連] リンクをクリックします。
- 3 [ライフサイエンス関連の設定] ページで、[ライフサイエンス関連の設定] リンクをクリックします。
- 4 [担当者をサンプリングできる回数] フィールドに値を入力します。

このフィールドのデフォルト値は-1 で、これは有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数が設定されておらず、現在の動作に影響を与えないことを示します。このフィールドの値を他の負の数値に設定しても、効果は同じです。

このフィールドの値をゼロ (0) より大きい数値に設定することによって、有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定し、次のように動作に影響を与えます。

- セールス要員は、有効な州免許を待機している担当者に x 回サンプルを提供できます。x はこのフィールドの値で、免許の状態が無効または null でなく、免許が期限切れになっていないことが前提です。

注：担当者にサンプルを配布するには、該当する担当者タイプ（医師、薬剤師、臨床看護師、治療師など）に、サンプルを受領して署名する権限が付与されている必要があります。詳細は、「[担当者へのサンプル受領権限の付与](#)（ページ 759）」を参照してください。

- 担当者が他の州に異動して有効な州免許を待機している間、その担当者はサンプルを受領できます。x はこのフィールドの値です。詳細は、「[担当者の州免許フィールド](#)」を参照してください。

関連トピック

サンプル管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [担当者へのサンプル受領権限の付与](#)（ページ 759）
- サンプルトランザクション
- サンプルトランザクションの管理
- サンプルトランザクションのフィールド

セールス要員の割当レコードに基づくピックリストフィルタリングの設定

管理者は、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の項目の製品詳細、プロモーションアイテム、提供サンプル、メッセージプラン、サンプルリクエストなどのピックリストをフィルタリングできます。このフィルタリングを設定すると、製薬のセールス要員による客先コール（担当者コール、取引先コールまたは出席者コール）時に表示される次のピックリスト項目が、Oracle CRM On Demand によってフィルター処理されます。Oracle CRM On Demand では、セールス要員の割当レコードに基づいて次のようにピックリスト項目にフィルタリングが適用されます。

- セールス要員が詳細に説明できる製品
- セールス要員が提供できるサンプル
- セールス要員が提供できるプロモーションアイテム
- セールス要員が顧客のためにリクエストできるサンプル

フィルタリングを設定しないと、Oracle CRM On Demand では、セールス要員の割当レコードを使用してこれらのピックリストがフィルタリングされません。

作業前の準備。ピックリストのフィルタリングを有効化するには、役割に「製薬へのアクセスの管理」権限および「企業の管理」権限が含まれている必要があります。

セールス要員の割当レコードに基づいてピックリストフィルタリングを有効化するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ライフサイエンス管理」セクションで、「その他のライフサイエンス関連」リンクをクリックします。
- 3 「ライフサイエンス関連の設定」ページで、「ライフサイエンス関連の設定」リンクをクリックします。
- 4 「営業員の割当による製品選択のフィルタリングを有効化」を選択します。

この設定は、デフォルトでは選択されません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- セールスコール時のサンプルの提供
- 割当
- コールへの製品詳細情報のリンク
- コールへの提供サンプル情報のリンク
- コールへのプロモーションアイテム情報のリンク
- コールへのサンプルリクエスト情報のリンク

担当者へのサンプル受領権限の付与

セールス要員は任意の担当者にサンプルを配布することはできません。セールス要員がサンプルを配布できるのは、サンプルを受領して署名する権限が付与された担当者に対してのみです。管理者は、サンプルを受領できる担当者を指定することで、この機能を制御します。サンプルを受領して署名する権限が付与されていない担当者に対してセールス要員がサンプルを配布しようとすると、「担当者はサンプルを受領できません」というエラーメッセージが表示されます。

作業前の準備。 サンプルを受領する権限を担当者に付与するには、最初に [サンプル可能] という名前のピックリストタイプのカスタムフィールド（値は [はい] および [いいえ]）を作成します。

担当者にサンプル受領権限を付与するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、[担当者] リンクをクリックします。
- 4 [カスケード式ピックリスト] セクションで、[担当者カスケード式ピックリスト] リンクをクリックします。
- 5 [担当者カスケード式ピックリスト] ページで、次のカスケード式ピックリスト定義の横にある [編集] リンクをクリックします。

親ピックリスト	関連ピックリスト
担当者タイプ	サンプル可能

- 6 カスケード式ピックリストウィザードのステップ 2 に移動し、サンプルを受領して署名する権限を付与しない各担当者（[親ピックリスト使用可能値]）の [関連ピックリスト表示値] を [いいえ] に設定します。

注： 各担当者（[親ピックリスト使用可能値]）の [関連ピックリスト表示値] は、デフォルトで [はい] に設定されており、これはすべての担当者がデフォルトでサンプルを受領できることを意味します。

たとえば、次の表では、病院役員、研究室技術者、臨床看護師、薬剤師、医師の各担当者に対して、サンプルを受領して署名する権限が付与されています。

親ピックリスト使用可能値	関連ピックリスト表示値
見込み顧客	いいえ
顧客	いいえ
パートナー	いいえ
病院役員	はい
研究室技術者	はい
臨床看護師	はい
薬剤師	はい
医師	はい

親ピックリスト使用可能値	関連ピックリスト表示値
医師調査員	いいえ
研究看護師	いいえ
研究薬剤師	いいえ
研究技術者	いいえ

カスケード式ピックリストの詳細は、「[カスケード式ピックリストの定義](#) (ページ 164)」を参照してください。

関連トピック

サンプル管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定](#) (ページ 757)
- サンプルトランザクション
- サンプルトランザクションの管理
- サンプルトランザクションのフィールド

サンプルトランザクションの自動実行の設定

このトピックでは、Oracle CRM On Demand のワークフロー機能を使用して、処理用のサンプルトランザクションを自動実行する方法について説明します。

作業前の準備。「[サンプルトランザクションの自動実行について](#) (ページ 761)」の情報を確認します。

サンプルトランザクションの自動実行を設定するには、次のようにします。

- 1 ワークフロー規則の条件で使用するサンプルトランザクションのフィールドを決定します。

たとえば、サンプルトランザクションレコードタイプのチェックボックスフィールドの設定を、レコードを実行する必要があるかどうかを決定する条件として使用するように決める場合があります。ワークフロー規則では、レコードのチェックボックスが選択されている場合に、ワークフローがレコードを実行するように指定できます。既存のチェックボックスフィールドを使用することも、カスタムチェックボックスフィールドを設定して [Mark for Submit] などの名称を付けることもできます。カスタムフィールドの設定方法の詳細は、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ](#) (ページ 90)」の表の「フィールド管理」および「ページレイアウト管理」のセクションを参照してください。

- 2 サンプルトランザクションレコードタイプに対して必要なワークフロー規則を設定します。

必要であれば、いくらかでもワークフロー規則を設定できます。[更新されたレコードが保存されたとき] トリガーイベントを使用したワークフロー規則設定して、サンプルトランザクションレコードが変更されたときに自動実行すると便利な場合があります。

注意: ワークフロー規則を構成する際には、[状態] フィールドが [進行中] という値に設定されているかどうかを確認する条件を含めることも必要です。この条件は、[実行] アクションが正常に実行されたときに、このワーク

フローを再び呼び出す修正アクションが、サンプルトランザクションレコードの「状態」フィールドを変更するために必要です。

最小限のルール条件を次に示します。

```
[<bMark_for_Submit_ITAG>]="Y" AND [<TransactionStatus>]="進行中" AND ExcludeChannel("オンライン")
```

この例では、[Mark for Submit] はカスタムフィールドで、ExcludeChannel はトリガーを制限できるオプションの条件で、この条件によって、ワークフローは UI の「コールの送信」ボタンが使用されたときではなく、インポートのときにのみアクティブになります。このワークフローアクションがトリガーされたときにエラーを受け取った場合は、「[「ワークフローエラーモニター」でのエラーインスタンスの表示](#) (ページ 437)」を参照してください。

ワークフロールール設定方法の詳細については、「[ワークフロールールの作成](#) (ページ 395)」を参照してください。

- それぞれのワークフロールールで、ワークフローのアクションを実行するために満たす必要がある条件を指定します。

たとえば、レコードの特定のチェックボックスフィールドが選択されている場合に、ワークフロールールのアクションを実行する必要があるという指定ができます。

注意: ユーザーインターフェイスから作成または更新されたレコードがワークフロールールで実行されないようにする必要がある場合は、必要な制限をワークフロールールの条件に設定します。詳細は、「[ワークフロールールの特定のチャンネルまたは役割への制限](#) (ページ 402)」を参照してください。

- 各ワークフロールールに必要な「実行」ワークフローアクションを作成します。

「実行」ワークフローアクションの詳細は、「[ワークフローアクションについて](#) (ページ 390)」の Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition のワークフローアクションに関する情報を参照してください。

注: 「実行」アクションの前のアクションは、待機値がゼロ以外である「待機」アクションである必要があります。ゼロ以外の待機を使用することで、非同期アクションとしてワークフローアクションがレンダリングされます。特に、一連の大規模サンプルトランザクションレコードをインポートおよび実行する場合は、アプリケーションパフォーマンス全体のために非同期アクションをお勧めします。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために「フィールド」リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず「フィールド」リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

サンプルトランザクションの自動実行について

ワークフロールールを設定して、サンプルトランザクションを自動実行すれば、各レコードを個別にオープンしてサンプルトランザクションを実行する必要がなくなります。Web サービスやインポートアシスタントを使用して作成または更新した一連のレコードを同時に実行する必要がある場合には、ワークフロールールを使用して一連のサンプルトランザクションレコードを実行すると便利です。たとえば、倉庫から営業担当者に新しい在庫を送付する場合は、インポートアシスタントで「振替(外部)」タイプの大量のサンプルトランザクションを作成して実行できます。

サンプルトランザクションレコードが更新されるたびにトリガーされるワークフロールールを設定し、レコードのフィールドがワークフロールールの条件に指定した値に設定されている場合に、そのルールのワークフローアクションがレコードを自動実行するように設定できます。たとえば、次のような処理が可能です。

- 1 一連のサンプルトランザクションレコードをインポートします。
- 2 ステップ 1 でインポートしたサンプルトランザクションのトランザクション項目レコードをインポートします。
- 3 [Mark for Submit] が Y に設定されている場合のように、トリガーフィールドが実行トリガー値に設定されているステップ 1 の一連のサンプルトランザクションレコードを再インポートします。

注意: ワークフロールールを使用してサンプルトランザクションを実行する前に、対応するすべてのサンプルトランザクション項目をインポートしておく必要があります。

ユーザーインターフェイスから作成または更新されたレコードがワークフロールールで実行されないようにする必要がある場合は、必要な制限をワークフロールールの条件に設定します。詳細は、「[ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限](#) (ページ 402)」を参照してください。

インポートされたレコードをワークフローを使用して実行すると、次のようになります。

- ワークフロー実行アクションでエラーが発生しても、サンプルトランザクションのインポート、作成または更新は中止されません。
- 在庫数の変更は Oracle CRM On Demand Disconnected Mobile Sales アプリケーションに反映されます。

Oracle CRM On Demand Desktop

Oracle CRM On Demand Desktop を使用すると、Oracle CRM On Demand のレコードと Microsoft Outlook を同期化できます。[管理ホームページ] の [デスクトップ統合管理] セクションで、Oracle CRM On Demand Desktop リンクをクリックすると、このソフトウェアをユーザーに配布するための設定ページに移動できます。次の操作を実行できます。

- Oracle CRM On Demand Desktop をインストールする前に、システムが Oracle CRM On Demand のシステム要件を満たしていることを確認します。
- Oracle CRM On Demand Desktop ユーザーが使用できるカスタマイズパッケージを管理します（「[カスタマイズパッケージの管理](#) (ページ 763)」を参照）。
- Oracle Software Delivery Cloud から、Oracle CRM On Demand Desktop アプリケーションをカスタマイズして配置できるファイルをダウンロードします。
- Oracle CRM On Demand Desktop インストーラのダウンロード場所を設定します（「[Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所の設定](#) (ページ 764)」を参照）。

Oracle CRM On Demand Desktop のインストール、設定、および配置の詳細は、『*Oracle CRM On Demand Desktop Administration Guide*』を参照してください。Oracle CRM On Demand Desktop のカスタマイズの詳細は、『*Oracle CRM On Demand Desktop Customization Guide*』を参照してください。

注: Oracle CRM On Demand Desktop Lite 製品は、完全な Oracle CRM On Demand Desktop 製品に加えて使用可能です。Oracle CRM On Demand Desktop Lite の詳細は、Oracle CRM On Demand Desktop Administration Guide を参照してください。

カスタマイズパッケージの管理

カスタマイズパッケージは、Oracle CRM On Demand Desktop で特定の役割に関連付ける XML メタデータファイルおよび JavaScript ファイルの集まりです。このメタデータファイルによって、Oracle CRM On Demand Desktop の配置がカスタマイズされます。たとえば、Oracle CRM On Demand Desktop の同期化によってフィールドを追加または削除したり、カスタムフォームのレイアウトを変更するなどのカスタマイズを実行できます。カスタマイズパッケージの詳細は、『Oracle CRM On Demand Desktop Administration Guide』を参照してください。

注: Oracle CRM On Demand Desktop Lite はカスタマイズパッケージをサポートしていません。

[パッケージリスト] ページで、新しいカスタマイズパッケージを追加したり、既存のパッケージをコピー、編集、および削除できます。

カスタマイズパッケージの公開

カスタマイズパッケージをアクティブにして Oracle CRM On Demand Desktop のユーザーが使用できるようにするには、パッケージを公開する必要があります。

パッケージを公開すると、パッケージレコードは読み取り専用になり、[状態] フィールドの値は [未公開] から [公開済] に変更されます。クライアントバージョンの場合は、いつの時点でもアクティブにできるのは 1 つのカスタマイズパッケージのみです。したがって、同じ役割の既存のカスタマイズパッケージと開始日が重なるパッケージの公開を試みると、エラーメッセージが表示されます。ただし、特定の 1 つの役割が付与されているユーザーは、個々のパッケージを異なるクライアントバージョンに対して公開できます。

パッケージのメタデータファイルを変更する必要がある場合は、パッケージを未公開にし、更新されたパッケージファイルを添付して公開する必要があります。

ヒント: レコードが [未公開] 状態の間は、特定の 1 つの役割のユーザーはパッケージファイルをダウンロードできないため、変更が必要な場合は、現在アクティブなパッケージに終了日を指定して新しいパッケージレコードを作成することをお勧めします。このアクションによって、新しいユーザーが常にパッケージを使用でき、より正確なバージョン制御および追跡が可能になります。

作業前の準備。 カスタマイズパッケージを管理するには、役割に [CRM Desktop アクセスの管理] 権限が含まれている必要があります。

カスタマイズパッケージを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Oracle CRM On Demand Desktop] セクションで、[Oracle CRM On Demand Desktop] をクリックします。
- 3 [カスタマイズパッケージの管理] をクリックします。
- 4 [パッケージリスト] ページで、[新規パッケージ] ボタンをクリックします。
- 5 [パッケージ編集] ページで、次のフィールドを入力します。

フィールド	コメント
パッケージ名	名前を入力します。ユーザー役割に基づいてパッケージの名前を指定することをお勧めします。

フィールド	コメント
ユーザー役割	パッケージに関連付ける役割を選択します。
コメント	パッケージのコメントを入力します。
添付資料	添付アイコンをクリックして、パッケージファイルを選択します。
開始日	今日の日付以外の日付が必要な場合は、パッケージの開始日を選択します。
終了日	必要に応じて、パッケージの終了日を選択します。終了日が定義されていない公開済パッケージは、無期限にアクティブとみなされます。したがって、パッケージレコードを無効にする終了日を定義して、役割に対する新しいパッケージの公開を許可する必要があります。
クライアントバージョン	このパッケージに対してサポートされる Oracle CRM On Demand Desktop クライアントのバージョン。

6 「保存」をクリックします。

また、既存のパッケージをコピーして、要件の詳細を変更できます。

パッケージを公開または未公開するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「Oracle CRM On Demand Desktop」セクションで、「Oracle CRM On Demand Desktop」をクリックします。
- 3 「カスタマイズパッケージの管理」をクリックします。
- 4 「パッケージリスト」ページで、パッケージの名前をクリックします。
- 5 必要に応じて、「公開」ボタンまたは「非公開」ボタンをクリックします。

パッケージを公開すると、値が「ハッシュ値」フィールドに生成されます。パッケージを未公開にすると、「ハッシュ値」フィールドがクリアされます。

Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所の設定

「インストーラの場所」画面で、1 つ以上のバージョンの Oracle CRM On Demand Desktop 32 ビットまたは 64 ビットインストーラのダウンロード場所を、インストーラの EXE ファイルの URL を入力して指定できます。URL にはネットワーク上の任意の場所を指定できます。詳細は、『Oracle CRM On Demand Desktop Administration Guide』を参照してください。

764 Oracle CRM On Demand の管理 リリース32

2016 年 6 月版

作業前の準備。 Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所を設定するには、役割に [CRM Desktop アクセスの管理] 権限が含まれている必要があります。

管理者は、最初に Oracle Software Delivery Cloud からこれらのインストーラを取得する必要があります。

Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Oracle CRM On Demand Desktop] セクションで、[Oracle CRM On Demand Desktop] をクリックします。
- 3 [ダウンロードの場所] リンクをクリックします。
- 4 [インストーラの場所] 画面で、次のようにします。
 - a ダウンロードの場所を設定するバージョンごとに、バージョンの横にある [URL] フィールドに EXE ファイルの URL を入力します。
 - b [保存] をクリックします。

Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所を設定後は、ユーザーは、[自分のセットアップ]、[データ & 統合ツール]、次に EXE ファイルをダウンロードできる [Oracle CRM On Demand Desktop] ページに移動して、Oracle CRM On Demand Desktop をインストールできます。詳細は、「[Oracle CRM On Demand Desktop のインストール](#) (ページ 765)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand Desktop のインストール

[Oracle CRM On Demand Desktop] ページで、[Oracle CRM On Demand Desktop をダウンロード] リンクをクリックして、Oracle CRM On Demand Desktop をインストールできます。

作業前の準備。 Oracle CRM On Demand Desktop の実行に必要なソフトウェアおよびハードウェアがあることを確認します ([Oracle CRM On Demand の Web サイト](#)

<http://crmondemand.oracle.com/en/products/system-requirements/index.html>を参照)。Oracle CRM On Demand Desktop のインストール、設定、および配置の詳細は、『*Oracle CRM On Demand Desktop Administration Guide*』を参照してください。

Oracle CRM On Demand Desktop をインストールするには、役割に [CRM Desktop アクセスの有効化] 権限が含まれている必要があります。

注: このトピックの各ステップは、システム管理者によってインストーラの場所が設定済である必要があります。詳細は、「[Oracle CRM On Demand Desktop インストーラバージョンの場所の設定](#) (ページ 764)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand Desktop をインストールするには

- 1 任意のページの右上隅にある [設定 (個人)] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [個人ホームページ] で、[データ&統合ツール] リンクをクリックします。

- 3 [データ&統合ツール] ページで、[Oracle CRM On Demand Desktop] リンクをクリックします。
- 4 [Oracle CRM On Demand Desktop] ページで、インストーラを選択して [Oracle CRM On Demand Desktop をダウンロード] リンクをクリックします。
- 5 2 番目の [Oracle CRM On Demand Desktop] ページで、表示された情報を読んだ後、[Oracle CRM On Demand Desktop をダウンロード] リンクをクリックします。
- 6 ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。
 - [保存] をクリックして、Oracle CRM On Demand Desktop の EXE ファイルをハードドライブにコピーし、オフラインで Oracle CRM On Demand Desktop をインストールします。（推奨）。
 - [実行] をクリックして、インストールを開始します。インストールを完了するには、インターネットに接続したままにする必要があります。
- 7 画面の指示に従ってインストールを終了します。

Expression Builder

Oracle On Demand Expression Builder (Expression Builder) およびその用法に関する情報を表示するには、次のトピックをクリックしてください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [式について](#) (ページ 769)
- [Expression Builder のデータタイプ](#) (ページ 773)
- [Expression Builder の演算子](#) (参照 "Expression Builder 演算子" ページ 776)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)
- [Expression Builder の例](#) (ページ 819)

Expression Builder について

Oracle On Demand Expression Builder (Expression Builder) は、式を使用してビジネスルールを実装するためのツールです。式は、Oracle CRM On Demand で評価できる 1 つ以上の演算子、関数、フィールドおよびリテラルの有効な組み合わせです。

Expression Builder は、Oracle CRM On Demand の次のエリアで使用されます。

- 次のコンテキストにおける [高度なフィールド管理]
 - フィールド上のフィールド検証プロパティの設定

■ デフォルトフィールド値の指定

企業の管理者は、ファイルレベル検証とデフォルトのフィールド値を定義する際に柔軟な式を作成し、さまざまなビジネスルールに対応させることができます。フィールド検証とデフォルト値に関する詳細については、「[フィールド管理について](#) (ページ 92)」を参照してください。

■ ワークフロールールおよびワークフローアクション。

[ワークフロー] ページから、企業の管理者はワークフロールールを設定できます。式は、ルールの条件と、ルールによって実行されるアクションの両方を定義するために使用されます。ワークフロールールの詳細は、「[ワークフロールールについて](#) (ページ 380)」を参照してください。

注: Expression Builder では、式の構文を検証できますが、数学的、論理的または意味的な精度を評価または検証することはできません。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [式について](#) (ページ 769)
- [Expression Builder のデータタイプ](#) (ページ 773)
- [Expression Builder の演算子](#) (参照 "[Expression Builder 演算子](#)" ページ 776)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)
- [Expression Builder の例](#) (参照 "[Expression Builder の例](#)" ページ 819)

Expression Builder の使用

Oracle CRM On Demand では、テキストボックスの横に [fx] アイコンが表示されているときはいつでも、Expression Builder を使用できます。このアイコンをクリックすると、Expression Builder が別個のウィンドウに開きます。

注: 式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

式を作成するには

- 1 [fx] アイコンをクリックし、Expression Builder を開きます。
- 2 Expression Builder で、リストからフィールドと関数を選択するか、それらを式エディターに入力します。

リストからフィールドを選択すると、そのフィールドの言語独立名が式エディターに貼り付けられます。たとえば、[商談] フィールドのリストから [クローズ日] フィールドを選択すると、[{Primary Revenue Close Date}] が式エディターに貼り付けられます。

注: Expression Builder で [フィールド] リスト内に表示されるフィールド名は、フィールドの表示名です。管理者がフィールドの表示名を変更した場合は、[フィールド] リストにそのフィールドの新しい表示名が表示されます。ただし、リストからそのフィールドを選択したときは、そのフィールドの言語独立名が式エディターに貼り付けられます。

フィールド名の括弧は、特定のフィールドの値が評価され、固有のデータタイプで返されることを示しています。次の表に、フィールドとフィールド値の選択について詳しく示します。

3 必要に応じて演算子およびリテラルを追加することで式を編集します。

注:ピックリストフィールドに特定の値があるかどうかを式に判断させる場合は、式に値を入力しないでください。たとえば、[{Type}] = "顧客"と入力してはなりません。代わりに、リストからピックリストフィールドを選択し、Expression Builder の「可能な値を表示」リンクをクリックします。表示される値から、式で使用する値を選択します。式は次のようになります。

```
[{Type}]=LookupValue("ACCOUNT_TYPE", "Customer")
```

4 (オプション) 「構文のチェック」をクリックし、式を修正します。

5 式を保存します。

次の表では、Expression Builder について説明します。

インターフェイス要素	説明
レコードタイプフィールド	式で許可されるフィールド（コンテキストレコードタイプ）のコンテキストに応じたピックリストを提供します。企業の管理者がフィールドの名前を変更した場合、[フィールド] ピックリストには新しいフィールド名が表示されます。 次の点に注意してください。 ■ ワークフロールールまたはワークフロールール関連のアクションを作成している場合、コンテキストレコードタイプは、そのワークフロールールの定義で指定されたレコードタイプになります。たとえば、サービスリクエストレコードのワークフロールールにアクションとして送信する電子メールを作成している場合、Expression Builder のコンテキストレコードタイプは「サービスリクエスト」です。 ■ 高度なフィールド管理では、コンテキストレコードタイプは、式が作成されているフィールドの親になります。たとえば、商談フィールドでフィールド検証を定義する場合、Expression Builder のコンテキストレコードタイプは「商談」になります。
可能な値を表示	[フィールド] ピックリストからフィールドを選択する場合、[可能な値を表示] をクリックすると、そのフィールドで受け入れ可能な値を表示できます。 ■ 選択されたフィールドがピックリストフィールドである場合、[可能な値を表示] により、そのピックリストに設定されたすべてのオプションが表示されます。 一度に選択できるオプションは 1 つだけです。オプションを選択すると、Lookup 関数が定義され、式で使用できるようになります。 ■ 選択されたフィールドがピックリストフィールドでない場合、[可能な値を表示] によってウィンドウが表示され、そのフィールドで保持できるさまざまなデータで受け入れ可能な値が示されます。

インターフェイス要素	説明
ファンクション	式内でのデータの変更、抽出、処理で使用可能な特別な関数のドロップダウンリストを提供します。使用可能な関数のリストについては、「 Expression Builder の関数 (ページ 781)」を参照してください。
式	編集可能な複数行のテキストボックスに式が表示されます。 式のサポートされる最大の長さについては、「式について (ページ 769)」を参照してください。 ピックリストから選択したフィールドおよび関数は、式エディターに表示されます。式は式エディターに直接入力することもできます。 式構文には、常に言語に依存しないフィールド名が表示されます（言語独立名とは、ユーザー言語が変更されても変わらない名前です）。
構文ガイド	Expression Builder オンラインヘルプの Oracle CRM On Demand のトピックが表示されます。
式の例	Expression Builder オンラインヘルプの「Oracle CRM On Demand の例」が表示されます。
構文のチェック	作成した式の構文を検証します。
保存	式を保存します。
取消	変更を保存せずに Expression Builder ウィンドウを閉じます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [式について](#) (ページ 769)
- [Expression Builder のデータタイプ](#) (ページ 773)
- [Expression Builder の演算子](#) (参照 "[Expression Builder 演算子](#)" ページ 776)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)
- [Expression Builder の例](#) (参照 "[Expression Builder の例](#)" ページ 819)

式について

式は、Oracle CRM On Demand で評価できる 1 つ以上の演算子、関数、フィールドおよびリテラルの有効な組み合わせです。このトピックでは、式の次の機能について説明します。

- 式でのフィールドおよびフィールド名形式
- 式の長さ

- リテラルの長さ
- 条件式
- 検証式
- 式での依存フィールドの使用

式でのフィールドおよびフィールド名構文

レコードタイプのためのフィールド設定ページで使用可能なフィールドの大部分は、Expression Builder においてそのレコードタイプ用のフィールドリスト内でも使用可能であり、式で使用できます。

注意: テキスト（短い - マスク可能）フィールドタイプのカスタムフィールドは例外となります。これらのフィールドを Expression Builder において式で使用することはできません。

Expression Builder においてフィールドリストからフィールド名を選択することでフィールドを式に追加した場合、そのフィールドは次の構文で式エディターに入力されます。

[{FieldName}]

式エディターで表示されるフィールド名は、Oracle CRM On Demand で内部的にフィールドを識別するために使用される言語独立フィールド名となります。[{FieldName}] 構文を使用してフィールド名を式エディターに直接入力することもできますが、式でのフィールド名が正しくなるよう、必ずフィールドリストからフィールドを選択することをお勧めします。

以前のリリースにおける式でのフィールド名およびフィールド名構文について

Oracle CRM On Demand のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースでは、Expression Builder においてフィールドリストからフィールド名を選択すると、そのフィールドが次の構文で式エディターに入力されました。

[<FieldName>]

また、リリース 29 サービスパック 1 より前のリリースでは、Expression Builder において、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で使用されている言語独立フィールド名とは異なる言語独立フィールド名が使用されていました。ただし、以前のリリースで有効だった、[<FieldName>] 構文および対応するフィールド名を使用する式は、リリース 29 サービスパック 1 以降でも引き続き有効となります。必要な場合は、引き続き [<FieldName>] 構文を使用して、古い言語独立フィールド名を式エディターに直接入力することもできます。ただし、フィールド名およびフィールド構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では必ずフィールドリストからフィールドを選択することをお勧めします。

新しいフィールド名に [{FieldName}] 構文を使用し、古いフィールド名に [<FieldName>] を使用する場合は、式において新しいフィールド名と古いフィールド名を混在させることができます。

Oracle CRM On Demand オンラインヘルプにおける例について

オンラインヘルプで表示される一部の式の例では、リリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていた、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文が使用されています。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で式を作成または更新するときに、対応するフィールドをフィールドリストから選択する場合は、式内のフィールド名はオンラインヘルプ内の例で示されたフィールド名とは異なり、フィールドは新しいフィールド構文で式エディターに表示されます。

式の長さ

ワークフローの「メール送信」アクションを使用して設定された電子メールのメッセージ本文の場合、式のサポートされる長さは最大 2,000 文字（スペースを含む）です。Enter キーを押すと、電子メールメッセージに改行を挿入できます。改行は、テキストボックスで 2 文字とカウントされます。

Expression Builder が使用されるその他のすべての状況において、サポートされる式の長さは最大 1024 文字（スペースを含む）です。

式を保存するフィールドの合計文字数が、そのフィールドの制限を超えないようにする必要があります。次のワークフローフィールドでは、関数とフィールド名の前後に 3 つのパーセント記号（%%%）が配置されます。

- 「メール送信」アクションを使用して設定された電子メールの「件名」フィールドと「メッセージ本文」フィールド

- 「タスクの作成」アクションを使用して設定されたタスクの「主題」フィールドと「説明」フィールド

パーセント記号は、関数またはフィールド名をテキスト値に変換する必要があることを示します。各パーセント記号は、式が保存されるフィールドで 1 文字とカウントされます。

関数またはフィールド名をフィールドに直接入力した場合、その前後に 3 つのパーセント記号を入力する必要があります。Expression Builder を使用して関数またはフィールド名を埋め込んだ場合は、パーセント記号が自動的に追加されます。

たとえば、Expression Builder を使用して、次のフィールド名をワークフローアクションの電子メールのメッセージ本文に挿入するとします。

[{Name}]

Expression Builder により、次の内容（合計 14 文字）がワークフローアクションの電子メールのメッセージ本文に挿入されます。

%%%[{Name}]%%%

リテラルの長さ

Expression Builder で文字列または数値リテラルを関数に渡す場合、リテラルは 75 文字（スペースを含む）以下にする必要があります。75 文字を超えるリテラルを使用すると、Expression Builder でそのリテラルは構文エラーと見なされます。フィールド名を参照して文字列を関数に渡す場合、リテラルに渡されるフィールド値の長さには 75 文字の制限は適用されません。

フィールドにデフォルト値を設定するための式を作成する場合、式の関数に渡される文字列または数値リテラルには 75 文字の制限が適用されます。また、式の結果の文字数はフィールドの許容最大文字数を超えてはなりません。

条件式

条件式は、アプリケーションによって評価される場合に、常に True または False などのブール値を返す式のことです。

注: Yes、No、Y および N はブール値ではありません。If (ページ 789) 関数などの関数の戻り値として True または False を指定した場合、返される True および False はブール値ではなく文字列として返されます。条件式で間違ったブール値を使用すると、予期しない動作となる可能性があります。

次の目的で使用される式は、条件式です。

- フィールド検証のルールを指定する
- ワークフローの条件を指定する
- If (ページ 789) 関数の最初のパラメータとして使用する

検証式

検証式は、フィールドに入力されたデータが有効かどうかを確認するために使用されます。検証式は、条件式でなければなりません。

フィールドの検証式は、レコードが作成されるとき、およびフィールドがユーザーによって更新されるたびに評価されます。ただし、次の状況の場合は除きます。

- レコードの作成時にフィールドは空のままになります。フィールド検証では値が必要とされません。
- フィールドには既存の無効な値があり、更新時に変更されません。

検証式が評価されない場合、または検証式が NULL と評価される場合は、エラーメッセージが生成されません。検証式が失敗する（すなわち、式が FALSE と評価される）場合のみエラーメッセージが生成されます。

検証式は、条件演算子で開始される他のタイプの式とは異なります。たとえば、[取引先名] フィールドが検証式によって検証される場合、次のように開始できます。

```
= 'Acme Hospital'
```

この式はあまり良い例とは言えませんが、これで構文のチェックが渡されます。これは、式の最初にフィールド名が見つからない場合に、Oracle CRM On Demand が式よりも前に検証対象フィールドの名前を挿入するためです。検証式は次のように入力することもできます。

```
[<AccountName>]= 'Acme Hospital'
```

[<AccountName>]は、検証対象フィールドです。

検証対象フィールドに加え、式で他のフィールドも評価する必要がある場合、検証対象フィールドで実行される式で最初の比較を行うのが一般的です。

検証式は Oracle CRM On Demand の [高度なフィールド管理] にある [フィールド検証] テキストボックスでのみ使用されます。

検証式の例

例 1：あるビジネスプロセスでは、商談がクローズする日付は商談を作成した日付よりも後でなければなりません。

このプロセスを実装するには、（商談の項目設定ページにある）[クローズ日] フィールドの検証式を次のように作成します。

```
> [<CreatedDate>]
```

別の方法としては、次の例を使用できます。ただし、評価対象フィールド（[クローズ日]）は、式の最初のフィールドにする必要があります。

```
[<CloseDate>] > [<CreatedDate>]
```

フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#)（ページ 110）」を参照してください。

例 2：あるビジネスプロセスでは、商談の確度が 40% 以上の場合は、商談の売上値をゼロにできません。

このビジネスルールは、両方のフィールドの依存関係が次のようになることを示しています。

商談の場合、確度が 40 以上である場合に売上をゼロにできません。逆に言えば、売上がゼロの場合に確度が 40 以上になることはないということです。

フィールドの検証式は、レコードが作成されるとき、およびユーザーによってフィールドが更新されるたびに評価されます。[確度] フィールドまたは[売上] フィールドのいずれかを更新すると両方のフィールドに影響があるため、[確度] フィー

ルドと「売上」フィールドの両方に検証ルールを指定することで、このビジネスルールを正しく実装する必要があります（フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#)（ページ 110）」を参照）。

この例を実装するために必要な手順は次のとおりです。

- 1 「確度」フィールドには次の検証ルールを設定します。

`< 40 OR ([<Probability>]>= 40 AND [<Revenue>]> 0)`

パーセント記号（%）は使用できません。

- 2 「確度」フィールドに次のような検証エラーメッセージを追加します。

確度が 40% 以上の場合、売上はゼロにできません。

- 3 「売上」フィールドには次の検証ルールを設定します。

`(> 0 AND [<Probability>]>= 40) OR [<Probability>]< 40`

- 4 「売上」フィールドに次のような検証エラーメッセージを追加します。

確度が 40% 以上の場合、売上はゼロにできません。

式での依存フィールドの使用

依存フィールドは、その値が外部キーに依存している結合フィールドです。結合フィールドは、外部キーを使用して別のレコードタイプのフィールドを参照するレコードタイプのフィールドです。依存フィールドの例として、「商談」レコードタイプの AccountName フィールドがあります。「商談」レコードタイプの AccountName フィールドは結合フィールドで、その値は、「取引先」レコードタイプを参照する AccountId 外部キーフィールドに依存しています。

使用する式で依存フィールドの値を決定する必要がある場合は、JoinFieldValue 関数を使用して、ID フィールド（つまり外部キーフィールド）を参照することで、このフィールドの最新の値を取得することをお勧めします。そうしないと、式の結果が不正確になったり、式の値の結果が無効になる可能性があります。結合フィールドと JoinFieldValue 関数の詳細は、「[JoinFieldValue](#)（ページ 792）」を参照してください。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#)（ページ 766）
- [Expression Builder の使用](#)（ページ 767）
- [Expression Builder の関数](#)（ページ 781）

Expression Builder のデータタイプ

このトピックでは、Oracle CRM On Demand におけるデータタイプ、およびそれらのデータタイプを Expression Builder で使用する方法について説明します。

注： このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文と異なります。

文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

Oracle CRM On Demand のデータタイプ

次の表では、式で Oracle CRM On Demand のフィールドが使用された場合に返されるデータ型について説明します。フィールドの値を取得するには、[{FieldName}] 構文か [<FieldName>] 構文を使用します。

Oracle CRM On Demand のフィールドのタイプ	式で返されるデータタイプ
整数	整数
ピックリスト	文字列
通貨	通貨
ID	文字列
テキスト	文字列
チェックボックス	ブール たとえば、条件が必要な場所に [<Active>] を直接使用できます。FieldValue('<Active>') = 'Y' も使用できます。
日付	日付
日時	日時
数値	数値

データタイプに基づく演算

取引明細書が 1 つ以上のフィールド値を参照しており、それらのフィールドのデータ型が異なる場合、データ型の順序が計算に影響を与えることがあります。指数演算子以外の演算子は、データタイプが異なる 2 つのオペランドに適用されます。右側の演算子は左側のオペランドのデータタイプに変換された後、オペレーションが評価されます。たとえば、CloseDate が 02/09/2007 の場合、次の式

```
PRE('<CloseDate>') + 30
```

は、02/09/200730 に評価されます。そのため、次の条件

```
[<CloseDate>] > PRE('<CloseDate>') + 30
```

は、構文的には有効ですが、意味的には無効です。この条件を正しく書き直すと次のようになります。

[<CloseDate>] - 30 > PRE('<CloseDate>').

注:指数演算子が使用される場合、演算子の右側のオペランドは左側のオペランドのデータタイプに変換されません。

次の表では、値の例を使用したさまざまな演算の結果について説明します。

フィールド	データタイプ	値の例
数量	整数	5
単価	通貨	2.25

計算	結果	
	値	データタイプ
[<Item Price>] + [<Quantity>]	7.25	通貨
[<Quantity>] + [<Item Price>]	7	整数
[<Item Price>] - [<Quantity>]	(2.75) 注: [通貨] フィールド の場合、丸括弧はその 値が負であることを示 します。	通貨
[<Quantity>] - [<Item Price>]	3	整数
[<Item Price>] * [<Quantity>]	11.25	通貨
[<Quantity>] * [<Item Price>]	10	整数
[<Item Price>] / [<Quantity>]	0.45	通貨
[<Quantity>] / [<Item Price>]	2.50	通貨

指数演算子が使用される場合、演算子の右側のオペランドは左側のオペランドのデータタイプに変換されません。

この例（数量が整数フィールドで、値が5。単価が通貨フィールドで、値が2.25）では、演算子の右側のオペランドが左側のオペランドのデータタイプに変換された場合、数量 ^ 単価は 25、データタイプは整数になることが予想されます。ところが結果は次の表のようになります。

計算	結果	
	値	データタイプ
[<Item Price>] ^ [<Quantity>]	57.67	通貨
[<Quantity>] ^ [<Item Price>]	37.38	通貨

計算	結果	
	値	データタイプ
Price>]		

Expression Builder では否定演算子（マイナス記号 [-] ）もサポートされます。次に例を示します。

計算	結果	
	値	データタイプ
-1 * [<ItemPrice>]	(2.25)	通貨

数値を文字列に変換した場合、計算は正しく実行されません。次に例を示します。

計算	結果		説明
	値	データタイプ	
1234 + abcd	1234	数値	文字列"abcd"は数値 0 に評価された後、1234 に追加されます。
abcd + 1234	abcd1234	文字列	数値 1234 は文字"1234"に評価され、文字列"abcd"に追加されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Expression Builder 演算子

このトピックでは、Expression Builder で使用できる演算子、およびこれらの演算子が評価される順序について説明します。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィー

ルドは必ず「フィールド」リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

算術演算子

次の表では、各算術演算子の目的と使用例を示しています。

演算子	目的	例
+	追加	[<Record Number>] + 1
-	減算	[<Record Number>] - 1
-	マイナス	[<Revenue>] < -100
*	乗算	[<Subtotal>] * 0.0625
/	除算	[<Total Items>] / [<Total Orders>]
^	指数	[<Grid Height>] ^ 2

論理演算子

次の表では、Expression Builder の論理演算子で得られる結果について説明します。

論理演算子	最初のオペランド	2 番目のオペランド	結果
NOT	TRUE		FALSE
	FALSE		TRUE
	NULL		NULL
AND	TRUE	TRUE	TRUE
	FALSE	FALSE	FALSE
	TRUE	FALSE	FALSE
	FALSE	TRUE	FALSE
	TRUE	NULL	NULL
	FALSE	NULL	FALSE
	NULL	TRUE	NULL
	NULL	FALSE	FALSE

論理演算子	最初のオペランド	2 番目のオペランド	結果
	NULL	NULL	NULL
または	TRUE	TRUE	TRUE
	FALSE	FALSE	FALSE
	TRUE	FALSE	TRUE
	FALSE	TRUE	TRUE
	TRUE	NULL	TRUE
	FALSE	NULL	NULL
	NULL	TRUE	TRUE
	NULL	FALSE	NULL
	NULL	NULL	NULL

比較演算子

次の表では、各比較演算子の目的と使用例を示しています。

演算子	目的	例
=	最初のオペランドが 2 番目のオペランドと等しいことをテストします。	[<名前 (姓)>] = "Smith"
< >	最初のオペランドが 2 番目のオペランドと等しくないことをテストします。	[<Role>] <> "End-User"
>	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより大きいことをテストします。	[<Revenue>] > 5000
<	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより小さいことをテストします。	[<Probability>] < .7
> =	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより大きいまたは等しいことをテストします。	[<Revenue>] >= 5000
< =	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより小さいまたは等しいことをテストします。	[<Probability>] <= .7
LIKE	最初のオペランドが指定した文字列と一致することをテストします。	[<名前 (姓)>] LIKE

演算子	目的	例
	トします。	"Smith" ヒント:LIKE 演算子ではアスタリスク (*) と疑問符 (?) を使用して特定の文字列のパターンマッチングを行えます。
NOT LIKE	最初のオペランドが指定した文字列と一致しないことをテストします。	[<名前 (姓)>] NOT LIKE "Smith" または NOT ([<名前 (姓) >] LIKE "Smith") 注: この 2 番目の例では丸括弧が必須です。 ヒント: NOT LIKE 演算子ではアスタリスク (*) と疑問符 (?) を使用して特定の文字列のパターンマッチングを行えます。
IS NULL	オペランドが NULL であることをテストします。	[<名前 (姓)>] IS NULL
IS NOT NULL	オペランドが NULL でないことをテストします。	[<名前 (姓)>] IS NOT NULL

パターンマッチングの特殊文字

次の表に、パターンマッチングの特殊文字を示します。これらの特殊文字は、LIKE および NOT LIKE などの比較演算子で使用できます。

文字	目的	例
*	0 個以上の文字	[<名前 (姓) >] LIKE "Sm*"では、[<名前 (姓) >]値が <i>Smith</i> 、 <i>Smythe</i> 、 <i>Smart</i> などのように <i>Sm</i> で始まるすべてのレコードが返されます。 [<名前 (姓) >] LIKE "*om*"では、 <i>Thomas</i> 、 <i>Thompson</i> 、 <i>Tomlin</i> のように[<名前 (姓) >]フィールドに文字 <i>om</i> が含まれるすべてのレコードが返されます。

?	1 文字	[<名前 (名) >] NOT LIKE "Da?"では、[<名前 (名) >]値が 3 文字であり、文字 <i>Da</i> で始まっていないすべてのレコードが返されます。名前 (名) が <i>Ted</i>、<i>Tom</i>、<i>Sam</i> のレコードは返されますが、<i>Dax</i> や <i>Dan</i> のレコードは返されません。 NOT ([<名前 (名) >] LIKE "?o?")では、[<名前 (名) >]値が 3 文字であり、2 つ目の文字が <i>o</i> でないすべてのレコードが返されます。名前 (名) が <i>Ted</i> や <i>Sam</i> のレコードは返されますが、<i>Tom</i> や <i>Bob</i> のレコードは返されません。

連結演算子

+ (plus) 演算子は、電子メールでフィールド値やテキストを連結する場合に使用されます。

演算子の優先順位

優先順位とは、Oracle CRM On Demand で単一の式に含まれるさまざまな演算子が評価される順序のことです。次のルールが適用されます。

- 優先順位の高い演算子は、優先順位の低い演算子よりも先に評価されます。
- 等しい優先順位の演算子は、左から右に評価されます。
- レベルの数値が小さいほど、優先順位が高いことを表します。
- 括弧を使用すると、式内の優先順位が変わります。括弧内の式は、括弧外の式よりも先に評価されます。

次の表に、優先順位のレベルを示します。

レベル	演算子
1	()
2	- (マイナス)
3	^ (指数)
4	* (乗算)、/ (除算)
5	+ (加算)、- (減算)、NOT 論理演算子
6	AND 論理演算子
7	OR 論理演算子
8	=、<>、>、<、>=、<=比較演算子

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)

■ [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Expression Builder の関数

次の表では、Expression Builder で使用できる関数について説明します。それぞれの関数の詳細については、関数の名前をクリックして参照してください。

ブール関数	日時の関数	文字列関数	ユーザー関数	データ関数	数学関数
IfNull (ページ 788)	Duration (参照 "期間" ページ 782)	FieldValue (ページ 785)	Locale (ページ 800)	ExcludeChannel (ページ 784)	LN (ページ 800)
IIf (ページ 789)	JulianDay (ページ 794)	FindNoneOf (ページ 786)	LocaleListSeparator (ページ 801)	GetGroupId (ページ 788)	
	JulianMonth (ページ 795)	FindOneOf (ページ 787)	OrganizationName (ページ 805)	JoinFieldValue (ページ 792)	
	JulianQtr (ページ 795)	InStr (ページ 791)	UserValue (ページ 814)	LookupName (ページ 801)	
	JulianWeek (ページ 796)	Left (ページ 798)		LookupValue (ページ 802)	
	JulianYear (ページ 797)	Len (ページ 799)		PRE (ページ 805)	
	Timestamp (ページ 810)	Mid (ページ 804)		RowIdToRowNum (ページ 808)	
	Today (ページ 813)	Right (ページ 807)		RowNum (ページ 810)	
	UtcConvert (ページ 818)	ToChar (ページ 811)			

他の関数に関しては、次の情報に注意してください。

- 式ビルダーの「演算子」フィールドのドロップダウンリストに表示される関数の中には、内部使用に限定されるものがあります。次の関数は式で使用しないでください。

- [GetParentId](#)
- [IsManagerPosition](#)
- [Lookup](#)
- [LookupMessage](#)

■ [LOVLanguage](#)

■ [PositionId](#)

■ [PositionName](#)

- 次の表に示す関数の代わりに、[UserValue](#) (ページ 814)関数の使用をお勧めします。これらの関数は、使用できなくなる予定です。

関数	推奨される代替関数
エイリアス	UserValue('<Alias>')
通貨	UserValue('<CurrencyCode>')
DivisionName	UserValue('<Division>')
FirstName	UserValue('<FirstName>')
JobTitle	UserValue('<JobTitle>')
言語	UserValue('<LanguageCode>')
LanguageName	UserValue('<Language>')
LastName	UserValue('<LastName>')
LocalCurrency	UserValue('<CurrencyCode>')
LocaleName	UserValue('<Locale>')
LoginId	UserValue('<UserId>')
LoginName	UserValue('<UserSignInId>')

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) (ページ 766)

■ [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)

期間

Expression Builder の Duration 関数は、期間を日単位または日の端数単位で示す数値を period 引数に返します。

構文

Duration(period)

結果のタイプ

数値

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
期間	<code>PnYnMnDTnHnM</code> 形式の文字列リテラル 説明 : ■ <code>P</code> は期間 ■ <code>nY</code> は 0 から 5 までの年数 ■ <code>nM</code> は 0 から 12 までの月数 ■ <code>nD</code> は 0 から 200 までの日数 ■ <code>T</code> は日付と時間の区切り ■ <code>nH</code> は 0 から 200 までの時間数 ■ <code>nM</code> は 0 から 59 までの分数

次の点に注意してください。

- 正の値にプラス記号 (+) は指定しません。
- 負の期間は `-Duration(Period)` で指定できます。
- 秒の指定はサポートされていません。
- サポートされる最大期間は `'P5Y12M200DT200H59M'` (5 年、12 か月、200 日、200 時間、59 分) です。
- 年、月、日、または分の値が 0 の場合、値と対応する指定子を省略できます。
- 年、月、または日の値が 0 で、時間要素の値が 0 以外の場合、少なくとも年、月、日のいずれかの要素 (数値と指定子) を指定する必要があります。
- 期間の時間要素が指定されていない場合、`T` 指定子を期間に含めないようにする必要があります。
- 指定子 `P` は期間に必ず指定する必要があります。

例

次に、有効な `Duration` 関数の例を示します。

```
Duration('P0Y1M1DT2H5M')
```

```
Duration('P0Y0DT1H')
```

```
Duration('P1D')
```

```
Duration('P0Y0M0DT0H0M')
```

Duration('P0DT1M')

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

ExcludeChannel

Expression Builder の ExcludeChannel 関数は、指定されたチャンネルの名前がリクエスト元のチャンネルである場合に FALSE を返します。

構文

ExcludeChannel(channel name)

結果のタイプ

ブール

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
channel name	除外するチャンネルの名前です。

次の表では、チャンネル名の引数に使用できる有効な文字列について説明します。

チャンネル名の文字列	説明
Import	このチャンネル文字列では、インポート機能および Oracle Data Loader On Demand を使用して実行された更新を除外します。
Online	このチャンネル文字列では、ブラウザウィンドウを介したユーザーインタラクションによって実行された更新を除外します。
Mass Update	このチャンネル文字列では、リストページの [大量更新] オプションを使用して実行された更新を除外します。

チャンネル名の文字列	説明
Record Merge	このチャンネル文字列では、レコードのマージによって実行された更新を除外します。
オフライン	このチャンネル文字列では、Offline On Demand からの更新を除外します。
Web サービス	このチャンネル文字列では、Web サービスからの更新を除外します。
Office	このチャンネル文字列では、Oracle CRM On Demand Integration for Office からの更新を除外します。
OEI	このチャンネル文字列では、Oracle Outlook Email Integration On Demand および Oracle Notes Email Integration On Demand からの更新を除外します。

例

次の例では、Web サービスリクエストによってトリガーされるプロセスを停止します。

```
ExcludeChannel("Web Services")
```

次の例では、プロセスがインポート操作または Oracle Data Loader On Demand によってトリガーされないようにします。

```
ExcludeChannel("Import")
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

FieldValue

Expression Builder の FieldValue 関数は、フィールド値を文字列として返します。

構文

```
FieldValue('<field_name>')
```

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
field_name	選択されたフィールドに対応する有効な XML 名またはカスタマイズされた統合タグです。 統合タグは、[レコードタイプフィールド] ページの [統合タグ Web Services v2.0] カラムに表示されます。

例

次の例:

```
FieldValue('<CreatedDate>')
```

では、[作成日] フィールドの値を文字列として返します。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

FindNoneOf

Expression Builder の FindNoneOf 関数は、最初の引数 (string1) 内において、2 番目の引数 (string2) のどの文字にも一致しない最初の文字の位置を返します。

構文

```
FindNoneOf(string1, string2 )
```

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明

引数	説明
string1	検索される文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。
string2	一致させる文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。

例

次の例では値 4 が返されます。

```
FindNoneOf ("abcdef", "abc")
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

FindOneOf

Expression Builder の FindOneOf 関数は、2 番目の引数 (string2) における 1 番目の引数 (string1) の最初の文字が、string1 のどの位置にあるかを返します。

構文

```
FindOneOf(string1, string2 )
```

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string1	検索される文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。
string2	一致させる文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。

例

次の例では値 3 が返されます。

```
FindOneOf ("abcdef", "xyzc")
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

GetGroupId

Expression Builder の GetGroupId 関数は、Oracle CRM On Demand のカレンダー共有グループを返します。

構文

GetGroupId()

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

IfNull

Expression Builder の IfNull 関数は、関数に渡された最初の引数から値を返します。最初の引数が NULL を返した場合、2 番目の引数からの値が返されます。

構文

IfNull(expr1, expr2)

結果のタイプ

IfNull 関数が返す結果のタイプは、たとえ最初の引数が NULL であっても、最初の引数のタイプとなります。2 番目の引数は、最初の引数のタイプに変換されてから、その値が返されます。

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
expr1	フィールド名または式です。
expr2	expr1 が NULL だった場合に返されるフィールド名または式です。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

IIf

Expression Builder の IIf 関数では、条件式の評価に基づいて 2 つのパラメータの 1 つを返します。IIF は、Immediate If の略です。

構文

IIf(expr, result_if_true, result_if_false)

代替構文

IIf(expr, expr_if_true, expr_if_false)

混合構文

IIf(expr, result_if_true, expr_if_false)

IIf(expr, expr_if_true, result_if_false)

結果のタイプ

IIf()関数の結果のタイプは、常に最初の引数のタイプになります。式によって FALSE に評価された場合、2 番目の引数が最初の引数のタイプに変換されてから、その値が返されます。

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
expr	評価される条件式です。
result_if_true	条件式が True に評価された場合の戻り値です。
result_if_false	条件式が False に評価された場合の戻り値です。
expr_if_true	条件式が True に評価された場合に評価される式です。
expr_if_false	条件式が False に評価された場合に評価される式です。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために「フィールド」リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず「フィールド」リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

例

次に示すのは IIf 関数の混合構文の例です。

あるビジネスプロセスでは、「取引先」の「詳細」ページにある「地域」フィールドを、「請求先都道府県」フィールドの変更内容に応じて次のように更新する必要があります。

「請求先都道府県」フィールドが「OK」または「TX」に変更された場合は、「地域」フィールドを「中央部」に更新します。「請求先都道府県」フィールドが「CA」に変更された場合は、「地域」フィールドを「西」に更新します。その他の都道府県の場合は、「地域」フィールドを「東」に更新します。

```
IIf([<PrimaryBillToState>]='OK' OR [<PrimaryBillToState>]='TX', '中央部',
IIf([<PrimaryBillToState>]='CA', '西', '東'))
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

InStr

Expression Builder の InStr 関数は、ある文字列の中から最初に見つかった文字の位置を返します。

構文

Instr(string1, string2, start, end)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string1	検索される文字列を指定します。値には文字リテラル、フィールド名、または文字列を返す式を指定できます。
string2	検索する文字列を指定します。値には文字リテラル、フィールド名、または文字列を返す式を指定できます。 注： 文字列の検索では大文字と小文字が区別されます。
start	(オプション) string1 の開始位置を指定する整数です。
end	(オプション) string1 の終了位置を指定する整数です。

注：このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について \(ページ 769\)](#)」を参照してください。

例

次の例では値 9 が返されます。

```
InStr('john.doe@company.com', '@')
```

次の例では、ワークフロールール条件で InStr 関数を使用する方法を示します。ワークフロールール条件では、InStr 関数を使用して、指定した文字列がレコードのフィールドに存在するかを確認します。フィールドに文字列が見つからない場合、ワークフロールールで指定されたアクションが実行されます。この例では、InStr 関数を使用して、レコードの [主題]

フィールドに「REVIEW」という語が含まれているかどうかを確認しています。ワークフロールールアクションは、[主題] フィールドに「REVIEW」（すべて大文字）という語が含まれている場合にのみ実行されます。

```
InStr([<Subject>], 'REVIEW') > 0
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

JoinFieldValue

レコードタイプは、外部キーを介して別のレコードタイプから参照することができます。**結合フィールド**は、外部キーを使用して別のレコードタイプのフィールドを参照するレコードタイプのフィールドです。たとえば、大部分のレコードタイプにある OwnerId フィールドは、User レコードタイプを参照する外部キーです。多くのレコードの Owner フィールドが、OwnerId 外部キーを使って User レコードタイプの Alias フィールドを参照する結合フィールドになっています。

Expression Builder の JoinFieldValue 関数は、参照先レコードタイプと関連する外部キーフィールドが関数に指定されると、結合フィールドの値を返します。JoinFieldValue 関数は、参照元オブジェクトに直接結合されていない参照先レコードタイプの他のフィールドも取得できるので、関連するレコードタイプからレコードタイプをまたいでフィールドを探索できます。

参照レコードタイプの [ID] フィールドがワークフロールールを設定したレコードタイプに外部キーとして表示される場合は、JoinFieldValue 機能を使用して参照レコードタイプからフィールド値を取得できます。

また、すべてのレコードタイプで使用可能な次の外部キーフィールドを使用すると、[ユーザー] レコードタイプからフィールド値を取得できます。

- CreatedById
- ModifiedById

注: JoinFieldValue 関数は[活動]レコードタイプの次のフィールドの値を返しません: [支出トランザクション数]、[製品詳細数]、[提供プロモーションアイテム数]および[提供サンプル数]。この制限は、これらのフィールド値を Oracle CRM On Demand が計算する方法に起因するものです。

構文

JoinFieldValue (ref_record_type, foreign_key, field_name)

結果のタイプ

文字列。

エラーが発生した場合、または要求したフィールド値が空の場合、ゼロ長文字列が返されます。

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
ref_record_type	参照先レコードタイプの言語独立名（ 言語独立名 とは、ユーザー言語が変更されても変わらない名前です）。 引数は、フィールド文字列識別子で囲む必要があります。次に例を示します。 '<Account>'
foreign_key	参照先レコードタイプ（ref_record_type 引数で指定）の有効な行 ID を返すリテラルまたは式。行 ID が無効である場合、この関数は、ゼロ長文字列を返します。直接フィールド参照は、フィールド識別子で囲む必要があります。次に例を示します。 [<AccountId>]
field_name	参照先レコードタイプ（ref_record_type 引数で指定）のフィールドの言語独立名。そのフィールドが参照先レコードタイプに存在しない場合、エラーが返されます。フィールド名はフィールド文字列識別子で囲む必要があります。次に例を示します。 '<Type>'

注：このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

例

例 1：ビジネスプロセスで、レコードの所有者が変わると新しい所有者の名前を探索するワークフロールールが必要です。レコードの所有者が変わると、そのレコードの OwnerId 外部キーフィールドのみが更新されます。その結果、ワークフロールールの次の条件では、レコードの新しい所有者は探索されません。

```
PRE('<Owner>') <> [<Owner>]
```

代わりに、ワークフローで次の条件を使用すると、レコードの新しい所有者を探索できます。

```
PRE('<Owner>') <> JoinFieldValue('<User>', [<OwnerId>], '<Alias>')
```

例 2：レコードの前の所有者の電子メールアドレスを取得するには、次の式を使用します。

```
JoinFieldValue('<User>', PRE('<OwnerId>'), '<EmailAddr>')
```

例 3：レコードの現在の所有者の電子メールアドレスを取得するには、次の式を使用します。

```
JoinFieldValue('<User>', [<OwnerId>], '<EmailAddr>')
```

例 4 : ビジネスプロセスで、担当者へサービスリクエスト電子メールを送信する必要があります。電子メールを送信する前に、担当者が電子メールの受け取りに同意していることをワークフロールールで確認します。ワークフロールール（サービスリクエストレコードタイプに基づく）には、次の条件が含まれます。

```
JoinFieldValue('<Contact>', [<ContactId>], '<NeverEmail>') <> 'Y'
```

例 5 : サービスリクエストの主要アカウントのテリトリーを取得するには、次の式を使用します。

```
JoinFieldValue('<Territory>', JoinFieldValue('<Account>', [<AccountId>],  
'<TerritoryId>'), '<TerritoryName>')
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

JulianDay

Expression Builder の JulianDay 関数は、紀元前 4713 年 1 月 1 日の正午（協定世界時）から経過した日数を返します。

構文

JulianDay (date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianDay(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)

■ [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)

■ [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

JulianMonth

Expression Builder の JulianMonth 関数は、次の値を表す整数を返します。

$$JulianYear * 12 + current\_month$$

ここで、*JulianYear* は、[JulianYear](#) (ページ 797)関数から返される年を、*current_month* は 1~12 の整数を表し、1 月は 1 になります。

構文

JulianMonth(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianMonth(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) (ページ 766)

■ [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)

■ [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

JulianQtr

Expression Builder の JulianQtr 関数は、次の値を表す整数を返します。

$$JulianYear * 4 + current\_quarter$$

ここで、*JulianYear* は [JulianYear](#) (ページ 797)関数から返される年を表し、*current_quarter* は次の値になります。

$$(current\_month - 1) / 3 + 1$$

端数は切り捨てられ、整数になります。

構文

JulianQtr(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianQtr(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

JulianWeek

Expression Builder の JulianWeek 関数は、次の値を表す整数を返します。

$$JulianDay / 7$$

端数は切り捨てられ、整数になります。JulianDay は [JulianDay](#) (ページ 794) から返される日付です。

構文

JulianWeek(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianWeek(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

JulianYear

Expression Builder の JulianYear 関数は、次の値を表す整数を返します。

current_year + 4713

構文

JulianYear(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianYear(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Left

Expression Builder の Left 関数は、文字列の左端から指定した数の文字を返します。

構文

Left(string, length)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	左端の文字が返される文字列。文字列に Null が含まれている場合は、Null が返されます。
length	返される文字数を指定する整数。この引数が 0 の場合、空の文字列が返されます。この引数が文字列内の文字数以上の数である場合、文字列全体が返されます。

例

現在のユーザーの電子メールアドレスが john.doe@oracle.com の場合、次の例では john という値が返されます。

```
Left(UserValue('<EmailAddr>'), 4)
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Len

Expression Builder の Len 関数は、指定された文字列内の文字数を返します。

構文

Len(string)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	文字がカウントされるフィールド名または文字列式。文字列が空の場合は、0 が返されます。文字列に Null が含まれている場合は、Null が返されます。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

例

次の例では、18 の値が返されます。

```
Len("Oracle Corporation")
```

次の例では、フィールドに有効なタイムスタンプがある場合は、19 の値が返されます。

```
Len([<CreateDate>])
```

次の例では 19 の値が返されます。

```
Len(Timestamp()) returns 19
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)

■ [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

LN

Expression Builder の LN 関数は、引数で渡される数値の自然対数を返します。

構文

LN(number)

結果のタイプ

数値

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
number	自然対数が返される数値。

例

次の例では、

LN(10)

2.30 の値が返されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Locale

Expression Builder の Locale 関数は、サインイン済みユーザーのロケールコード（ENU など）を返します。

構文

Locale()

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

LocaleListSeparator

Expression Builder の LocaleListSeparator 関数は、カンマ (,) などの現在のロケールの区切り記号を返します。

構文

LocaleListSeparator()

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

LookupName

Expression Builder の LookupName 関数では、値リストテーブルで次のすべてに該当する行を検索します。

- TYPE フィールドが type 引数と一致する。
- CODE フィールドが lang_ind_code 引数と一致する。
- LANG_ID フィールドが現在有効な言語の言語コードと一致する。

この関数は、指定された値リストの表示値の未翻訳の値（言語に依存しないコード）を返します。

ヒント:LookupName 関数のパラメータを指定する場合は、[可能な値を表示]をクリックして[項目]リストで選択したフィールドに指定可能な値を表示します（フィールドがピックリストフィールドである場合、[可能な値を表示]にはそのピックリストに設定されているすべてのオプションが表示されます。フィールドがピックリストフィールドでない場合、[可能な値を表示]を選択すると、フィールドに格納できるさまざまなデータに対して指定可能な値を説明するウィンドウが表示されます）。

構文

LookupName(type, lang_ind_code)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
type	検索対象の行のタイプ。
lang_ind_code	表示値。

例

CALIFORNIA は表示値で CALIF は言語に依存しないコードです。次のどちらの例でも、値 CALIF が返されます。

```
LookupName('STATE_ABBREV', 'CALIFORNIA')
```

```
LookupName('STATE_ABBREV', 'CALIF')
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

LookupValue

Expression Builder の LookupValue 関数は、現在有効な言語に翻訳される指定されたピックリスト値を返します。

ピックリスト値は値リストテーブルに保存されます。LookupValue 関数は、次のすべてに該当する行の VAL 列内の値を返します。

- TYPE 列が type 引数と一致する。
- CODE 列が lang_ind_code 引数と一致する。
- LANG_ID 列が現在有効な言語の言語コードと一致する。

LookupValue 関数を使用すると、Oracle CRM On Demand でロケール間でピックリスト値に関連する式を均等に評価できます。たとえば、英語の *White* という値は、フランス語の値 *Blanc* と同じ方法で評価されます。

ヒント : LookupValue 関数のパラメータを指定する場合は、[可能な値を表示] をクリックして [項目] リストで選択したフィールドに指定可能な値を表示します (フィールドがピックリストフィールドである場合、[可能な値を表示] にはそのピックリストに設定されているすべてのオプションが表示されます。フィールドがピックリストフィールドでない場合、[可能な値を表示] を選択すると、フィールドに格納できるさまざまなデータに対して指定可能な値を説明するウィンドウが表示されます)。

注 : 商談レコードの [セールスステージ] フィールドは真のピックリストフィールドではありません。このフィールドでは LookupValue 関数は機能しません。

構文

LookupValue (type, lang_ind_code)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
type	検索対象の行のタイプ。
lang_ind_code	値リスト内の翻訳の値。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Mid

Expression Builder の Mid 関数は、文字列の指定された数の文字を返します。

ヒント:文字列内の文字数を確認するには、[Len](#) (ページ 799)関数を使用します。

構文

Mid(string, start, length)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	文字が返されるフィールド名または文字列式。文字列に Null が含まれる場合、空の文字列が返されます。
start	長さのカウントが開始される文字列内の文字の位置を指定するフィールド名または式。start 引数の値が文字列内の文字数を超えた場合、Mid 関数は空の文字列を返します。
length	オプション。返す文字数を指定するフィールド名または式。この引数を使用しない場合、または指定された長さが返すことができる文字数を超える場合、文字列の開始位置から終了までのすべての文字が返されます。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

例

次の例では、文字列内の 12 文字目から始まる、7 つの文字が返されます。

```
Mid("Expression Builder is easy!!", 12, 7)
```

次の例では、*Expression Builder is easy!!* というテキストを含むテキストフィールドの 12 番目の文字から始まる 7 つの文字が返されます。

```
Mid('<TextFieldName>',12, 7)
```

または

```
Mid([<TextFieldName>],12, 7)
```

次の例では、電子メールアドレスからドメイン名を抽出します。

```
Mid([<CreatedbyEmailAddress>],FindOneOf([<CreatedbyEmailAddress>], "@" ) + 1,  
Len([<CreatedbyEmailAddress>]))
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

OrganizationName

Expression Builder の OrganizationName 関数は、サインイン済みユーザーの組織名を返します。

構文

OrganizationName()

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

PRE

Expression Builder の PRE 関数は、フィールド値が変更されたとき、かつ値がデータベースで更新される前に、指定されたフィールドの前の値を返します。

注意： [待機] アクションを含むワークフロールールでは、PRE 関数を使用しないでください。[待機] アクションが PRE 関数に影響を与えます。[待機] アクションの後に続くすべてのアクションは、指定の待機期間が終了するまで実行されません。残りのアクションは、ルールが最初にトリガーされた処理ではなく、別のバッチ処理で実行されます。ワークフロー

ルをトリガーしたアクションより前にあるレコードのフィールドの値は保持されません。そのため、フィールドの以前の値と現在の値は常に同じであるとみなされます。

構文

PRE('<fieldname>')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
fieldname	変更されたフィールドの名前。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について \(ページ 769\)](#)」を参照してください。

PRE 機能の使用時には次の点を考慮してください。

- ワークフロー条件や検証文などの条件式では、PRE 関数を使用してフィールドの以前の値を取得するときに、フィールドの初期値は空白（つまり、null 値）の可能性もあることに留意してください。初期値が null の場合、null 以外の値との比較によって予期しない動作が生じます。このような場合に条件式が正しく評価されるようにするには、この例に示すように、PRE 関数とともに IfNull 関数を使用します。

IfNull([<FieldName>], "Invalid") <> IfNull(PRE('<FieldName>'), "Invalid")

この例では、「Invalid」というテキスト文字列を使用して null 値を置き換えています。調査対象のフィールドに値としてその文字列が存在しない場合は任意の文字列を使用できます。

- [待機]アクションの後に呼び出されるワークフロールールまたはアクションで PRE 関数を使用した場合、関数はフィールドの以前の値を返しません。ただし、ビジネスプロセスによっては、このような比較が必要になる場合もあります。その場合、[更新されたレコードが保存される前に] トリガーイベントを指定したワークフロールールを使用して、フィールドの以前の値をそのレコードタイプの未使用フィールドに格納できます。その後、格納したフィールド値を使用して、[待機]アクションを持つワークフロールールで必要な比較を実行できます。

フィールドの以前の値をそのレコードタイプの未使用フィールドに格納するワークフロールールを作成する場合は、元のフィールドの以前の値が空白（つまり、null 値）の可能性もあることに留意してください。したがって、次のような式を使用して、null 値が見つかった場合にデフォルト値を格納する必要があります。

IfNull([<FieldName>], "Invalid")

この例では、「Invalid」というテキスト文字列をデフォルト値として使用して null 値を置き換えています。元のフィールドに値としてその文字列が存在しない場合は任意の文字列を使用できます。

取引先レコードの以前の所有者に電子メールを送信するワークフローの作成例

次の例では、取引先レコードの所有者が変更されたときに、その取引先レコードの以前の所有者に電子メールを送信するワークフローを作成する方法を示します。

取引先レコードの以前の所有者に電子メールを送信するワークフローを作成するには

- 1 取引先レコードタイプのワークフローを作成し、[更新されたレコードが保存されたとき] トリガーイベントを指定します。
- 2 ワークフローを保存します。
- 3 ワークフローに電子メール追加アクションを作成します。
- 4 ワークフローアクションについて、次の操作を実行します。
 - a [宛先] フィールドで、[特定の電子メールアドレス] を選択します。
 - b [宛先] フィールドの式テキストボックスに、次の式を追加します。
`JoinFieldValue('<User>', IfNull(PRE('<OwnerId>'), "admin@mycompany.com"), '<EmailAddr>')`
 - c 電子メールの件名および本文に必要なテキストを追加します。
 - d ワークフローアクションを保存します。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Right

Expression Builder の Right 関数は、文字列の右端から指定した数の文字を返します。

構文

Right(string, length)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	右端の文字が返される文字列。文字列に Null が含まれている場合は、Null が返されます。
length	返される文字数を指定する整数。この引数が 0 の場合、空の文字列が返されます。この引数が文字列内の文字数以上の数である場合、文字列全体が返されます。

例

現在のユーザーの電子メールアドレスが john.doe@oracle.com の場合、次の例では oracle.com という値が返されます。

```
Right(UserValue('<EmailAddr>'),  
Len(UserValue('<EmailAddr>'))-InStr(UserValue('<EmailAddr>'),'@'))
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

RowIdToRowNum

Expression Builder の RowIdToRowNum 関数は、英数字の行 ID を数値形式に変換します。

注:行 ID は、Oracle CRM On Demand で専用のアルゴリズムを使用して生成され、Oracle CRM On Demand データベースにおいて完全な参照整合性を持ちます。このアルゴリズムでは、Base-36 エンコーディング（基数が 36 の位置記数法）を使用します。基数として 36 を使用すると、0～9 の数字と A～Z の文字で桁を表すことができます。これは、ASCII 文字に基づく大文字小文字を区別しない最適な英数字記数法です。

構文

RowIdToRowNum('row_id')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
row_id	英数字の行 ID を返す文字列リテラル、フィールド名、または式。

注: このトピック内で式の例において使用されている、言語に依存しないフィールド名およびフィールド名構文は、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 より前のリリースで使用されていたフィールド名およびフィールド名構文です。これらの例はまだ有効です。ただし、Expression Builder のリリース 29 サービスパック 1 以降で、対応するフィールドを式のために [フィールド] リストから選択する場合、フィールド名およびフィールド名構文は、それらの例で示されたものとは異なります。フィールド名およびフィールド名構文が常に正しくなるよう、Expression Builder では、式のフィールドは必ず [フィールド] リストから選択することをお勧めします。式でのフィールド名およびフィールド名構文の詳細は、「[式について](#) (ページ 769)」を参照してください。

例

次の例:

```
RowIdToRowNum('12-6RX8L').
```

38-8021253 という値が返されます。

次の例:

```
RowIdToRowNum('12-Y09KG')
```

38-57119344 という値が返されます。

<AccountID> フィールドに '12-Y09KG' が含まれている場合、次の例では、

```
RowIdToRowNum('<AccountID>')
```

38-57119344 という値が返されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

RowNum

Expression Builder の RowNum 関数は、有効なレコードセット内におけるレコードの位置を返します。

構文

RowNum()

結果のタイプ

整数

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Timestamp

Expression Builder の Timestamp 関数は、現在のユーザーのタイムゾーン設定に変換されたサーバーの日時を返します。たとえば、現在のユーザーのタイムゾーン設定が東部夏時間 (EDT) -0400 UTC に設定されている場合、Timestamp 関数はサーバーの時間を EDT に変換します。Timestamp 関数は、UTC (世界協定時) 変換を実行します。

注：算術演算 (加算や減算など) は、Timestamp() 関数でサポートされません。

構文

Timestamp()

結果のタイプ

日時

例

次の例では、現在の日時が、月/日/年 24 時間制の時間:分:秒の形式で返されます。

```
Timestamp()
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) (ページ 766)

■ [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)

■ [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

ToChar

Expression Builder の ToChar 関数は、指定された日付または数値の式を、指定された形式の文字列に変換します。

構文

ToChar(expression, format)

注意：ToChar 関数の 1 つのインスタンスで日付形式と数値形式の両方を使用しないでください。両方を使用すると、無効な結果になる可能性があります。

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
expression	日付、日時、または数値を返す式またはフィールド。
format	日付や数値の形式を表す文字列。

この関数の日付形式について次の表で説明します。

形式コード	説明
DD	2 桁の日 (01 - 31)。
DDDD dddd	日の名前。
MM	2 桁の月 (01 - 12、01 は 1 月)。小文字の <i>mm</i> は分を示すので、大文字の <i>MM</i> を使用する必要があります。
MMMM mmmm	月の名前。mm (小文字の m を 2 つ) は分を示すので、小文字を使用する場合は mmmm (小文字の m を 4 つ) で指定する必要があります。
Y	年の最後の桁。

形式コード	説明
YY	年の最後の 2 桁。
YYYY	4 桁の年。
hh12	12 時間形式の時間。
hh24	24 時間形式の時間。
hh	時間。次の例のように、AM または PM を指定して時間を調整できます。 hh:mm:ss PM AM も PM も指定しなかった場合、デフォルトで 24 時間形式が使用されます。
mm	分。mm（小文字の m を 2 つ）は常に分を示すため、2 桁の日の指定には使用できません。
ss	秒。

この関数の数値形式について次の表で説明します。

形式コード	例	説明
#	####	指定された桁数の値を返します。値が負の場合は、先頭にマイナス記号が付きます。
0	####.00	先頭の 0 を返します。末尾の 0 を返します。
\$	\$####.00	先頭にドル記号の付いた値を返します。
,	#,###	指定された位置のカンマを返します。カンマは小数点の右側に表示することはできません。形式モデルはカンマから始まります。
.	###.##	指定された位置の小数点を返します。format パラメータでは、1 つの小数点だけが許可されます。小数点の後に指定されている桁数が、小数点の後で利用できる桁数よりも少ない場合、端数は切り上げられます。

数値形式の使用例

次の例では 10 の値が返されます。

```
ToChar (10, '##.##')
```

次の例では 10 の値が返されます。

```
ToChar (10, '##.00')
```

次の例では 10.24 の値が返されます。

```
ToChar (10.2388, '##.00')
```

次の例では-10.24 の値が返されます。

```
ToChar (-10.2388, '##.##')
```

日付形式の使用例

次の例では、Timestamp()関数から返された値を DD/MM/YYYY の形式に変換します。

```
ToChar(Timestamp(),'DD/MM/YYYY')
```

たとえば、Timestamp()関数が 02/29/2008 10:58:37 の値を返すと、前の式は 29/02/2008 に評価されます。

次の例は、様々な形式で深夜を表す方法を示しています。

ToChar(Today(), YYYY/MM/DD hh:mm:ss PM)の結果は 2009/05/22 12:00:00 AM

ToChar(Today(), YYYY/MM/DD hh:mm:ss)の結果は 2009/05/22 00:00:00

ToChar(Today(), YYYY/MM/DD hh24:mm:ss PM)の結果は 2009/05/22 00:00:00

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Today

Expression Builder の Today 関数は、現在のユーザーのタイムゾーン設定に基づいて今日の日付を返します。たとえば、現在のユーザーのタイムゾーン設定が東部夏時間 (EDT) -0400 UTC に設定されている場合、Today()関数はサーバーの日付を EDT に変換します。Today()関数は、UTC (世界協定時) 変換を実行します。

構文

Today()

結果のタイプ

日付

例

現在の日付が 11/27/2007 の場合、次の例では、

Today() - 30

10/28/2007 の値が返されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

UserValue

Expression Builder の UserValue 関数は、現在のユーザーの指定された属性の値を返します。

「ユーザー詳細」ビューのフィールドは、選択したユーザーの属性を表します。

構文

UserValue('<attribute>')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
属性	現在のユーザー属性の表示名に対応する言語独立名またはカスタマイズされた統合タグです。 統合タグは、「レコードタイプフィールド」ページの「統合タグ Web Services v2.0」カラムに表示されます。

例

例 1：あるビジネスプロセスでは、レコードの作成時に、サービスリクエストの「基本」という名前のカスタムテキストフィールドに、デフォルトでレコードを作成するユーザー（現在のユーザー）の国が表示されるようにする必要があります。

このビジネスルールを実行するには、サービスリクエストの「フィールドセットアップ」ページで、「基本」フィールドのデフォルト値を UserValue('<PersonalCountry>') に設定し、「デフォルトをポスト」チェックボックスをオンにします。

フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) (ページ 110)」を参照してください。

例 2：あるビジネスプロセスでは、商談の所有者が管理者でない場合、特定のワークフロールールがトリガーされるようにする必要があります。

このビジネスルールを実装するには、ワークフロールールで次の条件をセットアップします。

UserValue('<EMailAddr>') <> 'administrator@testdata.com'

属性

次の表では、UserValue 関数の引数として使用できる属性および対応する表示名について説明します。

属性	表示名	値の例
エイリアス	エイリアス	管理
AuthenticationType	認証タイプ	ユーザーID/パスワードのみ
BusinessUnit	ビジネスユニット	ビジネスユニット
BusinessUnitLevel1	ビジネスユニットレベル 1	ビジネスユニット L1
BusinessUnitLevel2	ビジネスユニットレベル 2	ビジネスユニット L2
BusinessUnitLevel3	ビジネスユニットレベル 3	ビジネスユニット L3
BusinessUnitLevel4	ビジネスユニットレベル 4	ビジネスユニット L4
CellPhone	携帯電話番号	+1 555 2368978
CreatedBy	作成者	Oracle CRM On Demand CSR 管理者
CreatedById	使用不可	1E1263-IZBZ
CreatedDate	作成日	01/08/2007 21:21:33
CurrencyCode	通貨	USD
部門	部門	部門
Division	部署	部署
EMailAddr	電子メール	john.doe@oracle.com
EmployeeNumber	従業員番号	12345
EnableTeamContactsSync	チーム担当者の同期を有効にする	Y
ExternalIdentifierForSingleSignOn	シングルサインオンの外部 ID	UID=ADMIN、O=ORACLE
ExternalSystemId	外部固有 ID	EXTUID123

属性	表示名	値の例
FirstName	名前 (名)	John
FundApprovalLimit	資金承認限度	50000
IntegrationId	統合 ID	INTUID123
JobTitle	肩書	プロダクトマネージャ
言語	言語	英語 - 米国
LastLoggedIn	最終サインイン	10/31/2007 19:39:01
LastName	名前 (姓)	Doe
LeadLimit	見込み客制限	2345679
Locale	ロケール	英語 - カナダ
ManagerFullName	上司	John Smith
ManagerId	使用不可	1E4763-IZAU
Market	マーケット	マーケット
MiddleName	ミドルネーム	Middle
MiscellaneousNumber1	その他の数値 1	2312
MiscellaneousNumber2	その他の数値 2	2312
MiscellaneousText1	その他のテキスト 1	DUNS # (Webcat) = 10461
MiscellaneousText2	その他のテキスト 2	a7cff064-6566-47a2-8629-8b32d92de222
ModifiedBy	変更者	John Doe
ModifiedById	使用不可	1E1263-IZBZ
ModifiedDate	変更日時	10/31/2007 19:32:58
MrMrs	敬称	Mr.
NeverCall	電話連絡禁止	Y
NeverEmail	電子メール送信禁止	Y
NeverMail	郵送禁止	Y
PasswordState	パスワードの状態	有効
PersonalCity	市	トロント
PersonalCountry	国	カナダ

属性	表示名	値の例
PersonalPostalCode	郵便番号	M4C2C3
PersonalProvince	都道府県	オンタリオ
PersonalState	都道府県	CA
PersonalStreetAddress	住所-区、町、番地	555 Main Avenue
PersonalStreetAddress2	住所 2	Suite 17
PersonalStreetAddress3	住所 3	Scarborough
PhoneNumber	勤務先電話番号	+1 555 2365555
PrimaryDivisionName	プライマリ部署	アジア部
PrimaryGroup	プライマリグループ	ユーザーグループ A
PrimaryPvgName	使用不可 注: PrimaryPvgName 属性では、ユーザーのプライマリ部署に関連付けられているピックリスト値グループの名前が返されます。	インド PVG
地域	地域	地域（個人）
役割	役割	フィールドセールス要員
RoleId	役割 ID	1E1263-IYG1
SecondaryEmail	セカンダリ電子メール	john.doe2@oracle.com
ShowWelcomePage	サインイン時によこそページを表示	N
状態	状態	有効
SubMarket	サブマーケット	サブマーケット（個人）
SubRegion	サブ地域	サブ地域（個人）
TempPasswordFlag	〔保存〕をクリックしたときに仮パスワードを送信	Y
TimeZoneName	タイムゾーン	(GMT-05:00) 東部標準時間（米国とカナダ）
UserId	行 ID	1E1263-IZAU
UserLoginId	行 ID	1E1263-IZAU
UserSignInId	ユーザーのサインイン ID	PTE169-14/ADMIN

属性	表示名	値の例
WorkFax	勤務先 FAX 番号	+1 555 2365556

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

UtcConvert

Expression Builder の UtcConvert 関数は、現在のユーザーのタイムゾーン設定で指定されている日時を変換し、指定されたタイムゾーンの日時を返します。

構文

UtcConvert (utc_date_time, time_zone)

結果のタイプ

時刻

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
utc_date_time	現在のユーザーのタイムゾーン設定に合わせた MM/DD/YYYY HH24:MI:SS 形式の日時。
time_zone	タイムゾーンの名前。

例

ユーザーのタイムゾーン設定が、[(GMT-05:00) 東部時間 (米国およびカナダ)] である場合に、次の例のように指定すると、

```
UtcConvert('12/14/2007 17:07:05', 'Pacific Standard Time')
```

次の値が返されます。

12/14/2007 12:07:05

現在のユーザーのタイムゾーン設定が [(GMT+05:30) カルカッタ、チェンマイ、ボンベイ、ニューデリー] である場合に次の例のように指定すると、

```
UtcConvert('12/14/2007 15:07:05', 'Eastern Standard Time')
```

次の値が返されます。

```
12/14/2007 04:37:05
```

次の例は、西ヨーロッパ時間に対応する UTC 時間を取得する方法を示しています。

```
UtcConvert(Timestamp(), "(GMT+01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna")
```

```
UtcConvert(Timestamp(), "W. Europe Daylight Time")
```

```
UtcConvert(Timestamp(), "W. Europe Standard Time")
```

次の例は、南アフリカ時間に対応する UTC 時間を取得する方法を示しています。

```
UtcConvert(Timestamp(), "(GMT+02:00) Harare, Pretoria")
```

```
UtcConvert(Timestamp(), "South Africa Daylight Time")
```

```
UtcConvert(Timestamp(), "South Africa Standard Time")
```

タイムゾーンの名前に単一引用符 (') やコンマ (,) などの特殊文字が含まれる場合、次の例のように、タイムゾーンの名前または特殊文字を二重引用符で囲む必要があります。

```
%%UtcConvert('08/03/2009 12:01:33', "(GMT+13:00) Nuku" + "'" + "alofa")%%
```

```
%%UtcConvert('08/03/2009 12:01:33', "(GMT+13:00) Nuku'alofa")%%
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

Expression Builder の例

Expression Builder では、次の表に示すサンプルの式を使用できます。

Expression Builder の式の例

〔商談マージン〕 フィールドの更新

説明	〔商談マージン〕 フィールドの更新
構文	<pre>[{cOpportunityMargin}] = [{Primary Revenue Amount}] - [{cOpportunityCost}]</pre>

Expression Builder の式の例

新規サービスの検証

説明	フィールドの検証。新規サービスは、売上が 1,000,000 以内です。
構文	<code><= IIf (FieldValue('{Type}') = 'New Service', 1000000, [{Primary Revenue Amount}])</code>

新しく作成したサービスリクエストを作成者に割当

説明	サービスリクエストが作成されるときに、現在のユーザーのユーザーレコード上の [エイリアス] フィールドの値が、サービスリクエスト上の [所有者] フィールドのデフォルト値として設定されます。
構文	<code>[{Owner Alias}] = UserValue('<Alias>')</code>

指定したフィールドの値変更の確認

説明	フィールド値の変更をチェックします。
構文	<code>PRE('{Primary Revenue Amount}') <> [{Primary Revenue Amount}]</code>

クローズ日に基づいたワークフローのトリガー

説明	クローズ日が 30 日後より先の日付に変更された場合に、ワークフローが実行されます。
構文	<code>[{Primary Revenue Close Date}] - PRE('{Primary Revenue Close Date}') > 30</code>

商談が担当者なしで特定のステージに到達した場合にワークフローをトリガー

説明	商談が担当者なしで [クローズ済み/成立] セールスステージに到達すると、ワークフローが実行されます。
構文	<code>FieldValue('{Sales Stage - Translation}') = "クローズ済み/成立" AND PRE('{Sales Stage - Translation}') <> [{Sales Stage - Translation}] AND [{Key Contact Id}] = "一致しない行 ID"</code>

チェックボックスがオンになったときにワークフローをトリガー

説明	カスタムの [レビュー準備中] フィールドがオンになると、ワークフローが実行されます。
構文	<code>((FieldValue('{bCust_Ready_For_Review_Check_Box}') = 'Y') AND (PRE('{bCust_Ready_For_Review_Check_Box}') = 'N')) OR (IsNull([bCust_Ready_For_Review_Check_Box], 'Y') = 'Y')</code>

現在のユーザーがレコードの所有者かどうかの確認

説明	レコードの所有者が現在のユーザーであるかどうかを確認します。この場合、[所有者

Expression Builder の式の例

	] フィールドは null である可能性があるため、IfNull 関数を使用されます。
構文	IfNull([Owner Alias], "Invalid") = UserValue('<Alias>')
取引先の優先順位が変更された場合に電子メールをトリガー	
説明	[取引先優先順位] フィールドの値が [低] から [高] に変更されたときに電子メールがトリガーされます。
構文	(PRE('{Type}') = "低") AND (FieldValue('{Type}') = "高")
特定チャネルのワークフローからの除外	
説明	ブラウザウィンドウを介して更新されるレコードについてはワークフローを実行しません。
構文	PRE('{Customer Target Type}') = "アドバタイズ" AND ExcludeChannel("Online")

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) (ページ 766)
- [Expression Builder の使用](#) (ページ 767)
- [Expression Builder の関数](#) (ページ 781)

索引

[
[Book Hierarchy (ブック階層)] ページ - 340
[アクセスプロファイルリスト] ページの使用 - 285
[パートナープログラム] フィールド
 インポートの準備 - 665
[ホームページ
 (個人)] でのカスタムレポートの有効化 - 210
[レコード詳細] ページのレイアウトへのブックの追加 - 337
[ワークフローエラーモニター] からのエラーインスタンスの削除 - 438
[ワークフローエラーモニター] でのエラーインスタンスの表示 - 437
[ワークフロー待機モニター] からの保留インスタンスの削除 - 442
[ワークフロー待機モニター] での保留インスタンスの表示 - 441
[変更トラッキングリスト] ページの表示 - 488
[役割リスト] ページの使用 - 268
[関係の編集] を使用した非共有住所の住所タイプ
 の設定 - 86
[関連フィールド初期化キュー] ページ - 723
E
ExcludeChannel - 784
Expression Builder - 766
Expression Builderについて - 766
Expression Builderのデータタイプ - 773
Expression Builderの使用 - 767
Expression Builderの例 - 819
Expression Builderの関数 - 781
Expression Builder演算子 - 776
F
FieldValue - 785
Financial Account Holders Fields
 Import
 Preparation (金融口座名義人フィールド: インポートの準備) - 620
Financial Account Holdings Fields

Import
 Preparation (金融口座保有状況フィールド: インポートの準備) - 622
Financial Transactions Fields
 Import
 Preparation (財務取引フィールド: インポートの準備) - 626
FindNoneOf - 786
FindOneOf - 787
G
GetGroupId - 788
H
HCP担当者割当フィールド
 インポートの準備 - 628
HTML Webアプレットの作成 - 158
I
IfNull - 788
If - 789
InStr - 791
IP アドレスの使用制限 - 51
J
JoinFieldValue - 792
JulianDay - 794
JulianMonth - 795
JulianQtr - 795
JulianWeek - 796
JulianYear - 797
L
Left - 798
Len - 799
LN - 800
Locale - 800
LocaleListSeparator - 801
LookupName - 801
LookupValue - 802
M
MDFリクエストのフィールド: インポートの準備 - 640
Mid - 804
O
Oracle CRM On Demand Desktop - 762
Oracle CRM On Demand
 Desktopインストーラバージョンの場所の設定 - 764
Oracle CRM On Demand Desktopのインストール - 765
Oracle CRM On
 Demandでカスタマイズされたコードを使用する
 お客様についての重要な考慮事項 - 202
Oracle CRM On
 Demandでプロセスを設定するプロセス - 373

Oracle CRM On Demandの使用状況追跡について - 16
Oracle CRM On Demandの管理 - 7
Oracle CRM On Demandの管理プロセス - 14
Oracle Data Loader On
Demandクライアントユーティリティ - 714
Oracle Data Loader On
Demandクライアントユーティリティについて - 715
Oracle Data Loader On
Demandクライアントユーティリティのダウンロード - 715
Oracle Eloqua
Engageを使用した電子メール配信の設定 - 750
Oracle Migration Tool On
Demandクライアントユーティリティ - 720
Oracle Migration Tool On
Demandクライアントユーティリティについて - 721
Oracle Migration Tool On
Demandクライアントユーティリティのダウンロード - 721
Oracle Social Engagement and Monitoringの設定 - 747
Oracle Social NetworkとOracle CRM On Demandとの統合プロセス - 748
Oracle Social Network統合設定の設定 - 749
OrganizationName - 805
P
PRE - 805
PRMの価格リストの設定 - 732
R
REST統合タグのカスタマイズ - 219
Right - 807
RowIdToRowNum - 808
RowNum - 810
RSSフィードWebアプレットの作成 - 155
RSSフィードWebアプレットの設定例 - 161
T
Timestamp - 810
ToChar - 811
Today - 813
U
URL Webアプレットの作成 - 159
URLの標準化について - 190
UserValue - 814
UtcConvert - 818
W
Web リンクの設定 - 122

Web
リンクを使用した新しい統合シナリオの作成について - 129
Webアプレットおよびカスタムレポート名の翻訳 - 163
Webサービスの利用の確認 - 719
Webサービスの統合 - 715
WSDLおよびスキーマファイルのダウンロード - 716
ア
アクションバーとグローバルヘッダーのレイアウトの作成と管理 - 206
アクセスプロファイルの設定プロセス - 293
アクセスプロファイルの追加 - 294
アクセスプロファイルの関連トピック - 296
アクセスプロファイル管理 - 279
アクセスレベルの計算例 - 355
アクセス権の指定方法 - 349
アセスメントスクリプトについて - 741
あ
あせすめんとすくりふとのせってい - 740
ア
アセスメントスクリプトの作成 - 744
アプリケーションカスタマイズ - 88
アプリケーションプラグイン - 747
アポイント、タスク、および電話連絡フィールド：インポートの準備 - 564
アポイントユーザーフィールド：インポートの準備 - 563
アポイント担当者フィールド：インポートの準備 - 562
イ
イベントフィールド
インポートの準備 - 614
インデックス付きカスタムフィールドの使用 - 133
インポートアシスタント - 703
インポートツールとエクスポートツール - 495
インポート時のレコードのリンク - 534
インポート結果の確認 - 708
エ
エクスポートアシスタント - 710
エクスポート結果の確認 - 713
オ
オーダーのフィールド：インポートの準備 - 657
オーダー項目のフィールド：インポートの準備 - 658
が
がいぶWebページのたぶでのひょうじ - 191

カ

カスケード式ピックリストおよびピックリスト値グループについて - 166
 カスケード式ピックリストの定義 - 164
 カスタマイズパッケージの管理 - 763
 カスタムHTMLヘッド追加の管理 - 205
 カスタムWebアプレットについて - 151
 カスタムアイコンセットのアップロードおよび管理 - 214
 カスタムオブジェクトの多対多の関係について - 231
 カスタムオブジェクトフィールド：インポートの準備 - 599
 カスタムグローバルヘッダーアイコンのアップロードと管理 - 215
 カスタムフィールドについて - 99
 カスタムフィールドの統合タグの設定 - 121
 カスタムレイアウト制限について - 141
 カスタム会計カレンダーの定義 - 53
 カスタム関連情報フィールドについて - 116
 カスタム関連情報フィールドの作成 - 118

き

きぎょうぶろふあいるとぐろーばるでふおるとのせ
 ってい - 19

キ

キャンペーンフィールド：インポートの準備 - 574
 キャンペーン受取人フィールド：インポートの準備 - 575

ク

クライアント側拡張のアップロード - 202

グ

グループの管理 - 343
 グループの設定 - 345
 グローバルWebアプレットの作成 - 200

コ

コースのフィールド：インポートの準備 - 596
 コース登録のフィールド：インポートの準備 - 595
 コピー有効設定の管理 - 120
 コンテンツ管理 - 728

サ

サービスリクエストフィールド：インポートの準備 - 687
 サービス割当について - 75
 サービス割当の警告の設定 - 78
 サービス割当管理 - 75
 サイト間リクエストの偽造保護について - 49
 サインインおよびパスワードポリシーについて - 42

サンプルトランザクションのフィールド：インポートの準備 - 685

サンプルトランザクションの自動実行について - 761

サンプルトランザクションの自動実行の設定 - 760

サンプルリクエストのフィールド

インポートの準備 - 682

サンプルリクエスト項目のフィールド

インポートの準備 - 684

サンプルロットのフィールド：インポートの準備 - 681

サンプル免責条項のフィールド：インポートの準備 - 680

サンプル在庫のフィールド：インポートの準備 - 680

ジ

ジオコーダー設定の設定 - 41

し

しさんふいーんど：いんぽーとのじゅんぴ - 566

す

すべてのパスワードのリセット - 50

すべてのユーザーのサインイン活動の確認 - 69

すまーとこーるのかんり - 752

せ

せーるすぶろせす、かてごりー、およびこーちのせ
 ってい - 467

セ

セールス要員の割当レコードに基づくピックリスト
 フィルタリングの設定 - 758

ソ

ソーシャルプロファイルのフィールド：インポート
 の準備 - 690

タ

タスクユーザーフィールド

インポートの準備 - 695

タスク担当者フィールド：インポートの準備 - 695

チ

チーム、グループおよびブックのアクセスプロファ
 イルについて - 282

チームの継承によるアクセスの適用について - 283

つ

つうかのかんり - 57

デ

データインポート時のフィールドタイプのガイドラ
 イン - 536

データチェックのガイドライン - 535

データのインポート - 703

データのインポートの準備 - 541

データのエクスポート - 710
 データルールおよび割当 - 444
 データ管理ツール - 495
 デスクトップ統合設定の設定 - 35
テ
 テリトリーの設定 - 348
 テリトリー管理 - 348
ト
 トランザクション項目のフィールド：インポートの準備 - 696
パ
 パーソナライズアクションバーレイアウトのリセット - 298
 パーソナライズページレイアウトのリセット - 297
 パーソナライズホームページレイアウトのリセット - 298
 パーソナライズ関連情報レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法 - 184
 パーソナライズ項目レイアウトが役割のページレイアウトとやり取りする方法 - 188
 パーソナライゼーション管理 - 297
 パートナーフィールド：インポートの準備 - 659
 パートナー管理者の設定プロセス（管理者） - 260
 パートナー組織のユーザーの管理（パートナー） - 261
 パートナー自己管理 - 260
バ
 バッチ割当ブックキューページ - 723
ビ
 ビジネスプロセス管理 - 366
 ビジネス計画のフィールド：インポートの準備 - 573
ピ
 ピックリストの値リストの変更に対する変更トラッキング情報 - 485
 ピックリスト値グループおよび部署をサポートするレコードタイプ - 198
 ピックリスト値グループと部署の関連付け - 64
 ピックリスト値グループについて - 195
 ピックリスト値グループの作成 - 198
 ピックリスト値グループの設定プロセス - 197
 ピックリスト値グループへのピックリスト値のマッピング - 139
 ピックリスト値グループを設定する場合の考慮事項 - 196
 ピックリスト値の変更 - 137
フ
 ファイルおよびレコード利用情報の表示 - 79

フィールド、ピックリスト、基準について - 228
 フィールドセクションタイトルの名前変更 - 150
 フィールドの作成と編集 - 110
 フィールドラベルの管理 - 132
 フィールド管理について - 92
ブ
 ブックおよびブック割当のインポートについて - 317
 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 - 327
 ブックとブック階層の作成 - 328
 ブックのWebサービスのサポートについて - 307
 ブックのアクセスプロファイルの作成 - 333
 ブックのトラブルシューティングに関する情報 - 342
 ブックのフィールド - 341
 ブックのフィールド：インポートの準備 - 571
 ブックの管理 - 299
 ブックの設定のプロセス - 322
 ブックへのレコードの割り当て - 338
 ブックユーザーのフィールド：インポートの準備 - 569
 ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ - 320
 ブックを使用してセールステリトリーを管理する例 - 321
 ブック構造の設計について - 303
プ
 プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて - 286
 プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定 - 295
 プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法 - 350
 プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法 - 350
ブ
 ブローカープロファイルのフィールド：インポートの準備 - 571
プ
 プロセスの作成 - 373
 プロセスの制限 - 376
 プロセスへの推移ステートの追加 - 374
 プロセスを使用してレコードをロックする例 - 369
 プロセス管理 - 367
 プロセス管理でのプライマリフィールドについて - 368
 プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について - 368

プロセス管理機能 - 371

ブ

ブロック製品フィールド

インポートの準備 - 568

ぼ

ぼーとふおりおふいーとど：いんぼーとのじゅんぴ
- 672

ホ

ホームページカスタムレポートの作成 - 172

マ

マスター監査証跡による監査証跡変更の確認 - 70

メ

メッセージプランのフィールド：インポートの準備
- 642

メッセージプラン項目のフィールド：インポートの
準備 - 644

メッセージプラン項目関係のフィールド：インポ
ートの準備 - 645

メッセージ応答のフィールド：インポートの準備 -
641

メモフィールド：インポートの準備 - 647

ユ

ユーザーおよびシステムフィールド - 125

ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効
化 - 335

ユーザーとブックの関連付け - 330

ユーザーと部署の関連付け - 64

ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブ
ックの設定 - 251

ユーザーのDMS PINのリセット - 253

ユーザーのサインイン活動の確認 - 254

ユーザーのセールス目標の設定 - 250

ユーザーのセキュリティ関連活動の確認 - 255

ユーザーのパスワードのリセット - 252

ユーザーのパスワードのリセット（パートナー） -
264

ユーザーのプライマリ部署の変更 - 254

ユーザーのユーザーIDの変更 - 251

ユーザーのユーザーIDの変更（パートナー） - 263

ユーザーの在庫期間の作成 - 259

ユーザーの委任について - 255

ユーザーの無効化 - 259

ユーザーの無効化（パートナー） - 265

ユーザーの設定 - 236

ユーザーの設定（パートナー） - 262

ゆ

ゆーざーふいーとど - 238

ユ

ユーザーフィールド：インポートの準備 - 697

ユーザーページレイアウトについて - 249

ユーザーレコードタイプのワークフロールールを作
成するときの考慮事項 - 394

ユーザーレコードの[上司] および[上司
(エイリアス)] フィールドについて - 250

ユーザー管理 - 235

ユーザー管理とアクセス制御 - 233

ラ

ライセンスの状況と有効なユーザーの確認 - 42

ライフサイエンスの価格リストの設定 - 735

ライフサイエンス管理 - 751

ライフサイエンス関連設定の設定 - 755

リ

リストアクセスおよびリスト順序の管理 - 171

レ

レコードタイプのWebアプレットの作成 - 153

レコードタイプのアイコンの変更 - 218

れ

れこーどたいぷのつか - 216

レ

レコードタイプの名前変更 - 212

レコードタイプ別の[アプリケーションカスタマイ
ズ] ページ - 90

レコードの変更されたフィールド内の情報について
- 180

レコードの部署およびピックリスト値グループにつ
いて - 66

レコードの重複と外部IDについて - 517

レコードホームページレイアウトの作成 - 175

レコードロックプロセスの上書きについて - 379

レコード所有権モードおよび自動生成タスク - 312

レコード所有権モードについて - 307

レコード所有権モードのフィールドセットアップお
よびページレイアウトについて - 98

レコード所有権モードの設定 - 328

ワ

ワークフローアクションについて - 390

ワークフローアクションの作成：タスクの作成 -
408

ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て
- 403

ワークフローアクションの作成：値の更新 - 426

ワークフローアクションの作成：待機 - 428

ワークフローアクションの作成：統合イベントの作
成 - 405

ワークフローアクションの作成：電子メールの送信
- 414
ワークフローエラーインスタンスのフィールド -
439
ワークフローエラーモニター - 436
ワークフローモニター - 435
ワークフロールールアクションの順序の変更 - 430
ワークフロールールとアクションの削除 - 434
ワークフロールールとアクションの無効化 - 433
ワークフロールールについて - 380
ワークフロールールの作成 - 395
ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割へ
の制限 - 402
ワークフロールールの順序の変更 - 431
ワークフロー保存操作の取り消し - 399
ワークフロー保留インスタンスのフィールド - 443
ワークフロー待機モニター - 440
ワークフロー設定 - 379
ワークフロー電子メールメッセージのHTMLコード -
419

一
一括削除キューページ - 722

企

企業セキュリティ設定の設定 - 35
企業テーマ設定の設定 - 32
企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ - 209
企業のサービス割当使用量の表示 - 77
企業のパスワード管理の定義 - 43
企業のブックの有効化 - 334
企業のリソース使用状況の確認 - 69
企業の保留中および送信済み電子メールの確認 - 72
企業の期間リストの管理 - 55
企業の業種リストのカスタマイズ - 474
企業の添付資料の管理 - 738
企業プロフィール - 18
企業主要情報の設定 - 20
企業勤務週とカレンダー設定の設定 - 30
企業監査 - 68
企業管理 - 18
企業設定の設定 - 21

会

会社データ表示設定の設定 - 33
会計カレンダーについて - 52
会計カレンダーの管理 - 52

住

住所に対するアクセスプロフィールおよび役割の設
定 - 86
住所フィールド：インポートの準備 - 559

住所管理 - 81

例

例1：[表示] アクセスレベルの使用 - 356
例2：[プライマリの継承] アクセスレベルの使用 -
360
例3：ブックによるデータの保護 - 363

価

価格リストのフィールド：インポートの準備 - 675
価格リスト明細項目のフィールド：インポートの準
備 - 676

保

保険契約者フィールド：インポートの準備 - 671
保険対象物フィールド：インポートの準備 - 629
保険証券フィールド：インポートの準備 - 668

全

全社レベルの警告の公開 - 74

共

共有レコードの前の所有権のカスタマイズ - 227
共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセス
および [アドレスの管理] 権限の更新 - 85
共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項 - 84

分

分析表示設定の設定 - 39

割

割当のフィールド：インポートの準備 - 560
割当ルールについて - 445
割当ルールの設定 - 449

動

動的ページレイアウトの指定 - 181

取

取引交渉登録のフィールド：インポートの準備 -
605
取引先イベントフィールド
インポートの準備 - 546
取引先チームフィールド：インポートの準備 - 555
取引先パートナーのフィールド
インポートの準備 - 554
取引先フィールド：インポートの準備 - 547
取引先ブックのフィールド：インポートの準備 -
544
取引先住所フィールド
インポートの準備 - 543
取引先担当者のフィールド
インポートの準備 - 545
取引先競合会社のフィールド
インポートの準備 - 545

商

商談イベントフィールド

インポートの準備 - 650
商談チームフィールド
 インポートの準備 - 654
商談フィールド：インポートの準備 - 651
商談担当者役割フィールド：インポートの準備 - 649
商談製品売上フィールド：インポートの準備 - 655
国
国と住所のマッピングについて - 499
在
在庫期間のフィールド：インポートの準備 - 631
在庫監査レポートのフィールド：インポートの準備 - 630
売
売上予想定義の更新 - 465
売上予想定義の設定 - 459
変
変更トラッキング - 475
変更トラッキングイベントについて - 487
変更トラッキングイベントレコードの例 - 489
変更トラッキングのフィールド：インポートの準備 - 646
変更トラッキング機能の有効化 - 476
委
委任ユーザーの管理（管理者） - 256
履
履歴サービス割当使用量の表示 - 78
式
式について - 769
役
役割のIPアドレス制限について - 271
役割のアクセスプロファイルについて - 281
役割のレコードタイプアクセスについて - 269
役割の権限について - 270
役割の設定に関するガイドライン - 266
役割の追加 - 272
役割管理 - 265
手
手動による変更レコードの作成 - 493
担
担当チームフィールド：インポートの準備 - 594
担当者の都道府県免許フィールド：インポートの準備 - 593
担当者フィールド：インポートの準備 - 584
担当者ブックのフィールド：インポートの準備 - 582
担当者へのサンプル受領権限の付与 - 759
担当者住所フィールド

 インポートの準備 - 581
招
招待者のフィールド：インポートの準備 - 632
推
推移ステートの項目の設定 - 376
損
損傷フィールド：インポートの準備 - 604
新
新しいレコードを作成するためのページレイアウトのカスタマイズ - 149
新規テーマの作成 - 219
旧
旧式カスタムフィールドの管理 - 106
時
時間ベースのブック割当について - 318
時間ベースのワークフロールールについて - 392
有
有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定 - 757
期
期間 - 782
条
条件付き必須フィールドについて - 108
検
検索レイアウトの管理 - 167
活
活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定例 - 412
活動レコードのロックのシナリオ - 369
添
添付資料設定について - 228
特
特別価格リクエストのフィールド：インポートの準備 - 693
特別価格製品のフィールド：インポートの準備 - 692
申
申込書類のフィールド：インポートの準備 - 560
監
監査証跡のカスタマイズ - 176
目
目標のフィールド：インポートの準備 - 648
管
管理者の役割に設定されたブックの確認 - 323
管理設定変更の監査証跡の確認 - 71
統
統合イベントキューの作成 - 725
統合イベントについて - 724

統合イベント設定の管理 - 726

統合設定の設定 - 34

署

署名のフィールド：インポートの準備 - 689

自

自動車ディーラーのフィールド：インポートの準備 - 609

自社製品の設定 - 730

補

補償内容フィールド：インポートの準備 - 597

製

製品カテゴリーの設定 - 729

製品カテゴリーフィールド：インポートの準備 - 676

製品フィールド：インポートの準備 - 677

製品検索レイアウトを作成する際の考慮事項 - 171

製品領域のフィールド：インポートの準備 - 679

見

見込み客イベントフィールド

インポートの準備 - 634

見込み客の拒否コード - 459

見込み客フィールド：インポートの準備 - 634

見込み客変換の管理 - 454

見込み客変換の設定のプロセス - 455

見込み客変換レイアウトの作成 - 457

見込み客変換中の追加フィールドのマッピング - 456

見込み客設定の設定 - 32

解

解決策フィールド：インポートの準備 - 691

言

言語の有効化 - 51

計

計画取引先のフィールド：インポートの準備 - 666

計画商談のフィールド：インポートの準備 - 668

計画担当者のフィールド：インポートの準備 - 667

設

設定をデフォルトに戻す - 137

設定時における管理者テンプレートの使用 - 16

試

試験のフィールド：インポートの準備 - 616

試験登録のフィールド：インポートの準備 - 617

詳

詳細ページでのイメージの有効化 - 213

詳細ページのイメージの管理 - 739

認

認定のフィールド：インポートの準備 - 556

認定リクエストのフィールド：インポートの準備 - 558

認定レベルのフィールド：インポートの準備 - 576

認定レベルリクエストのフィールド：インポートの準備 - 577

請

請求フィールド：インポートの準備 - 578

警

警告フィールド - 75

警告管理 - 73

財

財務計画フィールド：インポートの準備 - 623

車

車両のフィールド：インポートの準備 - 700

車両担当者フィールド：インポートの準備 - 699

追

追加会社プロフィール設定の設定 - 41

追跡されるレコードタイプ - 477

通

通信設定の設定 - 40

通貨定義 - 57

連

連結フィールドの設定 - 129

連結フィールド使用時の制限事項 - 131

部

部署のマージおよび部署の削除について - 66

部署の作成 - 63

部署の設定 - 61

部署の設定プロセス - 62

部署を設定する場合の考慮事項 - 62

金

金融口座フィールド：インポートの準備 - 618

金融商品フィールド：インポートの準備 - 625

関

関係者フィールド：インポートの準備 - 632

関連するレコードタイプのアクセスレベルについて - 287

関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化 - 377

関連レコードタイプのアクセスレベルの指定 - 296

関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法 - 354

関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法 - 352

関連項目レイアウトのカスタマイズ - 140

電

電子メールとログファイルのインポート結果例 - 709

静

静的ページレイアウトのカスタマイズ - 142

非

非共有住所から共有住所への変換 - 81